# 東谷・中島地区遺跡群 7

一都市再生機構による東谷・中島土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

# 磯岡北古墳群

(磯岡北遺跡 SG12 区 · SG16 ~ 18 区)

2006.9

栃 木 県 教 育 委 員 会 脚とちぎ生涯学習文化財団

東谷・中島地区遺跡群は、栃木県の中央部である宇都宮市南部から上三川町北部に位置しています。この地域は、なだらかに広がる低台地と肥沃な沖積地に恵まれているため、磯岡北遺跡、立野遺跡、権現山遺跡、中島笹塚遺跡、砂田遺跡などの原始・古代集落跡と、東谷古墳群や磯岡北古墳群をはじめとする多くの古墳群が所在します。

このたび、都市再生機構による土地区画整理事業に先立ち、事業地区内に所在する12遺跡の取り扱いについて、関係機関と協議の上、平成6年度から記録保存を目的とした発掘調査を行ってきました。

本報告書は、このうち磯岡北遺跡の北半部にある磯岡北古墳群を中心とする地区の調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多くのご協力をいただきました都市再生機構、宇都宮市教育委員会、上三川町教育委員会などの関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成18年9月

栃木県教育委員会 教育長 平間 幸男

# 目 次

第1章 訓	香の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第1節	調査に至る経緯・・・・・・・・・1
第2節	調査の方法3
第3節	調査の経過・・・・・・5
	貴跡の環境
第1節	地理的環境······9
第2節	歷史的環境
第3章 訓	場査区の配置と標準土層······
第1節	磯岡北遺跡における調査区の配置と概要26
第2節	磯岡北遺跡と周辺の土層・・・・・29
第4章 磅	幾岡北遺跡 SG12 区・SG17 区······33
第1節	縄文・弥生時代の遺構と遺物 33
4.1.1.	遺構外出土の縄文土器・・・・・・33
4.1.2.	遺構外出土の縄文・弥生時代石器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
4.1.3.	縄文時代中期の遺構と遺物集中地点・・・・・56
4.1.4.	縄文時代の土坑・・・・・・61
第2節	磯岡北古墳群
4.2.1.	古墳
4.2.2.	遺物集中地点
4.2.3.	埴輪棺・小石室・土壙墓・・・・・・・・・151
第3節	古墳時代の竪穴建物跡と土坑167
4.3.1.	古墳時代中期の竪穴建物跡・・・・・・167
4.3.2.	古墳時代の土坑・・・・・・・173
4.3.3.	古墳時代の遺構外出土遺物・・・・・・・174
第4節	中世の遺構と遺物・・・・・・175
4.4.1.	中世の溝状遺構・・・・・・175
4.4.2.	中世の遺構外出土遺物・・・・・・180
第5節	時期不明の遺構・・・・・・182
4.5.1.	時期不明の溝
4.5.2.	時期不明の土坑・・・・・・183
4.5.3.	時期不明の柱穴状土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第5章 磷	幾岡北遺跡 SG16 区
第1節	縄文時代の遺構と遺物・・・・・188
5.1.1.	縄文時代の土坑・・・・・・188
5.1.2.	縄文時代の遺構外出土遺物・・・・・・190
第2節	古墳時代の溝状遺構・・・・・190
第3節	中世の遺構と遺物・・・・・192
5.3.1.	中世の溝状遺構・・・・・192
5.3.2.	中世の土坑
第4節	時期不明の溝状遺構・・・・・196
第5節	時期不明の土坑・・・・・200
第6章 磅	幾岡北遺跡 SG18 区203
第1節	縄文時代の遺構外出土遺物・・・・・203
第2節	中世の溝状遺構・・・・・203
第3節	時期不明の溝状遺構・・・・・206
第4節	時期不明の土坑・・・・・209
	ミとめ210
第1節	縄文・弥生時代の遺構と遺物210
第2節	古墳時代中期の土師器と須恵器・・・・・210
	- 古墳時代中期集落の土器・・・・・・210
7.2.2.	磯岡北古墳群の土器・・・・・212
第3節	古墳時代中期の集落と墓域・・・・・213
	前期末~中期初頭の集落・・・・・・213
	中期中葉の集落213
7.3.3.	中期後葉の集落と古墳群・・・・・213
7.3.4.	中期末葉の集落と古墳群・・・・・215
第4節	古墳時代中期の群集墳・・・・・・215
7.4.1.	磯岡北古墳群出土の埴輪・・・・・215
7.4.2.	副葬品と土壙墓・小石室217
7.4.3.	磯岡北古墳群の性格・・・・・・222
第5節	古代・中世の遺構と遺物・・・・・・・・223
7.5.1.	古墳時代終末期~奈良時代の集落・・・・・・223
7.5.2.	中世の遺構と遺物・・・・・・223
参考文献…	
写真図版…	227
報告書抄錄	₹

## 挿 図 目 次

第1図	東谷・中島地区位置図(1/10万)	2	第 48 図	磯岡北3号墳(3)墳丘断面図	95
第2図	東谷・中島地区遺跡群遺跡位置図	4	第 49 図	磯岡北3号墳(4)遺物出土状況	97
第3図	遺跡の位置(1/60万)	9	第 50 図	磯岡北3号墳(5)埋葬施設	98
第4図	周辺地形分類図(1/10万)	10	第 51 図	磯岡北3号墳(6)埋葬施設遺物出土状況	99
第5図	周辺の遺跡分布図	14	第 52 図	磯岡北3号墳(7)遺物	101
第6図	磯岡北古墳群・東谷古墳群と田川(1/10,000)	18	第 53 図	磯岡北3号墳(8)遺物	102
第7図	東谷・中島地区遺跡群と権現山・百目鬼遺跡	19	第 54 図	磯岡北3号墳(9)遺物	104
	(1/10,000)		第 55 図	磯岡北3号墳(10)遺物	105
第8図	磯岡北古墳群および周辺遺跡 全体図	27 • 28	第 56 図	磯岡北3号墳(11)ガラス製小玉	105
	(1/2000)		第 57 図	磯岡北4号墳(1)遺構全体図	114
第9図	磯岡北遺跡の標準土層	30	第 58 図	磯岡北4号墳(2)断面図・周溝断面図	115
第10図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区北部 遺構配置	34	第 59 図	磯岡北4号墳(3)遺物出土状況	116
	図 (1/400)		第 60 図	磯岡北4号墳(4)遺物	117
第11図	磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区北部 全体図	35 • 36	第61図	磯岡北5号墳(1)遺構全体図	119
	(1/400)		第62図	磯岡北5号墳(2)遺物出土状況	120
第12図	磯岡北遺跡 SG17 区 南部 遺構配置図 (1/400)	37	第 63 図	磯岡北5号墳(3)遺物	121
第13図	磯岡北遺跡 SG17 区 南部 全体図 (1/400)	37	第 64 図	磯岡北5号墳(4)遺物	122
第 14 図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の	39	第 65 図	磯岡北6号墳 遺構・遺物	125
	縄文土器(1)		第 66 図	磯岡北7号墳(1)遺構全体図	127
第 15 図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の	44	第 67 図	磯岡北7号墳(2)遺物および出土状況	127
	縄文土器(2)		第 68 図	磯岡北8号墳(1)遺構全体図	129
第 16 図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石	46	第 69 図	磯岡北8号墳(2)墳丘・周溝断面図	131
	器(1) 有舌尖頭器・石鏃・磨製石斧・軽石		第 70 図	磯岡北8号墳(3)遺物出土状況	132
第 17 図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の	48	第71図	磯岡北8号墳(4)遺物	133
	石器(2)スタンプ形石器・礫器		第72図	磯岡北8号墳(5)遺物	134
第 18 図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の	49	第73 図	磯岡北9号墳(1)遺構全体図・周溝断面図	138
	石器(3) 礫器・打製石斧		第74 図	磯岡北9号墳(2)全体·周溝・墳丘断面図	139
第 19 図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の	50	第75 図	磯岡北9号墳(3)遺物出土状況・盛土下焼	144
	石器(4)磨石		N3 10 12	土断面図	111
第 20 図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の	51	第 76 図	磯岡北9号墳(4)遺物 土器・埴輪	142
	石器(5)磨石		第77 図	磯岡北9号墳(5)遺物 石製品・鉄製品	143
第21図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の	52	第 78 図	磯岡北9号墳(6)旧表土面出土遺物	148
	石器(6)磨石・石皿		第79 図	磯岡北古墳群 SG17 区 SX — 16 (1) 遺物	149
第 22 図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 SX - 42 (1)	56	第 80 図	磯岡北古墳群 SG17 区 SX — 16 (1) 遺構	150
	遺物		第81 図	磯岡北古墳群 1号埴輪棺(1)遺構	152
第23図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 SX - 42 (2)	57	第82 図	機岡北古墳群 1 号埴輪棺(2)遺物	153
	遺構		第83 図	磯岡北古墳群 1 号埴輪棺(3)遺物	154
第 24 図	磯岡北遺跡 SG17 区 SI — 15 (1) 遺構	58	第84 図	磯岡北古墳群 1 号埴輪棺(4)遺物	155
第 25 図	磯岡北遺跡 SG17 区 SI - 15 (2) 遺構	59	第 85 図	磯岡北古墳群 1 号埴輪棺(5)遺物	156
第 26 図	磯岡北遺跡 SG17 区 SI — 15 (3) 遺物	61	第 86 図	磯岡北古墳群 1 号石室(1)遺構	158
第27図	磯岡北遺跡 SG17 区 P − 1 ~ P − 6 遺構	62	第87図	磯岡北古墳群 1 号石室(2)遺構	159
第 28 図	磯岡北遺跡 SG12 区 SK - 39 ⋅ SG17 区 SK	63	第88図	磯岡北古墳群 SG17 区 SZ — 17 遺構	161
	- 23 遺構		第 89 図	磯岡北古墳群 SG17 区 SZ — 21 遺構	161
第 29 図	磯岡北遺跡 SG12 区 SK - 44 遺構	64	第 90 図	磯岡北古墳群 G12 区 SZ — 22 (1) 遺構	163
第 30 図	磯岡北古墳群調査前測量図 SG12 区・SG17	66	第91図	磯岡北古墳群 SG12 区 SZ — 22 (1) 遺物出	164
	区 (1/800)		为り1日	土状況	104
第31図	磯岡北1号墳(1)遺構全体図	67	第 92 図	磯岡北古墳群 SG12 区 SZ - 22 (3) 遺物	164
第32図	磯岡北1号墳(2)墳丘・周溝断面図	68	第 93 図	磯岡北古墳群 SG12 区 SZ — 22 (3) 遺物 磯岡北古墳群 SG12 区 SZ — 23 遺構	165
第33図	磯岡北1号墳(3)遺物出土状況・周溝断面図	70	第 94 図	磯岡北古墳群 SG12 区 SZ — 25 遺構 磯岡北古墳群 SG12 区 SZ — 36 遺構	
第34図	磯岡北1号墳(4)西側周溝遺物出土状況拡	71	第 95 図	機岡北遺跡 SG17 区 SI — 11 (1) 遺構	166
	大図			機岡北遺跡 SG17 区 SI — 11 (1) 遺構 磯岡北遺跡 SG17 区 SI — 11 (2) 掘形	168
第 35 図	磯岡北1号墳(5)遺物	72	第 96 図		169
第 36 図	磯岡北1号墳(6)南側集中地点出土遺物	75	第 97 図	磯岡北遺跡 SG17 区 SI — 11 (3) 遺物	170
第 37 図	磯岡北2号墳(1)遺構全体図	76	第 98 図	磯岡北遺跡 SG17 区 古墳時代の円筒形土坑	173
第 38 図	磯岡北2号墳(2)断面図	77	笠 00 図	SK — 22 機図北津時 5012 区 5017 区 国刊北上津崎	174
第 39 図	磯岡北2号墳(3)墳丘・周溝断面図	78	第99図	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 周辺出土遺物	174
第 40 図	磯岡北2号墳(4)遺物出土状況	80	я IUU 凶	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 SD — 26A・ SD — 26B(1)遺構全体図(1/400)	176
第 41 図	磯岡北2号墳(5)周溝内土坑	81	₩ 101 W		177
第 42 図	磯岡北2号墳(6)遺物	82	弗 IUI 凶	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 SD - 26A・	177
第 43 図	磯岡北2号墳(7)遺物	84	笠 100 🖾	SD — 26B (2) 断面図	170
第 44 図	磯岡北2号墳(8)遺物	85	弗 102 凶	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 SD - 26A・	179
第 45 図	磯岡北2号墳(9)古墳に伴わない遺物	86	笠 100 🖂	SD - 26B (3) 遺物	100
第 46 図	磯岡北3号墳(1)遺構全体図・周溝断面図	93		磯岡北遺跡 SG12 区 SD — 29 遺構 一番圏北海跡 SG12 区 - SG17 区 中世の連携が	180
第 47 図	磯岡北3号墳(2)断面図・周溝断面図	94	<b>第 104 凶</b>	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 中世の遺構外 出土遺物	181
		~ -		H17721///	

	磯岡北遺跡 SG17 区 SD - 18 遺構 磯岡北遺跡 SG12 区 時期不明の土坑 SK -	182 184		表目次	
第 107 図	27・30・40・41・43 遺構 磯岡北遺跡 SG17 区 時期不明の土坑 SK -	185	第1表	東谷・中島地区遺跡群遺跡一覧表	5
N3 101 FI	10 · 12A · 12B · 19 遺構	100	第2表	東谷・中島地区周辺の遺跡・遺物	15
第 108 図	磯岡北遺跡 SG12 区 時期不明の柱穴 SK - 24・28・31 ~ 35 遺構	186	第3表 第4表	磯岡北遺跡の各調査区と調査古墳の対応 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土	29 47
第 109 図	磯岡北遺跡 SG16 区 縄文時代の土坑 SK - 20 遺構	188	第5表	の縄文・弥生時代の石器 磯岡北1号墳 古墳時代中期 出土遺物数一 覧表	72
	磯岡北遺跡 SG16 区 全体図(1/400)	189	第6表	磯岡北 1 号墳 出土遺物	73
第 111 図	磯岡北遺跡 SG16 区 遺構外出土の縄文時代の 石器 礫器・磨石兼敲石	190	第7表	磯岡北1号墳 南側遺物集中地点 古墳時代	75
第 112 図	磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 2 遺構・遺物	191	<b>⇔</b> ○ ≠	中期 出土遺物数一覧表	7.5
	磯岡北遺跡 SG16 区 SD − 3・29 (1) 遺構	193	第8表	磯岡北 1 号墳 南側遺物集中地点(SX — 14) 出土遺物	75
第114図	磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 3・29 (2) 遺物	194	第9表	磯岡北2号墳 出土遺物	86
第 115 図	磯岡北遺跡 SG16 区 中世の土坑 SK - 12・ 13 遺構	195	第10表	碳岡北2号墳 古墳時代中期 出土遺物数一 覧表	92
第 116 図	磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 6 遺構	196	第11表	磯岡北3号墳 出土遺物	106
第 117 図	磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 7 遺構	197	第12表	磯岡北3号墳 ガラス小玉	111
第118図	磯岡北遺跡 SG16 区 SD − 9・SD − 10 遺構	198	第13表	磯岡北3号墳 ガラス小玉の度数分布表	112
第119図	磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 14 遺構	199	第14表	磯岡北3号墳 ガラス小玉の統計値	112
第 120 図	磯岡北遺跡 SG16 区 時期不明の土坑 SK ー	201	第15表	磯岡北3号墳 古墳時代中期 出土遺物数一	112
	11・15~19・21・22 遺構		N) 10 10	覧表	112
	磯岡北遺跡 SG18 区 遺構外出土の縄文土器	203	第 16 表	磯岡北4号墳 出土遺物	117
	磯岡北遺跡 SG18 区 全体図(1/200)	204	第 17 表	磯岡北4号墳 古墳時代中期 出土遺物数一	117
	磯岡北遺跡 SG18 区 SD — 29 遺構・遺物	205		覧表	
	機岡北遺跡 SG18 区 SD − 1 遺構	207	第 18 表	磯岡北5号墳 古墳時代中期 出土遺物数一	122
	磯岡北遺跡 SG18 区 SD - 3 遺構	208		覧表	
	磯岡北遺跡 SG18 区 SD — 4 遺構	209	第 19 表	磯岡北5号墳 出土遺物	123
	磯岡北遺跡 SG18 区 SK — 6 遺構	209	第20表	磯岡北6号墳 出土遺物	126
	機丘北遺跡出土古墳時代土器の変遷	211	第21表	磯岡北6号墳 古墳時代中期 出土遺物数一	126
	機丘北古墳群と周辺遺跡の変遷	214		覧表	
	磯岡北古墳群1号埴輪棺と関連する円筒埴輪	216	第 22 表	磯岡北7号墳 出土遺物	128
	図轡の復元案と関連資料(1~4は多條捩り 銜、5は1條捩り銜)	218	第23表	磯岡北7号墳 古墳時代中期 出土遺物数一 覧表	128
	古墳時代中期の鉄鐸および類似品と関連資料 栃木県磯岡北古墳群と群馬県倉賀野万福寺古	220 221	第 24 表	磯岡北8号墳 古墳時代中期 出土遺物数一 覧表	134
55 10 4 No	墳群の小石室・遺物	000	第 25 表	磯岡北8号墳 出土遺物	135
弗 134 凶	磯岡北3号墳出土鏡と関連資料	222	第 26 表	磯岡北9号墳 出土遺物	144
			第 27 表	磯岡北9号墳 古墳時代中期 出土遺物数一 覧表	147
			第 28 表	磯岡北9号墳 旧表土面 出土遺物	148
			第 29 表	磯岡北9号墳 旧表土面 古墳時代中期 出 土遺物数一覧表	148
			第 30 表	磯岡北古墳群 SG17 区 SX - 16 出土遺物	151
			第31表	磯岡北古墳群 SG17 区 SX — 16 古墳時代中期 出土遺物数一覧表	151
			第 32 表	磯岡北古墳群 1 号埴輪棺 出土遺物	157
			第 33 表	磯岡北古墳群 SG12 区 1 号石室 石材重量	160
			第 34 表	磯岡北古墳群 SG12 区 SZ — 22 鉄鏃	164
			第 35 表	磯岡北古墳群 SG12 区 SZ — 22 出土遺物	165
			第36表	磯岡北遺跡 SG17区 SI — 11 出土遺物	171
			第37表	磯岡北遺跡 SG17 区 SI — 11 古墳時代中期 出土遺物数一覧表	173
			第 38 表	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 周辺出土遺物	174
			第 39 表	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 SD — 26A・SD — 26B 出土遺物	179
			第 40 表	磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 中世の遺構 外出土遺物	181
			第41表	磯岡北遺跡 SG16 区 縄文時代の遺構外出土 遺物	190
			第 42 表	磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 2 出土遺物	192
			第 43 表	磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 3 出土遺物	194
			第 44 表	磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 29 出土遺物	195
			第 45 表	磯岡北遺跡 SG18 区 縄文時代の遺構外出土 遺物	203
			第 46 表	磯岡北遺跡 SG18 区 SD — 29 出土遺物	206

## 写真図版目次

翻奏		41		-W
機則上・持離・全景(比土上から) SG12 K   2 号前、終節間上 2 留所 (徳から)   2 号項 ( 終知上 2 音列 ( 音列 2 音列 2 音列 2 音列 2 音列 2 音列 2 音列	図版一	航空写真 SG12 区	図版一〇	
機能上・結解・会景(佐上 空から) SG17 K				
機能は古規律と別2 (清に党から) SG17 区				
機能性の投資性機能が 5G17 区   2号項 機能関連機能性 大規 (情報から)   2号項 機能関連連接	図版二			
製造				
SI - 15 全民 (前から) SG17   区   日本				
1	図版三			2 号墳 南部周溝遺物出土状況(南東から)
			図版一一	磯岡北2号墳
SI - 15 上級所面(はから)SC17 区   2 号項 南部部溝上師解・比容出上状況(成から)   1 号		SI — 15 全景(東から) SG17 区		2 号墳 南部周溝遺物出土状況(南東から)
51 - 15 上	図版四	縄文時代の竪穴建物跡・土坑 SG17 区		2号墳 南部周溝須恵器甕出土状況(南東から)
SI - 15 連続地上状況(成から) SG17 K   2 号頭、南西部周清海地區整映上大況(西から) SG17 K   1 - 15 西柱穴 P10・P11(向から) SG17 K   2 号頭、北西部周清空地區整映上大況(西から) SG17 K   1 - 15 西柱穴 P10・P11(向から) SG17 K   2 号頭、北西部周清空地區港上環院(向西から) SG17 K   1 - 15 西柱穴 P10・P11(向から) SG17 K   2 号頭、北西部周清空地區港區(超か上北京)(中西から) SG17 K   2 号頭、北西部周清空地區港區(超か上式院(伊西から) SG17 K   2 号頭、北西部周清空地 SP2 P3 東西部周清空地 SP2 P3 東西部周清空 (中から) SP2 P3 東西部周清空 SP2 P3 東西部周清空 (中から) SP2 P3 東西部周清空 SP2 P3 東西部周清空 (中から) SP2 P3 東西部周末空 (中から) SP2 P3 東西部周末空 (中から) SP2 P3 東西部四周末空 (中から) SP2 P3 東西部四高河西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西西		SI — 15 土層断面(東から) SG17 区		2号墳 南部周溝土師器小形壺出土状況(南から)
SI - 15 東柱でP3・P4 (南から) SG17 区   2号鏡 市西部開海流路器製出土状況(南東から) SG17 区   2号鏡 北西部開海流路器製出土状況(南東から) SG17 区   2号鏡 北西部開海流路開海流路出土状況(南東から) SG17 区   2号鏡 北西部開海流路開海流路出土状況(南から) SG17 区   2号鏡 北西部開海流路出土状況(日から) SG17 区   2号鏡 北西部開海流路出土状況(日から) SG17 区   2号鏡 東京部開海流路出土状況(日から) SG12 区   2号鏡 東京部開海に日から) SG12 区   2号鏡 東京部開海に日から) SG12 区   2号鏡 東京部開海出土状況(日から) SG12 区   2号鏡 東京部開海に日から) SG12 区   2号鏡 東京部開海流路出土状況(日から) SG17 区   2号鏡 東京部開海流路出土状況(日から) SG17 区   2号鏡 東京部開海流路出土状況(日から) SG17 区   2号鏡 東京部開海流路上野師面(日から) SG17 区   2号鏡 東京部開海流路出土状況(日から) SG17 区   2号鏡 東京部開海流路出土状況(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海流路出土状況(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海流路出土状況(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海に上田師面(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海流路出土状況(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海上田師面(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海上田師面(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海流路田工大沢(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海に上田町面(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海に上田町面(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海流路田工土田町面(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海に上田町面(日から) SG17 区   3号鏡 東京部開海流路田工大沢(西から) SG17 区   3号鏡 西部開海に上田町面(日から) SG17 区		SI — 15 土層断面(南東から) SG17 区		2号墳 南部周溝須恵器踉出土状況(北東から)
SI - 15   西柱穴下10・P13 (南から) SC17 区   2 号境   北西部間積と遺物由土状況 (南西から)   2 号境   北西部間積と遺物由土状況 (市西から)   2 号境   北西部間積と遺物由土状況 (日から)   2 号境   北西部間積と遺物由土状況 (日から)   2 号境   北西部間積と遺物由土状況 (日から)   2 号境   北西部間積を遺物由土状況 (日から)   2 号境   北西部間積を関かさり   2 号境   北西部間積を遺物由土状況 (日から)   2 号境   北西部間積を関かる   2 号境   北西部間積を関かる   2 号境   北西部間積を関が   2 号域   北西部間積   2 号域   2 号域   北西部間   2 号域		SI — 15 遺物出土状況(東から) SG17 区		2 号墳 南西部周溝遺物出土状況(西から)
SI - 15   一純中 P P 1		SI — 15 東桂穴 P3・P4(南から) SG17 区		2号墳 南西部周溝須恵器甕出土状況(南東から)
特次状土坑 P1~P6(上は S1-15)(南から) SG   図版一   2号墳 北西部周清子フラ検出状況(比から) SG   2万項   2号墳 東京		SI — 15 西柱穴 P10・P11(南から) SG17 区		2号墳 北西部周溝と遺物出土状況(南西から)
17   17   17   18   18   18   18   18		SI — 15 西柱穴 P11・P13(南から) SG17 区		2号墳 北西部周溝外遺物出土状況(北から)
SX - 42 上層断面 (右は SI - 15) (東から) SC17 区		柱穴状土坑 P1 ~ P6(上は SI $-$ 15)(南から) SG	図版一二	磯岡北2号墳
		17区		
SK - 23 全景(南から) SG17 区   2号墳 墳頂部東側 剣出土状況(西から) SG12 区   2号墳 墳頂部南側 条 鉄鉄田土状況(西から) SG12 区   2号墳 墳頂部南側 条 鉄鉄田土状況(南から) SG12 区   2号墳 墳頂部南側 条 鉄鉄田土状況(南から) SG12 区   2号墳 南東部周清中土坑土層断面(北西から) SG12 区   2号墳 南東部周清中土坑土層断面(北西から) SG12 区   2号墳 南東部周清中土坑土層断面(北西から) SG12 区   3号墳 有企土半部上層断面(北西から) SG12 区   2号墳 墳丘土半部上層断面(全西から) SG12 区   2号墳 墳丘土半部上層断面(全西から) SG12 区   2号墳 墳丘土半部上層断面(西から) SG12 区   2号墳 墳丘土半部上層断面(西から) SG12 区   2号墳 墳丘池半部上層断面(西から) SG12 区   2号墳 墳丘南部周清上層断面(西から) SG12 区   2号墳 墳丘南部周清上層断面(西から) SG12 区   2号墳 墳丘市南部周上上城市(西から) SG12 区   2号墳 墳丘市南部上層断面(西から) SG12 区   2号墳 墳丘市南部上径断面(西から) SG12 区   2号墳 墳丘市南部上上城市(西から) SG12 区   2号墳 墳丘市南部上上城市(西から) SG12 区   2号墳 墳丘市南部上上城市(西から) SG12 区   2号墳 墳丘市南部上上城市(西から) SG12 区   2号墳 墳丘市南部上上城市(南から) SG12 区   2号墳 墳丘市南部上上横断面(南から) SG12 区   2号墳 墳丘市本上層断面(南から) SG12 区   2号墳 墳丘市本上層断面(南から) SG12 区   2号墳 墳丘市本上層断面(南から) SG12 区   2号墳 墳丘市本上層断面(南から) SG12 区   2号墳 墳丘市本上部上層断面(南から) SG12 区   2号墳 墳丘市本上層断面(南から) SG12 区   2号墳 墳丘市本上部上層断面(南から)   3号墳 墳丘市本上層析面(南から) SG12 区   3号墳 墳丘市本上層析面(南から)   3号墳 立田本上型断面(南から)   3号墳 墳丘市本上型断面(南から)   3号墳 直丘上半部上層断面(南から)   3号墳 直丘土半部上層断面(南から)   3号墳 直丘土半部上層断面(南から)   3号墳 西部周清土層断面(南から)   3号墳 西部周清土層断面(南から)   3号墳 西部周清清上層断面(南から)   3号墳 西部周清末上層断面(南から)   3号墳 西部周清末上層断面(南から)   3号墳 西部周清末上間断面(南から)   3号墳 西部周清末上間断面(南から)   3号墳 西部周清末上間断面(南から)   3号墳 西部周清末上間断面(南から)   3号墳 西部周清末上北坑(南西から)   3号墳 西部周清末上北坑(西西)(西から)   3号墳 西部周清末上北坑(西西))  3号墳 西部周清末上北坑(西西))  3号墳 西部周清末上北坑(西西)(西から)   3号墳 西部周清末上坑(西西))  3号墳 西部周清末上坑(西西)(西から)   3号墳 西部周清末上坑(西西)(西から)   3号墳 西部月末上坑(西))  3号首 西部月末上北河南面(市))  3号首 西部月末上北河南西)(田))  3号首 西)(田))  3号首 西)(田))  3目前 田)(田))  3目前 田)(田))  3目前 田)(田))  3目前 田)(田))  3目前田)(田))		SX — 42 土層断面(右は SI — 15)(東から) SG17区		2号墳 南東部周溝テフラ検出状況(西から)
SK - 23 全景 (東から) SG17 区         SK - 23 生層所面 (南から) SG12 区         SK - 39 土層所面 (東から) SG12 区         SK - 44 全景 (前から) SG12 区         SK - 44 全景 (北西から) SG12 区         SK - 44 生居所面 (東から) SG12 区         J 号墳 北部日本 (東本) SG12 区 (右)・SG17 区 (左) 1号墳 北部日溝土層所面 (西)・SG12 区 1号墳 北部日溝土層所面 (西)・SG12 区 1号墳 北部日溝土層所面 (西)・SG12 区 1号墳 東部日溝土層所面 (南)・SG17 区 1号墳 南部周溝土層所面 (南)・SG17 区 1号墳 南部周溝土層所面 (南)・SG17 区 1号墳 西部周溝遺物出土状況 (西)・SG17 区 1号墳 東丘土層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘西半部土層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘平野面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘平野面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘平半部土層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘平半部土屋所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘平半部土層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘平半部土層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部上層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部上層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東田園満 (南)・SG17 区 1号墳 東丘平半部土層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部土産所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部土産所面 (南)・SG17 区 1号墳 東田園満土曜所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部土電所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘平半部土層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部土屋所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部土曜所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部土地層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部土地層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半市 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部土地層所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半部土屋所面 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半市 (南)・SG17 区 1号墳 東丘四半市 (南)・SG17 区 1号域 東丘四半市 (南)・SG17 区 1号域 東丘四半市 (南)・SG17 区 1号域 東丘四半市 (南)・SG17 区 1号域 東丘四半市 (南)	図版五			2号墳 墳頂部西側 鉾出土状況(南から)
図版人       39 土層断面(南から) SG12 区       2 号境 境頂部東側 剣出土状況 (南から)         SK - 39 土層断面(東から) SG12 区       2 号境 南東部周溝内土坑土層断面(北西から)         SK - 44 全景 (南から) SG12 区       2 号境 南東部周溝内土坑南半部土層断面(北西から)         SK - 44 全景 (北西から) SG12 区       2 号境 墳丘北半部土層断面全景 (東から)         SK - 44 最下層の土層断面(東から) SG12 区       2 号境 墳丘北半部土層断面全景 (東から)         BMD 土 号墳       2 号境 墳丘北半部土層断面(西から)         1 号境 北端部全景 (北から) SG12 区       2 号境 墳丘北半部土層断面(西から)         1 号境 北端部内溝土層断面(西から) SG12 区       2 号境 墳丘北端部出船所面(西から)         1 号境 東部周溝土層断面(西から) SG12 区       2 号境 墳丘北端部出船所面(西から)         1 号境 東部周溝土層断面(高から) SG17 区       2 号境 墳丘北部部土層断面(南から)         1 号境 南部周溝土層断面(南から) SG17 区       2 号境 墳丘東部園面(西から)         1 号境 西部周溝連樹出土状況(比から) SG17 区       2 号境 墳丘東半部土層断面(南から)         1 号境 西部周溝連樹出土状況(比から) SG17 区       2 号境 墳丘東半部土層断面(南から)         1 号境 西部周溝連樹出土状況(比から) SG17 区       2 号境 均直部周囲油土場所面(南から)         1 号境 西部周溝連樹出土状況(比から) SG17 区       2 号境 均直部周光半部上層断面(南から)         1 号境 西部周溝連物出土状況(比から) SG17 区       2 号境 均重地周囲 (南から)         1 号境 西部周溝連物近土 (市から) SG17 区       3 号境 全景と周辺(西上空から)         1 号境 墳丘土層断面(南から) SG17 区       3 号境 全景と周辺(西上空から)         1 号境 墳丘土層断面(南から) SG17 区       3 号境 主東部周溝(南東から)         1 号境 墳丘土層断面(南から) SG17 区       3 号境 主東部周溝直(東から)         1 号境 墳丘東半部土層断面(南から) SG17 区       3 号境 主東部周溝直(東から)         1 号境 墳丘上層断面(東か				2号墳 墳頂部東側 剣出土状況(西から)
SK - 39 土層断面(東から)SG12区         SK - 44 全景 (南から) SG12区         図版 - 4 全景 (市) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本				2号墳 墳頂部南側 斧・鉄鏃出土状況(南から)
図版		SK — 39 土層断面(南から) SG12 区		2号墳 墳頂部東側 剣出土状況(南から)
SK - 44 生層新面(康から) SG12 区   2号墳 境丘土層新面全景(東から) SG12 区   2号墳 境丘土半部土層新面(西から)   3号墳 全景(東から) SG12 区   2号墳 境丘土半部土層新面(西から)   1号墳 全景(東から) SG12 区   2号墳 境頂北半部土層新面(西から)   1号墳 北端郎全景(北から) SG12 区   2号墳 境頂北半部土層新面(西から)   1号墳 北端郎全景(北から) SG12 区   2号墳 境頂北半部土層新面(西から)   1号墳 東部周溝土層新面(西から) SG12 区   2号墳 境頂北半部土層新面(西から)   1号墳 東部周溝土層新面 SG12 区調査区南壁(北から)   2号墳 境丘土地区部面(西から)   1号墳 東部周溝土層新面 SG12 区調査区南壁(北から)   2号墳 境丘土地区部面(西から)   1号墳 東部周溝土層新面(西から) SG17 区   2号墳 境丘土地区部面(西から)   1号墳 東部周溝土層新面(西から) SG17 区   2号墳 境丘北地区田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田				2号墳 南東部周溝内土坑土層断面(北西から)
SK - 44 全景(北西から) SG12 区   2号墳 墳丘土層断面全景(東から) SG12 区   2号墳 墳丘土層断面全景(東から)   2号墳 墳丘市半部土層断面(西から)   2号墳 墳丘市学部土層断面(西から)   2号墳 墳丘南等部土層断面(西から)   2号墳 墳丘南等部土層断面(西から)   2号墳 墳丘南等部土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端部土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端周溝土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端周溝土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端部土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端高土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端高土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端部土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端高土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端高土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端部土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端高土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端高土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端高土層断面(西から)   2号墳 墳丘市端高土層断面(南から)   2号墳 墳丘市地部土坑泥(北から)   2号墳 墳丘市地部土炭田(南から)   2号墳 墳丘市地部土炭田(南から)   2号墳 墳丘市地部土炭田(南から)   2号墳 墳丘市地部土炭田(南から)   2号墳 墳丘市西部周溝遺物出土炭田(西(西から)   2号墳 墳丘市西部周溝遺物土土炭田(西(西))   2号墳 墳丘地市山土炭田(西(南))   2号墳 墳丘市西部周溝遺物近景(北から)   2号寸 墳丘市本部土層断面(南から)   2号寸 墳丘市中水市土層断面(西から)   2号寸 墳丘市中水市土層断面(西から)   2号寸 白田木土尾町面(西から)   2号寸 白田木土尾町面(西から)   3号寸 西部周溝土層断面(南から)   3号寸 西部周溝土層形面(南から)   3号寸 西部周溝土層形面(南から)   3号寸 西部周溝土部部水形・産出土状田(西から)   3号寸 西部周溝土部部水・形・産出土状田(西から)   3号寸 西部周溝土部部水・形・正土状田(西から)   3号寸 西部周溝土部が上土状田(西から)   3号寸 西部周溝土部水田(西から)   3号寸 西部周溝土田(西本)(西本)(西本)(西本)(西本)(西本)(西本)(西本)(西本)(西本)				2号墳 南東部周溝内土坑南半部土層断面(北西から)
SK - 44 最下層の土層断面(東から) SG12 区			図版一三	
図版大   機関北1号境				
1号墳 全景(東から) SG12 区 (右)・SG17 区 (左)   2号墳 墳頂部周辺土層断面 (西から)   1号墳 北端部全景(北から) SG12 区   2号墳 墳頂部周辺土層断面 (西から)   2号墳 墳丘北端部土層断面 (西から)   2号墳 墳丘市端部土層断面 (南から)   2号墳 墳丘市端部上足層断面 (南から)   2号墳 墳丘西部周溝直物田土状況 (東から)   2号墳 墳丘西半部土層断面 (南から)   2号墳 墳丘市本部上層断面 (南から)   2号墳 墳丘市本部上層断面 (南から)   2号墳 墳丘東半部土層断面 (南から)   2号墳 墳丘東部土層断面 (南から)   2号墳 墳丘東部土層断面 (南から)   2号墳 墳丘東部土層断面 (南から)   2号墳 墳丘東部土層断面 (南から)   2号墳 墳丘東半部土層断面 (南から)   2号墳 墳丘東半部土層断面 (南から)   2号墳 墳丘東半部土層断面 (南から)   2号墳 墳丘東半部土層断面 (西から)   2号墳 墳丘東半部土屋断面 (西から)   2号墳 百部周溝土層断面 (南から)   2号墳 西部周溝土層断面 (西から)   2号墳 西部周溝土部断田 (西から)   2号墳 西部周溝土層断面 (西から)   2号墳 西部周溝土部断田 (西から)   2号墳 西部周溝土層断面 (西から)   2号墳 西部周溝土部断田 (西から)   2号墳 西部周溝土層断面 (西から)   2号墳 西部周溝土根断田 (西から)   2号墳 西部周溝土田断田 (西から)   2号墳 西部周溝土田断田 (西から)   2号墳 西部田 (西本的田				
1号墳 北部周漢土層断面(西から)SG12 区   2号墳 墳丘北端部土層断面(西から)	図版六			
日号墳 北部周溝土層断面(西から)SG12 区   1号墳 東部周溝土層断面 SG12 区調査区南壁(比から)   2号墳 墳丘南端部土層断面(西から)   2号墳 墳丘南端部土層断面(西から)   2号墳 墳丘南端部土層断面(西から)   2号墳 墳丘南端部土層断面(南から)   2号墳 墳丘南端部土層断面(南から)   2号墳 墳丘南端部土層断面(南から)   2号墳 墳丘南半部土層断面(南から)   2号墳 墳丘西半部土層断面(南から)   3号墳 全景と周辺(西土空から)   3号墳 全景と周辺(西土空から)   3号墳 墳丘土層断面(南から)   3号墳 北東部周溝上層断面(南から)   1号墳 墳丘土層断面(南から)   3号墳 北東部周溝上層断面(南から)   3号墳 北東部周溝上層断面(南から)   3号墳 北東部周溝上層断面(南から)   3号墳 北南周溝土層断面(南から)   3号墳 北南周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝上層断面(南から)   3号墳 西部周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝上層断面(南から)   3号墳 西部周溝上層断面(東から)   3号寸 西部周末上層断面(西から)   3号寸 西述 田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本				
日号墳 東部周溝土層断面   SC12 区調査区南壁(北から)   2号墳   墳丘南端部土層断面 (西から)   2号墳   墳丘南端部土層断面 (西から)   2号墳   墳丘南端部土層断面 (西から)   2号墳   墳丘南端部土層断面 (南から)   2号墳   墳丘南端部土層断面 (南から)   2号墳   墳丘南端部土層断面 (南から)   2号墳   墳丘南部面(南から)   2号墳   墳丘西半部土層断面 (南西から)   3号墳   全景と周辺 (西上空から)   3号墳   全景と周辺 (西上空から)   3号墳   北東部周溝土層断面 (南東から)   3号墳   北東部周溝土層断面 (南東から)   3号墳   北東部周溝土層断面 (南市ら)   3号墳   北東部周溝土層断面 (南市ら)   3号墳   西部周溝土層断面 (南市ら)   3号墳   西部周溝土曜形形面 (南市ら)   3号墳   西部周溝土層形面 (南市ら)   3号墳   西部周溝土部形形面出土状況 (西から)   3号墳   西部周溝   西部周溝   街面のち)   3号墳   西部周溝   西部周溝   西部周溝   西部周溝   西部周溝   西部周溝   西部周溝   西部の方向   3号墳   西部周溝   西部周溝   西部の方向   3号墳   西部周溝   西部の方向   3号墳   西部周溝   西部周溝   西部の方向   3号墳   西部周溝   西部の方向   3号墳   西部周溝   西部周溝   西部の方向   3号墳   西部周溝   西面の方向   3号寸   西面の方向   3号寸   西面の方向   3号寸   西面の清末   五面の方向   3号寸   西面の清末   13号寸   13号寸				
日号墳 西部周溝土層断面 SC12 区調査区南壁(北から)   図版一四   磯岡北2号墳   現在土層断面 (南から)   日号墳 東部周溝 (南から)   SC17 区   日号墳 東部周溝 (南から)   SC17 区   日号墳 東部周溝 (西から)   SC17 区   日号墳 南部周溝 (西から)   SC17 区   日号墳 南部周溝 (西から)   SC17 区   日号墳 南部周溝 (西から)   SC17 区   日号墳 西部周溝 (西から)   SC17 区   日号墳 西部周溝 (世から)   SC17 区   日号墳 西部周溝 (世がら)   SC17 区   日号墳 墳丘 土層断面 (南から)   SC17 区   日号墳 墳丘 土層断面 (南から)   SC17 区   日号墳 墳丘 土層断面 (南から)   SC17 区   日号墳 墳丘 土 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上				
図版七       磯岡北1号墳       東部周溝(南から)SG17区       2号墳       墳丘上層断面(南から)         1号墳       東部周溝(南から) SG17区       2号墳       墳頂部周辺土層断面(南から)         1号墳       南部周溝(西から) SG17区       2号墳       墳瓦西半部土層断面(南から)         1号墳       南部周溝土層断面(西から)SG17区       2号墳       墳瓦西半部土層断面(南から)         1号墳       西部周溝遺物出土状況(西から)SG17区       2号墳       墳瓦車半部土層断面(南から)         1号墳       西部周溝遺物出土状況(西から)SG17区       2号墳       墳瓦車上層断面(南から)         1号墳       西部周溝遺物近景(北から) SG17区       図版一五       図版一五         2号墳       墳丘西部周溝遺物近景(南から)       区間上空から)         2号墳       全景と周辺(西上空から)       3号墳       全景と周辺(西上空から)         2号墳       北東部周溝(南東から)       3号墳       北東部周溝(南東から)         2号墳       東丘北半部土層断面(南から)SG17区       3号墳       北東部周溝上層断面(南から)         1号墳       墳丘東半部土層断面(西から)SG17区       3号墳       北東部周溝上層断面(東から)         2号墳       全景と周辺(西外ら)SG17区       3号墳       西部周溝土層断面(南から)         2号墳       全景と周辺(西外ら)SG17区       3号墳       西部周溝上層断面(南から)         3号墳       東西部周溝上層所面(東から)       3号墳       西部周溝上層所面(東から)         2号墳       全景と周辺(西外ら)・左上は1号墳       3号墳       西部周溝土が影小形壺出土状況(西から)         2号墳       全景と周辺(西外ら)       3号墳       西部周溝土が影小・形面・計画・計画・計画・計画・計画・計画・計画・計画・計画・計画・計画・計画・計画・				
1号墳 東部周溝(南から)SG17区   2号墳 墳頂部周辺土層断面(南から)   1号墳 東部周溝上層断面(南から)SG17区   2号墳 墳丘西半部土層断面(南から)   1号墳 南部周溝上層断面(西から)SG17区   2号墳 墳丘西半部土層断面(南から)   1号墳 西部周溝遺物出土状況(東から)SG17区   2号墳 墳頂部周辺土層断面(南から)   1号墳 西部周溝遺物出土状況(東から)SG17区   2号墳 墳頂部上層断面(南から)   2号墳 墳面部周溝遺物出土状況(地から)SG17区   2号墳 田表土層断面(南から)   2号墳 西部周溝遺物近景(北から)SG17区   3号墳 全景と周辺(西上空から)   3号墳 全景と周辺(西上空から)   3号墳 墳丘西半部土層断面(南から)   3号墳 墳丘西半部土層断面(南から)   3号墳 墳丘西半部土層断面(南から)   3号墳 墳丘西半部土層断面(南から)   3号墳 墳丘本半部土層断面(南から)   3号墳 墳丘本半部土層断面(南から)   3号墳 墳丘本半部土層断面(南から)   3号墳 墳丘本半部土層断面(西から)   3号墳 墳丘本半部土層断面(西から)   3号墳 西部周溝上層断面(南から)   3号墳 西部周溝 上層断面(南から)   3号墳 西部周溝 は頂面から)   3号墳 西部周溝 (首頂から)   3号墳 西部周溝 (首頂から)   3号墳 西部周溝 (首頂から)   3号墳 西部周溝 (首頂から)   3号墳 西部周溝 (西から)   3号寸 田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本田本			図版一四	
1号墳 東部周溝土層断面(南から) SG17 区   2号墳 墳頂部周辺土層断面(南から)	図版七			
1号墳 南部周溝(西から) SG17 区       2号墳 墳丘西半部土層断面(南から)         1号墳 南部周溝上層断面(西から) SG17 区       2号墳 墳丘東半部土層断面(南から)         1号墳 西部周溝遺物出土状況(東から) SG17 区       2号墳 墳頂部土屋断面(南から)         1号墳 西部周溝遺物出土状況(西から) SG17 区       2号墳 墳頂部土屋断面(南から)         1号墳 西部周溝遺物出土状況(西から) SG17 区       3号墳 全景と周辺(西上空から)         1号墳 西部周溝遺物近景(北から) SG17 区       3号墳 全景と周辺(西上空から)         1号墳 西部周溝遺物近景(南から) SG17 区       3号墳 北東部周溝(南東から)         1号墳 墳丘西半部土層断面(南から) SG17 区       3号墳 北東部周溝上層断面(東から)         1号墳 墳丘東半部土層断面(南から) SG17 区       3号墳 北東部周溝土層断面(東から)         1号墳 墳丘中央付近土層断面(西から) SG17 区       3号墳 西部周溝土層断面(南から)         1号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1号墳 2号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1号墳 2号墳 全景 (東から)       3号墳 西部周溝土層断面(東から)				
1 号墳 南部周溝土層断面(西から) SG17 区       2 号墳 墳丘東半部土層断面(南から)         1 号墳 西部周溝遺物出土状況(東から) SG17 区       2 号墳 墳頂部土層断面(南から)         1 号墳 西部周溝遺物出土状況(近から) SG17 区       2 号墳 墳頂部土層断面(南から)         1 号墳 西部周溝遺物出土状況(西から) SG17 区       2 号墳 垣長土層断面(南から)         1 号墳 西部周溝遺物近景(北から) SG17 区       3 号墳 全景と周辺(西上空から)         1 号墳 西部周溝下部遺物(北から) SG17 区       3 号墳 北東部周溝 (南東から)         1 号墳 墳丘土層断面(南から) SG17 区       3 号墳 北東部周溝土層断面(東から)         1 号墳 墳丘市半部土層断面(南から) SG17 区       3 号墳 西部周溝土層断面(東から)         1 号墳 墳丘中央付近土層断面(西から) SG17 区       3 号墳 西部周溝土層断面(南から)         1 号墳 墳丘中央付近土層断面(西から) SG17 区       3 号墳 西部周溝土層断面(南から)         2 号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1 号墳 2 号墳 全景 (東から)       3 号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)         2 号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1 号墳 2 号墳 全景 (東から)       3 号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)         2 号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1 号墳 2 号墳 全景 (東から)       3 号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)         2 号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1 号墳 2 号墳 全景 (東から)       3 号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)				
1号墳 西部周溝遺物出土状況(東から) SG17 区       2号墳 墳頂部土層断面(南西から)         1号墳 西部周溝遺物出土状況(西から) SG17 区       2号墳 旧表土層断面(南から)         1号墳 西部周溝遺物出土状況(西から) SG17 区       3号墳 全景と周辺(西上空から)         1号墳 西部周溝遺物近景(北から) SG17 区       3号墳 全景と周辺(西上空から)         1号墳 西部周溝遺物近景(南から) SG17 区       3号墳 北東部周溝(南東から)         1号墳 墳丘土層断面(南から) SG17 区       3号墳 北東部周溝(南東から)         1号墳 墳丘車半部土層断面(南から) SG17 区       3号墳 西部周溝土層断面(東から)         1号墳 墳丘北半部土層断面(南から) SG17 区       3号墳 西部周溝土層断面(南から)         1号墳 墳丘中央付近土層断面(西から) SG17 区       3号墳 西部周溝(墳頂から)         2号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1号墳 2号墳 全景 (東から)       3号墳 西部周溝土層断面(東から)         2号墳 土東部周溝(南東から)       3号墳 西部周溝土層断面(東から)				
1号墳 西部周溝遺物出土状況 (北から) SG17区   2号墳 田志土層断面(南から) SG17区   2号墳 西部周溝遺物出土状況 (西から) SG17区   3号墳 全景と周辺 (西上空から) 3号墳 全景と周辺 (西上空から) 3号墳 全景 (南から) SG17区   3号墳 西部周溝遺物近景 (南から) SG17区   3号墳 墳丘土層断面(南から) SG17区   3号墳 墳丘西半部土層断面(南から) SG17区   3号墳 北東部周溝土層断面(南東から)   3号墳 北東部周溝土層断面(南東から)   3号墳 北東部周溝土層断面(南東から)   3号墳 墳丘東半部土層断面(南から) SG17区   3号墳 墳丘北半部土層断面(西から) SG17区   3号墳 墳丘中央付近土層断面(西から) SG17区   3号墳 西部周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝遺物出土状況 (南西から)   3号墳 西部周溝遺物出土状況 (南西から)   3号墳 西部周溝遺物出土状況 (南西から)   3号墳 西部周溝 (西から)   3号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況 (西から)   3号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況 (西から)   2号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1号墳   2号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1号墳   3号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況 (西から)   2号墳 全景(東から)   2号墳 北東部周溝 (南東から)   2号墳 市部周溝土層断面(東から)   2号墳 南部周溝土層断面(東から)				
日号墳 西部周溝遺物出土状況(西から) SG17 区   図版一五   磯岡北3号墳   召景と周辺(西上空から)				
日号墳 西部周溝遺物近景(北から) SG17 区   3号墳 全景と周辺(西上空から)   3号墳 全景と周辺(西上空から)   3号墳 全景と周辺(西上空から)   3号墳 全景と周辺(西上空から)   3号墳 全景と周辺(西上空から)   3号墳 全景と周辺(西上空から)   3号墳 北東部周溝上層断面(南から)   3号墳 北東部周溝土層断面(南東から)   3号墳 北東部周溝土層断面(南東から)   3号墳 北東部周溝土層断面(南東から)   3号墳 北部周溝土層断面(南東から)   3号墳 北部周溝土層断面(南東から)   3号墳 北部周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝土層断面(南から)   3号墳 西部周溝は側がのら)   3号墳 西部周溝は側がのら)   3号墳 西部周溝遺物出土状況(南西から)   3号墳 西部周溝(西から)   3号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)   3号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は1号墳   2号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は1号墳   3号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)   3号墳 南部周溝土層断面(東から)			-	
図版八       磯岡北1号墳       3号墳 全景(南から)         1号墳 西部周溝下部遺物(北から) SG17区       図版一六       磯岡北3号墳         1号墳 西部周溝遺物近景(南から) SG17区       3号墳 北東部周溝土層断面(南東から)         1号墳 墳丘土層断面(南から) SG17区       3号墳 北東部周溝土層断面(東から)         1号墳 墳丘東半部土層断面(南から) SG17区       3号墳 西部周溝土層断面(南から)         1号墳 墳丘中央付近土層断面(西から) SG17区       3号墳 西部周溝(墳頂から)         図版九       磯岡北2号墳       3号墳 西部周溝(西から)         2号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は1号墳 2号墳 全景(東から)       3号墳 西部周溝土層断面(東から)         2号墳 北東部周溝(南東から)       図版一七       磯岡北3号墳         3号墳 南部周溝土層断面(東から)       3号墳 南部周溝土層断面(東から)			凶版一五	
1号墳 西部周溝下部遺物(北から) SG17区   図版一六   磯岡北3号墳   北東部周溝(南東から)   1号墳   墳丘土層断面(南から) SG17区   3号墳   北東部周溝土層断面(南東から)   3号墳   北東部周溝土層断面(南東から)   3号墳   北東部周溝土層断面(南東から)   3号墳   北東部周溝土層断面(東から)   3号墳   北部周溝土層断面(東から)   3号墳   北部周溝土層断面(東から)   3号墳   西部周溝土層断面(南から)   3号墳   西部周溝土層断面(南から)   3号墳   西部周溝遺物出土状況(南西から)   3号墳   西部周溝遺物出土状況(南西から)   3号墳   西部周溝(西から)   3号墳   西部周溝(西から)   3号墳   西部周溝(西から)   3号墳   西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)   2号墳   全景と周辺(西上空から)・左上は1号墳   2号墳   全景(東から)   2号墳   北東部周溝(南東から)   2号墳   北東部周溝(南東から)   2号墳   市部周溝土層断面(東から)	50 WC 3			
1 号墳 西部周溝遺物近景(南から) SG17 区       3 号墳 北東部周溝(南東から)         1 号墳 墳丘土層断面(南から) SG17 区       3 号墳 北東部周溝土層断面(南東から)         1 号墳 墳丘西半部土層断面(南から) SG17 区       3 号墳 北南周溝土層断面(東から)         1 号墳 墳丘東半部土層断面(南から) SG17 区       3 号墳 西部周溝土層断面(南から)         1 号墳 墳丘中央付近土層断面(西から) SG17 区       3 号墳 西部周溝 (墳頂から)         2 号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1 号墳 2 号墳 全景 (東から)       3 号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)         2 号墳 北東部周溝(南東から)       2 号墳 市部周溝土層断面(東から)	凶版八		- L	
1号墳 墳丘土層断面(南から) SG17 区       3号墳 北東部周溝土層断面(南東から)         1号墳 墳丘恵半部土層断面(南から) SG17 区       3号墳 北部周溝土層断面(東から)         1号墳 墳丘東半部土層断面(南から) SG17 区       3号墳 西部周溝土層断面(南から)         1号墳 墳丘中央付近土層断面(西から) SG17 区       3号墳 西部周溝(墳頂から)         図版九       磯岡北2号墳       3号墳 西部周溝(西から)         2号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は1号墳 2号墳 全景(東から)       3号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)         2号墳 北東部周溝(南東から)       図版一七       磯岡北3号墳 南部周溝土層断面(東から)			凶版一六	
1 号墳       墳丘西半部土層断面(南から) SG17 区       3 号墳       北部周溝土層断面(東から)         1 号墳       墳丘東半部土層断面(南から) SG17 区       3 号墳       西部周溝土層断面(南から)         1 号墳       墳丘中央付近土層断面(西から) SG17 区       3 号墳       西部周溝(墳頂から)         2 号墳       全景と周辺(西上空から)・左上は 1 号墳       3 号墳       西部周溝(西から)         2 号墳       全景(東から)       2 号墳       本景(東から)         2 号墳       北東部周溝(南東から)       2 号墳       本部周溝土層断面(東から)				
1号墳 墳丘東半部土層断面(南から) SG17区       3号墳 西部周溝土層断面(南から)         1号墳 墳丘北半部土層断面(西から) SG17区       3号墳 西部周溝 (墳頂から)         1号墳 墳丘中央付近土層断面(西から) SG17区       3号墳 西部周溝 (墳頂から)         図版九       磯岡北 2号墳       3号墳 西部周溝 (西から)         2号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1号墳       3号墳 西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)         2号墳 全景 (東から)       図版一七         2号墳 北東部周溝 (南東から)       3号墳 南部周溝土層断面(東から)				
1 号墳 墳丘北半部土層断面(西から) SG17 区       3 号墳 西部周溝(墳頂から)         1 号墳 墳丘中央付近土層断面(西から) SG17 区       3 号墳 西部周溝(墳頂から)         2 号墳 全景と周辺(西上空から)・左上は 1 号墳 2 号墳 全景(東から)       3 号墳 西部周溝(西から)         2 号墳 全景 (東から)       図版一七         2 号墳 北東部周溝(南東から)       3 号墳 南部周溝土層断面(東から)				
2 号墳       墳丘中央付近土層断面(西から) SG17 区       3 号墳       西部周溝遺物出土状況(南西から)         2 号墳       全景と周辺(西上空から)・左上は 1 号墳       3 号墳       西部周溝上師器小形壺出土状況(西から)         2 号墳       全景(東から)       図版一七       磯岡北 3 号墳         2 号墳       北東部周溝(南東から)       3 号墳       南部周溝土層断面(東から)				
図版九磯岡北2号墳3号墳西部周溝(西から)2号墳全景と周辺(西上空から)・左上は1号墳3号墳西部周溝上師器小形壺出土状況(西から)2号墳全景(東から)図版一七磯岡北3号墳2号墳北東部周溝(南東から)3号墳南部周溝土層断面(東から)				
2 号墳       全景と周辺(西上空から)・左上は 1 号墳       3 号墳       西部周溝土師器小形壺出土状況(西から)         2 号墳       全景(東から)       図版一七       磯岡北 3 号墳       南部周溝土層断面(東から)         3 号墳       南部周溝土層断面(東から)	MIT-			
2号墳       全景(東から)       図版一七       磯岡北3号墳         2号墳       北東部周溝(南東から)       3号墳       南部周溝土層断面(東から)	凶版几			
2号墳 北東部周溝(南東から) 3号墳 南部周溝土層断面(東から)			1- 1-	
			凶脉一七	
4 ヶ頃 - 北宋市河碑と SD - 40A 工層剛固(南宋から) 3 号項 南部周溝夏初出土状況(南から)				
		4 ヶ頃 北宋印向傅 C SD - ZOA 工信例 II (		3 万頃

		3 号墳	南部周溝遺物出土状況(北西から)	図版二五	磯岡北5	5号墳
		3 号墳	墳丘南平坦面須恵器甕出土状況(東から)		5 号墳	南部周溝甕・紡錘車出土状況(西から) SG17 区
		3号墳	墳丘南平坦面須恵器甕・鉢・杯出土状況(南東		5 号墳	南部周溝須恵器甕出土状況(西から) SG17 区
		から)			5 号墳	南部周溝須恵器甕出土状況(南から) SG17 区
		3号墳	南東部周溝須恵器甕・杯他出土状況(南から)		5 号墳	南部周溝紡錘車出土状況(西から) SG17 区
		3号墳	南東部周溝土師器杯他出土状況(北から)		5 号墳	南東部周溝甕出土状況(東から) SG17 区
		3号墳	墳丘南東部平坦面土師器小形壺出土状況(北東		5 号墳	南東部周溝甕出土状況(東から) SG17 区
		から)			5 号墳	南東部周溝甕出土状況(南から) SG17 区
	図版一八	磯岡北	3号墳		5 号墳	南東部周溝甕出土状況(北から) SG17 区
		3 号墳	埋葬施設残存部全景(西から)	図版二六	磯岡北 6	
			埋葬施設残存部全景(南から)			- 全景(南から) SG12区
		3号墳	埋葬施設残存部全景(北から)			全景 (東から) SG12 区・SG17 区
		3号墳	埋葬施設残存部全景(東から)			西部周溝土層断面(南から) SG12 区
		3号墳	埋葬施設土層断面(南から)			北部周溝土層断面(東から) SG12 区
	図版一九	磯岡北				南部周溝土層断面(東から) SG12 区
•	<b>—</b> 1/1/2		墳丘撹乱部 鏡・鉄刀出土状況(西から)	図版二七	磯岡北7	
			墳頂撹乱部 鏡・鉄刀出土状況(西から)	MIX— C		・ 5 項 西側周溝(南東から)
			埋葬施設北半部 鉄鏃・鉄刀(西から)			
			埋葬施設南半部 鉄刀 (西から)			要出土状況(南東から) 関連力変(まなら)
						周溝内甕(南から)
			埋葬施設底面(南から)			東側周溝土層断面(南東から)
			埋葬施設底面土層断面(西から)	図版二八		
			埋葬施設底面土層断面(南から)			全景(北東から)
_			埋葬施設底面土層断面(北から)			全景(南から)
<u> </u>	図版二〇	磯岡北	• • • •			東部周溝(南から)
			墳丘土層断面全景(南から)		8 号墳	東部周溝土層断面(南から)
			墳丘西半部土層断面(南から)	図版二九	磯岡北8	3号墳
		3 号墳	墳丘東半部土層断面(南から)		8 号墳	西部周溝(南から)
		3 号墳	墳丘南半部土層断面(東から)		8 号墳	西部周溝土層断面(南から)
		3号墳	墳丘北半部土層断面(東から)		8 号墳	北部周溝(東から)
		3 号墳	墳丘墳頂部土層断面(南から)		8 号墳	北部周溝土層断面(東から)
		つ口接	接に接頂。市平如土屋販売(売市から)			土切国津 1 屋屋エ (土)、と)
		3 万頃	墳丘墳頂〜東半部土層断面(南東から)		8 号墳	南部周溝土層断面(東から)
	図版二一	3 亏頃 磯岡北。				南西部遺物出土状況(西から)
[	図版二一	磯岡北			8 号墳	
[	図版二一	<b>磯岡北</b> 4 号墳	4号墳		8 号墳 8 号墳	南西部遺物出土状況(西から)
Ţ.	図版二一	<b>磯岡北</b> 4号墳 4号墳	<b>4号墳</b> 全景(東から) SG12 区・SG17 区	図版三〇	8 号墳 8 号墳	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から)
[	図版二一	<b>磯岡北</b> 4号墳 4号墳 4号墳	<b>4号墳</b> 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区	図版三〇	8号墳 8号墳 8号墳 磯岡北8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から)
	図版二一	<b>磯岡北</b> 4号墳 4号墳 4号墳 4号墳	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区	図版三〇	8号墳 8号墳 8号墳 <b>磯岡北8</b> 8号墳	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳
	図版二一	<b>磯岡北</b> 4号墳 4号墳 4号墳 4号墳	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区	図版三〇	8号墳 8号墳 8号墳 <b>磯岡北8</b> 8号墳 8号墳	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝脇出土状況(南から)
		磯岡北 4号墳墳墳 4号墳墳墳 4号間 4号間 4号間 4号間	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区	図版三〇	8号墳墳 8号墳墳 8号岡北 8号墳墳 8号墳墳	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝脇出土状況(南から) 南部周溝脇出土状況(南から)
		磯 4 号号 5 号号 4 号号 5 号号 5 号号 5 号号 5 号号 5 1 1 1 1 1 1 1	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳	図版三〇	8 号 号 号 号 号 号 号 号 号 号 号 号 号 号 号 号 号 号 号	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝脇出土状況(南から) 南部周溝脇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(北東から)
		<b>磯</b> 4 4 4 <b>磯</b> 4 5 5 5 5 6 6 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 7 7 7	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区	図版三〇	8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) <b>3号墳</b> 南部周溝脇出土状況(南から) 南部周溝脇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(北東から) 南東部墳丘磯出土状況(南から)
		磯岡北 4号 4号 4号 4号 6 4号 4号 4号 4号 4号 4号 4号 4号 4号 4号 4号 4号 4号	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区	図版三〇	8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝脇出土状況(南から) 南部周溝脇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(北東から) 南東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から)
		磯岡北墳 4号号号号 4号号号号 6 6 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南西部周溝土層断面(西から) SG12 区	図版三〇	8 8 8 <b>磯</b> 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝膇出土状況(南から) 南部周溝膇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(木東から) 南東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から)
		磯岡北墳 4号号号号号 4号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区		8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝膇出土状況(南から) 南部周溝膇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(市から) 南東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から)
		<b>磯岡北</b> 4 4 号号号号 <b>岡</b> 号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区	図版三〇	8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝膇出土状況(南から) 南部周溝膇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(市から) 南東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から)
		磯岡北墳墳墳墳 4 4 5 5 5 5 5 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 本部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG17 区		8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝脇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 地東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面全景(東から)
[		磯岡北墳墳墳墳 4 4 5 5 5 5 5 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 南部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区	図版三一	8 8 8 <b>磯</b> 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝逸出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面全景(東から) 墳丘土層断面(南から)
[	図版二二	磯岡号号号号岡号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG17 区 市部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 南部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区		8 8 8 <b>磯</b> 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝逸出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 地東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面全景(東から) 墳丘土層断面(南から) 3号墳
[	図版二二	磯岡号号号号岡号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 ち号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区	図版三一	888 0 0 0 888 888 888 888 888 888 888 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝膇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面全景(東から) 墳丘土層断面(南から) 3号墳 墳丘中央部土層断面(南東から)
[	図版二二	磯岡号号号号岡号号号号号号号阿号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 5号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(南から) SG12 区・SG17 区	図版三一	888 磯88888888 磯88 陽88 陽88 8 8 8 8 8 8 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝廛出土状況(南から) 南東郡墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面全景(東から) 墳丘土層断面(南から) 墳丘中央部土層断面(南東から) 墳丘西端部土層断面(南東から)
[	図版二二	磯 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 西半部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(西から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝連動出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 ち号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(南から) SG12 区・SG17 区	図版三一	888磯8888888磯88磯88磯88磯88磯888磯888	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝臨出土状況(南から) 南東郡墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面全景(東から) 墳丘土層断面(南から) 墳丘西端部土層断面(南東から) 墳丘西端部土層断面(南から) 墳丘東端部土層断面(南から)
[	図版二二	磯4444磯444444磯5555555555555555	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝土層断面(東から) SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝連動出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 ち号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(南から) SG12 区・SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区	図版三一	888 磯88888888 磯88 磯88 陽88 8888888888888	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝廛出土状況(南から) 南東郡墳丘遺物出土状況(南から) 南東郡墳丘禮物出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面全景(東から) 墳丘土層断面(南から) 墳丘西端部土層断面(南から) 墳丘東端部土層断面(南から) 墳丘東端部土層断面(南から) 墳丘南端部土層断面(南から)
	図版二二	磯4444磯444444磯5555555555555555555555555	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 ち号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(南から) SG12 区・SG17 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北西部周溝土層断面(東から) SG12 区	図版三一	888磯8888888888888888888888888888888888	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝駿出土状況(南から) 南部周溝駿出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(北東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面全景(東から) 墳丘土層断面(南から) 墳丘西端部土層断面(南東から) 墳丘東端部土層断面(南から) 墳丘東端部土層断面(南から) 墳丘南端部土層断面(東から) 墳丘市端部土層断面(東から)
	図版二二	磯4444磯444444磯55555磯間号号号号間号号号号号号号号号号号号号号号	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 東部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 東部周溝上層断面(東から) SG12 区 全景(東から) SG12 区・SG17 区 土部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区	図版三一	888磯8888888磯88磯88磯88号号号門号号号号号号号号号号号号号号号	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝腿出土状況(南から) 南東郡墳丘遺物出土状況(南から) 南東郡墳丘遺物出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面全景(東から) 墳丘土層断面(南から) 墳丘中央部土層断面(南東から) 墳丘東端部土層断面(南から) 墳丘東端部土層断面(東から) 墳丘市端部土層断面(東から) 墳丘市端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から)
	図版二二	磯4444磯444444磯55555磯5地墳墳墳墳北墳墳墳墳墳北墳墳墳墳墳北墳墳墳墳地墳墳墳墳北墳墳墳墳	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 東部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	図版三一	888磯88888888 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝腿出土状況(南から) 南東郡墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面全景(東から) 墳丘土層断面(南から) 墳丘西端部土層断面(南東から) 墳丘東端部土層断面(南から) 墳丘市端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳頂部周辺土層断面(南東から) 墳頂部周辺土層断面(東から)
	図版二二	磯4444磯444444磯55555磯55七城5555場機14墳墳墳墳墳北墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 東部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝上層断面(東から) SG12 区 東部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(市西から) SG17 区 北西部周溝土層断面(南西から) SG17 区 5号墳 南西部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区	図版三一	888磯8888888888888888888888888888888888	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝脇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面(南から) 3号墳 墳丘中央部土層断面(南東から) 墳丘西端部土層断面(南から) 墳丘南端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳頂部周辺土層断面(東から) 墳頂部周辺土層断面(東から)
	図版二二	磯4444磯444444磯55555磯5551場11地墳墳墳墳墳北墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳墳	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝上層断面(東から) SG12 区 東部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(市西から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区	図版三一	88800000000000000000000000000000000000	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝脇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面(南から) 3号墳 墳丘中央部土層断面(南東から) 墳丘西端部土層断面(南から) 墳丘市端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳頂部周辺土層断面(東から) 墳頂部周辺土層断面(東から)
	図版二二	磯4444磯44444磯55555磯5555場間号号号号間号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号号	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 市部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝上層断面(東から) SG12 区 東部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(南西から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区	図版三一	888磯8888888888888888888888888888888888	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝脇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面(南から) 3号墳 墳丘中央部土層断面(南から) 墳丘西端部土層断面(南から) 墳丘市端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘部周辺土層断面(東から)
	図版二二	磯4444磯444444磯55553磯55555世紀 44444磯55555磯55555555555555555555555555	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 市部周溝土層断面(東から) SG12 区 東部周溝土層断面(北東から) SG12 区 北西部周溝土層断面(南西から) SG17 区 東部周溝土層断面(南西から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝十層断面(南東から) SG17 区	図版三一	888磯8888888888888888888888888888888888	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝脇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 南東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面(南から) 3号墳 墳丘中央部土層断面(南東から) 墳丘西端部土層断面(南から) 墳丘市端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部上層断面(東から) 墳丘北端部上層断面(東から) 墳丘北端部上層断面(東から)
	図版二二	磯4444磯444444磯55555磯5555555555555555555	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝上層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(市西から) SG17 区 北西部周溝土層断面(南西から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝十層断面(南東から) SG17 区 東部周溝十層断面(南東から) SG17 区 東部周溝小形壺出土状況(北西から) SG12 区 西部周溝高杯出土状況(北西から) SG12 区 西部周溝高杯出土状況(北西から) SG12 区	図版三一	888磯8888888888888888888888888888888888	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝脇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 商東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面(南から) 3号墳 墳丘中央部土層断面(南から) 墳丘東端部土層断面(南から) 墳丘市端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳丘北端部土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(東から)
	図版二二	磯4444磯4444444磯55555磯555555555555555555	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 東部周溝上層断面(南から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 市部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 市部周溝遺物出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝上層断面(東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 東部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(南西から) SG17 区 北部周溝土層断面(南西から) SG17 区 北部周溝土層断面(南西から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝小形壺出土状況(北から) SG17 区 北部周溝市区 北部周溝木層断面(南東から) SG17 区 東部周溝小形壺出土状況(北西から) SG12 区 西部周溝遺物出土状況(地西から) SG12 区 西部周溝遺物出土状況(南西から) SG12 区 西部周溝遺物出土状況(市西から) SG12 区 西部周溝遺物出土状況(市西から) SG12 区	図版三一 図版三二	888磯8888888888888888888888888888888888	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝膇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 西東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面(南から) 墳丘土層断面(南から) 墳丘中央部土層断面(南から) 墳丘南端部土層断面(南から) 墳丘南端部土層断面(東から) 墳丘南端部土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(南東から)
	図版二二	磯4444磯4444444磯55555磯555555555555555555	4号墳 全景(東から) SG12 区・SG17 区 全景(西から) SG12 区・SG17 区 西半部周溝(北西から) SG12 区 西半部周溝(南東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南から) SG17 区 4号墳 北西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南西部周溝土層断面(南西から) SG12 区 南部周溝土層断面(南東から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 北部周溝土層断面(東から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝短頸壺・杯出土状況(南から) SG12 区 南部周溝土層断面(東から) SG12 区 東部周溝土層断面(北東から) SG12 区 東部周溝土層断面(南西から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝土層断面(南東から) SG17 区 東部周溝十層断面(南東から) SG17 区 東部周溝十層断面(南東から) SG17 区	図版三一	888磯8888888888888888888888888888888888	南西部遺物出土状況(西から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(東から) 南部墳丘須恵器甕出土状況(西から) 3号墳 南部周溝膇出土状況(南から) 南東部墳丘遺物出土状況(南から) 西東部墳丘磯出土状況(南から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 西部周溝遺物出土状況(東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南東から) 北東部周溝テフラ検出状況(南西から) 3号墳 墳丘土層断面(南から) 墳丘土層断面(南から) 墳丘中央部土層断面(南から) 墳丘南端部土層断面(南から) 墳丘南端部土層断面(東から) 墳丘南端部土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(東から) 墳面部周辺土層断面(南東から)

	9 号墳 北部周溝(東から)	図版四二	古墳時代の土壙墓 SG12区
	9 号墳 遺物出土状況(北から)		SZ — 23 土層断面(東から) SG12 区
	9号墳 北部周溝土層断面(東から)		SZ — 23 礫出土状況(南から) SG12 区
	9号墳 南東部周溝テフラ検出状況(東から)		SZ — 23 礫出土状況(東から) SG12 区
	9号墳 北東部周溝テフラ検出状況(東から)		SZ — 23 全景(東から) SG12 区
	9号墳 南東部周溝テフラ検出状況(南から)		SZ — 36 土層断面(南から) SG12 区
	9号墳 北西部周溝遺物出土・テフラ検出状況(北西から)		SZ - 36 土層断面(東から) SG12 区
図版三五	磯岡北9号墳		SZ - 36 全景(東から) SG12 区
	9号墳 西部周溝高杯・甕出土状況(南から)	図版四三	
	9号墳 西部周溝高杯他出土状況(西から)		SI - 11 全景(東から) SG17 区
	9号墳 西部周溝(南から)		SI - 11
	9号墳 西部周溝遺物出土状況(西から)		SI-11 掘形(東から) SG17区
	9号墳 西部周溝甕出土状況(南から)		SI — 11 遺物出土状況(南から) SG17 区
	9号墳 北西部周溝杯出土状況(西から)		SI — 11 北西部遺物出土状況(西から) SG17 区
	9号墳 北西部周溝杯・鉢出土状況(東から)	図版四四	古墳時代の竪穴建物跡・土坑 SG17 区
	9 号墳 北西部周溝刀子出土状況(南から)		SI — 11 北東部遺物出土状況(東から) SG17 区
図版三六	磯岡北9号墳		SI — 11 南東部遺物出土状況(東から) SG17 区
	9号墳 墳丘南西部不明鉄製品(48) 出土状況(北西から)		SI — 11 北西部遺物出土状況(南東から) SG17 区
	9号墳 南東部周溝鉄鏃出土状況(東から)		SI — 11 北部炉全景(南から) SG17 区
	9号墳 墳丘土層断面全景(東から)		SI — 11 南東部貯蔵穴土層断面(南から) SG17 区
	9号墳 墳丘南端部土層断面(東から)		SI - 11 貯蔵穴全景および遺物出土状況(南から)
	9号墳 墳丘北端部土層断面(東から)		SG17 ⊠
図版三七	磯岡北9号墳		SK - 22 全景(南から) SG17区
<u> </u>	9号墳 墳丘土層断面全景(南から)		SK - 22 土層断面(南から) SG17区
		図版四五	中世の溝状遺構 SG12 区・SG17 区
	9号墳 墳丘西半部土層断面(南から)	四加四五	FEO/角/A 2 1 2 2 3 3 1 7 2 SD - 26A 東端部(東から) SG12 区
	9号墳 墳丘東半部土層断面(南から)		
	9号墳 墳丘西端部土層断面(南から)		SD - 26A 土層断面 G-G' (東から) SG12 区
	9 号墳 墳丘東端部土層断面(南から)		SD — 26A・26B の合流部 土層断面 I-I′(南から)
	9 号墳 南西部墳丘下焼土断面(北東から)		SG12 区
	9号墳 南西部墳丘下土師器片出土状況(西から)		SD — 26A SG12 区南壁土層断面 J-J' (北から)
図版三八	埴輪棺 一九九五年度確認調査区		SD — 26A・26B の合流部(南から) SG12 区
	1号埴輪棺 全景(南西から)		SD — 26A 2 号墳北側(南から) SG17 区
	1号埴輪棺 埋土状況(南から)		SD — 26A 2号墳北側遺物出土状況(北から)SG17区
	1号埴輪棺 調査状況(南西から)	図版四六	中世の溝状遺構 SG12 区
	1号埴輪棺 全景(南東から)		SD — 26A(手前)・26B(奥)(東から) SG12区
	1号埴輪棺 掘形全景(南東から)		SD — 26B 中~西部(東から) SG12 区
図版三九	古墳時代の竪穴式小石室 SG12 区		SD — 26B 西端部(西から) SG12区
<u>⊠</u> ///×—/0	1号石室 残存状況 (東から) SG12区		SD - 26B 西半部土層断面 C-C'(東から) SG12 区
	1 号石室 蓋石の状況(南から) SG12 区		SD - 26B 中央部土層断面 D-D' (北東から) SG12 区
	1号石室 蓋石除去状況(南から) SG12区		SD - 26B 東端部土層断面 F-F' (東から) SG12 区
		図版四七	中世の溝状遺構 SG12 区
	- 3747 /// (1111 27 - 1111 27		SD - 26A (手前は3号墳周溝、右は4号墳) (南か
	1号石室 敷石残存状況(西から) SG12 区		
	1号石室 敷石除去状況(西から) SG12区		ら) SG12 区 SD 2014 2 日時の世間 (またこ) SG12 区
	1 号石室 根石(南から) SG12 区		SD - 26A 3号墳の南側(東から) SG12区
	1号石室 掘形(東から) SG12区		SD - 26A 南端部(北東から) SG12 区
図版四〇	古墳時代の土壙墓 SG12 区・SG17 区		SD - 29 SG12 区東壁土層断面(西から)
	SZ — 17 土層断面(東から) SG17 区		SD — 29 全景(東から) SG12 区
	SZ — 17 土層断面(南から) SG17 区	図版四八	時期不明の溝・土坑 SG12 区・SG17 区
	SZ — 17 全景(南から) SG17 区		SD — 18 全景(南から) SG17 区
	SZ - 21 土層断面(西から) SG17 区		SD — 18 土層断面(南から) SG17区
	SZ - 21 土層断面(西から) SG17 区		SK — 27 全景(東から) SG12 区
	SZ - 21 土層断面(南から) SG12区		SK - 30 全景 (東から) 左は SK - 31 SG12 区
	SZ - 21 土 土		SK - 30 土層断面(東から) SG12 区
			SK - 40 全景 (南から) SG12 区
muc m	SZ — 21 南半部粘土出土状況(西から) SG17 区		SK - 40 土層断面(南から) SG12 区
図版四一	古墳時代の土壙墓 SG12 区・SG17 区		SK - 41 全景(東から) SG12 区
	SZ - 21 全景(東から) SG17 区	₩#Em+	
	SZ - 22 土層断面(南から) SG12区	図版四九	時期不明の土坑 SG12 区・SG17 区
	SZ — 22 土層断面(東から) SG12 区		SK - 41 土層断面(南東から) SG12 区
	SZ — 22 鉄鏃出土状況(東から) SG12 区		SK - 43 土層断面(南から) SG12区
	SZ — 22 鉄鐸出土状況(東から) SG12 区		SK — 43 全景(南から) SG12区
	SZ — 22 全景(東から) SG12 区		SK — 10 土層断面(西から) SG17 区
			SK — 12A・12B 土層断面(南東から) SG17 区

	SK - 19 土層断面(南から) SG17 区		SD - 9 西端部土層断面(南東から) SG16 区
	SK — 19 土層断面(南東から) SG17 区	図版五八	SG16 区 時期不明の溝状遺構
	SK — 19 全景(東から) SG17 区		SD - 9 (右)・SD - 29 (左) の重複部土層断面(東
図版五〇	時期不明の柱穴状土坑 SG12 区		から) SG16 区 SD - 10 全景(東から) SG16 区
	SK - 24 土層断面(東から) SG12 区		SD - 10 主京 (東から) SG16区 SD - 10 西部土層断面 (東から) SG16区
	SK - 28 土層断面(東から) SG12区		SD — 10 四部工層断面(東から) SG16 区 SD — 10 東部土層断面(西から) SG16 区
	SK - 31 全景(東から) SG12 区 SK - 31 土層断面(東から) SG12 区		SD - 10 東部上層劇画 (西から) 3G16 区 SD - 14 全景(東から) SG16 区
	SK - 31 工層側面 (東から) SG12区 SK - 32 土層断面 (東から) SG12区		SD - 14 主景 (宋がら) SG16 区 SD - 14 土層断面 (東から) SG16 区
	SK - 32 工層例面(泉から) 5G12 区 SK - 33 土層断面(東から) SG12 区		SD - 14 工層断面(東から) SG16 区 SD - 14 西端部土層断面(東から) SG16 区
	SK - 33 工層側面 (東から) 3G12 区 SK - 34 土層断面 (東から) SG12 区		SD - 14  東端部土層断面 (西から) SG16 区
	SK - 35 土層断面(東から) SG12 区 SK - 35 土層断面(東から) SG12 区	図版五九	SG16 区 時期不明の土坑
図版五一	SG16 区 航空写真	EIIIXALI	SK - 11 全景(南東から) SG16区
四瓜五	磯岡北遺跡 SG16 区全景とその周辺(南上空から)		SK - 15 全景 (西から) SG16 区
	上方は中島笹塚遺跡4区、右上は西刑部西原遺跡		SK - 16 全景 (南から) SG16区
	磯岡北遺跡 SG16 区 (左端) と中島笹塚遺跡 4 区 (中		SK - 17 全景 (南から) SG16 区
	央〜右)(東上空から)		SK - 18 全景(南東から) SG16区
図版五二	SG16 区 縄文時代の土坑・古墳時代の溝状遺構		SK - 19 全景(南から) SG16区
	SK - 20 土層断面(西から) SG16 区		SK - 21 全景(南から) SG16区
	SK - 20 全景(西から) SG16 区		SK — 22 土層断面兼全景(南東から) SG16 区
	SK - 20 全景(南から) SG16 区	図版六〇	SG18 区 航空写真
	SD-2 北端部土層断面(北から) SG16区		SG18 区 全景(東上空から)左上は SG17 区
	SD-2 全景(南から) SG16区		SD - 29 (右)・SD - 1 (左) の全景 (西から) SG18区
	SD-2 中央部土層断面(南から) SG16 区	図版六一	SG18 区 中世および時期不明の溝状遺構
	SD-2 南端部土層断面(北から) SG16区		SD — 29 遺物出土状況と SD — 1(右奥)(東から)
図版五三	SG16 区 中世の溝状遺構		SG18 区
	SD-3 (左手前) と SD-29・SD-2 (上方) (北		SD — 29 西部土層断面(東から) SG18 区
	東から) SG16 区		SD - 29 中~西部土層断面(東から) SG18 区
	SD-3 全景 (南西から) 手前は SD-29 SG16 区		SD - 29 中央部土層断面(東から) SG18 区
	SD-3 北東部土層断面(南から) SG16区		SD - 29 東部土層断面(東から) SG18 区
	SD - 3 中央部土層断面(南西から) SG16 区		SD - 1 西部土層断面(東から) SG18 区
図版五四	SG16 区 中世の溝状遺構	- I	SD - 1 東部土層断面(東から) SG18 区
図版五四	SD - 29 中央~東部全景(北西から) SG16 区	図版六二	SG18 区 時期不明の溝状遺構
図版五四	SD-29 中央~東部全景(北西から) SG16区 SD-29 中央~東部全景(南東から) SG16区	図版六二	SG18 区 時期不明の溝状遺構SD - 1 中部土層断面(東から) SG18 区
	SD-29 中央~東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央~東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区	図版六二	SG18 区時期不明の溝状遺構SD - 1中部土層断面(東から) SG18 区SD - 1中部土層断面(南から) SG18 区
図版五四	SD - 29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD - 29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD - 29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の満状遺構		SG18 区 時期不明の溝状遺構         SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区         SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区         SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区
	SD - 29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD - 29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD - 29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状造構 SD - 29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区		SG18 区 時期不明の溝状遺構         SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区         SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区         SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区         SD-1 中部東半部土層断面(南から) SG18 区
	SD - 29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD - 29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD - 29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD - 29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区		SG18 区 時期不明の満状遺構         SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区         SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区         SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区         SD-1 中部東半部土層断面(南から) SG18 区         SD-3 全景(南から) SG18 区
	SD - 29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD - 29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD - 29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD - 29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 D-D'(西から) SG16 区		SG18 区 時期不明の溝状遺構         SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区         SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区         SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区         SD-1 中部東半部土層断面(南から) SG18 区         SD-3 全景(南から) SG18 区         SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区
	SD - 29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD - 29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD - 29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD - 29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 D-D'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 B-B'(東から) SG16 区		SG18 区 時期不明の溝状遺構         SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区         SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区         SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区         SD-1 中部東半部土層断面(南から) SG18 区         SD-3 全景(南から) SG18 区         SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区         SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区
	SD - 29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD - 29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD - 29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD - 29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 D-D'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 F-F'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 F-F'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 F-F'(西から) SG16 区		SG18 区       時期不明の溝状遺構         SD-1       中部土層断面(東から) SG18 区         SD-1       中部土層断面(南から) SG18 区         SD-1       中部西半部土層断面(南から) SG18 区         SD-1       中部東半部土層断面(南から) SG18 区         SD-3       全景(南から) SG18 区         SD-3       北部土層断面(南から) SG18 区         SD-3       中央部土層断面(南から) SG18 区         SD-3       中央部土層断面(南から) SG18 区         SG18 区       時期不明の溝状遺構・土坑
	SD - 29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD - 29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD - 29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD - 29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 D-D'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 B-B'(東から) SG16 区		SG18 区         時期不明の溝状遺構           SD-1         中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1         中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         全景(南から) SG18 区           SD-3         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         中央部土層断面(南から) SG18 区           SG18 区         時期不明の溝状遺構・土坑           SD-3         南部土層断面(南から) SG18 区
	SD - 29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD - 29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD - 29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD - 29 土層断面 B-B′(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 D-D′(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 E-E′(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 F-F′(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 F-F′(東から) SG16 区		SG18 区       時期不明の溝状遺構         SD-1       中部土層断面(東から) SG18 区         SD-1       中部土層断面(南から) SG18 区         SD-1       中部西半部土層断面(南から) SG18 区         SD-1       中部東半部土層断面(南から) SG18 区         SD-3       全景(南から) SG18 区         SD-3       北部土層断面(南から) SG18 区         SD-3       中央部土層断面(南から) SG18 区         SD-3       中央部土層断面(南から) SG18 区         SG18 区       時期不明の溝状遺構・土坑
	SD - 29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD - 29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD - 29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD - 29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 D-D'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 F-F'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 F-F'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区		SG18 区 時期不明の溝状遺構           SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部世層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 全景(南から) SG18 区           SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 南邦土層断面(南から) SG18 区           SD-3 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 (奥)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景
図版五五	SD - 29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD - 29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD - 29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD - 29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 D-D'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 F-F'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 F-F'(西から) SG16 区 SD - 29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD - 29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD - 29 エ		SG18 区         時期不明の溝状遺構           SD-1         中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1         中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         全景(南から) SG18 区           SD-3         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         東リ・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区
図版五五	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16区 SD-29 西半部(西から) SG16区 SG16区 中世の溝状遺構 SD-29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16区 SD-29 土層断面 D-D'(西から) SG16区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16区 SD-29 土層断面 F-F'(西から) SG16区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16区		SG18 区         時期不明の溝状遺構           SD-1         中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1         中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         全景(南から) SG18 区           SD-3         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         (東)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区           SD-4         全景(南から) SG18 区
図版五五	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16区SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16区SD-29 西半部(西から) SG16区SG16区 中世の溝状遺構 SD-29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16区SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16区SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16区SD-29 土層断面 B-E'(東から) SG16区SD-29 土層断面 F-F'(西から) SG16区SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16区SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16区SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16区SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16区SG16区中世の溝状遺構・土坑・時期不明の溝状遺構SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16区		SG18 区         時期不明の溝状遺構           SD-1         中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1         中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         全景(南から) SG18 区           SD-3         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         (東)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区           SD-4         全景(南から) SG18 区           SD-4         有部土層断面 SG18 区
図版五五	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 D-D'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 F-F'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構・土坑・時期不明の溝状遺構 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区		SG18 区         時期不明の溝状遺構           SD-1         中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1         中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         全景(南から) SG18 区           SD-3         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         中央部土層断面(南から) SG18 区           SG18 区         時期不明の溝状遺構・土坑           SD-3         (東)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区           SD-4         全景(南から) SG18 区           SD-4         南部土層断面 SG18 区           SD-4         中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4         中央部土層断面(南から) SG18 区
図版五五	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 D-D'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-F'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構・土坑・時期不明の溝状遺構 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 西端部土層断面(東から) SG16 区		SG18 区         時期不明の溝状遺構           SD-1         中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1         中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         全景(南から) SG18 区           SD-3         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         (東)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区           SD-4         全景(南から) SG18 区           SD-4         中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4         北部土層断面(南から) SG18 区
図版五五	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 D-D'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構・土坑・時期不明の溝状遺構 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 西端部土層断面(東から) SG16 区 SC-29 西端部土層断面(東から) SG16 区 SC-12 (手前)と SK-13 (奥)(南東から) SG16 区	図版六三	SG18 区         時期不明の溝状遺構           SD-1         中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1         中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1         中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         全景(南から) SG18 区           SD-3         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3         (東)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区           SD-4         全景(南から) SG18 区           SD-4         南部土層断面 SG18 区           SD-4         中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4         北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4         北部土層断面(南から) SG18 区
図版五五	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構・土坑・時期不明の溝状遺構 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 西端部土層断面(東から) SG16 区 SK-12 (手前)と SK-13 (奥)(南東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-12 工程 SK-12	図版六三	SG18 区 時期不明の溝状遺構           SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 全景(南から) SG18 区           SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 (奥)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SC-6 土層断面(南東から) SG18 区           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器           第3 群第 1 類第 7 種
図版五五	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構・土坑・時期不明の溝状遺構 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SD-29	図版六三	SG18 区 時期不明の溝状遺構           SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 全景(南から) SG18 区           SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 (奥)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南東から) SG18 区           SC12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 1 類           第 3 群第 1 類第 7 種           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群
図版五六	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 (東から) SG16 区 SD-29 西端部土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-13 土層断面(東から) SG16 区 SC-13 土層断面(東から) SG16 区 SD-6 全景 右は SD-29 SG16 区 SD-6 (左)・SD-29 (右) 土層断面(南西から) SG16 区 SD-6 (左)・SD-29 (右) 土層断面(南西から) SG16 区	図版六三	SG18 区 時期不明の溝状遺構           SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 全景(南から) SG18 区           SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 (奥)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 1 群~第 3 群第 1 類第 7 種           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群           第 3 群第 1 類第 7 種           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群           第 3 群第 1 類第 7 種           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群
図版五五	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SG16 区 F世の溝状遺構・土坑・時期不明の溝状遺構 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 (東から) SG16 区 SD-29 西端部土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-13 土層断面(東から) SG16 区 SC-13 土層断面(東から) SG16 区 SD-6 全景 右は SD-29 SG16 区 SD-6 (左)・SD-29 (右) 土層断面(南西から) SG16 区 SG16 区 SB-6 医 SD-29 (右) 土層断面(南西から) SG16 区 SG1	図版六三	SG18 区 時期不明の溝状遺構           SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 全景(南から) SG18 区           SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 (奥)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 東部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 東部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 東部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 東部土層断面(南から) SG18 区           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 1 群~           第 3 群第 1 類第 7 種           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群           第 1 類第 8 種~第 6 群           SG12 区・SG17 区 縄文・弥生時代の遺物
図版五六	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構・土坑・時期不明の溝状遺構 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 西端部土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-13 土層断面(東から) SG16 区 SK-13 土層断面(東から) SG16 区 SD-6 全景 右は SD-29 SG16 区 SD-6 (左)・SD-29 (右) 土層断面(南西から) SG16 区 SG16 区 時期不明の溝状遺構 SD-6 東端部土層断面(西から) SG16 区 SG16 区 時期不明の溝状遺構 SD-6 東端部土層断面(西から) SG16 区	図版六三	SG18 区 時期不明の溝状遺構           SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 全景(南から) SG18 区           SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 (奥)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 東京部土層断面(南から) SG18 区           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 1 群〜           第 3 群第 1 類第 7 種           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群           第 1 類第 8 種〜第 6 群           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・
図版五六	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 J-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 J-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 (東から) SG16 区 SD-29 西端部土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-13 土層断面(東から) SG16 区 SD-6 全景 右は SD-29 SG16 区 SD-6 (左)・SD-29 (右) 土層断面(南西から) SG16 区 SG16 区 SH SD-6 東端部土層断面(西から) SG16 区 SG16 区 SH SD-6 東端部土層断面(西から) SG16 区 SD-6 東端部土層断面(西から) SG16 区 SD-6 東端部土層断面(西から) SG16 区 SD-7 北端部土層断面(南から) SG16 区 SD-7 北端部土層断面(西から) SG16 区 SD-7 北端部土層 SD-6 京 SD-7 京 SG16 区 SD-7 北端部土層 SD-6 京 SG16 区 SD-7 北端部土層 SD-6 京 SG16 区 SD-7 北端部土層 SD-6 京 SD-7 区 SD-7 SD-7 SD-7 SD-7 SD-7 SD-7 SD-7 SD-7	図版六三	SG18 区 時期不明の溝状遺構           SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 全景(南から) SG18 区           SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SG18 区 時期不明の溝状遺構・土坑           SD-3 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SC-6 土層断面(南東から) SG18 区           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 1 群〜           第 3 群第 1 類第 7 種           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群           第 1 類第 8 種〜第 6 群           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・           G12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・           G12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・
図版五六	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-E'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SG16 区 F型の溝状遺構・土坑・時期不明の溝状遺構 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 西端部土層断面(東から) SG16 区 SC-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-13 土層断面(東から) SG16 区 SK-13 土層断面(東から) SG16 区 SD-6 全景 右は SD-29 G16 区 SD-6 (左)・SD-29 (右) 土層断面(南西から) SG16 区 SG16 区 F期不明の溝状遺構 SD-6 東端部土層断面(西から) SG16 区 SD-7 北端部土層断面(南から) SG16 区 SD-7 全景(横の溝は SD-29)(南から) SG16 区 SD-29)(由から) SD-29 SD-	図版六三	SG18 区 時期不明の溝状遺構           SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 全景(南から) SG18 区           SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SG18 区 時期不明の溝状遺構・土坑           SD-3 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SC-6 土層断面(南東から) SG18 区           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 1 群〜           第 3 群第 1 類第 7 種           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群           第 1 類第 8 種〜第 6 群           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・           石鏃・磨製石斧・軽石           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・           石鏃・磨製石斧・軽石           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 スタンプ形石
図版五六	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-B'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-B'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 J-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 (東から) SG16 区 SD-29 土層断面 (東から) SG16 区 SD-29 西端部土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-13 土層断面(東から) SG16 区 SD-6 全景 右は SD-29 G16 区 SD-6 (左)・SD-29 (右) 土層断面(南西から) SG16 区 SD-6 東端部土層断面(西から) SG16 区 SD-7 北端部土層断面(南から) SG16 区 SD-7 全景(横の溝は SD-29)(南から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(相から) SG16 区 SD-7 全景(横の溝は SD-29)(南から) SG16 区 SD-7 有端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 和端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 和端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 和端部土層 SD-29)(南から) SG16 区 SD-29)(由から) SD-29 SD-29)(由から) SD-29 S	図版六三	SG18 区 時期不明の溝状遺構           SD-1 中部土層断面(東から) SG18 区           SD-1 中部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から) SG18 区           SD-1 中部東半部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 全景(南から) SG18 区           SD-3 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から) SG18 区           SG18 区 時期不明の溝状遺構・土坑           SD-3 南部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 全景(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から) SG18 区           SC-6 土層断面(南東から) SG18 区           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 1 群〜           第 3 群第 1 類第 7 種           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群           第 1 類第 8 種〜第 6 群           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・           G12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・           G12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・
図版五六	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 F-F'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 F-F'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 O-O'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 (東から) SG16 区 SD-29 土層断面(東から) SG16 区 SC I-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-13 土層断面(東から) SG16 区 SC I-13 土層断面(東から) SG16 区 SD-6 全景 右は SD-29 SG16 区 SD-6 全局 右は SD-29 (右)土層断面(南西から) SG16 区 SD-6 東端部土層断面(西から) SG16 区 SD-7 北端部土層断面(西から) SG16 区 SD-7 中端部土層断面(西から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(西から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(オから) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(オから) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-9 (手前)・SD-9 (中央)・SD-10 (奥)	図版六三図版六四	SG18 区 時期不明の溝状遺構           SD-1 中部土層断面(東から)SG18 区           SD-1 中部土層断面(南から)SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から)SG18 区           SD-1 中部西半部土層断面(南から)SG18 区           SD-3 全景(南から)SG18 区           SD-3 全景(南から)SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から)SG18 区           SD-3 中央部土層断面(南から)SG18 区           SG18 区 時期不明の溝状遺構・土坑           SD-3 南部土層断面(南から)SG18 区           SD-3 (奥)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から)SG18 区           SD-4 全景(南から)SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から)SG18 区           SD-4 中央部土層断面(南から)SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から)SG18 区           SD-4 北部土層断面(南から)SG18 区           SC12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 1 群〜第 3 群第 1 類第 7 種           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群第 1 類第 8 種〜第 6 群           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・石鏃・磨製石斧・軽石           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・石鏃・磨製石斧・軽石           SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 スタンプ形石器・礫器
図版五六	SD-29 中央〜東部全景(北西から) SG16 区 SD-29 中央〜東部全景(南東から) SG16 区 SD-29 西半部(西から) SG16 区 SG16 区 中世の溝状遺構 SD-29 東端部土層断面 A-A'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 B-B'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-B'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 E-B'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(東から) SG16 区 SD-29 土層断面 I-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 J-I'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 M-M'(西から) SG16 区 SD-29 土層断面 (東から) SG16 区 SD-29 土層断面 (東から) SG16 区 SD-29 西端部土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-12 土層断面(東から) SG16 区 SK-13 土層断面(東から) SG16 区 SD-6 全景 右は SD-29 G16 区 SD-6 (左)・SD-29 (右) 土層断面(南西から) SG16 区 SD-6 東端部土層断面(西から) SG16 区 SD-7 北端部土層断面(南から) SG16 区 SD-7 全景(横の溝は SD-29)(南から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(相から) SG16 区 SD-7 全景(横の溝は SD-29)(南から) SG16 区 SD-7 有端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 和端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 南端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 和端部土層断面(北から) SG16 区 SD-7 和端部土層 SD-29)(南から) SG16 区 SD-29)(由から) SD-29 SD-29)(由から) SD-29 S	図版六三図版六四	SG18 区 時期不明の溝状遺構 SD-1 中部土層断面(東から)SG18 区 SD-1 中部土層断面(南から)SG18 区 SD-1 中部西半部土層断面(南から)SG18 区 SD-1 中部西半部土層断面(南から)SG18 区 SD-3 全景(南から)SG18 区 SD-3 全景(南から)SG18 区 SD-3 北部土層断面(南から)SG18 区 SD-3 中央部土層断面(南から)SG18 区 SD-3 中央部土層断面(南から)SG18 区 SD-3 中央部土層断面(南から)SG18 区 SD-3 (奥)・SD-4 (手前)・SD-29 (左)全景(南西から)SG18 区 SD-4 全景(南から)SG18 区 SD-4 全景(南から)SG18 区 SD-4 中央部土層断面(南から)SG18 区 SD-4 中央部土層断面(南から)SG18 区 SD-4 中央部土層断面(南から)SG18 区 SD-4 北部土層断面(南から)SG18 区 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 1 類第 7 種 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 第 3 群第 1 類第 8 種〜第 6 群 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・石鏃・磨製石斧・軽石 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 有舌尖頭器・石鏃・磨製石斧・軽石 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 スタンプ形石器・礫器 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 スタンプ形石器・礫器

	SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 磨石	図版七二	磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪
図版六七	SG12 区・SG17 区 縄文時代の遺物		3号墳-26
MIX/\U	SG12区·SG17区 遺構外出土の石器 石皿		3号墳-29
	SG12 区・SG17 区 SX — 42 (遺物集中地点) 遺物		3号墳-31 上部
	SG17区 SI — 15 遺物		3号墳-31 胴部
図版六八	磯岡北古墳群 土師器・須恵器		3号墳-32
	1号墳-1		4号墳-1
	1号墳-2		4号墳-2
	1号墳-3		4号墳-3
	1号墳-4		4号墳-4
	1号墳-5		5号墳-4
	1 号墳- 7		5号墳-5
	1号墳-8		5号墳-6
	1号墳-9		5号墳-1
	1 号墳 — 9 胴部上面	図版七三	磯岡北古墳群 土師器・石製品
	1号墳-11		5号墳-7
	1 号墳- 14		5 号墳- 10 内面底面
	1 号墳- 15		5号墳-10
	1号墳-16		5号墳-10 外面底面
	1 号墳- 17		5号墳-8
	1 号墳- 18		5号墳-12
図版六九	磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪		5号墳-13
E-1/1/X/ 1/0	1号墳-19		5号墳-17 凸面
	1 号墳- 22		5 号墳一 14
	1号墳南側集中地点-23		5 号墳- 15
	2 号墳- 1		5号墳-16
	2号墳-4		5号墳-17 平面
	2 号墳- 10	図版七四	
	2号墳-5		8号墳-1 須恵器大甕の上半部
	2 号墳- 12		8号墳-1 頸部
	2 号墳- 13	図版七五	
	2 号墳- 14	MIN OIL	6号墳-1
			8号頃一ク
	2号墳-17 2号墳-19		8 号墳 - 2 8 号墳 - 4
	2号墳-19		8号墳-4
	2 号墳- 19 2 号墳- 20		8号墳-4 8号墳-5
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7
	2 号墳- 19 2 号墳- 20		8号墳-4 8号墳-5
図版七〇	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9
図版七〇	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11
図版七〇	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 磯岡北古墳群 須恵器		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 磯岡北古墳群 須惠器 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15
図版七〇	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 <b>磯岡北古墳群 須恵器</b> 3 号墳- 2		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳- 33		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 磯岡北古墳群 須惠器 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須惠器・埴輪 2 号墳- 33 2 号墳- 34		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 夏号墳-3
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 32 磯岡北古墳群 須惠器 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須惠器・埴輪 2 号墳- 33 2 号墳- 34 3 号墳- 1a		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 8号墳-17·18
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳- 33 2 号墳- 34 3 号墳- 1a 3 号墳- 3 底部		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-17·18
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳- 33 2 号墳- 34 3 号墳- 1a 3 号墳- 3 底部 3 号墳- 4 外面		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-17·18 9号墳-5 9号墳-5
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳- 33 2 号墳- 34 3 号墳- 1a 3 号墳- 3 底部 3 号墳- 4 外面 3 号墳- 4 側面		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-17·18 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-6
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳- 33 2 号墳- 34 3 号墳- 1a 3 号墳- 1 3 号墳- 4 外面 3 号墳- 4 側面 3 号墳- 4 裏面		8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-17·18 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-7
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 <b>磯岡北古墳群 須恵器</b> 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 <b>磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪</b> 2 号墳- 33 2 号墳- 34 3 号墳- 1a 3 号墳- 1a 3 号墳- 4 外面 3 号墳- 4 側面 3 号墳- 4 裏面 3 号墳- 5	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-17·18 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-7 9号墳-8
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 <b>磯岡北古墳群 須恵器</b> 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 <b>磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪</b> 2 号墳- 33 2 号墳- 34 3 号墳- 1a 3 号墳- 1a 3 号墳- 4 外面 3 号墳- 4 側面 3 号墳- 4 裏面 3 号墳- 5 3 号墳- 5	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-1 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-7 9号墳-8 9号墳-9
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 <b>磯岡北古墳群 須恵器</b> 3 号墳- 2 3 号墳- 2 3 号墳- 3 上半部 <b>磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪</b> 2 号墳- 33 2 号墳- 34 3 号墳- 1a 3 号墳- 1a 3 号墳- 4 3 号墳- 4 明面 3 号墳- 4 3 号墳- 4 3 号墳- 5 3 号墳- 6 3 号墳- 8	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-5 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-7 9号墳-8 9号墳-9 9号墳-11 磯岡北古墳群 土師器・須恵器
	2 号墳- 19 2 号墳- 20 2 号墳- 22 2 号墳- 29 2 号墳- 32 <b>磯岡北古墳群 須恵器</b> 3 号墳- 2 3 号墳- 3 3 上半部 <b>磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪</b> 2 号墳- 33 2 号墳- 33 2 号墳- 34 3 号墳- 1a 3 号墳- 1a 3 号墳- 4 外面 3 号墳- 4 側面 3 号墳- 4 裏面 3 号墳- 5 3 号墳- 6 3 号墳- 8 3 号墳- 8	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-7 9号墳-6 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-7 9号墳-8 9号墳-9 9号墳-11 磯岡北古墳群 土師器・須惠器 9号墳-14
	2 号墳-19 2 号墳-20 2 号墳-22 2 号墳-29 2 号墳-32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳-2 3 号墳-3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳-33 2 号墳-34 3 号墳-1a 3 号墳-1a 3 号墳-4 外面 3 号墳-4 側面 3 号墳-5 3 号墳-6 3 号墳-8 3 号墳-9 3 号墳-9 3 号墳-9	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-5 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-7 9号墳-8 9号墳-9 9号墳-11 磯岡北古墳群 土師器・須惠器 9号墳-14 9号墳-14
	2 号墳-19 2 号墳-20 2 号墳-22 2 号墳-29 2 号墳-32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳-2 3 号墳-3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳-33 2 号墳-33 2 号墳-1a 3 号墳-1a 3 号墳-4 外面 3 号墳-4 側面 3 号墳-4 側面 3 号墳-5 3 号墳-6 3 号墳-8 3 号墳-9 3 号墳-9 3 号墳-10 3 号墳-15 内面	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-5 9号墳-5 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-7 9号墳-8 9号墳-9 9号墳-11 磯岡北古墳群 土師器・須惠器 9号墳-14 9号墳-14 9号墳-15
	2 号墳-19 2 号墳-20 2 号墳-22 2 号墳-29 2 号墳-32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳-2 3 号墳-3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳-33 2 号墳-34 3 号墳-1a 3 号墳-4 側面 3 号墳-4 側面 3 号墳-5 3 号墳-6 3 号墳-8 3 号墳-9 3 号墳-15 内面 3 号墳-15	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-11 8号墳-15 8号墳-15 8号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-5 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-7 9号墳-8 9号墳-9 9号墳-11 磯岡北古墳群 土師器・須惠器 9号墳-14 9号墳-14 9号墳-15 9号墳-15
	2 号墳-19 2 号墳-20 2 号墳-22 2 号墳-29 2 号墳-32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳-2 3 号墳-3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳-33 2 号墳-34 3 号墳-1a 3 号墳-1a 3 号墳-4 側面 3 号墳-4 側面 3 号墳-5 3 号墳-6 3 号墳-8 3 号墳-9 3 号墳-15 内面 3 号墳-15 底面	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-11 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-8 9号墳-8 9号墳-11 磯岡北古墳群 土師器・須惠器 9号墳-14 9号墳-14 9号墳-15 9号墳-17
	2 号墳-19 2 号墳-20 2 号墳-22 2 号墳-29 2 号墳-32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳-2 3 号墳-3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳-33 2 号墳-34 3 号墳-1a 3 号墳-4 側面 3 号墳-4 側面 3 号墳-4 側面 3 号墳-5 3 号墳-6 3 号墳-6 3 号墳-7 3 号墳-10 3 号墳-15 内面 3 号墳-15 底面 3 号墳-15 底面 3 号墳-15 底面	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-7 8号墳-11 8号墳-11 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-5 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-8 9号墳-8 9号墳-11 磯岡北古墳群 土師器・須惠器 9号墳-14 9号墳-14 9号墳-15 9号墳-17 9号墳-18 9号墳-18
	2 号墳-19 2 号墳-20 2 号墳-22 2 号墳-29 2 号墳-32 磯岡北古墳群 須恵器 3 号墳-2 3 号墳-3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須恵器・埴輪 2 号墳-33 2 号墳-34 3 号墳-1a 3 号墳-4 3 号墳-4 3 号墳-4 3 号墳-5 3 号墳-6 3 号墳-8 3 号墳-9 3 号墳-15 3 号墳-15 3 号墳-15 3 号墳-15 3 号墳-15 3 号墳-16	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-14 8号墳-15 8号墳-15 8号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-5 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-7 9号墳-8 9号墳-11 磯岡北古墳群 土師器・須惠器 9号墳-14 9号墳-14 9号墳-15 9号墳-15 9号墳-17 9号墳-18 9号墳-20 9号墳-22
	2 号墳-19 2 号墳-20 2 号墳-22 2 号墳-29 2 号墳-32 磯岡北古墳群 須惠器 3 号墳-3 3 号墳-3 3 上半部 磯岡北古墳群 土師器・須惠器・埴輪 2 号墳-33 2 号墳-34 3 号墳-1a 3 号墳-4 側面 3 号墳-4 側面 3 号墳-5 3 号墳-6 3 号墳-6 3 号墳-9 3 号墳-15 3 号墳-15 3 号墳-15 3 号墳-15 3 号墳-15 3 号墳-15 3 号墳-16 3 号墳-16 3 号墳-24	図版七六	8号墳-4 8号墳-5 8号墳-7 8号墳-9 8号墳-11 8号墳-11 8号墳-15 8号墳-16 9号墳-2 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-3 9号墳-5 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-6 9号墳-7 9号墳-8 9号墳-11 磯岡北古墳群 土師器・須惠器 9号墳-14 9号墳-14 9号墳-15 9号墳-17 9号墳-17 9号墳-17 9号墳-18 9号墳-20 9号墳-22 9号墳-22

SX - 16 - 1図版七七 磯岡北古墳群 1号埴輪棺 1号埴輪棺-1 1995年度確認調査区 1号埴輪棺-1 文様の反対面 1号埴輪棺-1 刻線文様 図版七八 磯岡北古墳群 1号埴輪棺 1号埴輪棺-2 半円形透孔の面 1号埴輪棺-2 円形透孔の面 1 号埴輪棺-3 1号埴輪棺-3 口縁部上端面の刻み 図版七九 磯岡北古墳群 1号埴輪棺 1号埴輪棺-4 1号埴輪棺-4 1号埴輪棺-4 刻線文様 図版八〇 磯岡北2号墳 鉄製品 磯岡北2号墳 鉾・剣・刀 鉾の袋部(側面・正面)2号墳-36 剣の茎部 (2号墳-40) 図版八一 磯岡北2号墳 鉄製品 X線写真 2号墳 鉄剣 2号墳 鉾•刀剣 図版八二 磯岡北2号墳 鉄製品 磯岡北2号墳 鉄鏃・轡・鉄斧・刀子・棒状鉄製品・ 板状鉄製品 同上 X線写真 図版八三 磯岡北3号墳 鉄製品 3号墳 鉄刀 3号墳 鉄鏃・鉤状鉄製品 3号墳 鉄鏃(35は鉄刀の破片) 図版八四 磯岡北3号墳 鉄製品 X線写真 3号墳 鉄刀 3号墳 鉄鏃・鉤状鉄製品 3号墳 鉄鏃(35は鉄刀の破片) 図版八五 磯岡北3号墳 鉄製品・鏡 3号墳 鉄刀の茎部およびX線写真 3号墳 鏡 X線写真 図版八六 磯岡北3号墳 鏡 3号墳 鏡 図版八七 磯岡北古墳群 金属製品 2号墳 古墳時代以降の遺物 4号墳 刀子 8号墳 責金具? 9号墳 鎌・刀子・鏃・不明鉄製品 2·4·8·9号墳出土金属製品 X線写真 SG12区 SZ-22 鉄鐸・鏃 SG12区 SZ-22 鉄鐸・鏃 X線写真 図版八八 SG17 区 古墳時代の竪穴建物跡 土師器・石製品 SI - 11 - 1SI - 11 - 2SI - 11 - 4SI - 11 - 5SI - 11 - 7SI - 11 - 10SI-11-11 内面 SI - 11 - 11SI - 11 - 15SI - 11 - 17SI - 11 - 19

> SI - 11 - 20 SI - 11 - 21SI - 11 - 24

9号墳旧表十一6

図版八九 SG12 区・SG17 区 中世遺物 SG18 区出土遺物

 $SG12 \boxtimes SD - 26A - 1$ 

SG12 区·SG17 区 中世遺構外遺物 1

中世遺構外遺物 2 中世遺構外遺物 3 中世遺構外遺物 4 中世遺構外遺物 5 中世遺構外遺物 6 中世遺構外遺物 7

中世遺構外遺物 8 (内面)(外面) SG18 区遺構外出土縄文土器

SG18 ⊠ SD - 29 - 1

## 磯岡北遺跡 遺構一覧・検索表 (SG12 区、SG16 ~ SG18 区、確認調査区)

## 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区および 1995 年度確認調査区

	調査区	グリッド	重複関係	時期	旧名称	その他	掲載ページ
SX-42	SG12 ⊠ • SG17 ⊠	71-29 • 30	P-1 ~ P-6 の周辺	阿玉台式期	SG17 区縄文時代包 含層	SG17区 SI-15 のすぐ南	56 ∼ 58
细七吐什	市拥の取売を見続						
神 义 时 八	中期の竪穴住居跡 調査区	グリッド	形状	規模(m)	時期	柱穴	掲載ページ
SI-15	SG17 ⊠	71-31	やや不整な楕円形	東西 4.3 ×南北 5.3	阿玉台式期	15本	58 ~ 60
縄文時代	の柱穴状土坑						
/HEXTINITY	調査区	グリッド	形状	重複関係	規模(cm)	旧名称	掲載ページ
P-1	SG17 ⊠	71-30	楕円形	SX-42 と重複	29 × 31	SG17 ⊠ SX-15	61 ~ 62
P-2	SG17 区	71-30	楕円形	SX-43 と重複	33	SG17 ⊠ SX-15	$61 \sim 62$
P-3	SG17 ⊠	71-30	楕円形	SX-44 と重複	24 × 37	SG17 ⊠ SX-15	61 ~ 62
P-4	SG17 区	71-30	楕円形	SX-45 と重複	20 × 27	SG17 ⊠ SX-15	$61 \sim 62$
P-5	SG17 区	71-30	楕円形	SX-46 と重複	$38 \times 53$	SG17 ⊠ SX-15	$61 \sim 62$
P-6	SG17 ⊠	71-30	楕円形	SX-47 と重複	32 × 36	SG17 ⊠ SX-15	61 ~ 62
縄文時代	の土坑						
	調査区	グリッド	形状	重複関係	規模(cm)	深さ (cm)	掲載ページ
SK-39	SG12 ⊠	70-30	楕円形	5号墳より古	80 × 117	58	62 ~ 63
SK-23	SG17 ⊠	72-31	長楕円形	2号墳より古	108 × 46	26	63
縄文時代	の陥穴状土坑						
	調査区	グリッド	形状	重複関係	規模(cm)	深さ (cm)	掲載ページ
SK-44	SG12 ⊠	70-30	楕円形	3号墳より古	278 × 234	110	63 ~ 64
古墳							
	調査区	重複関係	形状	規模(m)	埋葬施設	副葬品	掲載ページ
1 号墳	SG12 ⊠ • SG17 ⊠		円墳	南北 12.6×東西 13.2	消滅		$65 \sim 74$
2号墳	SG17 ⊠	SK-23(縄文)より新 SD-26A(中世)より古 SD-18より古	円墳	南北 18.0 ×東西 18.4	副葬品と土層が残存、 周溝内土坑 1	鉾1・刀2・剣2・ 鏃18片・轡1・斧1・ 刀子3・不明鉄製品2	75 ~ 92
3号墳	SG12 ⊠	SK-44(縄文)より新 SD-26A(中世)より古	円墳	南北 19.8×東西 21.4	木棺直葬	鉄刀 3・鉄鏃 18・ガラ ス小玉 69・珠文鏡 1	92 ~ 112
4号墳	SG12 ⊠ • SG17 ⊠	0D 201(   E ) 00 7 E	円墳	南北 9.2 ×東西 9.6	消滅(周溝内に鉄製 品あり)	刀子1(周溝内出土)	113 ~ 117
5号墳	SG12 ☑ • SG17 ☑	SK-39(縄文)より新	円墳	南北 8.5 ×東西 9.1	消滅		118 ~ 124
6号墳	SG12 ⋈ · SG17 ⋈	011 00 (1252) 013 1/1	円墳	南北 5.7 ×東西 6.0	消滅		124 ~ 126
7号墳	1995 年度確認調査区		円墳	推定 7	不明		126 ~ 128
8号墳	SG17 区		円墳	南北 15.8×東西 16.2	消滅(周溝内に鉄製 品あり)	不明鉄製品(責金具?) 2(周溝内出土)	128 ~ 136
9号墳	SG17 区		円墳	南北 15.2 ×東西 15.6		低石2?・鎌1・刀子2・ 鉄鏃1・不明鉄製品1(周 溝内出土)	137 ~ 148
十连吐化	古田の	F					
白垻吋八	中期の遺物集中地点	<u> </u>	グリッド	重複関係	規模(m)	その他	掲載ページ
1号墳南側遊	遺物集中地点 (SX-14)	SG17 区	72-31		南北 5 ×東西 14	1 号墳と関連か	69 ∼ 70 ·
SX-16		SG17 ⊠	$71.5-30.0 \sim 30.5$		南北5×東西7	2~4号墳と関連か	$74 \sim 75$ $149 \sim 151$
1-1-4-4-1-1							
埴輪棺	調杏豆	ガリッド	担横 (cm)	遊さ (cm)	則恭品	その他	掲載ページ
埴輪棺 1号埴輪棺	調査区 1995 年度確認調査区	グリッド 66-30	規模(cm) 南北 127 ×東西 71	深さ (cm) 23	副葬品なし	その他 9号墳と市調査B区1	掲載ページ 151 ~ 157
						<u> </u>	
	1995 年度確認調查区	66-30			なし	9号墳と市調査B区1	151 ~ 157
1号埴輪棺 竪穴式小	1995年度確認調査区 石室 調査区	66-30 グリッド	南北 127 ×東西 71 規模(cm)	23 深さ (cm)	なし	9号墳と市調査B区1 号墳の中間 その他	151 ~ 157 掲載ページ
1号埴輪棺	1995 年度確認調査区 石室	66-30	南北 127 ×東西 71	23	なし	9 号墳と市調査 B 区 1 号墳の中間	151 ~ 157
1号埴輪棺 竪穴式小	1995年度確認調査区 石室 調査区	66-30 グリッド	南北 127×東西 71 規模(cm) 南北 66×東西 18~21	23 深さ (cm)	なし	9号墳と市調査B区1 号墳の中間 その他	151 ~ 157 掲載ページ 158 ~ 160
1号埴輪棺 竪穴式小 1号石室 土壙墓	1995年度確認調查区 石室 調査区 SG12区 調査区	66-30 グリッド 71-29 グリッド	南北 127×東西 71 規模(cm) 南北 66×東西 18 ~ 21 規模(cm)	23 深さ (cm) 13~17 深さ (cm)	なし 副葬品 なし 副葬品	9 号墳と市調査 B 区 1 号墳の中間 その他 3 号墳のすぐ北西 その他	151 ~ 157 掲載ページ 158 ~ 160 掲載ページ
1 号埴輪棺 竪穴式小 1 号石室 土壙墓 SZ-17	1995 年度確認調查区 石室 調查区 SG12 区 調查区 SG17 区	グリッド 71-29 グリッド 71-30	南北 127×東西 71 規模(cm) 南北 66×東西 18 ~ 21 規模(cm) 南北 270×東西 160	23 深さ (cm) 13~17 深さ (cm) 47	なし 副葬品 なし 副葬品 なし	9 号墳と市調査B区 1 号墳の中間 その他 3号墳のすぐ北西 その他 2・3号墳の西側	掲載ページ 掲載ページ 158 ~ 160 掲載ページ 160 ~ 161
1号埴輪棺 竪穴式小 1号石室 土壙墓 SZ-17 SZ-21	1995年度確認調查区 石室 調查区 SG12区 調查区 SG17区 SG17区	グリッド 71-29 グリッド 71-30 66-32	南北 127×東西 71 規模 (cm) 南北 66×東西 18 ~ 21 規模 (cm) 南北 270×東西 160 南北 228×東西 125	深さ (cm) 13~17 深さ (cm) 47 30	なし 副素品 なし 副素品 なし なし	9 号墳と市調査B区 1 号墳の中間 その他 3 号墳のすぐ北西 その他 2・3 号墳の西側 9 号墳の南東	掲載ページ 158 ~ 160 掲載ページ 160 ~ 161 161 ~ 162
1 号埴輪棺 竪穴式小 1 号石室 土壙墓 SZ-17	1995 年度確認調查区 石室 調查区 SG12 区 調查区 SG17 区	グリッド 71-29 グリッド 71-30	南北 127×東西 71 規模(cm) 南北 66×東西 18 ~ 21 規模(cm) 南北 270×東西 160	23 深さ (cm) 13~17 深さ (cm) 47	なし 副葬品 なし 副葬品 なし	9 号墳と市調査B区 1 号墳の中間 その他 3号墳のすぐ北西 その他 2・3号墳の西側	掲載ページ 掲載ページ 158 ~ 160 掲載ページ 160 ~ 161

古墳時代の竪穴建物跡	古墳時	その竪	<b>穴建物跡</b>
------------	-----	-----	-------------

	7五八年初期	2211 19	Am Life	<b>毛佐朋友</b>		4040	48.40.0
	調査区	グリッド	規模	重複関係	主柱穴	付属施設	掲載ペーシ
I-11	SG17 区南部	67-31	南北 5.0 ×東西 5.1	SK-19 より新	4本	炉1 (北)・貯蔵穴	167 ~ 17
ち墳時代の	の土坑						
	調査区	グリッド	形状	規模(cm)	深さ (cm)	その他	掲載ページ
K-22	SG17 ⊠	66-32	正円形	100 × 106	25	いわゆる円筒形土坑	173
も出っ海り	<b>(た) 事</b> (事						
中世の溝	八旦  梅  調査区	グリッド	重複関係	幅 (cm)	深さ (cm)	その他	掲載ページ
SD-26 A	SG12 ⋈ • SG17 ⋈	69-29 · 30、71-30、72-31 · 32、73-31、74-31	2号墳・3号墳より新	120~190	14 ~ 85	SG12区SD-29と連続?、 SG12区SD-26 Bと連結	175 ~ 17
SD-26 B	SG12区	73-29 · 30 · 31、 73.5-31	SK-27 より新	48 ~ 200	16 ~ 36	SG12区SD-26 Aと連結、SG17区SD-18と連結?	176 ~ 17
SD-29	SG12 ⊠	74-32		52 ~ 106	47 ~ 52	型稿: SG12区SD-26 Aと連続?、SG16・18区 SD-29と連続	179 ~ 18
時期不明。	の溝状遺構						
1 /4	調査区	グリッド	重複関係	幅 (cm)	深さ (cm)	その他	掲載ページ
SD-18	SG17区	73-30	2号墳より新	60 ~ 81	20 ~ 27	SG12区SD-26 Bと連結?	182 ~ 18
						76G (	
時期不明の				er them be	I militar ( )	Note that the same of the same	ITI-MD 0 .
	調査区	グリッド	形状	重複関係	規模(cm)	深さ (cm)	掲載ページ
SK-27	SG12 ⊠	70-30	楕円形	SD-26 Bより古	210 × 40 ~ 60	2~6	183 ~ 18
SK-30	SG12 ⊠	73-32	瓢箪形		$44 \sim 43 \times 92$	17	183 ~ 18
SK-40	SG12 ⊠	70-30	正円形		40 × 42	4	183 ~ 18
SK-41	SG12 区	72-29	不整円形		134 × 130	19	183 ~ 18
SK-43	SG12 ⊠	73-31	正円形		$40 \times 40$	9	183 ~ 18
SK-10	SG17区	70-31	長方形		142 × 83	24	184 ~ 18
SK-12 A	SG17区	69-31	不整円形	SK-12 Bより古	100 × 92	25	$184 \sim 18$
SK-12 B	SG17 ⊠	69-31	不整円形	SK-12 Aより新	$98 \times 72$	6	$184 \sim 18$
SK-19	SG17 区	67-31	長方形	SI-11 より古	172 × 88	52	184 ~ 18
時期不明の	の柱穴状土坑						
*****	調査区	グリッド	形状	重複関係	規模(cm)	深さ (cm)	掲載ペーシ
SK-24	SG12区	70-29	正円形		29 × 24	36	186
SK-28	SG12 ⊠	73-29	不整円形		29 × 31	11	186 ~ 18
SK-31	SG12 ⊠	73-32	正円形		26 × 29	18	186 ~ 18
	SG12 ⊠	73-31	楕円形		40 × 36	24	186 ~ 18
SK-32	SG12 区	70-29	正円形		18 ~ 19 × 18 ~ 19	14	186 ~ 18
SK-32 SK-33	3012 22				21 × 21	20	186 ~ 18
	SG12 ⊠	70-29	正円形		$21 \times 21$	28	100 10

	グリッド	形状	重複関係	規模(cm)	深さ (cm)	掲載ページ
SK-20	73-34	長楕円形	SD29 より古	216 × 103	38	188
古墳時代の溝状遺構						
	グリッド	重複関係	幅 (cm)	深さ (cm)	その他	掲載ページ
SD-2	73-36 • 37、74-36	SD29 より古	68 ∼ 122	16		190 ~ 192
中世の溝状遺構						
	グリッド	重複関係	幅 (cm)	深さ (cm)	その他	掲載ページ
SD-3	73-36 • 37	SK-11 より古	106 ~ 332	30 ∼ 49	SD-29 に連結	$192 \sim 194$
SD-29	73-34 ~ 38、74-34	SD-2・6・7 より新	130 ~ 170	54 ~ 120	SG12・18区 SD-29と 連続、SG12区 SD-26A に連続?、SG16区 SD -3と連結	192 ~ 195
中世の土坑						
	グリッド	形状	規模(cm)	深さ (cm)	その他	掲載ページ
SK-12	73-36	円形	$38 \times 30$	40	SD-29 に伴う	195
SK-13	73-36	円形	$29 \times 32$	40	SD-29 に伴う	195

	グリッド	重複関係	幅 (cm)	深さ (cm)	その他	掲載ページ
SD-6	73-37	SD-29 より古	76 ~ 120	$12 \sim 30$		196
SD-7	72-37、73-37	SD-29 より古	$50 \sim 82$	$12\sim28$		$196\sim197$
SD-9	73-38	SD-29 より新	89	$40 \sim 50$		$197\sim198$
SD-10	73-38	SD-29 より古	160 ~ 198	13		197 ~ 199
SD-14	74-36 · 37		$188 \sim 274$	48		$199 \sim 200$

## 時期不明の土坑

	グリッド	形状	重複関係	規模(cm)	深さ (cm)	掲載ページ
SK-11	73-37	正円形		$32 \times 35$	40	$200 \sim 201$
SK-15	74-37	楕円形		$78 \times 61$	14	$200\sim201$
SK-16	74-37	正円形		$80 \times 86$	19	$200 \sim 201$
SK-17	74-37	正円形		$36 \times 38$	10	$200 \sim 201$
SK-18	74-36	円形		72 × 66	22 ~ 15	$200 \sim 201$
SK-19	73-36	楕円形		$33 \times 28$	17	$200\sim201$
SK-21	73-35	円形		$50 \times 52$	8	$200\sim201$
SK-22	74-36	方形?		85 以上× 94 以上	42	$201\sim202$

## 磯岡北遺跡 SG18 区

## 中世の溝状遺構

	グリッド	重複関係	幅 (cm)	深さ (cm)	その他	掲載ページ
SD-29	74-32 • 33 • 34	SK-6 より古	83 ~ 138	43 ~ 46	SG12・16区 SD-29 に連続、SG12区 SD-26 Aに連続?	203 ~ 206
時期不明の溝状遺構						
	グリッド	重複関係	幅 (cm)	深さ (cm)	その他	掲載ページ
SD-1	74-32 • 33		200以上?	56		$206 \sim 207$
SD-3	73-34、74-34		$32 \sim 40$	$19 \sim 28$	SD-4 と平行	$207 \sim 208$
SD-4	73-33		$27 \sim 43$	$9 \sim 17$	SD-3 と平行	208 ~ 209

#### 時期不明の土坑

1017917 1 19/10フエルル						
	グリッド	形状	重複関係	規模(cm)	深さ (cm)	掲載ページ
SK-6	74-34	正円形	SD-29 より新	30 × 36	27	209

#### 2005 年度確認調査区

	グリッド	形状	規模(m)	その他	時期	掲載ページ
方形竪穴遺構 (1基)	66-36	長方形	東西 2.0 ×南北 2.5	焼土あり	中世?	6 • 26 • 29
溝状遺構(2条)	66-36 ~ 72-37		幅 1.0 ~ 1.5	2条が重複か	不明	6 • 29

## 例 言

- 1. 本書は、独立行政法人都市再生機構による東谷・中島土地区画整理事業に伴い発掘調査が実施された東谷・中島地区遺跡群の内、宇都宮市砂田町字笹塚に所在する磯岡北遺跡 SG12 区・SG16 区・SG17 区・SG18 区の発掘調査報告書である。本報告では、磯岡北遺跡北端部の古墳群が所在する範囲を中心として取り扱うため、総称を「磯岡北古墳群」とする。磯岡北遺跡の中央部~南部の報告は、既刊の『東谷・中島地区遺跡群 3 推定東山道関連地区』に掲載している。
- 2. 発掘調査は、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもと、財団法人とちぎ生涯学習文化財団が独立 行政法人都市再生機構と受託契約を締結し、埋蔵文化財センターが実施している。計画地内の発掘調査 は平成6年度から開始され、現在も継続して実施している。本報告書の遺跡については、平成7 (1995) 年度と平成17 (2005) 年度に確認調査、平成12 (2000) 年度に SG12 区と SG16 区、平成13 (2001) 年度に SG17 区、平成14 (2002) 年度に SG18 区の本調査を実施した。また、平成16~17 年度に整 理作業、平成18 年度に報告書作成を実施した。
- 3. 東谷・中島地区遺跡群の発掘調査は以下の担当者により実施した。

平成6年度 菅谷豊、塚本師也、塚原孝一

掘補助員) 佐藤 斉、田崎真理

平成7年度 中山晋、稲木 実、関口正明、増山孝之、山本訓志、塚原孝一、安永真一、藤田直也平成8年度 中山晋、稲木 実、増山孝之、山本訓志、塚原孝一、石川幸弘、藤田直也平成9年度 初山孝行、小島昭寿、増山孝之、山本訓志、塚原孝一、石川幸弘、高野瑞枝、藤田直也平成10年度 初山孝行、松本 敏、名越侍郎、岡部正晴、小島昭寿、増山孝之、山本訓志、中村享史、塚原孝一、内山敏行、石川幸弘、高野瑞枝、柿沼利幸、藤田直也、大島美智子、田中裕子平成11年度 田代隆、松本敏、名越侍郎、岡部正晴、小島昭寿、後藤信祐、中村享史、塚原孝一、内山敏行、高野瑞枝、柿沼利幸、上原康子、藤田直也、大島美智子、田中裕子、(発掘補助員)佐藤 斉平成12年度 田代隆、名越侍郎、江頭進、中村享史、内山敏行、上原康子、藤田直也、矢野里織、(発

平成 13 年度 田代 隆、江頭 進、中村享史、内山敏行、谷中 隆、江原 英、藤田直也、矢野里織、(発掘補助員) 田崎真理

平成 14 年度 田代 隆、江頭 進、馬場秀典、中村享史、内山敏行、谷中 隆、藤田直也、矢野里織、(発掘補助員) 田崎真理

平成 15 年度 田代 隆、小出功一、馬場秀典、中村享史、内山敏行、谷中 隆、今平昌子、塚田浩久、(発掘補助員) 田崎真理

平成 16 年度 田代 隆、津野 仁、小出功一、馬場秀典、内山敏行、谷中 隆、今平昌子、(発掘補助員) 田崎真理

平成 17 年度 田代 隆、津野 仁、小出功一、馬場秀典、内山敏行、谷中 隆、今平昌子、(発掘補助員) 田村雅樹

平成 18 年度 田代 隆、津野 仁、篠原浩恵、内山敏行、谷中 隆、中山真理、(発掘補助員) 津野田陽介

4. 磯岡北遺跡の発掘調査は以下の担当者により実施した。

平成7年度確認調査 中山 晋・稲木 実・安永真一・藤田直也

平成 12 年度(SG12 区・SG16 区) 内山敏行・矢野里織・(発掘補助員) 佐藤 斉平成 13 年度(SG17 区) 中村享史・江原 英・矢野里織・(発掘補助員) 田崎真理平成 14 年度(SG18 区) 馬場秀典・矢野里織 平成 17 年度確認調査 田代 隆・小出功一

- 5. 本文の執筆と編集は内山敏行が行った。第1章第1・2節と第2章第1節は、既刊の報告書6冊(『東谷・中島地区遺跡群』1~6)の記述をもとに、磯岡北遺跡にかかわる部分等を加除修正した。
- 6. 基準点測量・航空写真撮影・航空写真測量と全体図・古墳測量図のデジタルトレースを中央航業株式会 社、遺物図のデジタルトレースを株式会社セビアスに委託した。
- 7. 遺構写真は各調査担当者が、遺物写真は内山が撮影した。遺物のX線写真は車塚哲久、航空写真は中央 航業株式会社が撮影した。
- 8. 発掘調査から報告書作成に至るまで、次の諸機関及び諸氏に御協力、御指導を頂いた。記して謝意を表したい。

都市再生機構栃木開発事務所、宇都宮市教育委員会、上三川町教育委員会、

秋元陽光・洪潽植・金斗喆・車崎正彦・水沼良浩・森嶋秀一・大関利之(アルファベット順、敬称略)

- 9. 本遺跡は既に、栃木県教育委員会『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』19 平成7年度(1995)~『同年報』26 平成14年度(2002)、『埋蔵文化財センター年報』第6号(平成8年度)~第13号(平成15年度版)、宇都宮市教育委員会文化課『宇都宮市文化財年報』第12号〔平成7年度〕~第19号〔平成14年度〕で一部概要が公表されているが、本書をもって正報告とする。
- 10. 本報告書名は遺跡名ではなく、業務名である。
- 11. 本遺跡の出土遺物、実測図及び写真等は財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターが保管している。
- 12. 発掘調査(確認調査・本調査)には次の方々の御協力を得た。

会沢嘉明、青木良人、青柳 茂、阿久津正代子、阿久津フミ、阿久津昌子、鮎澤賢三、新井みや子、荒 井光美、飯田国松、石井けい子、石川晶子、石川東司、石川てる子、石崎富美子、石崎幸子、石塚洋太郎、 石渡ヨシイ、磯崎恵子、石濱ふみ子、伊東祐子、稲垣 節、稲川洋子、稲葉るみ子、猪瀬岩夫、今井光 子、入江キイ、入江文子、入江タカ子、入江 徹、入江つや子、入江通子、岩本文子、上野久子、臼井 ツヤ、榎本健夫、大垣カツ、大垣一子、太田勝雄、太田リエ子、大塚スガ、大塚三代子、大塚サダ、岡 田紀子、岡田イセ、岡田 満、小澤一雄、尾島サキ、片山重子、加藤マツエ、川島利子、川島 昭、川 畑忠久、木村昭絵、工藤英子、黒川法子、毛塚雪子、郷間和子、小島清子、小高真理子、小林マス、小 林ミツエ、斉藤みつ、斎藤幸子、斎藤近由、坂井原弓子、坂入廣子、坂入厚子、坂本キミ子、笹崎剛夫、 佐藤武尚、佐藤ヨシ、佐藤つや子、佐藤ミサ子、下谷文男、篠原信子、柴タミ子、清水タネ、椎貝フヂエ、 椎貝祥子、白井チセ子、杉山 巧、鈴木恒正、鈴木ヨシ子、高木ハマ、高嶋絹子、高嶋勝征、高嶋典子、 高嶋ミヨ子、高嶋キヨノ、高島秀子、高嶋一平、高田滋子、高野ヨシ子、高橋平次、高橋松男、高橋洋子、 高秀ハツエ、高松美和子、高松米子、高山シツ江、田崎真理、田崎照明、田崎信夫、田仲静男、田仲ヤス、 田仲コト、田中征子、対馬順子、鶴見世及、寺内千代子、寺内、尉、寺内キヌ、寺内ミツエ、寺内キイ、 寺内千代子、豊田孝子、直井房一、直井清之、中山伸子、野口忠士郎、野口コウ、野崎久美子、野澤 守、野沢トミ、野沢トシ、野沢伸嘉、野澤 充、野沢トシ、橋本フヂ、畠山 弘、馬場キワ、林 孝行、 伴 三千子、平井克美、平井待子、平石キヨノ、広田愛子、深澤光一、福田ツヤ、福田林蔵、福田純子、

藤原美枝、古谷安司、細野重信、本田 衛、本牧キン、増淵キミ、増淵皓三、増淵三男、増淵フミ、増 淵正弘、増山晃広、真分フキ、宮本スミエ、宮本俊明、宮本恒雄、室井キン、茂垣 栄、杢保美枝、望 月シズイ、百瀬洋子、森田幸江、谷田部キヨ子、柳田加子、柳田悦子、梁嶋ヨシ、山崎洋子、山崎千代子、 吉沢千代、吉田みつえ、渡辺洋子、渡辺四郎、渡辺フミ。

13. 整理・報告書作成作業には次の方々の御協力を得た。

阿佐美喜代美、石田静枝、上野和美、臼田洋子、鵜沼真理子、岡田紀子、高野久美子、田宮みどり、野 口真紀江、本多佳子、松尾照子、村上啓子。

14. 遺跡・遺構・遺物の記載方針は下記のとおりである。

#### 〔遺跡〕

遺跡略号 略号は UT - SG であり、各地区は UT - SG - XII(宇都宮市- 磯岡北遺跡 SG12 区)、UT - SG - XVI(同 SG16 区)、UT - SG - XVII(同 SG17 区)、UT - SG - 18(同 SG18 区)と表記する。また、東谷・中島地区の確認調査を実施した部分の略号は UT - TN である。

発掘調査時には「杉村遺跡」の XII・XVI・XVII・18 区とそれぞれ呼称していたが、遺跡の名称と境界が変更された。新旧の地区名称を対照するため、「杉村遺跡」の略号である "SG" を地区番号に冠して、SG12・SG16・SG17・SG18 区と表示する。またローマ数字(I・II・III) はアラビア数字に変更した。

公共座標 各調査区の全体図には、国土調査法による平面直角座標第 IX 系の座標値を記入した。日本測地系による座標値の他に、2002 年 4 月から使用されている世界測地系の座標値もあわせて表示した。緯度・経度の表示は世界測地系による。

#### 〔遺構〕

遺構名 略号は、竪穴建物跡をSI、古墳・土壙墓をSZ、溝状遺構をSD、土坑をSK、その他(遺物集中地点)をSXとした。SG17区では、柱穴状土坑をPとした。掲載した各遺構の略号と番号は、原則として現地調査時のものを使用している。ただし、以下のものについては現地名称から変更・統一を行った。

- 1995年度試掘調査S-1 → 「1号埴輪棺」
- SG12 区 SZ 21 → 「1号石室」
- ・SG12  $\boxtimes$  SD 26A・37・38  $\trianglerighteq$  SG17  $\boxtimes$  SD 13  $\rightarrow$  連続する同一の溝であるため、「SD 26A」 $\trianglerighteq$  として名称を統一
- ・SG12  $\boxtimes$  SD 29  $\trianglerighteq$  SG16  $\boxtimes$  SD 1・4  $\trianglerighteq$  SG18  $\boxtimes$  SD 2  $\rightarrow$  連続する同一の溝であるため、「SD 29」 $\trianglerighteq$  して名称を統一

**縮尺** 遺構図の縮尺は、縄文時代の竪穴建物跡を 1/40、古墳時代の竪穴建物跡を 1/60、古墳を 1/80 または 1/160、土壙墓を 1/40 または 1/20、周溝内土坑を 1/80、竪穴式小石室を 1/20、遺物集中地点を 1/60 または 1/80 で示した。土坑は原則として 1/40 で、一部に例外があり、柱穴状土坑は 1/20、陥穴状土坑は 1/80 である。その他の遺構は、それぞれの図中にスケールで示した。

方位 図示した方位は、小縮尺の地形図(第4図)が真北、他の図は座標北(平面直角座標第IX系のX軸方向)である。遺構の主軸方位は座標北に対する振れを示す。竪穴建物跡の主軸方位は、縦横2軸のうち、入口施設を通る方の軸で示し、入口が不明の場合は長軸方向で示した。

標高 断面図基準線の値は海抜標高で、水糸記号または縮尺の脇に示した。

#### 〔遺物〕

計測値 「口」・「頸」・「底」はそれぞれの径、「復」は復元値、「残」は残存値、「推」は推定値を表す。

**縮尺** 遺物図の縮尺は、次のとおりである。土師器・須恵器・埴輪・中近世土器と大形の石製品(編物石・台石・砥石など)が 1/4、須恵器大甕が 1/6、土製品・焼粘土塊・小形の石製品(石製模造品・紡錘車など)が 1/2。鉄製品は斧・剣・鉾が 1/3、刀が 1/3 または 1/4、その他は 1/2。青銅鏡と玉類は 1/1 である。縄文土器は 1/3 で、石器類は、石皿を 1/4、打製石斧・礫器・スタンプ形石器・磨石を 1/3、軽石片と磨製石斧を 1/2、石鏃と有舌尖頭器を 1/1 とした。これらは原則であり、例外もある。

破片の拓影図 縄文・弥生土器では外面一断面または外面一内面一断面、それ以外の須恵器などは内面一断面一外面の順序で配置した。

器質 須恵器は断面を黒塗り、その他の遺物は白抜きにして示した。

**器面調整と施釉** 古墳時代以降の土器は、ナデの範囲を破線、ケズリの範囲を実線、ケズリ方向を矢印、 漆仕上げと施釉の範囲を一点鎖線で示した。

**色調** 農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1967『新版 標準土色帖』の17版(1996)により表示する。 土器・土製品は焼成当時の色調に近い部分で観察し、黒斑や二次的なスス・オコゲ・被熱変色・塗彩は別の 特徴として扱う。

胎土 混和材の多少を基準に、「粗い/やや粗い/やや緻密/緻密」とする。

- ・混和材が鉱物・岩石の場合:長径 0.5mm 未満は「細砂」、 $0.5 \sim 2.0$ mm は「砂」、2.0mm 以上は「礫」とする。ただし、雲母の場合は「細片」・「片」・「粗片」とする。
- ・混和材が鉱物・岩石以外の場合:長径 0.5mm 未満は「細粒」、0.5  $\sim$  2.0mm は「粒」、2.0mm 以上は「粗粒」とする。
- ・混和材の色は「灰・白・黒・赤・透明」とする。半透明のものは「透明」に含めた。雲母は「白」または「金色」とする。

焼成 「硬質/やや硬質/やや軟質/軟質」とする。特別に示す必要がある場合は「良好」などと記す。 遺物の出土数 遺構ごとに出土遺物数を一覧表で示した。

- ・器質(土師器・須恵器など)と器種ごとに、口縁部計測法による残存周の合計値を示した(宇野 1981・1982)。円周半径は 5mm 単位、放射線は 30°単位(1/12 周)で読み取った。正確な口径を算出できない小破片は、その器種の一般的な推定口径円周上に並べて計量した(宇野 1992, p.226)。
- ・また、口縁部・底部・高杯脚部など、特定部位の接合前破片数を集計した。土器の特徴が最も良く現れる 部位に注目することで、時期が異なる混入遺物を集計から除外できるように努めた。
- ・体部は破片数を数えないで「有」とだけ示した場合が多い。土器の壊れかたによって体部破片数は極めて 大きく変動するし、体部破片は器種判定や異時期の混入品の識別を間違える不安が増えるからである。
- ・底部は、平底・凹底の破片数を集計した。丸底の土器は、底部破片を客観的に抽出して数えることができないので、底部破片数を計数していない。
- ・複数の破片が接合した土器でも、すべて接合前の破片数で示している。その理由は、1)接合作業にかけた時間の長短によって出土遺物数が変動することをさけるためであり、2)例えば口縁部10片が接合した土器1点は、接合しない口縁部1片の10倍の出土量とみなす立場をとるからでもある。
- ・異なる時期の遺物の混入品は集計から除外し、「混入」と明記して一覧表の下の欄で簡単に紹介した。

## 第1章 調査の経緯

#### 第1節 調査に至る経緯

宇都宮テクノポリス計画は、「高度な技術を持つ産業の集積、産・学・官の共同研究と技術交流による頭脳ネットワークの形成、そして自然と都市機能が調和した快適な生活環境づくり」を目標に栃木県が昭和58年7月に栃木新時代創造計画で開発計画を策定し、翌年5月に高度技術工業集積地域開発促進法(テクノポリス法)に基づき通商産業省(当時)の開発計画の承認を受けた。

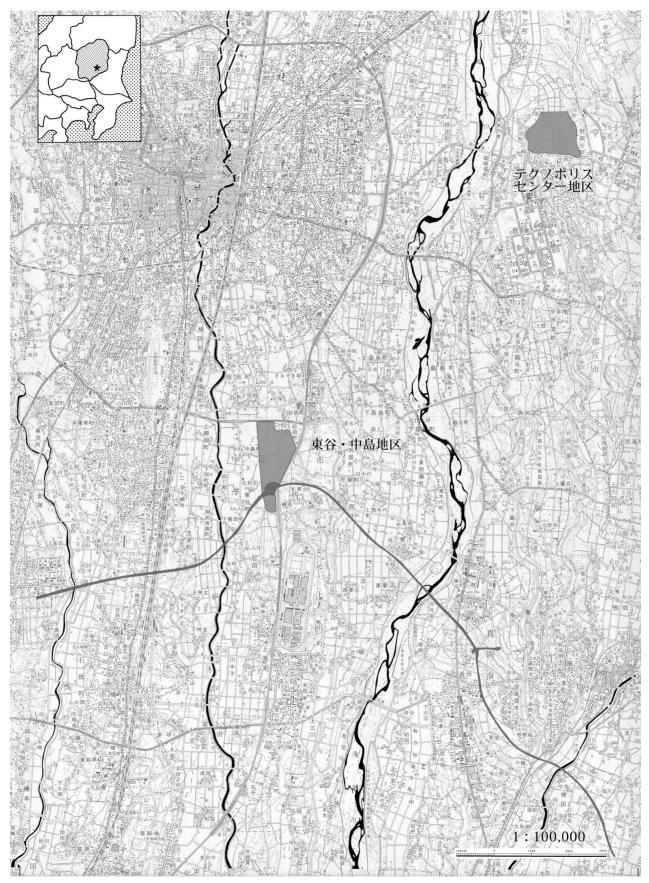
この計画を受け、昭和60年度より県企画部と県教育委員会(以下「県教委」という)は開発区域内遺跡の取り扱いについて協議を開始した。平成元年度には栃木県と宇都宮市が住宅・都市整備公団(以下「公団」という)に開発の要請を行った。公団はこれを了承し、平成2年度より開発区域の用地取得に入った。

公団が事業主体となるテクノポリス計画は、宇都宮テクノポリスセンター土地区画整理事業と東谷・中島土地区画整理事業の2地区である。前者事業区域は、宇都宮市野高野町・刈沼町・板戸町にまたがる地区(以下「センター地区」という)の177.2haに及び、「住宅」を核に県工業技術センター、産業支援施設、商業施設、民間研究施設、小・中学校などを整備したニュータウン計画で、テクノポリスが目指す「産・学・住・遊」の拠点整備をも担う。後者事業区域は、宇都宮市東谷町・中島町・砂田町・平塚町・屋板町・上横田町・西刑部町と上三川町磯岡・西汗にまたがる地区(以下「東谷・中島地区」という)の137.5haに及び、北関東自動車道路や新4号国道などの広域交通網と結び付いた利便性を生かし流通業務施設や先端技術、高度技術産業の研究所・工場などの整備を図ることにある。

平成2年7月には公団から県教委へ事業地区内の埋蔵文化財の有無について照会がなされた。県教委は、東谷・中島地区について「周知されている遺跡6か所と遺跡の可能性がある区域を含め、約90haの確認調査が必要」と回答した。その後、開発と埋蔵文化財調査のスケジュールを調整する協議が継続された。

平成6年8月、埋蔵文化財保護と開発事業の円滑な推進を図るため、県教委・宇都宮市・公団・埋蔵文化財センターの四者が事業区域内の分布調査を実施した。その結果、センター地区では周知の遺跡8か所・面積267,000㎡、試掘が必要な地点7か所・面積95,500㎡、東谷・中島地区では周知の遺跡12か所・面積490,400㎡、試掘が必要な地点8か所・面積340,600㎡であった。この結果を基に発掘調査を開始する協議が行われ、同年9月1日付けで県教委の調整のもと、公団と(財)栃木県文化振興事業団は「東谷・中島土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」の受託契約を締結し、確認調査を開始した。平成7年4月からは、周知の遺跡の本調査と確認調査を継続中である。センター地区については、平成7年9月1日付けで公団と(財)栃木県文化振興事業団が「宇都宮テクノポリスセンター地区埋蔵文化財発掘調査」の受託契約を締結し、確認調査を開始した。翌年からは、調査規模の拡大に伴い宇都宮市が同地区の発掘調査を担当している。

平成8年12月には東谷・中島地区、翌年4月にはセンター地区の区画整理事業が建設大臣の認可を受け、開発事業が開始された。公団・県文化財課・宇都宮市・埋文センターは、年数回の綿密な協議を重ねつつ開発事業計画に沿った発掘調査を行っている。なお、開発事業は平成11年から都市基盤整備公団、平成16年7月からは都市再生機構に継承された。(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センターは外郭団体の統合再編により平成12年度から(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターとして業務を継承している。



第1図 東谷・中島地区位置図(1/10万)

## 第2節 調査の方法

独立行政法人都市再生機構(旧住宅・都市整備公団および都市基盤整備公団)による東谷・中島土地区画 整理事業の事業区域は、東西約 1.0km、南北約 2.5km の 137.5ha に及ぶ。

調査対象地区は、周知の遺跡範囲及び平成6年8月に県教育委員会事務局文化課(現文化財課)が事業予定地を踏査した成果に基づいて決定された。この結果、10地区12遺跡、調査対象面積831,000㎡が把握された。対象面積が膨大なため、これらの遺跡範囲の確定及び調査事業量の把握が急務とされた。よって、住宅・都市整備公団による用地取得の完了した部分より確認調査を実施し、その結果に基づき概ね公団の示す調査優先地区について順次本調査を行った。確認調査の結果によっては遺構外とされる地区もあり、随時本調査地区より除外した。また、平成9年には発掘調査の進展に伴い調査対象地区の見直しを行った。この結果、調査対象地区は確認調査により遺跡外とした地区も含め10地区12遺跡、896,800㎡となった。さらに2002(平成14)年度に面積の見直しがなされ、総面積886,200㎡となった。

#### 確認調查

本調査に先行する確認調査は、遺跡範囲を確定して遺構全体量を把握することを目的とした。調査にあたっては調査対象範囲内にトレンチを設け、概ねローム層上面まで掘削することにより遺構・遺物の有無、また、その遺存状況の把握に努めた。調査対象面積に対するトレンチ総面積は  $5 \sim 10\%$  を目安とした。

グリッド設定 調査対象地区の南西外を原点 (X=0,Y=0) とする局地座標を定めた。原点は、日本測地系による平面直角座標第 IX 系 X=52,800,Y=6,400 (世界測地系では X=53154.1623,Y=6107.0425) の位置である。この座標は調査対象地区全体を覆い、20m 単位に南から北へ  $X=0\sim130$ 、西から東へ  $Y=0\sim60$  と展開する。また、 $20m\times20m$  の一グリッドをその南西隅の座標値で呼ぶ。一グリッド内の細分は小数点以下の座標値を用い、同様の方法で行う。以上のグリッドは、本調査時においても踏襲した。

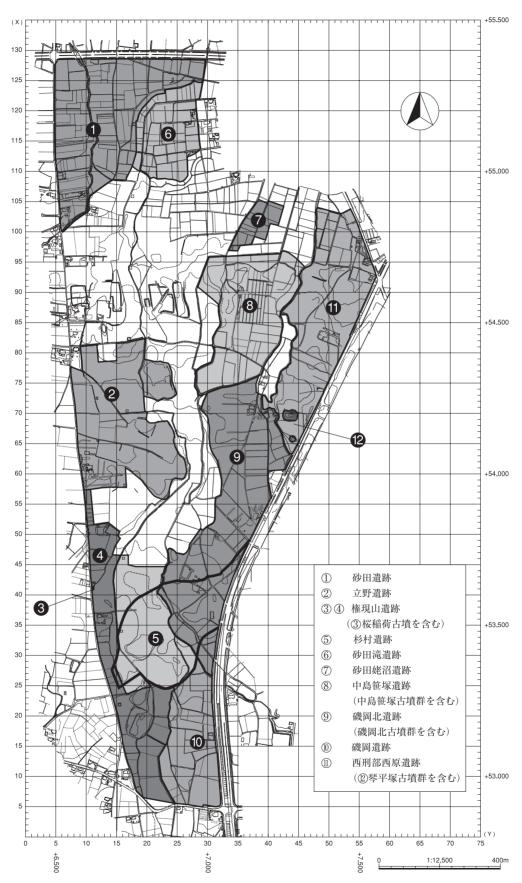
トレンチの設定 トレンチは幅約2 m で、グリッドラインの北側に沿って、20 ないし 40 m に一本の割合 で東西方向に設けることを基本とした。これは、地形が概ね南北に伸びる低地部とその東西の低台地部により形成されていることによる。記号 'TX' に X 軸の座標値を添えてトレンチの名称とし、必要に応じて Y 軸の座標値 ( $Y=0\sim60$ ) を添える。なお、対象地区の微地形の相違等状況の変化によっては柔軟に対応した。

トレンチの発掘 重機を用い、精査の後、図面と写真による記録を行い、遺物を取り上げた。また、必要に応じ、一部遺構の精査、自然科学分析を実施した地区もある。本遺跡では、確認調査時に埴輪棺の精査を 実施した。

#### 本調査

公団の示す地区とその優先順位に従って実施した。これは公団の用地取得状況と工事展開に従ったものである。よって、調査時にはこれを 10 地区 12 遺跡における調査地区とし、遺跡名に算用数字を付して調査地区名とした。2000 (平成 12) 年度までは算用数字ではなくローマ数字 (I, II, II. II.

現地調査は、重機による表土除去、基準杭設定、遺構確認、各遺構精査、航空写真撮影・測量、遺物洗浄、必要に応じ自然科学分析等の手順で概ね実施した。調査方法は担当者間で統一を図り、図面・写真等の等質な記録作成に努めた。表土除去、基準点測量、航空写真撮影・測量等は外部委託して効率化を図った。今回



第2図 東谷·中島地区遺跡群遺跡位置図

報告する磯岡北遺跡の各地区について航空写真を撮影し、調査区の遺構配置と等高線を図化した。また、調 査前地形の航空写真測量を SG12 区と SG17 区で実施した。

第1表 東谷・中島地区遺跡群遺跡一覧表

No.	遺跡名	略号	所在地	面積(m³)	時代・種別	調査前の状況
1	砂田遺跡	UT-SN	宇都宮市砂田町・屋板町 ・中島町他	155,800	縄文時代陥穴、古墳~平安集落、 近世の墓域	田畑等
2	立野遺跡	UT-TT	宇都宮市東谷町立野 宇都宮市中島町小路谷田	122,800	縄文・古墳時代と中世の集落、 弥生時代土坑、奈良時代竪穴建物、 近世の溝	田畑・林
4	権現山遺跡 (③桜稲荷古墳を含む)	UT-GN 他	宇都宮市東谷町権現山 905 他	92,000	古墳時代集落・首長居宅、 平安時代竪穴建物、 奈良・平安時代の推定東山道	畑地等
(5)	杉村遺跡	UT-SG	宇都宮市東谷町杉村 上三川町磯岡	22,000	縄文~古墳時代集落、 奈良・平安時代の推定東山道	田畑・林等
6	砂田滝遺跡	UT-ST	宇都宮市砂田町滝 192-11 他	60,000	古墳・奈良時代の遺物散布地	田畑等
7	砂田姥沼遺跡	UT-SU	宇都宮市砂田町姥沼 155-2 他	16,400	古墳~平安時代の集落	田等
8	中島笹塚遺跡 (中島笹塚古墳群を含む)	UT-NK	宇都宮市砂田町 字笹塚・字吉原	91,100	古墳~奈良時代の集落、 古墳群	畑・林
9	磯岡北遺跡 (磯岡北古墳群を含む)	UT-SG	宇都宮市砂田町笹塚 上三川町磯岡	126,700	縄文~奈良時代・中世集落、古墳 群、奈良・平安時代の推定東山道	田等
10	磯岡遺跡	KM-IS	上三川町磯岡 398,401 他	72,000	縄文~古墳・平安時代集落	田畑等
( <u>1</u> )	西刑部西原遺跡 (⑫琴平塚古墳群を含む)	UT-NS	宇都宮市平塚町西原他 上三川町西汗	138,000	縄文時代陥穴、旧石器・古墳〜 平安時代集落、奈良・平安時代 の推定東山道	田畑等

<sup>・</sup>④権現山遺跡と⑨磯岡北遺跡は⑤杉村遺跡とは別遺跡だが、現地調査時に「杉村遺跡」(UT-SG)の名称や略号を用いた部分がある。 ・確認調査の略号は UT-TN とし、本遺跡群内における位置はトレンチ及びグリッド番号で示した。

## 第3節 調査の経過

[確認調査] 平成7 (1995) 年度および平成17 (2005) 年度

関係各機関との協議、事務処理、調査方針の策定を経て、現地における作業は各年度の秋に実施した。作 業の手順は上述の通りである。基本的には重機によるトレンチ発掘を先行させ、トレンチ内精査、次いで遺 構確認状況等の写真撮影、実測等記録の順序で行った。

本書で扱う磯岡北遺跡北端部の確認調査は、1995 (平成7)年10月と、2005 (平成17)年9月に実施した。 SG12・16・17 区からその東側隣接地にかけて、試掘トレンチ TX66 ~ 75 を設定して遺構の有無や密度を 確認した。1995年試掘トレンチの痕跡は、4・5・8・9号墳の写真や平面図に見える。その経過を次に記す。

1995 年度確認調査区 宇都宮市砂田町字笹塚 6 番地 6 号~ 14 号および 569 ~ 577 番地

対象面積 17.200 ㎡

期間 1995 (平成7) 年10月13日~23日

調查担当者:中山晋·稲木実·安永真一·藤田直也

後に「SG11 区」として調査した古墳時代集落と、それから台地端部に墳丘が現存する古墳群の遺跡範囲・ 遺構密度などを確認するために、トレンチを設定した。そのうち、今回報告するSG12・16・17・18区と その周辺に関わる部分は  $X66 \sim 75$ 、 $Y30 \sim 37$  の範囲で、20m 四方のグリッドで計 43 グリッド分(400× 43 = 17,200 m) に相当する。幅 2m の東西に長いトレンチを 20m 間隔で設定することにより、対象面

#### 第1章 調査の経緯

積の 10%を試掘した。墳丘の高まりが認められる  $3\cdot 8\cdot 9$  号墳の周溝と、墳丘を失った  $4\cdot 5\cdot 7$  号墳の周溝を確認した。 9 号墳の南西側では 1 号埴輪棺を確認したので、この遺構だけは調査を行って遺物を取り上げた。

**2005 年度確認調査区** 宇都宮市砂田町字笹塚 6 番地 7 号および 6 番地 17 号、2 番地 4 号・5 号・21 号 対象面積 8.800 ㎡

期間 2005 (平成17) 年9月8日~9日

調查担当者:田代降•小出功一

1995 年度確認調査区よりも東側の遺跡範囲・遺構密度などを確認するために、トレンチを設定した。  $X66 \sim 72$ 、 $Y36 \sim 40$  の範囲で、20m 四方のグリッドで計 22 グリッド分( $400 \times 22 = 8,800$  ㎡)に相当する。幅 2m の東西に長いトレンチを 20m 間隔で設定することにより、対象面積の 10%を試掘した。その結果、Y37(日本測地系の平面直角座標第 IX 系で Y = 7,140)のライン付近よりも東側には撹乱と思われる少数の穴以外は認められず、この付近が磯岡北遺跡の東端であると考えられた。なお、66 - 36 グリッドにおいて中世の方形竪穴遺構かと考えられる遺構を 1 棟確認した。他に、現代の道路と平行する方向に伸びる時期不明の溝が見られる。遺物は特に認められなかった。

[**本調査**] 平成 12 ~ 14 年度 (2000 ~ 2002 年度)

下記の SG12・16・17・18 区に分けて本調査を実施した。この 4 地区の合計調査面積は 7,200 ㎡である。 各区の調査経過を以下に示す。

**磯岡北遺跡 SG12 区** 宇都宮市砂田町字笹塚 6-14・15 および 581 ~ 583 番地 面積 2,600 ㎡

平成 12 年度(2000年4月20日~2001年3月15日)

調査担当者:内山敏行・矢野里織・(発掘補助員)佐藤斉

東西及び南北方向の道路工事予定部分と、その東側にある磯岡北3号墳周辺に設けた調査区である。東側には SG17 区と SG18 区が隣接する。

年度の前半には磯岡北遺跡 SG16 区および中島笹塚遺跡の調査を先行して行った。8月31日から9月4日まで SG12 区の抜根作業に立ち会い、9月19日には磯岡北遺跡 SG16 区および北側に隣接する中島笹塚遺跡(1・3・4区)の航空写真撮影と同時に、SG12 区の現況航空写真撮影・航空写真測量を実施した。9月21日から SG12 区の表土除去作業と調査を開始した。1月28日には現地説明会を西刑部西原遺跡3区と合同で実施した。2月15日には北側に隣接する中島笹塚遺跡(1・2・5区)と同時に航空写真を撮影し、その後に3号墳の盛土や盛土下の縄文時代土坑 SK - 44を調査して、2月27日に現地作業を終了し、3月には図面と写真の整理作業を行った。現状は、映画館の北東に接する信号のある交差点として利用されている。なお、発掘調査時の遺跡名称は「杉村遺跡12区」である。

**磯岡北遺跡 SG16 区** 宇都宮市砂田町字笹塚  $568 \sim 578$  番地 面積 1,600 ㎡

平成 12 年度(2000年4月20日~2001年3月15日)

調查担当者:内山敏行·矢野里織·(発掘補助員)佐藤斉

東西方向の道路と、そこから北へ派生する道とのT字路の予定地に設けた調査区である。西側には磯岡北 遺跡 SG18 区、北側には用水路をはさんで中島笹塚遺跡 4 区が隣接する。北側にある中島笹塚遺跡 4 区の調 査と並行して、7月31日から8月8日まで SG16 区の表土除去と抜根作業を実施した。抜くと遺構を破壊 するおそれがある大きい根は、そのまま調査区内に残した。8月9日から遺構の調査を行い、30日までで 終了した。その後、9月19日には磯岡北遺跡 SG12 区の現況航空写真撮影・測量および北側に隣接する中島笹塚遺跡 (1・3・4区) の航空写真撮影と同時に、SG16 区の航空写真を撮影して、調査を終了した。現在は、東西方向の道路が跡地を通過している。調査区が北に突出した部分は、道路建設の予定が変更になったため、駐車場等として利用されている。なお、発掘調査時の遺跡名称は「杉村遺跡 16 区」である。

**磯岡北遺跡 SG17 区** 宇都宮市砂田町字笹塚 6 番地 6 号および 12 ~ 14 号、582・583 番地

面積 2.700 ㎡ 平成 13 年度 (2001 年 7 月 11 日~ 2002 年 2 月 28 日)

調査担当者:中村享史・江原英・矢野里織・(発掘補助員) 田崎真理

墳丘が認められる磯岡北2・8・9号墳を中心とした調査区である。北から西側にはSG12区が隣接し、また南側にある9号墳の周囲には宇都宮市教育委員会調査区のA区とB区が隣接する。

7月11~24日に8・9号墳の草刈りを行い、7月25~31日に8号墳にトレンチを設定して周溝の位置を確認した後、8月中に8・9号墳の表土を除去した。また、SG12区で一部から半分程度を調査した1・4・5号墳の残りの部分も調査を行った。1月24日に航空写真を撮影し、26日には現地説明会を実施した(参加者約240名)。その後、古墳の墳丘部分と盛土下の遺構・遺物を調査して、3月11日に現地での作業を終了した。現在は、SG12区跡地(道路交差点)の南東側に面する工業系の用地として、造成工事が終了している。なお、発掘調査時の遺跡名称は「杉村遺跡17区」である。

**磯岡北遺跡 SG18 区** 宇都宮市砂田町字笹塚 578・579・580・581 番地 300 ㎡

平成14年度(2002年4月8日~8月7日) 調査担当者:馬場秀典・矢野里織

SG12 区と SG16 区との中間に残された狭い調査区である。西側に SG12 区、東側に SG16 区が隣接する。 4月8・9日に、重機による表土除去および抜根作業を実施した。他遺跡の作業を終えてから、5月21~23日に SG18 区の遺構確認作業を実施し、5月27日~6月10日に遺構の調査を行った。その後しばらくして8月1日と8月6日に清掃と航空写真撮影準備作業を行い、砂田遺跡8・9・14 区と一緒に航空写真を8月7日に撮影して、調査を終了した。現在は、東西方向の道路が跡地を通過している。なお、発掘調査時の遺跡名称は「杉村遺跡18区」である。

#### [**整理・報告書作成作業**] 平成 $16 \sim 17$ 年度( $2004 \sim 2005$ 年度)

出土遺物の総数は、小サイズのコンテナで 89 箱分である。これらの遺物水洗作業は各発掘調査年度中に現場でほぼ終了していた。遺物への注記も、SG12 区と SG16 区は平成 13 (2001) 年 9 月 13 ~ 18 日、SG17 区を平成 14 (2002) 年 5 月 14 ~ 28 日と 6 月 6 ~ 13 日に、実施・終了した。注記にはインクジェットプリンターを使用した。平成 16 (2004) 年度は、並行して整理作業を実施した磯岡遺跡 2 ~ 6 区と立野遺跡 1 ~ 8 区に整理作業員のほぼすべてを投入したため、磯岡北遺跡・磯岡北古墳群の整理作業は図面・遺物・写真のごく一部について実施した程度であった。

平成 17 (2005) 年度から本格的な整理作業を開始した。この年度の前半で SG18 区出土遺物の注記を終了するとともに、各調査区出土遺物の接合作業を 4月 4日~6月 28 日に実施した。5月 23 日には、埋蔵文化財センターに保管していた埴輪棺および SG17 区 2~9号墳出土鉄製品と SG12 区 3号墳のガラス小玉を現地整理棟に搬入して、鉄器のクリーニングと接合作業に着手した。6月 24 日には、磯岡北古墳群の中心部である SG17 区の遺構図面を埋蔵文化財センターから整理棟に移送し、ようやく遺構図面の本格的な整理を開始した。遺構原図修正作業を6月 28日から11月11日まで、出土遺物実測図・拓本作成作業を6月 29日から平成18 (2006) 年1月13日まで、同じく遺物実測図修正作業を2月中旬まで、図面トレース

#### 第2章 遺跡の環境

作業を1月11日から3月22日まで、版組作業を1月16日から3月下旬まで、それぞれ実施した。整理作業員数と作業期間の範囲内で全図面のトレースを終了することは不可能であったため、遺物実測図のうち約4割(遺物532点のうち212点)と、版下作成127枚のうち33枚(古墳9基および各調査区全体図)を、デジタルトレース作業として外部に委託し、12月~3月に実施した。これらの作業と並行して土層説明文と遺物観察表の入力作業を行った。2月21日~3月6日に遺物写真を撮影し、原稿と図版を整えた。

平成 18 (2006) 年度の 6 月には、業者と印刷・製本業務の契約を締結した。その後、 8 月から 9 月まで校正を行い、本報告書『東谷・中島地区遺跡群 7 磯岡北古墳群』を刊行する運びとなった。

## 第2章 遺跡の環境

#### 第1節 地理的環境

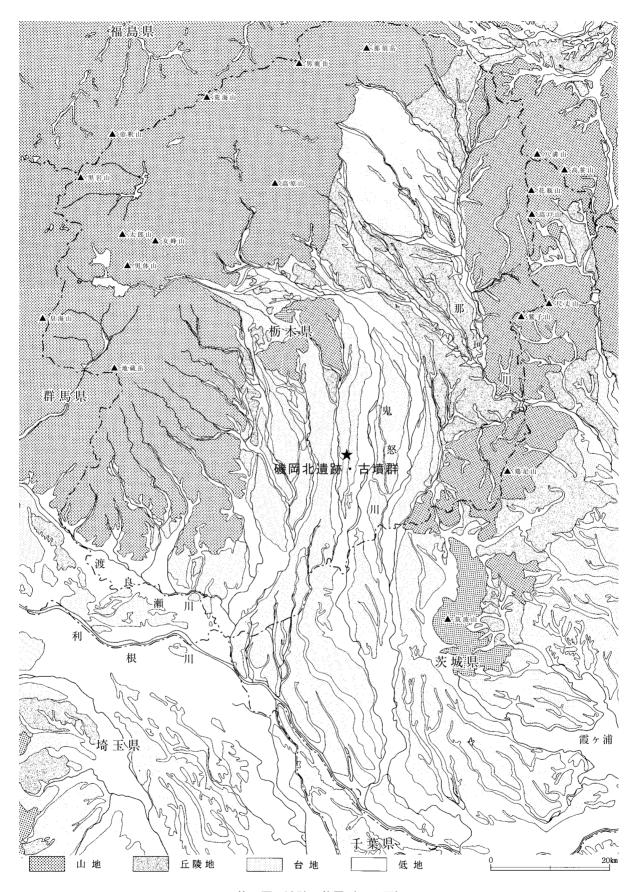
位置 東谷・中島地区遺跡群は栃木県域の南東部、宇都宮市と河内郡上三川町に跨り、宇都宮市街地から南南東へ約7km、上三川町の中心地から北へ約5kmに位置する。東へ約5kmに鬼怒川、西へ約1.5kmに田川がそれぞれ南流する。周辺は起伏の少ない田園地帯が広がっており、各遺跡の発掘調査前の状況は水田、畑地、平地林が主で、一部に宅地が見られた。一方、本遺跡群は、東側が国道4号バイパス(新4号国道)、西側は旧上三川街道、南側は県道雀宮・真岡線、北側は宇都宮環状線に接する。また、地区内に北関東横断自動車道路の宇都宮・上三川インターチェンジが位置し、交通の要衝としてその重要度を高めつつある。こうした利便性と相まって、近年、本地域は流通業務施設や工業施設等の進出と市街地化が進行している。

現況 磯岡北遺跡は宇都宮市砂田町の南部に所在する。遺構・遺物が最も集中するSG17区で代表させると、 北緯36度29分30秒・東経139度54分30秒(世界測地系)に所在する。東谷・中島土地区画整理地区(完成後の名称は「インターパーク宇都宮南」)の中央部からやや東寄りに位置する。開発地区内で調査対象と された面積は7,200㎡である。「西谷田」(\*1)と呼ばれる南流する小川の開析谷に面し、主にその東側に立 地する。ただし、東部にあるSG16区は南流する無名瀬川(\*2)の開析谷に面している。調査前の状況は主 に山林と畑地で、一部に宅地が点在する状況であった。山林であった部分でも、後世に開墾などの土地利用 を経ていると思われる。「西谷田」をはさんだすぐ西側には立野遺跡5区の台地があり、また「西谷田」と「中 島谷田」(\*1)と呼ばれる2本の開析谷の間に残された島状の微高地(立野遺跡6区・2000年度確認調査区・ 宇都宮市調査A地区)もある。

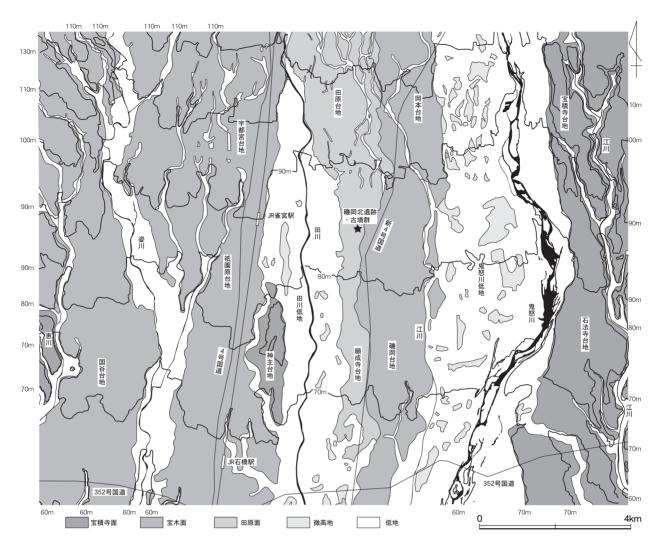
地形の分類 栃木県は関東地方の北部に位置し、東と南を茨城県、西を群馬県、北を福島県と境を接している。栃木県域の地形は、大きく見ると、東部山地、中央部低地、西部山地に分けられる。東部山地は八溝、鷲子、鶏足などの山塊からなる八溝山地、西部山地は那須、高原、日光、足尾などの山塊からなる下野山地と足尾山地である。東西の山地は南北に連なっており、両者に挟まれるように中央部低地が広がる(鈴木・阿久津他 1979)。本遺跡は中央部低地に位置する。中央部低地は関東平野の北縁をなし、山地から南北に延びる丘陵とそれに平行するように延びる台地と低地・河川からなる。これらの台地と低地・河川は、東から鬼怒川低地(鬼怒川)、岡本・磯岡台地(宝木段丘面=中位段丘面)、田原・願成寺台地(田原段丘面=下位段丘面)、田川低地(田川)、神主台地(宝積寺段丘面=上位段丘面)、宇都宮・祇園原台地(宝木段丘面=中位段丘面)と分類されている。

田原・願成寺台地 立野遺跡を含む東谷・中島地区遺跡群の大半の遺跡と、その南西に続く関連遺跡群(東谷古墳群の東半部および権現山遺跡:第6図・第7図)は、田原・願成寺台地の上に立地する。この台地は、中央部低地の中央に南北に連なり、鬼怒川低地(鬼怒川)と田川低地(田川)に挟まれている。河内郡上河内町今里~河内郡河内町~宇都宮市市街地東部の砂田町・東谷町~河内郡上三川町願成寺・上蒲生周辺にかけての台地であり、全長は約33km、東西の幅は2.0~2.5km、標高は170m~68mである。台地の北から南への傾斜は平均すると4.2/1000mであり、田川低地との比高は1~2mほどである。台地内部には、小河川によって形成された細かな開析低地が発達している。東側にある一段高い岡本・磯岡台地とは約2mの比高があるが、両地形面の差は南に行くほど不明瞭となる。

田原・願成寺台地の台地表層部は、田原段丘礫層を最も新しい田原ロームが0.5~2mの厚さで覆っており、



第3図 遺跡の位置(1/60万)



第4回 周辺地形分類図(1/10万)

南に行くほど薄くなっている。田原ロームの鍵層である七本桜軽石層(Nt-S)と今市軽石層(Nt-I)は日光の 男体山から噴出した火山灰(ともに  $1.2 \sim 1.3$  万年前)で、栃木県域北部に分布する。宇都宮市街地北方付 近ではやや薄くなり、これ以南では本遺跡群のようにローム層中に軽石が点在する程度となる。田原ローム の下には、砂質土・砂層の厚い堆積が認められる。

田川低地 東谷・中島地区遺跡群の西方には田川低地が広がり、東谷古墳群の西半部や百目鬼遺跡が位置している(第7図)。田原・願成寺台地と田川低地との境には、南流する赤沢川(井川)がある。田川低地は、宇都宮市域の北から宇都宮市街地を通過して南へ延び、田原・願成寺台地の西側に幅1.5~2kmにわたって分布する。この低地は、現在水田となっている田川の旧河道とされる部分と、それより1.0~1.5 mほど上位で現在は集落が分布する自然堤防などの微高地上とに識別することが可能である。低地や微高地の形成時期などを決める資料は得られていないが、およそ2万年前以降に田川の営力によりできたものと推定されている。

岡本・磯岡台地 田原・願成寺台地の東側には岡本・磯岡台地が広がり、東谷・中島地区遺跡群の東端部 にある西刑部西原遺跡および琴平塚古墳群や、東側にある西赤堀遺跡などが所在する。田原・願成寺台地と 岡本・磯岡台地との境には、南流する無名瀬川 (\*2) がある。岡本・磯岡台地は、河内町白沢・岡本~宇

#### 第2章 遺跡の環境

都宮市平出・猿山〜上三川町磯岡・日産自動車用地〜南河内町三王山周辺の南北に長い台地である。全長約 35 km、東西幅  $1.5 \sim 2.5$  km、標高  $162.5 \sim 54$  mである。台地の北から南への傾斜は  $4.5/1000 \sim 1/1000$  で南ほど緩傾斜となる。鬼怒川低地との比高は、白沢付近で約 15 mあり明瞭だが、南へ行くほど緩斜面状を呈する。台地表層部は宝木段丘礫層を田原ロームと宝木ロームが厚さ  $5 \sim 10$  m程で覆っている。厚さは南に行くほど薄くなる。台地内部は、小河川によって形成された細かな開析低地が発達している。

- \*1 「にしやだ」および「なかじまやだ」の通称は、宇都宮市砂田町在住の福田林蔵氏(1930年生)からの御教示による。漢字表記は推定である。
- \*2 「むなせがわ」の漢字表記は、開発前の10,000分の1地形図による(上三川町役場1981年作成)。「武名瀬川」や「田川用水」とも表記・呼称されている。

#### 参考文献

栃木県企画部土地対策課 1984 『土地分類基本調査 壬生』 経済企画庁総合開発局国土調査課 1960 『土地分類基本調査 地形・表層地質・土壌調査 宇都宮』 上三川町史編さん委員会 1979 『上三川町史』資料編 原始・古代・中世 上三川町 宇都宮市史編さん委員会 1979 『宇都宮市史』第一巻 原始・古代編 宇都宮市 栃木県史編さん委員会 1981 『栃木県史』通史編1 原始・古代一 栃木県

## 第2節 歷史的環境

東谷・中島地区周辺の遺跡については、塚原(1999)の第 II 章第 2 節に網羅されている。また、各時代・各遺跡の評価は、塚原(1999)と中村(2004)、古墳については秋元(2003)が詳しく述べている。ここでは、両者の作業を参考にして資料を追加・補正し、磯岡北遺跡 SG12・16・17・18 区(磯岡北古墳群)で比較的注目される遺構・遺物が出土した時期について、周辺の遺跡の状況を紹介する。磯岡北遺跡(153)周辺の遺跡分布を第 5 図と第 7 図に示す。

旧石器時代 旧石器時代の遺構・遺物は、磯岡北遺跡では確認されていない。

東谷・中島地区付近は、宝木段丘面に立地する西刑部西原遺跡(146)以外は、最上位のローム層(田原ローム)だけが載る低段丘に相当する。そのため、西刑部西原遺跡3区(とちぎ埋文2001, p.39)を除くと、旧石器時代後半期の遺跡が若干見られる程度である。東谷・中島地区内では、権現山遺跡(110)の SGI 区(旧名称:杉村遺跡 I 区)で水晶製尖頭器が知られる(栃木県埋文1997, p.36)。同じ権現山遺跡の西半部である A 区で As-YP 層(1.3~1.4万年前)相当のブロックが2ヶ所調査された(谷中他2001)。磯岡遺跡(164)の2・3・6区でも尖頭器が出土している(津野2005, p.24)。東側の西赤堀遺跡(161)では、尖頭器と掻器を主体とするブロックがNt-I(今市軽石層:1.2~1.3万年前)の直下に6ヶ所ある(安藤編1996)。

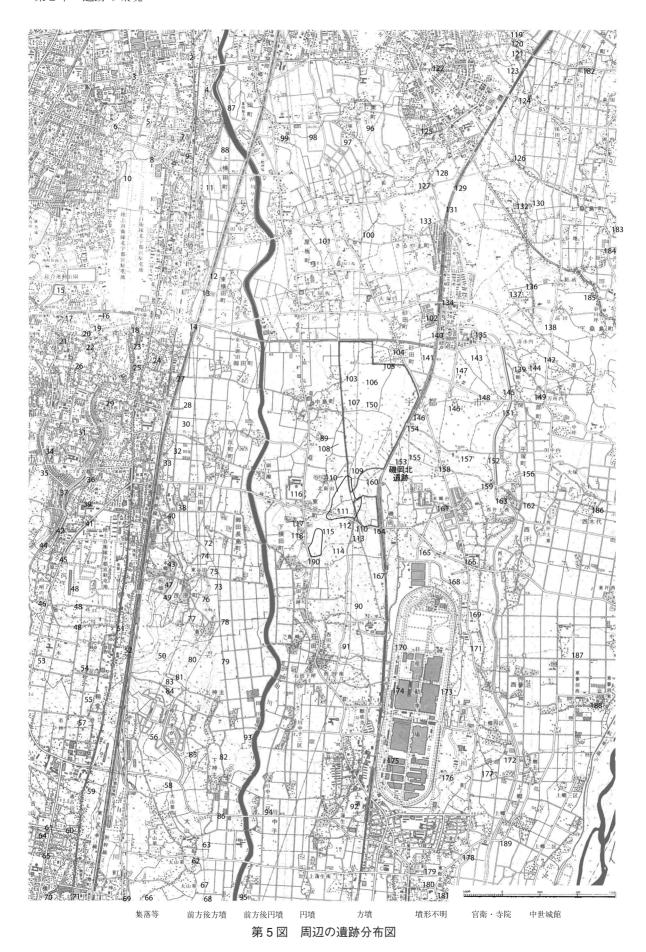
**縄文時代草創期** 磯岡北遺跡 (153) の今回報告する地区では、SG12 区と SG17 区で有舌尖頭器が 1 点ずつ出土している。ここから開析谷を挟んだ西側にある立野遺跡 (108) 3 区の尖頭器を伴う包含層が、縄文時代草創期前後と思われる (内山 2005, pp.616-619)。いずれも土器は出土していない。

有舌尖頭器は、周辺の琴平塚古墳群 (154:中村 2004, p.172) と磯岡遺跡 (164) の I 区 (塚原 1999, p.44) でも出土している。また、磯岡遺跡 3 区の低地では爪形文土器も 1 片出土した (津野 2005, p.22)。有舌尖頭器は、栃木県域で知られる 20 数例のほとんどが出土層不明の単独出土品で (芹澤 2003, p.16)、上記の例も同様である。大町遺跡 (181) にも爪形文土器 7 片や槍先形尖頭器などがある (秋元他 1985)。このほか、仏沼遺跡 (173: 倉田編 1971) の土器を草創期とみる意見もある (前沢 1979, p.239)。

時期を断定できないが、今回報告する磯岡北遺跡 SG16 区 SK -20 は、上をローム漸移層が覆うことや、1.2  $\sim 1.3$  万年 BP に降下した今市・七本桜軽石を含む埋土からみて、縄文時代でも古い時期の土坑と考えられる。同様に草創期のテフラを混入する遺構としては、西刑部西原遺跡 6 ・7 区(146:とちぎ埋文 2002, pp.40-41)・砂田遺跡 3 区(103:藤田・田代 2002, p.205)・中島笹塚遺跡 3 区(とちぎ埋文 2001, p.34)の陥穴状土坑がある。

田川の西岸では、西下谷田遺跡 (50: 板橋編 2003, p.388)・茂原向原遺跡 (80: 安永 2001, p.345)・上神主茂原遺跡 (79:森嶋 2004) に尖頭器、権現山北遺跡 (72: 五十嵐 1979)・文珠山遺跡 (53 のすぐ南西: 今平 1999, p.115)・殿山遺跡 (85: 大川他 1995) に有舌尖頭器がある。殿山遺跡には時期不詳の陥穴状土坑が3基あり、溝型の陥穴状土坑を含む。

縄文時代早期 磯岡北遺跡では、今回報告する SG17 区に撚糸文系土器(井草式)が若干まとまって見られる。東谷・中島地区では、開析谷を挟んだ西側にある立野遺跡(108)の5 区にも撚糸文系土器・黒曜石製円形掻器・石鏃未成品を含む遺物集中地点があり、また、撚糸文系・条痕文系土器の包含層や、撚糸文系土器片を出土した陥穴状土坑もみられた(内山 2005, pp.33-53,63,67)。磯岡遺跡(164)の I 区で井草式およびそれ以降の撚糸文系土器と、野島式土器が少量見られ(塚原 1999, p.41)、同遺跡の5 区に夏島式土器が1 片ある(津野 2005, p.22)。砂田遺跡(103)では、1 区で鵜ヶ島台式土器が知られ、2 区で撚糸文



第2表 東谷・中島地区周辺の遺跡

	長 果合・中島地区周辺の	-	Lucius d		I an an a
	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	本村遺跡	65	横塚遺跡	128	天王山遺跡
2	陽南1丁目遺跡	66	舗飛内遺跡	129	猿山東原遺跡
3	ガンセンター東遺跡	67	大山館跡	130	柿木坂遺跡・柿木坂古墳群
4	西原境遺跡	68	木田遺跡	131	東原古墳群
5	並松遺跡	69	多功遺跡	132	西原庚申塚
6	雷電山遺跡	70	上大領兵行内遺跡	133	さるやま城遺跡・さるやま城古墳群
7	江曽島北原遺跡	71	長持塚古墳	134	猿山遺跡
8	関道遺跡	72	権現山北遺跡	135	瑞穂野団地遺跡
9	江曽島北原南遺跡	73	愛宕塚東遺跡	136	根本西台古墳群
10	おしめ尽遺跡	74-76	茂原古墳群	137	桑島台古墳群
11	大房林遺跡	74	茂原権現山古墳	138	飯塚古墳
12	城南 3 丁目遺跡	75	茂原大日塚古墳	139	藤腰遺跡
13	城南 3 丁目南遺跡	76	茂原愛宕塚古墳	140	南原古墳
14	宮の内遺跡	77	小蓋遺跡	141	上横田A遺跡
15	塚山北遺跡	78	江面遺跡	142	成願寺北遺跡
16	北若松原遺跡	79	上神主・茂原遺跡	143	大関台遺跡 (小屋原遺跡)
17	塚山古墳群	80	茂原向原遺跡	144	成願寺遺跡
	塚山古墳(1号墳)	81	後志部遺跡	145	西刑部古屋原遺跡・西刑部古屋原古墳群
	塚山西古墳 (2号墳)	82	神主古墳群	146	西刑部西原遺跡
	塚山南古墳(3号墳)	02	上神主浅間神社古墳(神主1号墳)	147	大関高塚群
10	一向寺別院付近遺跡	-	上神主狐塚古墳(神主 5 号墳)	148	中道遺跡
18 19	若松原遺跡	$\dashv$ I	上伸土狐塚百墳(伸土 5 万墳)  後志部古墳(神主 7 号墳)	148	中担退跡
	右	-		1	
20	.,		下原古墳(神主 20 号墳)	150	中島笹塚遺跡(中島笹塚古墳群を含む)
21	旭ヶ丘団地遺跡	83	向原遺跡	151	後尚塚遺跡
22	西原北遺跡	84	向原南遺跡	152	古屋原高塚群
23	留西遺跡	85	殿山遺跡	153	磯岡北遺跡(磯岡北古墳群を含む)
24	十里木古墳	86	薄市遺跡	154	琴平塚古墳群
25	留西南遺跡	87	台内手遺跡	155	西沼遺跡
26	若松原南遺跡	88	大山祗神社古墳	156	平塚原根岸遺跡
27	綾女塚古墳	89	芋内遺跡	157	不動堂遺跡
28	雀宮東浦遺跡	90	上石田遺跡	158	内野遺跡
29	雀の宮四丁目遺跡	91	石田館跡	159	下小屋原遺跡
30	雀宮駅東遺跡	92	上蒲生の古墳群	160	杉村遺跡
31	大谷田遺跡		十三塚古墳(上蒲生1号墳)	161	西赤堀遺跡・西赤堀古墳群
32	牛塚東遺跡	93	後志部東遺跡	162	南浦遺跡
33	雀宮牛塚古墳	94	粕内遺跡	163	高島館跡
34	二子塚北遺跡	95	梁館跡	164	磯岡遺跡
35	針ヶ谷二子塚古墳	96	大塚神社古墳群	165	磯岡・西汗の古墳群
36	天狗原遺跡	97	下栗念仏塚遺跡	100	屋敷東浦愛宕塚古墳(磯岡・西汗 3 号墳)
37	島の前遺跡		下栗大塚古墳	166	西赤堀東遺跡
		98		166	
38	宇都宮機器南遺跡	99	東川田城	167	機岡B遺跡 エエスの日標)
39	赤土山遺跡	100	菅谷遺跡	168	西赤堀狐塚古墳 (磯岡·西汗 2 号墳)
40	多功神塚古墳群	101	赤沢遺跡	169	西赤堀南遺跡
41	富士見団地北遺跡	102	下桑島西原古墳群	170	西田遺跡
42	岡田山遺跡	103	砂田遺跡	171	西林ノ内遺跡
43	茂原北原遺跡	104	砂田東遺跡	172	上郷の古墳群
44	石川坪遺跡	105	砂田滝遺跡	11	愛宕神社古墳 (上郷1号古墳)
45	富士見向山遺跡	106	砂田姥沼遺跡	]]	笹塚古墳 (上郷2号墳)
46	明ノ内遺跡	107	赤沢高塚群	II	上郷瓢箪塚古墳 (上郷3号墳)
47	西の前遺跡	108	立野遺跡		長塚古墳 (上郷 D 3 号墳)
48	上原遺跡	109	桜稲荷古墳	71	しらみ塚古墳 (上郷4号墳)
49	前畑遺跡		権現山遺跡	11	上郷 26・27 号墳
50	西下谷田遺跡 (北原東遺跡)	111		173	仏沼遺跡
51	下古山北原古墳		東谷古墳群	174	願成寺遺跡
52	北原遺跡		権現山遺跡 B区(原古墳群)	175	上蒲生遺跡
	大木遺跡	1113	車塚古墳群	11	大野遺跡
54	一本松遺跡	113	権現塚古墳群	177	西原遺跡
	若林北遺跡	-11			島田遺跡
		115	松の塚古墳	11	
56	上ノ原遺跡	116	双子塚古墳	179	上三川地区の古墳群
57	若林南遺跡	117	<b>笹塚古墳</b>	1	八龍塚古墳(上三川1号墳)
58	大山遺跡	118	鶴舞塚古墳	180	上三川城跡
59	谷端北遺跡	119	新谷台遺跡	181	大町遺跡
60	谷端遺跡	120	三日月神社古墳	182	石井城跡
61	東浦遺跡	121	三日月神社南古墳群	183	高尾神社古墳
62	大山古墳群	122	十ヶ屋敷遺跡	184	桑島城跡
	五社神社古墳 (大山1号墳)	123	久部浅間山古墳	185	根本遺跡
	大山瓢箪塚古墳 (大山 9 号墳)	124	久部台古墳群	186	高龗神社古墳 (西木代1号墳)
	新出古墳(大山 13 号墳)		久部愛宕塚古墳 (1号墳)	187	五丁免遺跡
	長塚古墳(大山 D20 号墳)	125	追金仏遺跡	188	中館跡
	新出遺跡	126	石井久保田古墳群	189	上鄉遺跡
63					

系(夏島式)・沈線文系・条痕文系土器が見られる(藤田・田代 2002, pp.20,165-169)。杉村遺跡(160)では撚糸文系の稲荷原式土器と住居または土坑1基が調査され(藤田他 2000, pp.31-34)、スタンプ形石器も見られる(同,p.38)。また、沈線文系土器(主に田戸下層式)と条痕文系土器も出土している。

田川の東岸地域では、瑞穂野団地遺跡南調査区(135:岩上他 1978, p.58)と仏沼遺跡(173:倉田編1971, p.88)に撚糸文系土器が見られる。

田川の西岸地域では、西下谷田遺跡(50:板橋編 2003, p.388)・薄市遺跡(86:秋元 1988, p.32) に井草式土器、宮の内遺跡(14:田代 1996, p.180)のB遺跡では撚糸文系土器・スタンプ形石器および鵜ヶ島台式土器、茂原向原遺跡(80:安永 2001, p.347)で条痕文系土器、殿山遺跡(85:大川他 1995, p.20)で撚糸文・条痕文系土器がある。文珠山遺跡(53のすぐ南西:今平 1999, p.107)と上神主・茂原遺跡(79:安永 2001, p.76)の両遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が少量出土している。上神主・茂原遺跡の撚糸文系土器は浅間神社古墳の調査でも出土した(石部他 1994)。このほか、木田遺跡(68:前沢 1979)にも早期の遺物があるという。

**縄文時代前~中期** 磯岡北遺跡 (153) の今回報告地区では、SG17 区で阿玉台式期の竪穴建物と遺物集中地点を各1箇所調査した。他に、前期末~中期初頭の土器や加曽利 E 式土器が SG12 区・SG17 区に極少量見られる。

東谷・中島地区は、高低差のある台地や丘陵ではなく、大半が低台地上なので、中期の遺構はあまりみられない。竪穴建物跡としては、磯岡遺跡 I 区 (164:塚原 1999, p.37) で阿玉台式期、中島笹塚遺跡 5 区 (150:とちぎ埋文 2001, p.35) で加曾利 E1 式期のものが、それぞれ 1 棟ずつ調査されている。磯岡北遺跡南部の SG13 区でも阿玉台~加曾利 E1 式土器が少量見られ(藤田 2003, p.152)、磯岡遺跡  $2 \sim 7$  区にも阿玉台~加曾利 E1 式土器がある(津野 2005, pp.22-24)。開析谷を挟んだ西側にある立野遺跡(108)では 5 区に加 曾利 E1 式期の土坑が 2 基ある(内山 2005, pp.62-63)。

田川の東岸地域では、島田遺跡(178: 江原他 2004)で阿玉台〜加曽利 E 式期の竪穴建物 22 棟と袋状 土坑群が知られる。柿木坂遺跡(130: 大関 1992)でも遺物が報告・検討されている。

田川の西岸では、西川田川の開析谷周辺に中期遺跡群がまとまる(名取他 1996)。石川坪遺跡(44:宇都宮市 2003, p.20;同 2004, p.13)で阿玉台式期を中心とした竪穴建物と袋状土坑群、二軒屋遺跡(20:五十嵐 1981;名取他 1994)で加曽利 E 式期の竪穴建物と袋状土坑が、それぞれ調査された。旭ヶ丘団地遺跡(21:名取他 1998, pp.94-102)は兵庫塚 A 地点遺跡(山崎 1970)や二軒屋西遺跡(田代 1968, pp.11,24)と同一遺跡と思われ、阿玉台〜加曽利 E 式土器や 10 基の袋状土坑群が確認されている。その南方の台地上や、赤土山(39)・富士見団地北(41)の各遺跡にも遺物が見られる(名取他 1996, pp.38-42,52-56)。

縄文時代後期 遺跡は少ない。磯岡北遺跡(153)の今回報告地区では、称名寺式・堀之内式・加曽利B式などの土器片が遺構外で出土した。磯岡北遺跡南部のSG13区にも堀之内~加曾利B式期の土坑と遺物集中区がある(藤田2003, pp.144-156)。開析谷を挟んだ西側にある立野遺跡(108)の4区と5区で堀之内1式期の土坑が1基ずつ確認され、また後期の土器片が少量見られる(内山2005, pp.56-58,64-65,628,630)。田川東岸の粕内遺跡(94:前沢1979)にも後期の遺物があるという。

田川の西岸では、天狗原遺跡(36:神野 1994, p.55)に後期、兵庫塚 3 丁目遺跡(名取他 1996, pp.40-47)・石川坪遺跡(44:渡辺他 1993・下野 1993)・殿山遺跡(85:大川他 1995)に後〜晩期の遺物がある。

縄文時代晩期 磯岡北遺跡 (153) の今回報告地区では遺構は認められないが、主に大洞 C2 式の土器片

若干と晩期安行式の土器片極少量が SG17 区にある。開析谷を挟んだ西側にある立野遺跡 (108) でも晩期の土器は5 区に極少量だけしか見られない (内山 2005, pp.57-58)。東谷・中島地区では、権現山遺跡 SG10 区に大洞 C2 式期の竪穴建物が1 棟だけある (110:とちぎ埋文 2000, p.32)。磯岡遺跡3 区と6 区にも大洞 C2 式土器が少量ある (津野 2005, p.24)。周辺地域でも遺跡は少ない。縄文晩期では石川坪遺跡(44:渡辺他 1993・下野 1993) が代表的である。

**弥生時代** 栃木県域では弥生時代の遺構・遺物が希薄で、東谷・中島地区周辺でもこのことは同様である。 磯岡北遺跡 (153) の今回報告地区では、SG17 区でアメリカ式石鏃(幅広有茎鏃)が1点あるだけで、弥 生土器や遺構はみられない。

弥生時代中期 磯岡北遺跡から開析谷を挟んだ西側にある立野遺跡(108)では、4区と1区に中期後半 およびその可能性のある土坑があり、他にも各区で少量の遺物が出土している(内山 2005, pp.70,581,633,637,701,712)。立野4区や権現山北遺跡(72:大島編 1979, pp.152,156)では撚糸文を多用する壺が出土している。同様に撚糸文施文の甕を伴う例として、磯岡遺跡 I 区の SK - 96(164:塚原編 1999)がある。また、磯岡北遺跡の南部(北関東自動車道路調査区)にある中期後半の竪穴建物1棟と土坑2基のうち、3号土坑に類例がある(153:藤田・安藤編 2000, pp.325-338)。仏沼遺跡の土坑2基でも、撚糸文を用いる土器が見られる(173:倉田編 1971, pp.94-95)。

田川の西岸では、弥生中期前半の土坑が殿山遺跡にある(85:大川他 1995)。上神主・茂原遺跡に中期後半の土坑 1 基と中期後半および後期の土器片がある(79:安永 2001, p.81)。薄市遺跡で多く出土した弥生土器にも中期の資料を含む(86:秋元 1988, p.35)。

弥生時代後期 田川流域全体で遺跡数がやや増加する。磯岡北遺跡の今回報告する各地区では遺構や土器が確認されていないが、幅広有茎鏃がSG17区で9号墳に混入して1点ある。この型式の鏃を弥生後期と考える意見がある(海老原2004, p.14)。北方の砂田姥沼遺跡3区(106:とちぎ埋文2006a・b)に1棟ある古墳前期竪穴建物や、開析谷の対岸にある立野遺跡5区(108;内山2005)では、後期の土器片が少量出土している。遺跡密度が高いのは田川西岸地域で、西川田川と兵庫川の開析谷周辺にある二軒屋遺跡(20: 寺内他1939a)や天狗原遺跡(36:神野1994)が代表的である。他に、「東河田遺跡」(名取他1998, pp.78-79)として戦前から知られている本村遺跡(1:宇都宮市1998, pp.9-10;同2000, pp.10-12)の範囲と、殿山遺跡(85:竪穴建物21棟、大川他1995)を中心とする上ノ原遺跡から向原南遺跡の範囲(56・84:大川他1992)が、比較的大きな集落群である。

古墳時代前期~中期初頭の集落 田川東岸の東谷・中島地区周辺では、本格的な古墳時代集落は中期前葉に現れる。それまでは小規模な集落が点在する程度である。

古墳前期の竪穴建物は西刑部古屋原遺跡 SI-02(145:清水 2002)、砂田東遺跡  $B \boxtimes SI-12 \cdot 13$ (104:中山 1996)、砂田姥沼遺跡  $2 \boxtimes SI-01$  および  $3 \boxtimes SI-05$ (106:とちぎ埋文 2006a  $\cdot$  b)がある。田川東岸の低台地では、粕内遺跡にも前期の 遺物がある(94:前沢 1979)。

前期末~中期初めの建物は立野遺跡 5 区 SI - 14 (108: 内山 2005, pp.122-123,739) と杉村遺跡 60・69 号住居跡 (160: 藤田他 2000) がある。また、百目鬼遺跡 (調査時名称は「杉村遺跡」)で 2000 年度に調査された溝が中期初頭の遺構で、東谷古墳群の初期首長墳と推定される笹塚古墳のすぐ東北にある (190: とちぎ埋文 2001, p.29)。中期初頭になって、東谷古墳群と権現山・百目鬼遺跡の形成が百目鬼遺跡から始まってきたことを示すものかもしれない。

前期古墳と同じく前期の集落も田川西岸の茂原地域に集中する。大日塚古墳墳丘下(75:久保編 1990)・



第6図 磯岡北古墳群・東谷古墳群と田川(1/10,000)



第7回 東谷・中島地区遺跡群と権現山・百目鬼遺跡(1/10,000)

愛宕塚東(73:名取他 1998, pp.87-89)・西下谷田(50:宇都宮市 2000, p.16)の各遺跡に前期前半の集落が見られる。権現山北遺跡で前期後葉の竪穴 1 棟(72:大島編 1979)、上ノ原遺跡では竪穴 6 棟(56:大川他 1992)、殿山遺跡では 1 棟(85:大川他 1995, p230)が報告されている。田川西岸に面する台地では、木田遺跡(68:栃木県教委 1988, p.77)に前期の竪穴建物がある。やや西方にある西田川の開析谷では、天狗原遺跡(36:神野 1994)に竪穴建物 3 棟、留西遺跡(23:宇都宮市 1983, p.317)と留西南遺跡(25: 名取他 1996, p.31)に前期の遺物がある。

前期~中期初頭の古墳 東谷・中島地区から田川をはさんだ対岸(西岸)では、有力な首長墳が築かれる。 前方後方墳3基を含む茂原古墳群がよく知られている(久保編1990)。大日塚古墳(75:墳長35.8m・箱 式木棺・素文鏡1面)・愛宕塚古墳(76:墳長50m・舟形木棺・S字文または重圏文鏡)・権現山古墳(74:墳長63m)の3基で、大形化している権現山古墳が最後に築かれたと推定されている。小形墳としては、 牛塚東遺跡で辺長11mと6mの方墳(32:今平1993)、北原東遺跡に辺長13.0×11.8mの方墳1基(50の南端部:安永2001)、殿山遺跡に「方形周溝墓」2基(85:大川他1995, p.7)がある。上神主浅間神社 古墳(82の北端)は墳径53~54mで、茂原古墳群に続いて方系墳から円墳に転換した中期初頭頃の首長 墳である(石部・秋元編1994)。茂原周辺地域以外では、城南3丁目遺跡2号墳が方墳の可能性がある(12:今平1996)。

田川の東岸地域では、前期古墳が小規模で数も少ない。最初に現れる前期古墳は小形方墳で、西刑部古屋原 2・4号墳(145: 辺長  $10\sim14\mathrm{m}$ 、清水 2002)や上郷  $26\cdot27$ 号墳(172の西部: 辺長  $11\sim14\mathrm{m}$ 、秋元 2000)である。中島笹塚遺跡 3 区の小形方墳も、時期を決める資料が少ないが、中期初頭の可能性がある(150: とちぎ埋文 2001, p.34)。この他、権現山遺跡の B 区(112)にある土壙墓 2 基が前期末~中期初頭とされている(谷中他 2001, III-p.284)。

古墳時代中期の集落 磯岡北遺跡では、SG17 区南部(本書掲載)・SG11 区北端部(藤田 2003 の SI - 99)と、その中間にある宇都宮市教育委員会調査分の A 区・B 区にかけて、初期須恵器に並行する中期中葉の竪穴建物  $5 \sim 6$  棟と掘立柱建物 1 棟があり、B 区には辺長 9m の大形竪穴建物 2 棟を含む(宇都宮市 2005b, pp.13-14)。今回報告する SG17 区 SI - 11 は、その東西にある大形建物 2 棟(B 区 SI001 と SI002)や掘立柱建物(B 区 SB001)と主軸を揃えている。これらは、磯岡北古墳群の直前段階の集落である。また、磯岡北古墳群の直後段階である中期末の竪穴建物が SG11 区北端部にあり(藤田 2003 の SI - 100)、またすぐ北側の中島笹塚遺跡 5 区(150:とちぎ埋文 2001, pp.34-35)にも 1 棟ある。

開析谷を挟んで磯岡北遺跡のすぐ西側にある立野遺跡(108)の5区・6区・宇都宮市調査A地区周辺で調査した91棟の古墳時代竪穴建物は、約半数の44棟が中期である(立野遺跡1~4段階)。磯岡北古墳群の造営期に対応する中期後葉(立野遺跡3段階)の建物は9棟、古墳群に先行する中期中葉(2段階)の建物は13棟が確認されている。6区周辺の試掘トレンチ外にも未確認遺構が存在するであろう。

磯岡北古墳群に後続する中期末(立野遺跡 4 段階)は立野 5 ・6 区周辺の竪穴建物が最も多い時期で、3 区の単独建物を含めて 21 棟ある(内山 2005, pp.735-742; 水野他 2005, p.35)。このうち 2 棟はそれぞれ 辺長 15m と 12m で(宇都宮市調査 A 地区  $SI-2\cdot3$ )、古墳時代を通じて最大級の竪穴建物である(水野他 2005, p.36)。中期末の墓域は、磯岡北古墳群の北側の中島笹塚古墳群(150)にある可能性が高い。

古墳時代中期集落は周辺に数多い。田川の東側地域では、東谷・中島地区周辺に中期集落群が多数出現する。 その中核は権現山遺跡で(110:橋本他 2001)、首長居宅と考えられる施設を SG1 区と SG5 区に 1 箇所ずつ含み、周辺の竪穴建物も高密度で(GN4 区・SG5 区・SG10 区・北関東自動車道 A区)、遺物の質・量も 豊富である。前期末~中期初頭の少数の建物跡(立野 5 区 SI — 14; 杉村遺跡 60・69 号住居跡)を除くと、周辺の中期集落群は権現山遺跡と同時か、少し遅れて現れる。その例は、砂田 4 区(栃木埋文 1999, p.32)、立野 5・6 区周辺(前述)、西刑部西原 3 区(とちぎ埋文 2001, pp.39-40)、杉村(藤田他 2000)、磯岡(塚原 1999・藤田他 2000・高野他 2004・津野 2005・栗田 2005)の諸遺跡がある(103,108,146,160,164)。北方の砂田東遺跡(104:中山 1996)や東方の成願寺遺跡(144:篠原編 2000)も、東谷・中島地区の諸遺跡と時期をそろえるように形成される。

田川の西岸では、塚山古墳群(17)を中心とする兵庫川・西田川の開析谷に大きな集落が形成される。北 若松原遺跡は塚山古墳群とほぼ同じ時間幅の集落で、竪穴建物跡 24 棟が調査された(16:宇都宮市 1992, p.38; 1994, p.30)。中原遺跡(=二軒屋遺跡)も同様と思われ(20:寺内他 1939b)、若松原(19)および西原北(22:名取他 1996, p.36)の両遺跡と一連の大集落であろう。若松原遺跡周辺と北若松原遺跡では滑石製模造品が豊富で、臼玉生産を示す未成品も多く採集・報告されている(名取他 1998, pp.108-133)。塚山古墳群と対応する拠点集落の手工業生産地区と見てよい。北方の雷電山遺跡ではTK-23~47型式期の特異な長方形竪穴建物群が見られる(6:今平 1994)。

また、田川西岸において前期の中枢地域であった茂原周辺(神主台地)でも大集落が見られる。殿山遺跡 (85:大川他 1995) では、一般に「豪族居館」と呼ばれる方形区画溝の周囲で調査された 447 棟の竪穴建 物の大半が中~後期で、陶質土器(定森 1999)・初期須恵器・鍛冶遺構や、凝灰岩切石製の竈焚口枠(水野他 2005, p.36) などを伴う。権現山北遺跡(72)では中期前~中葉の竪穴 8 棟と中期末葉の 1 棟を調査している。ここでは立野 5 区と同様の円筒形土坑群も知られ、遺物からみて中期の集落に伴うらしい(大島編 1979, pp.132-145)。

中期古墳 田川の東岸では、栃木県域中央部を代表する中期古墳群である東谷古墳群が、東谷・中島地区のすぐ西側に造られる(橋本・谷中 2001)。双子塚(墳長 73m)・笹塚(100m:小森 1979,秋元・今平1998)の前方後円墳2基と、鶴舞塚(墳径 53m:梁木 1984)・松の塚(48m:谷中他 2001)・権現塚(30m)・車塚(35m)の大形円墳が北西から南東に向かって順に立地し、おおよそこの順序で築かれた可能性がある(112-118)。東谷地域における後期後半の首長墳は埴輪のない大形円墳になる。田川東岸で埴輪を持つ中期後葉の前方後円墳は墳長 40mの八龍塚古墳がある(179:秋元 1989)。中期群集墳としては東谷古墳群の東半部に含まれる円墳群(112:谷中他 2001)と、磯岡北古墳群(153:本書掲載)・中島笹塚古墳群(150:とちぎ埋文 2004, pp.41-42;同 2005)・西刑部古屋原 1,3,5,6,7 号墳(145:墳径 14~28m:清水 2002)がある。磯岡北と中島笹塚の古墳群は、立野遺跡5・6区周辺の集落に対応する墓域と推定される(第8図)。中島笹塚遺跡6・7区の円墳2基と磯岡北3号墳で小形倭鏡を各1面ずつ出土している点は(とちぎ埋文 2005b)、次に述べる田川西岸の状況と同様である。

田川をはさんだ西岸では、東岸の東谷笹塚古墳よりわずかに遅れて塚山古墳群が出現する(17:宇都宮大学 1995・2003)。また、雀宮牛塚古墳が豊富な副葬品を持つ(33:大和久 1969)。塚山古墳(墳長98.3m)→塚山西古墳(墳長63.1m)→雀宮牛塚古墳(墳長56.7m)・塚山南古墳(58.0m)の順序で、高蔵寺216~23型式期に築かれた可能性が高い。塚山西古墳・南古墳の並行期には、本村遺跡(1:宇都宮市1997,1998,2000)の2号墳(墳径24m・乳文鏡1面・銀杏葉文線刻円筒埴輪他)、城南3丁目遺跡(12:今平1996)の1号墳(墳径12.9m・木棺2基・乳文鏡1面など)のように、副葬品がやや豊富な中小古墳がつくられる。

古墳時代後期・終末期の集落 磯岡北遺跡では、今回報告地区より南側に古墳時代終末期の建物群がある。

B区に7世紀の竪穴建物が3棟あり(宇都宮市2005b, pp.13-14)、SG11 区北端部のSI -3 と SI -49 が終末期後半の竪穴建物である(藤田2003, pp.210-217)。今回報告する磯岡北3・8・9号墳に7世紀末~8世紀初め頃の須恵器が見られるのは、これらの集落から混入したものかもしれない。

また、すぐ北側の中島笹塚遺跡には後期~終末期の集落があり、 $3\sim7$ 区で竪穴建物が調査されている。 同遺跡 1 区の奈良時代集落へ継続するかどうかは不明確である(とちぎ埋文  $2001 \cdot 2004 \cdot 2005a$ )。

開析谷を挟んだ西側にある立野遺跡(108)の5・6区周辺の古墳時代集落は、終末期前半(立野遺跡8 段階=7世紀前半)まで継続する(内山2005, p.742)。中期集落として前項で挙げた周辺の各遺跡も、その多くが同様な継続および衰退状況を示す。また、後期から出現する集落も認められる。

古墳終末期後半(7世紀後半)には、古墳中~後期以来の中心的な集落遺跡が衰退する。それに代わって、砂田遺跡(103:藤田・田代 2002)と、東側の岡本台地上にある西赤堀(161:安藤 1996)・瑞穂野団地(135:岩上他 1978)・大関台(143:杉浦 2001)の各遺跡が中心的な集落になってゆく。

田川の西岸地域でも同様な状況がある。神主台地の中核的集落として中期から続く殿山遺跡(85)は、後期には向原遺跡(83:大川・三輪 2000)や向原南遺跡(84:大川・吉岡他 1992)も加わり、終末期前半まで継続する。権現山北遺跡(72)も後期後半までは集落がみられる。殿山遺跡 KT-100 などを最後として、終末期後半にはこれらの集落群が消滅し、南側の薄市遺跡(86:秋元編 1988)と北側の西下谷田遺跡(50:板橋編 2003)に中心が移る。西下谷田遺跡は竪穴建物 66 棟と掘立柱建物 40 棟の他に門を持つ 150×108m の板塀区画施設を含み、評家かと考えられている。

中期後半における田川西岸地域の中心であった塚山古墳群周辺の集落は、後期以後の状況があまり明らかになっていない。弥生後期・古墳前期の項でも触れた天狗原遺跡(36)では、古墳後期の竪穴建物跡や、立野5区と同様の円筒形土坑・円形周溝遺構が見られる。関道遺跡(8:赤石澤1988)は古墳後期から奈良時代まで続いて形成されたようである。

後期・終末期古墳 田川東岸の後期前半の古墳では、琴平塚1号墳が最大である(154:墳長52m・二重周溝、中村2004)。ただし中期末の可能性もある。笹塚古墳以降の東谷・中島地区周辺でしばらく途絶えていた前方後円墳と埴輪樹立がここで再開する。他には、墳長31mのしらみ塚古墳がある(172の西部:秋元2000)。田川西岸の後期前半では、墳長48.8mの上神主狐塚古墳が最大である(62の北西部:石部・秋元編1995)。琴平塚1号・上神主狐塚・しらみ塚は、いずれも前方部が短い帆立貝形前方後円墳である。

後期前半から形成される群集墳が、琴平塚1号墳を中心として見られる(中村2004)。下桑島西原古墳群(102:今平他2002)では後期前半の円墳2基と後期後半の墳長35mの前方後円墳1基(140:南原古墳)が知られ、周溝内の木棺直葬・竪穴式小石室や、古墳外の土壙墓も見られる点が琴平塚古墳群と同様な時期・群構成である。

後期後半には古墳が一気に増加し、群集墳が盛行する。前方後円墳は群集墳に含まれて存在する(中村 2004, p.190)。田川の東岸域では、墳長 68m の上郷瓢箪塚古墳が最大規模である(172 の東端:前澤 1979,p.414)。東谷・中島地区では琴平塚 3 号墳(墳長 25.0 m)と 5 号墳(墳長 23.7m)がある。周辺には、墳長 50.5m の久部愛宕塚古墳(124:梁木他 1995)、31 ~ 35m の根本西台 1・2・5 号墳(136:宇都宮市 2000,p.31)、38.5m の飯塚古墳(138:斎藤他 2003)、墳長 30 ~ 40m の西刑部古屋原 8 号墳(152:清水 2002)、42m の西赤堀 1 号墳と 27m の同 2 号墳(161:安藤編 1996)、39m の西赤堀狐塚古墳(168:大川・水野他 1987)、36m の高尾神社古墳(183:内山 1998,2000)などがある。消滅した墳長 36 mの屋敷東浦愛宕塚古墳(165:前澤 1979, p.398)も後期後半と推定される。終末期の大形円墳と考えられるの

は墳径 43.5m の下栗大塚古墳である (98:宇都宮市 1996, pp.2-3)。後~終末期の群集墳は成願寺遺跡 (144: 篠原編 2000) と西赤堀遺跡 (161: 安藤編 1996)、単独で所在する終末期後半の小形方墳は立野遺跡 5 区 (108: 内山 2005, pp.396-398) で見られる。

田川の西岸地域では、推定墳長 40~50mの綾女塚(27:秋元・飯田・篠原 1998)、30~40m 前後の針ヶ谷二子塚(35:宇都宮市 1990)、43mの大山瓢箪塚(62の南端:前沢 1979)、47.4mの後志部(82の中央:石部他 1998)が後期後半の前方後円墳である。墳形不明の十里木古墳(24:宇都宮市 1998, p.16)は切石の横穴式石室を持ち、7世紀初葉とされている(秋元・飯田・篠原 1998, pp.114,128)。市街地化していない地域では、これら首長墳の周囲に群集墳を確認できる(62大山古墳群と82神主古墳群)。

奈良・平安時代 今回報告する地区では、磯岡北2・3・8・9号墳とSG18区SD-29に7世紀末~ 奈良時代の須恵器が少量混入していた程度である。磯岡北遺跡から南西(権現山・杉村・杉村北遺跡)と北東(西刑部西原遺跡)に続く古代道路状遺構は東山道と推定されている(藤田2003・亀田1999)。この道路状遺構を除くと、磯岡北遺跡では、奈良・平安時代の遺構・遺物が少ない。磯岡北遺跡 SG3区とSG4区で単独の竪穴建物がそれぞれ調査されている(藤田2003, pp.167-172,177-179)。

開析谷を挟んだ西側にある立野遺跡 (108) でも古代の遺構が希薄で、5区に奈良時代末頃の単独建物がある。このようにごく少数の竪穴建物が見られる例は、杉村遺跡で8世紀代の2棟(藤田・安藤 2000)、権現山遺跡 SG10区 (調査時名称は杉村 X区:とちぎ埋文 2000, p.32) と中島笹塚遺跡 4区 (とちぎ埋文 2001, p.34) で8~9世紀代の各1棟がある。立野遺跡では4・7・8区の大溝と、その溝に降りてゆく2区の道路状遺構が注意される (内山 2005, pp.748-749)。

古代の集落としては、一段高い東側の岡本台地の遺跡が大規模である一猿山(134:川原他 1981; 常川他 1978)・瑞穂野団地(135:岩上他 1978)・大関台(143:杉浦 2001)・西刑部西原 3 区(146:とちぎ埋文 2001, pp.39-40)・西赤堀(161:安藤 1996)など。遺跡の立地が総じて東側へ進んでゆくことが指摘されている(橋本 2002, p.13)。東谷・中島地区遺跡群の多くが立地する田原低台地では、砂田遺跡が最も大規模である(103:芹澤 1993;藤田・田代 2002)。砂田遺跡 3 区 SI - 97 には「中嶋」の墨書土器があり、『倭名抄』の郷名に見られない「中島」の地名が9世紀から現代まで続くことを示した。中島笹塚遺跡(150)の1 区で奈良時代集落の一部(とちぎ埋文 2001, pp.39-40)、同遺跡 6・8 区では奈良時代の溝や、溝をわたる道路が調査されている(とちぎ埋文 2004,pp.41-42; 同 2005a,pp.43-44)。磯岡遺跡(164)でも8~9世紀代の竪穴建物や掘立柱建物が少数あり、特殊な遺物として漆紙文書の具注暦(塚原編 1999, pp.442-445)や、円面硯・獣脚・鉄鉢形土器(津野 2005, p.103,112,117,294)が見られる。

田川の西岸台地上にある上神主・茂原遺跡(79:秋元・保坂 1999; 深谷他 2003)は、西下谷田遺跡を引き継ぐように7世紀後葉に成立する。推定東山道に取り付く位置にあり、奈良時代における河内郡家の政庁と、人名瓦を伴う瓦葺の倉を中心とする正倉群と考えられている。また、多功遺跡(69:秋元他 1997)も河内郡衙と推定されている。

中世 台地の東端(SG16  $\boxtimes$  SD - 29)から中央部(SG18  $\boxtimes$  SD - 29)を経て西端(SG12  $\boxtimes$  SD - 29 と SG12・17  $\boxtimes$  SD - 26A・26B)まで、2・3 号墳の東側周溝も利用しながら伸びる長い溝が、磯岡北遺跡の北端部に認められる。SG16  $\boxtimes$  で SD - 29 に合流する同時期の溝 SD - 3 には、13 世紀ころと思われるかわらけが見られる。3・8・9 号墳周溝には常滑産陶器(こね鉢や13 世紀前半頃の甕)・青磁碗・かわらけが見られ、磯岡北古墳群周辺を中世に利用していたようである。集落に関わる遺構としては方形竪穴があり、磯岡北遺跡 SG3  $\boxtimes$  で 1 基(153:藤田 2003,p.173)と、同じく磯岡北遺跡の一部に含まれる「杉村北

遺跡」(亀田 1999)で2基が確認され、後者では井戸が隣接している。

開析谷を挟んですぐ西側の立野遺跡(108)では、5区に方形区画溝・8区に方形竪穴遺構1基(内山 2005)、宇都宮市調査A地区に方形竪穴遺構群(水野他 2005)がある。方形区画溝は権現山遺跡SG10区(調 査時名称は杉村X区:とちぎ埋文 2000, p.32) にもあり、こちらは区画の内外に柱穴群や井戸を伴う。

東谷・中島地区の周辺は、鎌倉・室町時代において宇都宮氏および芳賀氏の支配下にあったことが知られ ている。小規模な城館として刑部城(186の北東1km)・桑島城(184)・高島館(163)がある。また北方 には石井城(182)・さるやま城(133: 宇都宮市 2005b, p.12)があり、これらの分布から、中世から鬼怒 川低地の開発が本格的に行われたものと考えられている(橋本 2002, p.19)。大関台遺跡(143)の方形区 画溝を戦時の臨時拠点と考える意見がある(杉浦 2001, p.386)。立野遺跡 5 区の方形区画溝はより小規模 で溝も浅く、大関台遺跡と同様な性格を考えてよいかどうかは不詳である。

(第2章第2節 参考文献)

赤石潭亭 1988 『関道遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告 第25集 宇都宮市教育委員会

秋元陽光編 1988『薄市遺跡・大山遺跡』上三川町埋蔵文 化財調查報告第7集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡) 秋元陽光編 1989『八龍塚古墳』上三川町埋蔵文化財調査報告第8集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡)

報告第8集 上三川町教育委員云(栃木県河内部) 秋元陽光編 2000『上三川町の古墳』 I 上三川町埋蔵文 化財調査報告第21集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡) 秋元陽光 2003「上三川町における古墳の素描-古墳か ら見た古墳時代後期集団の抽出-」『栃木の考古学』 塙静 夫先生古稀記念論文集「栃木の考古学」刊行会(宇都宮) pp.225-238.

:225-238. 秋元陽光・飯田光央・篠原真理 1998「綾女塚古墳の課 」『栃木県考古学会誌』第19集 栃木県考古学会 字都宮 題 pp.109-133.

秋元陽光・大橋泰夫 1988「栃木県南部の古墳時代後期の 首長墓の動向」『栃木県考古学会誌』第9集 栃木県考古学 宇都宮 pp.7-40.

秋元陽光・君島利行・諏訪間伸・藤田典夫・植木茂雄 1985 『大町遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第5集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡) 秋元陽光・今平利幸 1998 「宇都宮市東谷笹塚古墳出土の

遺物」『峰考古』第13号 宇都宮大学考古学研究会 宇都宮 pp.41-64.

秋元陽光・保坂知子・及川真紀 1997『多功遺跡』III 三川町埋蔵文化財調査報告第16集 上三川町教育委員会(栃

秋元陽光・保坂知子1999『上神主・茂原遺跡』 Ι 川町埋蔵文化財調査報告第19集 上三川町教育委員会(栃木 県河内郡)

安藤美保編 1996 『西赤堀遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第178集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業

五十嵐利勝 1979「権現山北遺跡採集の石器について」 『権現山北遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第5集 宇都

宮市教育委員会 pp.177-182. 五十嵐利勝 1981「宇都宮市二軒屋遺跡発掘調査報告」 『下野考古学』 2 下野考古学研究会 宇都宮 pp.1-140. 石部正志・秋元陽光編 1994 『上神主浅間神社古墳・多功

大塚山古墳』上三川町埋蔵文化財調査報告第12集 上三川町

教育委員会(栃木県河内郡) 石部正志・秋元陽光編 1995『上神主狐塚古墳』上三川町 埋蔵文化財調査報告第13集 上三川町教育委員会(栃木県河 内郡)

石部正志・秋元陽光・飯田光央編 1998『後志部古墳』上 三川町埋蔵文化財調査報告第17集 上三川町教育委員会(栃 木県河内郡)

板橋正幸編 2003『西下谷田遺跡』栃木県埋蔵文化財調査 報告第273集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文 化財団

岩上照朗・石橋知明編 1978『宇都宮市瑞穂野団地遺跡』 宇都宮市埋蔵文化財調查報告第4集 宇都宮市教育委員会 内山敏行 1998「宇都宮市上桑島町 高尾神社古墳発掘調

香報告(1)」『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』20 平成 8年度(1996) 栃木県埋蔵文化財調査報告第217集 栃木

内山敏行 2000「宇都宮市上桑島町 高尾神社古墳発掘調

查報告(2)」『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』22 平成 10年度(1998) 木県教育委員会 栃木県埋蔵文化財調査報告第233集 栃

内山敏行 2005 『東谷・中島地区遺跡群5 立野遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第290集 栃木県教育委員会・

(財)とちぎ生涯学習文化財団 宇都宮市教育委員会社会教育課編 1983『宇都宮の遺跡』 宇都宮市埋蔵文化財調査報告第10集

宇都宮市教育委員会 1990『宇都宮市文化財年報』第6号 〔平成元年度〕

宇都宮市教育委員会 1992『宇都宮市文化財年報』第8号 [平成3年度]

宇都宮市教育委員会文化課 1994『宇都宮市文化財年報』 第10号〔平成5年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 1996『宇都宮市文化財年報』 第12号〔平成9年度

宇都宮市教育委員会文化課 1997『宇都宮市文化財年報』 第13号〔平成8年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 1998『宇都宮市文化財年報』 第14号〔平成9年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 2000『宇都宮市文化財年報』

第15号〔平成10年度〕 宇都宮市教育委員会文化課 2003 『宇都宮市文化財年報』 第18号 [平成13年度]

宇都宮市教育委員会文化課 2004『宇都宮市文化財年報』 第19号〔平成14年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 2005a「磯岡北遺跡 円墳埋葬 法体部の箱式石棺を確認」「新資料速報展2005」。p.4. 宇都宮市教育委員会文化課 2005b『宇都宮市文化財年報』 主体部の箱式石棺を確認」

第21号(平成16年度) 宇都宮大学考古学研究会 1995「塚山古墳外形確認調査報告」『峰考古』第9号

宣言大学考古学研究会 2003 『塚山西古墳 塚山南古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第48集 宇都宮市教育委員

江原美奈子・深谷昇 2004 『島田遺跡』III 上三川町埋蔵 化財調査報告第28集 上三川町教育委員会(栃木県河内 文化財調査報告第28集

海老原郁雄 2004「アメリカ式石鏃とその周辺」『唐澤考古』第23号 唐澤考古会 佐野 pp.1-16. 大川清・水野順敏・矢野淳一 1987『栃木県上三川町 西

大川清・水野順敏・矢野淳一 1987 『栃木県上三川町 西 赤堀狐塚古墳』上三川町教育委員会(栃木県河内郡) 大川清・三輪孝幸 2000 『向原遺跡』上三川町埋蔵文化財 調査報告第22集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡) 大川清・吉岡秀範・三輪孝幸・中島雄一 1992 『栃木県上 三川町 上ノ原・向原南遺跡』日本窯業史研究所報告第43冊

三川町 上ノ原・向原南 馬頭(栃木県那須郡)

大川清·吉岡秀師・三輪孝幸・中島雄一 1995『栃木県上三川町 殿山遺跡 I 』日本窯業史研究所報告第46冊 馬頭 (栃木県那須郡)

(栃木県那須雨) 大島和子編 1979『権現山北遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調 査報告第5集 宇都宮市教育委員会 大関利之 1992『宇都宮市柿木坂遺跡の加曾利 E 式土器」 『栃木県考古学会誌』14 宇都宮 pp.93-100. 大和久震平 1969『雀宮牛塚古墳』宇都宮市教育委員会 (1984年『牛塚古墳』として再版) 亀田幸久 1999『大村北遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告 第2314 振大県教育委員会、保地振大県立化特関東業界

第221集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団

川原由典·中山晋 1981 『猿山遺跡 付久部台古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第38集 栃木県教育委員会· 神野安伸 1994 『天狗原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報 告第34集 宇都宮市教育委員会

人保哲三編 1990 『茂原古墳群』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第28集 宇都宮市教育委員会

含田芳郎編1971『栃木日産遺跡』先史7 駒沢大学考古 東京

栗田欣行 2005 『磯岡遺跡第2次調査報告』上三川町埋蔵 文化財調査報告第32集 上三川町教育委員会(栃木県河内

, 小森哲也 1979「宇都宮市笹塚古墳出土の円筒埴輪の年代 的位置づけ」『峰考古』第2号 宇都宮大学考古学研究会 字都宮 pp.60-83。 今平利幸 1993 『牛塚東遺跡』字都宮市埋蔵文化財調査報

告書第32集 宇都宮市教育委員会

今平利幸 1994『雷電山遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報 告書第34集 宇都宮市教育委員会

今平利幸 1996 『城南 3 丁目遺跡』 宇都宮市埋蔵文化財調

查報告書第39集 宇都宮市教育委員会 今平昌子 1999『一本松遺跡・文珠山遺跡』栃木県埋蔵文 化財調査報告第230集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文 化振興事業団

学術論集』第15集 韓国文化研究振興財団 東京 pp.5-93. 篠原浩恵編 2000『成願寺遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報

告第239集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業

清水正幸 2002 『西刑部古屋原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財 調査報告第46集 宇都宮市教育委員会 下野考古学研究会 1993「石川坪遺跡」『下野考古学』19

杉浦昭博編 2001『大関台遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報 告第251集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化

芹澤清八 1993『砂田A遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告

芹澤清八 1993『砂田A遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第132集 栃木県教育委員会 芹澤清八 2003「大曲北遺跡出土尖頭器の再評価」『栃木 県考古学会誌』24 栃木県考古学会 宇都宮 pp.5-20. 高野浩之・戸部孝一・深谷昇・平岡和夫 2004『磯岡遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第29集 都市基盤整備公団・上三川町教育委員会・山武考古学研究所 田代隆・藤田直也 2002『東谷・中島地区遺跡群2 砂田遺跡(1区・2区・3区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第265集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団田代 寛 1968『鉢木遺跡の袋状土壙』塩谷郷土史館研究

田代 寛 1968『鉢木遺跡の袋状土壙』塩谷郷土史館研究報告第2集 氏家(栃木県塩谷郡)

田代己佳 1996『宮の内A遺跡・宮の内B遺跡』栃木県埋 蔵文化財調査報告第175集 栃木県教育委員会・(財) 栃木 県文化振興事業団

塚原孝一編 1999『東谷・中島地区遺跡群 No.1 磯岡遺跡 (I区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第229集 栃木県教 育委員会・(財)栃木県文化振興事業団

常川秀夫・山野井清人 1978『猿山A遺跡』栃木県埋蔵文 化財調査報告第24集(原本では第20集と記載) 栃木県教

仁 2005『東谷・中島地区遺跡群 6 磯岡遺跡 (2 年野 1. 2005 『東合・甲島坦区/遺跡俳节 磯岡遺跡(2~7区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第292集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 寺内武夫・篠崎善之助 1939a「下野中原遺跡調査概報―第一回―」『考古学』10-10 東京考古学会 pp.514-527. 寺内武夫・篠崎善之助 1939b「下野中原遺跡調査概報―第一覧」が調査概報―第

二回一」『考古学』10-11 東京考古学会 pp.537-555. 栃木県教育委員会事務局文化課1988『栃木県埋蔵文化財

保護行政年報 〔昭和62年度〕』栃木県埋蔵文化財調査報告

栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 『埋蔵文 化財センター年報』第7号(平成9年度) 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『埋蔵文

が不宗文化振興事業団座蔵文化財センター 1999『埋蔵文化財センター年報』第9号(平成11年度) 栃木県立なす風土記の丘資料館 1999『栃木の遺跡』第7回企画展図録 小川(栃木県那須郡)p.45 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999『埋蔵文化財センター年報』第9号(平成11年度版)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2000『埋蔵

文化財センター年報』第10号(平成12年度版)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2001 『埋蔵 文化財センター年報』第11号(平成13年度版)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2002 『埋蔵

文化財センター年報』第12号(平成14年度版) とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2003『埋蔵文化財センター年報』第13号(平成15年度版)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2004 『埋蔵

文化財センター年報』第14号(平成16年度版) とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター - 2005a 『埋蔵

文化財センター年報』第15号(平成17年度版) とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2005b「中島

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2005b | 中島 笹塚遺跡と磯岡北遺跡」『栃木県埋蔵文化財センターだより やまかいどう』No.39 栃木県教育委員会 p.5. とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2006a 『埋蔵 文化財センター年報』第16号(平成18年度版) とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2006b 「砂田 姥沼遺跡3区」『栃木県埋蔵文化財センターだより やまか いどう』No.41 栃木県教育委員会 p.5. 中村享史 2004『東谷・中島地区遺跡群4 琴平塚古墳 群』版末』開藤文化財理本報先第283集 版末』 期春奈島

群』栃木県埋蔵文化財調査報告第283集 栃木県教育委員 (財) とちぎ生涯学習文化財団

中山 晋 1996『砂田東遺跡・上横田A遺跡』栃木県埋蔵 文化財調査報告第176集 栃木県教育委員会・(財)栃木県 文化振興事業団

名取昌昭·武藤健三·五十嵐利勝 1994「宇都宮市二軒屋 遺跡第二次調査報告」『下野考古学』21 下野考古学研究会

宇都宮 pp.1-146. 名取昌昭・武藤健三・五十嵐利勝 1996「雀宮周辺の分 布調查 6」『下野考古学』24 下野考古学研究会 宇都宮

名取昌昭・武藤健三・五十嵐利勝 1998「雀宮周辺の分布調査 補足編」『下野考古学』26 宇都宮橋本澄朗・谷中隆 2001「『東谷古墳群』と権現山遺跡・百目鬼遺跡」『権現山遺跡・百目鬼遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第257集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学 習文化財団

橋本澄朗 2002 「大谷磨崖仏造像の歴史的背景について」 『研究紀要』10 (財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財

深谷昇·梁木誠·田熊清彦 2003『上神主·茂原官衙遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第27集·宇都宮市埋蔵文化 財調査報告第47集 上三川町教育委員会·宇都宮市教育委員

藤田直也 2003『東谷・中島地区遺跡群 3 推定東山道関連地区』栃木県埋蔵文化財調査報告第274集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団藤田直也・田代隆 2002『東谷・中島地区遺跡群 2 砂田

遺跡(1区・2区・3区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第 265集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団藤田典夫・安藤美保編 2000『杉村・磯岡・磯岡北』栃木

県埋蔵文化財調査報告第241集 栃木県教育委員会・(財)栃 木県文化振興事業団

小県又化版興事業団 前沢輝政 1979「原始・古代編」上三川町史編さん委員会 編『上三川町史』資料編 原始・古代・中世 上三川町 水野順敏・河野一也・栗田欣行 2005『立野遺跡(A地区)』独立行政法人都市再生機構・宇都宮市教育委員会・株 式会社日本窯業史研究所

森嶋秀一 2004 「204. 上三川町・宇都宮市上神主・茂原官

無調が 2004 「204 「上 川川」 「子町石川上村王・ 人原旨 衙遺跡出土の大型尖頭器」 『Aesculus』 No.22 Aesculus同 人(栃木県石器時代研究会) 宇都宮 pp.1-3. 安永真一 2001 『上神主・茂原 茂原向原 北原東』栃木 県埋蔵文化財調査報告第256集 栃木県教育委員会・ (財) とちぎ生涯学習文化財団

こうさ土(年子自文)に財団 谷中隆・大島美智子編 2001 『権現山遺跡・百目鬼遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第257集 栃木県教育委員会・ (財)とちぎ生涯学習文化財団

梁木誠 1984『鶴舞塚古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告 第13集 宇都宮市教育委員会 梁木誠・今平利幸1995『久部愛宕塚古墳・谷口山古墳・

御蔵山古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第37集 宇都宮市 教育委員会

山崎芳家 1970「宇都宮市兵庫塚A地点・B地点および 田崎万家 1970 「子前宮市大庫塚A地点・B地点ねるなが 針ケ谷遺跡について」『足跡』 2 宇都宮学園高等学校地 理・歴史研究会 宇都宮 pp.22-26。 渡辺邦夫・上野修・993 「宇都宮市石川坪遺跡出土の石製 品」『Aesculus』 19 Aesculus同人 宇都宮 pp.15-16.

# 第3章 調査区の配置と標準土層

## 第1節 磯岡北遺跡における調査区の配置と概要

磯岡北遺跡は、田川東岸の低台地を南北方向に開析する「中島谷田」の谷へ傾斜する台地西端に立地する。 東谷・中島土地区画整理事業用地内の東部に所在し、今回報告する範囲は、この磯岡北遺跡の北端部で、標 高約84m、低地との比高は約2mである。南側には、開析谷を隔てて磯岡遺跡が所在する。また北東側には、 無名瀬川〔むなせがわ〕の開析谷を隔てて、琴平塚古墳群(西刑部西原遺跡1区~2区)が所在する。

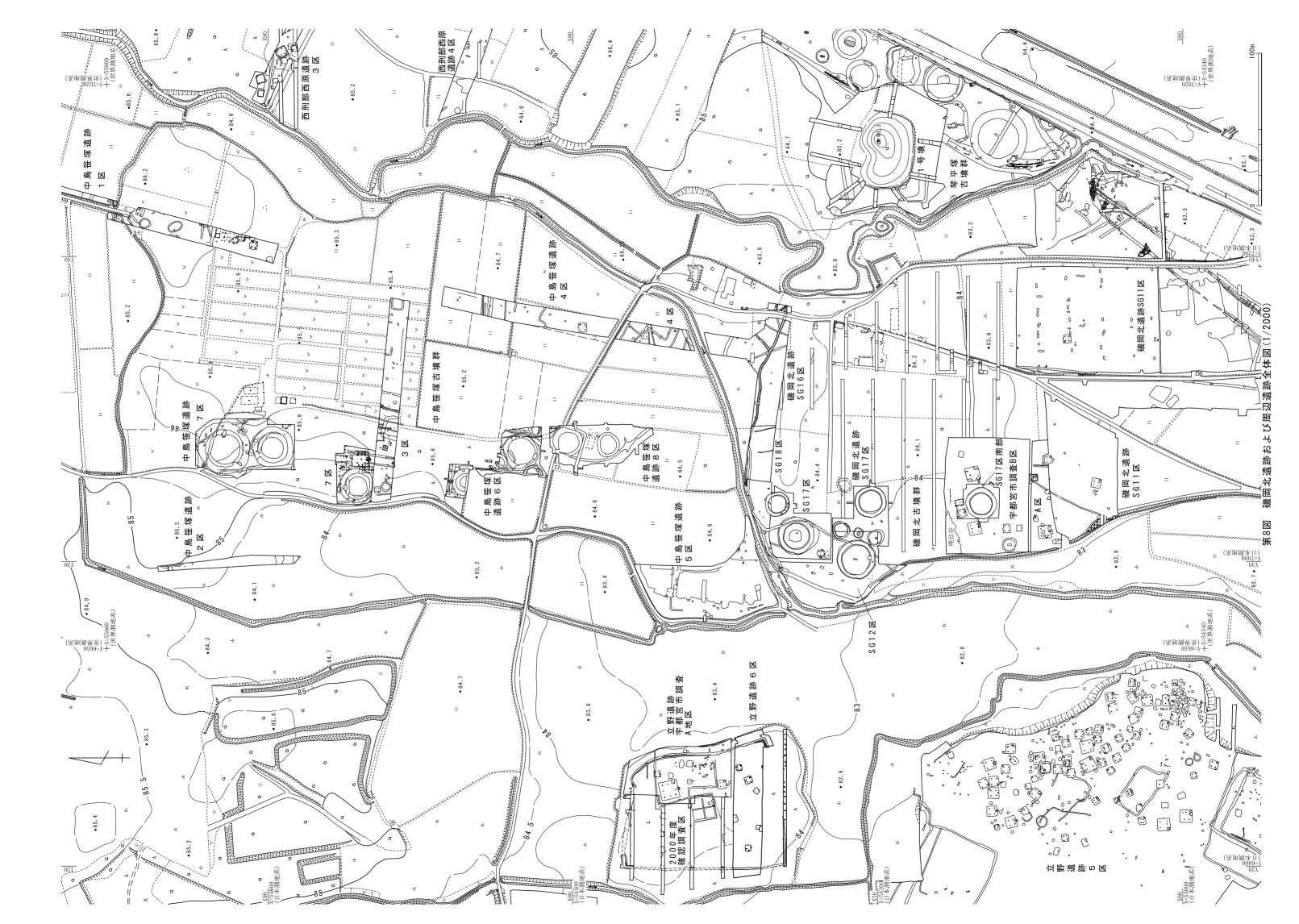
磯岡北遺跡の北側は「中島笹塚遺跡」である。近〜現代の農業用水路を境界にして、磯岡北遺跡と中島笹塚遺跡を呼び分けている。中島笹塚遺跡は古墳後期・奈良・平安時代の集落跡で、古墳中期の群集墳(中島笹塚古墳群)も含む。中島笹塚古墳群と、磯岡北遺跡の中期群集墳(磯岡北古墳群)との間には、本調査および確認調査の結果によると古墳の空白部があり、そこには古墳中〜後期の竪穴建物跡や円筒形土坑が所在する(中島笹塚遺跡 5 区)。

磯岡北遺跡では、 $SG3 / SG4 / SG6 / SG11 / SG12 / SG14 / SG16 / SG17 / SG18 の各地区 (藤田 2003) と、北関東自動車道路インターチェンジ部分の調査 (藤田・安藤編 2000) を、埋蔵文化財センターが実施している。この他に、<math>SG7 \cdot SG8 \cdot SG13$  区として調査が実施されたが、この3地区からは遺構・遺物が確認されなかった (藤田 2003, p.10)。

「磯岡北遺跡」と総称する範囲では、以下のような遺構群が主に調査されている。

- ア)縄文時代中期(阿玉台式期)住居跡…遺跡北端部のSG17区
- イ)縄文時代中期(加曽利E式期)土坑…遺跡南部の北関東自動車道路調査区
- ウ)縄文時代後期(堀之内1・加曽利B式期)土坑と包含層…遺跡南部のSG3区と「杉村北遺跡」調査区
- エ) 弥生時代中期後半(川原町口式並行期) 竪穴建物跡と土坑…遺跡南部の北関東自動車道路調査区
- オ) 古墳時代中期中葉の集落と中期末葉の竪穴建物跡
  - …遺跡中央部の SG11 区北端部・SG 17 区南部と宇都宮市教育委員会調査のA区・B区
- カ) 古墳時代中期後葉の群集墳(磯岡北古墳群)
  - …遺跡北端部の SG12・SG17 区および宇都宮市教育委員会調査の B 区
- キ) 古墳時代終末期の竪穴建物跡
- …遺跡中央部の SG11 区および宇都宮市教育委員会調査 B 区の集落と、遺跡南部の SG 3 区および北関東自動車道路調査区
- ク)「推定東山道」(古代道路状遺構)と周辺の古代竪穴建物跡…遺跡中央~南部の SG 3・4・6・11・14 区および「杉村北遺跡」調査区と、その南西に続く北関東自動車道路調査区
- ケ) 中世溝状遺構…遺跡北端部の SG12・16・17・18 区
- コ)中世方形竪穴と井戸…遺跡南部の SG 3 区と「杉村北遺跡」調査区、北部の 2005 年度確認調査区本書では、磯岡北遺跡の北端部である SG12 区と SG16 ~ 18 区の調査成果を報告する。上記のうちア・カ・ケと、オの古墳中期中葉の竪穴建物のうち 1 棟が該当する。

SG3,4,6,7,8,11,13,14 区の調査成果は『東谷・中島地区遺跡群3』(藤田2003)、北関東自動車道路調査区の成果は『杉村・磯岡・磯岡北』(藤田・安藤編2000)、ク・コの南半部の調査成果は『杉村北遺跡』(亀田1999)ですでに報告されている。宇都宮市教育委員会による調査区(磯岡北遺跡A区・B区)では、



SG17 区 9 号墳の周辺から SG11 区北西端までの間で、箱式石棺を主体部とする計 9m の円墳 1 基と、古墳 時代の竪穴建物 7 棟を調査している(宇都宮市教委 2005a・b)。

本書で報告する各調査区における遺構の種類と数は、以下のとおりである。

SG12 区……縄文時代の陥穴状土坑1・遺物集中地点1/古墳時代の円墳5・竪穴式小石室1・土壙墓3/中世の溝3/時期不明の土坑5・柱穴7

SG16 区……縄文時代の土坑1/古墳時代の溝1/中世の溝2・土坑2/時代不明の溝5・土坑10

SG17 区……縄文時代の竪穴建物跡 1・土坑 1・遺物集中地点 1 / 古墳時代の円墳 7・土壙墓 2・(2号墳の) 周溝内土坑 1・竪穴建物 1・遺物集中地点 2 / 中世の溝 1 / 時期不明の溝 1・土坑 4

SG18 区…中世の溝1/時期不明の溝3・土坑1

1995 (平成7) 年度確認調査区……古墳時代の円墳1・埴輪棺1

2005 (平成 17) 年度確認調査区……中世の方形竪穴遺構 1 / 時期不明の溝

第3表 磯岡北遺跡の各調査区と調査古墳の対応

調査区名	1 号墳	2 号墳	3号墳	4 号墳	5 号墳	6 号墳	7号墳	8 号墳	9 号墳	市調査1号墳
95 年度確認調査区							0			
SG12区	0		$\circ$	$\circ$	$\circ$	$\circ$				
SG17区	0	$\circ$		$\circ$	$\circ$	$\circ$		$\circ$	$\circ$	
宇都宮市調査B区										0

## 第2節 磯岡北遺跡と周辺の土層

磯岡北遺跡 SG12・SG16・SG17・SG18 区の標準土層は、次のとおりである(第9図)。

- I 表土 腐植層
- Ⅱ 古墳時代以前に形成された旧表土層
  - IIa 黒褐色

IIb 層と類似し、古墳墳丘外に広がる層 くすんだ褐色土と黒色土が混在 粘性やや強 しまり強 IIb 黒褐色(墳丘下の旧表土)

くすんだ褐色土と黒色土が混在 粘性やや強 しまり強 古墳周溝外にある IIa 層よりも粘度が低く白色テフラ粒も多い

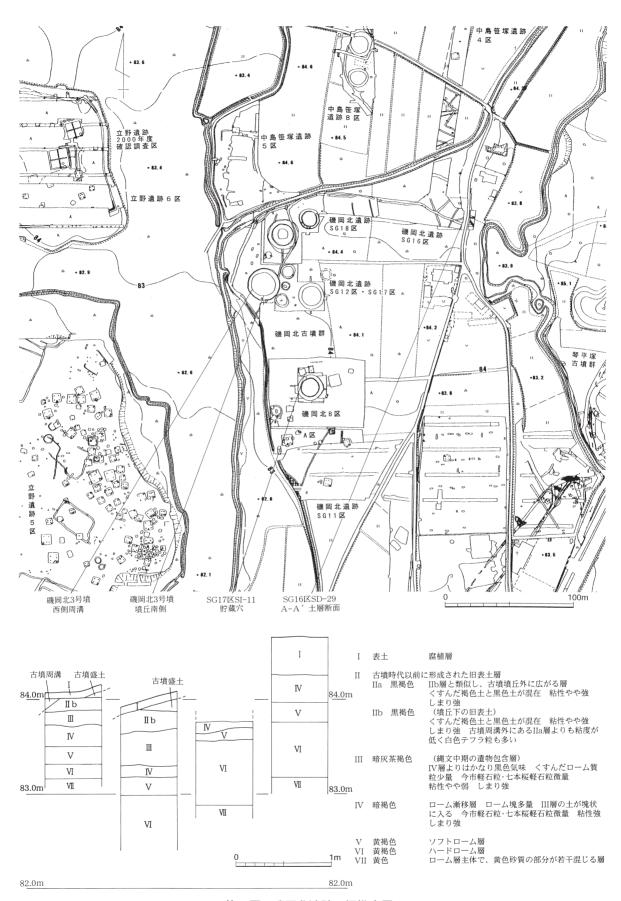
Ⅲ 暗灰茶褐色 (縄文中期の遺物包含層)

IV 層よりはかなり黒色気味 くすんだローム質粒少量 今市・七本桜軽石粒微量 粘性やや弱 しまり強

IV 暗褐色

ローム漸移層 ローム塊多量 III 層の土が塊状に入る 今市・七本桜軽石粒微量 粘性・しまり強

- V 黄褐色 ソフトローム層
- VI 黄褐色 ハードローム層
- VII 黄色 ローム層主体で、黄色砂質の部分が若干混じる層



第9図 磯岡北遺跡の標準土層

この東谷・中島地域周辺では古墳時代に堆積した土層内に Hr-FA 層が確認されることがかなり一般的で、多くの分析事例がすでに報告されている(註)。開析谷をはさんだすぐ西側にある立野遺跡 5 区でも、磯岡北古墳群と同時期の古墳時代中期竪穴建物跡の埋土中に、全く同様の白色テフラが集中する層の事例が見られる。このような点から見て、磯岡北古墳群の周溝内のテフラは Hr-FA と判断できる。

II 層は、磯岡北古墳群の古墳が築造された古墳時代中期後葉よりも前に形成された黒褐色土(腐植層)である。古墳盛土の下敷きになっている IIb 層と、2・8・9号墳で古墳周溝外の一部に残っている IIa 層とがある。IIa 層が観察される地点は少ないので、土壌化されて I 層(表土)に変化してしまった場合が多かったものと思われる。3号墳の墳丘下では、IIb 層中にテフラの可能性が高い白色粒子が観察されている。これは、古墳時代前期に降下した浅間 C 軽石層(As-C)の可能性がある。

III 層は、縄文時代中期の遺物包含層であり、SG12 区・SG17 区にまたがる遺物集中地点 SX-42 で阿玉台式土器がこの層から出土している。III 層の下にある IV 層に、阿玉台式期の竪穴建物跡が掘り込まれている(SG17 区 SI-15)。

IV 層は、約  $1.2 \sim 1.3$  万年前に降下した男体七本桜軽石(Nt-S)と男体今市軽石(Nt-I)の粒を含むので、縄文時代草創期頃に相当する。この軽石粒は III 層まで分布している。

V層以下は更新統である。このV層は、開析谷をはさんだすぐ西側台地上にある立野遺跡の標準土層 IV 層に対応する。立野遺跡 IV 層中には、約  $1.3\sim1.4$  万年前に降下した浅間板鼻黄色軽石(As-YP)の降灰層準があると見られる(下記註の古環境研究所 2005b, pp.497,499)。

ローム層(V・VI層)の下部には VII層(黄色砂質まじり土層)があり、古墳時代~中世遺構が深い部分の地山面で確認された。SG12 区の 3 号墳(西側周溝の底面)、SG17 区の SI - 11(貯蔵穴の底面)、SG17 区 SD - 26A の底面付近(p.177 の第 101 図 J - J')、SG16 区の SD - 29 底面(p.193 の第 113 図 B - B')において見られる。磯岡北遺跡 SG12・16・17 区の VII 層は、前述した立野遺跡の標準土層 VI 層に対応する。立野遺跡 VI 層中には、約 1.7 万年前に降下した浅間大窪沢第 1 軽石(As-Ok1)に由来すると考えられる火山ガラスが少量認められ、このテフラの降灰層準があると見られている(下記註の古環境研究所2005b, pp.497,499)。

VII 層と異なる土層がローム層下部にみられる地点としては、 $SG17 \boxtimes SD - 26A$  の底面付近(p.177 の第  $101 \boxtimes K - K'$ )において、VI 層の下にクリーム色の粘土層が認められている。 $SG12 \boxtimes 03$  号墳の周溝底面がもっとも深くなる南側周溝の地山面を観察すると、かなり低いレベルまでローム層(VI 層)が見られ、VII 層が現れていない。

(註)

古環境研究所 1999「栃木県、磯岡遺跡 I 区の自然科学分析」『東谷・中島地区遺跡群No.1 磯岡遺跡( I 区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第229集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団 pp.409-411.

古環境研究所 2000「テフラ分析」『杉村・磯岡・磯岡北』栃木県埋蔵文化財調査報告第241集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団 pp.377-384.

古環境研究所 2004「栃木県西刑部西原遺跡の土層とテフラ」『東谷・中島地区遺跡群 4 琴平塚古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第283集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 pp.197-203.

古環境研究所 2005a「立野遺跡 5 区竪穴建物跡の古墳時代火山灰」『東谷・中島地区遺跡群 5 立野遺跡』栃木県埋

## 第3章 調査区の配置と標準土層

蔵文化財調査報告第290集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 pp.389-390. 古環境研究所 2005b「立野遺跡 5 区のテフラ分析」『東谷・中島地区遺跡群 5 立野遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第290集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 pp.496-500. 古環境研究所 2005c「磯岡遺跡の自然科学分析 I. 磯岡遺跡のテフラ分析」『東谷・中島地区遺跡群 6 磯岡遺跡(2~7区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第292集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 pp.302-305. 古環境研究所 2005d「磯岡遺跡の自然科学分析 I. 磯岡遺跡の土層とテフラ」『東谷・中島地区遺跡群 6 磯岡遺跡(2~7区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第292集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 pp.309-313.

# 第 4 章 磯岡北遺跡 SG12 区 · SG17 区

## 第1節 縄文・弥生時代の遺構と遺物

SG12 区と SG17 区では、縄文中期の竪穴住居跡 1・遺物集中地点 1 と、詳しい時期不明の縄文時代土坑 2・陥穴状土坑 1・柱穴状土坑 6 があり、縄文早~晩期の土器とそれに伴う石器が出土した。早期(撚糸文期)の遺物がやや目立つ。他に、縄文草創期の有舌尖頭器、弥生後期の可能性がある石鏃も出土している。

## 4.1.1. 遺構外出土の縄文土器

SG12 区・SG17 区において、縄文時代の遺構以外から出土した縄文土器をここで報告する。

## 【縄文早期の遺物と出土位置】

早期の井草式土器の破片と、石器を製作する際に出た剥片がやや多く出土した地点が1箇所ある。SG17区の南部(66 - 31および66 - 32グリッド)にある9号墳の盛土を除去した下で、旧表土の黒色土層(IIb層~III層)に遺物が散在して見られた。遺物量は少なく、9号墳周溝や周辺の試掘トレンチ(TX66)で出土したものを含めても、口縁部破片で数えて13片である。9号墳の盛土下以外にも、SG17区の各所から少量ずつ出土している井草式土器片も、9号墳盛土下の遺物群と関連する生活痕跡を示していると判断される。以下では磯岡北遺跡SG12区・SG17区の縄文土器分類における【第1群】として、9号墳周辺以外から出土した遺物も含めて分類・報告を行う。

## 【第1群 口縁端部が肥厚する撚糸文系土器】(第14図、写真図版64)

以下の第  $1 \sim 6$  類に分類した。この多くに共通する特徴としては、胎土が比較的緻密で白細粒と黒・透明細砂がやや多い。赤細粒や白細砂を少量含むものも見られる。焼成はやや軟質で、さわると指先に粉質の土砂が付着してくるようなものが多い。開析谷をはさんだ西側にある立野遺跡 5 区で出土した撚糸文系土器(内山 2005, pp.38, 55) と同様の胎土・焼成・特徴がみられる。 9 号墳に混入していたものが多く、次いで 2 号墳に多く見られるという出土状況であり、この状況は礫器の出土状況と共通する。

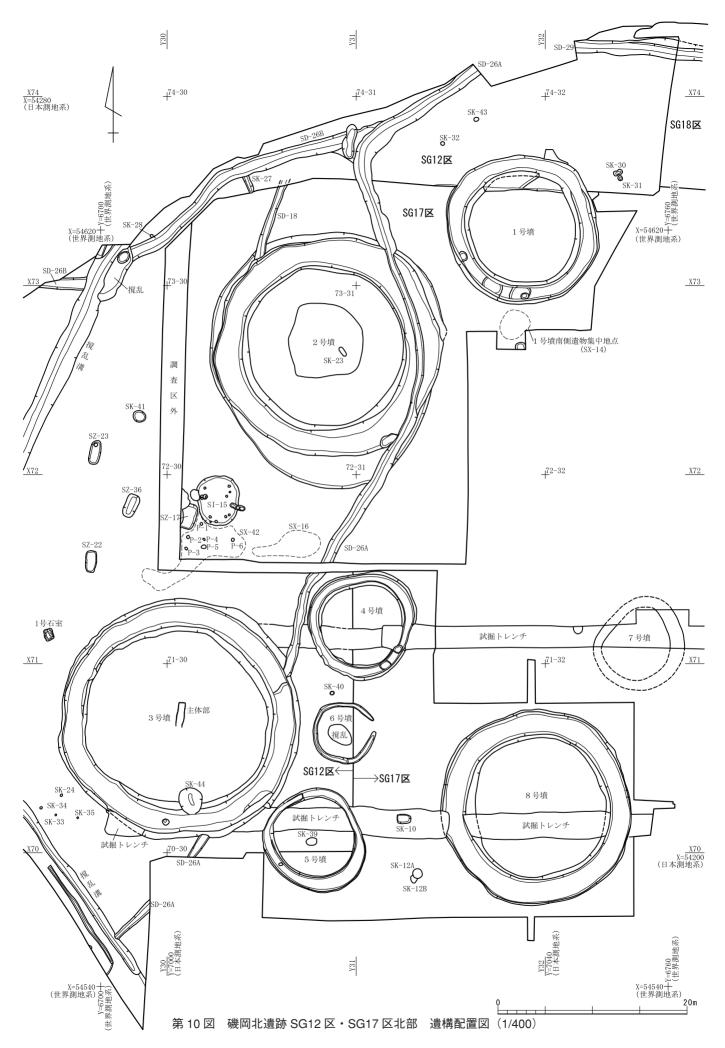
### 第1類 $\square$ 縁端に斜走縄文、胴部に縦走縄文を施すもの。頸部上半は無文。(第 $14 \boxtimes 1 \sim 7$ )

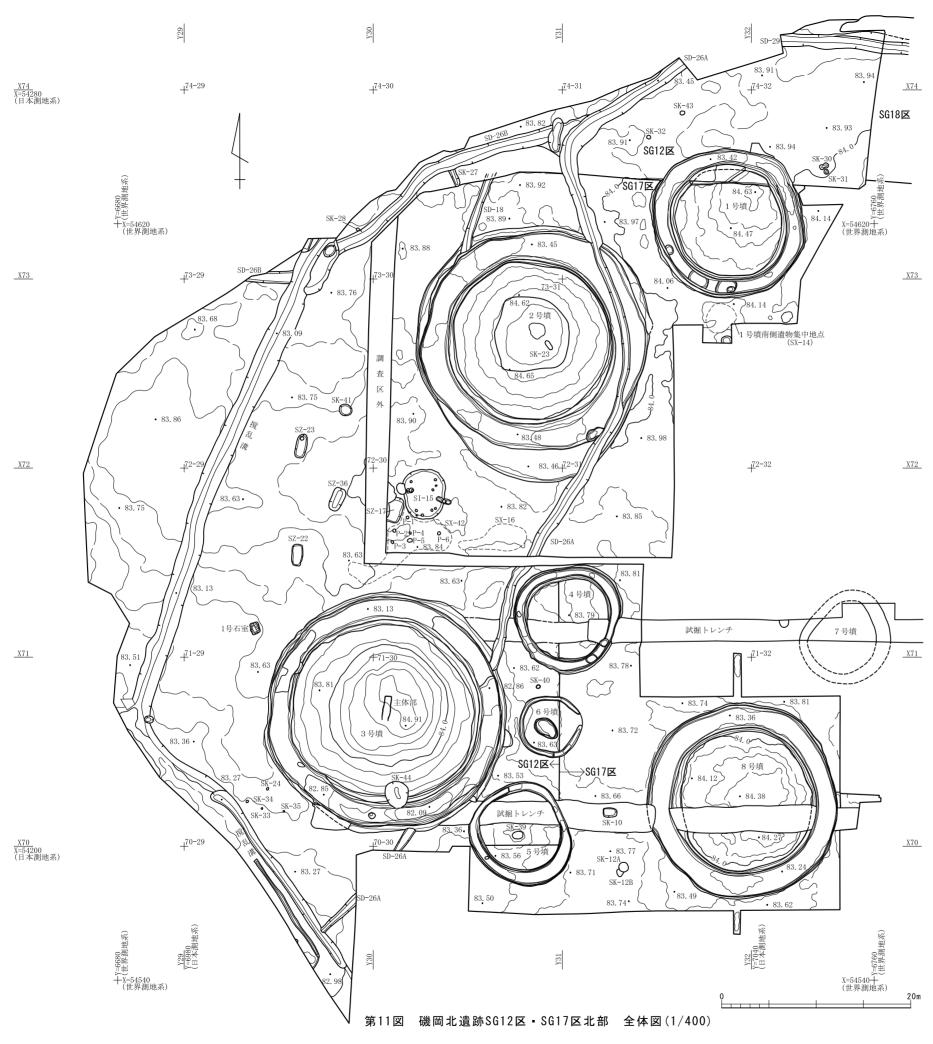
## [**第1種**] 単節縄文を施すもの $(1 \sim 4)$ 。

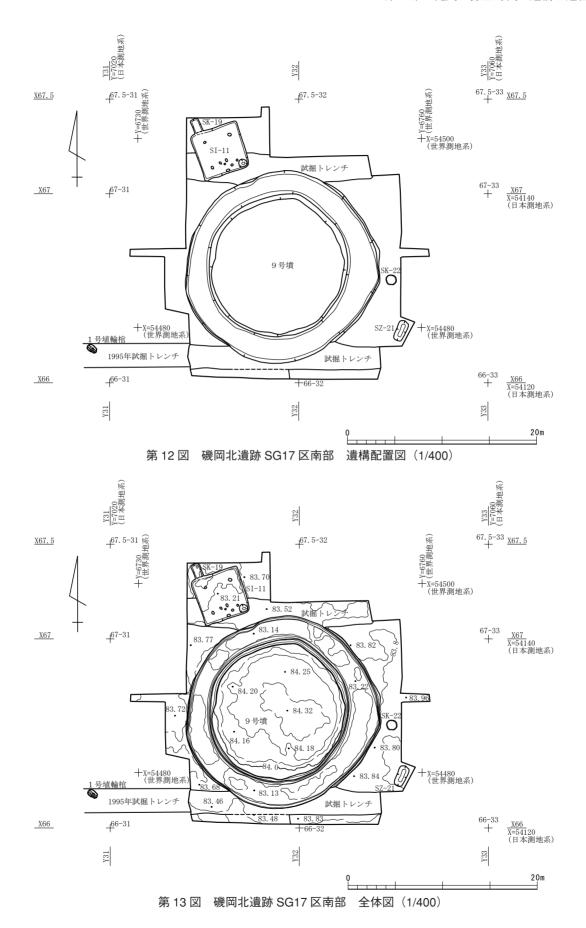
この 4 点が出土した。口縁端で横位、胴部で斜位に回転施文する。原体の種類がやや不明瞭なものもあるが、おそらく 2 段 R L と思われる。ただし、1 の胴部は、2 段 L R の可能性もある。 2 と 3 は同一個体かもしれない。 4 は胴部文様が不明だが、  $1\sim3$  と同様の縦走縄文が想定される。 1 と 4 は頸部外面の無文部に軽く指頭で連続押圧を加えている。内面はいずれもヘラケズリで、1 は縦位、 $2\sim4$  は横位に削る。  $1\sim3$  は 9 号墳、4 は古墳時代の遺物集中地点 SX-16(2 号墳と 4 号墳の中間)に、それぞれ混入して出土した。

### **[第2種]** 無節縄文を施すもの(5~7)

この3点が出土した。原体は1段R。口縁端で横位、胴部で斜位に回転施文する。7は胴部文様が不明だが、5・6と同様の縦走縄文が想定される。5は内面ヨコヘラケズリ、6・7は軽くヨコミガキを施している。5と7は9号墳への流入品で、6は9号墳盛土下の旧表土で出土した。







## 第2類 口縁端部が無文で、胴部に縦走縄文を施すもの (第14 図 8 ~ 10)

この3点が出土した。 $8\cdot 9$ は口縁部外面が無文で、胴部の施文原体は2段RLと思われる。一方、10は口縁端部の近くまで縦走縄文を施し、胴部の施文原体は1段Lの可能性がある。ただし、文様はどれもやや不明瞭である。内面は3点ともにヨコヘラケズリ。8は2号墳の北西(73.5-30.0 グリッド)、9は9号墳への流入品、10は9号墳南西の試掘トレンチ(TX66-30)で出土。

#### 第3類 口縁部から胴部まで無文のもの(第14図11~13)

5点出土したうちの3点を図示した。13は器壁が薄く、やや小形の可能性もあるもので、浅い指頭圧痕が外面頸部に横位に連続する。内面はヨコヘラケズリ(11・12)とナナメヘラケズリ(13)。11・12は9号墳への流入品で、13は9号墳の南西(66 - 30 グリッド)で出土。この他に小破片 2 点が 9 号墳に混入して出土した。

## 第4類 縦走または斜走の縄文を施す胴部破片(第14図14~20)

#### [**第1種**] 単節縄文を施すもの。(14~16)

6点出土したうちの3点を図示した。原体は2段LR(14・15)と2段RL(16)がある。内面調整のわかるものはヨコヘラケズリ。14は9号墳の南(66 - 31 グリッド)、15は2号墳に流入、16は9号墳に流入して出土。この他に3片が9号墳とその周辺で出土している。

#### [**第2種**] 無節縄文を施すもの。(17~20)

7点出土したうち 4点を図示した。原体がわかるものはすべて 1段R。内面調整のわかるものはタテーナナメヘラケズリが多く、ヨコヘラケズリも見られる。18は9号墳の南西(66 - 30 グリッド)、19は9号墳盛土下の旧表土、17と 20は9号墳に流入して出土。この他に9号墳で 2点と、2号墳の北西(73.5 - 30 グリッド)で 1 片が出土した。

## 第5類 縦走または斜走の撚糸文を施す胴部破片(第14 図 21 ~ 25)

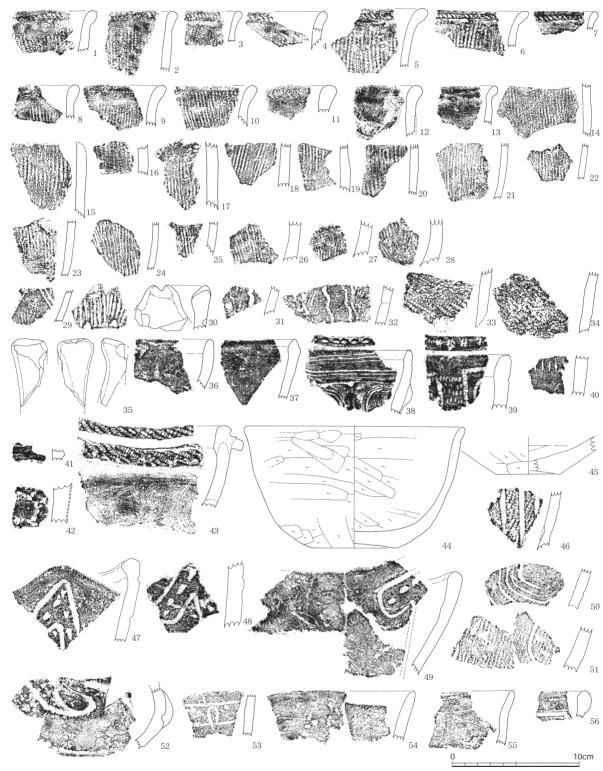
この 5 点が出土した。原体のわかるものは 1 段 R の単軸絡条体で( $24 \cdot 25$ )、撚糸の間隔がやや粗めである。  $21 \sim 23$  の原体は不明瞭。内面調整は 22 がヨコヘラケズリで、他はナナメヘラケズリ。  $21 \sim 23$  は 9 号墳に混入して出土、24 は 3 号墳北西(71.7-28.3 グリッド)、25 は 9 号墳南東部の盛土下で出土した。

## 第6類 縦走または斜走の撚糸文を施す胴部下位破片(第14図26~28)

この3点が出土した。原体は不明確であるが1段Rの単軸絡条体の可能性があり、そうであれば第5類の下方に相当する破片である。3点ともに内面はヘラケズリで、SG17区で9号墳に混入していた。26は9号墳周溝外の地山 VI 層(ソフトローム層)に相当するレベルで出土している。

### 【第2群 縄文前期末~中期初頭の土器】(第14 図 29 ~ 34)

出土量は少ない。胎土は、第1類に透明砂・灰色砂・黒細砂が多くやや緻密なのに対して、第2・3類は 岩石を砕いた砂を混ぜたような粗い胎土で白および透明の砂・細砂多量と、白・透明礫少量を含む。繊維は 含まない。



第 14 図 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 (1)

# 第1類 縄文の上に半截竹管の平行沈線で文様を描く胴部破片(第 14 図 29)

この 1 点だけが出土した。左右にそれぞれ左下がりと右下がりの平行沈線を描く。地文は浅く不明瞭だが単節縄文と思われ、原体は 2 段 R L の可能性がある。内面は丁寧なナデ。 2 号墳の北西側で出土した(SG17区 73.5-30 グリッド)。

## 第2類 外面に三角形刺突と縦位平行沈線を描く突起部。突起内面の上端に抉りを施す。(第14図30)

この 1 点だけが出土した。突起は上端がM字形で、三角形刺突は破片下位の左右に 1 箇所ずつあり、縦位平行沈線は先に丸みのある工具で 1 本ずつ描く。右側の刺突を避けるように縦位平行沈線の下端が終わるので、刺突の後に平行沈線を描いたと思われる。内面上端を指頭で強く押すようにして窪ませ、その下部が肥厚している。SG17 区の 2 号墳北東側で、中世の溝状遺構 SD-26 (調査時の名称は SD-13) に混入して出土した。

#### 第3類 結節縄文を施す胴部破片 (第14 図31 ~34)

## [第1種] 結節縄文を縦位に施すもの(31·32)

この2点だけが出土した。31 は2段 R L の縄に結節を作った原体で縦位に施文する。32 は軸縄の撚りが不明確だが、その周りに1段 L の縄を2箇所で結ぶようであり、また破片の左端には細い竹管か半截竹管の小口で刺突した文様がわずかに残る。2点とも後世の遺構に混入して出土した(31 は SG12 区で中世の溝 SD - 26、32 は SG17 区で1号墳周溝から出土)。これと同様に結節縄文を縦位に施す土器片は、SG18 区でも1点見られた(第121 図 1)。

#### [**第2種**] 結節縄文を横位に施すもの(33・34)

4点出土したうちの2点を図示した。33は2段RLの縄に結節を2箇所作った原体で横位に施文する。34も同様の原体で、破片上部に2箇所と下部に1箇所の結節が見られる。2点ともSG17区で1号墳に混入して出土。この他に、SG12区で中世の溝SD-26に混入して2点が出土している。

## 【第3群 縄文中期中葉~後葉の土器】

この時期の遺物は、大半が阿玉台式である(第1類)。他に加曽利E式が極少量だけ見られる(第2類)。

## **第1類 阿玉台式土器** (第14 図 35 ~ 45)

後節で報告する阿玉台式期の竪穴建物跡(SI-15)や遺物集中地点(SX-42)と関連する遺物を含むと考えられる。胎土は粗く、金色に発色した雲母片・細片と白礫~白細砂を多量に含み、透明砂・細砂や黒細砂もやや多い。色調は5YR4/8(赤褐色)~5YR6/5(橙)が多く、10YR6/4(にぶい黄橙)~10YR6/6(明黄褐色)のものまで含む。

## 〔**第1種**〕 把手を持つもの(35)

この1点だけが出土した(SG17区の表土出土)。上部をわずかに広げながら立ち上がる把手の左端部破片で、内面側へ向かって緩く湾曲する。内面側には縦位の稜を持つ。

## [第2種] 口縁部が平縁・無文で、内面に稜を持つもの(36・37)

4点出土したうちの 2点を図示した。37 は外面にも稜線を持ち、低い隆帯ふうにも見える。36 は SG12 区の 3 号墳北西部(71.95-29.75 グリッド)で IV 層(ローム漸移層)から出土し、SG17 区にある阿玉台式期住居跡(SI-15)の西方地点である。37 は SG17 区で表面採集。この他に、SG17 区の遺構外と 2 号墳付近で 1 片ずつ出土している。

## 〔第3種〕 平縁の口縁部に平行沈線で文様を描くもの(38)

この1点が出土した。口が少し開く器形で、三本一組のやや細い平行沈線が口縁部に上下二段見られる。

その下に隆線で楕円区画を作り、口縁部と同じ三本一組の平行沈線を隆線の脇に沿って描く。口縁端面には、丸棒状工具の腹を連続して押しつけて、小波状にしている。内面はヨコナデで、口縁部に平行する低い稜を持つ。 $SG12 \boxtimes 71.90 - 29.80$  グリッドの暗褐色ローム漸移層(IV 層)から出土。 $SG12 \boxtimes 0.3$  号墳北側で、阿玉台式期住居跡( $SG17 \boxtimes SI - 1.5$ )の西方地点に相当する。

#### **[第4種]** 平縁の口縁部に結節沈線で文様を描くもの(39)

この 1 点が出土した。筒形の器形で、半截竹管の背で右向きおよび下向きに進行する押し引き沈線を描いて区画を左右に作る。右側の区画内には、同種の押し引き沈線を左下向きに進行して弧線を描く。左右の区画の中間には多截竹管の末端と思われる工具で連続刺突群を充填する。口縁端面は、半截竹管による平行沈線を  $6\sim10$ mm 間隔で入れている。内面はヨコナデで、口縁部下方に低い稜を持つ。SG12 区 71.10-29.45 グリッドで表土下部から出土。SG12 区の 3 号墳北側で、阿玉台式期住居跡(SG17 区 SI -15)の西方地点に相当する。

筒形の器形は、阿玉台式ではなく勝坂式系の土器に見られる。ただし、胎土には金色雲母片が多い。刺突 文を地文に施す例は珍しく、山梨県域に例がある。栃木では宇都宮市大谷町上の原遺跡採集品が、勝坂式に 並行する非在地の土器として紹介されている(大関 1991, p.8)。

## 〔第5種〕 爪形文を横位に配列する胴部破片(40)

1点だけ出土した。胴部の器面に爪形文を横方向に配する。爪状のカーブは不明瞭で、正確には「中央が太く上下端が細い刺突文」である。SG17区で2号墳盛土下の旧表土から出土。SI - 15の遺物と同様である。

#### [**第6種**] 隆帯で区画した文様を持つもの(41・42)

この 2 点が出土した。 41 は低い三角形断面の隆帯を持つ小破片。 42 は隆線で横長の楕円区画を作るが、区画の内側部分は器面が剥落してしまっている。 41 は阿玉台式期の住居跡 SI-15 や遺物集中地点 SX-42 の付近で出土し(SG17 区 71.5-30.0 グリッド)、 42 は 3 号墳北西部周溝埋土 3 層に混入して出土した(SG12 区 70.95-29.55 グリッド)。

## [**第7種**] 隆帯上に縄文を施すもの(43)

この1点だけが出土した。口縁部直下に高い隆帯を持ち、口縁端と隆帯の上に2段RLの太い縄を横回転して施文する。内面は口縁部に平行する稜を持ち、粗く横位に磨いている。阿玉台IV式に該当する。2号 墳北西側の表土で出土(SG12区72.8-30.3グリッド)。

### [**第8**種] 浅鉢(44·45)

同一個体の8片がSG17区で1号墳周溝に混入して出土し(44)、他に2号墳の北西側でも底部1片(45)が出土している(SG17区73.5-30グリッド)。無文で口縁部外面が弱く外反し、わずかに上げ底気味。内外面はやや粗いヨコヘラケズリで、外底面はナデ仕上げ。44の復元値は口径17.4cm・底径7.0cm・器高9.6cmで外面口縁部は雑なナデ。45は復元底径5.0cmで、内面はナデ。

## **第2類 加曽利E式土器** (第14 図 46)

この1点だけが出土した(SG12区 73.0 - 30.5 グリッド)。2段RLの原体で縦位に縄文を施した後に、棒状工具で縦位の沈線3条を描く。磨り消しは行っていない。胎土はやや粗く、金色に発色した雲母片・細片と白色および透明の砂〜細砂が多く、黒細砂・赤細粒も少量含む。第3群第1類(阿玉台式)と同様の胎土である。橙色(7.5YR7/6)。

### 【第4群 縄文後期の土器】(第14 図・写真図版 64)

後期の称名寺式・堀之内式・加曽利B式などの土器片が遺構外で出土した。第1類以外は、9号墳に混入して出土した。この時期の遺構は認められない。

#### 第1類 沈線と列点で文様を描く称名寺式土器 (第14 図 47 ~ 49)

 $47 \sim 49$  は同じ中世の溝に混入して出土したもので(SG17 区の SD - 26A)、同一個体の可能性もある。 47 は波頂部に鉤状の文様を配置し、内面口縁部が強く肥厚する。 48 は同様の鉤状文様部。 49 は 47 のような波頭部から左へ続く口縁部で、かなり内湾気味。胎土は比較的緻密で、赤・白細粒と黒・透明細砂を少量含む。にぶい黄橙色(10YR6/4)。

第4群第1類は、SG17区で中世の溝状遺構 SD-26A(調査時の名称は SD-13)から、30 片程度が出土した。また、SG17区の2号墳周溝にも小破片が4点見られる。

## 第2類 地文の縄文の上に曲線を描くもの (第14 図51)

1段Lの原体で無節縄文を施し、太めの浅い沈線で曲線を描く。白細粒が多く、白砂と黒・透明細砂と赤粒も含む。にぶい橙色(5YR6/4)。堀之内1式の可能性がある。SG17区で9号墳に混入していた2片が接合した。

#### 第3類 平行沈線で曲線を描くもの (第14 図50)

三本一組の工具で施文している可能性があり、これでゆるい曲線を2回描くので、計6本の平行曲線が見られる。内外面はナデ調整。白細粒が多く、灰色・透明の砂・細砂、白砂、黒細砂も含む。灰黄褐色(10YR5/2)。堀之内1式かとも思われるが、器厚が薄いのでやや疑問が残る。また、縄文晩期の粗製土器(大洞式系)の可能性もある。SG17区で9号墳に混入して、この1点だけが出土した。

## 第4類 横方向に入り組み状の文様を持つ注口土器 (第14 図52)

肩から胴部に丸みを持つ加曽利B式の注口土器の破片と思われる。上下を沈線で横位に区画した中に入り組み状の文様を描いてその右側が隆起し、周囲の器面はよく磨いている。黒砂・細砂多量と透明細砂・白細粒を含む。にぶい黄橙色(10YR6/4)。SG17区で9号墳に混入していた同一個体3片のうち2片が接合した。

## 第5類 横位の平行沈線間に短い弧線で区切りを入れるもの (第14図53)

加曽利 B1 式または B2 式の深鉢。直線的に開く胴部で、器厚が薄い。内面をよく磨くが、外面にはミガキが見られない。白・灰色の砂・細砂が多く、黒・透明細砂も含む。にぶい黄橙色(10YR7/4)。SG17 区で9号墳南西部盛土下の旧表土層でこの1点が出土した。同種と思われる横位沈線を持つ胴部(ただし短弧線は確認できない破片)は、9号墳の周溝と旧表土層から10片前後が出土していて、2~3個体の破片を含んでいる。器厚・調整・混和材・焼成が第4群第6類とよく類似する。

## 第6類 無文粗製土器の口縁部破片 (第14 図54・55)

直線的に開き、口縁端部は尖り気味(54)と丸いもの(55)がある。内面は横位のヘラミガキ。外面は斜位のヘラケズリ後に丁寧なナデ調整(54)で、横位に磨くもの(55)もある。にぶい黄橙色(10YR7/3)で、

灰色砂と黒・灰色細砂が多く、白細粒と透明細砂も含む。SG17 区で9号墳の盛土下(旧表土層)および周溝から2~3個体の破片と思われる計16片が出土した。器厚・調整・混和材・焼成が第4群第5類とよく類似するので、後期の粗製土器と判断した。

### 第7類 肥厚した口縁部外面に沈線区画を入れるもの (第14 図56)

外面はヨコヘラケズリ後に施文し、内面はヨコナデ。称名寺式の可能性もあるが、それにしては沈線がや や細い。後期の粗製土器かと思われる。白砂・細砂と灰色砂がやや多く、黒・透明細砂も含む。にぶい黄橙 色(10YR7/3)。SG17 区で9号墳に混入して、この1片だけが出土した。

### 【縄文晩期の遺物と出土位置】

縄文時代晩期の遺構は認められないが、大洞式系(主に大洞 C2 式)の土器片が若干ある。SG17 区の 8 号墳および 9 号墳において、墳丘下の旧表土層および周溝埋土からそれぞれ少量ずつ出土した(下記の第 5 群第  $3\sim6$  類)。また、晩期安行式も極少量あり(下記の第 5 群第  $1\sim2$  類)、これは 9 号墳で見られる。

## 【第5群 縄文晩期の土器】(第14図・写真図版64)

### 第1類 貼り付けた突起上に横位の刻みを入れるもの (第15 図 57・58)

横位の沈線を描き、57 はその下側に弧線も描く。並列して貼り付けた縦長の突起上に横位の平行線状刻みを入れる。突起の両側裾部は器面への貼り付けがやや甘い。2片とも薄いので浅鉢の可能性がある。内面はナデ調整で、白砂・細砂が多く、灰色砂も含む。灰黄色(2.5Y7/2)または淡黄色(2.5Y8/3)。SG17 区で9号墳に混入してこの2片だけが出土した。安行3a式の可能性がある。

### **第2類 沈線で囲んだ文様の内部に列点を刺突するもの** (第15 図 59 ~ 61)

安行 3c 式または 3d 式と思われる。沈線で施文した文様の内部に、沈線と同じ工具で短線状の刺突をやや深く施す。59 は深鉢上半の屈曲部から上へ広がる部分で、文様を描く沈線はやや深めである。60 と 61 は上下を浅い沈線で区画した横位の帯文内を深く刺突し、同一個体の可能性もある。いずれも内外面ともにナデ調整。やや薄くて器面を磨かないことから後期(第4群第1類・称名寺式)ではないと判断した。黒細砂と白細粒が多く、白・透明砂も含む。内外面ともに浅黄色(2.5Y7/4)~明黄褐色(10YR7/6)で、61 は内面が橙色(7.5YR6/6)。SG17 区で9号墳へ混入して2片(59・60)と、9号墳南西部盛土下の旧表土層から1片(61)が出土した。

## **第3類 沈線で平行線と入り組み状の文様を描く深鉢** (第15 図 62 ~ 66)

上半部に大洞式系の複雑な文様を持つ、やや粗製気味の深鉢。62~64 は同一個体の可能性があり、列点 状刺突を持つ低い隆線の上下に沈線で文様を描く。65・66 もおそらく同種の土器。文様部分は各所を工具 でなぞり、軽いミガキふうに仕上げている。内面は時計回り方向のヨコヘラケズリ後に軽いナデで仕上げる もので、白・透明の砂・細砂と白細粒が多く、黒細砂も含む。にぶい黄橙色(10YR6/3)~橙色(10YR6/6)。 SG17 区で8号墳に混入してこの5片が出土した。次に述べる第4類が、この第3類の胴部になる可能性が あり、胎土・焼成も第4類とよく類似している。

### 第4類 胴部に網目状撚糸文を施す深鉢 (第15 図67 ~70)

やや粗製気味の深鉢。 1段Rの縄を巻いた絡条体で施文する。67の破片上部には平行沈線と入り組み状の文様、68と69の破片上端に平行沈線や沈線が見られ、上で述べた第3類の胴部になる可能性が高い。内面は縦位または横位のヘラケズリ。胎土・焼成も第3類とよく類似している。橙色(7.5YR6/6)~明黄褐色(10YR7/6)。合計9片があり、すべてSG17区で8号墳に混入して出土した。

## 第5類 無文の口縁部の直下を横位沈線で区画した下に文様を描くもの (第15図71)

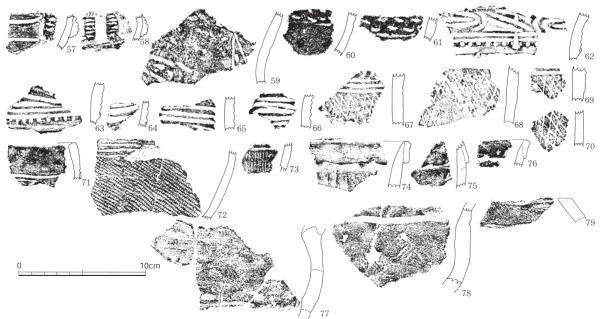
やや内彎する無文の口縁部の直下を横位沈線で区画した下に大洞式系統の文様(工字文状?)を描くらしい。白砂・細砂と白細粒が多く、黒・透明細砂も含み、淡黄色(2.5Y8/4)。SG17区で9号墳盛土下の旧表土からこの1片だけが出土した。

## 第6類 平行沈線の下位に縄文または撚糸文を施す粗製深鉢 (第15図72・73)

上半部に大洞式系の文様を持つ、やや粗製の深鉢。72 は現存する 4 条の沈線の下に、2 段 LR の原体を縦回転して縄文を施す。内面は浅い擦痕を残すナデ調整で、胎土は白砂・細砂がやや多く透明砂も含み、橙色 (7.5YR7/6)。外面にススと内面にオコゲが付着する。これと同種と思われる縄文を施した胴部が他に7 片あり、いずれも SG17 区で8 号墳に混入して出土した。73 は、1 段 R の縄を巻いた単軸絡条体で縦位の撚糸文を横位沈線の下に施すもので、白・透明砂を少量含み、浅黄色 (2.5Y7/3)。SG17 区で9 号墳盛土下の旧表土からこの1 片だけが出土した。

## **第7類 貼付口縁の粗製深鉢**(第15図74~76)

大洞 C2 式に伴う無文粗製土器の口縁部。外面は貼付帯をユビオサエ後にやや雑にナデており、内面のヨコナデのほうがずっと平滑で丁寧である。74 はにぶい黄橙色(10YR7/3)で、SG17 区で8号墳に混入して1片だけが出土。75 と 76 はにぶい橙色(7.5YR6/4)と橙色(5YR6/6)で、SG17 区で9号墳に混入して出土。この他に3片が9号墳で出土した。白砂と白・透明細砂が多く、灰色砂や黒細砂も時に見られる。



第 15 図 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文土器 (2)

## 【第6群 その他の土器】(第15図77~79・写真図版64)

詳しい時期が判明しない縄文土器。8号墳に混入して11片が出土したもので、同一個体になる可能性がある。胴部に丸みを持ち、頸部から上方が開く器形の、厚い土器。外面はナナメヘラケズリ後に太くてやや浅い横位の沈線を描く。内面はヨコヘラケズリ。厚さからみると縄文中期~後期前半の可能性もある。しかし、8号墳に混入した縄文土器は晩期のもの(第5群)が見られることや、内外の器面がケズリのままでナデやミガキをおこなわない粗雑な調整から考えると、縄文晩期の土器かもしれない。にぶい橙色(5YR6/4)~にぶい黄橙色(10YR6/3)で、白細粒が多く、白砂と透明砂・細砂も含み、やや軟質。

### 4.1.2. 遺構外出土の縄文・弥生時代石器(第16~21図・写真図版65~67)

SG12 区・SG17 区において、縄文時代の遺構以外から出土した石器をここで報告する。石鏃・礫器・磨石が目立つ。大半の石器は縄文時代のものと考えられるが、石鏃のうち 1 点は弥生時代の可能性がある(第16 図 15)。

**有舌尖頭器**(第 16 図 1・2) SG12 区と SG17 区で各 1 点、計 2 点出土した。縄文時代草創期の遺物と考えられる。

1 はチャート製。中位から先にかけて少しふくらんだ後に先端がすぼまるもので、側縁を鋸歯状にする傾向がある。1 号墳西方の SG12 区遺構確認面(標準土層 IV 層の上部)で出土した。長野県柳又遺跡例に比べると少し大きめで、逆刺がわずかに強い。栃木県域では、芳賀町谷近台遺跡(上野 2001)や野木町清六 III 遺跡(上原 1999,pp.50-51)にチャート製の有舌尖頭器がある。ただし、谷近台遺跡出土例は本例とは形状が全く異なり、長身である。

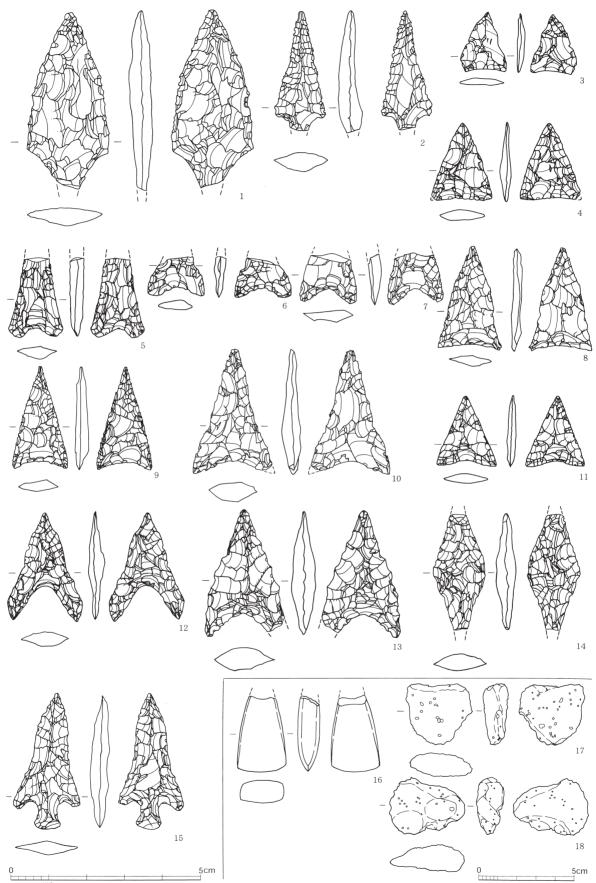
2 はかなり細身の製品で流紋岩製。縄文後期~晩期の有茎石鏃の可能性も否定はできないが、中央部の特に基部よりが厚くてやや重心が下がった位置にあることから有舌尖頭器と判断した。こちらも側縁が鋸歯状になる傾向がある。SG17 区の8号墳で出土した。

**石鏃** (第 16 図 3 ~ 15) 13 点出土した。3 は未完成のまま放棄した失敗品と思われるので、ある時期にここで石鏃を製作したことを示す。石鏃の失敗品は谷をはさんだ西側の立野遺跡 5 区・6 区にも見られる (内山 2005, pp. 40, 59,60,656,658)。鏃の石材はチャートが多い。6 は黒曜石製。今回報告する磯岡北遺跡 SG12・16・17・18 区における黒曜石製品は、この鏃 1 点の他、時期不明の小剥片が 9 号墳に混入して 1 点出土しただけである。15 はアメリカ式石鏃に近い形状で、弥生時代遺物の可能性がある。磯岡北遺跡の今回報告する地区では、他に弥生時代の可能性が高い土器・石器が認められないので、狩猟活動に用いて 1 点だけ遺存した遺物なのかもしれない。

**磨製石斧**(第16図16) SG12区で、3号墳に混入して小形品が1点出土した。この他に、通常の大き さの磨製石斧の小破片が、SG17区で8号墳に混入して1点出土している。

**軽石片**(第 16 図 17・18) SG17 区において、9 号墳付近で2点出土した。2点ともほぼ同質で、軽くて軟らかい石である。一種の研磨具と考えられる。51 に使っている非常に多孔質の安山岩と同様の材質であり、破損した石皿の破片を転用したものとも思われる。

スタンプ形石器(第 17 図 19) SG17 区で、この 1 点だけが出土した。SG12 区・SG17 区で出土した縄文土器の中では、第 1 群(撚糸文系土器)に伴う可能性が考えられる。出土した位置も 9 号墳であり、やはり第 1 群土器と共通する。



第 16 図 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 (1) 有舌尖頭器・石鏃・磨製石斧・軽石

**礫器** (第 17・18 図 20 ~ 29) SG17 区で、2・8・9 号墳に混入して計 9 点が出土した。9 号墳に多く、次いで 2 号墳に多く見られるという出土状況が第 1 群土器(撚糸文系土器)と共通し、撚糸文系土器に伴う可能性が考えられる。石材は非常に硬質なホルンフェルスが主体で、他に硬砂岩(21)や石英斑岩(28)がある。自然礫の自然面を打面にし、その周縁部を剥離して刃部をつくるものが目立つ。ただし 20・29 素材を大きく剥離して広い面を作った後に周縁を剥離して刃部にしている。26 は小形。27 は礫器製作時の剥片と思われる。この他にも、礫器製作剥片を多く含むと思われるホルンフェルス・硬砂岩・安山岩・デイサイトの剥片が若干出土している(内法 54 × 34 ×深さ  $10\,\mathrm{cm}$  のコンテナに  $1/4\,\mathrm{弱の量}$ )。

打製石斧(第 18 図 30 ~ 32) SG17 区で、3点出土した。32 は片面調整の大形品で、かなり重量感がある。31 は長三角形に近いバチ形で、阿玉台式期の遺構・包含層(SI - 15 や SX - 42)よりもやや東方で採集した遺物。30 は分銅形の軽い小形品で、かなり使用して刃部が潰れている。30・32 が混入していた磯岡北9号墳では、早期の撚糸文系土器(第 1 群)の他に、縄文後期~晩期の土器(第 4 群~第 5 群土器)が見られる。

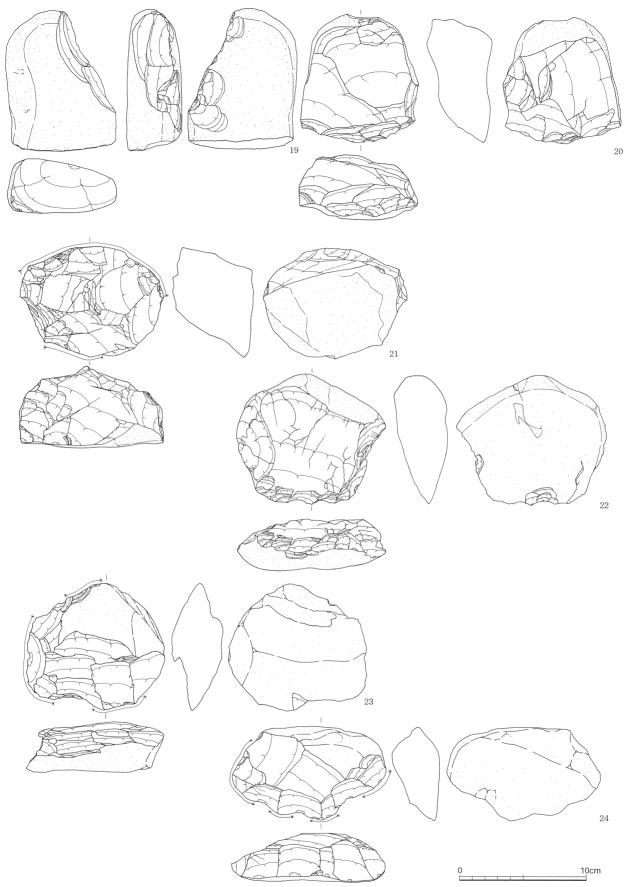
**磨石**(第19~21図33~49) 完形品を中心として17点を掲載した。この他に破片が12点出土している。 小形のもの(33~36)、中形で厚みを持つもの(37・38・40・41)、中形で扁平なもの(39・42~45)、中形で細長いもの(47)、大形のもの(46・48・49)の5種類が見られる。49は不定形な石の一部を使用する。石材は安山岩が主体で、比較的硬質で多孔質のものが目立つ。 例外として、46がやや軟質の凝灰岩である。33・34・36・48は敲石を兼用していて、49も可能性がある。45と46は凹石を兼用するもので、41もその可能性がある。38は、片面の周縁部に灰色の付着物が見られ、煤の可能性がある。40・46・47は被熱してピンク色を帯びる。

**石皿** (第 21 図 50・51) 5 点出土し、掲載した 2 点以外は小片である。ある程度全体を推定できる大形のものが 72-30 グリッド (2 号墳周溝の西側) に 1 点ある (50)。これに土器が伴うわけではないが、 SG12・SG17 区 SX -42 や SG17 区 SI -15 のすぐ北方にあたる地点なので、阿玉台式期の遺物かもしれない。図示した 2 点を含む計 3 点は多孔質の安山岩であり、特に多孔質の程度が高い 51 は軽石(第 16 図 17・18)に近い質である。他の 2 点は、やや緻密質の安山岩。

第4表 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器

番号 種類 材質	大き	さ (cm)	特徵	色調 素材	出土状態 残存状態 注記
1 有舌 尖頭器	幅厚	2.15 0.58	やや短く幅広で、側縁が外彎した後に先端がすぼまる(先端角50°)。側縁は鋸歯状に仕上げる傾向が見られる。基部は弱い返しを持つ。茎部末端はおそらく右図の面からの力で折損する。横断面形はほぼ対称だが、左図の面の方が丸味が少し弱い。先端から 2.7cm に重心を持つ。	チャート	1 号墳西方のローム層 (IV層) から出土 茎末端部欠 SG12 区 73.5-31 ローム層 中 20010906
2 有舌 尖頭器	幅厚	1.29 0.55	細身の小形品で、側縁は鋸歯状に仕上げる傾向があるが全体としては直線的で、先端角 30°。基部はごく弱い返しを持つ。茎部は左図の面からの力で折損した可能性が高い。素材の剥片は主軸方向にゆるく反り、左図の面が素材剥片の背面と思われる。	緻密で硬質な流紋岩	8 号墳に混入 茎末端部欠 SG17 区 SZ-8 の 78
3 石鏃	長幅厚重	1.18 0.25	四基無茎鏃。脚部の1端面に素材剥片の持つ古い剥離面が残るので、この部分を成形することをあきらめて放棄した失敗品の可能性がある。全体に仕上げ調整の剥離が不充分で、左図面の右半部や右図面の左下部にはそれぞれ素材剥片の背面および腹面と思われる面を残す。	チャート	9 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 の 1026
4 石鏃	幅厚	1.62	凹基(または平基)無茎鏃で、先端角 55°。 側縁は弱く外彎する。 抉入部は推定幅 1.6cm 前後、深さ 0.07cm。中央よりも基部側が やや厚く、先端から 1.4cm に重心を持つ。片方の脚端をわずかに 折損。	チャート	古墳時代の竪穴建物に 混入 脚端部欠 SG17 区 SI-11 の 62

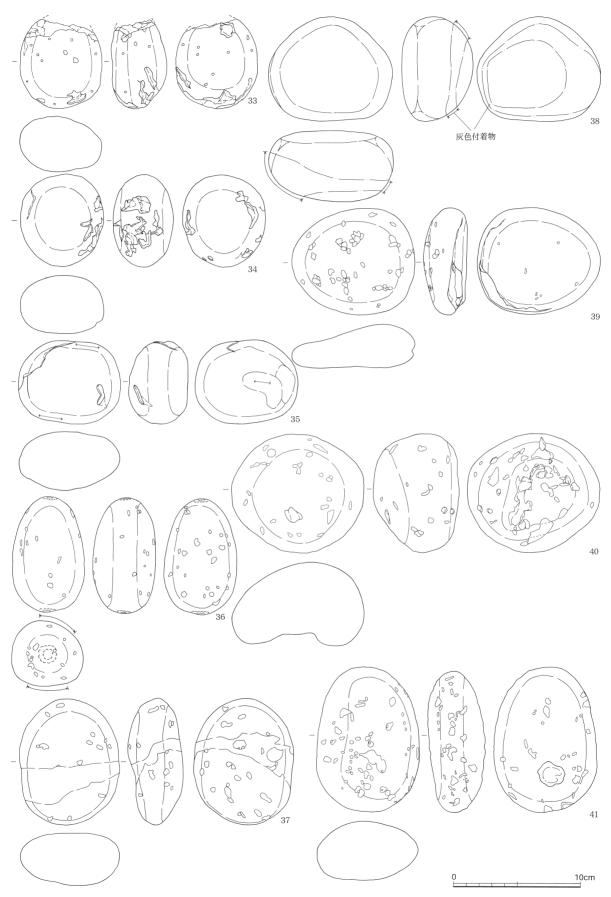
第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区



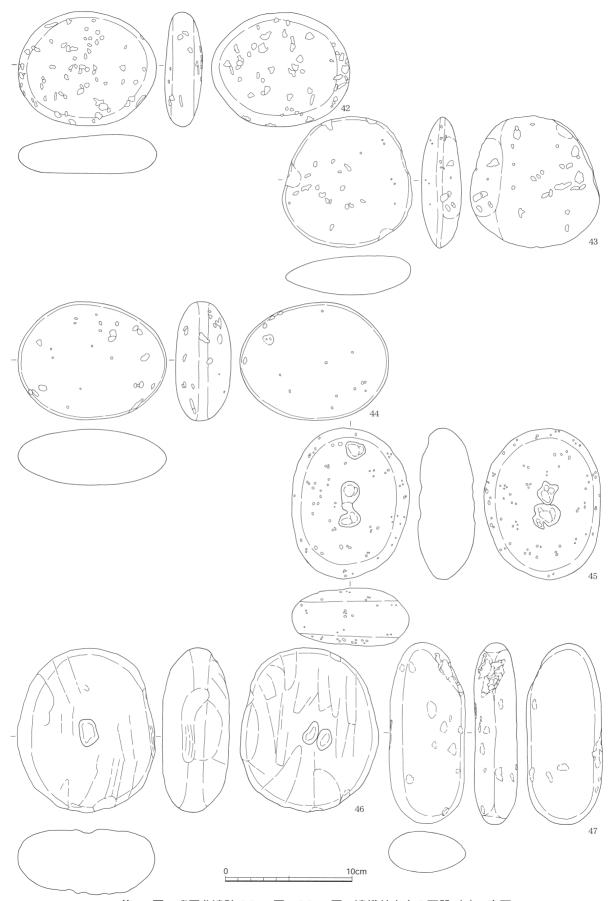
第 17 図 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 (2) スタンプ形石器・礫器



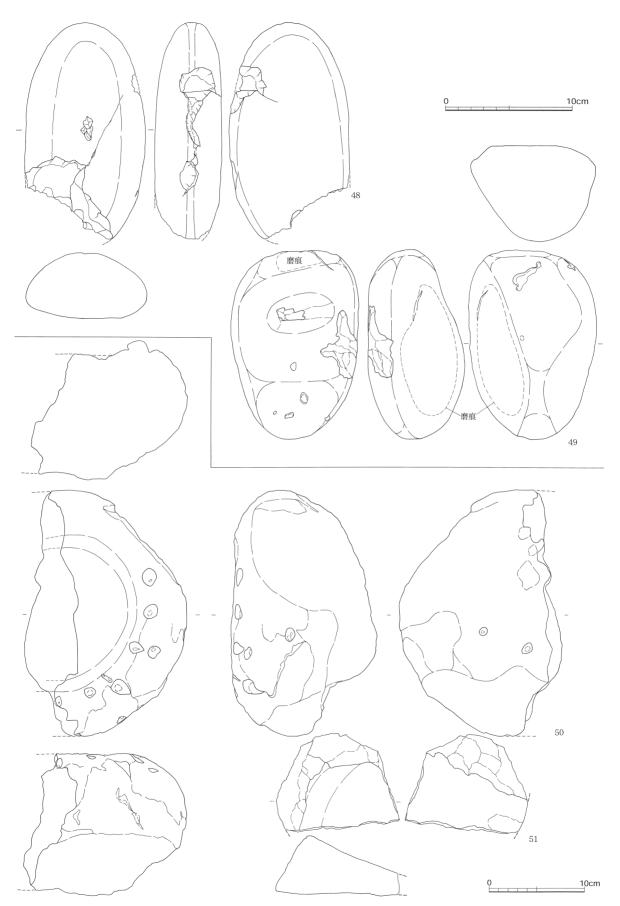
第 18 図 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 (3) 礫器・打製石斧



第19回 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器(4) 磨石



第20図 磯岡北遺跡 SG12区・SG17区 遺構外出土の石器(5) 磨石



第 21 図 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 遺構外出土の石器 (6) 磨石・石皿

32. 🗆					th Labes
番号 種類 材質	大き	きさ (cm)	特徴	色調 素材	出土状態 残存状態 注記
5 石鏃	長幅厚重	0.37	四基無茎鏃で細長く側縁が直線的。抉入部は幅 0.9 ×深さ 0.25cm。 先端寄りまで厚く一定でやや重い。おそらく右図の面からの力で 先端が折損する。		9号墳に混入 先端部欠 SG17区 SZ-9の南東区周 溝内 011004
6 石鏃	長幅厚重	残 1.1 1.50 0.32 残 0.5g	四基無茎鏃で、調整剥離がやや粗くて外形があまり整わない。抉入部は幅 1.15cm、深さ 0.22cm。左図の面からの衝撃で上半部が欠損している。		2号墳に混入 約 1/2 欠 SG17 区 SZ-2 の 205
7 石鏃	長幅厚重	残 1.29 1.46 0.30 残 0.5g	凹基無茎鏃で、側縁が外彎し抉入部は幅 1.18cm、深さ 0.37cm。 左図面の中央に広くネガティブな剥離面を持ち、素材剥片の背面 と思われる。右図の面から折るような力が加わって先端部が折損 する。		8号墳に混入 ほぽ完形 SG17 区 SZ-8 の 233
8 石鏃	長幅厚重	2.67 1.67 0.25 1.0g	四基無茎鏃で、先端角 45°。側縁は上半が外彎・下半が内彎気味の弱い S 字カーブ状。抉入部は幅 1.50cm、深さ 0.12cm。中央よりやや基部寄り(先端から 1.7cm)に重心を持つ。先端部はわずかに欠けている可能性もある。		9 号墳に混入 ほぼ完形 SG17 区 SZ-9 の 489
9 石鏃	長幅厚重	2.72 1.45 0.37 1.1g	凹基無茎鏃で、先端角 35°の鋭い先から直線的に開く。抉入部は幅 1.35cm、深さ 0.20cm。全体が厚く、先端から 1.7cm に重心を持つ。		1号墳に混入 完形 SG17区 SZ-1の63
10 石鏃	長幅厚重	残 3.23 2.06 0.48 残 1.9g	四基無茎鏃で先端角 40°。側縁は内彎気味の弱いカーブを持つ。 抉入部は推定幅 2cm 前後、深さ 0.65cm。基部寄りが厚く、先端 から約 1.8cm に重心を持つ。	に明赤灰色) 硬質で緻密な流紋岩	8 号墳に混入 脚端部欠 SG17 区 SZ-8 の 390
11 石鏃	長幅厚重	1.84 1.52 0.29 0.6g	凹基無茎鏃で先端角 45°。側縁は直線的で、抉入部は幅 1.52cm、深さ 0.15cm。厚さは一定で先端から 1.2cm に重心を持つ。	硬質で緻密な流紋岩 (黒 色斑晶の微粒あり)	2 号墳の南東側 完形 SG17 区 SZ-2 の南東区外 縁
12 石鏃	長幅厚重	2.89 1.96 0.40 1.1g	凹基無茎鏃で先端角 60°。側縁の中央部が内彎する。抉入部は幅 1.68×深さ 0.90cm。脚部と先端部が細くてやや薄い。先端から約 1.4cm に重心を持つ。		2 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-2 の 75
13 石鏃	長幅厚重	残 3.35 2.06 0.60 残 2.8g	四基無茎鏃で先端角50°。側縁は外彎する。抉入部は復元幅1.7cm 前後×深さ0.60cm。中央~基部側がやや厚くて重く、先端から 約1.8cm に重心を持つ。		中世の溝 SD-26A(調査 時名称は SD-13)に混入 脚部欠 SG17 区 SD-13
14 石鏃	長幅厚重	1.34 0.46	尖基鏃で平面形は菱形状だが、基部側の側縁はわずかに内彎する。 中央部が厚く、先端側と基部側で薄くなる。	5Y4/1 灰 チャート	2 号墳に混入 両端部欠 SG17 区 SZ-2 の 90
15 石鏃	長幅厚重		四基有茎鏃でアメリカ式石鏃に近い形状。先端角 55°で、側縁は上半が外彎し下半が内彎する。茎部は幅 0.68mm、長さ 0.70mm。右図面の中央やや下側に広くネガティブな剥離面を持ち、素材剥片の背面と思われる。中央付近が厚く、先端から 1.9cm に重心を持つ。弥生時代遺物の可能性あり。		9 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 の 954
16 磨製石 斧	長幅厚重	残 4.0 2.5 1.1 残 17.2g	稜が明確な小形の定角式石斧で両面の中央部が外へ膨らむ。均等な両刃形。研磨痕・使用痕は不明確。上部はおそらく左図の面からの力により折損。		3 号墳北側周溝に混入 上部欠 SG12 区 SZ-3 の 71.20- 30.05 3 層上半
17 軽石片	長幅厚	3.5 3.3 1.3	脆い多孔質で、不整形。おそらく研磨具に使用した結果として今の形状になったものと思われる。水には浮かない。重量 11.2g。	安山岩 (多孔質)	9 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 南西区一括
18 軽石片	長幅厚口	3.9 3.0 1.4	石質・特徴ともに上記の軽石片と同様。重量 10.8g	2.5Y5/1 黄灰 安山岩 (多孔質)	9 号墳南西部の淡灰褐色 土層中 完形 SG17 区 SZ-9 南西 III 層
19 スタン プ形 石器	長幅厚重	11.2 8.7 4.4 563.2g	扁平な自然の河原石を中央で分割し、一側縁にだけ両面から加工 を施して上半部の径を縮小させている。側面図でわかるように、 下面は石器の主軸に対して少し斜交する面をなす。より下に突出 したほうの側縁(下面図の上縁側)がわずかに磨耗気味ではある が、全体に磨耗痕は不明瞭。被熱痕は見られない。	流紋岩または石英斑岩 (2~4mm大の石英斑晶 を多く含む)	SG17区 SZ-9の 1141
20 礫器	長幅厚重	10.2 9.4 5.2 591.8g	原石の両面に広い平坦な剥離をくりかえし加えて薄くした後に、 主に右図の面を打面にして反対面に急角度の剥離を加えて刃部を 作る。刃部角は約70°。石材が非常に硬質で、磨耗痕は不明。	7.5YR5/1 灰 ホルンフェルス(粘板岩 起源)	2 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-2 の 515
21 礫器	長幅厚重	8.8 11.4 6.5 688.6g	右図下半にある自然面と、そのすぐ上の広い剥離面(または節理面)を主な打面として、他のほほ全面を加工する。左図中央にわずかに自然面が残るので、厚さ6~7mmの石が素材。左図の下縁が刃部角約60°の刃部。左図の上縁も角度は100°とやや鈍いがやはり刃部をなす。両刃部がともにやや磨耗する。	硬砂岩(黒褐色の狭い縞	2 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-2 の 98

番号 種類 材質	大きさ	Ķ (cm)	特徴	色調素材	出土状態 残存状態 注記
22 礫器	長幅厚重	11.7 4.2	丸くてやや扁平的な河原石を素材として、主に右図の面からの打撃で、剥離して成形。図の下縁が刃部で、刃部角はやや鋭い(40~50°)。石材が非常に硬質で、摩耗痕は不詳。右図の面に浅い小さな剥離があり、使用によって生じたものかもしれない。	ホルンフェルス(砂岩起	9 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 の 293
23 礫器	長幅厚重	456.7g	扁平な自然石を素材として、片面から外周の3/4を剥離して刃部を作る。左図の右上部を除くと他は刃部で、刃部角は50~60°前後。石材が硬質なので磨耗痕は顕著ではないが、図示したとおり刃部が外へ張り出した部分に少しずつ見られる。	ホルンフェルス(砂岩起源)	SG17 区 SZ-9 の 1174
24 礫器		7.4	扁平な自然石を素材にして、右図の面から周縁の約2/3を剥離して成形。刃部角は約50~60°。比較的硬質な石材だが、図示した部分にはやや磨耗が見られる。		8 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-8 の 252
25 礫器	長幅厚重	8.4 6.7	丸味のある厚手の自然礫を素材にして、 $1$ 方向からくり返し剥離を行っている。石材の節理に直交するため剥離面は多くの階段状になり、結果として刃部角は鈍く $90^{\circ}\sim 100^{\circ}$ に仕上がっている。石材が硬く緻密で磨耗痕は不明。	ホルンフェルス(泥岩ま	9 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 の 1031
26 礫器	長幅厚重	4.3	礫器としては小さく軽量。素材は自然礫で, 左図の面の中央〜右 半部は古い時期の自然の割れ面と思われる。下縁および左側縁部 に対面側から連続して剥離を行ない、刃部角 70 〜 80°の刃部を 作る。	ホルンフェルス(泥岩起	9号墳に混入 完形 SG17区 SZ-9の 1030
27 剥片	長幅厚重	7.6	材質から見て剥片石器を製作するための剥片でなく、礫器を製作 する時の剥片か。自然石を素材として外周から何度か剥離をくり 返した後に、この剥片が剥離されたものと思われる。		9号墳に混入 完形 SG17区 SZ-9の 1021
28 礫器	長幅厚重	9.7	自然の礫を素材として、その一端部に上下両面からそれぞれ強く 大きな剥離を加えている。刃部角は約70°。石材が非常に硬質で、 磨耗痕は観察できない。		9号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 の 1155
29 <b>礫器</b>	長幅厚重	10.9 7.4	自然石を素材として、左図と右図の面をそれぞれ大きく剥離する。 両面ともに原石の節理に沿った割れ面も広く生じている。その後、 右図の面の手前側を打面にして加工し(下図の面)、刃部角 90° 前後の鈍い刃部をつくる。他の側面は自然面のまま残す。石材が 非常に硬質で、磨耗痕は不明。		2 号墳に混入 ほぽ完形 SG17 区 SZ-2 南東周溝内
30 打製石 斧	長幅厚重	6.6 1.2	自然石を節理に沿って割り取った板状の石材を素材にして、周縁を加工する。右図の面の中央部が節理に沿った割れ面。上下両端の刃部断面形は自然面の側が丸味が強いやや不均等な形状。図下端に範囲を記入した部分は刃部が潰れて平坦面状になる。他端の刃部と抉り部も磨耗が全体に目立つ。		9 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 南東
31 打製石	長幅厚重	6.5 1.8 108.8g	節理に沿って割った板状の石材を用いて周縁の両面を調整する。一側縁の上部と一平面には素材の自然面を残す。右図の面の両側縁中央付近は剥離をくりかえしてやや薄くなり、着柄用に加工した可能性もある。刃部の断面形は両面に均等な丸味を持ち、刃部角は60~70°。比較的硬質な石材ではあるが,図に示した範囲が磨耗する。	ホルンフェルス(粘板岩	2号墳と4号墳の間(SI- 15の東方)で採集 完形 SG17 区 71.5-31.0 採集
32 打製石 斧	長幅厚重	8.8 4.2	中央部に厚味のある細長い自然石を素材にして、片面だけに加工を行なう。かなり重量感がある。石材が非常に硬質で、磨耗痕は不明瞭。上下両端に小さな剥離が見られるので、両端を刃部に使用した可能性がある。	ホルンフェルス(泥岩起	9 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 の 852
33 磨石	幅厚	桟 6.6 6.5 4.3 245.3g	小形で、自然礫をそのまま利用。蔵石を兼用したものと思われる。 粗粒で表面に小さな凹凸が多く、図の上下両端は蔵石として使っ て破損した可能性がある。磨痕は不明。被熱痕は見られない。		SG17 区でいずれかの古 墳に混入 一部欠 SG17 区 SZ- (注記が読 めない) 南東
34 磨石	長幅厚重	6.6 4.6	小形で、自然礫をそのまま利用。両面の中央部を使用したと思われる。側面は原礫の凹凸をよく残すので磨面としては用いていないが、図示した側面の部分には凹凸が激しいので、この部分で敲石を兼用した可能性もある。被熱痕は見られない。	安山岩(黒色斑晶が多く	2 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-2 の 474
35 磨石	長幅厚重		小形で、自然礫をそのまま利用。細粒でやや軟質。石の両面と、 図の上下両側の長側面に磨痕あり。被熱痕は見られない。	2.5Y8/1 灰白 安山岩 (緻密質でやや軟 質)	2号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-2 の 189
36 磨石	長幅厚重	5.7 5.2	小形で、自然礫をそのまま利用。横断面形に丸味があって両面と 側面の区別があまりできない形だが、主に図示した2面に磨痕が 見られる。上下両端部中央の狭い範囲もやや摩耗するので蔵石も 兼用していると考えられる。		9号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 の 967

番号 種類 材質	大き	さ (cm)	特徵	色調素材	出土状態 残存状態 注記
37 磨石	長幅厚重	7.9 4.2	中形で、厚味のある自然礫をそのまま利用。両面を使用した可能性がある。図に記入したように幅1~3cmの白色脈が原石に入っている部分が見られ、この部分は石質がやや軟らかいので磨耗が進んでいる。被熱痕は見られない。	安山岩(最大長 5mm の	9号墳に混入 完形
38 磨石	長幅厚重	8.3 5.7	中形で、厚味のある自然礫をそのまま利用。左図の面がやや平坦 気味。両面の中央部を使用したと思われる。右図の面は灰色の付 着物(煤?)が環状に付着していて、中央部は付着後に磨って使っ たために付着物が落ちたものかと思われる。		9号墳に混入 完形 SG17区 SZ-9の 1123
39 磨石	長幅厚重	8.4 3.3	中形で、扁平な自然石をそのまま利用。左図の面は丸味を持ち多 孔質の程度が顕著。右図の面はやや平坦で凹凸が少ない。左図の 面に磨痕が見られる。右図の面も使用した可能性がある。被熱痕 は見られない。		9号墳の盛土よりも下層 完形 SG17区 SZ-9 南東墳丘下
40 磨石	長幅厚重	10.5 9.4 6.8 808.8g	中形で、厚味のある自然石をそのまま利用。右図の面はもとの石 にある深い凹みをそのまま残す。左図の面とその周縁部を磨面に 使用したと思われる。全体が被熱してピンク色を帯びている。		9号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 の 938
41 磨石	長幅厚重	4.7	中形で、厚味のある自然石をそのまま利用。両面を使用した可能性がある。両面の中央部から図の下方にかけての部分には細かい凹凸が目立つ。特に右図面では深さ2~3mm・径約20mmの凹みが見られるので、凹石を兼用している可能性もある。被熱痕は見られない。	安山岩(黒色斑晶を含み	2号墳の盛土よりも下層 完形 SG17区 SZ-2 北西区墳丘 下
42 磨石	長幅厚重	11.0 9.1 3.0 414.0g	中形で、扁平な自然石をそのまま利用。比較的平坦な両面に磨痕 が見られる。被熱痕は見られない。	2.5YR7/2 灰黄 安山岩(多孔質)	9号墳に混入 完形 SG17区 SZ-9の 721
43 磨石	長幅厚重	10.4 10.3 3.2 437.6g	中形で、扁平な自然石をそのまま利用。両面に磨痕が見られる。 左図の面の方が扁平の度合いが強くてよく磨耗する。被熱痕は見 られない。		9 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 の 304
44 磨石	長幅厚重	11.8 9.4 4.4 561.8g	中形で、扁平な自然石をそのまま利用。両面ともに均等な丸味を持ち、同程度に使用したと思われる。被熱痕は見られない。	2.5Y6/3 にぶい黄 安山岩(多孔質)	2 号墳のすぐ北側(73.2- 31.0 グリッド)で中世の 溝 SD-26A(調査時遺構 名 SD-13)に混入 完形 SG17 区 SD-13 の 4
45 磨石兼 凹石	長幅厚重	9.3 4.6	中形で、厚味のある自然石をそのまま利用。両面を磨面に使用。 外周部分も両面と同程度に磨耗するが、面をなしてはいない。両 面の中央に深さ1~2mm、径約15~20mmの凹みがそれぞれ2ヶ 所ずつあり、また左図の面では上部寄りにも同様の凹みが1ヶ所 ある。被熱痕は見られない。	安山岩 (非常に多孔質)	2号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-2 の 102
46 磨石兼 凹石	長幅厚重	13.0 11.0 5.3 806.3g	やや大形で、厚味のある自然石をそのまま利用。石材がやや軟質であるため、磨痕が平行する凹み状に残る。両面を長軸方向に用いる。側面も一部を用いる。両面の中央に深さ2~3mm、径約10~22mmの凹みが1ヶ所と2ヶ所の計3ヶ所ある。全体が弱く被熱して薄いピンク色を帯びる。		1号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-1 の 145
47 磨石	長幅厚重	14.4 6.0 3.4 440.7g	中形で、細長い自然石をそのまま利用。両面がやや磨耗し、全体 に散在してみられる自然石の凹みも角が丸く取れている。全体が 弱く被熱して、薄い赤味を帯びている。		9号墳に混入 完形 SG17区 SZ-9の 407
48 磨石兼 敲石	長幅厚重	17.2 9.7 5.3 1,148.9g	大形で、厚味のある自然石をそのまま利用。両面を研磨に用いる。 左図の面の中央部と右側面図中央部は、蔵打痕の凹みがあり、右 側面には剥離も生じている。被熱痕は見られない。		2 号墳に混入 一端部欠 SG17 区 SZ-2 南東周溝内
49 磨石	長幅厚重		大形で、不定形の自然石をそのまま利用。長側面と短側面のそれ ぞれ1面ずつを使用し、その範囲だけ表面が若干磨滅して平滑に なる。他は自然面のまま。側面図中央の破損部は蔵打に用いたの かもしれないが、不確実。被熱痕は見られない。	安山岩 (多孔質)	9 号墳に混入 完形 SG17 区 SZ-9 の 307
50 石皿		残17.3 15.0 4,546.6g	非常に厚い石材の上面だけを 1.5 ~ 2.0cm 程度くぼませ、皿部底面は平坦に仕上げる。上面の外周部までは研磨して円形に整えている。側面~底面は、自然石のままの面を残している。裏面図の手前側約 1/3 は剥離した状況が見られ、石皿が破損した時にはじけた部分なのか、人為的な加工なのかは不詳。上面の縁辺を中心として漏斗状の凹みがあり、裏面にも小さなものが 2 個見られる。裏面図の上部約 1/3 は赤色だが、人為的な被熱痕というよりも石材に鉄分が多い部分ではないかと思われる。	安山岩 (多孔質)	2 号墳西方 約 1/2 欠 SG17 区 72-30 の 1
51 石皿	幅厚	残 10.3 6.9	非常に多孔質の軽石状の石材を使用し、使用面は中央部へ向かって大きく窪む。底面は浅い凹凸が残るが、おおよそ平らに整形されている。左側面はまっすぐ降りる斜面で、破損面の疑いも残る。被熱痕は見られない。		2 号墳に混入 一部残 SG17 区 SZ-2 の 296

# 4.1.3. 縄文時代中期の遺構と遺物集中地点

# 【縄文時代中期の遺物集中地点】

縄文時代中期の阿玉台式期の遺物集中地点が、SG12 区から SG17 区にまたがって 1 箇所存在する。

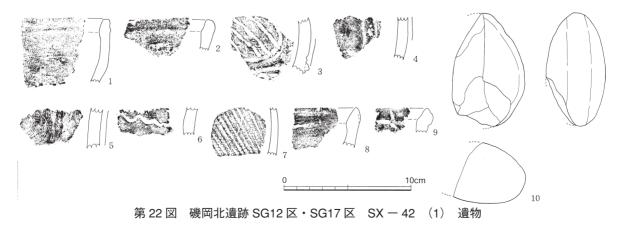
#### **SG12 区・SG17 区 SX - 42** (第 22・23 図・写真図版 4・67)

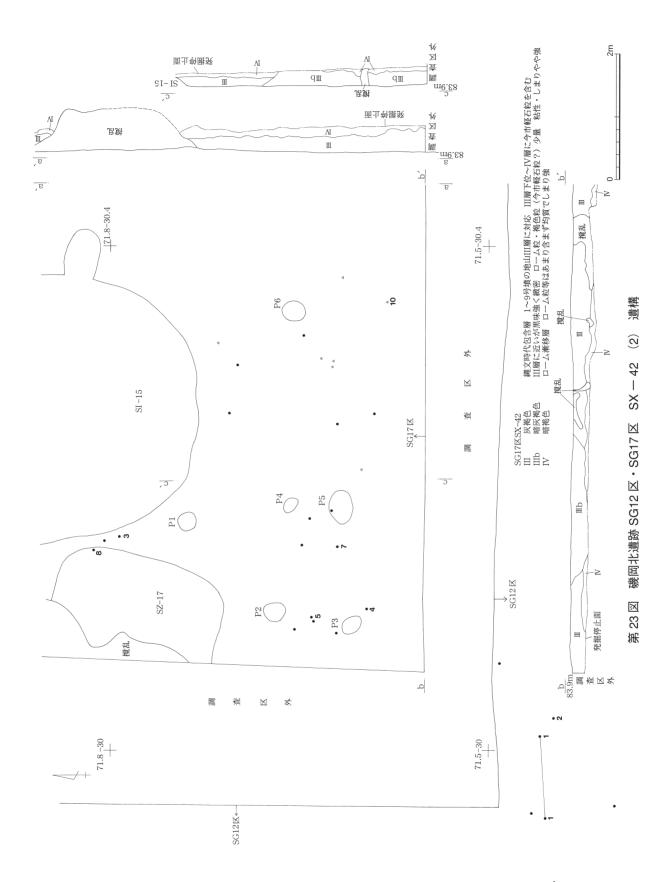
位置 SG17区で調査した縄文時代中期の阿玉台式期の竪穴住居跡(SG17区 SI - 15)のすぐ南側で、同じく阿玉台式土器が若干量まとまって出土した。SG12区と SG17区にまたがる  $71-29\cdot 30$  グリッドに所在し、SG12区にある 3 号墳の北側である。SG12区では「SX - 42」の名称で調査し、SG17区では遺構名を与えないで「縄文時代包含層」と呼称して調査したが、遺物の注記は SG17区の「SX - 15」となっている。SG12区で与えた名称を採用して、「SX - 42」と呼ぶことにする。

遺物出土状況と土層 縄文土器片を包含するのは標準土層の III 層(灰褐色土層)である。III 層に近い土質で、黒みが強く緻密な部分を「IIIb 層」(暗灰褐色土層)として区別した。この層は C - C'ラインの土層断面で確認された層で、時期不明の小穴 P4・P5 の周辺に広がる。住居跡などの遺構埋土として認定できるかどうかは不明であった。

III 層の下の IV 層(地山ローム漸移層)は、上面がフラットではなく凹凸があり、その凹部に III 層または III・IV 層の混在した土が入り込んでいる。IV 層の上面全体は南へ向かって下がる傾斜を持ち、浅い谷状になってゆくようである。III 層が形成された後にはこの高低差が弱くなる。 $1.2\sim1.3$  万年 BP に降下した男体ー今市軽石(Nt-I)の粒は、凹凸の多い III・IV 層の境界線をはさみ、その上下(III 層下位~ IV 層の間)に散在して見られる。

出土遺物 1と2は口縁部内面に稜を持ち、口縁端部直下外面の上下を窪ませることで相対的に横位の微隆起線を作る。2は口縁端部外面に丸みを持つ。3は、区画内側に1条の沈線を添えた隆帯で楕円状の区画をつくり、この区画内に平行斜線を描く。平行斜線は、直線というよりもわずかに折れ線状をなす。区画外の破片下端にも沈線で描いた折線文様が山形に曲がる頂部が見える。4・5は、横断面形が三角に近い台形の隆帯を、縦位に貼る。6~9は参考として掲載する資料で、SX - 42付近の古墳時代遺構に混入していた阿玉台式土器や、SX - 42への帰属にやや疑問のある土器である。6は横位の波状折線を描くもので、古墳時代のSZ - 36に混入して出土した。7は2段LR縦回転と思われる縄文を施す、やや薄い異質な土器で、これだけ金色雲母も見られないので、時期が異なる可能性がある。この遺跡で出土している他時期の縄文土器と比較すると、早期の撚糸文系土器の胴部破片かもしれない。8・9は、1・2と同様に口縁部内面の稜を持つもので、古墳時代のSZ - 17への混入品。8は外面上端に薄く粘土を貼り低い隆帯をなす。9は口縁端部





直下外面に一条の横位沈線と、その下に斜線を一条入れる(口縁端にある縦位の沈線状部分は発掘時のキズ)。 色調は、にぶい褐色(7.5YR5/4)または赤褐色~橙色(5YR4/6~6/6)が中心である。胎土は、白色および透明の礫・砂・細砂と、金色に発色した雲母片が多く、黒砂・細砂を含む7だけは他の土器と少し異なり、にぶい橙色(7.5YR6/4)で、雲母片を含まず、白・透明の砂・細砂と黒細砂が多い。

10 は灰白色軟質の流紋岩または流紋岩質溶結凝灰岩製の磨石。半分以上が破損し、残存部の表面も磨耗が進んでいるので、使用痕跡がよくわからない。残存長 8.9cm、残存幅 5.8cm、厚さ 4.8cm、残存重量 216.9g。

### 【縄文時代中期の竪穴住居跡】

縄文時代中期の阿玉台式期の竪穴住居跡を、SG17区で1棟調査した。

# **SG17 区 SI - 15** (第 24 ~ 26 図、写真図版 3・4・67)

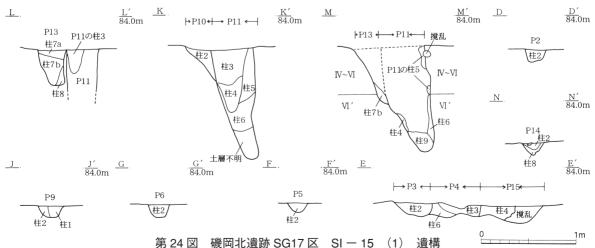
位置 SG17 区北部の 71-30 グリッドにある。同じく縄文時代中期の遺物集中地点(SG12 区・SG17 区 SX-42)が南側にある。また、その付近にある時期不明の柱穴群(P15  $\sim$  P19・P21)も、縄文時代遺構の可能性もある。重複する遺構はない。単独で 1 棟だけが確認された。

当初は、黒色土中に縄文土器片がある程度分布していた部分を「SX - 15」と仮称して精査したところ、その範囲の北〜東部において土質が若干違うことから、竪穴の遺構を確認した。床面はローム漸移層中にあり、地山ハードローム層よりは  $10 \, \mathrm{cm}$  ほど上、比較的明瞭な地山ソフトローム層よりも  $5 \, \mathrm{cm}$  ほど上のレベルである。地山ソフトローム層には、灰色土や男体-今市軽石粒(Nt-I、 $1.2 \sim 1.3$  万年 BP に降下)も少量混じる。

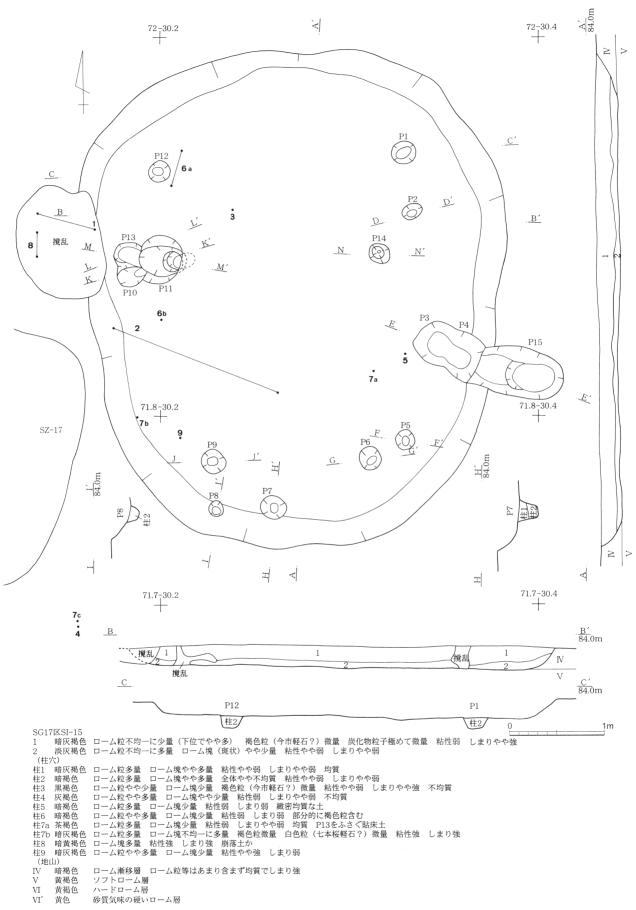
調査区外や、古墳など後世の遺構で破壊された部分に同様の竪穴住居跡が存在していた可能性もあるが、 遺構外や他遺構中の阿玉台式土器片はごく少ないので、まとまった数の遺構が存在したとは思われない。

規模と形状 やや不整な楕円形の建物跡。東西  $4.3 \times$ 南北 5.3m、壁の残存高さは最大 25cm。主軸方位は南北方向。床面には硬化面がなく、若干の凹凸があり、他部分よりも北西部の床面が最大  $5 \sim 6$  cm ほど高い。壁は緩やかに立ち上がり、比較的明瞭な部分もあるが、不明瞭な部分が多い。周溝や炉は見られない。

**柱穴** P11 だけは深い柱穴であるが、この他の柱穴は浅いので主柱とは言い難いものである。北西部のP10・11・13 と南東部のP3・4・15 がそれぞれ建物構造を支持する柱の位置かと考えられた。南部のP6・9 と北部のP2・P12 も、建物の主軸に対して対称的な位置にある。



第1節 縄文・弥生時代の遺構と遺物



第 25 図 磯岡北遺跡 SG17 区 SI - 15 (2) 遺構

P10 と P13 を P11 が切っている。ただし P10 埋め戻し $\rightarrow$  P11 掘り直しとみるよりも、P10・11 が一連の堆積で埋没したか、または P10 が柱掘形で P11 が抜き取り穴という関係かもしれない。P10 と P13 の前後関係は不明瞭であるが、P10・11 を確認後に P13 を確認した状況からみて P13  $\rightarrow$  P10 の順序である可能性が高い。P13 は、7b 層で人為的に埋め戻した後に、7a 層(貼床)でふさがれている。P4 と P15 は埋土の差があまりなくて溝状に連なるので、一つの穴の可能性もある。P4 と P11 の埋土は、他の 13 箇所の柱穴と土質がやや異なる。

P4 と P11 は、他の柱穴と埋土の質がやや異なっていて、遺構を平面で明瞭に確認できた。ただし、P4 と P20 は埋土の差があまりないので、この二つは溝状に連なるひとつの穴になる可能性もある(土層断面図 E - E ' )。

P14 は、この竪穴の調査終了時に床面から下へ5cm ほどダメ押しのために掘り下げて、ようやく所在を確認した。浅いが、土器片の出土もあり、埋土も他の柱穴と類似しているので、この建物に伴う柱穴と判断した。

柱穴の上面径と床面からの深さは、次のとおりである。

柱番号 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P8 P9 P10 P11 P12 P13 P14 P15 怪 (cm) 24×26 14×21 46 47 21 22×24 23×28 17 24×26 20×27 45×51 23 22×30 21×24 48 深さ (cm) 11 12 14 12 11 15 21 11 13 24 125 4 37 14 23

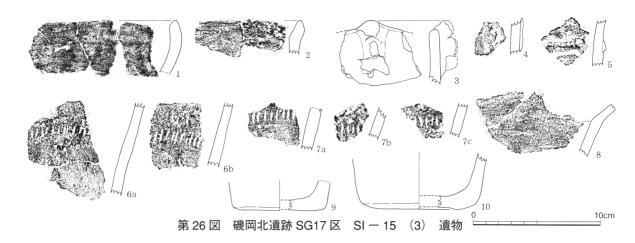
埋土 自然埋没と思われる。少量(埋土1層)または多量(埋土2層)のローム粒を不均一に含む。また、上層(1層)には男体一今市軽石(Nt-I)かと思われる微量の褐色粒を含む。これに対して地山の暗灰褐色土(ローム漸移層)はローム粒などの混入物をあまり含まず均質でしまりが強い。竪穴埋土の方が地山よりも黒味が強くやや軟らかい。地山との区別は北部・東部では比較的明瞭だが、南部は地山と遺構埋土が類似していて区別が難しかった。

埋土の1・2層の境が竪穴の床面になる可能性も考えた。しかしこの面には凹凸があり、1・2層ともに 土質が不均質で遺構埋土的であることから、2層下面を竪穴床面と判断した。

遺物出土状況 埋土中からは中期の阿玉台式土器の破片がまとまって出土している。竪穴内の土器は疎らで、特に集中するところもないが、やや西側に多めである。出土レベルは、埋土 1 層上位の遺構確認面に近い部分に多い。おおよそ同一個体になる  $3\sim 5$  cm 大の破片が多い。4 と 7c は遺構外から出土したが、SI-15 の遺構内で出土した破片と同一個体の可能性が高いので、SI-15 の遺物として扱った。

1 は西壁撹乱部、2 は床面直上+床上 12cm(破片が接合)、3 は床上 29cm、4 は南西部遺構外 III 層、5 は床上 20cm、6a は床上  $12 \sim 13$ cm、6b は床上 20cm、7a は床上 21cm、7b は床上 9cm、7c は南西部遺構外 III 層、8 は西壁撹乱部、9 は床上 18cm、10 は出土位置不詳。

出土遺物 遺物の量はごく少ない。2~3個体か、多くても数個体程度に満たない土器の破片と思われる。1と2は口縁部内面に稜を持ち、2は口縁が外へ折れて外面にも稜を持つ。3は波状口縁の頂部につく突起部で、横断面「人」字形に合わせるように左右両側から粘土紐を各3本貼り付けている。4は縦位、5は横位の隆帯を持つ破片で、この2片は同一個体の別部位である可能性を持つ。6a~6bと7a~7cはそれぞれ同一個体と思われ、横位の爪形文を施す。6・7の爪形文は先端が鋭い工具で施文しているので竹管ではなく、径がやや大きめの貝殻か、または生体の爪を用いたと思われる。8は上半が外側へ開く無文の破片。9・10は無文の底部片。胎土は、白色と透明の礫・砂・細砂が多く、黒砂・細砂と金色に発色した雲母片を含む。一部の破片には灰色の細砂が少量見られる。色調は、にぶい褐色~にぶい橙(7.5YR5/4~6/4)またはにぶい赤褐色~赤褐色(5YR4/4~4/8)が中心である。



### 4.1.4. 縄文時代の土坑

縄文時代と考えられる土坑は、SG12 区で 2 基・SG17 区で 7 基あり、あわせて 9 基を調査した。内訳は、柱穴状土坑 6 基(すべて SG17 区)・土坑 2 基(SG12 区と SG17 区に各 1 基)・陥穴状土坑 1 基(SG17 区))である。

柱穴状土坑 (SG17 区  $P-1\sim P-6$ ) は、阿玉台式期の竪穴住居跡 (SG17 区 SI-15) のすぐ南側にあり、おなじく阿玉台式期の遺物集中地点(SG12 区・SG17 区にまたがる SX-42)と重なる位置にあるので(第 10 図)、これも阿玉台式期になる可能性もある。一方、土坑(SG17 区 SK-23)と陥穴状土坑(SG12 区 SK-44)は、土質や遺構確認面の深さからみて、縄文時代でもさらに古い時期まで遡る可能性がある。

#### 【縄文時代の柱穴状土坑】

SG17区 $P-1\sim6$  (第 27 図・写真図版 4)

位置 SG17 区北部の 71-30 グリッドにあり、すぐ北側には阿玉台式期の竪穴住居跡 SG17 区 SI-15 がある。また、この周辺は SI-15 と同じ阿玉台式期の遺物集中地点( $SG12 \cdot SG17$  区 SX-42)であり、 III 層(PLA = 15 図 PLA = 15 PLA = 15 図 PLA = 15 PLA

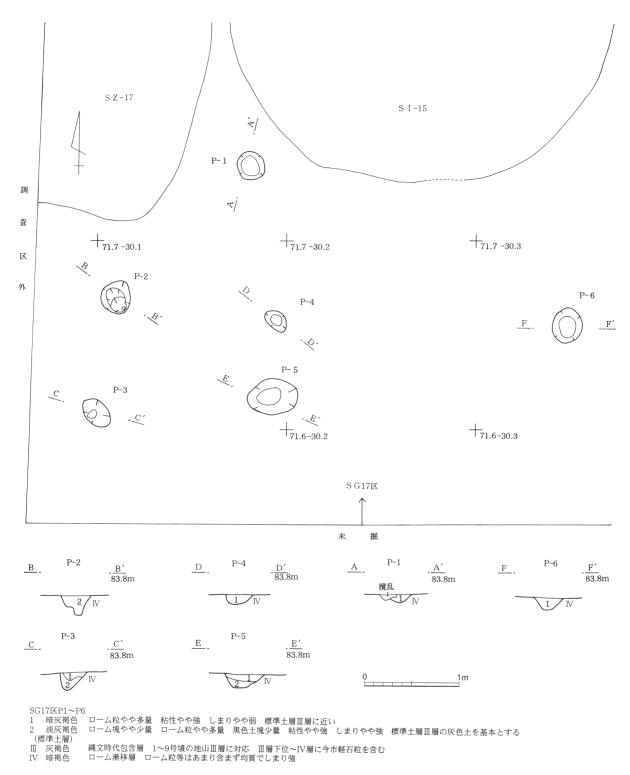
**埋土と時期**  $P-1\sim6$ の埋土は標準土層の III 層に近い土質なので、SI-15 や SX-42 と同様に  $P-1\sim6$  も縄文時代の可能性があるものと考えておく。

出土遺物 P-5から阿玉台式土器と思われる無文の胴部破片が 1 点出土している。ただし、周囲の遺物集中地点 (SX-42) から P-5へ混入した可能性もある。これ以外に遺物は出土しなかった。

規模と形状 配置が整わず、どの小穴も浅いことを考えると、建物を構成する可能性は低い。現地調査時には、SI-15 と関連する縄文時代遺構の可能性を考えて「SX-15」という呼称を与えていたが、結果として SI-15 とは別の遺構と判明した。現地調査時の遺構番号( $P-15\sim19$  および P-21)から変更して、整理作業時に新しい番号を与えた( $P-1\sim P-6$ )。この 6 箇所の小穴以外にも、この周辺でピット状にプランが確認された部分を掘り下げ、自然の落ち込みや根穴と判断されたものを除外した。そして、最終的に遺構と判断されたものがこの 6 箇所である。

柱穴の上面径と、遺構確認面からの深さは、次のとおりである。

番 号	P - 1	P - 2	P - 3	P - 4	P - 5	P - 6
径 (cm)	29 × 31	33	$24 \times 37$	20 × 27	$38 \times 53$	32 × 36
深さ (cm)	9	22	17	10	14	11



第 27 図 磯岡北遺跡 SG17 区 P-1 ~ P-6 遺構

# 【縄文時代の土坑】

SG12 区 SK - 39 (第28 図・写真図版5)

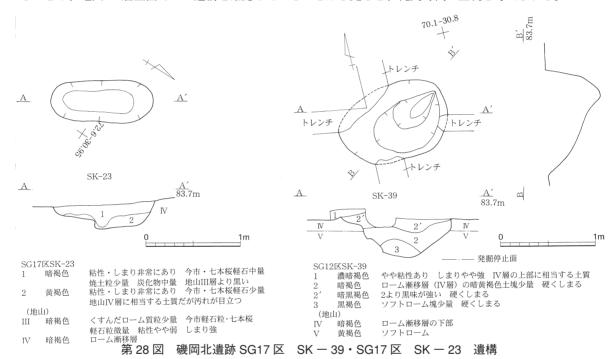
SG12 区南東部の 70-30 グリッドで、 5 号墳の周溝の内側にある。 5 号墳の遺構確認面である暗褐色のローム漸移層 (IV 層)の上半部に相当する土 (SK -39 の 1 層)で遺構上部を覆われているので、 5 号墳

よりも古い。楕円形で南北 80 × 東西 117cm、残存する深さは 58cm。埋土は自然埋没ふうで硬くしまり、テフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。古墳中期後葉よりも古い土坑であり、縄文~弥生時代の可能性がある。

#### SG17 区 SK - 23 (第 28 図 · 写真図版 5)

SG17 区北部の 72 - 31 グリッドにある。2号墳の盛土とその下の旧表土(IIb 層と III 層)を除去した下の IV 層で確認した遺構である。長楕円形で、長さ 108 ×幅 46cm、残存する深さは 26cm。埋土は人為埋め戻しか自然埋没か不詳で、今市軽石と七本桜軽石粒を含み、地山 III 層・IV 層に類似したしまりの強い土質である。埋土下層(2層)は、地山(IV 層)の可能性もあるが、土質に汚れが目立つので遺構埋土とも考えられるような、不明瞭な土層であった。

遺物は出土しなかった。2号墳よりも古いので古墳時代中期以前の遺構である。埋土の土質が古そうであることや、地山 IV 層上面でこの遺構を確認していることから見ると、縄文時代の土坑と考えられる。



#### 【縄文時代の陥穴状土坑】

### SG12 区 SK - 44 (第 29 図・写真図版 5)

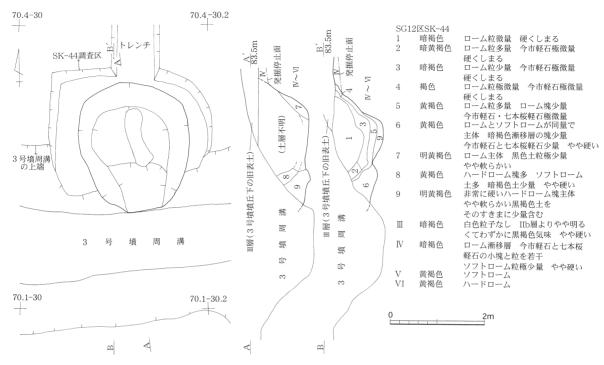
SG12 区の南部の 70-30 グリッドにあり、磯岡北3号墳の墳丘下にある。土坑の南端部は3号墳の南側周溝に切られている。3号墳の墳丘下の旧表土層(III 層)を除去して SK-44 の調査区を設け、下層のローム漸移層(IV 層)でこの土坑を確認した。

やや楕円形で底面が南北に長く、南北残存 278cm×東西 234cm。遺構確認面 (IV 層上面) から計測した深さは 110cm。

土坑の埋土層は、3号墳の墳丘南北セクション観察面で図化したので、中軸よりも西へずれている(B - B')。土坑の底面形状がおおよそ判明してから土坑中軸線上に載る観察面(A-A')を設けたので、A-A' 断面図の埋土層は南北端の最下層部( $7\sim9$  層)だけしか記録できなかった。埋土中位以上の $1\sim6$  層は自然埋没状の堆積で、男体一今市軽石や男体一七本桜軽石(約 $1.2\sim1.3$ 万年前降下)の粒がわずかに

# 第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区

混入(流入)している硬い層である。埋土下位の $7\sim 9$ 層にはこれらのテフラ粒を含まず、ローム塊が多い 異質な土層である。遺物は出土しなかった。



第 29 図 磯岡北遺跡 SG12 区 SK - 44 遺構

# 第2節 磯岡北古墳群

# 4.2.1. 古墳

古墳時代中期後葉の初期群集墳を構成する円墳 10 基が調査されている。そのうち、宇都宮市教育委員会の調査した B 区 (第8図、宇都宮市教育委員会文化課 2005a・2005b) にある 1 基を除く 9 基をここで報告する。調査前の地形では (第30図:等高線間隔10cm)、墳丘の高まりが明確に確認できたのは1~3号墳の3基、わずかに地膨れが認められたのは8・9号墳の2基である。この他の5基は墳丘を失った状態で、4・5・7号墳は1995年度の試掘トレンチで、6号墳はSG12区・SG17区の表土を除去した後に、それぞれ周溝を確認した (第10図)。中心埋葬施設が残っていたのは3号墳(木棺直葬)と宇都宮市調査B区1号墳(箱式石棺)である。2・5・8・9号墳では、破壊された埋葬施設から流出した可能性のある鉄製品が墳丘や周溝で出土している。

この古墳群には、古墳の他にも、遺物集中地点 2 箇所・埴輪棺 1 基・竪穴式小石室 1 基・土壙墓 5 基が伴う。このうち 1 号墳南側の遺物集中地点については 1 号墳の項で説明し、他の各遺構は次に続く  $4.2.2. \sim 4.2.3.$  の各項で報告する。

**磯岡北1号墳** (第 31  $\sim$  36 図、写真図版 6  $\sim$  8・68・69)

#### 〔概要〕

墳径 12.6~13.2mの円墳で、周溝を持ち、墳丘盛土の最下層が残る。埋葬施設や副葬品は残っていない。 墳丘および周溝から須恵器・土師器が比較的多く出土した。

#### 〔位置〕

SG12区とSG17区にまたがり、古墳の北端部だけがSG12区に入る。73-31グリッドから73-32グリッドにかけて所在する。南西には2号墳が隣接し、 $1\cdot 2$ 号墳の周溝外周の間は、最も狭い部分で3.5m離れている。1号墳のすぐ南側には土師器・須恵器片がまとまって出土した集中地点があり、その遺物と1号墳の遺物が接合できたものがある。

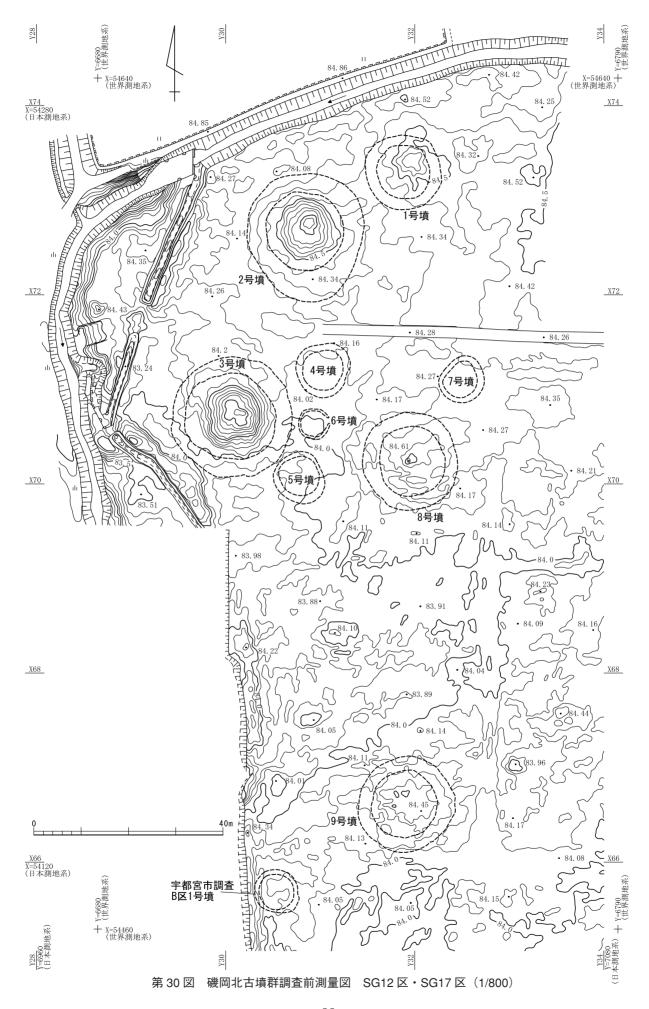
#### [周溝と墳丘] (第32図、写真図版6~8)

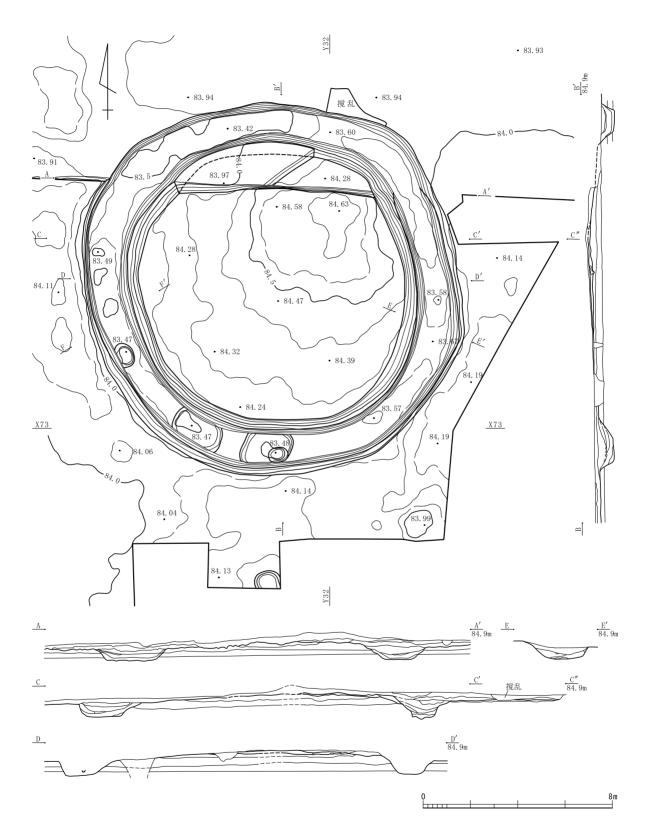
調査前から、高さ 0.4 m 程度のわずかな地膨れが残っていた。周溝の底面立ち上がりから計測した墳丘径 は南北  $12.6 \times$  東西 13.2 m。周溝底面から残存している墳頂までの高さは最大で約 1.2 m だが、本来はもっと墳丘が高かったはずである。

墳丘は、盛土の最下層がわずかに残るだけである(盛土 1 層・2 層)。残存する盛土の厚さは最大でも 20cm に満たない。盛土 2 層は、現地の所見によると、墳丘東裾部の地山を削り残した斜面を覆うように入れている(断面図 C 3-C 4)。これは東裾部にだけみられる盛土層なので、周溝を掘削する時に掘りすぎ た部分を埋め戻したものであろうか。

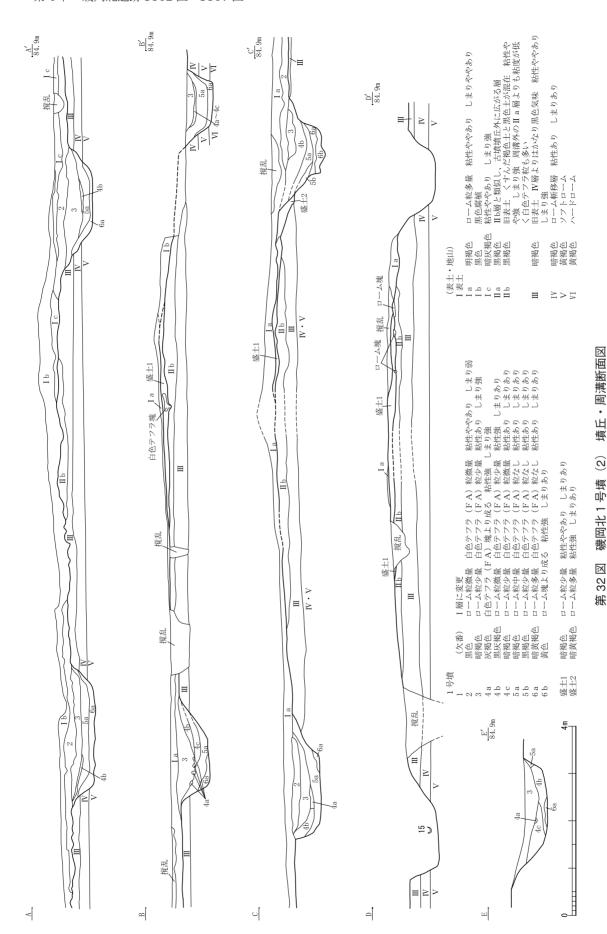
周溝外周の径は南北  $15.7 \times$  東西 16.8m。周溝の幅は  $2.1 \sim 2.7$ m、残存する周溝の深さは約  $50 \sim 60$ c m で一定している。周溝底面の標高は  $83.4 \sim 83.7$ m で、残存している墳頂の最も高い部分は標高 84.6m。旧表土(地山 IIb 層)の上面の標高は  $84.4 \sim 84.5$ m である。

周溝埋土は、最下層 (ローム混じり土層) を除くと、黒色土が主体である。その黒色土の中位 (4層中)には、6世紀初めに降下した Hr-FA テフラと思われる白色粘質土の小塊が認められる。





第31図 磯岡北1号墳(1) 遺構全体図



-68 -

[遺物出土状況] (第33・34 図・写真図版7・8)

**墳丘および周溝の遺物** 大半の遺物は西側周溝内から出土した。また、南側と東側の周溝内にもそれぞれ数点の土器片がある。北半部では遺物が少なく、北東部で墳丘覆土 2 層(黒色土)中から主に杯と思われる土師器小破片が10点と、北側周溝埋土 3 層で土師器杯 1 片が出土した程度である。

西側周溝内に集中する土器破片の一部が西側周溝外まで分布していることをみると、墳丘側から遺物を伴って流れてきた土層が周溝外まで及んだものかもしれない。離れた地点間で出土した破片が接合していること(周溝内の7・12、周溝内と墳丘の18・20)も、墳丘上の遺物が破損して西側とそれ以外の方向にそれぞれ流れ落ちたことを示している。

**1号墳南側の遺物集中地点(SX - 14)** 周溝の南外側で出土した遺物群である。現地調査時に与えた遺構名称は「SX - 14」であるが、1号墳との関係をよりわかりやすく示すために、「1号墳南側遺物集中地点」と呼称する。

遺物を出土した土層は、1号墳を覆う最上層(Ia 層)と同質である。1号墳との間で同一個体の須恵器破片が見られるので(3・4・5・9)、1号墳に関係する遺物群と思われる。1号墳の樽形態(9)は、円板部が1号墳周溝に1片と、体部が2号墳に1片あり(正確な出土位置は不明)、他の円板部~胴部片多数が1号墳南側遺物集中地点で出土した。杯類(3・4・5)も、口縁部または体部が1片だけ1号墳周溝にあり、他の破片が南側遺物集中地点で出土した。

なお、土師器類では、1号墳の周溝・墳丘出土遺物と南側集中地点との間で接合できた遺物は見られなかった。

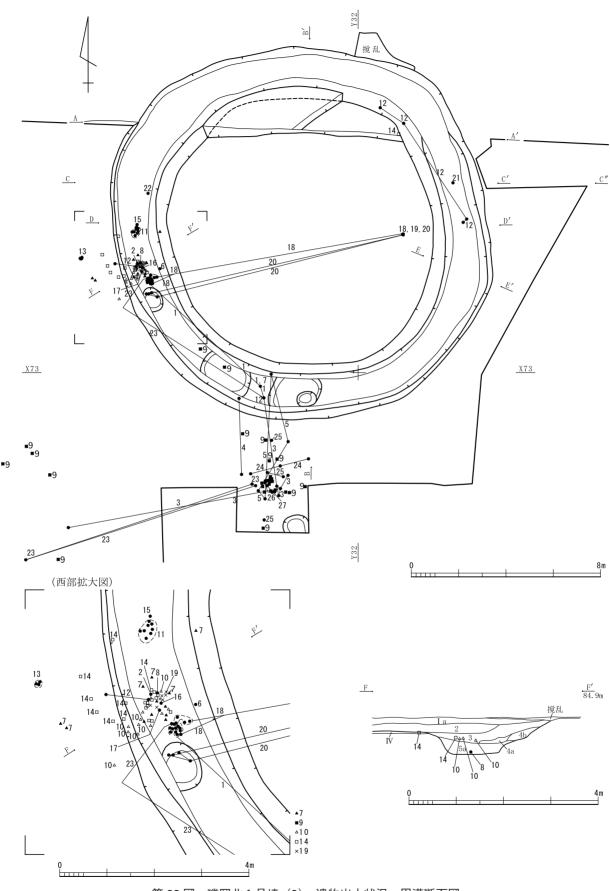
遺構間接合 上述したように、1号墳と南側遺物集中地点との間で遺物が接合している。また、1・2号墳の間で遺構間接合遺物が3例あるので、1・2号墳の周溝埋没時期が近いことを示している。

- (1) 1号墳(4片出土)および1号墳南側遺物集中地点(25片出土)の樽形庭(第35図9)と同一個体の体部小片が、2号墳に7点あり、そのうち5片は両古墳間で接合した。
- (3) 1号墳南側遺物集中地点(SX 14)の須恵器杯身に接合する受部小破片が1 点、2 号墳東側周溝底面より上へ45cmのレベルで出土した(第 36 図 23)。

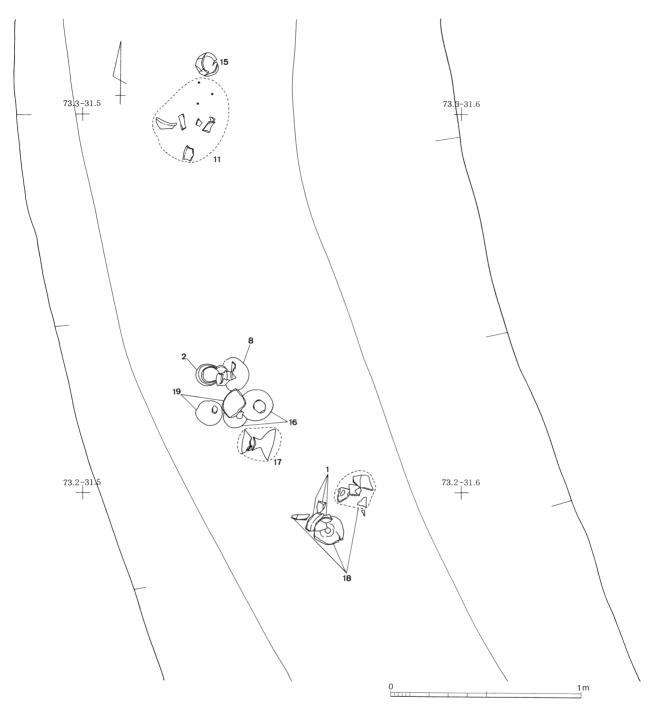
[出土遺物] (第35図、写真図版68・69)

**須恵器**(1~9) 須恵器の割合が高い。ほぼ完形の杯蓋と杯身があり、この2点はセットである(1・2)。 他の杯類は破片ばかりで、杯蓋と杯身があと2個体ずつあったようだが、焼成などからみてもセット関係は うかがえない(3~6)。須恵器杯身(2)は、古墳群内の遺物集中地点(SX-16)出土の須恵器杯身(第 79図1)と形状や焼成・自然釉の状況が比較的よく類似し、受部の下側が強く窪む形も共通する。ただし 両者は別個体である(p.149 および写真図版 68・76)。須恵器杯蓋(3)は、1号墳南側集中地点の杯身(第 79図23)と色調・焼成がよく似ているので、セットの可能性もある。

土師器( $10 \sim 21$ ) 杯  $2 \cdot$  小形壺  $3 \cdot$  短頸壺  $1 \cdot$  高杯  $4 \cdot$  甕 2 の計 8 点が存在したことを個体識別できる。 この他に高杯の口縁部破片が若干あるので、あともう 1 個体の高杯が存在したと思われる。これら以外の土



第33図 磯岡北1号墳(3) 遺物出土状況・周溝断面図



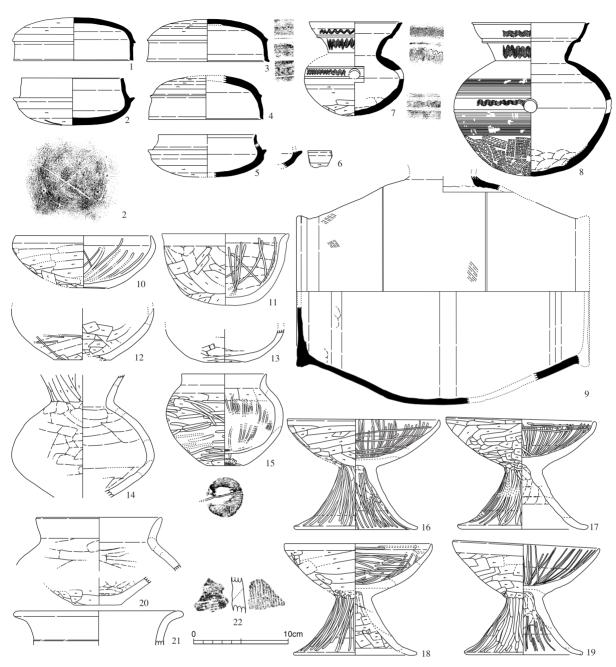
第34回 磯岡北1号墳(4) 西側周溝遺物出土状況拡大図

師器破片はほとんど見られないので、以上の点数を遺棄したものだろう。小形壺 2 点と甕 2 点は破片数が不足しているが、他はほぼ全形に近く復原できる。椀形杯(11)だけは丸底で、他は平底か凹底である( $10\cdot12\cdot13$ )。高杯のうち 16 16 19 は脚内面を磨く点が特異である。

**埴輪**(22) 1片しかないので、この古墳に伴うのかどうかは明確ではない。  $1 \sim 3 \cdot 8 \cdot 9$  号墳で少量 ずつ出土した埴輪は、それぞれ別個体の破片と思われる。埴輪を古墳に少量用いたのか、または 1 号埴輪棺 と同様な埴輪転用棺に由来する破片なのだろう。

この他に、縄文土器片および石器と、中世陶器片が少量出土した。

第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区



第35図 磯岡北1号墳(5) 遺物

第5表 磯岡北1号墳 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

		杯蓋	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	鉢	小形土器	短頸壺	甕	郞	大形鴎	樽形鴎
	口縁部計測			0.61 周	1.00 周	0.42 周	4.08 周			0.83 周	0.58 周			
師	口縁部			11	4	4	29			4	7			
器	体部			有	有	有	脚柱 4				有			
titi	底部			平底 5	平底 5	4	脚裾 14			2	5			
	口縁部計測	0.75 周	1.00 周									0.50 周	1.00 周	
須恵	口縁部	7	1									6	5	
思器	体部	有	有								2	有	有	有
tiù	底部													円板部1
円能	円筒埴輪1点(図の22)。図の3・4・5・9には南側遺物集中地点出土の破片が接合(第7表)。													

# 第6表 磯岡北1号墳 出土遺物

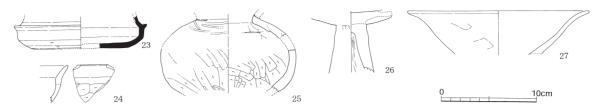
2D U D	1,201	3.10 1	与模 山上煜100		
番号 種類 材質	大きさ	(cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1 杯蓋 須恵器	高 最大	4.6 13.0	2とセット。口縁端面はほぼ水平でわずかに内傾気味。内面調整時はロクロ右回転で、天井部回転ヘラケズリ時には伏せて左回転。 外面天井部には浅黄色(7.5Y7/3)の自然釉がやや厚く付着。	やや粗い 白礫・砂やや 多・白細砂少。 硬質	口7/12周 90·111·115·120·121·122
2 杯身 須恵器	高 最大	5.0 12.9	1とセット。口縁端面はほぼ水平でわずかに内傾気味。受部上面は細くやや深くくぼむ。調整時も外面ヘラケズリ時もろくろ左回転。外底面に焼成前のヘラ記号「×」。蓋を被せて焼成したため受部に蓋を同じ自然釉が付着。	やや粗い 白礫・砂やや 多。白細砂少。 硬質	50
3 杯蓋 須恵器	口復高	4.5	ロクロ右回転で、伏せて天井部をヘラケズリする時は左回転。	少。 硬質	1号墳周溝底上46cmと2 号墳南東周溝底上70cm と1号墳南側集中地点 SX14の破片が接合 ロ1/4周(ロ2/12周は SX14、口1/12周は1号墳 出土) 1号墳の89と2号墳の450 とSX14の29·31·70·72·73
4 杯蓋 須恵器	口 復高		口縁端面はわずかに内傾。ヨコナデ調整時はロクロ回転方向不詳。 天井部を回転ヘラケズリする時はロクロ左回転。		1号墳周溝底上34cmの1 片と1号墳南側集中地点 SX14の4片が同一個体 口1/4周 口縁部3片 中2片(2/12周)はSX14、1 片(1/12周)は1号墳出土 1号墳の92・SX14の35
5 杯身 須恵器	口 復 高 最大	4.5	体部は受部下側がやや強くくぼみ、口縁部は反り気味に立ち上がって端部内面に段を持つ。ヨコナデ調整時の回転方向は不詳。外面回転ヘラケズリ時はロクロ左回転。破断面は灰赤色(7.5R6/2)。	緻密 自砂と黒色湧出	1号墳の1片(周溝底上34cm)と南側集中地点SX14の3片が同一個体口1/12周体部5/12周口1片はSX14出土1号墳の102とSX14の5・40・59
6 杯身 須恵器		3~14	ロクロナデ時の回転方向は不明。底部回転ヘラケズリ。	7.5Y5/1 灰 やや緻密 白砂粒少。 硬質	周溝底上 65cm 体 1/12 周 85
7 <u>酿</u> 須恵器		9.9 10.6	口縁端はわずかに傾く平坦面。外面の口下端に鋭い突線。体部の浅い凹線間と口縁部に5歳、頸部に8~9歯の櫛描波状文を、器面に向かって右から左へ描く。外面下位は上半部回転ヘラケズリと下半部手持ヘラケズリの後に軽くナデて仕上げる。内面底部を棒で突いた痕跡あり。体部と頸部は別作り後に接合。外面肩と内面底部・口・頸部に黒色と浅黄色 (7.5Y7/3) の自然釉が厚く付着。	量。 硬質	周溝底上20~52cm。周 溝外2層の2片も接合 口1/2周、頸~体3/4周 6・7・32・33・35・36・37・61 ・66・68・72・73・77・79・90 ・117と2号墳の448
8 大形庭 須恵器	高最大	16.2 16.8	口縁端面はほぼ水平で弱く凹む。底部の内面を突いて外へ出し、 外底面に多方向の格子ふう叩き目の後、外面中位にカキメ。カキ メの中央部を回転ナデで消して、その上下に凹線を入れた後その 間に 10 歯以上の工具で櫛描波状文施文後穿孔。口縁部も同様に 上下を凹ませた後に波状文。頸部に 11 歯の波状文。波状文は 3 カ所とも器面に向かって左から右へ描き、カキメを施文する方向 は右から左。肩部以上に淡黄色の薄い自然釉。	緻密 灰色礫·白細粒。 硬質	周溝底上 8cm 完形 49
須恵器		24.2 24.0 16.0	大きさの割に薄い。体部に平行叩き整形後、内外面ロクロナデ。 円板部は図の左側だけが残存し、内面が荒れているので、こちら が閉塞部の可能性がある。頸は別作りして接合。胴中位の穿孔部 は残存しない。体部の凹線 2 条の他には文様がない。体部上半に 暗緑色(10Y4/2 ~ 7.5Y4/2)の自然釉が多量。	やや緻密 白礫・白砂少量。 硬質	SX14と周溝外と南西部 出土の破片が接合 円板部6片 (2/3周) ・頸部2片 (5/12周) 1 号墳の1・83・89と2号墳 の53・54・472とSX14の 24・41・64・66・74・75・77
10 杯 土師器	高	14.5 5.6 15.1 5.0	半球形で口外面に不明瞭でわずかな段あり。外面底部は1方向へラケズリで凹み底。外面体部へラナデと口縁部に丁寧なヨコナデの後、体部ヨコヘラケズリ。内面は丁寧なヨコナデ後、放射状へラミガキ。	緻密 灰色·透明·黒細	周溝底上31~55cmと周 溝外2層の1片が接合 口7/12周、底11/12周 20・45・67・69・76・78・80・ 81・103・112・132・133
11 杯 土師器	口 高 底 7.3~	7.6	口が外反。やや厚く重い。体〜底部の境界は不明瞭。外面は体部 上半ナデ後、底部多方向と体部下半ナナメヘラケズリ。口縁部内 外面に丁寧なヨコナデと内面体部ヨコヘラナデの後、内面に主に 縦位のヘラミガキ。外面2カ所に黒褐色の付着物。	やや緻密 透明・黒・白	周溝底上13~17cmが接

番号 種類 材質	大きさ	(cm)	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
12 小形壺 土師器	高 最大 復 底 復		凹底または平底と思われる。外面ナナメナデおよびヨコナデ後、 体部下端ナナメのヘラケズリ。底面に1方向または多方向のヘラケズリ。外面体部中位に疎らなヘラミガキ(不確実)。内面多方向にヘラケズリ。	やや緻密 白細粒・黒・	周溝底上18~55cmが接 合 底1/6周 4·7·42·99·100
13 小形壺 土師器	高 残底	3.5 4.2	四底で底面中央が薄い。体部内外面ヨコナデまたはヨコヘラナデの後、外面体部下端ヨコヘラケズリ、外底面に1方向ヘラケズリ。		
14 小形壺 土師器	最大		外面は体部に横〜斜位のヘラナデ、頸部タテヘラケズリ。内面は底部に円周方向のヘラナデ後、体部中位にあまり止めないヨコヘラナデ。肩部ヨコヘラナデ、頸部ヨコナデ。		
15 短頸壺 土師器		9.7	外面は体部ヨコヘラケズリ後、ヨコヘラミガキを下半部ほど密に施す。底面はヘラケズリで凹底に仕上げた後、おそらく乾燥時に生じた亀裂を塞ぐために内外面を1方向ヘラミガキ。内面は体部にヨコナデ又はヘラナデと肩部ヨコヘラケズリの後、タテヘラミガキ。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。外底面周辺に7~8cm大の黒斑。	やや粗い 赤粒やや多 赤・白細粒と黒細砂少。	周溝底上24cm 口5/6周、底全周 54
16 高杯 土師器	口 高 脚裾		杯部は口縁部内外面に丁寧なヨコナデ後、外面ヨコヘラケズリ、 内面は密な放射状ヘラミガキ後に疎なヨコヘラミガキ。脚部は内 面ナデ後に裾部内外面を丁寧にヨコナデして脚全体の内外面にタ テヘラミガキ。	やや緻密 灰色砂少	周溝底上16cm ほぽ完形 95
17 高杯 土師器	口 高 脚裾		杯部内面へラナデ後に内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。内面放射 状へラミガキ後に口縁部ヨコヘラミガキ。杯外面ヨコヘラケズリ。 脚部は内面ナデ後、内外面下半部を丁寧にヨコナデして、外面タ テヘラミガキ。	やや緻密 赤粗〜細粒	
18 高杯 土師器	口 高 脚裾		杯部は内面へラナデ (?) と外面ヨコヘラケズリの後、口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。杯内面に上から見て多角形状の方向へヨコヘラミガキ。脚部は内面上部ナデと下部ヨコヘラケズリの後、脚裾部に丁寧なヨコナデ、脚外面タテヘラミガキ。	やや緻密 白細粒と黒・	周溝底上28~34cmが接合 ロ7/12周、脚裾3/4周 84·114·123·124·125・ 127·142·南西
19 高杯 土師器	口 高 脚裾		杯部は外面ヨコヘラケズリ、内面多方向ヘラナデの後、口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。内面に放射状ヘラミガキ。脚部は内面ユビナデ後内外面裾部に丁寧なヨコナデ。外面タテヘラミガキ。内面も全周の約1/4の範囲でタテヘラミガキをするが、特にこの部分を補修したような状況ではない。	やや緻密 赤粗〜細粒 やや多。白細粒と黒・透	
20 甕 土師器	口 復 底	13.4 5.1	口〜肩部と底部が同一個体だが、胴部中位破片が不足して復元できない。肩部内外面にヨコヘラナデ後、口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。底部は内面におおよそ円周方向のヘラナデ。外面胴部ヨコヘラケズリ。外底面はおそらく1~2方向のヘラケズリ。	やや粗い 白・灰色礫~	周溝底上47~52cmが接合 口5/12周、底全周 13·14·15·17·142·西、 南西ベルト内
21 <b>甕</b> 土師器	口 復高 残	3.8	丁寧なヨコナデ。外面頸部に低い段有り。	やや粗い 黒細砂と白 透砂多。赤・灰色礫少。 やや硬質	101
22 円筒 埴輪	高 残	3.7	外面タテハケ (8本 / 2cm)。内面のタテハケもよく似た工具で施している。	7.5YR6/4 にぶい橙 やや粗い 透明砂·黒細砂・赤粒やや多。白砂・ 細砂やや少。 軟質	周溝底上46cm 47

# **〔南側遺物集中地点の出土遺物〕**(第36図23~27、写真図版69)

1号墳南側遺物集中地点 (SX-14) の遺物は、どれも破片が不足して全体を復原できない。 1号墳の 3・  $4 \cdot 5 \cdot 9$  に接合する破片がここで出土した他に、以下の遺物がある。

須恵器杯身(23)には、西に隣接する 2 号墳出土の小片 1 点も接合した。体部中位が外へ強く張り出す。 1 号墳出土の蓋(3)と色調・焼成がよく似ているので、セットの可能性もある。土師器高杯は、よく似た胎土・焼成のものを 3 個体以上含み、計 5  $\sim$  6 個体分以上あると思われる。そのうち 2 点を図示した(26・27)。杯と小形壺は、おそらく図示した個体の破片ばかりがみられ、いずれも少量である(24・25)。



第36図 磯岡北1号墳(6) 南側集中地点出土遺物

# 第7表 磯岡北1号墳 南側遺物集中地点 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

	杯 蓋	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	鉢	小形土器	壺	甕	小形甕	小形甑	樽形ඔ
1縁部計測		0.08 周		0.33 周		0.08 周							
1縁部		2		7		3							
部		有			有	脚柱 6							
部						脚裾 12							
1縁部計測	0.33 周	0.08 周											
1縁部	4	1											
*部		有											有
部													円板部5
<b>オ モ エ エ オ モ</b>	· 部 · 部 · 線部計測 · 1線部 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	:部 :部 1縁部計測 0.33 周 1縁部 4	有       :部       1縁部計測     0.33 周     0.08 周       1縁部     4     1       :部     有	有       :部       1縁部計測     0.33 周       0.08 周       1縁部     4       1       :部     有       :部	有       :部       1縁部計測     0.33 周     0.08 周       1縁部     4     1       *部     有       :部     -	有     有       京部     (33 周)       (4 日本)     (33 周)       (5 日本)     (4 日本)       (6 日本)     (4 日本)       (6 日本)     (4 日本)       (7 日本)     (4 日本)       (6 日本)     (4 日本)       (7 日本)<	有     有     有     脚柱 6       :部     即程 12       1縁部計測     0.08 周       1縁部     4     1       :部     有	新     有     有     脚柱 6       中部 12     脚裾 12       線部計測 0.33 周 0.08 周     1       計線部 4 1     1       京部 有     6	新     有     月     期柱 6       中緒 12     月       1縁部計測 0.33 周 0.08 周     0.08 周       1縁部 4 1     1       新     有	有     有     期柱 6       印第 12     期報 12       1縁部計測 0.33 周 0.08 周     1       1縁部 4 1     1       5部 有     6	有     有     期柱 6       印轄 12     即轄 12       1縁部計測 0.33 周 0.08 周     1       1縁部 4 1     1       5部 有     1       6部     1	音部     有     期柱 6       語部     即程 12       線部計測 0.33 周 0.08 周     1       1線部 4 1     1       音部     有       音部     1	(部)     有     有     脚柱 6       (部)     脚程 12       (銀線部計測 0.33 周 0.08 周 12     1       (部)     4     1       (部)     有       (部)     (日本)

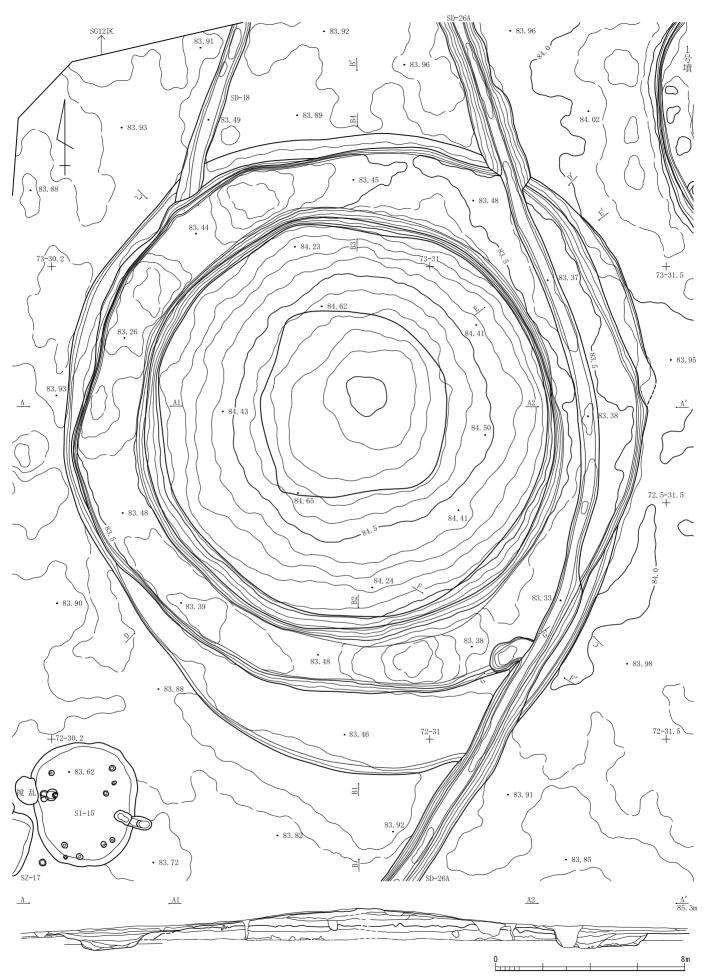
# 第8表 磯岡北1号墳 南側集中地点 (SX-14) 出土遺物

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
23 杯身 須恵器	復11~12	口縁部の下半がやや強く内傾する。底面は平坦に近い。体部ロクロナデ調整時も、上下逆にして外底面回転へラケズリ調整する時も、ロクロは反時計回り。		I a層出土の2片に2号墳 周溝底上45cmの1片が接 合 体1/6周 SX14の8·13 SZ2の72
24 杯 土師器	口 復13~15 高 残 3.9	口が外反し、頸部の稜は内面で明瞭、外面では不明瞭。外面口~ 頸部と内面に丁寧なヨコナデ。外面体部ヨコヘラケズリ。	緻密 黒細砂と白・赤細 粒少。	I a層出土の2片が同一 個体 口1/12周 34·44
25 小形壺 土師器	最大	肩部と体部が接合できないので、器形復元はやや不確実。体部は 内外面に縦〜斜位ヘラケズリ後、外面に斜位の部分的な軽いヘラ ナデまたはヘラミガキ。肩部は外面に粗いヨコヘラミガキ、内面 はユビオサエで粘土接合痕を残す。	やや粗い	
26 高杯 土師器			緻密 黒細砂少。赤・白細粒と	I a層出土の3片が同一 個体 脚柱全周 23·68
27 高杯 土師器				I a層出土の4片が接合 口0.5/12周 20

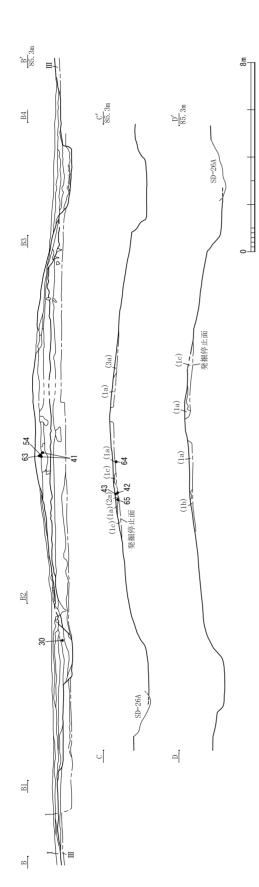
**磯岡北2号墳**(第37~45 図、写真図版 9~14・69・71・80~82・87)

# 〔概要〕

墳径 18.4m・残存する高さ 1.6m の円墳で、周溝幅  $2.9 \sim 4.2\text{m}$ (周溝外周上部の傾斜面も含めた場合には幅  $3.6 \sim 6.7\text{m}$ )の規模を持つ。磯岡北古墳群では、 3 号墳に次いで規模が大きい。中心埋葬施設は破壊され、埋葬主体部を設けるための整地土の可能性がある土層と、副葬された鉄製品が若干残されていた(鉾・刀・剣・鏃・轡・斧・刀子・不明鉄製品)。南東部の周溝外縁には、埋葬施設と考えられる周溝内土坑が 1 箇所あるが、遺物はなかった。また、墳丘と周溝から多数の須恵器・土師器が出土した。



第37図 磯岡北2号墳(1) 遺構全体図



第38図 磯岡北2号墳(2) 断面図

# 〔位置〕

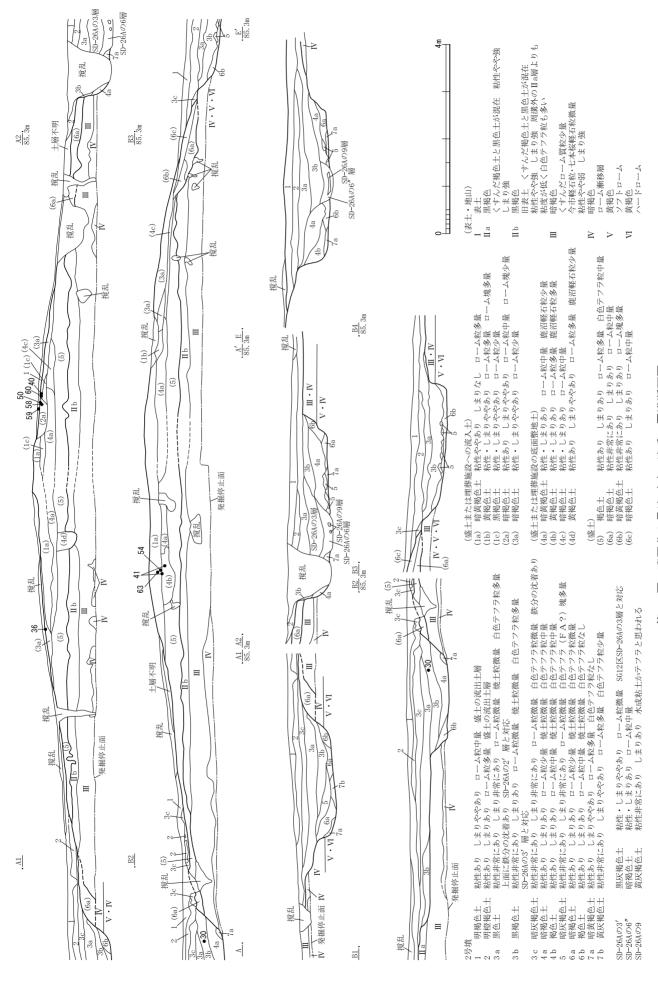
SG17区の北西部にあり、72-30・31 グリッドと72-30・31 グリッドに所在する。北東には2号墳が隣接し、1・2号墳の周溝外周の間は、最も狭い部分で3.5m離れている。南方には6号墳が所在し、2・6号墳の周溝外周の間は、12.5m離れている。2号墳周溝の南外縁に延びる緩い傾斜面も2号墳の周溝に含めた場合は、この間隔は9.2mである。東側の周溝内を、中世の溝状遺構が南北に通り抜けている(SD-26A)。この部分では2号墳の周溝を意識して掘られ、またこの南側では4号墳の周溝外側を巡った後に3号墳の周溝に取り付いている。2・3・4号墳の周溝を意識して中世に掘られた溝だろう。

### [墳丘] (第 37 ~ 39 図、写真図版 13・14)

周溝底面立ち上がりで計測した墳丘径は 18.0 ~ 18.4m でほぼ一定している。残存している墳頂から周溝底面までの高さは 1.6m あり、そのうちの盛土の厚さは 0.7m である。盛土は (1a) 層~ (6c) 層が見られた。墳頂部にある (1a) 層~ (3a) 層には、主体部から流出した鉄製品の破片を散在的に含むので(第 39・40 図墳頂部の 36~65)、流出または破壊された埋葬施設を反映する層である。主体部の底面付近を構成した土層の可能性が指摘されている(中村 2004, p.175)。

盛土 (4) 層には鹿沼軽石粒が混入してみられ、旧表土直上に最初に盛られた (5) 層とは色調や質が異なる。本遺跡は田原段丘面に立地するため、鹿沼軽石粒は下に掘削しても得られないので、近隣の宝木段丘面などから鹿沼軽石を搬入した可能性がある。磯岡北遺跡から北東側へ無名瀬川を渡ったすぐ対岸の琴平塚古墳群および西刑部西原遺跡は宝木段丘面上にあり、ここでは地山に鹿沼軽石層が存在している。

墳丘の外周部には特徴的な盛土層である (6a) ~ (6c) 層が見られる。周溝内側斜面の地山 (IIb 層と III 層)を除去して地山を成形し、狭い2段築成状 (テラス状)の段を途中に作る。この段を埋めるように (6a) ~ (6c) 層を入れ、最終的に段築を持たない通常の円墳として仕上げている。周溝の内側面から続く急斜面の上半部も、この層 (主に (6a) 層)で構築している。2号墳と同様に、一度作りだしたテラスを埋め戻すような盛土層は、8号墳と9号墳でも確認されている。



第39 図 磯岡北2号墳(3) 墳丘・周溝断面図

#### [周溝]

周溝の外周上部には、外に広がる緩い傾斜面を持つ。これと同様の傾斜面は3号墳にも見られる。また、8・9号墳の周溝も上部が少し外に開き気味である。この傾斜面を除いた場合の周溝幅は2.9~4.2mであり、幅2.9~3.2mのところが多いが、北~東側にかけての部分と西側で少し幅広くなる。周溝外周にある前述の傾斜面は、幅広いところ(周溝の南側)で幅3.2~3.5m、狭いところ(周溝の北側など)で幅1.0~1.1m。この傾斜面も周溝の一部に含めた場合には、北東部で周溝幅4.7m、南部で周溝幅が最大6.7mまで広がり、それ以外の部分では周溝幅3.6~4.3mである。遺構確認面から計測した周溝の深さは約40~50cmで一定している。また、墳丘盛土下にある旧表土の上面から周溝底までの深さは約90~120cmである。周溝底面の標高は83.2~83.5m、残存している墳頂の最も高い部分は標高85.0m。

周溝埋土は自然埋没で、最下層の  $7a \cdot 7b$  層(ローム混じり土層)以外は黒色〜褐色土層が主体である。埋土の下位にある 5 層を中心として、6 世紀初めに降下した Hr-FA と思われる白色テフラが周溝全体にわたって認められた(第 40 図)。また、東側周溝が埋没する途中の窪地を南北に通るように中世の溝 SD-26A が掘られ、この溝の上部は 2 号墳周溝埋土の 3 層で埋没している(第 39 図 A2-A' と E-E')。

#### 〔周溝・墳丘の遺物出土状況〕(第40図)

多量の須恵器・土師器破片が、墳丘および周溝から出土した。土器破片の一部が北西〜北側の周溝外まで分布していることをみると、墳丘側から遺物を伴って流れてきた土層が周溝外まで及んだものかもしれない。 須恵器大甕(第 42 図 1)の破片が多く、南側周溝内にまとまっている(第 40 図 $\nabla$ )。南裾付近に遺棄された甕が流入したものであろう。 3 号墳のテラス面で出土した須恵器甕と同様の状況を推定できる。この他の須恵器は 2 が南側、3  $\sim$  6 が東側周溝で出土した。土師器杯(7  $\sim$  19)と小形壺(20)と鉢・甕(28  $\sim$  31)は南側周溝にまとまり、主に土師器高杯(21  $\sim$  27)が北側周溝に見られる。円筒埴輪片(32  $\sim$  34)は、東側周溝を切る中世の溝 SD  $\sim$  26A の中で出土したものであり、厳密にいえば 2 号墳周溝から出土したものではない。

遺構間接合 1・2号墳の間で遺構間接合遺物が3例あるので、1・2号墳の周溝埋没時期が近いことを示している。

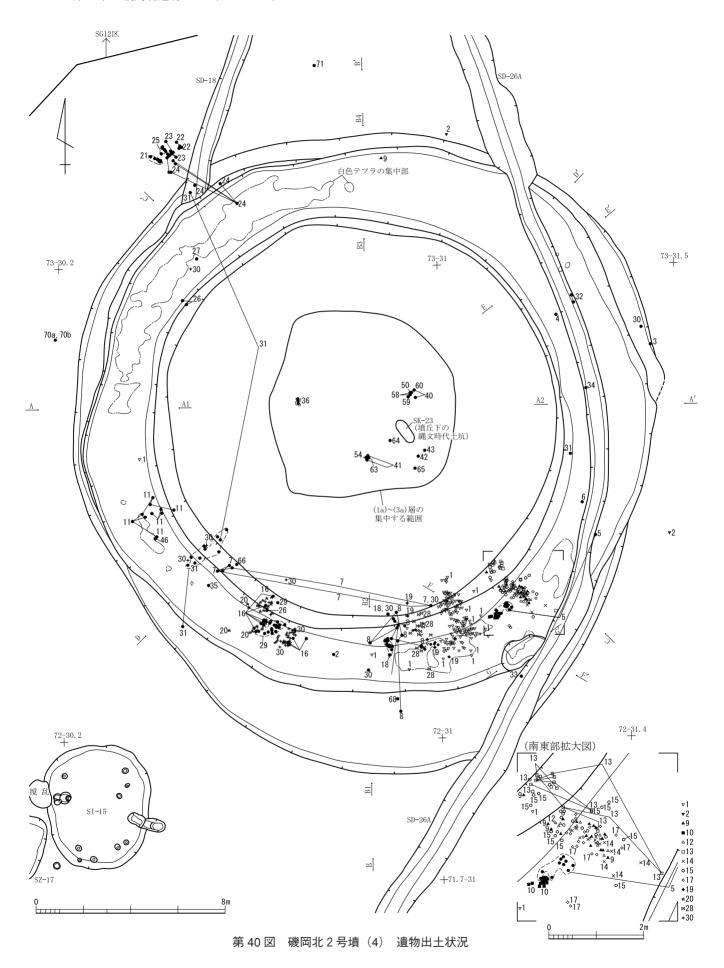
- (1) 1号墳(4片出土)および1号墳南側遺物集中地点(25片出土)の樽形庭(第35図9)と同一個体の体部小片が、2号墳に7点あり、そのうち5片は遺構間で接合した。
- (3) 1号墳南側遺物集中地点出土の須恵器杯身(第 36 図 23)に接合する受部小破片が 1 点、 2号墳の 東側周溝の底上 45cm で出土した。

また、2・3・5号墳の間でも同一個体の遺物が出土している。3号墳の須恵器甕(第52図1)と同一個体と思われる胴部破片が、2号墳の周溝底上40cmおよび周溝外で計3点と、5号墳の東側周溝底上15cmおよび西側周溝から出土した(第43図2a・2bと第64図2)。3号墳の遺物破片が2・5号墳に混入したものであろう。

#### [埋葬施設と副葬品出土状況] (第 38 $\sim$ 40 図、写真図版 $10 \sim 12$ )

墳頂には8m四方の範囲に黄褐色系統の土である (1a) 層~ (3a) 層が見られる(第 40 図)。このうち (1a) 層と (2a) 層の上面付近と (1c) 層から、副葬品と考えられる鉄製品(鉾・刀・剣・鏃・轡・斧・刀子)が出土した(第 38 図 B - B' および C-C'と、第 39 図 A1-A2 および B2-B3)。遺物の出土地点に規則

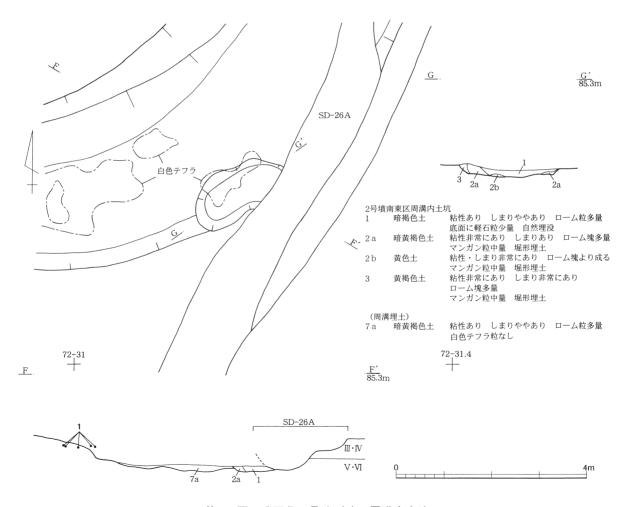
第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区



性は認められず(第 40 図 36 ~ 65)、棺の痕跡も不明であるため、すでに棺痕跡は流出していると考えられる。 副葬品のほとんどは残存する墳丘上面付近や周溝内にあるので、本来副葬されていた位置から撹乱・流出に より移動しているであろう。 鉄鏃 2 点と鉄斧 1 点(41・54・63)だけは、やや深いところで (4a) 層・(4b) 層の上面付近から出土している(第 39 図 B2 - B3)。

墳頂部以外でも、轡引手壺破片や刀子・鉄鏃・刀が出土している( $37 \sim 39 \cdot 44 \sim 49 \cdot 51 \sim 53 \cdot 55 \cdot 57 \cdot 61 \cdot 62 \cdot 66 \sim 69$ )。番号を与えないで取り上げているこれらの鉄製品は、表土除去および周溝掘り下げ時に出土したものと思われる。やはり埋葬施設から流出したものであろう。

(1a) 層~ (3a) 層は、すでに流出・破壊された埋葬主体部を構成していた土層を反映する可能性が指摘できる。さらにこの下方にある (4a) 層~ (4c) 層には鹿沼軽石粒が混入してみられるので、〔盛土〕の項で先に述べたように、近隣の宝木段丘面などから意図的に搬入した可能性もある。盛土で墳丘を造る時に、埋葬施設を設置するための整地土として (4a) 層~ (4c) 層を一緒に搬入しているのであれば、和田分類(1989)による「無墓壙」の主体部構造に該当する。このような立場で、「旧地表上にロームブロックを基礎として築かれる構造」の主体部類型が設定されている(中村 2004, pp.175-176)。これは、磯岡北2号墳の現地調査担当者により、この2号墳を含めて設定された主体部類型である。ただし、厳密に表現すると磯岡北2号墳の場合は「旧地表上のロームブロック」ではなくて、盛土最下層= (5) 層の上に、鹿沼軽石混じり土= (4) 層を基礎として築かれていたと思われる。



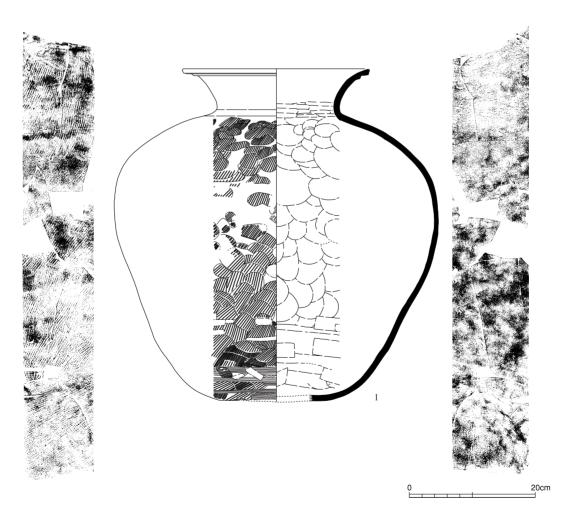
第41図 磯岡北2号墳(5) 周溝内土坑

# [周溝内土坑] (第 41 図、写真図版 12)

2号墳の南東部周溝内にあり、周溝の外側斜面の下端部にある。埋土のうち 1 層(暗褐色土)は、埋葬されていた遺体が消失した後に陥没して入ってきた自然堆積土層と思われる。 $2a \cdot 2b \cdot 3$  層は、地山ロームの塊を多く含んでいたので、人為的に埋め戻した土と考えられる。 2号墳の周溝底面からの深さは最大で 20cm 程度しかない。しかし、短軸方向の断面図(F-F')でわかるように、少なくとも周溝埋土の最下層である 7a 層が堆積した後にそれを切って掘り込んでいるので、実際にはもう少し深かったものと思われる。当然、 2 号墳の築造後、周溝内に土が堆積する期間を経た後に構築されたものである。

周溝内土坑よりも上層において、古墳時代後期初めに降下した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)と考えられる白色テフラが確認されている。このテフラ層が極端な二次的流入や移動に伴うものでないならば、この周溝内土坑が構築されて埋められた後にテフラが降下して周溝内に流入・堆積した可能性がある。

木棺痕跡はなく、大きさや不整な形状からみて棺を使っていないと思われる。副葬品や、埋土中の遺物は見られなかった。底面の標高は北半部(83.30m)の方が南半部(83.22  $\sim$  83.26m)よりも少し高いので北東頭位と考えることもできる。しかし、底面の南端部も少し高くなっているので(83.34m)、断定はできない。長さ 2.07m、幅 1.10m。主軸方向は N-54°-E。やや不整形で北東部が少し曲がっているので、主軸はもう少し東に(N-62°-E 前後まで)振っているとみなすこともできる。



第42図 磯岡北2号墳(6) 遺物

[墳丘・周溝から出土した土器類] (第 42 図 1 ~第 43 図 35・写真図版 69)

須恵器・土師器ともに多くの破片が出土した。

須恵器(1~6) 破片の大半は口径 30cm 弱の大形甕のもので(1)、おおよそ全形を復原できた。この 甕は焼成時から底部に亀裂が貫通していた可能性が高く、液体を入れると少しずつ漏れ出したと思われる。底部の破片が1箇所欠落していて、焼成後に人為的に穿孔した可能性もあるが確実ではない。須恵器甕の底部穿孔については5号墳の項目を参照。2a・2bは同一個体で、3号墳の須恵器甕(第52図1)の破片と思われる。須恵器杯蓋天井部が1片あり(3)、他にこれと同個体かどうか不明の蓋天井部小片が1点ある。1号墳南側遺物集中地点で出土した須恵器杯身(第36図23)の小片も2号墳で1点出土したが、これと3の色調はやや異なる。 嘘は有文と無文の各1点があり(4・5)、前者は小形の壺かもしれない。 6は無文の須恵器壺(?)で、胎土・焼成も含めて8号墳の壺(第72図2)に類似している。 樽形嘘と考えるにしてはやや厚すぎるかもしれない。

**土師器**  $(7 \sim 31)$  杯類の破片が多い。いずれも内外面をよく磨くもので、確認できる底部は平底か凹底が多いが、丸底も 3 例認められた( $17 \sim 19$ )。口縁部が外反する杯類が多い( $9 \sim 19$ )。口縁部外面に浅い段を持って直立する典型的な模倣杯は 7、半球状の杯は 8 だけであり、それぞれこの個体の他には破片も見られない。

小形壺は少ない(20)。それに比べて高杯はやや多く、脚柱部の破片から考えて8個体分以上が存在する。そのうち図示できたのは7点である(21~27)。杯を大形化した形状の鉢が2点ある(28・29)。大形の鉢は3号墳にも見られる(第53図29)。土師器甕は2個体分の破片が存在するが(30・31)、どちらも破片が不足して全形を復原できない。

**埴輪**  $(32 \sim 34)$  4片だけ出土し、そのうち 2片が接合した(32)。 33 と 34 は同一個体の可能性がある。 いずれも中世の溝 SD - 26A が東側周溝を切る部分に混入して出土したもので、 2 号墳に埴輪が伴うのかどうかは明確ではない。  $1 \sim 3 \cdot 8 \cdot 9$  号墳で少量ずつ出土した埴輪は、それぞれ別個体の破片と思われる。 埴輪を古墳に少量用いたのか、または 1 号埴輪棺と同様の埴輪転用棺に由来する破片なのだろう。

その他 奈良時代の須恵器無台杯が1片ある(35)。奈良~平安時代の須恵器は2・3・8・9号墳に少量ずつ見られる。また、縄文土器片および石器と、中世陶器片が少量出土した。

**[副葬品**] (第 44 図 36 ~ 69、写真図版 80 ~ 82)

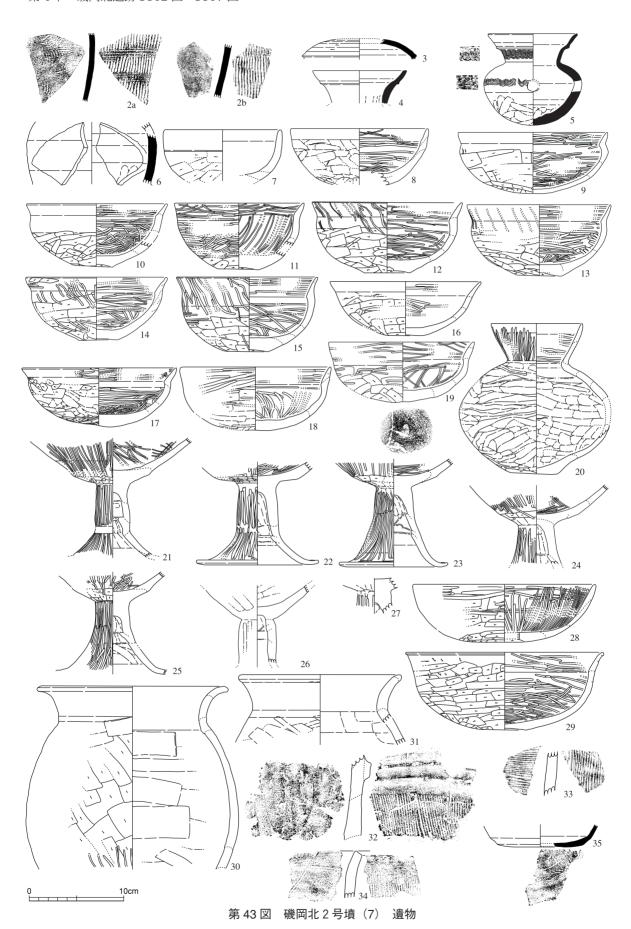
2号墳からは、鉾  $1 \cdot \Pi 2 \cdot$ 剣  $2 \cdot$ 鎌 18 片・轡  $1 \cdot$ 斧  $1 \cdot \Pi$ 子  $3 \cdot$ 不明鉄製品 2 が出土した。すべて鉄製品である。 $67 \sim 69$  は、墳頂部での出土品ではないので、副葬品ではない可能性もある。

**鉄鉾**(36) 1点出土した。袋部は断面円形で、袋端部をV字形に抉る。中に差し込む柄木も、このV字形に合わせて、1mm程度の浅い段状に削る加工がしている。目釘孔は左右側面にあり、上下に位置が少しずれるので一本の目釘ではなく左右から別の目釘を打つものであろう。目釘は残っていないので、有機質製かもしれない。刃部には両面に弱い稜線があり、断面は菱形気味の楕円形である。

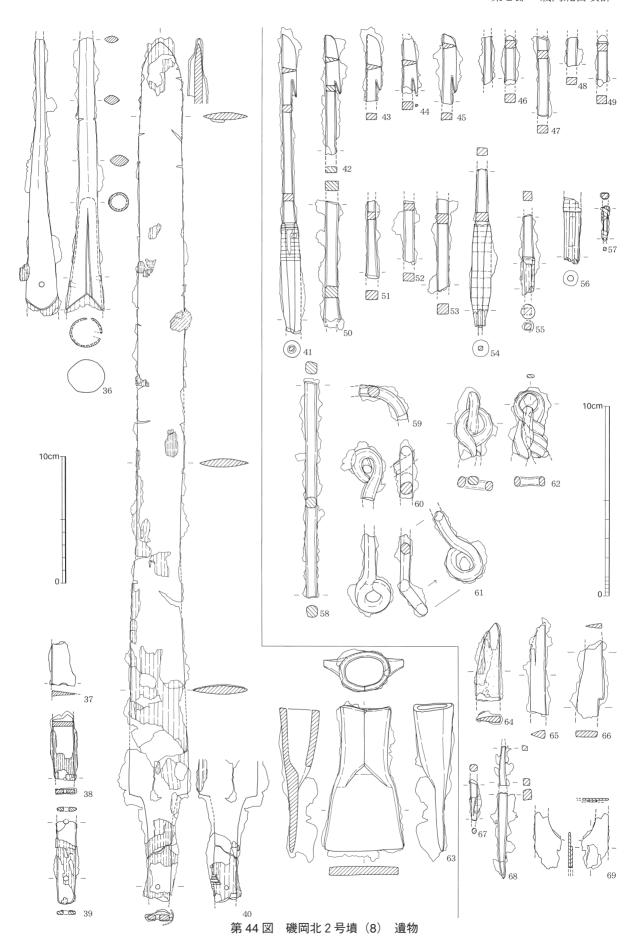
**鉄刀**(37・38) 38 は鉄刀(または鉄剣)の茎部で、目釘孔の一部が残る。37 は鉄直刀か刀子の刀身部分の小破片かと思われる。

**鉄剣** (39・40) 2 点あり、茎部の横断面形が異なるので別個体であろう。40 は復元長 70cm 以上になる長剣で、柄巻の紐がごく一部に残る。39 は、横断面形の両側縁側が薄くなるので、刀ではなく剣の茎部片と判断した。

**鉄鏃** $(41 \sim 57)$  全形がわかる品は1点だけである。他の破片を見ても確認できる形状は同じく長頸腸



-84 -



抉片刃箭鏃で、逆刺(腸抉)が深い( $41\sim45$ )。茎に近づくと頸部が幅広く厚くなり、台形関になる可能性がある( $41\cdot50\cdot54$ )。ただし、55 は関が不明瞭である。口巻は樹皮を用いる。茎部にラセン状に繊維を巻いたものも見られる(57)。3号墳出土の鏃と類似する。

轡( $58 \sim 62 \cdot 第131 \, 図1$ ) すべて鉄製。銜連結部(62)と引手( $58 \cdot 60 \cdot 61$ )の破片が残る。 $59 \cdot 60$  ・ 61)の破片が残る。 $60 \cdot 61$ )の破片が残る。 $60 \cdot 61$ )のはよりないけんでは、 $60 \cdot 61$ )のなりはないけんでは、 $60 \cdot 61$  がらないけんでは、 $60 \cdot 61$  がらないは、 $60 \cdot 61$  がらないは、 $60 \cdot 61$  がらないけんでは、 $60 \cdot 61$  がらないは、 $60 \cdot 61$  がらないは、 $60 \cdot 61$  がらないがないは、 $60 \cdot 61$  がらないは、 $60 \cdot$ 

**鉄斧**(63) ナデ肩の有袋鉄斧。袋部の合わせ目は、本来は完全に合わせてあったものだが、銹でわずかに開きつつある。

**鉄製刀子**( $64 \sim 66$ ) 3点ある。64 は刃部の両面に有機質(革?)が付着し、その上に付く木質は別製品に由来するのかもしれない。65 は刀子かどうかやや疑問も残り、片逆刺を持つ鏃の破片かもしれない。66 は背関を持つようである。

棒状鉄製品(67・68) 67 は尖った鉄棒を材質不詳の有機質に打ち込んだと思われるもので、有機質の 衛を持つ轡の立聞用金具か、または釘の可能性がある。68 は同一個体の可能性がある 2 片が出土した。南 側周溝の外側寄りで出土したので、後世の混入遺物(釘など)の疑いもある。

**板状鉄製品**(69) 1点だけ出土した。2枚の鉄板が重なっているらしいが、小破片のため詳細は不明である。調査区の西部で出土し、墳頂部の遺物ではないようなので、後世の混入遺物の疑いもある。

[後世の金属製遺物] (第 45 図 70・71、写真図版 87)

釘(70)と寛永通寶の四文銭(71)がある。70は、形状からみて、かなり新しい時代の釘かと思われる。



第45図 磯岡北2号墳(9) 古墳に伴わない遺物

第9表 磯岡北2号墳 出土遺物

	番号				色調	出土状態
	種類	大きさ	(cm)	特徴	胎土·焼成	残存状態
	材質				(または素材)	注記
Γ	1	П	29.7	口縁部に断面三角形の凸線1条。口端面はやや拡大した面をなす。	N5/ (YR) 灰	周溝底上3~54cmが接合
	甕	高	52.8	別作りの頸部を接合して内面下部は非回転、外面は回転ヨコナデ	緻密 黒色湧出粒多。白	口1/4周、頸全周、
1	須恵器	最大	51.4	で調整。胴部内面はうっすらと同心円状の木目が浮き出る程度の	細砂~白礫。	胴ほぼ全周。
				無文に近い当具痕で、胴中位では右から左、胴上位では下から上	硬質	99 · 268 · 286 ~ 291 · 293 ·
				へ進行する。同一の内面当具痕に対する外面の平行叩きは上から		297 · 299 · 300 · 301 · 303 ·
				下へ進行する。胴中位は外面の叩きが疎ら。底部では多方向に叩		304~330.337.341.351.
				いた後に内面に同心円状のヘラナデ。外面は少し間隔を空けたカ		354~361.363.365~367
				キメ。叩き板は木目に平行の溝を彫る。底部は焼台(石?)に当		369~377.393~401.
				たっていた2カ所が凹んで亀裂を生じており、そのうち1カ所は		403~422.424~429.449.
				内外面に貫通していた可能性がある。外面肩部に暗緑色の自然釉		520~525.552~564.566
				が薄く付着。		~568.570~581.
						583~586.588.590~598.
						604 • 605 • 609 • 610 • 633 •
						634·676·694·SX-15の14
	2			2a と 2 b はともに 3 号墳の 1 と同一個体の可能性あり。外面は木	7.5Y4/1 灰	周溝底上40cmの1片と
1	甕			目直交の平行溝を彫った板で格子ふう叩き目の後に間隔を空けた	緻密 白細粒。白砂少。	周溝外出土の2片が同
1	須恵器			カキメ。内面は同心円文当具痕を不完全に磨り消し。破断面は灰	硬質	一個体
				赤色(2.5YR5/2)。		体1/12周
						1.11.105
Γ	3	高	残 2.2	肩の稜線は明瞭に突出。伏せて天井外面を回転ヘラケズリする。	5Y5/1 灰	周溝底上 20cm
1	杯蓋	最大	復12.0	この時はロクロ左回転。ヨコナデ調整時の回転方向は不明瞭だが、	緻密 白細砂やや多、	天井 1/4 周
1	須恵器			同じく左回転の可能性あり。	白砂少。	4
					硬質	

32. 🗆	1			<i>λ.</i> ∃π	rtir I. Jitseks
番号 種類 材質	大きさ	(cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
4 颹 須恵器	口 高 残		小形壺の可能性もある。口縁端面は水平。口〜頸部の境に明瞭な 突線1条。頸内面に絞り目あり。内外面はロクロナデで回転方向 は不詳。内外面に黒〜暗緑色の自然釉。		周溝底上54cm 口1/12周、頸1/6周 58
5 颹 須恵器	口 高 最大	9.5 9.7 10.4	口縁端部は丸くおさめる。ロクロ整形後、内面底部を棒状工具で突いて丸底にする。外面底部は多方向ナデ。頸部に 10 ~ 11 歯、体部に 7 歯程度の櫛描波状文を器面に向かって左から右へ描く。体部内面調整時にはロクロ右回転。体部中位に径 12mm の孔が1カ所あり。上半部に灰オリーブ色(7.5Y6/2)と黒色の自然釉。	やや緻密 白砂·礫・ 細粒少量。	周溝底上4~64cmが接合 口1/2周、頸11/12周 78·238~243·379· 453~455
6 壺 須恵器	高 最大 復	6.7	小破片からの復元なので器形の詳細や上下方向は不確実。内外面 ロクロナデ後、内面の一部に軽いユビオサエ。古墳後期以降の遺 物である可能性もある。		周溝底上63cm 76
7杯土師器	口 復高 残		口縁部が直立し、口と外面体部の境に浅い段あり。内面全面と外面口縁部に丁寧なヨコナデの後、外面体部ヘラケズリ。		周溝底上36~50cm (法面上1~30cm) が接合 口5/12周 504・505・506・508・551?・ 南西・南西周溝
8 杯 土師器	口復高残		半球形で口縁部の内面側が薄くなる。底は厚い。外面は体部の上位にナデ後、中~下位にヨコヘラナデ、底部多方向のヘラケズリ。口縁部に丁寧なヨコナデ。内面は口縁部に丁寧なヨコナデと体部ヨコヘラナデ後、底部多方向・上~中位横位のヘラミガキ。	やや緻密 白細粒と赤	周溝底上13~42cm(法 面上8~35cm)が接合 口1/4周 332·342·343·531·532· 535·538·539·606·612
9 杯土師器	口高	15.8 6.5	口が外反し、頸部の稜は内面側で明瞭。外面は肩部ナデ後に口縁部に丁寧なヨコナデ。底部1方向の後に体部ヨコ方向のヘラケズリ。内面はナデ後に底部多方向と口~体部ヨコ方向のヘラミガキ。	やや粗い 赤粗粒・	周溝底上2~36cm (法面 直上~法面上20cm) が 接合 ロ7/12周 219・220・224・245・261・ 265・266・381・384・387・ 438・440・441・443~447・ 661
10 杯 土師器	口高底	14.9 6.7 4.2	口が外反し、口縁端部内面が弱く肥厚する。内外面とも上半部に 丁寧なヨコナデと下半部ヘラケズリ後、内面に密なヘラミガキ。 外面底部は円周方向のヘラケズリで凹ませる。		
11 杯 土師器	口高底		口が外反し、内面頸部に稜をもつ。外面体部下位ヨコヘラケズリ、外面底部に円周方向のヘラケズリ。内面体部と外面口縁部に丁寧なヨコナデ。内面体部に放射状ヘラミガキ。内面口縁部〜外面体部に密なヨコヘラミガキ。内面底部は剥離して調整不明。	やや粗い 赤粗〜細粒	周溝底直上〜底上51cm (法面上3cm) が接合 口1/2周、底全周 87・91〜97・104・519・ 南西・南西周溝
12 杯 土師器	口高底	7.5	口が外反し、頸部の稜は外面よりも内面が明瞭。底部は凹底に成形後、外周部に円周方向のヘラケズリ。内外面とも口縁部に丁寧なヨコナデの後、外面下半に横位と内面底部に1方向のヘラケズリ。外面上半に疎らなナナメヘラミガキ。内面は底部多方向とそれ以外に横位の密なヘラミガキ。	やや緻密 赤粗〜細粒 と白細粒多。	周溝底上3~36cm(法面 上1~28cm)が接合 口7/12周、底全周 231・253・262・269・275・ 276・284・378・381・388・ 389・444
13 杯 土師器	口高底	15.5 7.6 4.4	口が外反し、頸部の稜は外面より内面側で明瞭。外面は肩部ナデ後に体部上半と下半をそれぞれ逆方向にヨコヘラケズリ。口縁部に丁寧なヨコナデ後、やや疎らなナナメヘラミガキ。外底面は外周に粘土を貼って凹底状に成形した後、外周を円周方向にヘラケズリ。内面は底部に放射状気味のヘラミガキ後、口~体部中位にヨコヘラミガキ。	やや緻密 赤粗〜細粒 やや多。白細粒と黒・透 明細砂。	
14 杯 土師器	口高底	15.0 6.8 4.1	口は外反し、口縁端部内面が弱く肥厚。内面頸部に明瞭な稜を持つ。口縁部内外面にヨコナデ後、体部に斜〜横位ヘラケズリ。底部は1方向ヘラケズリで凹底に成形。外面は主に上位に疎らなナナメヘラミガキ。内面は底部多方向と口縁〜体部横位の密なヘラミガキ。	やや緻密 赤粗〜細粒 多。白細粒・赤礫。 黒・透明細砂少。 やや硬質	221 · 222 · 225 · 232 ~ 235 · 247 · 248 · 253 · 256 · 284 · 382 · 383 · 387 · 390 · 444 · 447 · 南東
15 杯 土師器	口高底		口が外反し、内面頸部に強い稜あり。外面は体部中位ナデ後、体部下位ヨコヘラケズリ。外底面は1方向ヘラケズリで凹底。口縁部は内外面に丁寧なヨコナデ後、外面に疎らなナナメヘラミガキ。内面に密なヨコヘラミガキ。体部内面は上半に横位、下半に多方向のヘラミガキ。	やや緻密 赤粒・細粒やや多。	周溝底上4~36cm (法面直上~法面上21cm) が接合 口3/4周、底全周 223・228・236・258~260・ 263~265・273・278~280・ 386・391・392・439・440・ 442・443・446・447・599・ 601~603・662

采旦			<b>名</b> 細	<b>巾 1                                   </b>
番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
16 杯 土師器	口 16.0 高 5.7 底 4.0	口が外反して浅く大きく開く。外面は底部に1方向のヘラケズリでわずかに凹底気味。外面は体部に雑なナデ後、口縁部に丁寧なヨコナデ。体部下位に多方向ヘラケズリ。内面は丁寧なヨコナデ後ヨコヘラミガキ。	やや緻密 白細粒やや	周溝底上9~21cmが接合 口5/12周、底3/4周 109·122·127·153· 157~160·165·170·177· 648·655
17 杯 土師器	口 16.4 高 6.3	口が外反し、頸部内面の稜は明瞭でやや突出気味。口縁部内外面にヨコナデ後、外面に疎で内面に密なヨコヘラミガキ。体部は外面ナデ後、底部に1方向と体部に横位のやや雑なヘラケズリ。内面は底部にほぼ1方向と体部に横位の密なヘラミガキ。	やや粗い 赤粗粒・粒 多。白細粒と黒・透明細 砂少。 やや硬質	227·229·230·237·246· 249~253·255~257· 272·274·277·380·381· 385·387·461·467·南東
18 杯 土師器	口 16.0 高 6.7	口が外反し、口縁内面の稜が明瞭。外面は体部ヨコヘラケズリ後に下半部横位、底部多方向のヘラナデ。外面口縁部と内面に丁寧なヨコナデ後、口縁部内外面に密なヨコヘラミガキ。体部内面に斜め放射状のヘラミガキ。	やや緻密 白砂と白細粒やや多。黒細砂と透明礫・砂少。	口1/6周、体1/2周 608・611・613~615・ 618~623・625~627・ 南ベルト
19 杯 土師器	口 15.4 高 6.4	口が外反し、内面だけは頸部の稜がやや強い。丸底で外面底部中央に木の葉の裏面の圧痕をわずかに残し、他は体部仕上げ時にヨコヘラケズリ。体部中〜上位はナデ後、口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。内面は丁寧なヨコナデ後、体部に放射状と口縁部に横位のヘラミガキ。	やや緻密 白·赤細粒や や多。黒・透明細砂。 白・透明砂少。 やや軟質	周溝底上23~31cm (法面上18~20cm) が接合 口1/4周、底全周 292・302・338~340・347・ 349・430~432・434・541・ 543・547・南東
20 小形壺	口 9.6 高 16.0 底 5.9 最大 15.9	外面は体部下端と底面に円周方向のヘラケズリ。体部に丁寧なヨコヘラナデ。口縁部内外面に丁寧なヨコナデ後、頻部に外面縦位、内面横位の密なヘラミガキ。内面体部にやや丁寧なナデ。	やや緻密 赤粒と白・赤 細粒。黒・透明細砂。 硬質	周溝底上13~24cm (法面上1~44cm) と周溝外の1片が接合 01片が接合 101/3周、底全周 79·136·152·154·155· 161·164·166~169·480· 496~503·510·511·513· 637·650~652·南西
21 高杯 土師器	高 残12.6	外面は杯部と脚裾部ヨコナデ、杯底部ヨコヘラケズリの後に杯底 部以外タテヘラミガキ。杯内面は底部1方向と体部斜位のヘラミガキ。脚内面は脚柱部ナデ、脚裾部は上位ナナメナデの後に下位 ヨコナデ。	やや緻密 赤粗〜細粒 多。白細粒やや多 黒・透明細砂少 やや硬質	27・30・31・48~51・北西 ベルト・周溝外縁北東区 遺物集中地点
22 高杯 土師器	高 残10.9 脚裾径 復12.8	外面は脚柱部に縦位のヘラケズリかヘラナデ、杯底面に円周方向のヘラケズリ。脚裾部内外面に丁寧なヨコナデ後、脚外面と杯体部外面にタテヘラミガキ。杯内面は斜位のヘラミガキ。脚内面は脚柱部タテナデ後に脚裾部を積み上げる。杯部内面は底部が1方向、体部が斜位のヘラミガキ。	やや緻密 白・赤細粒 多。赤粒・白細粒と黒・透 明細砂少。 やや硬質	
23 高杯 土師器	高 残11.5 脚裾径 復11.4	脚端部はやや反転気味。外面は脚部タテへラナデ後タテへラミガキ。脚裾部に丁寧なヨコナデ後ヨコヘラミガキ。杯部ナデと杯底外周部ヨコヘラケズリ後、杯体部タテヘラミガキ。杯内面底部に1~2方向のヘラミガキ。脚内面は上端部ユビナデ後に中位以下を積み上げて裾部に丁寧なヨコナデ。	やや緻密 赤粗〜細粒 やや多。白細粒・黒細砂。	
24 高杯 土師器	高 残 8.3	外面杯底部は放射状のヘラナデ後、外周ヨコヘラケズリ。外面杯 体部と脚柱部にタテヘラミガキ。内面杯底部に多方向のヘラミガ キ。脚内面タテユビナデ後、脚下部の粘土を積み上げ。	やや粗い 白細粒と赤粗〜細粒多。黒砂・透明 細砂。 硬質	周溝外の5片が接合 脚柱5/6周 15·34·40·44·186·490· 493·494·北西・ 北西ベルト
25 高杯 土師器	高 残10.8	外面杯体部ナデ後に杯底部ヘラケズリ。杯体部タテヘラミガキ。 脚部に密なタテヘラミガキ。杯内底部は1~2方向ヘラミガキ。 脚内面はナナメナデと積み上げを繰り返して成形し、裾部に丁寧なヨコナデ。	やや緻密 赤粗〜細粒	周溝外の 4 片が接合 杯部1/6周、脚全周 25・26・475・495
26 高杯 土師器	高 残 8.3	脚部上端が少しくびれる。脚裾はおそらく弱く屈折して外へ開く。 軟質で摩滅が進み、調整が不明瞭なのでミガキの有無は不詳。脚 内面上端タテユビナデ。脚下半部内面ヨコナデ。	や多。黒·透明細砂と白 細粒少。 軟質	198 • 199 • 640
27 高杯 土師器	高 残 3.8	外面は杯底部に放射状と脚部に縦位のヘラナデ。脚部タテヘラミガキ。杯内面は多方向ヘラナデ?。 脚内面はナナメナデ。	5YR4/8 赤褐 やや緻密 赤粗粒・粒 多。白細粒と黒・透明細 砂。 硬質	

番号 種類 材質	大きさ	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
28 鉢 土師器	高 6.1 底 復 2.0	半球形で凹底。体部下位が薄い。内外面の口縁部に丁寧なヨコナデ後ヨコヘラミガキ。外面体部と底部に丁寧なヘラケズリ。内面体部はヘラケズリとヘラナデの後、放射状のヘラミガキ。外面上半部に褐色の付着物が薄く残存(漆仕上げ?)。	やや緻密 赤粗·粒多。 白細粒。黒·透明細砂少。 やや硬質	周溝底上24~39cm(法面上8~30cm)が接合 口5/6周、底1/6周 335・336・346・348・350・ 352・353・431・435~437・ 545・546・548・549・635
29 鉢 土師器	高 8.5	口縁部は内外面が丁寧なヨコナデで外面端部が肥厚する。外面体部下位にナナメ及びヨコヘラケズリ。体部上位と中位に反対方向のヨコヘラケズリ。外面底部は1方向のヘラケズリで凹底。内面は体部にヨコナデと一部ヨコヘラケズリの後、底部1方向と体部横位のヘラミガキ。	緻密 白細粒やや多。赤 細粒と黒・白・透明細砂	周溝底上8~21cm (法面 上3~18cm) が接合 口2/3周、底全周 140~148·150~152· 162·163·170·172~175· 512·654·南西·南西周溝
30 薨 土師器	高 残19.4 最大 復22.4	外面は胴部タテヘラケズリ(上下部は逆方向)の後、胴下位に不明瞭なタテヘラミガキ。外面肩部と内面胴部にヨコヘラナデの後、口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。	粗い 赤粗〜細粒と灰・透明砂多。白礫と黒・透明砂多。白礫と黒・透明細砂。 やや硬質	口1/60周、頚1/6周 107·111·112·121·128· 129·139·179~183·189 南西
31 <b>甕</b> 土師器	高 残 7.4	胴部は外面にナナメナデ及びヘラナデ。内面にやや雑なヨコナデ。 内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。	粗い 白礫・砂と灰色砂 多。黒・透明細砂やや多。 赤細粒少。 やや硬質	と墳丘上の3片が接合 口1/6周 頸1/2周 35·70·81·84·86·101· 103·643·645·646·516· 517
32 円筒 埴輪	高 残 8.5cm	胴径は 22 ~ 26cm 前後と思われる。外面は 9 本 /2cm のタテハケ後、突帯貼付とヨコナデ。内面はやや雑なタテナデ。	やや粗い 白・赤細粒と 黒砂・細砂多。白・透明・ 灰色砂やや多。 やや硬質	東側周溝を切る中世の 溝SD-26A内に混入 ( 溝底上32cmと53cmが接 合) 胴1/6周 59·61
33 円筒 埴輪		外面タテハケ、内面ヨコハケ(9 本 /2cm)。34 と同一個体の可能性あり。		東側周溝を切る中世の 溝SD-26A内に混入 SD-13の3
34 円筒 埴輪 35 無台杯 須恵器	前後	外面タテハケ(9本/2cm)と、内面はおそらくヨコハケの後に、 外面口縁部2cm幅と内面残存部全体をヨコナデ。内面に左下から右上へ向って斜位の刻線「/」を1本描く。線刻の左下は欠損。 33と同一個体の可能性あり。 ヘラ切離後、底面に軽い1方向ナデ。底面外周に二次底部面(腰部)が明確。ロクロナデ及び切離時の回転方向はいずれも上から見て時計回りの可能性あり。益子窯産の奈良時代遺物が混入。	やや緻密 白粒・細粒や や多。白細砂。黒・透明 細砂少。 硬質 7.5Y1/5 灰	口1/18周 SD-13の42 周溝底上53cm
36 鉾 鉄製品	身幅 11~15 身厚 5~13	断面形は鎬が弱くてふくらみを持つ隅丸菱形状。袋部は図の正面で合わせる断面円形で、裾部の表裏面に抉りを持つ。左右に各 1 箇所の目釘孔(径 4.0 ~ 4.2mm)を持ち、目釘は X 線写真には写らないので有機質かと思われる。柄木は径 30 × 25mm でやや左右に長い楕円形気味。袋部末端の山形抉りに合わせて柄木も「V」字形に加工した段を持つ。		墳頂部埋葬施設流出土 層切先部欠損 8·9·10
	,	片側に直線的なラインが残っていることと、厚手であることから みて、直刀か刀子が剥離した破片の可能性がある。有機質は見ら れない。		調査区東部 両端部欠 「東区」
	幅 16~17 重 残16.6g	刀(または剣)の茎部分と考えられる。幅は 16 ~ 17mm でほぼ一定。木質が付着しているので茎の厚さはやや不明瞭な部分が多いが 3 ~ 4mm 前後で、図の下部側がやや薄い可能性がある。下端に目釘孔(推定径 2 ~ 3mm)の上半が残存する。全面に木質が残存する。		調査区東部 両端部欠 「東区」
39 剣 鉄製品	幅 14~16	横断面形は中央部がやや厚く 3.0 ~ 3.2mm、両側縁部がやや薄く 1.2mm になるので、剣の茎と考えられる。径 4.0mm の目釘孔が 2 箇所あり、孔内は現状で空洞。両面に柄木の木質が付着。		調査区南西部 茎部端残 「南西区」
40 剣 鉄製品	身部長599 身幅32~46	わずかに鈍角気味の両関で左右 8mm ずつ落ちる。剣身は鎬を持たない。柄木は側面中央で合わせる $2$ 枚造りの可能性があり、断面 $26 \times 13$ mm 程の楕円形と推定され、表面を太さ $1.8$ mm 程度の紐で横に巻く。径 $3.5$ mm の目釘孔が $1$ ヶ所残存し、目釘は木などの有機質と思われる。柄縁と鞘口の構造は木質の残りが悪く不明。鞘の木質は両面に見られ、切先付近では剣身がふくらんで木質が浮いてきている。材の合わせかたは不明。茎は幅 $17 \sim 29 \times$ 厚さ $4$ mm。		墳頂部埋葬施設流出士層の2点と調査区東部の1片が接合 茎末端部欠 7·12・「東区」

3E. 🗆			<i>λ.</i> ∃π	11: 1. 41\48
番号 種類 材質	大きさ(mm	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
41 鏃 鉄製品	長 158 重 17.3g	片刃鏃で、逆刺が深い(X 線写真で10mm)。下部で左右の頸幅が広がって台形関になり、頸の上下面には段を持たない。竹と思われる中央の矢柄に茎を入れて、関から 2.0 ~ 2.1cm の範囲まで樹皮で口巻をする。鏃身部幅7.0 ×厚さ 3.5mm、頸部幅5.0 ~ 6.8mm ×厚さ 4.0mm、矢柄径 8.5 ~ 1.0mm。		墳頂部埋葬施設底面整 地土 (4 a 層) 上面と表 土 (1 a 層) と調査区南 西部の破片が接合 完形 14・16・「2 号墳南西区」
42 鏃 鉄製品	長 残 63 重 残 6.2g	片刃鏃で逆刺が深い (X線写真で6mm)。鏃身部幅84×厚さ3.2mm、頸部幅5.0×厚さ3.2mm。刃部は厚さ1cmの大きな銹膨れでかなり変形しているので、復元図。有機質はみられない。		墳頂部埋葬施設流出土 層先端部残 3
43 鏃 鉄製品	長 残 35 重 残 3.4g	片刃鏃で、逆刺が深い (X 線写真で 5mm)。鏃身部幅 8.4 × 厚さ   3.4mm、頸部幅 6.3 × 厚 3.4mm。 有機質は見られない。		墳頂部埋葬施設流出土 層先端部残 13
44 鏃 鉄製品	長 残 29 重 残 2.0g	片刃鏃で、逆刺が深い (X 線写真で 7mm 残存)。鏃身幅 8.0 ×厚さ 3.6mm、頸部幅 5.5 ×厚さ 4.2mm。有機質は見られない。		調査区南東部 両端部欠 「南東区」
45 鏃 鉄製品	長 残 39 重 残 4.5g	片刃鏃で、逆刺が深い (X線写真で9mm)。鏃身幅7.5×厚さ3.0mm、頭部幅5.6×厚さ4.6mm。有機質は見られない。		調査区南東部 切先部残 「南西区」
46 鏃 鉄製品	長 残 26 重 残 2.3g	頸部破片。幅 $55mm \cdot \mathbb{P}$ さ $39 \sim 44mm$ で、左側面図に示したように図の手前がわずかに厚い。この遺物は $X$ 線写真を側面方向から撮影してある。有機質は見られない。		周溝底上46cm 両端部欠 88
47 鉄製品	長 残 43 重 残 3.3g	頭部破片。幅 $54\sim58$ mm・厚さ $40\sim42$ mm で、図の手前側が わずかに広く厚い傾向あり。有機質は見られない。		調査区南東部 頸部破片 両端部欠 「南西区」
48 鏃 鉄製品	長 残 15 重 残 1.1g	頸部破片。幅 55mm・厚さ 38mm で、正確な上下方向は不明。有 機質は見られない。		調査区南東部 両端部欠 「南東トレンチ 011217」
49 鏃 鉄製品	長 残28 重 残1.7g	頸部破片。幅 54mm・厚さ 40 ~ 45mm で、図の手前側がわずか に厚い。有機質は見られない。		調査区南東部 両端部欠 「南西区」
50 鏃 鉄製品	厚 5.7 ~ 6.5 重 残 9.0g	では断面正方形に近い。有機質は見られない。		墳頂部埋葬施設流出土 層と東半部出土の破片 が接合 両端部欠 6・「東区」
51 鏃 鉄製品	長 残 40 重 残 2.4g	頸部破片。頸部幅 5.5 ~ 7.0mm、厚さ 4.2 ~ 5.0mm。図の手前側がやや広く厚い。有機質は見られない。		調査区北部 頸部残存 「北区 011218」
52 鏃 鉄製品	長 残 33 重 残 3.4g			調査区南東部 頸部残存 「南東区」
53 鏃 鉄製品	長 残 47 重 残 6.6g			調査区東部 頸部残存 「東区」
54 鏃 鉄製品		頭の下半部。下部で頸幅が広がり厚さも増す。茎関は台形関状で、 頭の左右面に段を持ち、上下面には段を持たないようである。茎 の平面形は X 線写真から記入。矢柄の表面に樹皮の口巻あり。矢 柄は径 8 ~ 9mm で、残存部の中位がふくらむのは銹膨れによる と思われる。頸部幅 5.7 ~ 7.2mm・頸部厚さ 4.3 ~ 4.8mm・茎残 存末端は 2.4 × 2.4mm の断面隅丸方形。		墳頂部埋葬施設流出土 層出土の頸部片に南西 部出土の茎部片が接合 15・「南西区」
55 鏃 鉄製品	長 残 43 重 残 4.4g	頸部下半~茎部破片。手前側で頸部がわずかに広がるが、X線写真で見ても関は不明瞭で、上下面にも段を持たない。茎は断面隅丸方形で、矢柄の木質と表面に樹皮の口巻が残る。頸部は5.1~5.2mm四方の断面正方形。茎部は幅4.0×厚さ3.5mm。		調査区北東部と南東部 出土の破片が接合 両端部欠 「北東区 011217」・ 「南東区」
56 鏃 鉄製品	長 残34 重 残2.7g	茎及び矢柄部。茎は径3mm 前後で頚部は幅5.7~7.2mm・厚さ4.3~4.5mm。茎の形状はX線写真から記入。矢柄の木質が残り、断面図を示した部分では中空状なので、竹材を用いていると考えられる。残存上部に樹皮の口巻あり。矢柄の径9.5~9.7mm。		墳頂部埋葬施設流出土 層両端部欠 「15の下」
57 鏃 鉄製品	長 残 19 重 残 0.5g	茎末端部付近破片。断面は隅丸方形で、上部が太く(3.0 × 3.5mm)、 下部が細い (2.0mm)。繊維質をラセン状に巻き付けて、茎と矢 柄を密着させている。残存上端部にはわずかに矢柄の木質も残る。		調査区南東部 末端付近残存 「南東区」
58 轡 鉄製品	1 *	断面隅丸方形の鉄棒。長さから見て鉄鏃ではなく、引手壺や引手 )端環の破片と断面形が近いので引手の棒状部破片と思われる。太 ; さはほぼ一定で四面間の稜は比較的明瞭。有機質は見られない。		墳頂部埋葬施設流出土 層両端部欠 4·5

			h em	at a thinks
番号	1.3.4.7	this ally	色調	出土状態
	大きさ(mm)	特徴	胎土・焼成	残存状態
材質		I THE STATE A STATE OF THE STAT	(または素材)	注記
59	長 残28	立聞用金具・銜端環・遊環などの破片の可能性があるが、両端を		墳頂部埋葬施設流出土層
轡	重 残 4.4g	欠くので決定できない。径 6.0 ~ 6.5 mm の断面円形。		両端部欠
鉄製品				11
60	長 残 27	引手の内側(銜の端環にからまる側)の環部の可能性あり。蕨手		墳頂部埋葬施設流出土層
轡	重 残 6.6g	状に1周して環を作り、接合部はあまり十分に鍛接していない。		端環部残
鉄製品		環内にはゆるくカーブする鉄丸棒(断面径 4.7 ~ 5.0mm)の破片		7
		が銹着し、銜の端環の破片かもしれない。引手棒状部は断面が不		
		整隅丸方形で、環径 16 ~ 20mm、引手棒径 6.5 ~ 6.8mm。		
61	長 残43	くの字引手。引手の端環部を柄に対して、約 140°で曲げている。		調査区東部
轡	重 残 8.3g	蕨手状に1周して環を作り鍛接する。環径18×20mm、引手棒		引手壷部残
鉄製品		径 5 ~ 6mm。棒状部の断面は隅丸方形気味。		「東区」
62	長片側残 37	  衡連結部。折り返した2本の鉄棒を組み合わせて、それぞれを捩		調査区東部
轡	戊川 開発 37 ヶ片側残 29	り、連結した環部を作る。銜の環は径約16~18mmで、環の先		両端部欠
		端側が摩耗して幅2mm位まで薄くなっている。環の厚さは5~		東区 020111]
<b>武衆</b> 田	里 % 15.0g	嫡側が摩北して幅 2mm 世まで薄くなっている。泉の厚さは5~ 6mm。		宋区 020111]
co	F 110			
63	長 116	袋部の合わせ目は完全に閉じていたものが、銹の進行により少し		墳頂部埋葬施設流出土層
斧	身幅 63	開きかけている。袋部内も含めて有機質や木質は全くない。袋部		完形
鉄製品		に入った付近で刃部上端が段状に薄くなるので、ここで刃部の板		17
	重 316.6g	材を袋部の板材に鍛接した可能性が高い。袋径 40 × 32mm。		
64	長 残41	切先部だけが残存。有機質が両面に広く付着し、革の可能性もあ		墳頂部埋葬施設流出土
刀子	幅 13	る。図示した面の刀部側寄りでは、この有機質(革?)の上に薄		層出土の刃部片に南東
鉄製品	厚 4.3	い木質が残る。これは他の木製品から銹着してきた可能性がある。		部トレンチ出土の切先
	重 残 3.8g	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		部が接合
	± /4 0.0g			先端部残
				1・「南東トレンチ」
65	長 残47	  図の上端部が刃先であるかどうかは不確実。刃部側から 2.5mm		墳頂部埋葬施設流出土層
		のところで縦に亀裂(?)があり、これが本来の構造であれば独		両端部欠
	幅 8			1
	厚 4.5	立片逆刺付鉄鏃の頚部片である疑いもあるが、片逆刺部にしては		2
<b></b> 数聚亩	重 残 4.7g	やや長すぎることと、鏃身部を確認できないことから断定はでき		
		ない。両面ともに有機質は見られない。		
2.2	E 75 41	호현문국 ) 시민국 - 발표 (14.9.1 세팅 (1). 9 - 로젝터 탈근로 보편		
	長 残41	X線写真から見て、背関があると判断される。柄部は断面長方形		南西部周溝底上 52cm
	幅 9~14	で幅 12.2 × 厚さ 3.0mm。 刃部は背厚 2.3mm で薄い。 刃部側がや		両端部欠
鉄製品		や内彎するので、使用により砥ぎ減りしている可能性がある。両		647
	重 残 7.1g	面ともに有機質は見られない。		
67	長 残 21	下部が細くなって尖る鉄棒を有機質に打ち込んだもの。断面形は		調査区東部
棒状品	重 残 0.9g	上部が隅丸方形(4.3 × 3.9mm)で、下部が円形または楕円形(2.5		両端部欠
鉄製品		~3.1mm)。下半部の四面に材質不詳の有機質が付着する。この		「東区」
		鉄製品を打ち込んだ方向と直交する方向の組織を持つらしいが、		
		木質かどうかは不明。轡の立聞用金具や、釘などの可能性がある。		
68	長 残64	同一個体が破損したものと思われるが、中央部を欠損するので不		南側周溝の底上63cm
		確実。平面形は両端が細くなる角棒状で、断面はやや辺長が不均		(法面上 26cm)
	重 残 6.8g	等な方形(最大部で4.7×5.6mm)。有機質は見られない。銹に		両端と中央部欠
火大梁田	生 7% 0.0g			
		よる剥離が著しいため、X線写真および実測図の状況よりもさら		331
		に破片化が進み、詳細不明な部分が多い。後世の釘が混入した可能性がある。		
		能性もある。		
	長 残30	厚さ lmm 弱の扁平な鉄板。やや不確実ではあるが、図示した輪		調査区西部
	幅 残14	郭が残存していると思われる。片面にはもう1枚の同じ厚さの鉄		周辺部欠
鉄製品	重 残 1.6g	板片が重なっている。鋲や有機質は見られない。		「西区 011217」
70		70 a と 70 b は同一個体で中央を欠く。脚部(b)は径 3.0 ~ 3.5mm		
	重 残 1.0g	の丸棒状で、頭部 (a) は径 8.2 ~ 8.4mm の平坦な円形。近~現		
鉄製品		代の釘の可能性が高い。		
2人2011	重 残 5.1g	TAANAAN TREETA LEEA . O		
	至 7% J.1g			
71		實永通寶の冊立建 - 鎌径け縦 98 15 × 構 98 90mm - 机悬由径 14 缀	<b></b>	国港北部の底
71 维	径 28.2	  寛永通寶の四文銭。銭径は縦 28.15×横 28.20mm、外縁内径は縦   21.15×横 20.90mm   毎月は 4.9 g	铸銅製	周溝北部の底 ト 18cm 宗形
71 銭 銅製品		寛永通寶の四文銭。銭径は縦 28.15 ×横 28.20mm、外縁内径は縦 21.15 ×横 20.90mm、銭厚は 1.40 ~ 1.50mm、量目は 4.9 g。	鋳銅製	周溝北部の底 上 18cm 完形 473

<b>笙 10 耒</b>	みる シャス は	古墳時代中期	出十墙物数—	<b>管</b> 表
7D IU 1X			山上烬1/// 致	<b>9.1</b> 8

		杯蓋	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	鉢	小形土器	壺	甕	瓼	樽形郞	器種不明
Γ,	口縁部計測		0.42 周	0.25 周	6.33 周	0.67 周	2.08 周	1.50 周			0.27 周			
土	口縁部		7	5	120	11	44	25			7			
師器	体部		有	有	有	有	脚柱 10	有			有			
tit	底部			平底1	平底 14	平底 5	脚裾 29	凹底 8			2			
/=	口縁部計測										0.25 周	0.58 周		
須恵	口縁部										4	8		
器	体部	1	2							1	有	有	有	7
na	底部													

鉢は 28 と 29。須恵器甕は同一個体(1)。樽形隧の体部片は 1 号墳出土品(9)と同個体。円筒埴輪 3 片(32・33・34)。轡 1・刀 2・剣 2・鉾 1・鏃片 17・斧 1・刀子 3・棒状鉄製品 2・板状鉄製品 1。奈良時代須恵器無台杯底部 1 片(35)と鉄釘 2(70)・寛永通宝 1(71)混入。

**磯岡北3号墳** (第  $46 \sim 56$  図、写真図版  $15 \sim 20 \cdot 70 \sim 72 \cdot 83 \sim 86$ )

## [概要]

2段に築造された墳径 21m・最大高さ 2.8m の円墳で、周溝を持つ。磯岡北古墳群では規模が最も大きい。 墳頂に木棺直葬の埋葬施設を伴う。墳丘・周溝からは土師器・須恵器が多数出土した。埴輪は 1 片だけ見られる。主体部からは鉄刀 3 振、鉄鏃 18 本 (1 束)、ガラス小玉 69 点、珠文鏡 1 面が出土した。

### 〔位置〕

SG12 区東部の  $70-29 \cdot 30$  グリッドと  $71-29 \cdot 30$  グリッドに所在する。東側には 3 基の小円墳(  $4\sim 6$  号墳)があり、北西側の周溝外には、土壙墓群(SG12 区  $SZ-22 \cdot 23 \cdot 36$  および SG17 区 SZ-17)と、竪穴式小石室( 1 号石室)がある。

東側の周溝には、中世の溝状遺構が南北から取り付いている(SD-26A)。この部分では3号墳の周溝に取り付けて掘られ、またこの北側では4号墳の周溝外側を巡った後に2号墳の周溝底を通る。 $2\cdot 3\cdot 4$ 号墳の周溝を意識して掘られた溝だろう。

# [周溝と墳丘] (第 46 ~ 48 図、写真図版 16・17・20)

調査前の地形では高さ約 1 m の墳丘が残っていた(第 30 図)。円墳で、周溝の底面立ち上がりから計測した墳丘の径は  $19.8 \sim 21.4 \text{ m}$  で、平均して径 21 m 前後。墳丘上段の径は  $14.5 \sim 15.5 \text{ m}$  で、平均して径 15 m 前後である。残存している墳頂から周溝底面までの高さは、最も周溝が深い南東部から計測して 2.8 m それ以外の周溝底から測ると 1.9 m 前後である。また、残存している盛土の厚さは最大で 1.0 m である。周溝底面の標高は  $82.1 \sim 83.1 \text{ m}$  で、南東部が特に低い。残存している墳頂の最も高い部分は標高 84.9 m。

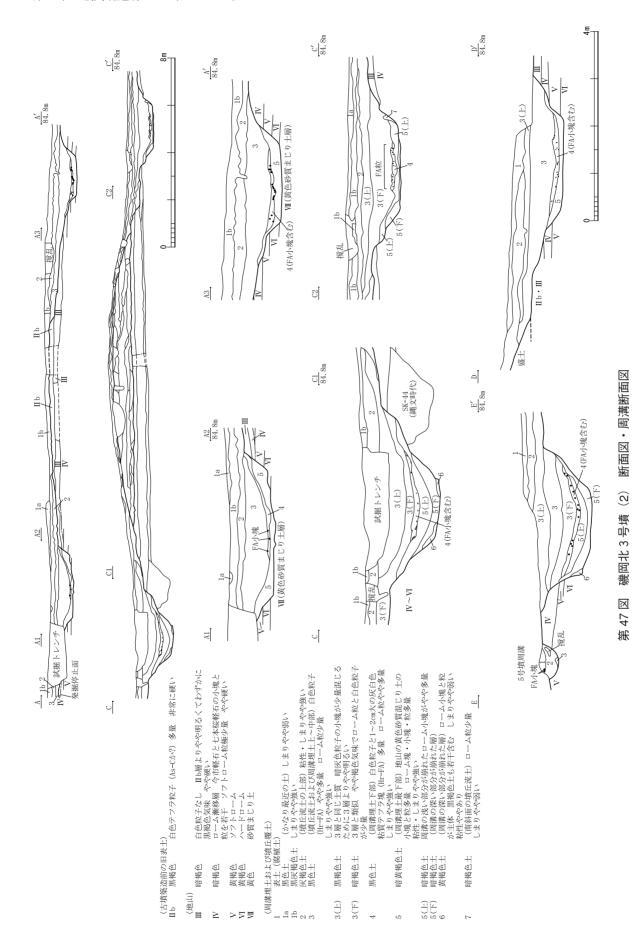
東半部では、周溝の外周に広がる緩い傾斜面を持つ。これと同様の傾斜面は、2号墳にも見られる。また、8・9号墳の周溝も上部が少し外に開き気味である。この傾斜面を除いた場合の周溝幅は  $2.8 \sim 3.6$  の傾斜面も周溝の一部に含めた場合には、北東部で周溝幅 4.4 中東部で周溝幅が最大 4.0 まで広がり、それ以外の部分では周溝幅  $2.5 \sim 3.6$  である。

遺構確認面から計測した周溝の深さは南東部で特に深くなり  $1.5 \,\mathrm{m}$ 、それ以外では  $0.4 \sim 0.5 \,\mathrm{m}$ 。また、墳丘盛土下にある旧表土の上面から周溝底までの深さを計測すると、南東部で約  $1.7 \,\mathrm{m}$ 、それ以外では約  $0.8 \,\mathrm{m}$ 。周溝埋土は自然埋没で、その下部の黒色土(4 層)には、古墳時代後期初頭に降下した  $\mathrm{Hr}$ -FA テフラと思われる白色粘質土の小塊が認められた。

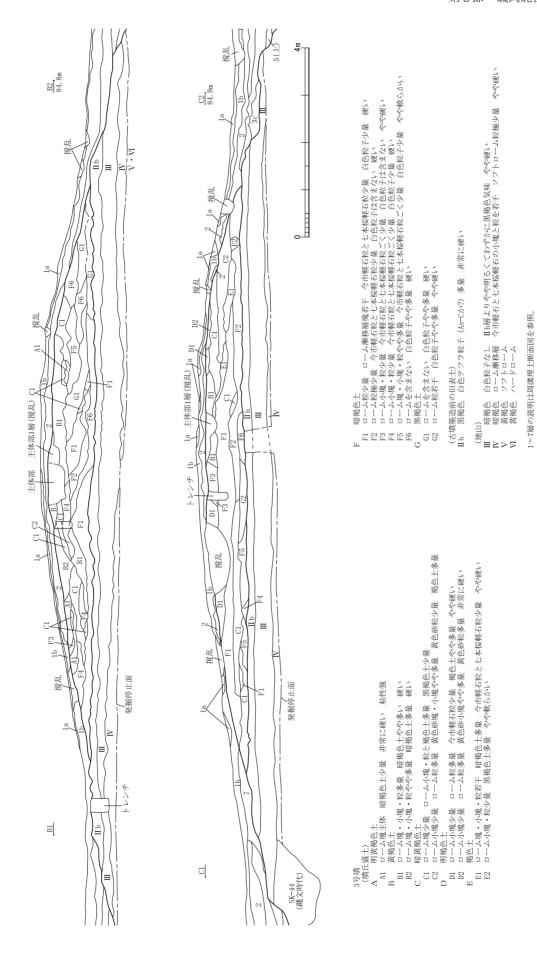
古墳築造前の旧地形は、南に緩く傾斜している(第 47 図 C-C')。墳丘盛土を除去した下側の旧表土上面で観察すると、盛土北端の下で標高  $83.85\sim84.00$ m、盛土南端の下で  $83.79\sim83.86$ m 前後で、およそ  $10\sim20$ cm の高低差が見られる。



第46図 磯岡北3号墳(1) 遺構全体図・周溝断面図



-94 -



第 48 図 磯岡北 3 号墳(3) 墳丘断面図

盛土を大きく上下にわけると(第 48 図)、上半部が  $A \sim E$  層を主体とする黄色層群で、下半部が  $F \cdot G$  層を主体とする暗褐色層群である。古墳周囲の周溝を掘削した土を盛り上げたので、周溝が深くなって黄色のロームが多く含まれるようになった土を墳丘の上半部に盛った結果と考えられる。墳丘の上段は盛土で造り、下段は地山 II 層または III 層の面を掘り残して造り出している。

### [**周溝・墳丘の遺物出土状況**] (第 49 図、写真図版 16・17・19)

墳丘中段のテラス面の内縁(つまり図に破線で記入した上段裾部付近)に土器を遺棄した状況が、南半部に認められた。南半部テラス面のうちでも、東部・南部・西部の3箇所に集中している。須恵器甕は1を東部、2・3を南部に置いたものと判断される。ただし、1の破片は南部と西部、3の破片は北部と西部にも少し認められた。土師器では、10・14・15・21・26(東部)、16・18・19・20・22・26・28・29・31(南部)、13・24(西部)がそれぞれテラス面付近で出土した。

墳丘覆土と周溝埋土から出土した多数の土師器・須恵器は、テラス面より下位のレベルに多いので、主に テラスから転落・流入したものと考えられる。北半部では、テラス面・周溝内・墳丘覆土のいずれにおいても、 遺物が少ない。

**遺構間接合** 2・5・6・9号墳および遺物集中地点(SX - 16)で、3号墳と同一個体の須恵器甕破片が出土した。3号墳の遺物破片が、2・5・6・9号墳とSX - 16 にそれぞれ混入したものであろう。次に示す3例である。

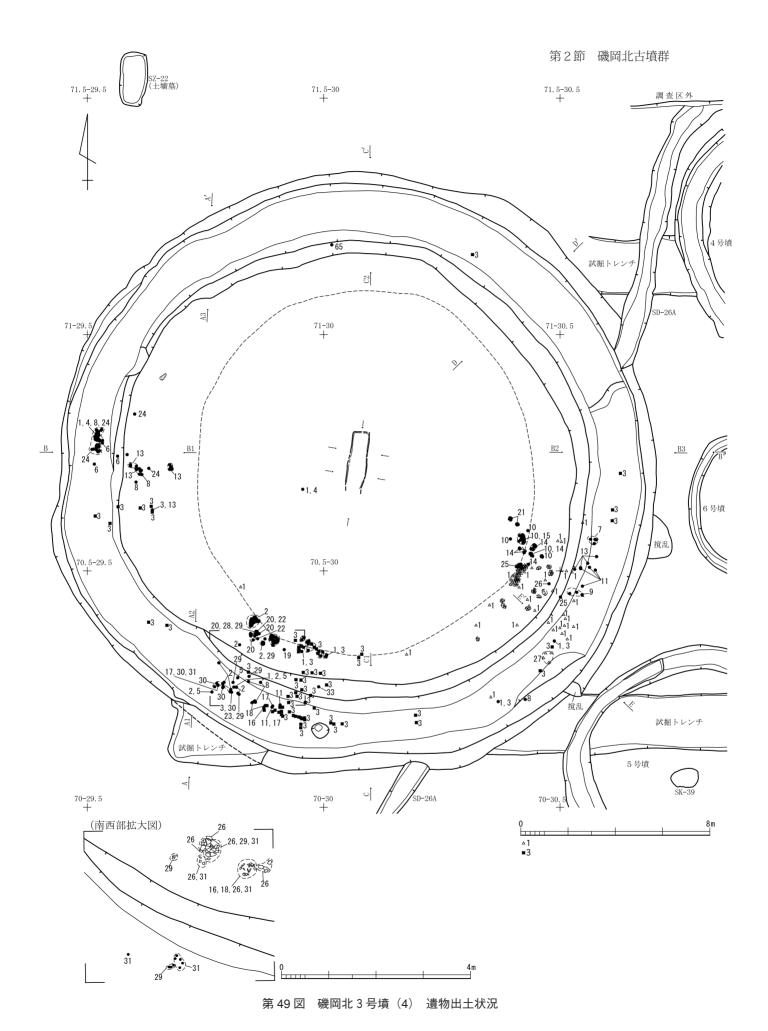
- (1) 第49・52 図1の須恵器甕と同一個体と思われる胴部破片が、2号墳の南側周溝底上40cmおよび 周溝外で計3片と、5号墳の東側周溝底上15cmおよび西側周溝内から出土した(第43図2と第64図2)。
  - (2) 第 49・52 図 2 の須恵器甕に接合できる頸部破片が、遺物集中地点 SX 16 で 1 片出土した。
- (3) 第49・52 図3の須恵器甕に接合する胴部破片が、6号墳の東側周溝底上20cmで1片出土した。 この須恵器甕と同個体の可能性がある胴部破片は、9号墳南西部周溝外周付近でも2片出土した(第76図4)。 この他に、混入品と考えられる7世紀末~8世紀前葉の須恵器有台杯破片が3号墳と9号墳で出土しており、この両破片が接合した(第53図33)。

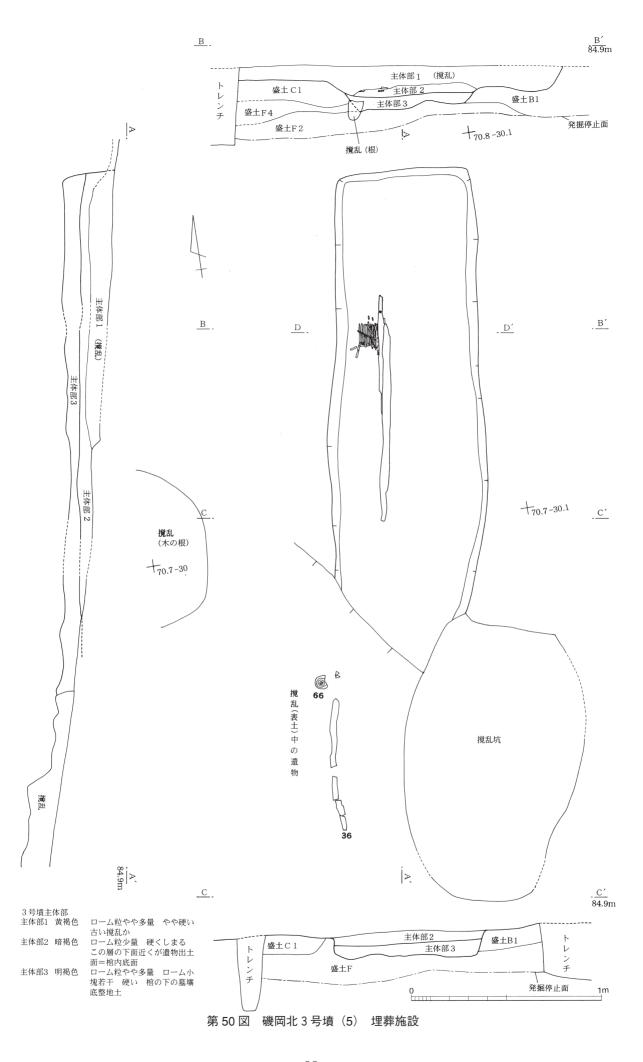
〔埋葬施設〕 (第50図、写真図版18・19)

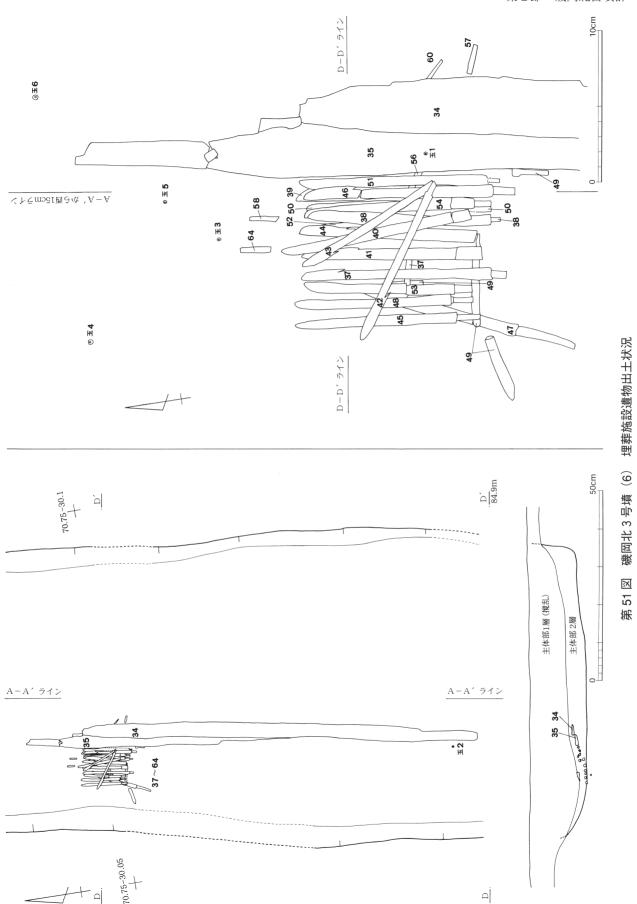
概要 木棺直葬で、意図的に選択した粘土・ローム・軽石などは使わない。主軸方位はおおむね南北で、GN-9°27′-E。棺底(主体部2層の下面)が平坦なので、箱形の組み合わせ木棺と推定される。

**残存状況** 墳頂南西部の撹乱や流失によって棺痕跡の南部は消滅している。墳頂表土中で出土した珠文鏡 1 面と鉄刀 1 点は、この撹乱部から出土して放棄されたものと思われる。上部はやや硬くしまった古い撹乱 層で(主体部 1 層)、その下に、棺痕跡の底部付近が最大で深さ 10cm 程残っていた。この棺痕跡内部には硬くしまった暗褐色土が流入している(主体部 2 層)。主体部 1 層と主体部 2 層の区別は、あまり明瞭ではなかった。棺形状の痕跡もわかりにくく、鉄刀・鉄鏃を手がかりにしてようやく棺の位置を見つけることができた。

墓壙と棺 棺の周囲に墓壙形状は確認できなかった。底部には棺を設置する前に入れた整地土が見られたので(主体部3層)、「掘込墓壙」(和田 1989)の最下部の、棺形状に合わせて一段深く掘り込んだ部分だけが残ったものと思われる。理屈の上では、墓壙と、その中にある棺痕跡とを確認できるはずであるが、この両者を区別することはできなかった。棺の残存長 265cm、東西幅は北部で 74cm、南部で 73~85cm。棺底面(主体部2層下面)はほぼ水平で、北部で標高 84.64~84.66m、残存する南半部でも標高 84.63~84.66m。ガラス小玉が北部に集中していることから見て、北頭位で埋葬したものと思われる。







## [副葬品の出土状況] (第50・51 図、写真図版 18・19)

鉄刀3振、鉄鏃18本(1束)、鉤状鉄製品1点、ガラス小玉69点、珠文鏡1面が出土した。

鉄刀のうち1振(36)と珠文鏡1面(66)は、埋葬施設南西部の表土層中(撹乱土)で出土した。それ 以外の副葬品(鉄刀2振、鉄鏃18本の束、ガラス小玉69点)は、埋葬施設の木棺内で出土した。

表土から出土した刀(36)と鏡1面は、平面的には主体部の木棺の復原範囲内にあるが(第50図)、実際は撹乱を受けて動かされている。36は北が高く南が低く傾いて並んだ状態の破片群が出土し、中間部の1片は離れて出土した。また、その部分を境にして北半部は刃部を西に向け、南半部では刃部を東に向けていた。茎は南側である。鏡も縁部の破片が2点、東側に約6cm離れて出土した。

鉄刀34と35は、それぞれ切先を反対方向に向けて重ねた状態で、被葬者から見て右側で出土した。切 先を南(茎を北)に向けた鉄刀35の上に、切先を北(茎を南)に向けた鉄刀34を載せていた。刃部は、 2振ともに東側(被葬者側)に向いている。

鉄鏃 37~54は、先端を北側に向けた束の状態で、鉄刀35のすぐ西に接して出土した。

ガラス小玉の大半は、棺内の埋土を篩にかけて検出した。原位置を記録できた玉は6点だけしかない。残る63個は、主体部内の大まかな出土位置がわかるだけである。その大半は、主体部の北西部(図のB-B'ラインよりも北側、A-A'ラインよりも西側)で出土した。

主体部内出土遺物の取り上げ位置について説明すると、中軸線 A-A' ライン上の北方に「主体部原点」を設け、そこから南へ離れた距離で出土位置を区分した。第 50 図の B-B' ラインが「南 2 m」、C-C' ラインが「南 3 m」に該当する。玉の出土位置は、第 12 表の「出土位置」に示した通りで、その大半が南 1 m  $\sim$  南 2 m の範囲の「西半」(A-A' ラインよりも西)である。南 2 m のラインよりも南方(被葬者の脚側)で出土した玉は 11 点で(玉  $1 \cdot 2 \cdot 61 \sim 69$ )、そのうち 4 点は撹乱土中である。

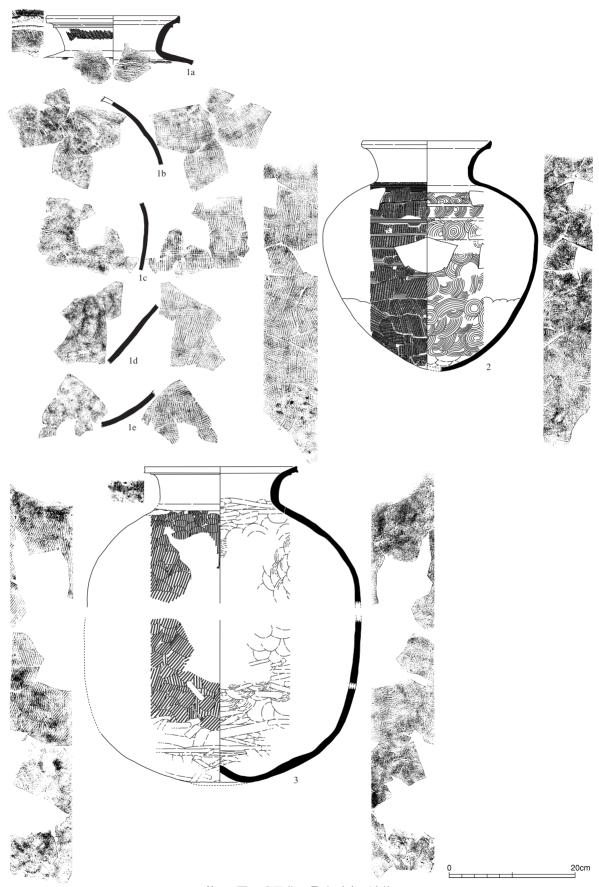
埋葬施設内ではなく周溝埋土中(底面よりも上71cmのレベル)で、鉤状鉄製品が1点出土している(65)。 埋葬施設から撹乱により出土して周溝に流入したものかもしれない。また、後世の鉄製品の可能性もある。

[墳丘・周溝から出土した土器類] (第52・53 図、写真図版70~72)

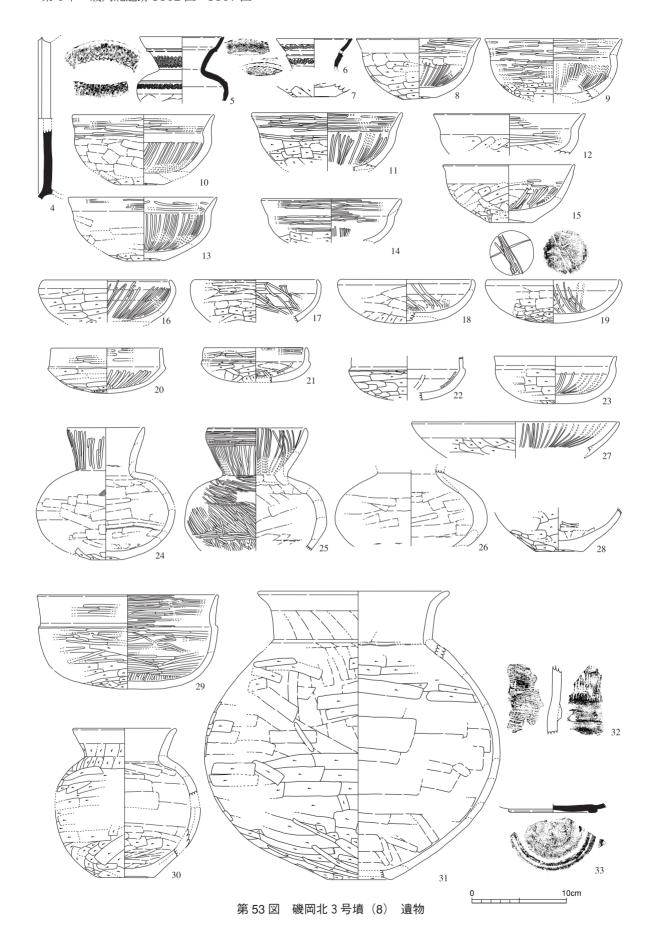
**須恵器**( $1\sim6$ ) 腿 1 個体、樽形腿 1 個体、壺 (?) 1 個体、甕 3 個体が認められる。他に、須恵器杯または須恵器高杯の口縁端部と思われる細片が 1 点見られた。

須恵器甕は3個体分あり、大きさが揃っている(口径20~24cm)。この3者以外には、須恵器甕と思われる破片はみられなかった。2は底部穿孔の可能性もあるが、不確実。1と3は破片が不足しているので底部穿孔の有無を判断できない。なお、土師器甕では底部穿孔が見られる(下記の31)。 嘘は、頸部に波状文を描き、口縁部が無文のもの(5)がある。樽形腿(4)は円板部破片だけしかみられない。墳頂付近の撹乱や流出により残りが失われたものだろう。樽形腿の円板部は、1号墳のもの(第35図9)と形が異なる。6は口縁部~頸部の細片で、壺かと考えたが、口縁部外面にも波状文を描く点などがやや異形であり、脚付壺の脚部などの可能性も残る。

土師器  $(7 \sim 31)$  大半が杯類である。頸内面が少し締まった後に口が開く深めで内面をよく磨くものが主体である  $(8 \sim 14)$ 。須恵器杯の模倣形とはやや異なる。口縁部~体部境の内外面がくびれる形状や、外底面の凹底は、古墳中期中葉の内斜口縁杯(椀形杯)に近い。口縁部が段を持って直立する典型的な模倣杯は少ない  $(20 \sim 23)$ 。他に、半球形状の杯がある  $(16 \sim 19)$ 。15 は底面に焼成前の線刻「×」が見られ、また焼成前に生じた亀裂をヘラミガキで補修した跡も残る。焼成前の亀裂を補修したと思われる土師器は、5号墳の杯 2 点・小形壺 1 点(第 64 図  $4 \cdot 5 \cdot 9$ )と、8号墳の杯 1 点(第 72 図 12)がある。



第52図 磯岡北3号墳(7) 遺物



土師器高杯は少ない。口縁部破片 (27) と、他に 1 片だけしか見られなかった。小形壺 ( $24 \sim 26$ ) と壺 (30) は少量見られる。大形の鉢 (29) は 2 号墳にも見られる (第 43 図  $28 \cdot 29$ )。

土師器甕(31)は、胴部下半のほぼ全周が残るのに、底面中央の破片がない。内面から叩いて底部を穿孔した可能性が高い。胴部が丸い土師器の例は5号墳(第64図10)や7号墳(第67図1)の壺があり、前者には底部穿孔も見られる。土師器・須恵器の底部穿孔については5号墳の出土遺物の項目(p.121)を参照。

鉢(29)は、頸部外面に段を持って口が直立する器形からみて、通常は古墳後期と考える遺物である。残存度が高いので、この場で用いた土器であることは認められる。内外面の丁寧なミガキや胎土・色調が他の土師器杯と共通するので、3号墳の時期にもこのような鉢が存在することを考える余地はある。他に、7世紀末~8世紀初めころと思われる須恵器が1片だけみられる(33)。奈良~平安時代の須恵器は2・3・8・9号墳に少量ずつ見られる。

その他 埴輪は 1 片しかないので、 3 号墳に伴うのかどうか確実ではない(32)。  $1 \sim 3 \cdot 8 \cdot 9$  号墳で 少量ずつ出土した埴輪は、それぞれ別個体の破片と思われる。埴輪を古墳に少量用いたのか、または 1 号埴輪棺のような埴輪転用棺に由来する破片なのだろう。他に、縄文土器片および石器があり、また中世遺物としては常滑産陶器(こね鉢 1 片)・青磁碗(体部 1 片)・土師質土器(底部 1 片)がある(第 104 図  $2 \cdot 6$ )。

**〔副葬品**〕 (第 54 ~ 56 図、写真図版 83 ~ 86)

鉄刀3振、鉄鏃18本(1束)、ガラス小玉69点、珠文鏡1面が出土した。

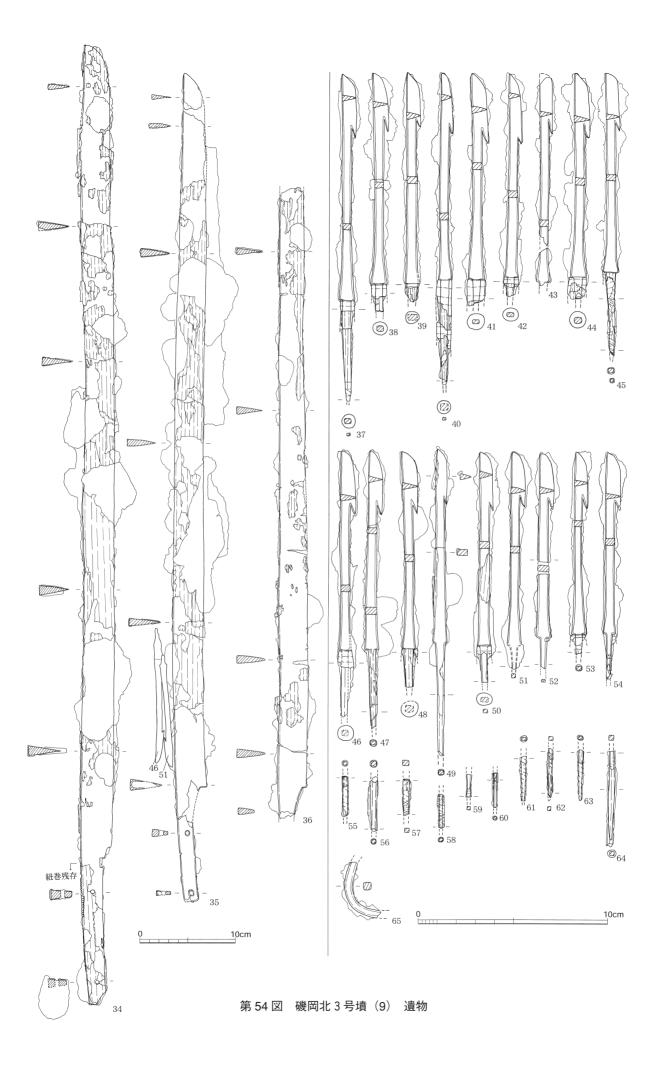
刀 (第 54 図 34  $\sim$  36) 3振ある。いずれも浅い直角片関で、鞘と柄の木質痕跡を残す。表土(撹乱土)出土の 1振(36)は刃幅がやや狭い(最大幅 3cm)。主体部内で出土した 2振(34・35)は長大で刃幅がやや広く(最大幅  $3.2 \sim 3.4$ cm)、わずかに内反気味の刀で、目釘孔を 2箇所持つ。34 は関部寄りの茎に抉り込みを持ち、茎の先端は隅抉尻で、茎を柄の背部から落とし込んで紐で巻く構造。35 は抉り込みや隅抉尻などの加工を持たない刀で、柄木の残りは悪い。2振の刀が銹着した部分が多いので個別の重さは不明だが、両者の合計で約 2kg(ただし、除去しきれない銹塊の重さも含む)。棟部の厚さを見ると、35 はやや薄く軽量感があり、34 はやや厚くて重量感がある。

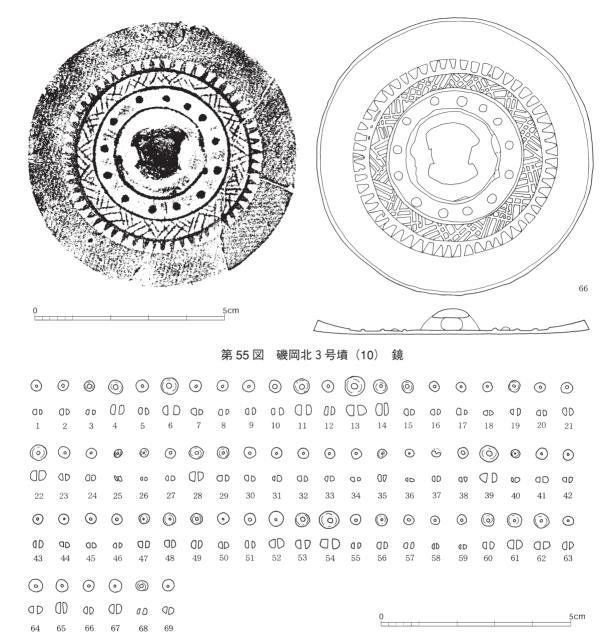
鉄鏃  $(37 \sim 64)$  18 本が出土した。すべて台形関を持つ長頸腸抉片刃箭式で、逆刺が比較的深い。横断面形は頸部・茎部ともに長方形で、茎部の先端寄りでは正方形になる。口巻は樹皮を用いる。茎部にラセン状に繊維を巻いてから矢柄に差し込む。北方にある土壙墓  $(SG12 \boxtimes SZ - 22: 92 \boxtimes)$  や 2 号墳 (第 44 図)出土の鏃と類似する。

**鉤状鉄製品**(65) 鉤状(または環状)をなしていたものと思われる。これは、3号墳の他の鉄製品とは 異なり、周溝埋土から出土した。本来は埋葬施設内の副葬品であった可能性もある。

**珠文鏡**(第 55 図 66) 1 面出土した。13 個の珠文を内区に持つ倭製珠文鏡である。径約 73.2~73.5mm、高さ 6.95mm、縁部反り  $0.4 \sim 0.8$ mm。厚さは縁部で  $2.2 \sim 2.9$ mm、内区の薄い部分で  $0.9 \sim 1.0$ mm、重量 40.8g。縁部の約 1/4 周が 2 片に割れているが、接合できる。これ以外の残存状況は鏡面・背面ともに良好で、現状は光沢のある暗緑色である。付着物は見られない。

鋳上がりは良いが、最も内周の圏線に鋳潰れが見られる。背面縁部から鋸歯文の上面にかけてと鏡面には 丁寧に研磨を施し、擦痕はない。鋸歯文以外の文様が高い部分にも研磨が少し及んだ可能性がある。内区と 外区の境界をなすような段はない。わずかに傾斜する縁部から、鋸歯文帯・圏線・複合鋸歯文帯・圏線・珠 文帯・圏線・無文帯の順になる。鋸歯文や複合鋸歯文帯はやや不整形で、複合鋸歯文の描き方や、珠文相互 の間隔にバラツキがある。





第56図 磯岡北3号墳(11) ガラス製小玉

鈕は径 16.7 mm ・高さ  $6.0 \sim 6.4 \text{mm}$  で頂部に丸みがあり、鈕孔の下底面は鏡背面に一致する。鈕孔開口部の形状は長方形に近く、片方は隅丸長方形気味の楕円形、もう一方は向かって左下部がやや崩れた長方形。 ガラス小玉(第 56 図  $1 \sim 69$ ) 69 点が出土した。黄緑色が 1 点だけあるのを除外すると、青色系統(紺

**カラス小玉**(第56図1~69) 69点か出土した。黄緑色か1点だけあるのを除外すると、青色系統(紅色・透明な青)または水色系統(明るい水色・水色・暗い水色)の色調であり、この2群に大きくまとめられる。この両群では製作方法や材料が異なるようである。

1群(47点):「紺色」(13点)または「透明な青色」(34点)の群。「紺色」と「透明な青色」の色調の違いは、どちらかというと相対的・漸移的である。共通して断面形に丸味を持つ。ただし、大形の品は両小口の平坦面がやや明瞭になり、平面形に歪みを帯びる傾向がある。また、25は斜円筒状で両小口面が明瞭なので、これだけは仕上げ時の加熱成形などを省略したものかもしれない。

2群(21点):「水色」系統の群。透明感と明るさが1群よりもずっと明瞭である。大半は「暗い水色」で

あり (12 点)、「水色」 (4 点) や「明るい水色」 (5 点) は少ない。両小口面(平坦面)と側面(丸みを持つ面)との間に、やや不明瞭ではあるが稜線が存在する。

黄緑色の玉 (1 点): 色調が全く異なる玉が 1 点だけ見られる (41)。形状は、丸みが強くて稜線が認められない点で 1 群に近い。

**琥珀・水晶の砕片** 図示できないが、琥珀と思われる微砕片が数片と、水晶の微砕片が1点見られる。盗 掘で持ち去られた琥珀製および水晶製の玉が存在したのであろう。

第11表 磯岡北3号墳 出土遺物

ND II;	- 1,201. 3 10			
番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1 甕 須恵器	最大	1a~1e が同一個体。2 号墳の2a・2bと5号墳の2a・2bも同一個体の可能性が高い。口縁部の下側に強い凸線1条。頸部外面に9~10 歯の工具で器面に向かって右から左へ櫛描波状文。頸部内外面はロクロ左回転のナデ。胴部は外面に縦位平行叩きの後に間隔を空けた螺旋状のカキメ、内面に同心円文当具痕。底部は外面に多方向の平行叩き、内面に無文当具痕(年輪の同心円がわずかに浮き出る)。下部へゆくほど内面同心円文は不明瞭になる。外面の平行叩き板は木目直交の溝を持つが、木目はあまり現れない。破面は暗赤色。	緻密 白砂~細砂。 白礫少。	周溝底上32~100cmと墳 丘面直上~上20cmが接合 口1/2周 84・141・147・150・151・ 154・160・164・165・300・ 301・303・304・325・329・ 338・340・344・348・ 「70.35・30.40 3層」・E ベルト内 3層・SZ-5 付近 覆土
2 甕 須恵器	高 36.5	口から 25cm下の胴下位に叩きの境界あり。胴中位以上は、内面に同心円文当具痕の後に肩部に間隔を空けた回転ヨコナデ。外面に縦位の格子ふう叩き目の後に、胴中位以上にカキメを右に向かって施文。内面底部に無文当具と胴下位に同心円文当具を使って外面に多方向に格子ふう叩き目で底部成形。この底部成形叩きは胴中位のカキメを切る。内面の当具進行方向は右方向と左方向が混在。	やや緻密 白細粒やや 多。白砂・白礫少。 硬質	周溝底上 16~35cm と墳 丘上 9~19cm が接合 口 2/3 周 118·124·125·233·234· 236·239·261·269·271· SX16の41
3 甕 須恵器	口 24.0 高 残47 最大 復44.6	9号墳の4が同一個体の破片かもしれない。胴上位と中位の間が接合できなかったので器高が不明。口縁部に断面三角の鋭い凸線1条。口端はやや拡大した凹面。頸部は叩き成形後、内面下部を非回転又は緩い回転による雑なヨコナデで調整し、内面上部と外面では回転ヨコナデ。ロクロは左回転の可能性有り。胴外面は縦位の平行叩き。内面は無文当具痕の後、胴部上位・下位と底外周に浅い同心円文当具痕。肩部では上から下へ、胴上位では左上から右下へ、中~下位では下から上に進行する。底部は主に外周を叩き成形した後、多方向の雑なナデで内外面の叩きを消す。底外周は焼台に当たったへこみあり。外面上位と内面底に暗灰色と黒色の薄い自然釉。	緻密 黑色湧出粒多。 白細砂少。	周溝底上 4 ~ 136cm と 墳丘上 2 ~ 21cm が接合 口 2/3 周 201·204·206· 「70.25-29.85 3 層」
4 樽形腺 須恵器	円板径 復 17.0	外面はロクロナデで回転方向不詳。外面の円板部中央付近にはヨコナデが及んでいないため、指紋の痕跡が4~5カ所残存。円板部内面は、円板製作時の多方向ナデを残し、指紋の痕跡も一部にみられる。	緻密 白砂・細砂やや多。	周溝底上 14cm と墳丘上 3cm が接合 円板部 1/3 周 70・74
5 <u>酿</u> 須恵器	高 残7.2	口端はわずかな斜面。口縁下端に凹線と凸線、肩部に凹線を各々1条。頸部に12歯、体部に9歯の工具で櫛描波状文を器面に向かって右から左へ施文。ロクロナデ調整の回転方向は不詳。体部下位の外面は不整方向ナデまたはロクロナデ。外面に黒色の自然釉が付着し、外面肩部と内面頸部では黄灰色〜暗緑色に発色してやや厚く付く。	やや緻密 白礫・白砂や や多。黒色湧出粒。	周溝底上16~32cm が接合 日 1/2 周、頸 3/4 周 236・245・269・ 「70.26-29.80 3 層」
6 壷 (?) 須恵器		口縁部と頸部は接合しないが同一個体である。頸部中位外面に明瞭で鋭い突線あり。口縁部はわずかに内湾気味。外面口縁部と頸部に右から左に向かって4~5歯の工具で櫛描波状文。内面頸部には自然釉が浅黄色 (5Y7/4) にやや汚く発色して付着。外面も無色の自然釉が薄く付着。	緻密 白細粒少。	周溝底上19~45cm が接合 ロ 1/3 周 1・53・54「70.75-29.60 3 層」「70.70-29.45」
7杯土師器	底 4.3	底面は1方向ヘラケズリで凹底。体部は外面ヨコ及びナナメヘラケズリ、内面ナデ。鉢類の可能性も残る。	やや緻密 赤粒やや多。 赤・白細粒。黒・透明・灰 細砂少。 やや軟質	底 11/12 周 278·281~283· 「70.55-30.55 4 層 上 1」
8 杯 土師器	口 13.2 高 6.5 底径 3.4	口は外反し、内面の稜が明瞭で外面頸部には稜がない。内外面体部ナデ後、外面体部ヨコヘラケズリと底部1方向ヘラケズリで凹底。口縁部内外面に丁寧なヨコナデ後、内面ミガキ(口横位、体部縦位)。	やや緻密 赤粗〜細粒	周溝底上14~91cm と墳 丘上3~37cm が接合 口 1/4 周、底全周、頸 1/2 周 25・29・70・85・211・241・ 247

番号			色調	出土状態
種類 材質	大きさ (cm)	特徴	胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注記
9 杯 土師器	口 14.5 高 残 6.8	口が外反し、稜は頸内面で明瞭、外面で不明瞭。外面体部上位ヨコヘラナデと内外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、ヨコヘラミガキ。 外面の体部下位ヨコヘラケズリ。内面体部にヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。	やや緻密 黒・灰色砂~	周溝底上18~32cmが接合 ロ7/12周、頸11/12周 295~298
10 杯 土師器	口 15.0 高 7.5 底 4.8	口は外反し、頸内面に明瞭で丸みのある稜をもつ。厚く重い。外面体部ヨコヘラケズリ後、ヨコヘラナデ、体部下端ヨコヘラケズリ。底部2~3方向ヘラケズリで凹底。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、ヨコヘラミガキ。内面体部は放射状ヘラミガキ。	やや緻密 赤粒・細粒と	墳丘上12~19cmが接合 口1/6周、底全周 81·136·137·143·144
11 杯 土師器	口 16.0 高 残 6.2	口が外反し、内面頸部の稜は不明瞭。口〜頸部内外面に丁寧なヨコナデ後、ヨコヘラミガキ。体部外面ヨコヘラケズリ後、体部上位にヨコミガキ。体部内面はナデかヘラナデ後、放射状ヘラミガキ。	やや緻密 赤・白細粒と	周溝底上21~37cmが接合 ロ7/12 周 198・202・287・289・292・ 293・「上段裾付近 表採」
12 杯 土師器	口 復16.0 高 残 4.3	口は外反し、内面頸部に明確な稜。外面口縁部と内面に丁寧なヨコナデの後、内面全面ヨコヘラミガキ。外面体部ナナメヘラケズリ。		70.0-30.0 グリッド出土 口 1/12 周 70.0-30.0
13 杯 土師器	口 復15.7 高 6.7 底 4.0	口が外反し、頸部内面の稜が明瞭で、外面には稜がない。外面は 頸部ナデ後、体部ヨコヘラナデと体部下端ヨコヘラケズリ。口縁 部内外面に丁寧なヨコナデ後ヨコヘラミガキ。外面底部は1方向 ヘラケズリで凹底。内面体部ナデ後、放射状ヘラミガキ。	やや緻密 赤粒・細粒や	
14 杯 土師器	口 復15.0 高 残 4.7	口が外反し、内面の稜がやや明瞭。内外面の口縁部に丁寧なヨコナデの後、ヨコヘラミガキ。外面体部ナデ後、下位にヨコヘラケズリと上位ヨコヘラミガキ。内面体部は上位にヨコナデ後、下位に放射状と上位に横位のヘラミガキ。外面上半と内面口縁部が暗褐色で、漆仕上げの可能性もある。	やや緻密 白·黒·灰色砂と赤細粒やや多。白細粒	
15 杯 土師器	口 14.0 高 6.1 底 4.6	口は弱く外反。下半部が厚くやや重い。口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。外面体部に雑なナデ後、下位にヨコヘラケズリ、上位の一部にナナメヘラケズリ。外底面は1~2方向ヘラケズリで凹底にした後、焼成前にヘラ記号「×」。内面体部にヘラナデ後、疎らなタテヘラミガキ。外面まで貫通する深い亀裂が焼成前に生じたのでその部分の内面と外底面を補修するために集中的な1方向ヘラミガキを行っている。	やや緻密 赤粗〜細粒 多。黒細砂。白細粒・透 明細砂少。 やや軟質	
16 杯 土師器	口 復13.4 高 残 4.5 最大 復14.6	半球状で口縁部は不明瞭な稜をもって強く内湾する。外面体部に 雑なナデ後、内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。外面体部へラケズ リ。内面体部に斜放射状のヘラミガキ。		周溝底上 28cm と墳丘上 14cm が接合 口 1/2 周 112・205・ 「70.25-29.90 3 層」・ 「70.25-29.85 3 層」
17 杯 土師器		半球状で口縁部は内外面に弱い稜をもって内湾する。外面は体部にやや雑なナデ後に下位をヨコヘラケズリ。口縁部ヨコヘラナデ。内面はナナメナデ後に口縁部を丁寧にヨコナデして、全体にナナメヘラミガキ。	やや緻密 赤粒・細砂と	
18 杯 土師器	復14.6	半球状で口縁部は不明瞭な稜をもって内湾する。外面は底部1方向のヘラケズリ後、体部ヨコヘラナデ。内面体部ヨコヘラナデと内外面口縁部に丁寧なヨコナデの後、内面体部に斜放射状のヘラミガキ。	やや粗い 白礫〜細砂や や多。赤粒・細粒と黒・透 明砂。 やや硬質	口2/3周 112·207·209·210·212· 「70.20-29.80 3層」 「70.20-29.80 3層下」
19 杯 土師器	口 復14.0 高 4.6 最大 復14.5	半球状で口縁部は稜をもたずに内湾する。外底は底部1方向の後に体部横位のヘラケズリ、体部上位ヨコヘラナデ。内面体部に多方向のヘラケズリ後、内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。内面に斜放射状のやや疎らなヘラミガキ。外面上〜中位に暗褐色の付着物が薄く残存するが、漆仕上げか汚れかは不明確。	やや緻密 赤粒と赤・白 細砂やや多。黒・透明細砂。 やや軟質	
20 杯 土師器	口 復11.8 高 4.8 最大 復12.4	口が直立し、体部外面に明瞭な段。全体が薄く軽い。内面全面と 外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、体部に放射状と口縁部に横位の ヘラミガキ。外面底部多方向と体部横位のヘラケズリ。		墳丘上 9 ~ 11cm が接合 口 1/18 周、体 2/3 周 119·120·122·126· 「70.25-29.85 3 層」 「70.25-29.80 3 層」
21 杯 土師器	口 復10.8 高 残 3.7	口が直立し、外面に明瞭な段を持つ。体部内面は横〜斜位ヘラケズリ後に疎らなナナメヘラミガキ。口縁部内外面に丁寧なヨコナデ後、外面に底部各方向と体部横位のヘラケズリ。口縁部内外面にヨコヘラミガキと暗褐色の付着物(漆仕上げか?)。	やや緻密 黒細砂と赤粒	墳丘上25〜29cmが接合 口1/6周 134・135

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
22 杯 土師器	高 残 4.7 最大 復12.4	口縁部が直立し。内外面の稜と段が明確。口縁部内外面と内面上 位に丁寧なヨコナデ後、外面体部ヨコヘラケズリ。内面底~体部 に多方向の軽いナデ。		墳丘面直上と墳丘上 11cmが接合 体1/3周 120·121
23 杯 土師器	口 復13.0 高 5.1	口が直立するが、わずかに外傾気味で短い。体部はやや厚い。内面ヨコナデ (?)後に内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。外面は底部多方向・体部横位のヘラケズリ。	1	周溝底上36cm 口1/36周、頸1/4周 232・「70.20-29.80 3層」 「70.25-29.80 3層」
24 小形壺 土師器	口 8.2 高 14.0 最大 14.7 底 3.1	外面は体部ナナメハケ後ヨコナデ及び最大径付近にヨコヘラナデをしてハケメをほとんど消す。体部下端にヨコ及びナナメヘラケズリ。底面は1方向ヘラケズリで凹底。内面は体部下端ヨコヘラナデと肩部ヨコナデ。口~頸部は内外面に丁寧なヨコナデと外面タテヘラミガキ。	やや緻密 赤粒・細粒や や多。白・黒・灰色の砂~	周溝底上10~23cmと墳 丘上5~7cmが接合 口2/3周、底5/6周、 体全周 20·55~66·68~70
25 小形壺 土師器	口 10.4 高 残13.0 最大 復15.0	外面体部は下半にナナメヘラケズリ後、丁寧なナナメ及びヨコヘラミガキ。内面体部は下半にナナメヘラナデ、上半はユビオサエで積み上げ痕を残す。口~頸部は内外面に丁寧なヨコナデ後、頸部タテヘラミガキ。口縁部は外面を浅い段状に成形した後にヨコヘラミガキ。	やや緻密 白·赤細粒と 赤粒多。灰色砂〜細砂と	周溝底面直上と墳丘上9 ~10cmが接合 口11/12周、体1/3周 152・299・352・「70.35-30. 40 3層」
26 小形壺 土師器	高 残 8.2 最大 復16.0	やや厚く重い。外面はやや摩滅しているが、おそらくミガキは施さず、ヘラナデまたはナデ。内面は体部ヨコヘラナデ、頸部ヨコナデ。		墳丘上5~21cmが接合胴 1/3周、頸1/6周 110·112·114~117·166· 「70.25-29.80 3層」
27 高杯 土師 器	口 復11.0 高 残 3.9	口縁の残存度が低いので、復元径は参考程度だが、大形であることは確か。外面ナナメヘラケズリ後、口縁部ヨコナデ。内面にや や細かい工具で放射状ヘラミガキ。		
28 鉢 土師器		外面は体部ヨコヘラケズリで、下部ほど雑に削る。外底面は1~2方向ヘラケズリでわずかに凹底。内面は多方向ヘラナデ。	5YR6/6 橙 やや緻密 赤粒・細粒多 白砂・赤粗粒・黒細砂少。 やや軟質	墳丘上 9cm 底 5/6 周 126
29 鉢 土師器	口 復19.0 高 10.0 最大 復19.2	口が直立して端部外面が弱く肥厚する。頭外面に強い段。口縁部内外面に丁寧なヨコナデ後ヨコヘラミガキ。体部は外面に横位と底部に多方向のヘラケズリ後、上位ヨコヘラミガキ。内面は底部に1方向と体部に横位のヘラミガキ。内面のミガキは全体に密度が高い。器形からみて古墳時代後期の可能性もある。	やや緻密 赤粒・細粒や や多。黒・透明細砂少。	周溝底上10~36cmと墳 丘上9~21cmが接合 口1/4周、頸7/12周 117・118・123・126・214・ 215・217・232・235・242・ 「70.20-29.80 3層下」 「70.25-29.85」「70.20-80 3層下」
30 壺 土師器	高 15.8 底 5.8	外底面は円周方向ヘラケズリで凹み底。外面頸〜肩部タテヘラケズリ後、胴部ヨコヘラケズリと口縁部外面に丁寧なヨコナデ。胴部内面は下位をヨコヘラケズリして、底部多方向ナデ、胴部ヨコヘラナデ。被熱痕や煤は見られない。体部外面に8cm大の黒斑1カ所。	やや粗い 赤粗〜細粒や や多。白細粒・灰色砂と	周溝底上8~34cmが接合 口5/6周、底全周、 頸全周 238·240·262~265·270· 「70.20-29.80 3層下」 「70.25-29.80」
31 喪 土師器	口 20.2 高 推30.6 最大 31.2	肩部が完全にはつながらないので、器高は推定。胴部外面へラナデ後、上〜中位と下位を逆方向にヨコヘラケズリ。外底面は円周方向ヘラケズリで凹底。胴部内面はヨコヘラケズリ後、肩部に浅いヨコヘラケズリ。頸部内面ナナメナデ後、頸下端外面と口外面〜頸内面に丁寧なヨコナデ。底部中央は内面から叩いて割れたような径4~5cmの孔があり、人為的な穿孔と思われる。被熱痕や煤・コゲはなく、土器焼成時の黒斑が広く残っている。	粗い 白細粒多。赤粒・ 細粒・白礫〜細砂と黒・透 明細砂。	周溝底上8〜49cmと墳丘 上6〜21cmが接合 口1/6周、頸2/3周、 底3/4周、胴下位全周 112・116・117・216・218・ 219・220・231・270
32 円筒 埴輪	高 残 7.9	外面は9本/2cmのタテハケ後に突帯貼付。内面はヨコハケで、破片上部ではハケメが少し斜め(左へ上がり気味)。	7.5YR6/6 にぶい橙 やや粗い 透明砂・赤細 粒。黒・白・透明細砂少。 やや硬質	「北西周溝表土 001108」
33 有台杯 須恵器	高 残 0.9 高台径 復 9.4	へラ切り離しの可能性あり。底面の中央付近をナデ後に底外周を 回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。高台を貼付け。高台は断面が 丸みを持つ扁平な形。奈良時代初め頃の遺物が混入。		3 号墳の周溝底上 37cm と 9 号墳出土の各 1 片 が接合 底 5/12 周 SZ-3 の 256 SZ-9 の 451

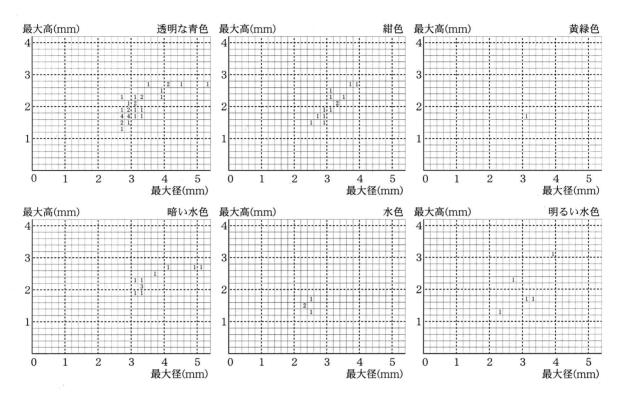
番号			出土状態
種類材質	大きさ	特徴	残存状態 注記
34 刀 鉄製品	重 2041.0g (34 と 35 の	刀身部から茎部にかけて内側に弱く反る傾向あり。関部は直角に 3mm 落とした後に茎尻へ向けて細くなり、幅 10×深さ 4~5mm の抉りを入れる。茎尻は弱く隅を抉るような隅切形。径約 4.0mm の目釘孔が 2 箇所あり、目釘は有機質と思われる。鞘と柄の木質が残り、両者の境界の状況は不詳。柄木の棟側から茎を落とし込んで有機質の紐で巻くので、茎の背には紐が直接付着する。腹部には柄木が付着するが、茎元の抉り内には何も付着しない。紐は断面ブタ鼻状(2 本 1 組の紐の上を直交方向に覆って作った平たい紐)で密に巻き、11 本 / 2cm。全長 101.3cm。刀身長 84.7×幅 2.7~3.2cm・背厚 5~11mm で、切先側が薄く狭い。茎長 16.6×幅 1.8~2.9cm・背厚 8~11mm×腹厚 5~6mm で、尻側が薄く狭い。	た鉄刀のうち上側 完形
35 刀	1.	茎尻末端部幅 0.8cm。破片の一部が図の裏側面で 35 と銹着している。   切先部の破片を直に接合できないので全長は推定復元値。関部は直角に 7mm 落とした後   に茎末端側へ細くなり茎部は断面台形。茎尻は直に終わる。楕円形の目釘孔が 2 箇所あり、	
鉄製品	(34 と 35 の	て 宝元 知	ほぽ完形
36 刀 鉄製品		関部は直角に浅く4mm落とした後に茎末端部へ細くなり茎部は断面台形。刃部は切先側が幅狭く背幅も薄くなる。柄の木質は残っていない。鞘の木質が両面に残る。刃部残長634cm、茎残長33cm。刃部幅25~30cm×背厚65~90mm。茎部幅1.6~2.6cm×背厚7mm、腹厚2mm。	
	重 計 25.2g (37 と 53 の 計)	頸部がかなり長い。樹皮の口巻が残る。茎の末端部には繊維状のものを巻いてから矢柄に差し込む。鏃身部が鉄鏃 53 と銹着しているが、図上で分離して示した。鏃身長 33 ×幅 7.0 $\sim$ 8.0 ×厚さ 2.9 $\sim$ 3.5mm、逆刺長 5 $\sim$ 6mm。鏃身~茎関部長 118mm、頸部幅 4.0 ×厚さ 3 $\sim$ 4mm。	鉄 12 +鉄 24 「主体部 南1~2m 西半 棺底下 0101215」
38 鏃 鉄製品	長 残127㎜	両側がゆるく広がる台形関で、上下面にも段があるかどうかは不詳。矢柄の口巻は樹皮。 頸部中位以下は鉄鏃 $39\cdot50\cdot52\cdot54$ と銹着しているが、図上で分離して作図した。鏃身長 $31\times 4 = 7 - 8 \times 4 = 5.0 \times 5.0$ ※厚さ $3.0 \sim 3.5$ mm、逆刺長 $6 \sim 7$ mm、鏃身~茎関部長 $112$ mm、頸部幅 $5.0 \sim 5.5 \times 4 = 5.0$ ※厚さ $3.5$ mm、茎部幅 $3.5 \times 4 = 5.0$ 》。	茎末端部欠
39 鏃 鉄製品	長 残120 mm	矢柄の口巻はおそらく樹皮。頸部が $38\cdot 50\cdot 52\cdot 54$ と銹着しているが、図上で分離して作図した。鏃身長 $29 \times$ 幅 $7 \sim 7.5 \times$ 厚さ $3.5$ mm、逆刺長 $3 \sim 4$ mm、鏃身~茎関部長	I I
40 鏃 鉄製品	重 計31.5g	片刃鏃で逆刺が深い。茎関部は台形関で、横断面形は頸部・茎部ともに方形または長方形。矢柄の口巻は樹皮。鏃身長 31×幅 6.5×厚さ 3.0mm、逆刺長 4mm、鏃身〜茎関部長 108mm、頸部幅 4.5 ~ 7.0 ×厚 4.0mm、矢柄径 8.2mm。鉄鏃 42 と銹着。	
41 鏃 鉄製品	重 残13.5g	鏃身〜茎関部長 108mm、頸部幅 4.8 ×厚さ 3.7mm、矢柄径 9.0 × 8.5mm、茎部幅 3.0 ×厚さ 2.0mm。	鉄 13
	重 計 31.5g (40と42の計)	鎌身長 36×幅 6.5×厚さ 3.0mm、逆刺長 3mm、鏃身~茎関部長 107mm、頸部幅 5.0 ~ 7.0×厚さ 3.5mm、矢柄径 7.5 ~ 8.7mm、茎部幅 4.0×厚さ 3.2mm。鉄鏃 40と錆着。	茎部欠 鉄 4
43 鏃 鉄製品	重 残 5.2g	鏃身〜頸部の破片(残長 8.8cm)と頸部下端の破片(残長 2.0cm)の接合部分が欠損しているが、出土状況からみて両者が図のような位置・距離に復原できることは確実。後者の小破片は 46・51 の鏃と銹着しているが、図上で取り出して図化した。鏃身残長 29×幅 7.0×厚さ 2.8~3.0mm、遊刺長 7mm、鏃身〜茎関部残長 107mm、頸部幅 5.0×厚さ 3.3mm。	茎部欠
44 鏃 鉄製品	重 残14.1g	鎌身部がやや広い。矢柄の口巻は樹皮。鏃身長 34 ×幅 8.0 ×厚さ 3.5 ~ 4.0mm、逆刺長 6 ~ 7mm、鏃身~茎関部長 10.8mm、頸部幅 5.0 ×厚さ 3.8mm、矢柄径 8.3 × 9.4mm、茎部幅 4.0 ×厚さ 3.5mm。	茎末端部欠 鉄 14
45 鏃 鉄製品	重 残11.6g	茎部の表面にラセン状の繊維巻きをしてから矢柄に入れる。鏃身長 31 × 幅 7.0 × 厚さ 3.0mm、逆刺長約 4 ~ 5mm、鏃身~茎関部長 105mm、頸部幅 4.5 × 厚さ 3.2mm。	ほぽ完形 鉄 9
46 鏃 鉄製品		矢柄の口巻は樹皮。頸部が直刀(35)と鉄鏃 43・51 と銹着しているが、図上で分離して作図した。鏃身長 33 × 幅 7 ~ 8 ×厚さ 3.5mm、逆刺長 4 ~ 5mm、鏃身~茎関部長 105mm、頸部幅 45 ×厚さ 3.5mm、矢柄径 9.3 × 7.9mm、茎部(残存末端部)幅 2.5 ×厚さ 1.9mm。	茎末端部欠 鉄 18
47 鏃 鉄製品	重 計23.9g (47 と 49 の 合計)	逆刺が深い。茎関部は台形関で、上下面には段を持たない可能性が高い。茎部の断面形は残存する末端部まで長方形。切先〜頸部の長さ $4\mathrm{cm}$ の破片は破面が頸〜頸部片とうまく接合できないが、出土状況から図のようになると考えられる。鉄鏃 $49$ と銹着しているが図上で分離して作図。鏃身長 $33 \times \mathrm{m}$ $7.0 \times \mathrm{p}$ $5$ $3.8\mathrm{mm}$ 、逆刺長 $6 \sim 7\mathrm{mm}$ 、鏃身〜茎関部長 $104\mathrm{mm}$ 、頸部幅 $4.5 \sim 7.5 \times \mathrm{p}$ $5$ $3.2 \sim 4.0\mathrm{mm}$ 、茎部幅 $2.0 \sim 4.0 \times \mathrm{p}$ $5$ $2.5 \sim 4.0\mathrm{mm}$ 。	茎末端部欠
48 鏃 鉄製品	重 残 17.5g	鎌身部がやや広め。樹皮の口巻が少し残る。鏃身長 33 ×幅 8.5 ×厚さ 3.8mm、逆刺長 4 ~5mm、鏃身~茎関部長 104mm、頸部幅 4.9 ×厚さ 4.0mm、矢柄径 9.0mm。	茎末端部欠 鉄 10
49 鏃 鉄製品	重 計23.9g (47と49の 合計)	向かってしだいに薄くなるようである。切先〜頸部の長さ 5cm の破片は破面が頸〜茎部破片とうまく接合できないが、出土状況から図のようになると考えられる。鉄鏃 47 と銹着しているが図上で分離して作図。鏃身長 29 ×幅 6.0 ×厚さ 3.0mm、逆刺長は $X$ 線写真から判断して $3 \sim 4$ mm、鏃身〜茎関部長 $102$ mm、頸部幅 $5.0 \sim 7.0 \times$ 厚さ $2.0 \sim 3.0$ mm。 茎部幅 $2.5 \sim 5.0 \times$ 厚さ $2.0 \sim 3.0$ mm。	鉄20・鉄28・鉄29・鉄30
50 鏃 鉄製品	長 残122 mm	茎関部の形状は $X$ 線写真でも不明瞭。矢柄の口巻は樹皮。鏃身部は鉄鏃52、頸部は鉄鏃 $38\cdot39\cdot52\cdot54$ と銹着しているが、図上で分離して作図した。鏃身長 $31\times$ 幅 $7-8\times$ 厚さ $4.0$ mm、逆刺長 $4$ mm前後、鏃身~茎関部長 $10$ 3mm、頸部幅 $5.3\times$ 厚さ $4.0$ mm、矢柄径 $7.5\times$ 8.0mm、茎部幅 $3.1\sim4.0$ ×厚さ $2.4\sim2.8$ mm。	茎末端部欠

32° 11'			111.1.415台5
番号 種類 材質	大きさ (mm)	特徴	出土状態 残存状態 注記
51 鏃 鉄製品	長 残114	茎関部付近の形状や付着物は銹のため不明瞭。 頸部が鉄鏃 $43\cdot 46$ や鉄刀 $35$ と銹着しているが、図上で分離して作図した。 鏃身長 $29$ ×幅 $7$ ×厚さ $3.0$ ~ $3.5$ mm、 逆刺長 $5.0$ mm、 鏃身~茎関部長 $102$ mm、 頸部幅 $5.0$ ~ $7.5$ ×厚さ $3.5$ mm、 茎部幅約 $2$ ~ $4$ ×厚さ $1.5$ ~ $2$ mm。	茎末端部欠
52 鏃 鉄製品	長 残114	頸部の欠損部長が 6mm であることは出土状況から確実。台形関の上下面にも段があるかどうかは銹が多くて不詳。鏃身部は鉄鏃 50、頸部は鉄鏃 38・39・50・54 と銹着しているが 図上で分離して作図した。鏃身長復原 29×幅 7~8×厚さ 3.5mm、逆刺長復原 5mm、鏃身~茎関部長 98mm、頸部幅 5.2×厚さ 3.5mm、茎部幅 35~48×厚さ 17~ 28mm。	茎末端部欠
53 鏃 鉄製品	重 計25.2g	鏃身部が 37 と銹着しているが、図上で分離して示した。樹皮の口巻が少し残る。鏃身長 30 ×幅 7.0 ~ 7.5 ×厚さ 2.9mm、逆刺長 5 ~ 6mm、鏃身~茎関部長 95mm、頸部幅 4.6 ×厚さ 2.9mm。	
54 鏃 鉄製品	長 残120	台形関の上下面にも段があるかどうかは銹が多くて不詳。矢柄の口巻は樹皮。頸部が鉄鏃 $38\cdot 39\cdot 50\cdot 52$ と銹着しているが、図上で分離して作図した。鏃身長復原 $30$ ×幅 $7\sim 8$ ×厚さ $3.0$ mm、逆刺長復原 $4\sim 5$ mm、鏃身~茎関部長 $96$ mm、頸部幅 $5.0$ ×厚さ $3.8$ mm、茎部幅 $19\sim 35$ ×厚さ $17\sim 20$ mm。	茎末端部欠
55 鏃 鉄製品	長 残 21 重 残 0.5g	茎部だけが残存。下端は欠損しているようでもあるが、平坦な末端部の可能性もある。断面は辺 1.5mm 前後の方形で、ラセン状に繊維を巻いてから矢柄に差し込む。	埋葬施設内 両端部欠 「主体部2層南1.9~2.0m 西半」
56 鏃 鉄製品	長 残 28 重 残 0.8g	茎部だけが残存。断面は辺長 2 ~ 3mm の方形で、図の下部がやや細くなる。矢柄の木質が表面に残る。	埋葬施設内 両端部欠 鉄 25
57 鏃 鉄製品	長 残 20 重 残 0.6g	茎部だけが残存。断面辺 3.5 〜 4mm 程の方形で、ラセン状に繊維を巻いてから矢柄に差し込む。	埋葬施設内 両端部欠 鉄 27
58 鏃 鉄製品	長 残 18 重 残 0.4g	茎部だけが残存。断面は辺長 $1.0\sim 1.5 \mathrm{mm}$ の方形で、図の下部がやや細くなる。ラセン状に巻いた繊維質が全面に残る。	埋葬施設内 両端部欠 鉄 8
59 鏃 鉄製品	長 残 12 重 残 0.2g	茎部だけが残存。断面は辺長 1.2 ~ 1.9mm の方形で、図の下部がやや細くなる。図の下部に残る痕跡は繊維を巻いた痕かもしれない。	埋葬施設内 両端部欠 鉄 9
60 鏃 鉄製品	長 残 18 重 残 0.2g	茎部だけが残存。断面は辺 $1.5\sim 1.8$ mm 程の方形で、表面に繊維を巻いた痕がわずかに残る。	埋葬施設内 両端部欠 鉄 26
61 鏃 鉄製品	長 残 24 重 残 0.5g	茎部だけが残存。断面は辺 2.0mm 程の方形で、ラセン状に繊維を巻く。	埋葬施設内 両端部欠 「鉄 9 〜鉄 12 の茎片」
62 鏃 鉄製品	長 残 26 重 残 0.4g	茎部だけが残存。断面は辺 2.0 ~ 2.4mm の方形で、矢柄の木質が残る。繊維を巻いた痕は見られない。	埋葬施設内 両端部欠 「南 2.0~2.9m 中軸~東 15cmベルト」
63 鏃 鉄製品	長 残 27 重 残 0.4g	茎部先端だけが残存。断面は辺 1.5 × 2.0mm 程の方形で、ラセン状に繊維を巻く。	埋葬施設内 先端部残 「鉄 9 〜鉄 12 の茎片」
64 鏃 鉄製品	長 残51 重 残1.1g	茎部だけが残存。断面は辺長 2.5 ~ 2.7mm の方形で、ラセン状の繊維を巻いてから(図の上端部)、矢柄に差し込む。矢柄の木質が表面に残る。	埋葬施設内 茎末端部残 鉄 7・「主体部 2 層南 1.9 ~ 2cm 西半」
65 鉤状品 鉄製品	長 残 32 重 残 3.0g	環状品または鉤状品の破片。両端はおそらく欠損していると思われるが、かなり古い時期の破面らしく不明瞭で、断定はできない。断面は太さ5mmの隅丸方形または円形。埋葬施設から流出したものか、または後世の混入品かもしれない。	
66 珠文鏡青銅製品	高 6.95 縁部反り 0.4~0.8 縁部厚 2.2~2.9 内区厚 0.9~1.0 鈕径 16.7 鈕高 6.0~6.4 重量	13 個の珠文を内区に持つ倭製珠文鏡。鋳上がりは良いが、最も内周の圏線(鈕の外側を囲む線)には、鈕孔を両側へ延長した付近にそれぞれ鋳潰れが見られる。背面縁部と鏡面には丁寧に研磨を施し、擦痕などはみられない。文様の頂部に磨滅が認められるのは、文様の高い部分にこの研磨が少し及んだものと思われる。内区と外区の境界をなすような段はみられない。縁部はわずかに傾斜する面をなす。縁部から段落ちしない鋸歯文帯を持ち、ほとんど突出しない圏線をはさんで複合鋸歯文帯、にわずかに突出する圏線をはさんで無文帯、よたたびわずかに突出する圏線をはさんで無文帯となる。外周部の鋸歯文はやや不整形で、鋭く尖るものと、鏡縁部に鋸歯の先端が連結してしまう形状のものがあり、鋸歯文の上面は縁部と一連の研磨で平滑に磨かれている。複合鋸歯文帯は、製品について説明すると時計回り方向(鋳型では半時計回り方向)に描いていったことが推定される。複合鋸歯文を構成する個々の線は、交差する場合と、他の線にぶつかってそこで止まる場合との2者がみられる。珠文は径2.3~3.2mm・高さ0.6~1.3mmで、相互の間隔にバラツキがある。鈕は頂部に丸みを持つ。鈕孔の下底面は鏡背面(鈕座面)に一致する。鈕孔開口部の形状は長方形に近いが、両側で少し異なる。片方は隅丸長方形気味の楕円形(幅5.4×高3.9mm)である。一方は向かって左下部がやや崩れているがほぼ長方形、幅45×高3.9mm)である。付着物(顔料・有機質など)は見られない。	縁部約1/4周が2片に 割れ、接合可能。これ 以外の残存状況は鏡面・ 背面ともに良好で、現

第 12 表 磯岡北 3 号墳 ガラス小玉

弗 1	2 衣 機両	北3号	り カー	ノス小土	<u>-</u>						
No.	重量	直径(		高さ(		孔径(		出土位置	出土層	色	取上
	(g)	最大径	最小径	最大高	最小高	孔径1	孔径 2				番号
1 2	0.01 0.02	2.91 2.94	2.88 2.85	1.67 1.91	1.61 1.62	0.88 0.87	0.82 0.70	南 2.05m 西半 (第 51 図参照) 南 2.94m 西半 (第 51 図参照)	棺底 (刀の下) 棺底	透明な青 紺色	玉1 玉2
3	0.02	3.00	2.99	1.68	1.64	1.05	1.03	南 1.92m 西半(第 51 図参照)	相底	明るい水色	玉3
4	0.02	4.00	3.65	2.74	2.70	1.03	1.15	南 1.83m 西半 (第 51 図参照)	相底	暗い水色	玉 4
5	0.03	3.28	3.19	2.07	2.02	0.77	0.52	南 1.88m 西半 (第 51 図参照)	相底	紺色	玉 5
6	0.07	4.51	4.46	2.68	2.62	1.62	1.32	南 1.80m 西半 (第 51 図参照)	棺底	透明な青	玉 6
7	0.02	3.30	3.19	1.75	1.65	0.72	0.54	南 1 ~ 2m 西半	棺底下	"	なし
8	0.01 未満	2.84	2.79	1.57	1.26	0.68	0.67	南 1 ~ 2m 西半	棺底下	"	-
9	0.03	3.22	3.19	2.20	1.92	0.82	0.54	南 1 ~ 2m 西半	棺底下	,,	"
10	0.02	3.15	3.12	2.13	1.98	0.94	0.87	南 1 ~ 2m 西半	棺底下	"	"
11	0.07	4.11	3.98	2.75	2.73	1.06	0.85	南 1 ~ 2m 西半	棺底下	"	"
12	0.03	3.10	3.09	2.57	2.54	0.84	0.55	南 1 ~ 2m 西半	棺底下	紺色	"
13	0.11	5.39	5.18	2.71	2.45	1.25	1.21	南 1 ~ 2m 西半	棺底下	透明な青	"
14	0.06	3.81	3.75	3.18	3.16	0.91	0.84	南 1 ~ 2m 西半	棺底下	明るい水色	"
15	0.02	3.32	3.25	1.89	1.74	1.14	0.86	南 1 ~ 2m 西半	相底下	暗い水色	"
16	0.01 未満	2.78	2.77	1.68	1.54	0.74	0.69	南 1 ~ 2m 西半	相底下	透明な青	"
17	0.01 未満	2.75	2.69	1.95	1.41	0.69	0.53	南 1 ~ 2m 西半	相底下	透明な青	"
18	0.01 未満	2.85	2.80	1.63	1.58	0.58	0.49	南 1 ~ 2m 西半	棺底下	透明な青	"
19	0.02	3.06	3.03	1.89	1.70	0.89	0.61	南 1 ~ 2m 西半	植底下	暗い水色	"
20 21	0.01	2.69 3.05	2.68	2.28	1.52 2.11	0.65	0.48	南 1 ~ 2m 中軸西トレ 南 1.2 ~ 1.5m 西半	相底 相底	透明な青 紺色	"
22			3.91	2.28	2.11	0.83		南 1.2 ~ 1.5m 四手		和色 紺色	,
23	0.05 0.03	3.93 3.21	3.10	2.60	1.95	0.76	0.75 0.75	南 1.2 ~ 1.9m 四手 南 1.2 ~ 1.9m 西半	埋土 埋土		"
	0.03		2.65				0.75	南 1.2 ~ 1.9m 四手 南 1.2 ~ 1.9m 西半	埋土	和色 紺色	"
24 25	0.02	2.66 2.40	2.65	1.75 1.55	1.73 1.54	0.64	0.54	南 1.2 ~ 1.9m 四手 南 1.2 ~ 1.9m 西半	埋土	和色 紺色	,
26	0.01 未満	2.38	2.29	1.30	1.17	0.60	0.65	南 1.2 ~ 1.9m 四十 南 1.2 ~ 1.9m 中軸~東 15cm	不明	明るい水色	"
27	0.01 木(両	2.74	2.63	1.56	1.17	0.00	0.72	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	透明な青	,
28	0.01	3.67	3.27	2.71	2.27	0.73	0.72	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	組色	,
29	0.04	3.35	3.30	1.98	1.88	0.73	0.63	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	暗い水色	,
30	0.03	3.38	3.05	1.89	1.74	0.73	0.03	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	透明な青	,
31	0.01 未満	2.94	2.85	1.81	1.60	0.80	0.72	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	透明な青	,
32	0.01	3.07	3.03	1.74	1.55	0.88	0.64	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	透明な青	,
33	0.01 未満	2.78	2.73	1.71	1.55	0.78	0.56	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	透明な青	,
34	0.01	2.79	2.63	1.39	1.17	0.78	0.72	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	透明な青	,
35	0.02	2.63	2.59	2.37	2.31	0.52	0.49	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	明るい水色	,
36	0.01 未満	2.59	2.39	1.31	1.26	0.42	0.36	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	水色	"
37	残 0.01 未満	2.39		1.60	1.52	0.53	0.21	南 1.2 ~ 2.0m 西半	床下 1cm	水色	"
38	0.02	2.93	2.86	1.62	1.37	1.24	0.80	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	透明な青	"
39	0.07	4.88	4.18	2.70	2.33	1.56	1.43	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	暗い水色	"
40	0.01 未満	2.31	2.26	1.55	1.45	0.48	0.47	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	水色	"
41	0.02	3.04	3.00	1.78	1.51	0.62	0.47	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	黄緑	"
42	0.01	2.86	2.78	1.58	1.44	0.68	0.53	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	紺色	"
43	0.01	2.78	2.68	2.26	2.13	0.72	0.53	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	透明な青	"
44	0.02	2.86	2.84	1.76	1.53	0.65	0.47	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	紺色	"
45	0.01	2.86	2.76	1.66	1.45	0.54	0.52	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	透明な青	"
46	0.01	2.82	2.78	1.81	1.73	0.76	0.58	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	透明な青	"
47	0.02	3.26	3.23	2.01	1.91	0.68	0.54	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	暗い水色	"
48	0.03	3.13	3.11	2.25	2.09	0.64	0.53	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	暗い水色	"
49	0.03	3.34	3.32	2.21	2.01	0.80	0.74	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	暗い水色	"
_ 50	0.02	3.06	3.02	1.97	1.95	0.53	0.51	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	透明な青	"
51	0.03	3.18	3.12	2.21	1.96	1.03	0.61	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	透明な青	"
52	0.05	4.05	3.97	2.61	2.46	0.68	0.66	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	透明な青	"
53	0.04	3.77	3.69	2.43	2.21	1.09	1.03	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	暗い水色	"
54	0.08	5.02	4.36	2.79	2.53	1.29	1.22	南 1.1 ~ 1.85m 西半	埋土	暗い水色	"
55	0.01 未満	2.80	2.78	1.61	1.40	1.01	0.83	南 1.9 ~ 2.0m 西半	2層	透明な青	"
56	0.03	3.25	3.21	2.17	2.13	0.68	0.61	南 1.9 ~ 2.0m 西半	2層	暗い水色	"
57	0.01	2.75	2.72	1.71	1.65	0.80	0.59	南 1.9 ~ 2.0m 西半	不明	透明な青	,
58	0.01	2.53	2.51	1.53	1.48	0.42	0.39	南 1.9 ~ 2.0m 西半	主体部1層	水色	"
59 60	0.01 未満	2.71	2.65	1.48	1.36	0.68	0.60	南 1.9 ~ 2.0m 東半	主体部1~2層	透明な青	,
60	0.03	3.38	3.37	2.00	1.92	1.01	0.78	南 1.9 ~ 2.0m 南 25 ~ 2.85m 西半	相上	暗い水色	"
61	0.04	3.89	3.87	2.51	2.00	0.85	0.80	南 2.5 ~ 2.85m 西半 南 2.0 ~ 2.15m 西半	埋土	透明な青	,
62	0.04	3.93	3.84	2.31	2.11	0.60	0.58	南 3.0 ~ 3.15m 西半	埋土	透明な青	,
63	0.02	2.91	2.68	2.05	1.74	0.64	0.45	南 3.0 ~ 3.15m 西半	埋土	透明な青	,
64 65	0.03	3.50	3.47	2.30	2.23 2.27	0.94	0.57	南 3.15 ~ 4.0m 西半	埋土	紺色 透明な青	,
65	0.04	3.39	3.36	2.39		0.67	0.62	南 3.15 ~ 4.0m 西半 南 3.5 ~ 4.6m 東半	埋土 増利	透明な育 紺色	"
66 67	0.02	3.07	3.01	1.97	1.88	0.76	0.44	南 3.5 ~ 4.6m 東平 南 3.5 ~ 4.6m 東半	撹乱 撹乱	透明な青	,
67 68	0.04 0.01	3.48 3.31	3.43	2.72 1.72	2.58 1.61	0.73 0.98	0.53	南 3.5 ~ 4.6m 東平 南 3.5 ~ 4.8m 中軸~東 15cm	規乱 撹乱	週明な百 明るい水色	,
								南 3.5 ~ 4.8m 中軸~東 15cm 南 3.5 ~ 4.8m 中軸~東 15cm			,
69	0.01	3.15	3.05	2.10	1.94	0.48	0.46	HI 5.5 ** 4.6III 中間~果 15CM	撹乱	透明な青	1 "

# 第13表 磯岡北3号墳 ガラス小玉の度数分布表



第 14 表 磯岡北 3 号墳 ガラス小玉の統計値

透明な青	色(出:	土数 34	点)				紺色 (出	土数 13	点)					黄緑色(出土数 1 点)						
	重量	直径	(mm)	高さ	(mm)	孔径 1,2		重量	直径	(mm)	高さ	(mm)	孔径 1,2		重量	直径	(mm)	高さ	(mm)	孔径 1,2
統計值	※ (g)	最大径	最小径	最大高	最小高	(mm)	統計值	※ (g)	最大径	最小径	最大高	最小高	(mm)	統計值	(g)	最大径	最小径	最大高	最小高	(mm)
計測数	26	33	33	33	33	66	計測数	12	12	12	12	12	24	計測数	1	1	1	1	1	2
平均	0.03	3.20	3.12	1.99	1.81	0.74	平均	0.03	3.12	3.03	2.09	1.95	0.69	平均值	0.02	3.04	3.00	1.78	1.51	0.55
最大値	0.11	5.39	5.18	2.75	2.73	1.62	最大値	0.05	3.93	3.91	2.71	2.54	0.94	最大値	_	-	_	-		0.62
最小値	0.01	2.69	2.63	1.39	1.17	0.45	最小值	0.01	2.40	2.29	1.55	1.44	0.44	最小値	_	-	-	-	- 1	0.47
標準偏差	0.02	0.60	0.59	0.40	0.42	0.22	標準偏差	0.01	0.41	0.40	0.39	0.37	0.14	標準偏差	_	-	-	-	- 1	0.11
-																				
暗い水色(出土数 12 点) 水色(出土数 4 点)																				
暗い水色	(出土	数 12 点	į)				水色(出	土数 4	点)					明るい水	色(出:	土数 5)	点)			
暗い水色	(出土	数 12 点 直径	(mm)	高さ	(mm)	孔径 1,2	水色(出	土数4	点)	(mm)	高さ	(mm)	孔径 1,2	明るい水	色(出:	土数 5 /	<u>点)</u> (mm)	高さ	(mm)	孔径 1,2
暗い水色 統計値	重量		(mm)		٠, ,	孔径 1,2 (mm)	水色(出	重量	直径		高さ 最大高			明るい水 統計値	重量	直径	(mm)		(mm) 最小高	孔径 1,2 (mm)
	重量	直径	(mm)		٠, ,			重量	直径						重量	直径	(mm) 最小径			
統計值	重量 (g)	直径 最大径	(mm) 最小径	最大高 12	最小高	(mm) 24	統計值	重量	直径				(mm) 8	統計值	重量	直径 最大径 5	(mm) 最小径	最大高 5	最小高 5	(mm)
統計值計測数	重量 (g) 12	直径 最大径 12 3.65	(mm) 最小径	最大高 12 2.26	最小高 12	(mm) 24 0.91	統計值計測数	重量 ※ (g)	直径 最大径 4	最小径	最大高 4	最小高 4	(mm) 8 0.41	統計值計測数	重量 ※ (g) 4	直径 最大径 5 3.03	(mm) 最小径	最大高 5 2.05	最小高 5 1.98	(mm) 10
統計值 計測数 平均	重量 (g) 12 0.04	直径 最大径 12 3.65	(mm) 最小径 12 3.48 4.36	最大高 12 2.26 2.79	最小高 12 2.10	(mm) 24 0.91 1.56	統計値 計測数 平均	重量 ※ (g) 1 0.01	直径 最大径 4 2.46	最小径 3 2.39	最大高 4 1.50 1.60	最小高 4 1.43	(mm) 8 0.41 0.53	統計值 計測数 平均	重量 ※ (g) 4 0.03	直径 最大径 5 3.03	(mm) 最小径 5 2.94	最大高 5 2.05	最小高 5 1.98	(mm) 10 0.78
統計值 計測数 平均 最大值	重量 (g) 12 0.04 0.08	直径 最大径 12 3.65 5.02	(mm) 最小径 12 3.48 4.36 3.03	最大高 12 2.26 2.79 1.89	最小高 12 2.10 2.70	(mm) 24 0.91 1.56	統計值 計測数 平均 最大值	重量 ※ (g) 1 0.01 -	直径 最大径 4 2.46 2.59	最小径 3 2.39 2.51	最大高 4 1.50 1.60 1.31	最小高 4 1.43 1.52 1.26	(mm) 8 0.41 0.53 0.21	統計值 計測数 平均 最大值	重量 ※ (g) 4 0.03 0.06	直径 最大径 5 3.03 3.81 2.38	(mm) 最小径 5 2.94 3.75 2.27	最大高 5 2.05 3.18 1.30	最小高 5 1.98 3.16 1.17	(mm) 10 0.78 1.05

機準偏差・・・計測できた小玉を母集団(製作した玉全体)から抽出した標本(副葬されて残存した出土遺物)とみなし、母集団全体の標準偏差を計算して1σで示した。

第 15 表 磯岡北 3 号墳 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

		杯蓋	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	鉢	小形土器	壺	甕	速	樽形邈	その他
Γ,	口縁部計測		0.50 周	7.50 周	6.75 周	2.08 周	0.17 周	0.42 周		0.83 周	0.33 周			
師	口縁部		9	37	128	19	3	10		8	6			
器	体部			有		有		有		有	有			
tit	底部			平底 23		平3.凹2		2		1	4			
/=	口縁部計測		0.03 周							0.33 周	1.83 周	0.50 周		
須恵	口縁部		1 (?)							4	18	2		
器	体部									有	有	有	有	
100	底部												円板部2	
Fr 44	Edwin 11. (n	a) 77 a	NA A ALUIT	Art abut to	est. I - Arts -	10								

円筒埴輪 1 片 (32)。刀 3・鏃 18・鉤状鉄製品 1・珠文鏡 1・ガラス小玉 69。

奈良時代須恵器有台杯底部1片混入(33)。

**磯岡北4号墳**(第57~60図、写真図版21・22・72・87)

### [概要]

墳径 9.6m の円墳で、最大幅 1.7m・深さ 0.6m (本来の深さは推定 0.9m) の周溝を持つ。墳丘と埋葬施設は削平されて残っていない。周溝から少量の土師器杯および甕と、鉄製刀子の破片 1 点が出土した。

### 〔位置〕

SG12 区の東部から SG17 区の西部にまたがり、 $70-30\cdot 31$  グリッドから  $71-30\cdot 31$  グリッドにかけて所在する。南西に 3 号墳、南側に 6 号墳が隣接する。周溝外周の間の距離は、 $3\cdot 4$  号墳の間が 3.4m、 $4\cdot 6$  号墳の間が 2.4m しか離れていない。また、北方には 9m 離れて 2 号墳、南東には 11m 離れて 8 号墳がある。すぐ北西にはこの古墳群に関わる遺物集中地点 SX-16 がある(第 79 図)。

4号墳の周溝の西側に沿って、中世の溝が4号墳の周溝の外側をめぐる(囲む)ように掘られている(SD -26A、写真図版 21 参照)。この部分では4号墳の周溝外側を巡った後に、南側では3号墳の周溝に取り付けて掘られ、また北側では2号墳の周溝底を通る。中世において、 $2 \cdot 3 \cdot 4$  号墳の周溝を意識して掘られた溝だろう(p.176 の第 100 図)。

## 〔周溝〕 (第57・58 図、写真図版21・22)

調査前には地面の高まりはみられず、全く墳丘は残っていなかった。1995年度確認調査時の試掘トレンチで所在を確認した古墳である。

周溝はやや歪みのある円形で、周溝の底面立ち上がりから計測した墳丘の径は  $9.2\sim9.6\mathrm{m}$  である。周溝幅は  $1.3\sim1.7\mathrm{m}$  で、周溝底面の標高は約  $83.0\sim83.4\mathrm{m}$ 。遺構確認面から計測した周溝の深さは  $0.3\sim0.6\mathrm{m}$  で、北~西部がやや深い。 4 号墳の墳丘は残っていないので旧表土上面の標高も不明だが、隣接する 3 号墳墳丘下の北部と同じく築造前の標高が  $83.9\mathrm{m}$  と仮定した場合、その面から周溝底面までの深さは約  $0.5\sim0.9\mathrm{m}$  あったことになる。

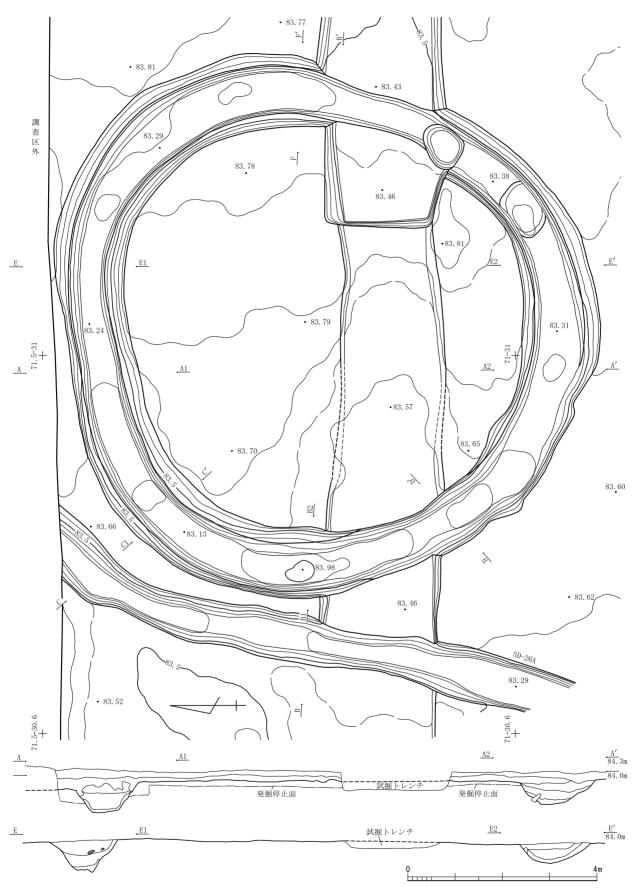
周溝の埋土は自然埋没と思われ、最上層に Hr-FA テフラと思われる白色粒子を含む。白色テフラが集中している状況も一部で見られた(第  $58 \boxtimes E - E1$  および F - F')。

### 〔遺物出土状況〕(第59図)

# 〔出土遺物〕

周溝から出土した土師器と刀子(第60図、写真図版72・87) 土師器は、口縁が外傾する杯2点(1・2)、短頸の鉢が1点(3)と、甕(4)がある。4の甕に火に掛けて使用した痕が明瞭である点は、この古墳群から出土した土師器としてはめずらしい。これらの他には、土師器の小破片が数点ある程度である。埴輪は出土しなかった。

また、刀子の茎~刃部破片が 1 点ある (5)。破壊された埋葬施設から副葬品が流出して周溝内に入ったものかもしれない。



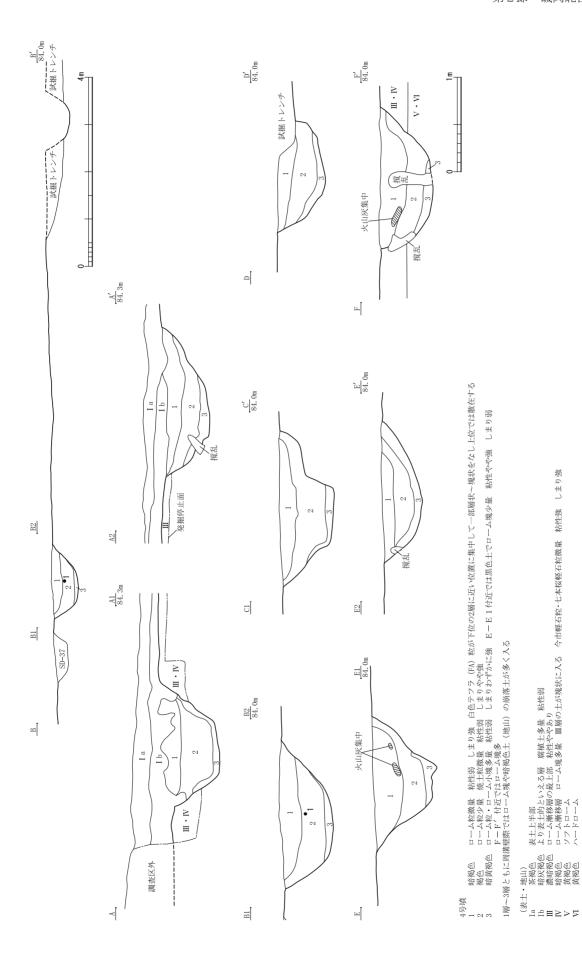
第57図 磯岡北4号墳(1) 遺構全体図

断面図・周溝断面図

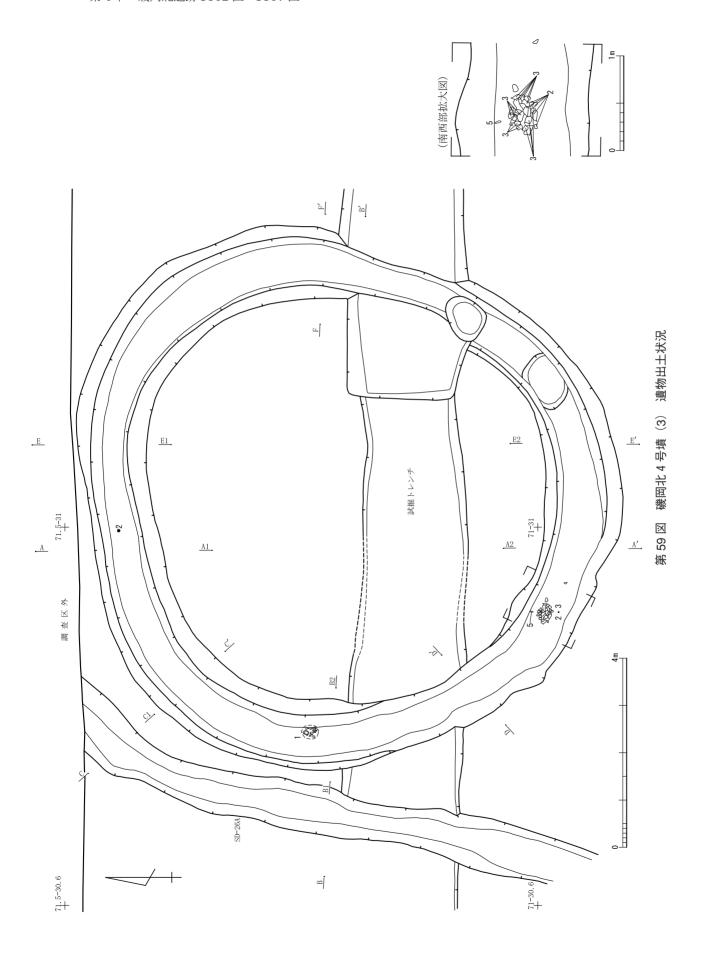
(<u>۵</u>

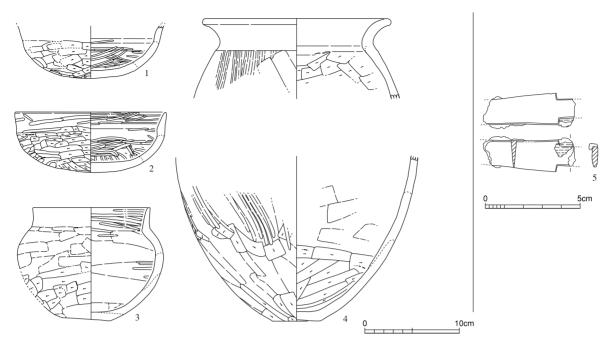
磯岡北 4 号墳

第 58 図



-115 -





第60図 磯岡北4号墳(4) 遺物

# 第 16 表 磯岡北 4 号墳 出土遺物

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1 杯 土師器 2 杯 土師器	高 残 5.5	口が外反し、内面頸部に弱く不明瞭な段あり。内面体部に多方向へラナデ後、内外面口縁部を丁寧にヨコナデして、外面へラケズリ(底部1方向、体部横位)。内面体~底部におおよそ円周方向のヘラミガキ。 口が外反するが、外面側の傾きはごくわずか。内面に明瞭な段有り。内面及び体部にヨコ及びナナメヘラケズリ後、内外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、ヨハラミガキ。外面に底部1方向と体部横位のヘラケズリ。内面に体部横〜斜位と底部多方向のヘラミガキ。内外面口縁部に薄褐色の付着物が部分的に少量みられるが漆仕上げかどうかは不明。	5YR5/6 明赤褐 やや緻密 赤細粒多。 赤・白粒。 やや軟質 5YR5/6 明赤褐 緻密 白細砂・砂・礫と 透明細砂少。 硬質	周溝底上 48cm 体全周 1·3 周溝底上 20cm
3 短頸鉢 土師器 4 甕 土師器	高 12.0 最大 15.4 口 復 20.0 高 残 26.0	頸部内面の稜が明確。外面は口縁部に丁寧なヨコナデと中~下位にヨコヘラケズリ。底面はほぼ1方向ヘラケズリで平坦。内面は体部ヨコヘラナデ後、口縁部を丁寧にヨコナデし、体部上位及び口縁部に雑なヨコヘラミガキ。 胴部上位が不足して接合できないが、口と胴下半が同一個体。外面は下半部にナナメヘラナデ後、積み上げ休止面が厚くなった付近と胴下端にナナメヘラケズリ。胴中位に棒状工具でタテナデ。外底面は1方向ヘラケズリ。上半部は外面タテルケ後にヘラナデでハケをほとんど消し、口~頸部内外面に丁寧なヨコナデ。内面は下半部をヨコヘラナデ後、胴部下位に多方向ヘラケズリ。胴肩部ナナメヘラケズリ。中~下位の外面が被熱し、内面にオコゲ痕。	やや緻密 赤粒・細粒 多。黒・透明細砂少。 やや軟質 5YR4/6 赤褐 やや粗い 黒・白・透明 細砂と白粒多。 赤細粒少。 やや硬質	口 5/6 周、底全周。 主に 3 他に 4・2・6 試掘トレンチ北壁面の
5 刀子 鉄製品		胴中位の外面に煤若干付着。 刃幅 $13\sim16$ × 厚 $2.5\sim3.0$ mm、 茎幅 $10$ × 厚 $2.2\sim2.8$ mm。 刃 側と棟側の関の深さは $3.0\sim3.2$ mm で均等。 茎部は刃側が棟側よりもわずかに狭い。 柄木の木質がわずかに残存し、それ以外の有機質は見られない。		周溝底上 16cm 関部残 7

# 第 17 表 磯岡北 4 号墳 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

		杯蓋	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	短頸鉢	小形土器	壺	甕	小形甕	小形甑	その他
	口縁部計測				0.83 周			0.83 周			0.25 周			
一	口縁部				10			10			4			
器	体部				有			有			有			
1107	底部							4			2			
/=	口縁部計測													
須恵	口縁部													
器	体部													
nn n	底部													
刀子	1 (5)													

**磯岡北5号墳** (第  $61 \sim 64$  図、写真図版  $23 \sim 25 \cdot 72 \cdot 73$ )

### [概要]

墳径 9.1m の円墳で、最大幅 1.8m・深さ 0.5m(本来の深さは推定 0.8m)の周溝を持つ。墳丘と埋葬施設は削平されて残っていない。周溝内からは須恵器甕 1 個体の他に、比較的多くの土師器が出土した。古墳で用いられた土器の個体数を推定できる好資料である。

#### [位置]

SG12 区の東部から SG17 区の西部にまたがり、 $69-30\cdot31$  グリッドから  $70-30\cdot31$  グリッドにかけて所在する。北西に 3 号墳、北側に 6 号墳が隣接する。周溝外周の間の距離は、 $3\cdot5$  号墳の間がわずか 0.6  $\sim 0.7 \text{m}$ 、 $5\cdot6$  号墳の間が 3.0 m しか離れていない。また、東方に約8 m 離れて8 号墳がある(第10 図)。 5 号墳の周溝内側(墳丘よりも下層)には、縄文時代の土坑が1 基ある(SG12 区 SK -39)。

[周溝] (第61・62 図、写真図版23・24)

調査前には地面の高まりはみられず、全く墳丘は残っていなかった(第 30 図)。1995 年度確認調査時の 試掘トレンチで所在を確認した古墳である。

墳丘は円形だが、周溝の幅は場所によりかなり異なるので、周溝の外形にはやや歪みがある。周溝の底面 立ち上がりから計測した墳丘の径は  $8.5\sim9.1\mathrm{m}$  である。

周溝幅は北半部でやや狭く  $0.7\sim1.0$ m、南半部でやや広く  $0.8\sim1.8$ m。周溝底面の標高は約  $83.0\sim83.3$ m。遺構確認面から計測した周溝の深さは  $0.3\sim0.5$ m。 5 号墳の墳丘は残っていないので旧表土上面の標高も不明だが、隣接する 3 号墳墳丘下の南東部と同じく築造前の標高が 83.8m と仮定した場合、その面から周溝底面までの深さは  $0.5\sim0.8$ m あったことになる。

周溝埋土は自然埋没である。上部の黒褐色土(1層)には Hr-FA テフラと思われる白色粒を多く含み、一部では白色粘質土塊状に認められた(第 61 図の 1b 層)。

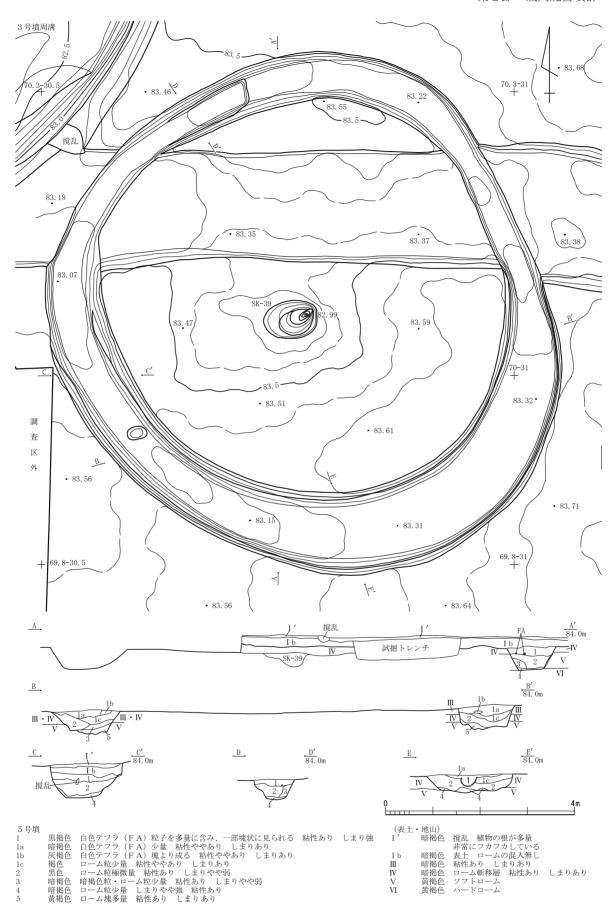
[遺物出土状況] (第 62 図、写真図版 24 · 25)

周溝内の土器(第62 図) 遺物は南半部に多い。南側周溝内では、底部穿孔のある須恵器甕(1)がほぼ正立した状況で、口~頸部が胴部内に落ち込んで出土した(写真図版 25 上部)。南東側ではやはり底部穿孔のある土師器甕(10)がやや傾いて出土した(図版 25 下部)。ただし、この2点の甕はともに周溝底面から13~15cm浮いている。杯は、北(5)・西(7)・東側(4・6)で出土した。杯(6)は土師器甕(10)付近のやや下方にある。東側では杯(4)と一緒に小形壺2点(8・9)がある(図版 24)。墳丘西側では、墳丘側から周溝内に転落したような状況で、6点の土師器高杯(11~16)がまとまって見られる。11は東側・西側周溝に接合する破片があるので、墳丘側から破損・転落したことがわかる。石製紡錘車は、南側周溝のやはり墳丘寄りの地点で出土した(17)。

遺構間接合 2・3・5号墳の間で同一個体の遺物が出土している。3号墳の須恵器甕(第52図1)と同一個体と思われる胴部破片が、2号墳の周溝底上40cmおよび周溝外で計3点と、5号墳の北東部周溝底上15cmおよび西側周溝から計2片出土した(第64図2a・2b)。3号墳の遺物破片が2・5号墳に混入したものであろう。

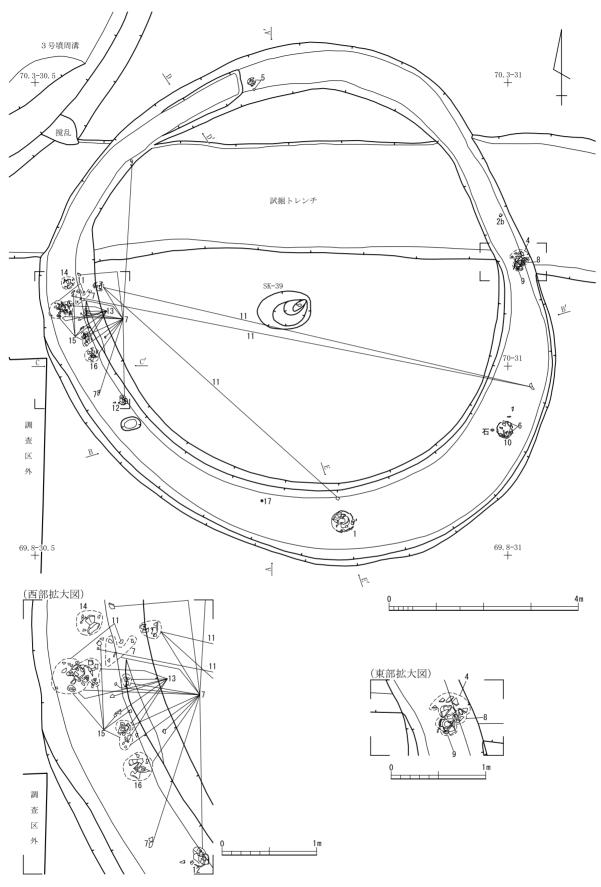
[出土遺物] (第63~64 図、写真図版72・73)

遺物量は比較的多い。図示した個体以外の破片が少ないので、ここで用いられた土器の個体数を数えることができる。須恵器甕1点と、土師器杯5点・小形壺2点・高杯6点・甕1点という組み合わせである。



第61 図 磯岡北5号墳(1) 遺構全体図

第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区



第62図 磯岡北5号墳(2) 遺物出土状況

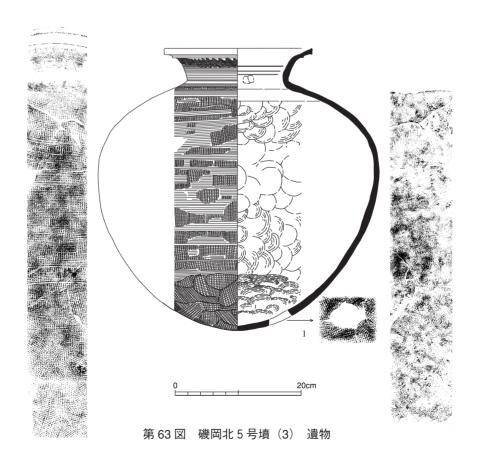
須恵器(第 63 図 1 ~第 64 図 3) 甕が 1 個体あり、完形に復原できた(1)。底部に内面側から人為的な穿孔を行なっている可能性が高い。他古墳でも、2 号墳(第 42 図 1)や 3 号墳(第 52 図 2)の全形が分かる須恵器甕に底部穿孔の可能性がある。土師器の底部穿孔については、下記の土師器甕(10)の説明で触れる。

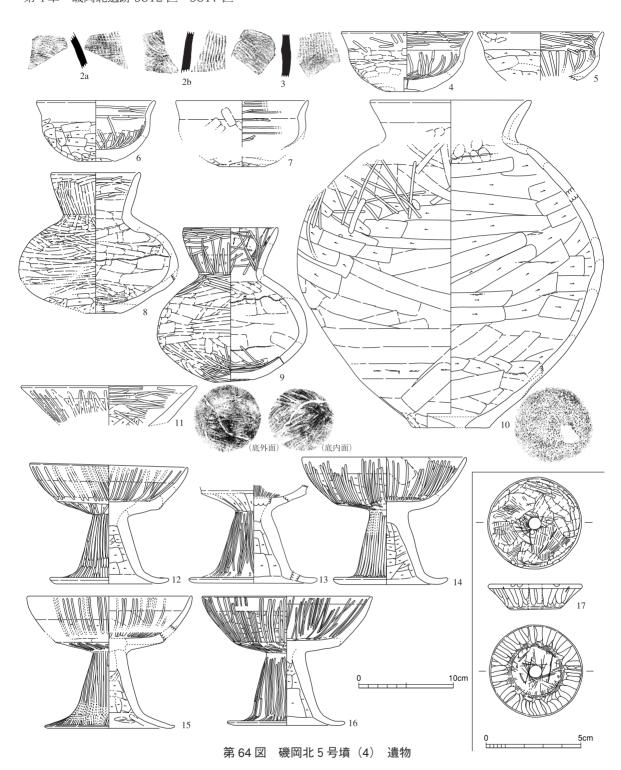
この他に、上記の〔遺物出土状況〕の項で述べたとおり、3号墳の須恵器甕と同一個体と思われる胴部が 2片ある( $2a \cdot 2b$ )。これは、3号墳の遺物が混入したものであろう。3の甕破片は、他の古墳を見ても同一個体といえる破片が見あたらない。

**土師器**(第 64 図  $4 \sim 16$ ) 杯は口縁部が外反するものばかりが 4 点あり( $4 \sim 7$ )、底部がわかるものは 凹底である。この 4 点の他に、口縁部形状は不明だが凹底の杯破片が 1 点あるので、 5 個体分の杯があると 思われる。小形壺は、ほとんど完形に復原できる 2 点が出土した( $8 \cdot 9$ )。補修痕跡のある土師器が見られ、 4 の内面底部の亀裂  $\cdot 5$  の外面口縁部  $\cdot 9$  の底部は、焼成前に生じた亀裂などをヘラミガキやナデで補修し ている。補修痕跡のある土師器については、 3 号墳の土師器杯の項で触れた(p.100)。

高杯は脚部で数えて 5点( $12\sim16$ )と、さらに別個体と思われる杯部(11)がある。 $12\sim16$  は、比較的雑なナデ・削りの後に丁寧に密に磨く点や、脚柱部内面のヘラケズリが共通する同工品。胴部が丸い土師器壺が 1 個体ある(10)。胴下半部の全周が残っていて、底部は焼成後に人為的に穿孔されている(写真図版 73)。胴が丸い土師器は 3 号墳の甕(31)や 7 号墳の壺(1)に例がある。前者では底部穿孔も認められ、後者は穿孔の有無が不明である。須恵器甕の底部穿孔については、5 号墳の甕(1)と関連して上で述べた。

**石製紡錘車**(第 64 図 17) 1 点あり、黒色で光沢のある良質の蛇紋岩製品である。孔の外周に接するキズからみて、ある程度使用したものである。





第 18 表 磯岡北 5 号墳 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

		杯蓋	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	鉢	小形土器	壺	甕	小形甕	小形甑	その他
١.	口縁部計測				2.04 周	2.00 周	3.33 周				0.17 周			
一	口縁部				22	8	51				2			
器	体部				有	有	脚柱 5				有			
titi	底部				凹底 5	凹底 3	脚裾 19				1			
/=	口縁部計測										0.17 周			
須恵	口縁部										1			
思器	体部										有			
tiù	底部													
石事	石製紡錘車 1 点 (17)													

# 第19表 磯岡北5号墳 出土遺物

製器   様大 4.4   位の格子かうの鳴きの後、器画に向かって左から右方向の放っ力   自森・砂・灰色砂少。	第 19 ₹	交 機剛化	3 万頃 口工退彻		
<ul> <li>業 5.0 均の発売ととに明確、関外面はお目在交の清を停っ叩きない。報告 自動社やや多。 付の修子からの即きの後、習慣にかってからた自力的の後のと 対したからた。発育する当日が明下をのかった場合である。 大きな関係の 内側に行からた。発育する当日が明下をの カキメを切る。 内側に行からた。発育する当日がで、中心に下出た 表生、他もう カキメを切る。 内側に行からた。発育する当日がで、中心に下出た 表生、他もう カキスを切る。 内側に行からた。発育する当日がで、中心に下出た 表生、他もう カキスを切る。 内側に対からた。発育する当日がで、中心に下出た 表生、他もう カキスを切る。 内側に対からた からな 大きは 大きな 大きな 大きな 大きな 大きな 大きな 大きな 大きな 大きな 大きな</li></ul>	種類	大きさ (cm)	特徵	胎土·焼成	残存状態
## 満皮	甕	高 45.0	角の突線とともに明瞭。胴外面は木目直交の溝を持つ叩き板で縦位の格子ふうの叩きの後、器面に向かって左から右方向の浅いカキメ。頸部も回転ヨコナデ後にカキメと櫛描波状文(15 歯)をやはり左から右へ施文。底部は多方向の格子風叩き目が胴下位のカキメを切る。内面は右から左へ進行する当具痕で、中位上半は無文。他もうっすらとした同心円文のみ。底部は上から下へ進行する当具痕を最後に施す。頸部は回転ヨコナデ(方向不明)。	緻密 白細粒やや多。 白礫・砂・灰色砂少。 硬質	口 1/6 周、頸·胴全周 51
選出	2 <b>甕</b> 須恵器		溝をもつ板で縦位の平行叩き。木目はごくわずかしかみえない。 2 a は平行叩き後にカキメを右から左へ向かって施す。内面は浅 い同心円文当具痕。破面は赤褐色(10R5/1)。	緻密 白細砂·白砂。 赤細粒少。 硬質	
数計状のヘラミガキ。拠点前に底中央に年じた亀製は外面まで対 適しているので液体用には控えない。 外面は口口縁部とヨコナ   ***********************************	<ul><li>甕</li><li>須恵器</li><li>4</li><li>杯</li></ul>		破片下部を回転ヨコナデ。内面は同心円文当具痕。破面は橙色。 同一個体と思われる破片は他遺構を含めて見あたらない。 口が外反し、頸部内面に明確な稜あり。外面口縁部は丁寧なヨコ ナデ後、疎らなヨコ及びナナメヘラミガキ。外面体部ヨコヘラナ	緻密 白細少。 硬質 5YR5/6 明赤褐 やや緻密 赤粒・細粒や	「西遺物集中区」 周溝底上23~31cmが接 合
		100	放射状のヘラミガキ。焼成前に底中央に生じた亀裂は外面まで貫通しているので液体用には使えない。	やや軟質	28~30
# 1	杯 土師器	高 残 5.2	デ後、体部ヨコヘラケズリ。□縁端が厚くなる。不整ナデ部分が 2カ所あるので、仕上げナデが不十分だったか、または、亀裂を 焼成前にナデ補修したと思われる(外面図参照)。内面は体部に 粗いヨコナデ後、放射状のヘラミガキ。□縁部にヨコナデ後、ヨ コヘラミガキ。内面のヘラミガキはどれもやや雑。	やや緻密 赤粒・細粒 多。黒・透明細砂少。 やや軟質	口 5/6 周 19
大学   内全面と外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、内面に疎らなヨコハラまガキ。外面の体部下端に横位、底面に一方向のやや粗いかったが関連を表しています。外面の体部下端に横位、底面に一方向のやや粗いかったが関連を表しています。   10   9.9   外面は体部下位にナデ後、体部下端にヨコ及びナナメヘラケズリ。   5YR6/6   位   日本と位は丁寧なヨコヘラナデ・、ややヘラミガキ風、頭部に縦   一般・赤細粒・   111/12周、底7/12周、底7/12周、底7/12周、成	杯	高 6.4	放射状へラミガキ。内外面の口縁部に丁寧なヨコナデ後、内面ヨ コヘラミガキ。外面は体部ヨコヘラミガキ·外面底部はヘラケズ	やや緻密 黒細砂・黒砂 と赤粒やや多。	口 5/12 周、底 1/2 周
小形壺   点   4.1	杯 土師器	高 残 6.0 底 4.5	ナデ、内全面と外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、内面に疎らなヨ コヘラミガキ。外面の体部下端に横位、底面に一方向のやや粗い ヘラケズリで凹底に仕上げる。	やや緻密 赤粒・細粒や や多。黒細砂・透明細砂 少。 やや軟質	口7/12周、底7/12周 47·50·1下·4·6·7·9~ 12·16·18·20~22·24~ 26·「70.1-30.5 1層」
小形壺   高   16.3   デと上半に丁寧なヨコヘラナデ。口縁部ヨコナデ後、口・頸・肩部   た横・縦・斜位のヘラミガキ。内面は体部ヨコヘラナデ、肩部ユビ   黒透明細砂と白細粒少。	小形壺	高 16.3 底 4.1	中〜上位は丁寧なヨコヘラナデで、ややヘラミガキ風。頭部に縦 位、口縁部に横位のヘラナデ。外底面は一方向のヘラケズリで凹 底。内面は下半部ヨコヘラナデの後に肩部積み上げながらヨコユ ビナデ。頭部ヨコヘラナデと口縁部ヨコナデ後、頭上半にやや雑 なヨコヘラミガキ。	緻密 赤粒やや多・黒細砂・赤細粒。 や・軟質	合 口11/12周、底1/2周、 頸·胴全周
選出語器       高 推34.7       デ後、中位上半部ヨコヘラケズリと疎らで不規則なヘラミガキ。 やや粗い 黒細砂多。	小形壺 土師器	高 16.3 底 4.1 最大 15.8	デと上半に丁寧なヨコヘラナデ。口縁部ヨコナデ後、口·頸·肩部に横・縦・斜位のヘラミガキ。内面は体部ヨコヘラナデ、肩部ユビナデ、頸部は横ヘラナデ後に部分的で雑なヘラミガキ。焼成前に底に大きな亀裂が入った部分の内外面を密なヘラミガキで補修。	やや緻密 赤粒・細粒、 黒透明細砂と白細粒少。 やや軟質	完形 43·45
高杯 上師器 高 残 4.2	<b>甕</b> 土師器	高 推34.7 底 8.0 最大 32.2	デ後、中位上半部ヨコヘラケズリと疎らで不規則なヘラミガキ。 胴下端と頸部ユビオサエ。内面はヘラナデ後、胴下位の積み上げ 休止部と胴上半にヨコヘラケズリ。頸部に雑なユビオサエ。口縁 部内外面に丁寧なヨコナデ。外底面は多方向ヘラケズリで、焼成 後に外面から叩いて穿孔あり。	やや粗い 黒細砂多。 白細粒。白・灰色・黒砂。 透明細砂・赤粒。 やや硬質	口 1/6 周、胴上半 1/2 周、 底全周 50
高杯 高 12.6 脚裾径 口から脚裾までを全面タテヘラミガキ。杯内面と脚外面はヘラミ 赤粒やや多。黒・透明細 16・52 中デ。 13 高 残10.4 脚裾径 脚裾径 脱部径 成部を放射状ヘラケズリ。脚外面は裾部まですべて密なタテヘラ 25 がキ。杯内面は密な放射状ヘラミガキ。脚柱部内面ココヘラケ 25 が表した。本質 7.5 YR 5/4 にぶい褐 高杯 上地器 約13.6 ミガキ。杯内面は密な放射状ヘラミガキ。脚柱部内面ココヘラケ 25 根質 1・1の下・10・11・13・14・	11 高杯 土師器		ナデ。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、内面ヨコヘラミガキ。 外面に擦痕状の軽いタテヘラミガキ。接合できない脚裾部が2片 あり、この高杯と同一個体になる可能性もあるが不確実。	やや緻密 白・赤細粒~ 粒と透明砂やや多。 赤粗粒・黒細砂。 硬質	接合 口 2/3 周 1·3·5·8·10·16·44·46
高杯  脚裾径    底部を放射状ヘラケズリ。脚外面は裾部まですべて密なタテヘラ やや緻密  白・灰色砂と  脚柱全周、脚裾 1/24 周 土師器   約13.6   まガキ。杯内面は密な放射状ヘラミガキ。脚柱部内面ヨコヘラケ   黒・透明細砂少。	12 高杯 土師器	高 12.6 脚裾径	射状ケズリと杯体部ナデ後、口縁部内外面を丁寧にヨコナデし、 口から脚裾までを全面タテヘラミガキ。杯内面と脚外面はヘラミ ガキが密。脚柱部内面ヨコヘラケズリ後、脚内面裾部に雑なヨコ	やや粗い 白粒・細粒と 赤粒やや多。黒・透明細 砂少。	口5/6周、脚全周
	13 高杯 土師器	脚裾径	底部を放射状ヘラケズリ。脚外面は裾部まですべて密なタテヘラ ミガキ。杯内面は密な放射状ヘラミガキ。脚柱部内面ヨコヘラケ	やや緻密 白·灰色砂と 黒·透明細砂少。	脚柱全周、脚裾 1/24 周 1·1の下·10·11·13·14·

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
14 高杯 土師器		脚部上端を粘土塊で充填閉塞しているかどうかは不明瞭。外面は 杯底部放射状へラナデと杯体部ヘラケズリ後に口縁部を軽くヨコ ナデし、口から脚裾までタテヘラミガキ。脚部はミガキが密。杯 内面はナナメハケ後ナナメナデでハケをほとんど消してから、縦 位 と杯底部放射状のヘラミガキ。脚柱部内面ヨコヘラケズリ後、 脚内面裾部にやや雑なヨコナデ。杯部外面の 1/4 周に大きな黒斑 あり。	やや粗い 白·赤細粒と 赤粒多。白·灰色砂と黒 ・透明細砂。	
15 高杯 土師器	口 復 17.6 高 推 14.0 脚裾径 13.7	脚上端を粘土塊で充填した後に杯底面を成形。外面は杯底面多方向ヘラナデと杯体部ヨコヘラケズリ後に口縁部ヨコナデし、口から脚裾までタテヘラミガキ。脚部はミガキが密。杯内面はナナメナデと口縁部ヨコナデ後に縦位 と杯底面放射状のヘラミガキ。脚柱部内面ヨコヘラケズリ後、脚内面裾部に成形時の凹凸をやや残す程度のヨコナデ。	やや粗い 白砂と赤粒・ 細粒やや多。黒・透明細 砂。	
16 高杯 土師器	口 17.7 高 13.7 脚裾径 12.5	脚上端を粘土塊で充填。外面は杯底部ヘラナデ(一部ケズリ)と 杯体部ヨコヘラケズリの後に口縁部をやや雑にヨコナデし、口から脚端まで全面ヘラミガキ。脚外面はヘラミガキが密。杯内面は 底面に多方向ヘラナデと杯体部にナデの後に口縁部を狭く軽くヨ コナデしてからやや密なタテヘラミガキ。脚柱部内面ヨコヘラケ ズリ後、脚内面裾部にやや雑なヨコナデ。	やや緻密 赤細粒~粒 と赤粒やや多。白·灰色 砂と黒・透明細砂。	
17 紡錘車 石製品	厚さ 1.43 重さ 46.1g	上下面は水平で側面との境の稜線は明瞭だが使用により摩滅気味。上面は円周方向に削った後に多方向に研磨するが、やや不十分で、削り痕がよくわかる。側面は中心から放射状に削り、研磨はしない。下面は平滑で光沢を持ち成形痕は不明で、孔の外周に接する細かいキズが多い。孔径は上面で6.70~6.95mm、下面で6.88~6.95mm。おそらく下面から穿孔。	石質緻密·良質で均質な 蛇紋岩。	周溝底上 10cm(周溝法 面上 5cm) 完形 49

# **磯岡北6号墳**(第65図、写真図版26・75)

## 〔概要〕

墳径 6.0m の円墳で、幅 0.6m・推定深さ  $0.3 \sim 0.5$ m の周溝を持つ。磯岡北古墳群では規模が最も小さい。墳丘と埋葬施設は削平されて残っていない。周溝からごく少量の土師器片が出土した。

## 〔位置〕

SG12 区の東部から SG17 区の西部にまたがり、 $70-30\cdot31$  グリッドに所在する。西に 3 号墳、北に 4 号墳、南に 5 号墳が隣接する。周溝外周の間の距離は、 $3\cdot6$  号墳の間がわずか 1.3m、 $4\cdot6$  号墳の間が 2.4m、 $5\cdot6$  号墳の間が 3.0m しか離れていない(第 10 図)。また、東方に約 8 m 離れて 8 号墳がある。北側には時期不明の土坑が 1 基ある(SG12 区 SK-40)。

## [周溝] (第65 図、写真図版26)

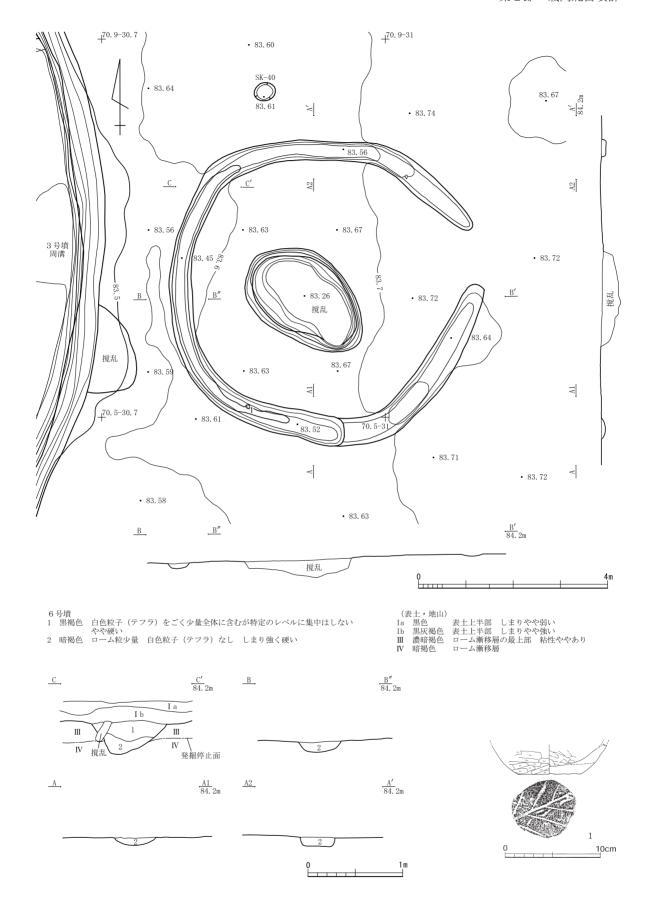
調査前には地面の高まりはみられず、全く墳丘は残っていなかった。

円墳で、周溝は浅く、東側の周溝は途切れる。周溝の底面立ち上がりから計測した墳丘の径は  $5.7 \sim 6.0$ m である。周溝幅は  $0.4 \sim 0.6$ m で、周溝底面の標高は約  $83.5 \sim 83.7$ m。遺構確認面から計測した周溝の深 さはわずか  $10 \sim 15$ cm しかない。 6 号墳の墳丘は残っていないので旧表土上面の標高も不明だが、隣接する 3 号墳墳丘下の東部と同じく築造前の標高が 84.0m と仮定した場合、その面から周溝底面までの深さは約  $0.3 \sim 0.5$ m あったことになる。周溝埋土の上層 (1 層)には Hr-FA テフラの可能性がある白色粒子を含む。

### 〔遺物出土状況〕 (第65図、写真図版75)

周溝出土遺物 遺物はわずかに土器破片3点しかない。木葉底の甕底部破片は、南西部の周溝底から 11cm 浮いて出土した(1)。

遺構間接合 3号墳の須恵器甕(第52図3)に接合する胴部破片が1点あり、6号墳の東側周溝内で底



第65図 磯岡北6号墳 遺構・遺物

## 第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区

面から上へ約20cm程度浮いて出土した。3号墳の遺物の破片が6号墳に混入したものであろう。この甕と同個体の可能性がある破片は、9号墳の南西部周溝の外周付近で2片出土した(第76図4)。

## 〔出土遺物〕

図示できるのは、木葉底の甕底部破片だけである(1)。

# 第20表 磯岡北6号墳 出土遺物

番号 種類 材質	大きさ (cm)		特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1	高底		外底面にカシワの葉の裏面と思われる圧痕があり、それを切って 胴部下端ヨコヘラケズリ。内面は多方向ナデ。	7.5YR7/4 にぶい橙 粗い 赤粗粒~粒やや 多。白砂・白細粒と黒・ 透明細砂少。 やや硬質	/ L. ( L. ( ) . ( )

## 第21表 磯岡北6号墳 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

		杯蓋	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	鉢	小形土器	壺	甕	小形甕	小形甑	その他
Ι,	口縁部計測													
師	口縁部													
器	体部													
titi	底部		1								1			
<b></b>	口縁部計測													
須恵	口縁部													
思器	体部													
titi	底部													

**磯岡北7号墳**(第66·67 図、写真図版27)

## 〔概要〕

墳径約7mの円墳と推定される。幅1.8mの周溝を持ち、墳丘は残っていない。埋葬施設は不明である。周溝から土師器甕が1点出土した。

## 〔調査経緯と位置〕

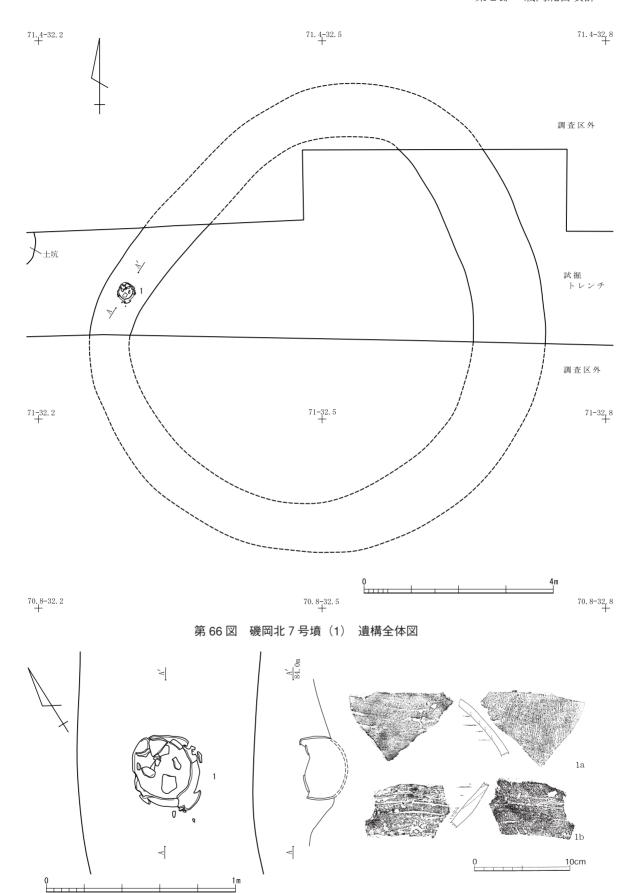
1995 (平成7) 年度の確認調査時にトレンチ内で発見した古墳である (第 10 図)。1995 年 10 月下旬に、「TX71」と名付けた試掘トレンチを重機で掘削して遺構の有無や密度を確認していた作業時に、古墳の周溝を検出した。この時は確認調査なので、他の遺構は平面形を確認するだけに留めていたが、この古墳では周溝埋土中に確認された土師器 1 点の出土状況図を作成して一部の破片を取り上げた。その後の本調査は行っていない。磯岡北遺跡 SG17 区で  $4 \sim 9$  号墳の調査を行った際に、この古墳について「磯岡北 7 号墳」という名称を与えた。位置は 71-32 グリッドにあり、SG17 区の北東側で、8 号墳のすぐ北東である。

# [周溝] (第66図、写真図版27)

調査前には地面の高まりはみられず、全く墳丘は残っていなかった。周溝埋土を掘り下げる調査は実施していないが、墳丘径は推定約7mである。トレンチ内で確認した周溝はやや不整形で、方墳状にも見えるが、磯岡北古墳群の他の古墳と同じく円墳と考えておく。墳丘は残っていない。

確認調査の平面図では周溝幅約1mに表現されているが、西側に所在する4号墳・5号墳と同様に試掘トレンチで周溝の上部を少し破壊した面で遺構を確認・記録していると思われるので、実際はもう少し溝幅が広かったと推定される。トレンチ北壁面に見えた東側周溝の断面写真を見ると、残存していた周溝幅は約2m前後まで広がるのであろう。周溝の土層断面図は作成されていない。

周溝埋土の上~中位にはHr-FAテフラと思われる白色粘質土塊を含んでいた。確認調査時の日誌によると、



第67図 磯岡北7号墳(2) 遺物および出土状況

トレンチ内で確認した7号墳の東西両側の周溝埋土内において、標高83.807m前後のレベルで白色粘質テフラ塊群が確認されている。

### 〔遺物出土状況〕(第67図左)

試掘トレンチ内の西側周溝の中央部で土師器大形壺(または甕)が1点出土した。周溝埋土をほとんど掘り下げていないので、この土器の下半部の形状や周溝底面のレベルは不明である。この断面図に破線で描いてある土器下半部の底面は標高83.4m前後であるが、この下半部形状は推定であり、この部分は周溝内の未調査部分に現在もそのまま埋まっていると思われる。

### [出土遺物] (第67図右)

遺物は、土師器大形壺 1 点だけである。同一個体と思われる胴部破片が 10 点あるが、破片数が足りないので接合できない。これに続く土器下部が周溝内の未調査部分に埋まっていると思われる。胴部が比較的丸く、その上半にハケ目調整、胴部中~下位付近にヘラケズリ調整をおこなう(1)。肩部の傾きが強く、内面に細い粘土紐を接合しながら狭くしているので、甕よりも頸がしまる壺になるかと思われる。胴部が丸い土師器の類例は、3号墳の第53図31の甕や5号墳の第64図10の壺があり、これらにおいては焼成後の底部穿孔が認められる。7号墳のこの壺は土器の下部まで掘り下げて調査しなかったので、底部穿孔の有無は不明である。

### 第22表 磯岡北7号墳 出土遺物

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1 大形壺 土師器		胴部復原径 35 ~ 40cm の大型品。土器の主要部分は周溝内に残置してあるので復元できない。(1a) 胴上半は内面に積み上げ痕を少し残し、比較的丁寧なヨコナデ。外面はタテハケ後破片下部にヨコヘラケズリ。(1 b) 胴下半の粘土の積み上げ休止面付近が厚くなった部分で、外面ナナメナデ後に内外面ともヨコヘラケズリ。	やや緻密 黒·白·透明 細粒と白·灰礫やや多。 赤粒。	

## 第23表 磯岡北7号墳 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

		杯蓋	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	鉢	小形土器	大形壺	甕	小形甕	小形甑	その他
	口縁部計測													
師	口縁部													
器	体部									有				
1111	底部													
/=	口縁部計測													
須恵	口縁部													
器	体部													
100	底部													

**磯岡北8号墳**(第68~72 図、写真図版28~32・74・75・87)

### 〔概要〕

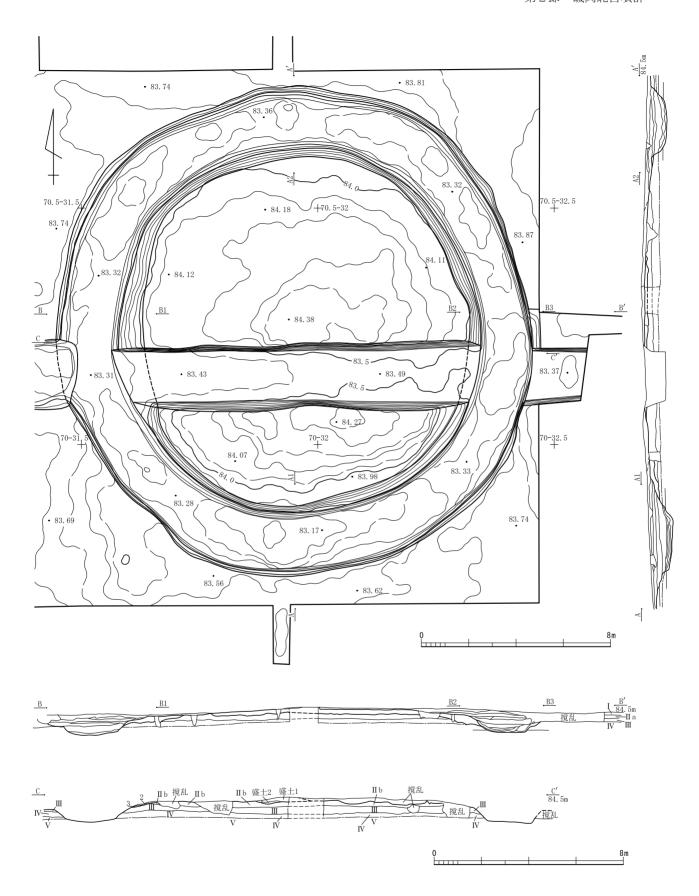
墳径約16m・残存高1.3mの円墳で、最大幅3.3mの周溝を持ち、墳丘の下部が残る。埋葬施設は残存していない。多数の須恵器・土師器と、不明鉄製品(責金具?)2点が周溝内から出土した。

## 〔位置〕

SG17 区の東部にあり、 $69-31\cdot 32$  および  $70-31\cdot 32$  グリッドに所在する。西側に  $8\sim 11$ m 離れて  $4\cdot 5\cdot 6$  号墳が隣接する。

〔墳丘〕 (第68・69 図、写真図版31・32)

墳丘の大半が削平され、調査前には高さ  $40\sim60$ cm 程度の地膨れ状にかろうじて残っていた(第 30 図)。



第68図 磯岡北8号墳(1) 遺構全体図

周溝の底面立ち上がりから計測した墳丘の径は 15.8 ~ 16.2m で、平均して径 16m 前後。残存している 墳頂から周溝底面までの高さは 1.0~1.3m。残存している盛土の厚さは最大でも 24cm ほどしかない。周 溝底面の標高は83.1~83.3mで、南部がやや低い。残存している墳頂の最も高い部分は標高84.38m。

墳丘の外周部には特徴的な盛土(盛土3層)が見られる。地山のIIb層からIII層にかけての部分を除去して、 古墳の外形に沿って整形したテラス状の部分を埋め戻している (第69 図 A1 - A2 および B1 - B2)。現地 調査時の記載によると、この盛土3層は明らかな人為盛土的な特徴を示すわけではないが、IIb 層から III 層 にかけて地山を整形した部分を覆うように存在することから、盛土と考えるのが整合的だと判断された。こ れと同様に、一度作りだしたテラスを埋め戻すような盛土層は、2・9号墳でも確認されている。

[**周溝**] (第 68 ~ 70 図、写真図版 28 · 29)

8・9号墳は、周溝上部がわずかに外開き気味である。これと同様の傾斜面がもっと明瞭に見られる2・ 3号墳では、周溝外周に広がる緩い傾斜面を持つ。この傾斜面も含めて、周溝幅は 2.5 ~ 3.3m である。遺 構確認面から計測した周溝の深さは約0.3~0.6mで、西南西の部分がやや浅い。また、墳丘盛土下にある 旧表土(地山 IIb 層)の上面は高いところで標高 84.3m で、この面から周溝底までの深さは約 1m (深い所 で 1.2m) である。

周溝の埋土は、9号墳と同様に黒色と灰色が交互に堆積する状況である。両古墳の周溝は同様の埋まり方 をしているので、下記のように対応させることができる。

(8号墳)2層 3層 4層 5層 7層 8層 10層 6層 (9号墳)1層 5層 9層

周溝埋土中には Hr - FA テフラと思われる白色粒や白色粘質土が 5~8層に多く見られ、7層に最も集中 している。第70図に集中範囲を示したように、東~南側の周溝内にこの火山灰が多く見られた。

7層

8層

6層

〔遺物出土状況〕 (第70図、写真図版29・30)

4層

2層

周溝内から多数の土師器・須恵器片が出土した。遺物は全体に分布するが、周溝が少し浅くなる西南西の 部分に特に集中する傾向がある。須恵器の大甕(1)は、周溝内を中心として、周溝よりも内周側および外 周側からも多数の破片が出土した(遺物出土状況図の×印)。

[出土遺物] (第 71・72 図、写真図版 74・75・87)

1・3・9号墳の醸とは異なる。8号墳の甕は同心円文を彫った当具を使う点が特徴で、9号墳にも同様に 内面当具痕の明瞭な甕胴部片がある(第76図3)。これに対して、2・3・5号墳の甕は内面に木製当具の 年輪の同心円が非常に浅く見える程度である。壺の可能性がある無文の須恵器胴部が1片あり(3)、これは 2号墳の須恵器(第43図6)に胎土・焼成も含めて類似している。

**土師器** $(4 \sim 16)$  杯が多く、高杯の破片は全く見られない。杯は8点を掲載し、他にも別個体の破片が 一定量ある。口縁部が外反する杯が主体で(4~9)、そのうち9は外反が弱い。半球形状の杯は少ない(10 ~12)。6 は胎土が灰白色で、他の土器と比べて明らかに異なる。 外面の仕上げ(ケズリやミガキ)を省略した、 ナデやハケのままの粗雑な杯が見られる(5・7・10)。11の内面には稲籾の圧痕が1箇所見られる。12は 外面に粘土を貼り付けてナデた部分があり、焼成前に亀裂などを補修したものかもしれない。補修痕跡のあ る土師器については3号墳の土師器杯の項で触れた(p.100)。

小形壺は2個体分出土した(13・14)。13はやや頸部が小形化している点で、小形壺としては新しい特 徴を持つ。鉢(15)と短頸壺(16)はそれぞれ一個体分だけが認められた。

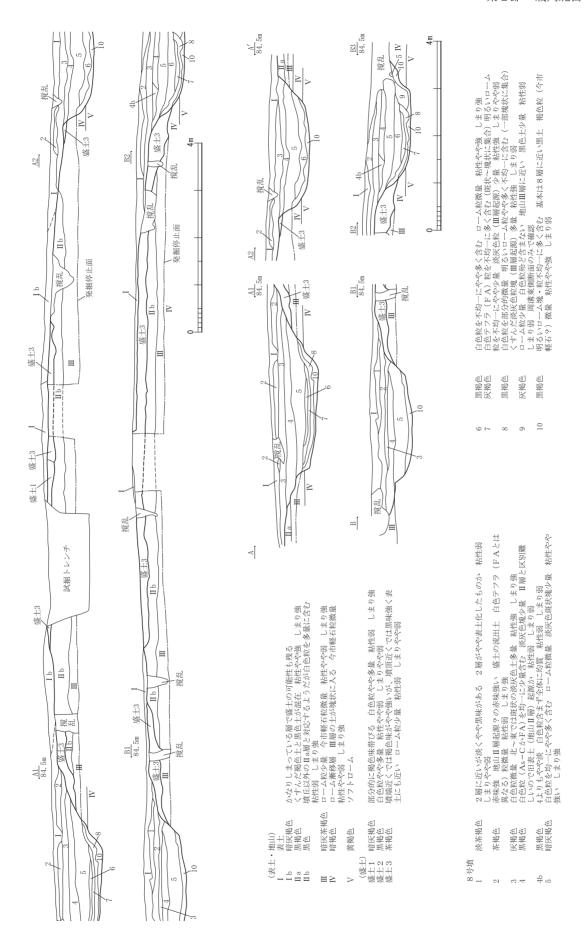
墳丘・周溝断面図

(N

磯岡北8号墳

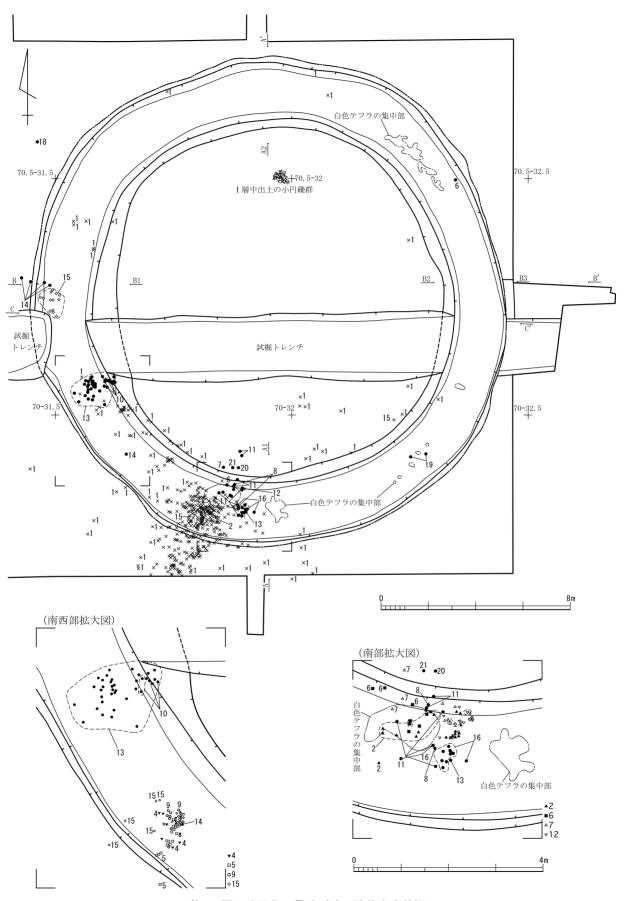
X

第69日

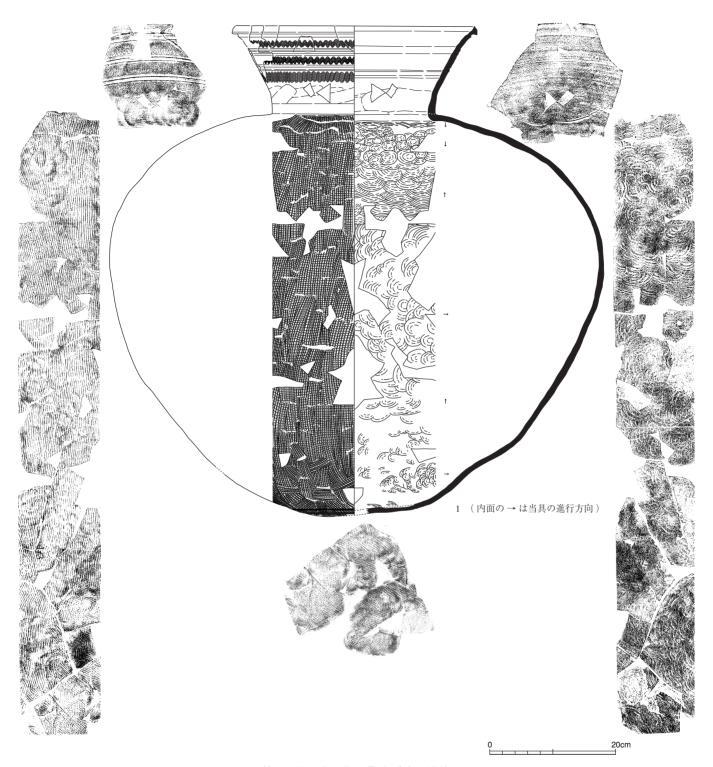


-131 -

第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区



第70図 磯岡北8号墳(3) 遺物出土状況



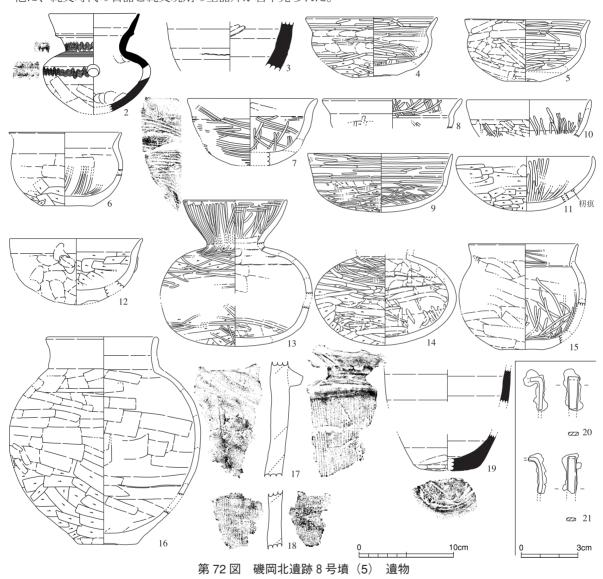
第71 図 磯岡北8号墳(4) 遺物

埴輪(17・18)  $1\sim3\cdot9$  号墳と同様にごく少量が出土した。 2 個体程度の円筒埴輪のそれぞれごく一部と思われる破片が出土し、合計 7 片がある。他の古墳との間で、同一個体の埴輪片は確認できなかった。 17 は、9 号墳南西にある 1 号埴輪棺を構成する方形透・2 条突帯埴輪の破片(第 84 図 4)と同一個体の可能性があるが、破面が接合する箇所は認められない。完形の埴輪を割って棺の被覆に用いた残りのうち 1 片が 8 号墳に流入したものであろうか。 18 も北西部の周溝外で出土したものである。埴輪を古墳に少量用い

たのか、または1号埴輪棺と同様な埴輪転用棺に由来する破片が混入したものだろう。

**鉄製品**(20・21、写真図版 87) 端部をL字形に曲げた細帯状鉄製品の破片が周溝埋土から2点出土した。 馬具の辻金具・雲珠などに用いられる責金具の可能性もあるが、確実ではない。

その他(19) 古墳と時期が異なる遺物として、奈良時代の栃木県益子窯跡群産かと思われる須恵器(鉢?)の破片がある(19)。奈良~平安時代の須恵器は2・3・8・9号墳に少量ずつ見られる。中世頃と思われる遺物としては、常滑産の陶器甕の胴部2片と、回転糸切離しの土師質椀が1片ある(第104図3・7)。他に、縄文時代の石器と縄文晩期の土器片が若干見られた。



第24表 磯岡北8号墳 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

		杯 蓋	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	鉢	壺	短頸壺	大甕	殔	小形甑	その他
	口縁部計測	0.33 周		1.83 周	5.58 周	0.50 周		0.25 周		0.83 周				
一	口縁部	11		30	83	7		4		8				
器	体部			有	有	有		有		有				
100	底部				平3.凹3			4		1				
	口縁部計測										0.42 周	0.25 周		
須恵	口縁部										12	3		
器	体部								有		有	有		
	底部													
円筒埴輪胴部7片。鉄製責金具? 2。奈良時代の須恵器1点(19)と常滑産中世陶器甕2片と中世(?)の土師質椀1片混入。														

# 第25表 磯岡北8号墳 出土遺物

番号			色調	出土状態
	大きさ(cm)	特徴	胎土・焼成 (または素材)	残存状態 注記
1 大甕 須恵器	口 復 38.0 高 復 78.2 最大 復 79.0	木目直交の溝を彫った叩き板で胴部外面に縦位の格子ふう叩き目。内面の同心円文当具痕は、それぞれ矢印の方向へ進行する。木口に同心円を彫った当具の可能性あり。外面底部は多方向の格子ふう叩き目後に、歯3本の狭い工具で3周の同心円状カキメを回転施文(最大の円で直径20cm)。頸部は2本1組の央線で3段に区分した中に、右から左へ横描波状文を描く(上段12歯、中段14歯、下段16歯)。頸外面のロクロナデは左から右へ進行する可能性が高いので波状文施文時と成形時で回転を変えると思われる。別造頸部を胴に接合して頸下半内外面に斜〜横位ナデ後、頸〜体部境の外面に回転ココナデ。	外面に黒色の自然軸が 多く、一部は黄色味を おびる。破面は暗赤色。 緻密 白砂・細砂多。 白礫砂・黒色湧出粒。 硬質	周溝底上1~101cmと法面直上~上86cmと墳丘面上2~59cmと周溝外表土出土が接合口5/12周1~4・9・15・17~19・26~28・43~50・52~59・61・62・64・65・67~76・(中略)781~783・785・786
2 颹 須恵器	孔径 1.35	口縁端部は丸みをもち薄い。外面の口下端に弱い突線。底部の内面を突いて外へ出し、外面底部におそらくヘラケズリ後に多方向ヘラナデ。頸部は12歯の工具で波状文を描くが、下7歯ほどしか器面に当たっていない部分が多い。体部は9歯の工具で波状文を描いた後で穿孔。頸・体部とも器面に向かって右から左へ施文。底部のカキメは施文方向不詳。外面肩部と内面に黄緑色のやや厚い自然釉。	やや緻密 白細粒やや 多。灰色粒と黒色湧出 粒少。 硬質	306 · 625 · 627 · 628 · 633 · 642 · 643 · 681 · 682 · 683 · 684 · 685 · 724 · 725 · 731 · 732 · 733
3 壺 須恵器	高 残 5.3 最大 13.4	厚く重みがある。内外面ともに回転が緩い。ロクロナデ時のロクロは時計回り。器面の凹凸を消し切れていない。	N 5/ (B) 灰 緻密 灰色粒少。 硬質	南東区周溝埋土上部 (正確な位置不詳) 胴1/6周 140B
4 杯 土師器	復 14.3	口が外反し、口端部外側に斜面を持つ。 頸内面の稜はやや甘くなっている。 体部は外面上半ナデ後、下半ナナメヘラケズリと内面へラナデの後に、内底面に1方向と内外面口〜体部に横位のヘラミガキ。外底面は1方向のヘラケズリで明瞭な平底。	やや緻密 赤粗粒・粒と 黒細砂・白細粒やや多。 赤細粒・透明細砂。 やや軟質	周溝底上3~49cmが接合 口全周、底全周 146・280・665・667・668・ 671・676・680・691・693・ 695・702
5 杯 土師器	口 復 12.6 高 6.4 底 3.8	口が外反し、頸部内面にやや明瞭な稜あり。外面は体部に多方向のやや雑なナデ後、口縁部にやや雑なヨコナデ。外底面は約2方向のヘラケズリで凹み底。		周溝底上4~20cmが接合 周溝外1片も接合 口1/2周、底2/32周 20・275・664・665・666・ 667・668・674・675・676・ 678・694・南西
6 杯 土師器	口 復12.0 高 7.8 底 5.6	口が外反し、頸内外面の稜はごく弱い。外面は体部と底面に雑なナデの後、下半部ヨコナデ及びナナメヘラケズリ。内面はヨコヘラナデ後、やや疎らなタテヘラミガキ。口縁部内外面にヨコナデ。	やや緻密 黒・透明細	周溝底上10~65cm(法面上3~15cm)が接合 口3/4周 644・646・703・704・705・ 707・737・190
7 杯 土師器	口 復13.6 高 残 7.1	ラミガキ。	やや緻密 赤粒・細粒多。 黒・透明細砂・赤粗粒・白 細砂少。 やや軟質	周溝底上21~33cm(法 面上4~13cm)が接合 口1/12周 645・653・708・709・712・ 714・744・770
8 杯 土師器	口 14.8 高 残 3.1	口が外反し、外面は頸部で比較的明瞭に外へ折れている。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、外面体部ヨコヘラケズリ。内面は口縁部に斜位の交差するヘラミガキ。体部はおそらく斜放射状ヘラミガキ。外面体部もタテヘラミガキの可能性あり。	やや緻密 赤細粒やや	周溝底上23cmと法面上 7cmが接合 口1/6周 598・650
9 杯 土師器	高 6.2	口が外反し、口~体部境の稜は外面で不明瞭、内面でやや明瞭。 薄く丁寧な製品。 外面底部に1~2方向と体部に横位のヘラケズリ、内外面口縁部 に多方向ヘラミガキ。	緻密 赤粒〜細粒やや 多。赤粗粒・白細砂。黒・ 透明細砂少。 やや硬質	口11/12周 664·667·668·669·670· 671·673·680·686·690· 694·696·697
10 杯 土師器	口 復13.2 高 残 4.9	半球状で薄く軽い。外面は口縁部ヨコナデ後に体部を雑にナデてから、再び口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。体部のタテヘラミガキは外面で疎、内面で密。	やや緻密 赤粒やや多。 白・透明砂。黒細砂少。 やや硬質	周溝法面上8~35cmが接合 合 口1/6周 437・441・468・480
11 杯 土師器	復 14.7	半球状で口縁部は内外面に稜を持たないで内彎する。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、外面ヘラケズリ(底面方向と体部横位)。内面は放射状ヘラミガキ。内面にはほとんどめり込んだ状態の稲籾圧痕が1箇所あり。	やや緻密 赤粒・粗粒 多。白細粒。黒・透明 細砂。灰色砂少。 やや硬質	口1/4周 615·640·651·711·769· 774
12 杯 土師器	口 復14.0 高 7.0	半球状で口は場所によりわずかに外反するが、ほぼ直立に近い。 底部が厚く重い。内外面口縁部に丁寧なヨコナデの後、内面ヘラケズリ(体部横位、底部1方向)。外面は多方向ナデと粘土貼付けで補修している可能性あり(外面・断面図参照)。	やや緻密 赤粗・細粒	周溝底上11~32cmと法 面直上~上9cmが接合 口1/2周 647·714·716·719·720・ 722·741·742·745·746

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
	口 復11.0 高 残14.2 最大 復16.0	体部中位が接合できないが、推定高 15 ~ 16cm。体部外面は円周 方向ヘラケズリと肩部タテヘラケズリ後、中位ヨコヘラナデと体 部ヨコヘラミガキ。底付近はほとんど磨かない。体部外面は中~ 下位にヘラナデ(主に横位)。肩部にユビオサエ。頸部は内面ヨ コヘラナデ後、口縁部内外面に丁寧なヨコナデとタテヘラミガキ。 内面上位にヨコヘラミガキ。	やや緻密 黒・透明細砂 と赤粒・細粒やや多。 白・透明砂と白細粒少。	周溝底上8~57cm (法面 上14~23cm) が接合 口5/12周、肩11/12周 142·144·261·266·279· 281·325·338·339·352· 353·391·417·418·419· 426·431·432·434·438· 469·470·531
	高 残 9.6 最大 14.9	外面は底部多方向・体部横位ヘラケズリの後、下半部に疎らなヨコヘラナデと上半部にやや密なヨコヘラミガキ。内面は下半部に 丁寧な多方向ヘラナデと斜位のヘラ圧痕。上半部に積み上げ痕を 残すやや雑なユビオサエ。頸部は接合面で剥落。	やや緻密 赤・白細粒と白・透明細砂やや多。 赤粒・灰色砂。 やや硬質	周溝底上12~46cmと法 面上3~15cmと周溝外3 層の破片が接合 胴3/4周 247・249・254~256・258~ 260・270~272・278・753~ 756
15 鉢 土師器	高 11.2	外面は口縁部に丁寧なヨコナデ後、頸〜胴部にややツヤのあるナナメ〜ヨコヘラナデを施し、底面多方向ヘラケズリで平坦に仕上げる。内面は体部ヘラナデ後に口縁部を積み上げて丁寧なヨコナデ。内面へラミガキは体部下半(縦〜斜位)と口縁部(横位)がや密で、体部上半は疎ら。外面に径 12cm の大黒斑あり、被熱使用は認められない。	やや緻密 黒・透明細砂 と赤・白細粒やや多。 赤粒と白礫・砂。	周溝底上4~42cmと法面 上2cmと周溝外の1片が 接合 ロ1/4周、底全周 21·22·260·406·666·669· 672·677·679·687·688· 689·692·698·699·700· 767
16 短頸壺 土師器	高 22.1	外面は胴部下半ヨコヘラケズリ後に胴上半 ヨコヘラナデ、胴下端に雑なヨコヘラナデ。外底面は多方向ヘラケズリでややあげ底気味。内面は胴部にうっすらと浅い木目があらわれる程度のヨコヘラナデ。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。使用による被熱痕はなく、外面下位に 10cm 大の黒斑あり。	やや粗い 白・透明砂と 黒・透明細砂と白細粒や	周溝底上11~28cmが接合 口5/6周、底全周 510・513・530・539・543・ 551・562~564・578・600・ 601・615・南西
17 円筒 埴輪		外面はタテハケ( $12\sim15$ 本/ $2\mathrm{cm}$ )を上へ向けて施した後に突帯貼付とヨコナデ。突帯は裾幅 $20\mathrm{mm}$ 、端幅 $10\mathrm{mm}$ 、高さ $11\sim14\mathrm{mm}$ 。内面はタテナデとナナメナデ。 $1$ 号埴輪棺の $4$ と同一個体の可能性あり。	やや粗い 白・透明砂と	北東区出土と東側採集 の破片が接合 胴1/12周 北東 東表採
18 円筒 埴輪		外面は下から上へタテハケ(11 本 /2cm)の後、破片下端部に突帯上側と思われるヨコナデ。内面はヨコナデ。	5YR5/8 明赤褐 粗い 白細粒と白・灰色 ・透明砂多。黒細砂やや 多。赤細粒少。 やや軟質	
19 不明 須恵器	底 復 5.6 最大 復 13.3	aとりは同一個体でコップ形の鉢になる可能性あり。体部ヨコナデ時のロクロは右回転で、一部で逆に回転している可能性もある。 底部ヘラ切り離し後、体部下端から底面にかけて、やや不定方向 の軽いナデ。破面は赤褐色(2.5YR5/2)。aの破片上部に浅黄色 (5Y7/3) の自然釉が少量。奈良時代の益子窯製品が混入したも のと思われる。	やや緻密 白礫・砂・細砂やや多。 硬質	底1/3周 225(小破片)・239 (19a)・南トレ(19b)
20 責金具 (?) 鉄製品	厚 1.7~1.9	幅狭い帯状鉄板の一端を直角に短く曲げたもので、この先が欠失しているかどうかは銹が厚いので確実ではない。他端は欠損しているので、この先で曲げていたかどうかは不明。表裏面ともに有機質は見られない。		南側の周溝埋土上層 (周溝3層) 両端部欠 216
21 責金具 (?) 鉄製品	幅 3.8 ~ 5.0	幅狭い帯状鉄板の一端を直角に短く曲げ、その先は欠失。他端は 欠損しているので、この先で曲げていたかどうかは不明。表裏面 ともに有機質は見られない。		南側の周溝埋土上層 (周溝3層) 両端部欠 738

**磯岡北9号墳**(第73~78 図、写真図版33~37・75・76・87)

#### [概要]

墳径 15.6m・残存高 1.4m の円墳で、最大幅 4.0m の周溝を持ち、墳丘の下部が残る。埋葬施設は残存していないが、副葬品であった可能性がある鉄製品が出土した(鏃 1・鎌 1・刀子 2・不明品 1)。周溝内から出土した遺物は、土師器片多数と須恵器片少数がある。

#### [位置] (第8・12図)

SG17 区南部にあり、北部に所在する各古墳との間には浅い埋積谷をはさむので、北部と南部の間には少し古墳の空白域がある(第8図)。9号墳の周溝外縁から南西へ約11mのところには1号埴輪棺がある。9号墳の周囲は宇都宮市教育委員会が調査した「磯岡北遺跡B区」であり、その南側は同じく宇都宮市調査区の「磯岡北遺跡A区」にあたる(第8図)。このA区とB区では、竪穴建物跡8棟・掘立柱建物跡1棟と円墳1基が調査されている。宇都宮市調査B区1号墳は、9号墳から南西へ約20mのところにある。

#### [**墳丘**] (第 73 図、写真図版 36 · 37)

調査前には、高さ  $40\sim50$ cm 程度の墳丘が地膨れ状に残っていた。周溝の底面立ち上がりから計測した墳丘の径は  $15.2\sim15.6$ m で、平均して径 15.4m 前後。残存している墳頂から周溝底面までの高さは  $1.2\sim1.4$ m、残存している盛土の厚さは最大で約 30cm である。周溝底面の標高は  $83.0\sim83.2$ m で、南部がやや低い。残存している墳頂の最も高い部分は標高 84.38m。

墳丘の外周部には特徴的な盛土層が見られる(盛土3層)。周溝内側斜面の地山(IIb層とIII層)を除去して、狭いテラス状の段を途中に作る。この段をそのまま残せば狭い2段築成状であるが、9号墳ではこの段を埋めるように盛土3層を入れ、最終的に段築を持たない通常の円墳として仕上げている。周溝の内側面から続く急斜面の上半部も、この盛土3層で構築している。盛土3層の土質は、掘削したロームを含む盛土1層・2層に比べるとロームが少なくて均質・緻密であり、地山のIII層に由来する土層と思われた。9号墳と同様に、一度作りだしたテラスを埋め戻すような盛土層は、2号墳と8号墳でも確認されている。

盛土1層と盛土2層は、現地調査時の観察所見で盛土と判断した。明らかに人為的と言えるような特徴――例えばブロック状の土塊が混じるなど――は見られないので、旧表土(IIb層)に含まれる可能性も残るが、墳丘外の地山 II 層では対応する土が見られなかった。墳丘の中央部に分布する層であり、2号墳で指摘されたように、埋葬施設の構築に関連する土層の痕跡とも考えられる。

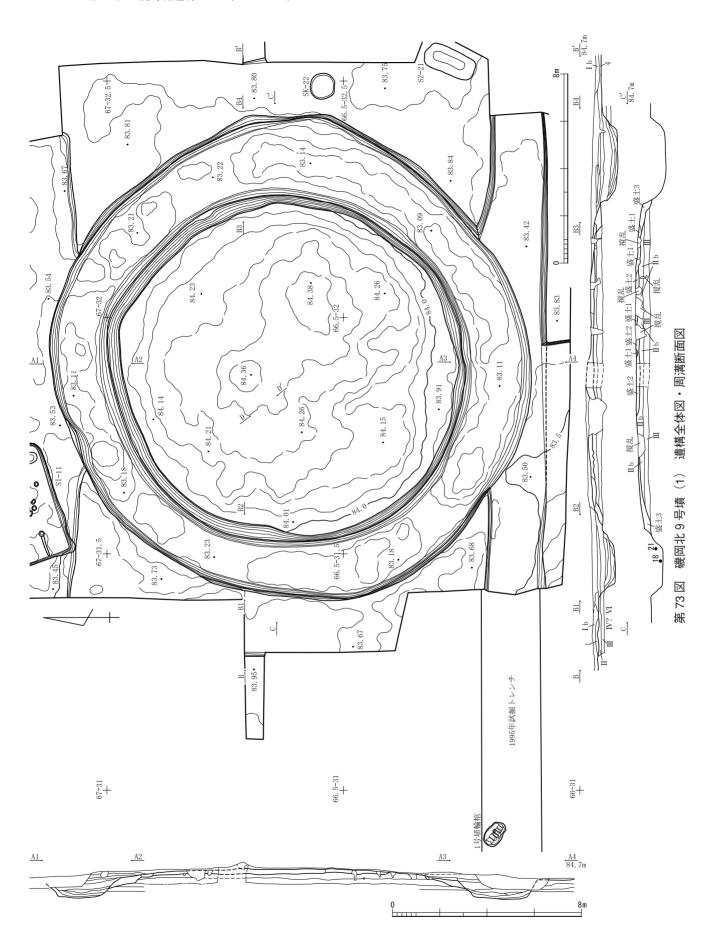
# [周溝] (第74 図、写真図版 33・34)

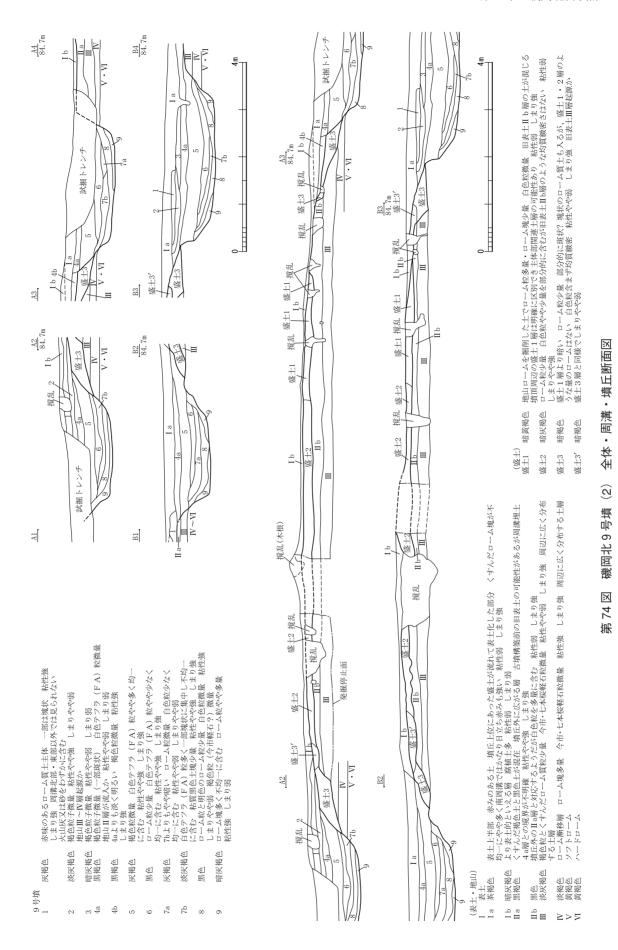
 $8 \cdot 9$  号墳の周溝は上部がわずかに外開き気味であるが、あまり明瞭なものではない。これと同様の傾斜面がもっと明瞭に見られる  $2 \cdot 3$  号墳では、周溝外周に広がる緩い傾斜面を持つ。この傾斜面も含めて、周溝幅は  $2.6 \sim 4.0$ m で、北西部がやや狭く東部が広い。遺構確認面から計測した周溝の深さは約  $0.4 \sim 0.7$ mである。また、墳丘盛土下にある旧表土(地山 IIb 層)の上面の標高は  $84.1 \sim 84.2$ m 前後で、旧表土上面から周溝底までの深さは約 90c mである。

周溝の埋土は、8号墳と同様に黒色土と灰色土が交互に堆積する状況である。両古墳の周溝は同様の埋まり方をしているので、下記のように対応させることができる。

 (8号墳) 2層
 3層
 4層
 5層
 6層
 7層
 8層
 10層

 (9号墳) 1層
 2層
 4層
 5層
 6層
 7層
 8層
 9層





-139 -

周溝埋土中には Hr-FA テフラと思われる白色粘質土が  $5\sim7$  層に多く見られ、7b 層に最も集中している。 周溝埋土 4 層は地山 II 層(周溝外側にある古墳構築前の II a 層および墳丘盛土下の旧表土 IIb 層)と類似しているので、II 層から起源する土が流入した層と思われる。したがって、周溝の最上部では埋土 4 層と地山最上層(II 層)の区別が不明瞭な部分が見られた(第 74 図 B1-B2)。

### [遺物出土状況] (第 75 図、写真図版 34·35)

墳丘と周溝の全体から非常に多くの土師器片が出土した。小破片が非常に多い点や、須恵器が少なく土師器が圧倒的に多い点(第27表)が、1~8号墳の出土土器片とは異なる。これらは、先行する古墳時代集落の土器が混入・流入したものをかなり含んでいる可能性がある。同個体の破片が不足していて形状をあまり復原できない小片は、集落からの混入・流入品である可能性が高い。土師器甕の胴部片が多い。

同個体の破片が多くて接合・形状復原できる個体は、9号墳に伴う土器と思われる。高杯や杯が目立つ。 鉄製品は、すべて周溝埋土の上部で出土した。そのほとんどが9号墳の埋葬施設から流出したものと思われる。ただし、古代・中世の遺物も少量ずつ見られるので、後世の鉄製品が混じっている可能性も残る。

遺構間接合 8号墳の須恵器大甕 (第71図) に接合する胴部 2 片が、9号墳の北側周溝内 (底面から上へ約42cm) で出土した。また、3号墳の須恵器甕 (第52図3) と同一個体の可能性がある胴部破片が、9号墳の南西部周溝の外周付近で2 片出土した (4)。この他に、混入品である7世紀末~8世紀前半の須恵器有台杯破片のうち1 片が、3号墳出土の破片と接合した (第53図33)。

旧表土の遺物 墳丘盛土下の旧表土(黒色土)上面からも、古墳時代中期の土師器片が出土した。土師器片の他に、旧表土上面で焼土塊が1箇所発見されたことから、墳丘築造前の祭祀に用いたものだと現地調査時に考えられた。ただし、古墳築造前の集落に伴う遺構外の土師器が、古墳の盛土の下敷きになって残されたものも混在しているようである。

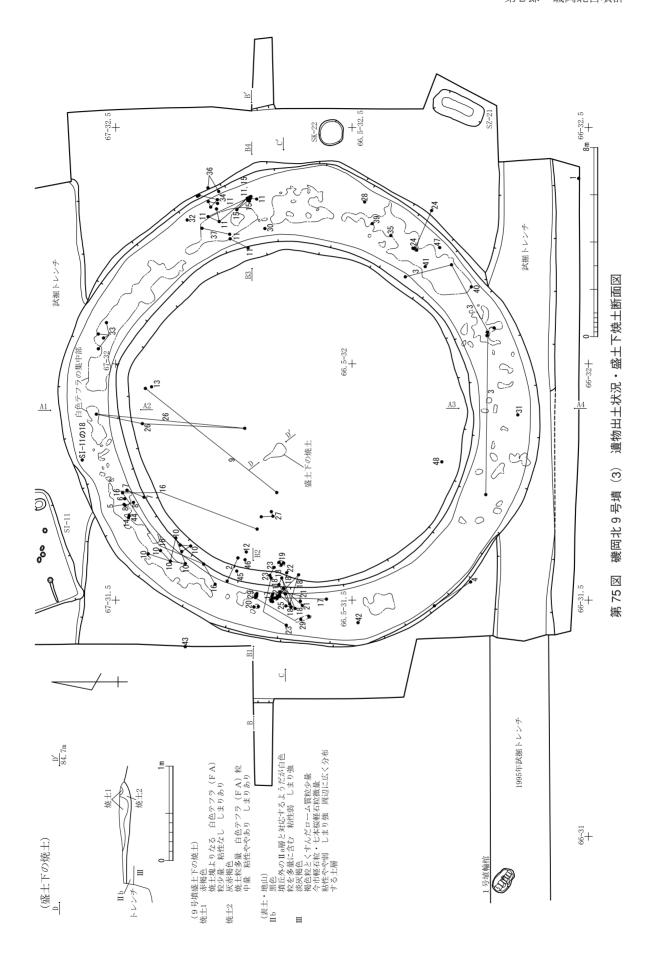
## 〔墳丘・周溝から出土した土器類〕(第76図、写真図版75・76)

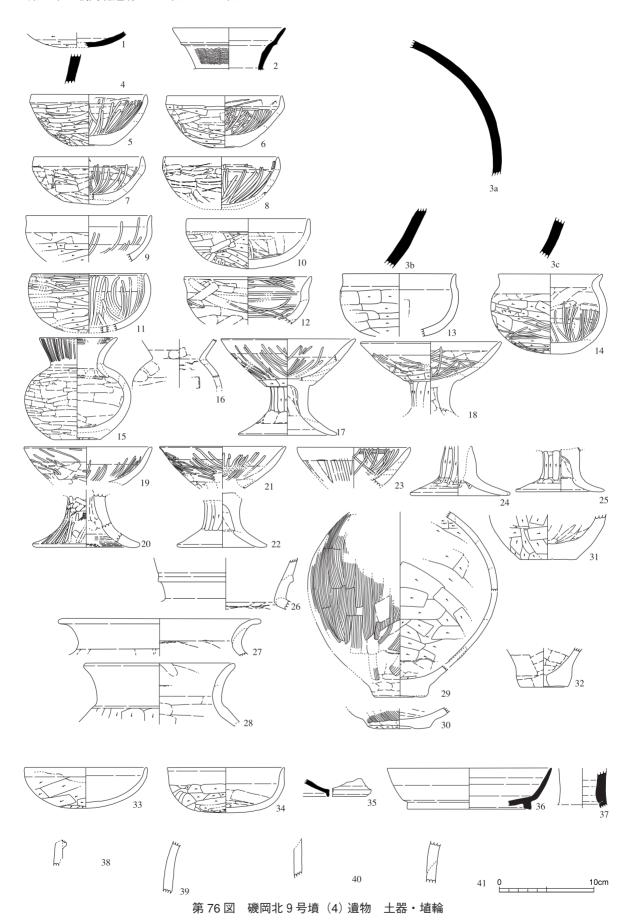
**須恵器**  $(1 \sim 4)$  杯と腿が 1 点ずつあり  $(1 \cdot 2)$ 、他に須恵器甕の破片が少量ある  $(3a \sim 3c \cdot 4)$ 。「遺物出土状況」の項で上述したとおり、4 は 3 号墳から混入した破片の可能性が高い。 $3a \sim 3c$  は同個体で、内面に同心円文当具痕が明瞭な点が 8 号墳の須恵器大甕(第 71 図)と共通し、 $2 \cdot 3 \cdot 5$  号墳の須恵器甕(第  $42 \cdot 43 \cdot 52 \cdot 63 \cdot 64$  図)とは異なる。

土師器  $(5 \sim 34)$  杯のうち口縁が内傾する 4 点がほぼ完形の同工品  $(5 \sim 8)$ 。口縁部直立  $(9 \cdot 10)$ ・半球形 (11) および口縁部外反 (12) の杯破片も少量見られる。 $13 \cdot 14$  は杯の可能性もあるが、やや深いので鉢とした。完存する 14 は底部がやや厚いので重く、底外面には焼成前の線刻「×」がある。小形壺は口縁部が短縮化したものである (15)。高杯は大半が短脚のものばかりである  $(17 \sim 25)$ 。19 と 20、21 と 22 はそれぞれ同一個体の可能性もあるが、確実ではない。大形壺 (26) は口縁部外面に粘土を貼り付けて低い段を作る。

29~34は古墳中~後期集落からの混入品と思われ、27・28もその可能性がある。薄手でハケ調整の甕(29・30)や小形甑(32)は、古墳より先行する時期のもの。漆仕上げの杯(33・34)は9号墳より新しい古墳時代終末期の遺物。

**埴輪**  $(38 \sim 41)$  埴輪は、 $1 \sim 3 \cdot 8$  号墳と同様に、ごく少量しかない。埴輪を古墳に少量用いたか、または 1 号埴輪棺と同様な埴輪転用棺に由来する破片が混入したものだろう。他古墳と同一個体の埴輪片は確認できない。胴部小片 13 片が出土し(接合後は 11 片)、 $2 \sim 3$  個体程度の円筒埴輪のそれぞれごく一部





-142 -

と思われる。40の外面には浅い刻線がある。39と40は同一個体の可能性がある。

その他の遺物( $35 \sim 37$ ) 古墳と時期が異なる遺物では、上で述べた  $29 \sim 34$  の他に、7 世紀末 $\sim 8$  世紀前半の須恵器も少しみられる( $35 \sim 37$ )。混入品か、またはこの時期に古墳で土器を使う行為を行なったとも考えられる。須恵器有台杯破片が 2 点あり、うち 1 点は 8 世紀前半の栃木県益子窯跡群産かと思われる(36)。もう 1 片は東海地方産の可能性がある有台杯の破片で、3 号墳出土破片と接合した(第 53 図 33)。他にもこの時期の東海産と思われる須恵器蓋 1 片と瓶頸部 1 片がある( $35 \cdot 37$ )。中世の遺物としては、常滑産のこね鉢 4 片・甕 1 片と、青磁碗の体部 1 片がある(第 104 図  $1 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 8$ )。

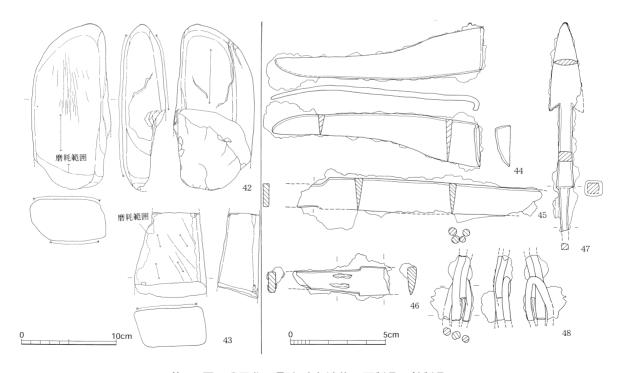
縄文早期の撚糸文系土器片や後〜晩期の縄文土器片と、それらに伴うと思われる石器も混入して見られた (スタンプ形石器・磨石・剥片・石鏃など:第  $14 \sim 21$  図の一部)。縄文土器と石器は、それぞれ小サイズ の浅いコンテナ (内法長  $54 \times$ 幅  $34 \times$ 深さ 10cm) に半分程度の量がある。

[石製品・鉄製品] (第 77 図  $42 \sim 47$ 、写真図版  $76 \cdot 87$ )

**砥石**(42・43) 2点ある。周辺の古墳時代集落からの混入品か、それとも9号墳の副葬品が流出したものなのか、よくわからない。

**鉄製品**  $(44 \sim 48)$  主に 9 号墳の埋葬施設から流出した副葬品と思われるが、後世の鉄製品も混入しているかもしれない。

鎌(44)はごく弱い曲刃形で、幅狭く薄い華奢な製品である。刃部は研ぎ減りしている可能性もある。刀子は2点あり(45・46)、45 はやや大形品。47 は台形状の四面段関を持つ短頸腸抉柳葉形の鉄鏃。頸部の断面形は長方形で茎部側がかなり厚くなり、茎関部が四面段関になる点が古墳時代の鉄鏃としてはあまり一般的ではないので、中世の鏃が混入した可能性もある。不明鉄製品(48)は、両端が折れた丸棒の銹着品。兵庫鎖の破片と考えることもできるが、古墳中期の鎖にしては一連が長すぎることや、側面形がほとんどカーブしない点に疑問が残る。また、轡の二条線引手にしてはやや細すぎる。



第77図 磯岡北9号墳(5)遺物 石製品・鉄製品

# 第26表 磯岡北9号墳 出土遺物

来旦			<b>在</b> 海	山工化能
番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1 杯 須恵器	高 残 1.6	体部だけの破片なので、杯蓋の可能性もある。内面は回転ヨコナデ。外面は回転ヘラケズリ。磯岡北古墳群の他の須恵器と比べて、これだけが白色軟質で異質。		南東部周溝外表土中 1058
2 颹 須恵器		口縁端は丸みを帯びて尖り気味。外面の口縁部下端に鋭い突線 1 条。15 歯の櫛描波状文を器面に向かって右から左へ施文。内外面ヨコナデ時の回転方向は不詳。外面器表は暗色で、内面には浅 黄色(2.5 Y 7/4)に汚く溶けた自然釉がやや多くみられる。	やや緻密 白細粒やや	西側周溝法面上 25cm と 墳丘覆土中の破片が接合 口 1/6 周 701・1248・西ベルト内
3 甕 須恵器	最大 復 40 ~ 50	3a~cが同一個体。外面は木目に斜行する溝を彫った叩き板で、 斜位の平行叩きの後、横位のカキメ。叩き板は木目を水平方向に して使う部分が多い。3bの下半部と3cでは木目を斜めにして使 うので胴下部の可能性がある。内面は同心円文当具痕で、進行方 向は胴上半部で右および上方向(3a)、胴下半部で下方向(3b・ 3c)。3b内面には狭い回転ヨコナデあり。	やや緻密 白細粒と白砂・礫少量。	南部周溝底上 39 ~ 51cm と法面上 72cm が接合 341·467·523·841·842· 843
4 甕 須恵器		3号墳の3の破片の可能性がある。同一個体と思われる細片があと1片あり。外面は木目平行の溝を持つ叩き板で縦の平行叩き。内面はごく浅い不明瞭な同心円文当具痕。		南西部法面上 55cm。 周溝外表土中でも一片出 土 胴部 2 片 114・133
5 杯 土師器	高 5.5	口が内傾し、肩部内外面に明瞭な稜あり。内面は多方向ヘラナデと口縁部ヨコナデ後、タテヘラミガキ。外面は横位(下部は斜位)のヘラナデで、一部ヨコヘラケズリ。外底面はほぼ1方向に削って明瞭な平底。外面体部に8cm大の黒斑あり。	やや緻密 赤・白細粒	北西部周溝底上 23cm 完形 859
6 杯 土師器		口が内傾し、肩部内外面に明瞭な稜あり。内面は多方向ヘラナデと口縁部ヨコナデ後、体部タテヘラミガキ。外面は下半部ヨコヘラケズリ後、中位ヨコヘラナデ。口縁部内外面に丁寧なヨコナデ後、外面体部上端にヨコヘラケズリ。外底面は雑なケズリで抉られたような凹み気味の平底。底周辺の外面に 10cm 大の黒斑あり。	やや緻密 赤・白細粒 やや多。黒・透明細砂 と赤粒。 硬質	839
7杯土師器	最大 12.0	口が内傾し、肩部内外面に明瞭な稜あり。内面は多方向のヘラナデと口縁部ヨコナデ後、体部タテヘラミガキ。外面は横・斜位へラナデで、一部にヘラケズリ。口縁部に丁寧なヨコナデ。外底面は円周方向に軽く削って周縁が不明瞭な平底に仕上げる。外面体部に8cm大の黒斑あり。	やや緻密 赤・白細粒や や多。黒・透明細砂と赤 粒。赤粗粒と白礫少。 硬質	ほぽ完形 837・697
8 杯 土師器	最大 12.5	口が内傾し、肩部内外面に比較的明瞭な稜あり。内面は多方向 ヘラナデと口縁部ヨコナデ後、口~体部にタテヘラミガキ。外面 は粘土積み上げ痕を残す程度の軽いナデ後に体部ヨコヘラナデと 口縁部に丁寧なヨコナデ。底部は破損しているが同工品(5~7) からみて平底と推定される。	やや緻密 赤・白細粒 やや多。黒・透明細砂 と赤粒。 硬質	北西部周溝底上 21 ~ 23cm が接合 口 11/12 周 838・702
9 杯 土師器	高 残 4.9	口が直立し、その上半部はわずかに外反気味。外面は体部上位へラケズリ後に下位ヨコヘラケズリ。内面体部ヘラナデ後、内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。内面には2~3本ごとにまとまった放射状ヘラミガキをやや疎らに施す。	やや緻密 赤粒・細粒 やや多。白砂・細粒少。 やや硬質	口 1/2 周 950・1115・北西区
10 杯 土師器	高 5.3	口が直立し、体部上端の外面に浅く弱い段を持つ。内面体部に多方向の丁寧なヘラナデ後、内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。外面は底部に2方向(反対方向)のヘラケズリ後、体部上半 にヨコヘラケズリ。	やや緻密 白細砂と赤	
	高 復 6.2 最大 12.9	半球状で内外面に稜なし。底部は残りが悪いが平底ではなく、丸底の可能性あり。外面は底部多方向と体部横位のヘラケズリ後、口縁部ヨコヘラミガキ。内面は口縁部に丁寧なヨコナデ後、全面に放射状のやや密なミガキ。	緻密 赤細粒やや多。 白細粒・黒細砂。 硬質	東部周溝底上12~41cm が接合 口7/12周 385·597·623·634·635・ 904·907
12 杯 土師器	高 残 5.0	口が外反し、内面頸部に稜あり。外面全体にナナメ及びヨコナデ。 口縁部の丁寧な仕上げナデをしない。内面はおそらく丁寧なヨコナデの後、ヨコヘラミガキ。	やや緻密 赤粒・細粒 やや多。赤粗粒・白細 粒と黒・透明細砂。 やや硬質	1219
13 鉢 土師器	高 残 6.6 最大 復 12.6	杯に比べて少し深い。口は直立し外面肩部の段が明瞭。体部内面 ヨコヘラケズリと口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。体部外面ヨコ ヘラケズリ。	やや粗い 赤細〜粗粒 多。白細粒と黒透明細砂やや多。白粒少。 やや硬質	850
14 鉢 土師器	高 8.4	杯に比べて深く、また、体部が厚くて重い。口が外反し、頸部は 内面に弱い稜をもって強く外反する。外面は肩部にやや雑なナデを残し、底部1方向と体部横位のヘラケズリ後、中~下位に疎らなヘラミガキ。内面は主に円周方向の雑なヘラナデ後、放射状のヘラミガキ。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。外底面に焼成前の線刻「×」あり。	やや緻密 赤粒・粗粒 やや多。白・赤細粒と黒・ 透明細砂。	

76 H	I		A DIT	the Lathydes
番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
15 小形壺 土師器	高 10.8	体部下位が厚くてやや重い。外面は体部ヨコヘラナデ、底部は多方向ヘラケズリで上げ底状。内面は底部に円周方向と体部に横位のヘラナデ後、肩部の粘土接合痕をユビオサエ。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、外面に縦位、内面上部に横位のヘラミガキ。外面肩部に 6cm 大の黒斑。	やや緻密 赤粒、赤・白 細粒、黒・透明細砂。	東部周溝底上14~16cm が接合 口1/4周、底5/12周、胴 全周 904~906・南東・東ベル ト内
16 小形壺 土師器	高 残 5.1 最大 9.0	外面は頸部下半と体部にナデ、頸部と上半にやや丁寧なナデ。内面は体部中位にヨコナデ後に肩部ユビオサエ (粘土積み上げ痕を残す)。頸部下半にヨコヘラナデ。		北西部周溝底上6~27cm と周溝法面上の1片と墳 丘覆土中の1片が接合 頸 3/4 周 504・750・735・982・北 西 3 層・南西周溝
17 高杯 土師器	高 10.2	外面は杯部ナナメナデと脚裾部上半ナデの後、杯部下端のヨコヘラケズリと脚柱部のタテヘラケズリで杯〜脚部境に明確な段を作り出す。杯内面ナデと口縁部内外面に丁寧なヨコナデの後、内外面に斜放射状のヘラミガキ。脚柱部内面タテユビナデ後、脚裾部内外面に丁寧なヨコナデ。	やや緻密 赤粒・細粒 多。黒・透明細砂と白	
18 高杯 土師器	口 14.7 高 残 7.7	外面杯部はナデ後、部分的なヨコヘラナデと杯部下端ヨコヘラケズリ。脚柱部をタテヘラケズリして、杯〜脚部境に明確な段を作り出す。杯内面ヘラナデと口縁部内外面に丁寧なヨコナデの後、内外面にナナメヘラミガキ。脚柱部内面はユビナデ。	やや緻密 赤細粒~粒	
19 高杯 土師器	口 13.6 高 残 4.1	外面ヨコヘラケズリ後、ヨコヘラナデ。内面ナデ又はヘラナデ。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ後、外面に斜位と内面に放射状のヘラミガキ。20と同一個体の可能性があるが不確実。		
20 高杯 土師器	高 残 6.2 脚裾 11.3	全体に仕上げ調整が粗雑で、成形や一次調整の痕跡を多く残す。 外面は上半部に多方向ナデと部分的な平行刻線状のキズ。下半 部に棒状工具でヘラミガキ風のやや粗雑な調整を縦位に施す。内 面は脚柱部タテユビナデ、脚裾部ヨコハケ後に軽いヨコナデ。19 と同一個体の可能性があるが不確実。	やや緻密 赤粒〜細粒や や多。白細粒と黒・透明	
21 高杯 土師器	口 復13.4 高 残 5.2	外面はナナメ及びヨコナデ後、杯部下端ヨコヘラケズリ。内面に ナデ又はヘラナデ後、内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。外面に斜 位。内面に放射状及び斜放射状のヘラミガキ。22 と同一個体の 可能性があるが不確実。	やや緻密 赤細粒・粒や	
22 高杯 土師器	高 残 5.8 脚裾 9.5	脚柱部は外面タテヘラケズリ、内面ユビナデ。脚裾部は摩滅のため不明瞭だが、おそらく丁寧なヨコナデ。杯部内面はおそらくヘラミガキ。21と同一個体の可能性があるが不確実。	やや粗い 赤粗〜細粒 多。白細粒と黒・透明細 砂少。 軟質	
23 高杯 土師器		小形で深く器壁が厚い。外面は粗いタテハケ後にタテヘラナデでハケメを部分的に消し、口縁部ヨコナデ。内面は粗いヨコハケ後に軽いヨコナデでハケメの大半を消し、斜〜縦位 ヘラミガキ。	赤粒、黒・透明細砂と	西部周溝底上63cmの1片 と周溝法面上方の2片と 墳丘覆土の1片が接合 口 1/2 周 203・436・814・1130
24 高杯 土師器		外面は脚柱部タテヘラケズリ後に脚裾部ヨコナデ。内面全面と外面脚裾外周に丁寧なヨコナデ。内面中央部付近に多方向の雑なヘラケズリ。脚内面残存部の大半は黒斑。	5YR6/8 橙 やや緻密 黒・透明細砂 と赤・白細粒と赤粒少。 やや硬質	南東部周溝底上41~ 49cm。周溝外表土の1片 も接合 脚裾 5/12 周 463・464・472・1047
25 高杯 土師器	高 残 4.7 脚裾 9.4	外面は脚裾部上半 にユビオサエまたはナデ後、脚柱部タテヘラケズリ。脚柱部内面ユビナデ後、脚裾部下半の内外面に丁寧なヨコナデ。杯底部と脚柱部の接合面で剥離している。	やや緻密 赤細粒・粒多。	西部周溝底上 26cm 脚柱〜脚裾全周 410・807・南西・南西周 溝
26 大形壺 土師器		低い三角形断面の突帯を貼付けて外面だけを二重口縁状に仕上げる。残存部の上半 (突帯より上方) はやや赤みの強い胎土を使う。 肩部内面ナデ、外面全体と頸内面に丁寧なヨコナデ。	7.5YR5/6 明褐 やや粗い 透明細砂・砂 と白礫・砂と白粗粒・細 粒多。黒細砂・灰色砂。 硬質	
27 甕 土師器	口 復21.5 高 残 3.9	胴部上位の外面に縦位と内面に横位のナデ後、内外面口縁部に丁 寧なヨコナデ。	7.5YR6/6 橙 やや粗い 黒·白·透明 細砂、白細粒。 やや硬質	北西部墳丘覆土の3片が接合 口1/4周 985・990・1092

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
28	口 復16.0 高 残 6.7	やや厚く重い。胴部外面のヘラケズリと内面ヨコヘラナデの後、 口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。	5YR6/6 橙 粗い 透明·白砂多。白 礫、黒·透明細砂、 白細粒。 硬質	南東部周溝底上29cm 口1/6周 744·南東区
29 薨 土師器	底 5.4 最大 復 20.1	外底面は外周に粘土を薄く貼って雑なナデ。体部下位を成形して 外面ユビオサエ後タテハケ。内面ヘラナデと多方向ヘラケズリ。 その後に中位以上を積み上げて外面ナデ後タテハケ。内面ナナメ ヘラケズリ。古墳中期前半の遺物が混入 (?)。	粗い 白・黒・透明細砂	西部周溝底上17〜25cm が接合 底全周 785・788・873
30 甕 土師器	高 残 2.2 底 6.2	外底面は上げ底状に成形して外周部に円周方向へラケズリ。外面 胴部下端に雑なナデ後、胴部ナナメハケ。内面は多方向の丁寧な ヘラナデ。古墳時代集落の遺物が混入 (?)		東部周溝底上16cm 底7/12周 437
31 甕 土師器	高 残 4.8 底 6.0	厚く重い。外面は底面に木葉の裏面圧痕を軽く不完全にナデ消して、胴部に主に縦位 のヘラケズリ。内面多方向ナデ。	10YR7/4 にぶい黄橙 粗い 灰色礫多。白砂と 白・赤粗粒と黒細砂少。 硬質	南部周溝底上33cm 底3/4周 892
32 小形甑 土師器		外面ナデ、体部内外面ヨコヘラナデ。外底面は丁寧なナデ。古墳 時代集落の遺物が混入したものか。	7.5YR7/4 にぶい橙 やや緻密 赤粒・細粒 やや多。白細粒・黒細砂。 軟質	東部周溝底上24cm 628·北東
33 杯 土師器	口 復13.0 高 4.3	半球状で口縁部は内外面に弱い稜をもってわずかに内側へ折れる。薄く軽い。外面は底部1方向、体部横位のヘラケズリ。丁寧なヘラナデかヨコナデ体部内面を調整した後、内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。内面全面と外面口縁部に漆仕上げ、古墳終末期の遺物が混入。	やや緻密 白細粒・透明 細砂・黒砂やや多。	北部周溝底上42~55cm が接合 口1/4周 483・484・485・554? 北東区
34 杯 土師器	口 復12.4 高 4.8	口縁部がわずかに外反気味。口縁部内外面に丁寧なヨコナデ後、 内面の底部に多方向と体部に横位のヘラケズリ。内面は底部多方 向と体部斜〜横位のナデ。内面は炭素吸着処理で黒色。外面もわ ずかに表面が黒色化。古墳終末期の遺物が混入。	緻密 白細粒少。	東部周溝底上30~40cm と法面上方の2片が接合 口1/3周 342·602·604·605·714· 715
35 蓋 須恵器	口 復 16.0 前後	調整が丁寧でロクロ目が目立たない。東海地方産 (?)。奈良時 代の遺物が混入。	7.5Y8/1 灰白 緻密 白細砂ごく少量 硬質	南東部周溝底上73cm 口1/12周 454
36 有台杯 須恵器	高 4.4	高台は外周で設置し、やや高め。底面は回転ヘラケズリ後に高台 貼付けとロクロナデ。器面調整時のロクロはおそらく時計回り。 奈良時代の遺物が混入。産地は不明確だが益子窯産か。	やや緻密 白細粒・白砂 少。 硬質	東部法面上33cmと周溝 外の各1片が接合 口1/12周、底1/6周 711~716
37 瓶 須恵器	頸 復 5.0 高 残 4.2	外面はオリーブ黄色 (5Y7/3) の自然釉が薄くかぶる。精良な製品で東海地方産か? 7~8世紀の遺物が混入。	5Y8/1 灰白 緻密 白細粒と黒色湧 出粒ごく少量。 硬質	東部周溝底上70~71cm が接合 頸1/3周 345·898
38 円筒 埴輪		突帯の下半部の破片。外面ヨコナデ。内面は雑なヨコナデ。	5YR7/4 にぶい橙 やや粗い 黒・透明細砂 と透明砂やや多。 白細砂と白・赤細粒。 やや軟質	南西区一括
39 円筒 埴輪		薄いので口縁部近くの破片か。外面はタテハケ(8本/2cm)。破片下端にあるヨコナデは最上段突帯の上側か、または天地が逆で口縁端部直下のナデと思われる。内面は比較的丁寧なヨコナデ。40と同個体の可能性あり。	やや緻密 透明細砂や	南東部周溝底上37cm 500·南東区·南東
40 円筒 埴輪		外面は8本/2cmのタテハケで横位の浅い刻線(?)が3回重なって描かれている。内面は比較的丁寧なヨコナデ。39と同個体の可能性あり。	やや粗い 透明細砂や や多。白細粒・黒細砂・ 赤粒少。 硬質	南部周溝底上74cm 327
41 円筒 埴輪		外面はタテナデで破片の左右両端にはタテハケも見られる。上部 に突帯下側のヨコナデあり。内面は粘土の積み上げ痕をやや残し 雑なヨコハケ。	やや粗い 透明細砂や や多。白・赤細粒、白・ 黒細砂、灰色砂。 硬質	南東部周溝底上49cm 469
42 砥石	長 残 17.4 幅 8.4 厚 4.5 重 残 880.4g	長楕円形の自然石を素材として、両面の平坦面を作業面として使用する。長軸方向に研磨され、表面はかなり平滑に摩耗する。図下方からの打撃により破損している。		西部周溝底上 106cm 端部欠 41

番号 種類 材質	大き	: さ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
43 砥石	幅厚	残 7.6 4.3 线 450.5g	自然石を素材とする。図表面側が作業面で、残り三面は自然面のまま残される。横断面長方形、縦断面は図上端側が薄く、下端側が厚い。このため置砥石として使う場合は、作業面がわずかな傾斜をもつことになる。作業面は全体に敲打されたような微妙な凹凸をもつが、表面は非常に滑らかに摩耗している。	硬質で緻密な砂岩	周溝外北西部表土 両端部欠 448
44 鎌 鉄製品	長重	22.1g	基部から 25mm 程の地点よりも先側の刃部がやや深く曲がるので研ぎ減りの可能性もある。基部の折り返しは棟側でやや強く、刃側ではほぼ垂直。棟部は厚さ 2.9 ~ 3.6mm で先端側が薄くなる。基部幅 22mm、折返高 8 mm。		北西部周溝底上 44cm 完形 480
45 刀子 鉄製品	1	残 28.8g	刃関の形状は $X$ 線写真で観察しても不明瞭で、背関は撫角。刃部は幅 $15\sim 17$ mm・背厚 $2.9\sim 3.8$ mm で、切先側ほど幅が狭く背が薄くなる。茎部は幅 $12$ mm で背側( $3.2$ mm)が刃側( $2.8$ mm)よりもわずかに厚い。有機質は見られない。		西側の周溝底上 59cm (周溝法面直上) 両端部欠 875
46 刀子 鉄製品		残 8.6g	刀子と判断したが、棟部が激しく銹膨れで変形しているので、小形の剣である可能性も皆無ではない。柄木の木質が関部の両側に少量ずつ付着。刃部には有機質は見られない。刃幅 $15\sim 16$ mm・背厚 $4\sim 5$ mm・茎幅 $9\sim 12$ mm・厚さ $4$ mm。		西側周溝埋土上層(周溝5層) 両端部欠 1218
47 鏃 鉄製品	1	残 11.8g	四面段関短頸腹抉柳葉鏃。鏃身は両丸造でやや厚味がある。頸部は基部寄りが広く厚くなり台形関状の四面段関になる。茎部は断面隅丸方形で、図の左半部に木質が残る可能性もあるが不確実。鏃身長 45mm、復元幅 18 × 厚さ 4mm、頸幅 9.5 × 厚さ 4.8mm、茎幅 4.0 ~ 5.5mm、茎厚 3.5 ~ 6.0mm。頸部と鏃身部は破損で分離している。		南東部周溝底上 52cm 茎末端部欠 471
1	幅	残 6.6g	2つ折りにした丸棒1本が、ゆるくカーブした丸棒2本に銹着したもので、各棒は端部を折損する。各丸棒の太さにはやバラツキがある(3.5~4.2mm)。兵庫鎖と考える場合は、一連の長さがやや長い点と、側面形があまり曲がっていない点に疑問が残る。		墳丘南裾部 (盛土3層 付近のレベル) 両端部欠 99

## 第27表 磯岡北9号墳 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

		杯(口内傾)	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	鉢	小形土器	大形壺	甕	逯	小形甑	その他
Γ,	口縁部計測	3.92 周	1.08 周	1.42 周	2.25 周	1.67 周	7.83 周	1.25 周	0.03 周		5.75 周			
一節	口縁部	10	20	23	46	30	102	5	1		114			
器	体部	有	有	有	有	有	脚柱有	有		有	有			
TO TO	底部	平底 3	平底1			2	脚裾 128			1	74			
-	口縁部計測						0.08 周					0.08 周		
須恵	口縁部						1 (?)					3		
思器	体部		有								有			
100	底部													
III &	公市松田が19	止 (20 - /	(1 ) ~ 相 盐 )	たく比の他	127上まり	\ Abb: 1 . Abb	1. 77.9	. THE AL WIL	日1.7年71.6	)				

円筒埴輪胴部 13 片 (38~41 に掲載した 6 片の他に 7 片あり)。鏃 1・鎌 1・刀子 2・不明鉄製品 1・砥石 2。

古墳中期の土師器小形甑(図の 32)と 7 ~ 8 世紀の土師器・須恵器(33 ~ 37)が混入。土師器壺・甕(26 ~ 31)も混入品を含む可能性あり。

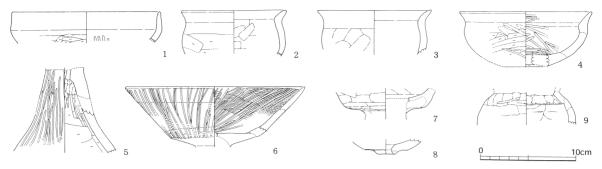
縄文早期の撚糸文系土器と後期・晩期の粗製土器片および石器が若干混入。

### [墳丘下出土の土器] (第78図1~9)

墳丘盛土下の旧表土(黒色土)上面で出土した土師器片は古墳中期のもので、須恵器は見られない。小サイズの浅いコンテナ(内法長 54 ×幅 34 ×深さ 10cm)に 1 箱分程度の量がある。小破片が多い。器種は椀形杯・高杯・小形壺・小形甑・甕がある。いずれも破片数が不足し、あまり復原できない。

墳丘下出土土器は、墳丘築造前の祭祀に用いたものと現地調査時に考えられた。須恵器模倣杯(1)や外 反口縁の杯(4)は、墳丘・周溝出土土師器と同じ古墳中期末の遺物なので、その可能性がある。ただし、 いずれも小片ばかりで破片数も不足し、あまり接合・復原できない。

9号墳の墳丘・周溝出土土師器(古墳中期末)に比べると、少し古い中期後葉の土師器も見られる。口が外折する「内斜口縁」の椀形杯(2・3)や、長脚と思われる高杯である(5~7)。これらは、古墳築造前の集落に伴う遺構外の土師器が、古墳の盛土の下敷きになって残されたものだろう。北側にある SG17 区 SI - 11(第 97 図)と同時期の土師器である。やはり小片ばかりで破片数も不足し、あまり接合・復原はできない。 8・9も集落に伴う土器片の可能性がある。8 は小形甑としても特に小さい。



第78 図 磯岡北9号墳(6) 旧表土面出土遺物

# 第28表 磯岡北9号墳 旧表土面 出土遺物

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1 杯 土師器	高 残 3.3	口が直立し、外面体部上端に弱い稜をもつ。外面体部ナデ後、外面口縁部と内面に丁寧なヨコナデ。外面体部中位以下ヨコヘラケズリ。内面体部タテヘラミガキ。		
2 杯 土師器		口が外反する椀形の杯で、頸部の屈曲が特に内面で強い。内面体部ヨコヘラナデ後、口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。外面体部ヨコヘラケズリ。		
3 杯 土師器		口が外反する椀形の杯で内面に弱い稜をもって頸部が屈曲する。 体部内外面にヘラナデまたはナデ。口縁部内外面に丁寧なヨコナ デ。		
4 杯 土師器	器 5.8	口が外反し、頸部は特に内面を強く曲げる。外面は底部に多方向と体部に横位のヘラケズリで、凹底に仕上げる。口縁部内外面に丁寧なヨコナデと肩部外面にナナメヘラナデ。内面は体部に斜~横位と口縁部に横位のヘラミガキ。	やや緻密 赤細粒~粒。	墳丘下と周溝出土の破 片が接合 口1/6周、底3/4周 219・391・447・1247・1248・ 1249・西ベルト旧表土上面
5 高杯 土師器	高 残 9.2	外面は脚上端部ヨコナデと脚部タテヘラケズリの後、タテヘラミガキ。内面は上端部が内径 9mm 程度まで狭くなり、雑なヨコヘラナデ。中位以下にヨコヘラケズリ。		
6 高杯 土師器	高 残 6.3	外面は杯体部ヨコナデまたはヨコヘラケズリ後、口縁部に丁寧なヨコナデと杯体部下端ヨコヘラケズリ。内面は杯体部にヨコハケおよびナナメハケ。杯体部に外面縦位 と内面斜位のヘラミガキ。内面杯底部もおそらくヘラミガキ(残存不良)。	やや緻密 黒·透明細砂 やや多。赤·白細粒。 やや軟質	の杯体部破片が接合 口2/3周 150・159・183・186・331・ 703・727・732・759・南西 区・北西旧表土内
7 高杯 土師器		脚柱部の外周に杯底部を成形する。外全面ヨコナデ。内面は杯底 部横位、体部斜位のナデ。	やや粗い 白細粒〜粒 多。白・黒・灰・透明細砂 少。 硬質	「北西旧表土内」
8 小形甑 土師器	底 4.0 孔 0.9~1.1	小形甑としても特に小形。外底面の一部を削る以外は、全外面ナデ。焼成前に穿孔して、底面の孔外周に断面三角形の粘土紐(幅6mm 程度)を貼り付ける。	やや緻密 黒・透明細砂 と白・赤細粒少。 硬質	底5/6周 南西区旧表土内·1001
9 小形壺 土師器		外面ナデ後、肩部ヨコヘラケズリ。内面は肩部に粘土紐積み上げ後にユビオサエ。頸部ヨコナデ。	7.5YR7/4 にぶい橙 やや緻密 赤・白細粒と赤粒。 黒・透明細砂少。やや硬質	墳丘下出土の2片が接合 頸1/3周 北東区旧表土

# 第29表 磯岡北9号墳 旧表土面 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

_														
		杯(口内傾)	杯(口直立)	杯(半球状)	杯(口外反)	小形壺(坩)	高杯	鉢	小形土器	大形壺	甕	小形甕	小形甑	その他
_	口縁部計測		0.17 周		0.83 周	0.25 周	0.75 周				0.75 周		0.17 周	
師	口縁部		3		12	4	13				21		3	
器	体部		有	有?	有	有	脚柱 11			有	有			
titi	底部				3		脚裾 20				2		3	
/=	口縁部計測													
須恵	口縁部													
器	体部													
TIE	底部													

## 4.2.2. 遺物集中地点

磯岡北古墳群の調査では、SG17 区において古墳時代中期後半の遺物集中地点を 2 箇所確認した。「SX - 14」と「SX - 16」の 2 箇所がある。SX - 14 は 1 号墳のすぐ南側にあり、 1 号墳との位置関係および接合関係が明確なので、前項の 1 号墳の記述中において「1 号墳南側の遺物集中地点」として報告した(pp.74-75)。ここでは、もう一箇所の遺物集中地点 SX - 16 について記述する。

SX - 16 (第79·80 図、写真図版 76)

概要 古墳時代中期の土師器・須恵器片が若干まとまって出土した地点である。位置からみて、おそらく 磯岡北2・3・4号墳に関わる遺物群と思われる。

**位置** SG17 区の東部にあり、71.5-30.5 グリッドを中心として、西側の71.5-30.0 グリッドにかけて所在する。同じく古墳中期の遺構として、北と南にそれぞれ2号墳と4号墳、南西に3号墳がある(第 10 図)。重複する遺構はない。

埋土と遺物出土状況 東西  $7 \text{ m} \times \text{南北} 5 \text{ m}$  の範囲で土器片が出土した。すぐ南側(第  $57 \cdot 58$  図の 4 号墳)や東側(第 80 図 A A')の土層に対比すると、表土(I 層)の上半部~下半部の境界付近に相当するレベルで遺物が出土している。したがって、古墳群の周溝が埋没した後にもさらに植物の根などで撹乱作用を受けた層に相当する。テフラ(層や粒など)は認められない。

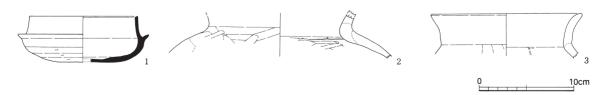
出土遺物中には、古墳群とは無関係と考えられる遺物も少量含まれる。現地で番号を付けて取り上げている土器片87点のうち9点は近~現代と思われる土管の破片で、東半部に多く見られるので、少なくとも東部には撹乱部を含むと思われる。出土状況図には、これらの無関係遺物(前述の近~現代土管および縄文土器・石)を除外して、ドットを表示した。

遺構間接合 SX-16 から出土した須恵器甕頸部破片 1 片が、3 号墳出土の須恵器甕(第 52 図 2)に接合できた。この甕自体は、本来 3 号墳に伴う遺物であろう。

出土遺物 遺物数は少なく、小サイズのコンテナ(内法長  $54 \times \text{幅 } 34 \times \text{深} \geq 10 \text{cm}$ )に半分程度である。 3号墳に伴うと思われる須恵器甕の破片 1 点(前述)を除くと、須恵器杯と土師器甕がみられる。そのうち、図に $\bullet \cdot \bullet \cdot \bullet$ で記入した 3 点の土器が主なものである。他に少量の破片が出土した(図に $\times$ で記入)。

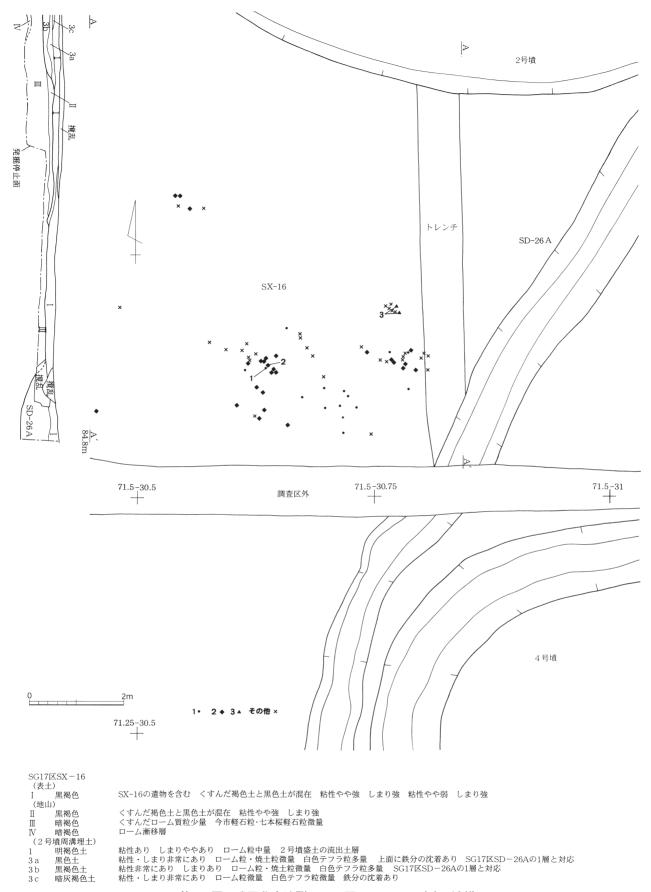
出土遺物(第79図1~3) 須恵器杯身(1)は、1号墳出土の須恵器杯身(第35図2)と形状や焼成・ 自然釉の状況が比較的類似し、受部の下側が強く窪む形も共通する(pp.69,72 および写真図版 68 を参照)。 ただし両者は別個体である。須恵器はこの他に3号墳から混入した甕頸部が1片あるだけである(上記「遺 構間接合」の項を参照)。

土師器は甕だけが見られる(2・3)。3個体分以上の破片があると思われる。どの甕も破片数が不足して十分に復原できない。周辺の各古墳から出土した土師器甕の、ある程度破片数があって復原できる個体と比較してみた範囲では、同一個体の甕は確認できなかった。



第79回 磯岡北古墳群 SG17区 SX - 16(1) 遺物

第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区



第80回 磯岡北古墳群 SG17区 SX - 16(2) 遺構

第30表 磯岡北古墳群 SG17区 SX - 16 出土遺物

番号			色調	出土状態
種類	大きさ(cm)	特徴	胎土·焼成	残存状態
材質			(または素材)	注記
1	口 復11.4	外面の受部下側がやや明瞭に折れる。口縁端部は少し広い斜面状。	5B4/1 暗青灰	I 層出土の 15 片が接合
杯身	高 4.8	内面のナデと外面のケズリは、どちらもロクロ左回転(反時計回	やや緻密 白礫〜細砂	口1/6周 受部3/4周
須恵器	最大径 13.8	り)。受部外周の上面に灰をかぶり、蓋を被せて焼成した痕を残す。	多。灰色礫・砂少。	14.25.33~40.65.69.75.
			硬質	78.81
2	高 残 4.9	頸部が厚くてやや重い。胴部中位以下は破片不足で接合できない。	7.5YR5/3 にぶい褐	I層出土の29片が同一個体
甕		肩部は外面ナナメヘラナデと内面ヨコナデ後、頸部内外面に丁寧	やや粗い 黒・白・透明	頸2/3周
土師器		なヨコナデ。	砂〜細砂やや多。灰色・	1 · 3 · 4 · 13 · 15 · 17 · 18 · 20
			白礫。	~28.57~60.64.70.73.
			硬質	80.83.84.86
3	口 復16.0	胴部外面タテナデと内面ヨコヘラナデの後、口~頸部内外面に丁	5YR5/4 にぶい赤褐	I層の2片が接合
甕	高 残 4.7	寧なヨコナデ。	やや粗い 赤細〜粗粒	口 1/12 周
土師器			と黒・透明細砂と白細	44 · 45
			粒。白礫少。 硬質	

第31表 磯岡北古墳群 SG17 区 SX - 16 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

		杯蓋	杯身	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	小形土器	壺	大形壺	甕	小形甕	小形甑	その他
器	口縁部計測										0.1 周			
	口縁部										3			
	体部										有			
	底部										2			
須恵 器	口縁部計測		0.17 周											
	口縁部		2											
	体部		有								頸部 1			
	底部													
土師	士師器甕は3個体以上の破片があると思われる。須恵器甕頸部1片は、3号墳の須恵器(第52図2)に接合した。													

縄文土器・石器および近~現代の土管と思われる破片が少量混入。

## 4.2.3. 埴輪棺·小石室·土壙墓

磯岡北古墳群内には、古墳以外の埋葬施設として埴輪棺1基・竪穴式小石室1基・土壙墓5基がある。

### 【埴輪棺】

1995 年度確認調査区で、磯岡北9号墳の周溝南西外側に1箇所ある。磯岡北古墳群の未調査部分におけ る今後の発掘調査で埴輪棺が増加する可能性もあるので、これを「1号埴輪棺」と呼称しておく。

**1号埴輪棺**(第 81 ~ 85 図、写真図版 38・77 ~ 79)

概要 4点の円筒埴輪(完形2個体と破片2個体分)で土壙内に構成した埋葬施設。東方の土壙墓(SG17 区 SZ - 21) とともに、9号墳および宇都宮市調査 B区 1号墳(第8図)周辺の墓壙群を構成する。磯岡北 古墳群で発見された埴輪棺は1基だけだが、今後の調査で増える可能性もあるので、これを「1号埴輪棺」 とする。現地調査時の遺構名は、東谷・中島地区確認調査 (UT - TN) の「TX66 - 30 S - 1」である。

調査経緯と位置 1995(平成7)年度の確認調査時にトレンチ内で調査した遺構である(第8図)。 1995年10月上~中旬に、「TX66」と名付けた試掘トレンチを重機で掘削して遺構の有無や密度を確認し ていた作業時に、埴輪棺を検出した。この時は確認調査なので、他の遺構は平面形を確認するだけに留めて いたが、この埴輪棺は実測と写真撮影を行なって全掘し、遺物も取り上げた。

位置は 66 - 30 グリッドにあり、SG17 区南部にある 9 号墳調査区の南西側である。 9 号墳の周溝南西外 縁からの距離は約11mである。この地点は、その後の2004年度に宇都宮市教育委員会が発掘調査した「磯 岡北遺跡 B 区」の範囲内にも重なっていて、9号墳と宇都宮市 B 区 1号墳のほぼ中間地点である(第8図)。

規模と構造 2本の円筒埴輪を組み合わせ、さらに別の2個体の円筒埴輪破片を使って両小口・透孔部分・ 2本の接合部付近をふさいでいる。北西側の円筒埴輪は2条突帯、南東側の円筒埴輪は3条突帯である。2 本ともに口縁部を北側に向け、2条突帯埴輪の底部を3条突帯埴輪の口縁部内に入れる。両小口や、3条突 帯埴輪の北東側透孔をふさぐ埴輪片は、墓壙底を少し掘って破片下端部を埋め込んで立てている(断面図 A - A' と D - D' )。

埴輪棺の全長は87cm、内法の径は15~20cm。墓壙は長円形で、規模は上面で長127×幅71cm、底面で長88×幅63cm。確認面からの残存する深さは23cmであるが、埴輪の口縁部が上に出ているので、本来は深さ30cm以上あったはずである。底面標高は南東部で83.46~48m、北西部で83.52m。埴輪内部では東西のレベル差は見られないが、墓壙底面では北西部の底面がやや高い。仮に北西頭位で埋葬したと考えた場合、主軸方位は $GN-55^{\circ}-W$ 。

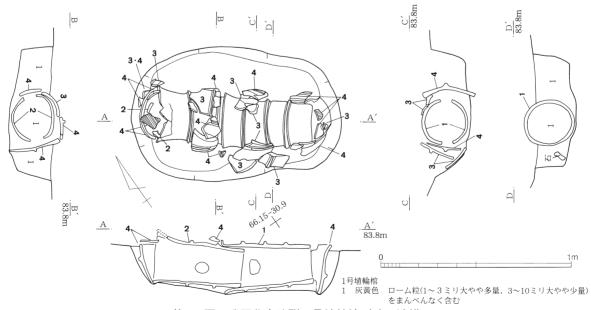
**埋土** 整理作業時に2本の埴輪内の埋土を掘り出して観察した状況によると、内部の埋土は均質である。3条突帯埴輪の外面に付着している土と比較したところでは、埴輪内外の土質に違いが見られなかった。埴輪棺を埋めた時に埴輪の周囲に入れた埋土が、そのまま埴輪内に流入したものと思われる。ローム粒を均等にまんべんなく含む灰黄褐色土である。

遺構間接合 4の下段破片が8号墳出土の17である可能性がある。ただし、破面が接合できる箇所はない。 完形の埴輪を割ってこの棺の被覆に用い、放棄された残りの破片の1片が、8号墳に流入したものであろうか。1号埴輪棺から8号墳までは北へ約70m離れている。

出土遺物 棺内の埋土を篩いにかけたが、遺物は出土しなかった。周辺の試掘トレンチでは土師器杯・甕類と縄文土器胴部小片が少量出土したが、混入と思われる。

棺は、円筒埴輪 4 点で構成されている。南東側の埴輪 (1) だけが 3 条突帯である。 2 と 4 は 2 条突帯で、 3 も突帯の配置間隔などからみて同じく 2 条であったと思われる。 3 はヘラナデ(板ナデ)調整を併用するが、他は一次調整タテハケだけである。基底部が不明の 3 以外は、基底部外面に横方向の擦痕がある点も共通している。基底部以外の段でも外面に擦痕が散発的にみられ、突帯の間隔を設定するための工具を器面に 当てて移動した痕跡かもしれない。内面調整は、1 が粗雑で、2 と 4 は丁寧である。棺の本体を構成する 2 点は上部に赤彩があり  $(1 \cdot 2)$ 、割って隙間を被覆している埴輪には赤彩が認められない  $(3 \cdot 4)$ 。

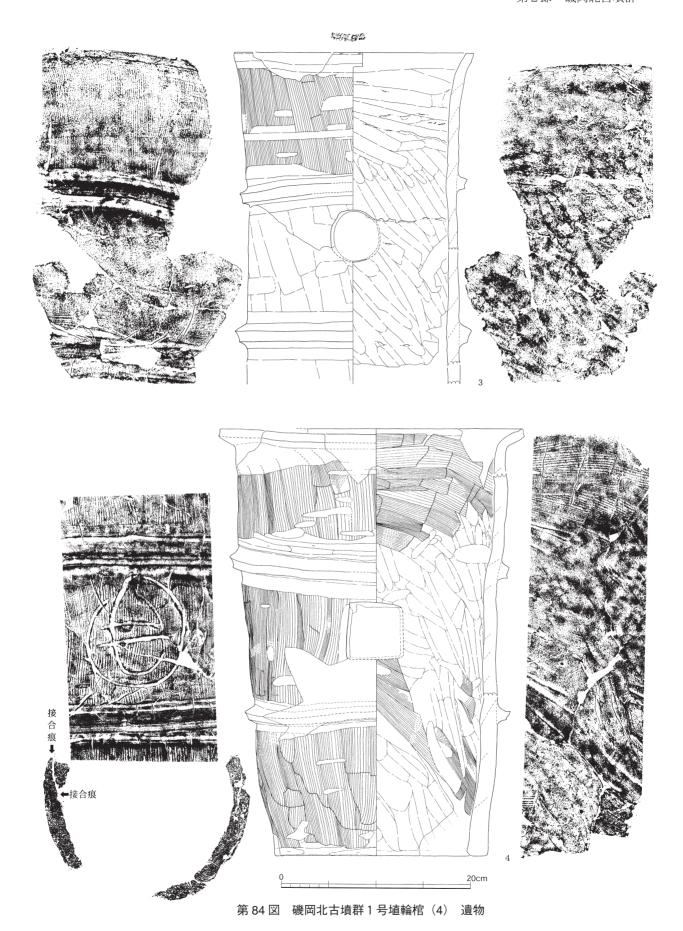
1 は一対の半円形透孔を持ち、これだけが3条突帯。「銀杏葉」形の刻線を片方の透孔の右側に描き、宇都宮市塚山古墳や射撃場内古墳に見られる製品と同一である。内面ナデ調整が雑なことも特徴である。



第81図 磯岡北古墳群1号埴輪棺(1) 遺構

第82 図 磯岡北古墳群1号埴輪棺(2) 遺物

第83 図 磯岡北古墳群1号埴輪棺(3) 遺物





第85 図 磯岡北古墳群1号埴輪棺(5) 遺物

2は2条突帯で二個一組の透孔を対面に配置し、円形と半円形の透孔が共存する点がめずらしい。内面のナデ調整が比較的丁寧であることも特徴である。

3も2・4と突帯間隔が同様なので、おそらく2条突帯と思われる。対面に二個一組の円形透孔を持つ。 上段~中段の約1/3周程度だけをこの棺の被覆に用いていて、底部破片がない。中・下段がヘラナデ(板目) 調整で、上段だけをハケ調整する点が特徴的である。

4は2条突帯で対面に二個一組の方形透孔を持つ。上~中段と下段のそれぞれ別の部分を1/3周前後失っている。上で述べたように、8号墳出土の破片(第72図17)と同一個体の可能性があるが、接合できる箇所はない。横線(=)と二重丸(◎)状の渦巻きとを組み合わせたような焼成前刻線が中段にある。栃木県下都賀郡壬生町の「上田出土の埴輪棺」とされる二条突帯埴輪にやや類似した刻線が見られ、埴輪全体の特徴も大変良く類似している(水沼1987b)。

第32表 磯岡北古墳群1号埴輪棺 出土遺物

NJ 02 ;		, 立填矸 1 亏 埋 無 化		
番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1 円筒 埴輪	高 47.5 底 22.5 1 段高 12.5 2 段高 24.5 3 段高 36.0 口縁長 11.5 器厚 1.2 ~ 3.0 重 9.18kg 透孔 縦 5.0 × 横 7.8	幅8.5cmの粘土帯を1周して基部を成形。下2段ハケメ→下の突帯2条貼付け→上2段ハケメ→上突帶1条貼付けの順に施工し、上2段ハケメ→の工具が、2条目突帯の上に当たった箇所の消し残りが見られる。突帯貼付後に口縁と突帯部ヨコナデ。ハケは同じ工具を使用するが、上2段が粗密の木目が共存する部位(9~20本/2cm)で2段が粗い部位(9本/2cm)で、工具を使う部位を変える。上2段のハケは右進行と左進行の箇所があり、下2段のハケは左進行。下端外面に擦痕あり、中位2段にも散発的に見られ、いずれもハケメ後で左へ進行する。内面はナデ後ハケの小工程を4回繰り返し、中位と下位に狭いヨコナデあり。透孔は半円右側に刻線あり、上線と左線の先後は不明で下線が最後、刻線の後で透孔をあける。底面に太い丸棒の並列圧痕。上2段外面に赤彩痕あり。最下段外面に擬似黒斑。突帯裾幅17~18mm、突帯端幅7~10mm、突帯高10~11mm。	やや粗い 黒・透明細砂〜砂と灰色 砂・赤粒多。白砂・灰色 礫・赤粗粒。	ほぼ完形 口全周 底全周 「TX66 - 30ハニワ棺南」
2 円筒埴輪	高 46.2 底 19.8 1 段高 14.2 2 段高 28.8 口縁長 17.4 器厚 0.9 ~ 2.0	幅約8cmの粘土帯を1周して基部を成形。積み上げ休止面は2回あり。9本/2cmのタテハケ後に突帯貼付して口縁と突帯部ヨコナデ。タテハケは左から右へ進行する。下端外面にハケメ後の擦痕あり。内面はナナメナデ後に口縁部ナナメハケとヨコナデ。透孔は1対で、1方は半円形(横64×縦6.9cm)。図の対面の円形透孔は時計回りに切り抜く。底面は平坦で、散発的に植物の茎圧痕あり。上段突帯から口縁部まで外面に赤彩痕あり。突帯裾幅18~22mm、突帯端幅12~13mm、突帯高13~17mm。	やや粗い 黒・白砂〜細砂・灰色砂・ 透明細砂やや多。赤粒 と赤・白細粒黒斑なし。	口 5/6 周 底全周 「TX66 - 30 ハニワ棺北」 ・19・23
3円筒埴輪	高 残 39.7 中段長 14.5~16.4 口縁長 13.3~15.0 器厚 1.1~1.3 透孔 縦 5.4	上部二段の1/3周程度だけを棺に使用し、他の部位は見られない。円形透孔が中段に対向して2個あり、切った後に雑なナデ、一方の透孔は正確な大きさ不詳。上段突帯の上5cm、下4cmと上・下段突帯付近にそれぞれ積み上げ休止面。外面は中・下段にタテヘラナデと上段に11本/2cmのタテハケ後、突帯貼付と口縁部ヨコナデ。内面は中・下段ナナメナデ(一部ペラナデ)後、上段ナナメヘラナデ、口縁部ヨコナデ。口縁部出土端面に斜位のヘラ記号「//」あり。赤彩は認められない。突帯鶴幅22~24mm(上段)・27~29mm(下段)、突帯端幅10~12mm、突帯高10~12mm(上・下段とも)。	やや緻密 黒・透明細砂やや多。 白・灰色細砂と赤・白 細粒。白砂・礫少。	割った破片で埴輪棺の接合部・透孔・小口を覆う。 口 1/3 周 2·4·5·7·10·11·15·22·25
4 円筒埴輪	高 45.0 底 21.6 1 段高 15.5 2 段高 30.4 口縁長 14.6 器厚	幅5~6cmの粘土帯を一周して基部を成形。積み上げ休止面は2回あり、各突帯の位置と対応する。粗密が共存する8~20本/2cmのタテハケ後に突帯貼付して口縁と突帯部ヨコナデ。ハケメは左から右へ進行し、上半部ハケメを2段目の下位からつぎ足す場合が多い。ハケメ後に左へ進行する擦痕が2条目突帯の上側と胴部下端の外面にあり、1条目突帯の上側や各段の中位にも散発的に見られる。内面は下半部にナナメナデ後ナメハケ、その後に上半部ナナメナデ後口縁部ナナメハケを施す。積み上げ休止面の小工程を超えて連続する調整を行う。透孔は中段に対向して1対あり、方形で切込み面をナデている。縦6.0×横5.7cmと縦6.3×横5.2cm。中段の透孔の間に刻線が1箇所あり、時計回りに2周の渦巻を描いた後に2本の横線を右から左へ描く、底面は平坦で、圧痕などは見られない。赤彩は認められない。突帯裾幅18~22mm、突帯端幅9~12mm、突帯高10~14mm。	やや粗い 白粗粒・粒多。赤粗粒。 灰礫・透明砂少。	割った破片で埴輪棺の接合部・透孔・小口を覆う。8号墳出土の17と同一個体の可能性あり。口1/4周 底1/2周 1・3・6・8・12・14・16~18・20・21・24~27

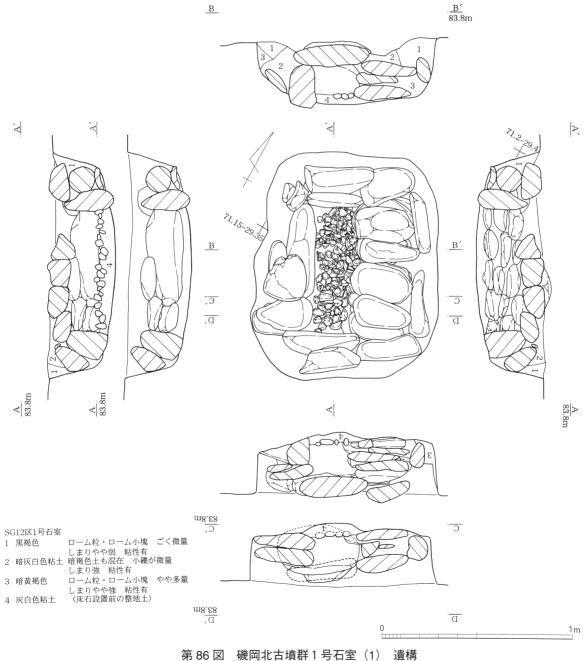
## 【竪穴式小石室】

SG12 区で、磯岡北3号墳の周溝北西外側に1基がある。磯岡北古墳群の未調査部分における今後の発掘 調査で増加する可能性を予想して、「1号石室」と呼称しておく。

# **1号石室** (第86・87 図、写真図版39)

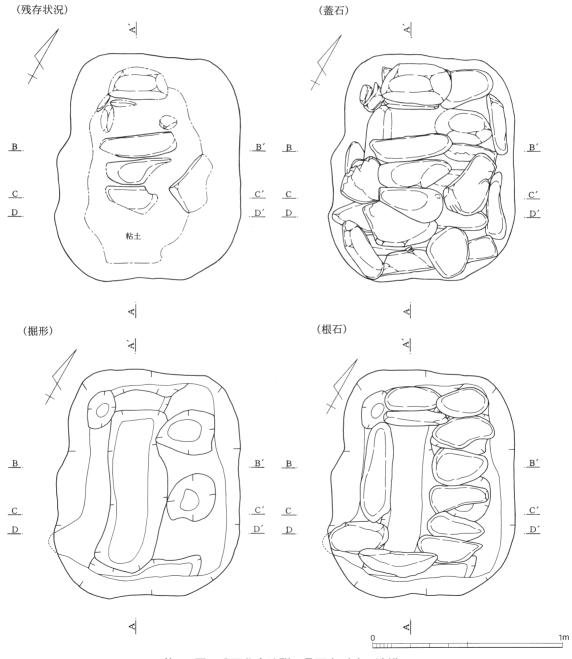
概要 河原石積みの竪穴式小石室である。調査時の遺構名称は「SG12 区 SZ - 21」であるが、同じ古墳 群内の土壙墓である「SG17区SZ-21」とまぎらわしいので、整理作業時にこちらの遺構を「1号石室」 と改称した。

位置 SG12 区の南部 (71 - 29 グリッド) に所在し、4 号墳の周溝のすぐ外側に隣接する。また、この 北側にはやはり古墳中期の土壙墓群がある(SG12  $\boxtimes$  SZ - 22・23・36 および SG17  $\boxtimes$  SZ - 17)。



構造と規模 土坑内に河原石を入れて側壁と蓋石を作り、白色粘土で固定した構造である。掘形埋土は、地山のローム漸移層に由来する黒褐色土にローム小塊を混ぜた土質である。蓋石を壁石に固定する部分では白色粘土を使っている。蓋石は本来5枚と考えられるが、北端の蓋石1個分だけが失われた状態で確認された。石1個だけが撹乱ではずされたものと思われる。蓋石の周囲にも、蓋石と同じ高さの石が壁石の上に配置されている(北側・東側・南東側・南側・南西側・西側に各1個)。

南北の両小口壁は一枚の石を立てて作り、その裏込めとして北側に3個と南側に1個の石をそれぞれ入れている。東壁は3段の河原石小口積みで、裏込めに石を南北各1個ずつ立てて入れる。西壁の南端部は2段の河原石小口積みで、裏込めの石はない。西壁の北半部は特大の河原石を立てて使い、裏込めに河原石を入れていた。



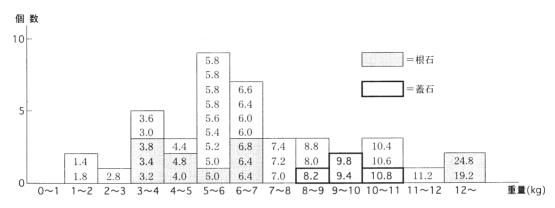
第87回 磯岡北古墳群1号石室(2) 遺構

床面は、灰白色粘土を $3\sim7$  cm の厚さで敷いた上に、径 $2\sim8$  cm の円礫を一重に敷く。床石を粘土にめり込ませるように、あるいは粘土で固定しながら入れたようである。

内法で長さ 66cm・幅  $18\sim 21$ cm・高さ  $13\sim 17$ cm。床面の高さはほぼ一定で標高  $83.37\sim 83.40$ m。掘形の規模は長さ 122cm・幅 99cm・深さ 35cm。主軸方位は  $GN-27^\circ-W$  で、現地で調査時に設定した中軸線 A-A' よりも、北東-南西方向へ、少し振れると思われる。

石室内の流入土(白色粘土混じりの灰褐色土)を篩にかけたが、遺物は出土しなかった。

### 第33表 磯岡北古墳群 SG12 区 1 号石室 石材重量



### 【土壙墓】

古墳時代中期と考えられる土壙墓は、計 5 基を調査した。 4 号墳の北側に 4 基があり(SG12 区の SZ -  $22 \cdot 23 \cdot 36$  および SG17 区の SZ - 17)、竪穴式小石室(SG12 区の 1 号石室)とともに一群をなす。また、南へ離れて 9 号墳の南東にも 1 基があり(SG17 区の SZ - 21)、こちらは 1 号埴輪棺とともに 9 号墳南側周辺で別の一群をなすと思われる。南の群にある SZ - 21 は、粘土と小規模な木棺を用いた木棺墓と考えられる。北の群にある 4 基は木棺を使わない土壙墓と思われるが、SG17 区 SZ - 17 は木棺を使った可能性もある。

### SG17 区 SZ - 17 (第 88 図、写真図版 40)

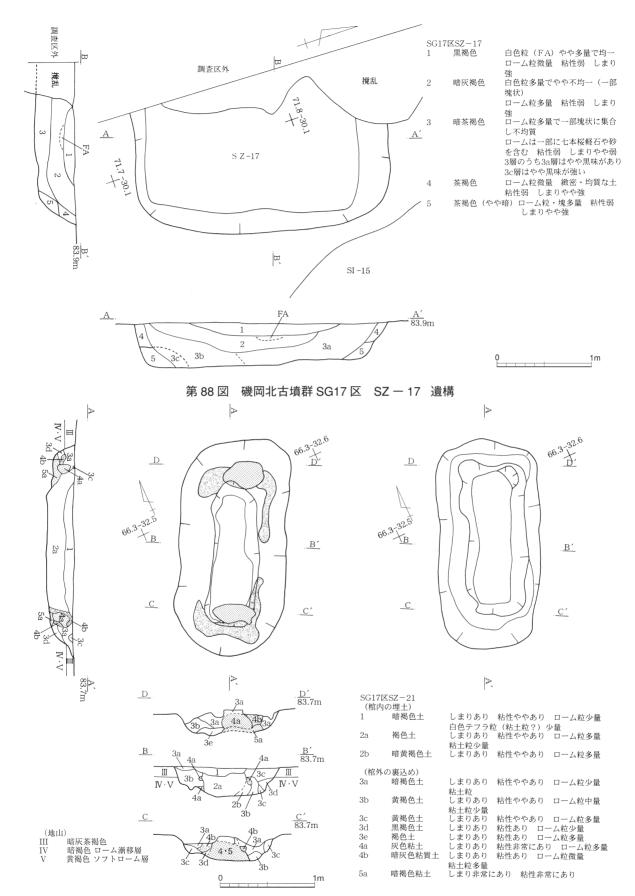
位置 SG17区で調査した遺構で、調査区西部の 71-30 グリッドにある。西側は調査区外(SG12区と SG17区の間の未調査部分)に出るが、この部分はほとんど撹乱で消滅している。重複する遺構はない。

規模と形状 隅丸長方形で、規模は上面で南北長 270 × 東西残存幅 160cm、底面で長 225 × 残存幅 142cm、残存する深さは 47cm。底面標高は北部で 83.46m、南部で 83.38m。北部の底面がやや高いので、北頭位で埋葬した可能性があり、主軸方位は GN-19°-E。

**埋土とテフラ** 棺と断定できる明瞭な痕跡はない。墓壙が幅広く、裏込土層(?)も見られるので、木棺を使った可能性もある。

1・2層は周囲の古墳周溝埋土に類似するので自然埋没と思われ、Hr-FAと思われるテフラの塊や粒を多く含む。遺体が消失して陥没した後に流入した層であろう。3層は人為的な埋め戻し土に壁上位等から流れた土が混ざったような土層で、これを棺痕跡と考えることもできるが、やや幅が広すぎるかもしれない。4・5層がおそらく人為的な埋め戻し土で、裏込土層の可能性もある。

出土遺物 この遺構に伴う遺物はない。混入品と思われる土師器細片と、縄文中期の阿玉台式土器片が少量見られた。後者は縄文時代の遺物集中地点(SG12・SG17区SX - 42)から混入したと考えられる。



第89回 磯岡北古墳群 SG17区 SZ - 21 遺構

### SG17 区 SZ - 21 (第89 図、写真図版 40 ⋅ 41)

位置 SG17 区で調査した遺構で、調査区南部の 66-32 グリッド、 9 号墳のすぐ南東にある。西方にある 1 号埴輪棺とともに 9 号墳周辺に分布する埋葬施設群を構成しているものと考えられる。重複する遺構はない。

規模と形状 墓壙の掘形は隅丸長方形気味の小判形で、墓壙の規模は上面で南北長 228 × 東西幅 125cm、底面で長 140 ×幅 42cm、残存する深さは最大 30cm。墓壙底面はほぼ水平で、標高 83.26m。他の土壙墓や 3 号墳主体部から類推して、北頭位で埋葬したと考えた場合の主軸方位は GN-25°-E。

棺痕跡の横断面形は丸味を持つので(断面図 B-B')、小形の割竹形木棺を使用したと考えられる。棺の底面は長軸方向の北側でやや高く上がってゆくようにも見られるので(断面図 A-A' の A 側を参照)、「舟形」のような形状であった可能性もある。両小口には高さ  $20\sim26$ cm の粘土塊を置く(4a 層と 5a 層)。また、棺蓋と棺身の合わせ目や棺身底の脇にも、4a 層と同質の灰色粘土を少量用いている(断面図 B-B')。棺の大きさは長さ 150cm で、幅はあまり大きな違いはないが北部で少し狭い(北部で 48cm、南部で 52cm 程度)。

埋土とテフラ 棺身を設置した後に、粘土 (4・5層) で固定しながら裏込土 (3層) で墓壙を埋めている。 3層の中では、棺の小口付近に 3a層、棺の両側付近に 3b・3c層の割合が多い。棺内は自然流入土 (1・2層) で、1層には Hr - FA テフラかと思われる粒が見られるが、粘土粒の可能性もある。

出土遺物 伴う遺物はない。埋土を篩にかけたが、混入品と考えられる土師器(高杯?と甕?)の細片が6片出土しただけで、図示できる遺物はない。

## **SG12 区 SZ − 22** (第 90 ~ 92 図、写真図版 41)

位置 SG12 区で調査した遺構で、調査区西部の 71-29 グリッドにある。重複する遺構はない。

規模と形状 隅丸長方形で、規模は上面で南北長  $227 \times$  東西幅 118 cm、底面で長  $204 \times$  幅 96 cm、残存する深さは最大 26 cm。底面は南へわずかに傾斜し、底面の標高は北部で  $83.60 \sim 83.62 \text{m}$ 、南部で  $83.54 \sim 83.60 \text{m}$ 。北部の底面がやや高くて幅も広いので、北頭位で埋葬した可能性がある。主軸方位は  $\text{GN-4}^\circ$  20' - E。

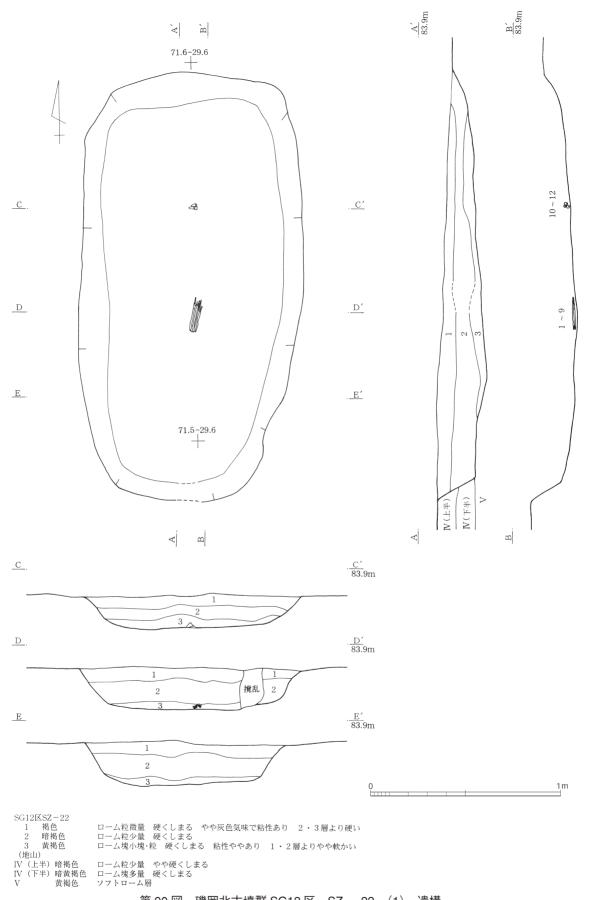
埋土 埋土3層はローム塊が多いので人為的に埋め戻した可能性がある。1・2層はローム塊を含まないので自然に埋没した可能性もあるが、確実ではない。他の土壙墓で確認されたような埋土上層中のテフラが見られないのは、深さが最大26cmしか残っていないことでわかるように、遺体が消滅・陥没した後に流入した上部の埋土が消滅しているためかもしれない。この点はSZ-23と同様である。

**遺物出土状況** 鉄鐸3点と鉄鏃1束が埋土3層に覆われて底面で出土した。3点の鉄鐸は、並べて吊すようにまとめたものを、横に寝かせて置いたような状況である。これらの他には、混入と思われる土師器小破片が1点ある。

### **出土遺物**(第 92 図 1 ~ 12、写真図版 87)

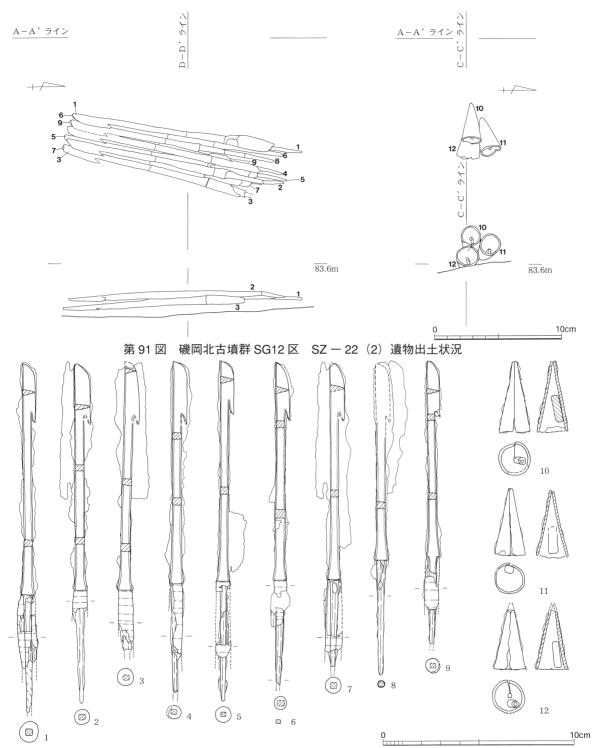
鉄鏃は、9本が1束になる。2号墳・3号墳出土例と同様の片刃鏃で、逆刺(腸抉)が深く、茎関部は台 形関である。

鉄鐸は同工品で、3点出土した。厚さ1mm強の薄い鉄板を円錐形状に巻いたもので、頂上部には小さな 孔が残る。鐸の内面には、やはり鉄板を巻いて成形したと思われる舌が銹着して残る。この舌の頂部には、 吊り下げるための環状部などを造りだしていないようである。



第 90 図 磯岡北古墳群 SG12 区 SZ - 22 (1) 遺構

第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区



第 92 図 磯岡北古墳群 SG12 区 SZ - 22 (3) 遺物

第 34 表 磯岡北古墳群 SG12 区 SZ - 22 鉄鏃

			鏃身部		鏃身+	頸	部	茎関部	茎部			取上
No.	全長	長	幅	厚	頸部長	幅	厚	幅	長	矢柄径	その他	番号
1	残 184	31	$7.0 \sim 7.5$	2.6	122	4.5	3.5	約 7.0	残 62	$10.9 \sim 11.2$	茎部にラセン状の繊維巻	4 - 5
2	180	推 32	約 8.0	3.0	119	5.0	$3.0 \sim 3.8$	約 7.0	60	$7.8 \sim 8.2$	逆刺部は銹で不明瞭	4 - 8
3	残 150	残 30	7.5 以上	2.6 以上	残 119	$5.0 \sim 5.5$	4.8	約 7.5	残 31	8.5	鏃身部は2・5が銹着し不明瞭	4 - 9
4	残 175	推 33	$7.0 \sim 7.5$	約3	117	5.0	$3.5 \sim 4.0$	約 7.0	残 58	$7.7 \sim 8.0$	逆刺部は銹で不明瞭	4 - 3
5	179	28	$7.5 \sim 8.0$	$2.0 \sim 4.0$	116	4.5	4.0	約 7.0	63	$8.6 \sim 9.0$	深い逆刺部が比較的明瞭	4 - 6
6	残 171	31	$7.0 \sim 7.5$	$3.2 \sim 4.0$	115	5.0	$3.5 \sim 4.5$	約 7.0	残 56	$6.9 \sim 7.0$		4 - 1
7	残 160	推 31	$7.5 \sim 8.0$	約 4	推 114	5.2	3.8	約 7.5	残 46	9.0	逆刺部は銹で不明瞭	4 - 7
8	164	不詳	不詳	不詳	104	5.0	3.8	7.1	60	不明	鏃身部は銹で不明瞭	4 - 4
9	残 149	残 27	$7.0 \sim 7.5$	2.8	104	$4.6 \sim 4.8$	$3.2 \sim 3.3$	約 7.0	残 45	7.0	逆刺部破損	4 - 2

(単位:mm)

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	材質	出土状態 残存状態 注記
1~9 鏃 鉄製品	(9 本合計) 個別の大き	腸抉(逆刺)の深い片刃鏃で、茎関部は台形関。9をみると茎関部の前後面には段を持たずに茎側へ次第に薄くなってゆく。頭部・茎部ともに横断面は長方形で、1と8では矢柄に差し込む前に茎にラセン状の繊維を巻くらしい。口巻は樹皮。互いに銹着しているが図上で分離して作図した。		土壙の底面で、9本が互いに銹着して出土 切先はすべて南向き ほほ完形(一部欠あり) 4
10 鉄鐸 鉄製品	径 16.0 ~ 17.5	厚さ 1.2mm 程度の鉄板を円錐形に巻いて作り、端部は重ねないで突き合わせる。頂部は径 0.8 ~ 0.9mm の小孔になる。舌は長 14 ×径 4mm の棒状で、吊り下げ部は X 線写真でも認められない。舌の中央部が空洞化して見えるので、舌も鉄板を巻いて作った可能性がある。		土壙底面に置かれた2 点の上に載る 完形 1
11 鉄鐸 鉄製品	径 15.3 ~ 16.4	厚さ 1.0mm 程度の鉄板を円錐形に巻いて作り、合わせ目は下半部に少し隙間が空く。頂部は 1.0mm の小孔になる。舌は X 線写真でも上端部の形状が不明瞭で、長さ 13 ~ 14mm またはそれ以上、径 4mm。		土壙底面にあり、底面 に接する2点のうち北 側 完形 2
12 鉄鐸 鉄製品	径 残 16.2 ~ 17.8	厚さ $1.0\sim1.2$ mm 程度の鉄板を円錐形に巻いて作り、合わせ目は下半部に少し隙間が空く。舌は長 $13\times4$ 2 $\times4$ 3 $\times4$ 4 mm の棒状で、吊り下げ部は $X$ 線写真でも認められない。舌は鉄板を巻いて作った可能性が高い。		土壙底部にあり、底面 に接する2点のうち南 側 頂部欠 3

第35表 磯岡北古墳群 SG12区 SZ - 22 出土遺物

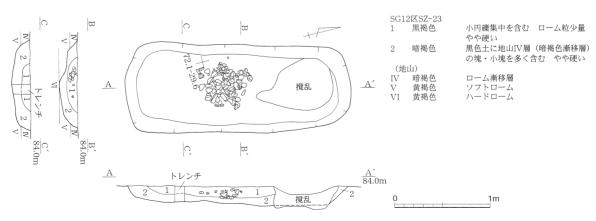
### SG12 区 SZ - 23 (第 93 図、写真図版 42)

位置 SG12 区で調査した遺構で、調査区西部の72 - 29 グリッドにある。重複する遺構はない。

規模と形状 隅丸長方形で、規模は上面で南北長 239 × 東西幅 98cm、底面で長 213 ×幅 80cm、残存する深さは最大で 21cm。底面は北へわずかに傾斜し、標高は北部で 83.69m、南部で 83.73  $\sim$  83.75m。南部の底面がやや高くて幅もやや広いことからは、南頭位で埋葬した可能性も考えられる。しかし他の土壙墓や3号墳が北頭位で埋葬していることから見ると、ここだけが南頭位であると考えて良いかどうかは疑問が残る。北頭位と見なした場合の主軸方位は  $GN-14^{\circ}-E$  (南頭位と見なした場合は  $GS-14^{\circ}-W$ )。

**埋土とテフラ** 埋土 2 層にローム塊が多いことや、1 層中に小円礫群が入れられていることからみて、人 為的に埋め戻した層と思われる。他の土壙墓で確認されたような埋土上層中のテフラが見られないのは、深 さが最大 21cm しか残っていないことでわかるように、SZ - 22 と同じ理由(遺体が消滅・陥没した後に流入した上部の埋土が消滅しているため)かと思われる。

出土遺物 埋土を篩にかけて遺物の有無を検討したが、混入品と思われる小さな木の実(核)が 2 点だけ見つかり、他には何も出土しなかった。小円礫は径  $2\sim4\,\mathrm{cm}$  の丸い礫で、中央部の 1 層中にまとめて入れられていた。



第 93 図 磯岡北古墳群 SG12 区 SZ - 23 遺構

### SG12 区 SZ - 36 (第 94 図、写真図版 42)

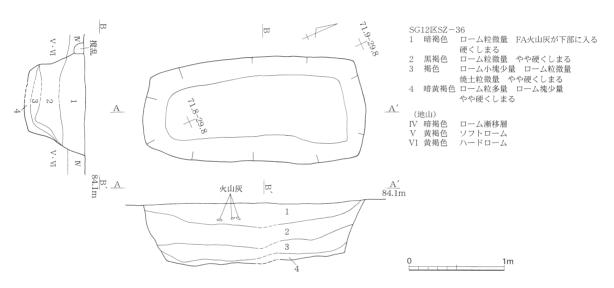
位置 SG12 区で調査した遺構で、調査区西部の 71-29 グリッドにある。重複する遺構はない。

規模と形状 隅丸長方形で、規模は上面で南北長 236×東西幅 114cm、底面では長 194×北部幅 70cm・南部幅 60cm、残存する深さは 59cm (北部) ~ 66cm (南部)。

底面は南へ傾斜し、底面の標高は北部で  $83.35 \sim 83.42$ m、南部で  $83.28 \sim 83.32$ m。北半部が幅広くて底面もやや高いので、北頭位で埋葬した可能性があり、主軸方位は  $GN-24^{\circ}30'-E$ 。

**埋土とテフラ** 1層は、周囲の古墳周溝埋土と同様に Hr-FA と思われるテフラの塊や粒を含むので自然埋没と思われる。遺体が消失して陥没した後に流入した層であろう。 2層も、黒褐色でローム塊を含まないので同様の可能性が考えられるが、確実ではない。 3・4層はローム塊を含むので、人為的に埋め戻した可能性がある。

出土遺物 この遺構に伴う遺物はない。縄文中期の遺物集中地点(SG12・SG17 区 SX — 42)から混入した阿玉台式土器片が少量ある。



第 94 図 磯岡北古墳群 SG12 区 SZ - 36 遺構

# 第3節 古墳時代の竪穴建物跡と土坑

### 4.3.1. 古墳時代中期の竪穴建物跡

古墳時代の竪穴建物跡は、SG17区の南部で1棟だけを調査した(SI - 11)。この周辺を宇都宮市教育委員会が調査した磯岡北遺跡「B区」では(宇都宮市教委 2005b)、SI - 11 のすぐ東にある掘立柱建物跡(B区 SB001)や、9号墳の東西に各 1棟ある辺長 9 m の大形竪穴建物跡(B区 SI001 と SI002)が調査されていて、SG17区 SI - 11 と主軸が揃う。B区の遺物が未報告の現段階では確定できないが、SG17区 SI - 11 とこれらの建物が同じ集落を構成する可能性がある。

#### **SG17 区 SI - 11** (第 95 ~ 97 図、写真図版 43・44・88)

**位置** SG17 区の南側に飛び離れた 9 号墳の調査区に所在し、67-31 グリッドにある。北西部が時期不明の土坑 SK -19 と重複する。SI -11 と SK -19 の埋土層の重複関係は不明瞭であったが、SI -11 の掘形埋土(貼床土)が SK -19 を切っていることを確認できたので、SI -11 のほうが新しいと思われる。

規模と形状 ほぼ正方形の建物跡。東西  $5.1 \times$ 南北 5.0m、壁の残存高さは最大 52cm。炉を通る方位(A -A' ラインとほぼ近い方向)を主軸とした場合、主軸方位は  $GN-17^\circ-W$ 。

主柱穴は 4 本で、柱穴の形状から推定した柱径  $12 \sim 14$ cm、床面からの深さ  $39 \sim 42$ cm でほぼ一定するが、 南西柱穴 (P4) だけはやや浅い (34cm)。

入口施設と考えられる柱穴は、床面では確認することができなかったが、中央より少し南側の貼床土を除去した下で3箇所の小穴が確認されている(P6~P8)。どの穴も深さは同様で、床面から下へ20~26cmのレベルに底面を持つ。このうち P7 は、間仕切り溝と思われる窪みを南側に持つ。これら複数の小穴と溝は、入口施設の作り替えによって掘り直された結果ではないかと思われる。南東主柱穴 P3 の南西 60cm の地点にも床面から深さ約 10cm の小穴(P5)があり、これも同様の可能性がある。

また、南壁中央に接する所でもやはり床下で小穴が確認されている (P9)。これは床面より下 21cm の深さがある。こちらの穴は壁面に近すぎるので、入口の梯子穴と考えるには少し無理がある。

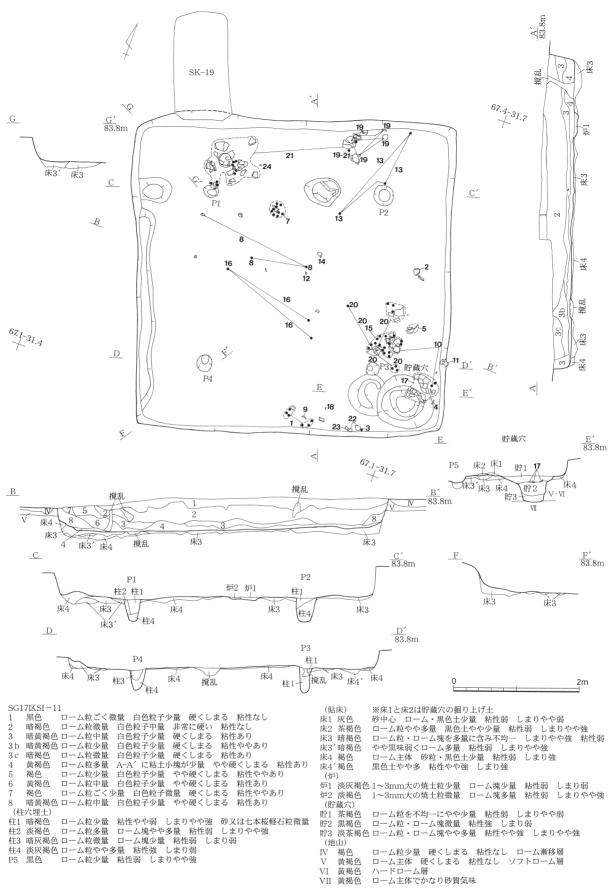
貯蔵穴は南東隅にあり、東西 91 × 南北 84 ×深さ 36 ~ 40cm。貯蔵穴底面の地山はかなり砂質傾向の強いローム層である(地山 VII 層)。貯蔵穴の西側には床面が 4~6 cm ほど高まる盛り上がり部分があり、土質からみて貯蔵穴を掘り上げた土を積んだものと見られる(断面図 E-E'の床 1 層・床 2 層)。この高まりの北端に接して P3 がある。

間仕切溝は南辺と西辺に向かってそれぞれ 2 本ずつある。どれも床面では確認できず、貼床土を除去した下で確認した。南側に向かう 2 本は床面より下  $18 \sim 19$  cm のレベルに底面があり、柱穴の項で上述したように、入口施設の柱穴 P7 と対応する位置にある。西壁に向かう 2 本は北溝と南溝の 2 本があり、北溝は床面から  $18 \sim 21$  cm、南溝は床面から  $12 \sim 16$  cm のレベルに底面を持つ。南溝は P4 に接続している。

周溝は見られない。むしろ逆に、西壁に沿った部分は、床面レベルよりも  $4\sim5\,\mathrm{cm}$  ほど一段高くなる帯状の部分が見られる。同様に東壁に沿った部分も、貼床土がやや厚くて床面が高くなる(東西断面図 B-B' および C-C')。南北の壁際では明瞭な高まりがない(南北土層断面図 A-A')。

通常の竪穴建物跡の貼床土は粘性のあるローム塊が主体であることに比べると、この SI - 11 の貼床はや や異なり、貼床土のうち床 4 層は砂粒を含むロームであった。貯蔵穴の底面に見られるような砂質ローム層 (地山 VII 層)を用いたのであろう。

### 第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区



第 95 図 磯岡北遺跡 SG17 区 SI - 11 (1) 遺構

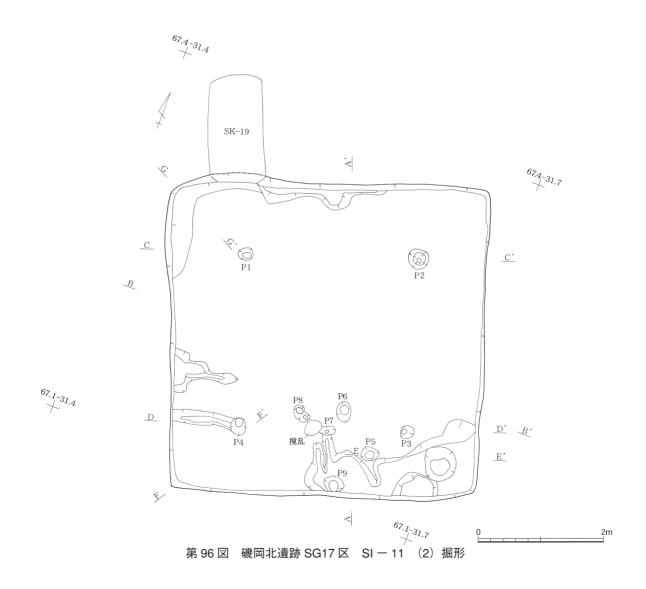
炉 北側の主柱穴の間にあり、少し東側に寄る。円形で東西  $58 \times$  南北 46cm。底面は北側が低くなり、床面からの深さは南部で  $3 \sim 4$  cm、北部で 6 cm。炉の東壁面付近が比較的よく焼けていた。

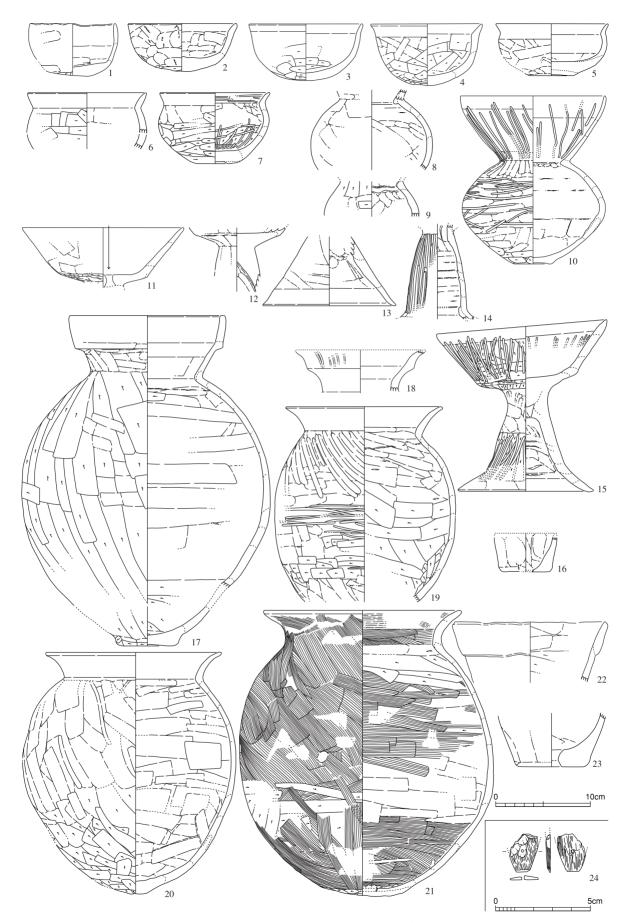
**埋土とテフラ** 自然埋没と思われる。テフラの可能性がある白色粒子を含む層が見られ、埋土2層にやや 多いようである。最下層の4層には白色粒子が認められない。

遺物出土状況 北部と南東部に遺物がまとまっている。遺存度の高い土器が床面付近に多い。これに対して、小さな土器片は埋土 1 層に多く見られた。床面から 10cm以上離れて出土した破片は、11・18・22 である。

遺構間接合資料 杯(6)と大形壺(18)は、9号墳とSI-11で同一個体の破片がみられ、後者は両遺構出土の破片が接合した。先行するSI-11の遺物が、9号墳の周溝などに流入・混入したものであろう。

出土遺物 あまり磨かないでやや雑に仕上げた杯・小形壺・高杯が見られ、特に杯に目立つ。杯類は、深くて口径が小さく、丸底と平底がともに見られる。口縁部に段を持つような「模倣杯」はない。口縁が外反する杯(3~6)と、半球状でかなり仕上げが粗雑な杯(1~2)がある。2も口縁端はわずかに外反気味である。杯類の内面へラケズリ仕上げ(3・4・7)は、この地域の古墳中期ではあまり一般的ではない。高杯の15は脚上端に粘土塊を充填する。14は非常に薄くて脚中位がふくらむ点に古い特徴を残す。11は高杯の杯部に穿孔して甑に転用したものかと考えられる。小形土器も見られる(16)。17・18は二重口縁状。





第 97 図 磯岡北遺跡 SG17 区 SI - 11 (3) 遺物

甕類は、器壁が薄いものが目立つ。 $20 \cdot 21$  のような尖底状または底部の小さい甕は、谷をはさんだ西側にある立野遺跡 5 区 SI-21,29,56,60,63,199 でも認められ(内山 2005)、同遺跡編年の第 2 段階( $TK73 \sim 216$  型式並行期)に多い。この磯岡北 SG17 区 SI-11 も、同じ時期に該当する遺構と考えられる。小形甑は調整が粗雑で、すぐそばで出土した 22 と 23 が同一個体かもしれないが、断定はできない。石製模造品はかなり薄くて図下側の先端部が製作時に折れた状況で、剣形品として製作した可能性もある(24)。

第36表 磯岡北遺跡 SG17区 SI - 11 出土遺物

AD 30 3	表 30 衣 一										
番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徴	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記							
1 杯	口 9.0 高 5.6 最大径 9.5	半球状で底部外面は外周が丸底気味、中央が平底気味。外面底部 に円周方向ヘラケズリ、内面底部に円周方向ヘラナデ。内外面体 部ヨコナデで、口縁部の仕上げはあまり丁寧でなくやや波状。全 体が磨滅して調整が不明瞭。	10YR8/3 浅黄橙 やや緻密 白細粒やや	ほぽ床直上の2片が接合							
2 杯 土師器	口 11.5 高 5.1 底 6.3	半球状で口縁部はわずかに外反気味。外面は体部ユビオサエとナデ後に底面を円周方向にヘラケズリし、丸底状だが体~底部境は明瞭。内面は底部ナデと体部ヨコヘラナデまたはナデ。口縁部内外面はあまり丁寧でないヨコナデ。全体に仕上げがやや雑。	やや粗い 白・赤細粒と								
3 杯 土師器	口 復 12.0 高 6.0	口が外反し、内面頸部に稜を持つが、外面では弱い。内面体部ヨコヘラナデと内面口縁部〜外面体部に丁寧なヨコナデの後、内外面底部に小単位の多方向ヘラケズリで丸底に仕上げる。口縁部の遺存度が少ないので口径の復原は参考程度の精度しかない。	粗い 白砂・赤粗〜細 粒。灰色・黒砂〜細砂。 白細粒。 やや硬質	74							
4 杯 土師器	口 11.8 高 6.5	口が外反し、内面頸部の稜と外面口縁端部の縦位面が明瞭。外面体部ヘラナデ後底部ヘラケズリ(外周横位と中央部1方向)、内面ヘラケズリ(体部横位と底部多方向)。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。	やや粗い	貯蔵穴上縁から下へ 15cm(穴底上 27cm) 口 5/12 周 73							
5 杯 土師器	口 11.8 高 5.5 底 4.7	口が外反し、頸部の稜は内面で明瞭。外面は体部下位〜底面をナデで凹底に成形。体部上位はヘラナデおよびナデ。内面下半に多方向ヘラナデ、内面上半〜外面頸部に丁寧なヨコナデ。		ほぽ床直上 口 2/3 周 66							
6 杯 土師器	口 復12.5 高 残 5.8 最大径 復12.7	口が外反し、頸部の稜が特に内面で明瞭。体部に外面ヨコヘラケズリと内面ヨコヘラナデ後、内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。		SI-11 の 2 片 (詳しい位置不明) に 9 号墳出土の 4 片が接合 口 1/12 周 SI-11 (2片) SZ-9 (4片) 356・890・891・892							
7 杯 土師器	口 11.5 高 7.5 最大径 11.7	口が外反し、内面頸部に明確な稜を持つ。底面外周に粘土を貼り付けて外周をケズリ、中央は無調整のまま上げ底に仕上げる。体部は内外面ナデ後、内面上位にヨコヘラナデとヨコヘラケズリをしてから口縁部内外面に丁寧なヨコナデと内面ヨコヘラミガキ、体部下半外面ヨコヘラケズリ。内面は下位に放射状および中位に横位のヘラケズリ後、ヘラミガキ。	やや粗い 白細砂・灰 色細砂・赤粒。 やや硬質	ほぼ床直上 口 5/6 周 底全周 42·89·北ベルト							
8 小形壺 土師器	復 13.0	体部は外面にヘラナデ(中位で斜位、上位で横位)、内面に下位 ナナメヘラケズリ後、中〜上位に斜位と横位のナデ。頸部内面に やや厚く粘土を貼り付けて、内外面にヨコナデ。頸〜体部の内面 全面に炭素が吸着して黒色化するが、意図的かどうかは不詳。	やや粗い 黒砂・細砂 多。透明砂〜細砂。赤・ 白細粒。赤粒。 やや硬質								
9 小形壺	高 残 3.7	外面は肩部タテヘラケズリ後、体部中位ヨコヘラナデと一部ヨコ ヘラケズリ。内面は体部ユビオサエ後に肩部粘土積み上げ痕を無 調整のまま残し、頸部下端ヨコヘラナデ。		床上 7cm 頸 1/2 周 79・西ベルト							
10 小形壺 土師器	口 15.4 高 17.8 底 3.9 最大径 15.4	下段ヨコヘラケズリ後、中位に疎らなヨコヘラミガキ。体部内面は下半部ヨコヘラナデ、上半部ユビオサエと軽いナデ。頸部は内外面ともにヘラナデ後、口縁部に丁寧なヨコナデと頸部に疎らなタテヘラミガキ。胴中位外面に 15cm 大の黒斑あり。	細砂・赤粒〜細粒多。 白粒と透明灰色砂。 やや硬質	土) ほぼ完形 口5/6周 底全周 67·71·72							
11 高杯 土師器	口 17.0 高 残 6.3	転用甑の可能性あり。脚の接合部で折損した面を雑に研磨し、杯 部底面に最小径5~8mmの楕円形の孔を、焼成後に削るように して穿孔している。外面は杯底部放射状と杯体部斜位のヘラナデ 後、杯底部外周ヨコヘラケズリ。内面は磨滅して調整不明。	やや粗い 赤細〜粗粒	· · · · -= /· •							

312. H			<i>h</i> . ≃□	11: 1. 3 b #8
番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
12 高杯 土師器		杯部の内底面が粘土積み上げの休止面。外面は全体をタテナデ。 杯部内面は磨耗して調整不詳。脚部内面はナナメユビナデ。	5YR7/6 橙 粗い 赤細粒〜粗粒多。 白細粒・黒細砂少。 軟質	床上3cm 52
13 高杯 土師器	脚裾径 復 14.0	ヨコヘラナデの後、脚裾部に丁寧なヨコナデ。脚裾はわずかに外 へ折れる。	やや粗い 黒砂・細砂 やや多。赤粒と赤・白 細粒。透明砂・白礫少。 やや軟質	1.39.40
14 高杯 土師器		脚柱部は薄く丁寧で、脚裾に移るところから厚くなる。外面は丁 寧なタテヘラミガキ。内面は上端部タテナデ、中位以下は粘土紐 の接合痕を残すがやや丁寧なヨコナデ。脚上端内面のナデ後に絞 り目状のシワを生じている。	やや粗い 透明・黒細砂と白細粒やや多。 白砂少。 やや硬質	床上1cm 脚柱全周 53·北ベルト
15 高杯 土師器	口 18.1 高 18.0 脚裾径 復 14.3	脚上端を粘土塊で閉塞して作る。脚外面は上位にヘラナデとナナメナデの後、下位に縦位のヘラケズリとヘラミガキ、裾部ヨコヘラナデ後に軽いナデ。脚内面は粘土積み上げ痕が残る程度の粗いヘラナデ後に裾部を丁寧にヨコナデ。杯外面は底~体部タテヘラケズリと体部下半ヨコヘラケズリ後、内外面の口縁部にヨコナデと体部にタテヘラミガキ。杯内面下半は使用により磨滅。	やや緻密 赤粒やや多。 赤細粒・白粒と黒・透 明細砂。	床直直上 口全周 脚裾1/4周 68·85
16 小形 土器 土師器	高 残 3.9	粘土紐づくりではなく、おそらく粘土帯を輪状に1周させて重ねて体部とし、底部は指で下方に押し出して成形。底部中央付近は非常に薄い(厚さ2mm)。底面を含む全面にやや雑なナデ。		
17 大形壺 土師器	高 推 34~35 底 6.6	胴〜底部境が接合できないので器高は推定。外底面は多方向ヘラケズリでやや上げ底。外面は胴部ナナメヘラケズリ(中位の一部にヨコヘラケズリとヨコヘラナデ)、頸部に斜位ののち横位の雑なナデ、口縁部にヨコナデ。内面は胴〜底部ヨコヘラナデ、肩部ユビオサエとヨコヘラナデ、頸部ヨコヘラナデ、口縁部ヨコナデ。	やや粗い 黒・透明砂 〜細砂と白砂・粒・細 粒多。白礫・赤細粒少。	
18 壺 土師器		外面頸部下端の胴部と接合する箇所は明瞭に外へ折れる。頸部と口縁部はその境に丸味のある稜を持ってそれぞれ外へゆるく開き、二重口縁状になる。全体が磨滅気味で調整が不明瞭。口縁部外面を縦位に磨いている可能性もある。内面調整は全く不明。	やや粗い 赤細粒〜粗 粒やや多。白細粒と透 明・黒細砂。白砂少。 やや軟質	
19 小形甕 土師器	高 残 20.6 最大 径 19.1	比較的薄くて軽い。外面胴部は斜位(中位は横位)の幅がやや狭いヘラナデ。中位下半の約 1/3 周にはヨコヘラケズリ後ヨコヘラミガキ(外面図参照)。内面胴部はナナメヘラナデ後に下半部ヨコーナナメヘラケズリ。内外面口縁部に丁寧なヨコナデ。外面全体にススが付着し、特に胴部上半に多い。	やや粗い 白細粗粒と 透明・灰・黒細砂と透明・ 灰色礫多。 やや硬質	床直上~床上11cmが接合 口5/6周 32~37
20 甕 土師器	高 25.6 底 1.7 最大	胴部が薄い。外面は下半部に斜〜横位ヘラケズリで底面を極小の 円形に削り、尖底気味に仕上げる。胴上半ナナメヘラナデ。内面 は胴下位に強いヘラナデ、上〜中位にごく浅い木目のある板でヨ コヘラナデ。口縁部内外面に丁寧なヨコナデ。外面下位が若干被 熱し、上〜中位にスス付着。	やや粗い 白粗〜細粒・ 白砂多。黒・透明細砂	床上3~16cmが接合 口1/6周 底全周 胴全周 55·65~70·85·ベルト
21 赛 土師器	高 30.2 底 5.6 最大径 26.9	ハケ後、底部中央に雑なナデ。胴中位ヨコヘラナデ(下半)とヨ コハケ(上半)の後に肩部ヨコヘラケズリ。口縁部ヨコハケ後、 肩部上端ナデと口縁部上半に軽いナデ。外面のススは胴中位に多 く、口~肩部にも少しあり。外面胴下位は被熱赤化。	粗い 黒砂・細砂と白 礫〜細砂・細粒やや多。 透明細砂と赤細粒。 やや硬質	ほぼ完形 口3/4周 底5/6周 頸全周 15~32・90・91
土師器	高 残 6.4	調整が雑で器形もやや整わないので、口径復元値は 16 ~ 18cm 程度の幅を持つ。外面は口縁部に粘土帯を貼りつけて雑なヨコナ デ。内面は体部にナナメヘラケズリの後に口縁部ヨコナデ。23 と同一個体の可能性もある。	やや緻密 赤細粒。 白細粒と黒細砂少。 軟質	床上11cmの 2 片が同一 個体 口1/4周 75·76
土師器	高 残 5.7 底 復 7.0 孔径 復 10 ~ 15mm	はタテヘラナデ。外底面は平らな面に置いて製作し、無調整だが 平滑。内面はナナメヘラナデ。焼成前に底中央に穿孔し、内外面 側から孔にヘラ状工具(?)を入れて雑なヨコヘラナデ。22と同 一個体の可能性もある。	緻密 赤粒・細粒やや 多。黒細砂・白細粒・ 灰色砂少。 軟質	77
24 有孔板 石製模 造品		剣形品の可能性もある。かなり薄い。図の上部は破損。図下部の 先端が直線的になる部分は折れ面状で、研磨は見られないが、お そらく使用によりやや磨減気味。両面はほぼ一方向、側面は横か ら見てやや右下がりの縦一斜位に研磨。右図の面から穿孔し、対 面に穿孔時の剥離痕が孔の周囲に見られる。孔径は両面ともに 1.35mm。		床上 5cm 一端部欠 95

		杯(口内傾)	杯(口直立)	杯(半球状)	杯 (口外反)	小形壺(坩)	高杯	小形土器	壺	大形壺	甕	小形甕	小形甑	その他
Π.	口縁部計測			1.25 周	2.17 周	0.86 周	1.67 周			0.58 周	1.00 週	0.83 周	0.25 周	
一	口縁部			10	22	10	22			4	5	6	2	
器	体部			有	有	有	脚柱 5		有	有	有	有		
110	底部			1	2	1	脚裾 13	3		1	7		1	
/=	口縁部計測													
須恵	口縁部													
器	体部													
100	底部													
石事	· 製模造品 1(有孔板)													

第 37 表 磯岡北遺跡 SG17 区 SI - 11 古墳時代中期 出土遺物数一覧表

#### 4.3.2. 古墳時代の土坑

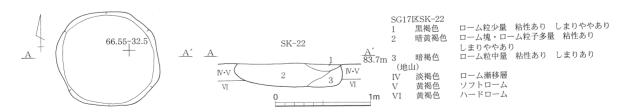
SG12 区および SG17 区では、古墳時代と考えられる土坑は 1 基だけを調査した(SG17 区 SK-22)。古墳中期の竪穴建物である SG17 区 SI-11 と同様に、古墳時代の集落に関わる遺構の可能性が考えられる。 この他に、時期不明の土坑である SG17 区 SK-19 も、古墳時代の土坑である可能性を持つ(p.185)。

#### SG17 区 SK - 22 (第 98 図、写真図版 44)

調査区南部の 66-32 グリッドにある。 9 号墳のすぐ東側にあり、 9 号墳をはさんだ北西側には古墳中期中葉の竪穴建物である SG17 区 SI-11 がある(p.37 の第 13 図)。また、2004 年度に宇都宮市教育委員会が調査した「磯岡北遺跡 B 区」では、この土坑のすぐ北東で辺長 9 m の竪穴建物跡 1 棟、そのさらに北東に中規模の竪穴建物跡 1 棟が認められる(第 8 図)。前者(宇都宮市調査 B 区 SI002)は「5 世紀中葉」、後者(同 SI003)は「7 世紀代」と考えられている(宇都宮市教育委員会 2005b, pp.13-14)。

ほぼ正円形で、口よりも壁面下部が外へ広がる。口径は南北  $100 \times$  東西 106cm、底径  $93 \times 95$ cm、残存する深さは 25cm。埋土は全体的に均質で、人為的に埋め戻した土と考えられる。残存している埋土中にテフラの層や粒は見られない。古墳後期初めに降下した Hr-FA テフラの白色粒子などが埋土中に観察されていないので、中期末以前に埋め戻されていた可能性もある。

遺物は出土しなかった。しかし、正円形・平底で壁面がオーバーハングする形状や、人為的に埋め戻された埋土の特徴からみて、現地調査時点から古墳時代の「円筒形土坑」と考えられた。開析谷をはさんだすぐ西側にある立野遺跡の状況を参照すると、「円筒形土坑」は主に古墳時代中期中葉~後期前半の集落に伴って多く見られる(内山 2005, pp.744-748)。この土坑も、SG17 区 SI — 11 や上述した宇都宮市調査 B 区 SI002 とともに、古墳中期中葉頃の集落に伴う可能性が高い。

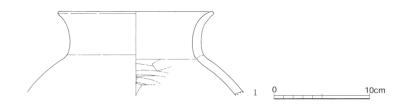


第 98 図 磯岡北遺跡 SG17 区 古墳時代の円筒形土坑 SK - 22

### 第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区

# 4.3.3. 古墳時代の遺構外出土遺物

遺構外出土の古墳時代遺物はあまり多くない。図示できるものは1点ある。SG12 区・SG17 区付近に試掘トレンチ(第8図参照)を設けた際に出土した遺物で、古墳中期後葉〜後期前葉と思われる土師器甕(または大形壺)の破片が1点ある(第99図)。出土した69-34 グリッドは8号墳の南東約30m付近にあり、SG17 区の調査区東外側にあたる。試掘トレンチの調査結果では、竪穴建物跡(?)の可能性がある落ち込みや、北東から南西へ向かって伸び、8・9号墳の間で台地西端へ開口していたと思われる自然の埋没谷などが、確認されている。



第 99 図 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区 周辺出土遺物

第 38 表 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区 周辺出土遺物

番号 種類 材質	大きさ (cm)		特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1	口高	残 8.9		やや緻密 赤細粒・粒 多。白細粒・粒と黒・透	

# 第4節 中世の遺構と遺物

SG12 区と SG17 区では、中世の溝3条を調査した(SD - 26A・26B・29)。この3条の溝は、互いに連結する同時存在の溝になる可能性が高く、磯岡北2~4号墳の周溝を意識して設けられている。また、3・8・9号墳の周溝や墳丘からも中世の遺物が少しずつ出土している。13世紀代に古墳群の存在を意識した溝の設置と土地利用が行われていたことを示している。

#### 4.4.1. 中世の溝状遺構

**SG12 · SG17 区 SD − 26A**(第 100 ~ 102 図、写真図版 45 ~ 47 · 89)

位置  $SG12 \cdot SG17 \boxtimes O$ 調査区全体近くに及ぶ長い溝である。東側が  $SG12 \boxtimes SD - 29$ (第  $100 \boxtimes O$ 右上部) と同じ溝であれば、 $SG18 \boxtimes E$ を抜けてさらに東の  $SG16 \boxtimes E$ で伸びることになる。

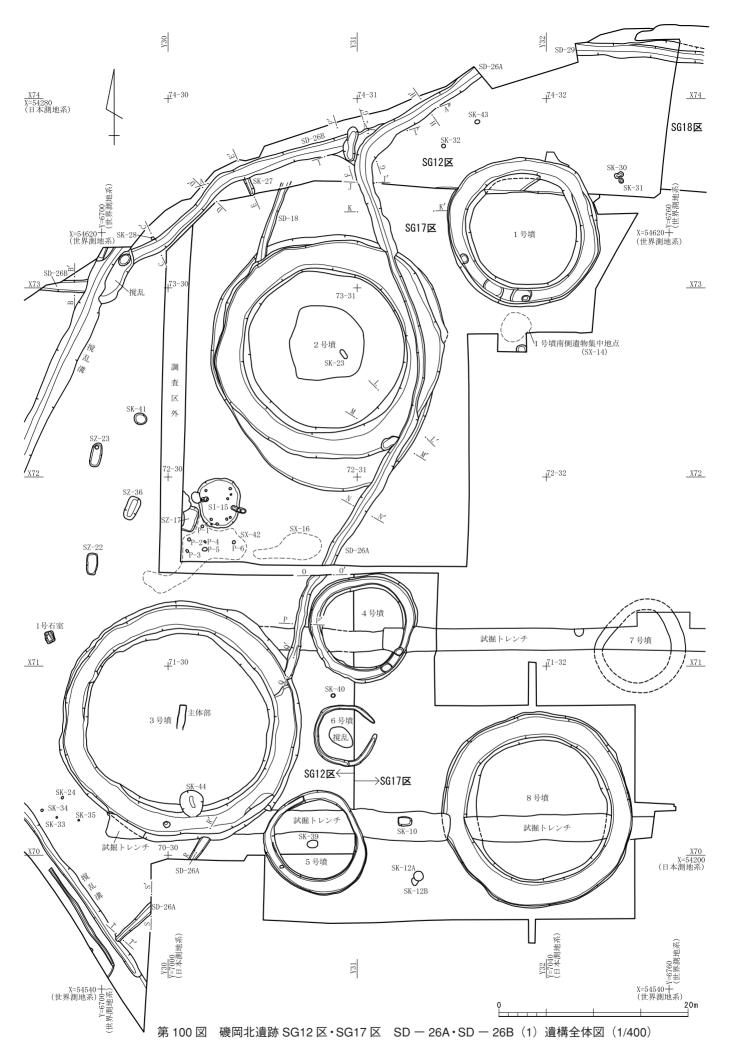
2・3号墳の東側周溝埋土を切り、4号墳の西側周溝を避けるように回り込んで巡っている。古墳群の存在を意識して、2・3号墳の周溝間を連結するように掘られた溝である。SG12 区北部の 74 - 31 グリッドから、73 - 31 グリッドに入って SD - 26B と合流して南に曲がり、SG17 区で2号墳の東側周溝を通過して(72 - 31・32 グリッド)、SG12 区で3号墳の東側周溝に入る(71 - 30 グリッド)。3号墳の南側で周溝から出て(69 - 30 グリッド)、SG12 区の南端付近で撹乱溝に切られ(69 - 29 グリッド)、それより西側は地形が一段低くなってこの溝も認められなくなる。SG12 区南西の台地端部で「中島谷田」とよばれる開析谷(第8 図で標高 83m の谷底平野)までつながって掘られていたのであろう。

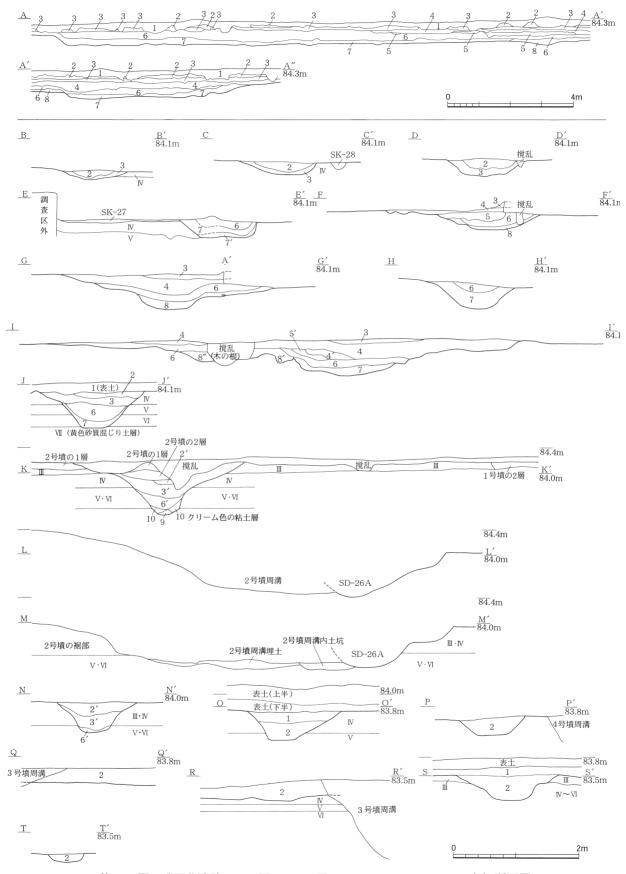
連続する溝との関係 SG12 区の北部では、一度調査区の外に出た後に、SG12 区北東部(74 - 32 グリッド)の SD - 29 へ連続してゆく可能性が高い(第 100 図)。この SG12 区 SD - 29 は、さらに東側へ続いて SG18 区(第 110 図)と SG16 区(第 121 図)の SD - 29 を通り抜け、台地の東端部で無名瀬川(むなせがわ)の開析谷につながって終了すると思われる。SG12・SG17 区 SD - 26A と SG12・SG18・SG16 区 SD - 29 が同じ溝であれば、東西 150 ×南北 100m に及ぶ広範囲に延びて、低台地を東西に横切る溝ということになる(第 8 図)。

西側にある SD -26B とは、合流する同時存在の関係にある。ただし、SD -26B の埋土の最下層(8 層)を SD -26A が切った後に  $2\sim7$  層が堆積しているので(第 101 図 I-I)、SD -26A の部分では SD -26B の埋土 8 層を掘り込んでさらに深くするような掘り直しをしていることがわかる。

残存する溝の深さは、2号墳の東側付近で最も深くなる。断面図のK-K' 付近では 85cm、その南側(L-L' からM-M' までの付近)では  $66\sim70$ cm である。 2号墳よりも北側(G-G' からJ-J' までの付近)ではやや浅くなり、深さ  $44\sim60$ cm。また、 2号墳よりも南側ではやや浅くなり( $32\sim46$ cm)、T-T' では深さ 14cm しかない。

溝の底面は、広く全体を比較すると、北東から南西へ向かって低くなる傾向がある。SD-26Bとの合流点(G-G'付近)よりも北東側では底面標高  $83.38 \sim 83.48 m$  で、南西側がわずかに低くなる。 2 号墳東側から 3 号墳東側までの部分では、溝底面の標高  $83.32 \sim 83.41 m$  で、明瞭な一方向への傾斜はみられない。 3 号墳の東側周溝に流入する付近で、溝底面が少し低くなる(標高  $83.21 \sim 83.27 m$ )。 3 号墳よりも南側で





#### 第4章 磯岡北遺跡 SG12 区·SG17 区

```
SG12区 · 17区SD-26A · 26B
                                                      (地山)
        腐植主体の表土層 やや軟らかい ローム粒少量 暗褐色漸移層(IV層)の小塊やや多
 黒灰褐色
                                                     Ⅲ 暗褐色
 黒褐色
暗褐色
        ローム粒極少量 硬くしまる
粘性ややあり しまりややあり ローム粒少量
                                                        くすんだローム質粒少量
 今市軽石粒・七本桜軽石粒微量
粘性やや弱 しまり強
                                                     IV 暗褐色
                                                              ローム漸移層 今市軽石粒少量
                                                              ソフトローム 今市軽石粒少量
                                                     VI 黄褐色
                                                             ハードローム
                            砂とロームが縞状に水成堆積 しまり強く硬い
8″ 暗褐色
10 黄褐色土
```

#### (↑ 第101図の土層説明)

は、溝底面は南西へ傾斜する。 3 号墳周溝から南側へ出た部分では溝底面標高が  $83.10\sim83.20$ m、SG12 区の調査区南端部(T-T'付近)では底面の標高  $83.01\sim83.11$ m である。

溝の底面は、地山ローム層中にある部分が多いが、 $SG12 extbf{E} \cdot SG17 extbf{E} O の境界付近(土層断面図 <math>J-J'$  EK-K')では、ローム層よりさらに下にある地山 VII 層(黄色砂質混じり土層)やクリーム色の粘土層へ、溝の底面が達していた。

埋土 自然埋没で、テフラの層や粒は含まない。SD-26Bの溝底に溜まった水成堆積の砂混じり層(8 層)を除去するように SD-26A の部分を一段深く掘りこんだ後に、 $2\sim6$  層が SD-26A と SD-26B に共通の土層として堆積している(第 101 図 I-I')。 $CO2\sim6$  層とその下にある 7 層は砂などを含まず、8 層のような縞状の水成堆積層とは異なる。

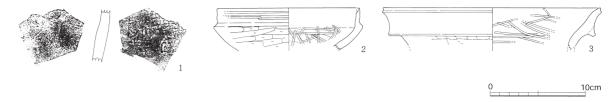
2号墳の東側周溝内を SD - 26A が通る部分では、2号墳の埋まりかけた東側周溝内に SD - 26A が掘り込まれて、2号墳周溝の上半部と一緒に埋没していったことがわかる。 SD - 26A の下半部にはこの溝の独自の埋土(6 '' 層と 9 層)が堆積するが、溝の上半部は2号墳周溝と同種の埋土が堆積している。 SD - 26A 埋土の 2 '' 層および 3 '' 層が、2号墳周溝の 3a 層および 3b 層と対応する。この状況については、2号墳周溝土層断面図(p.78 の第 39 図 A2 - A ' と E-E')を参照。

出土遺物 この溝に伴う中世の遺物はごく少ない。常滑産の甕胴部破片がある(第 102 図 1)。胴部外面の叩き目の文様(押印文)が特徴的である。この他に 2 号墳周溝内を通る部分の SD - 26A で常滑産の甕胴部破片が 1 片出土している。磯岡北 3 号墳の墳丘で出土した青磁碗や常滑産こね鉢も(第 104 図 2 ・ 6)、SD - 26A を各古墳の周溝に連結させて設置するような中世における行為との関わりで、古墳に持ち込まれた可能性がある。

これら以外の遺物は縄文時代と古墳時代のものばかりで、混入品である。そのうち古墳時代の遺物を参考に掲載した(第102図2)。3はSD-26Bへ混入した古墳時代中期の遺物。他に縄文時代前期末~中期初頭(第2群第2・3類)と後期初頭(第4群第1類)の土器が混入している。これらは第4章第1節第1項「遺構外出土の縄文土器」で扱った(第14図30・31・47~49)。

### **SG12 区 SD - 26B** (第 100 ~ 102 図・写真図版 46)

SG12 区北西部の  $73-29\cdot 30\cdot 31$  グリッドにまたがり、西側は調査区の外へ延びた後、すぐに現代の用水路によって消滅していると考えられる。東側は、73.5-31 グリッドで SD-26A に合流している(第 101 図 G-G' 付近)。時期不明の土坑 SK-27 の北側を切る(同図 E-E')。



第 102 図 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 SD - 26A・SD - 26B (3) 遺物

第39表 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 SD - 26A・SD - 26B 出土遺物

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1		大形の甕の胴部。外面の叩き目(押印文)は、1cm あたり3マス程度の密度で縦横に溝を彫った板による格子目状。また、3~4マス分の広土を持つ大きな区画内に円弧状の文様やそれと連続する放射状、斜線状の文様を持つ部分もある。内面は無文。破面は灰色N6/(YR)で、内面は淡黄色25Y8/4とにぶい赤褐色5YR5/4の細かい斑状。常滑窯産。	やや緻密 白細砂多。 褐色粒。	SG12 区 SD-26A の底上 16cm SD-26の1
2 杯 土師器	口 復 15.0 高 残 4.5 最大径 復 15.7	口が直立し、外面に高い段を持つ。内外面口縁部に丁寧なヨコナ デ後、外面体部にややツヤを持つヨコヘラケズリ。外面口縁部と 内面体部にヘラミガキ。古墳時代後期初めの遺物が混入。		口 1/6 周
3 大形壺 土師器	高 残 4.5	頸部タテナデ後、外面口縁部下位に粘土紐を貼り付けてその下側をヘラ状工具で押し引きしながら横位に調整。口縁部外面に丁寧なヨコナデ。内面ヨコナデ後ヨコヘラミガキ。古墳時代中期の遺物が混入。	やや緻密 黒・透明細	SG12 区 SD-26B の底上 10 ~ 33cm が接合 口 1/12 周 SD-26 の 18

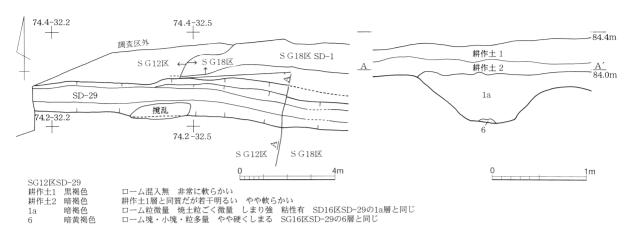
西端部で幅  $54 \sim 70$ cm・残存深さ  $21 \sim 27$ cm、中央部で幅  $48 \sim 80$ cm・残存深さ  $16 \sim 36$ cm。東端部では幅約 2m まで広がるが(第 101 図 F - F' 付近)、残存する深さはあまりかわらず( $17 \sim 24$ cm)、このすぐ東側で一段深い SD - 26A と合流する。合流する少し手前に深さ 20cm 未満の浅い土坑状の窪みが底面に見られる。溝底面に明瞭な傾斜は見られないが、大きな目で見るとわずかに西側へ傾斜し、標高は西端で  $83.42 \sim 83.48$ m、中央部で  $83.46 \sim 83.55$ m、東端で  $83.54 \sim 83.58$ m。埋土は自然埋没で、上部の  $2 \sim 7$  層は SD - 26A と同じである。埋土の最下層(8 層)は非常に硬く締まる砂混じりの水成堆積層なので、初期の段階では水が流れる状況があったことが分かる。 8 層が埋まった後に SD - 26A の部分(東側部分)を深く掘り直した後には、水が流れたような砂質混じり層は見られない(第 101 図 1 - 1 )。

遺物は、SD-26Aとの合流点のすぐ西側の、溝底面が浅い土坑状に窪む部分で少量出土した。しかし、古墳時代と縄文時代の土器小片ばかりで、すべて混入品と考えられる。第 102 図 3は二重口縁状の壺で、古墳時代中期の遺物である。SD-26Aと共存する状況が確認されることから、中世の溝と判断される。

### SG12 区 SD - 29 (第 103 図・写真図版 47)

SG12 区北東部の 74-32 グリッドにある。西側は調査区の外へ伸びているが、ふたたび SG12 区北部の SD-26A へとつながる可能性が高い(第 100 図の右上部)。東側は、SG18 区(第 123 図)を経て SG16 区(第 110 図)までずっと長く続き、台地の東端まで達して無名瀬川(むなせがわ)の開析谷につながって終了すると思われる(第 8 図)。SG12 区内では、重複する遺構はない。

幅  $52\sim 106$ cm で、残存する深さは 47cm(SG12 区の西端部)  $\sim 52$ cm(SG12 区の東端部)。SG12 区・SG18 区の境界部分の土層断面を見ると(第 103 図 A-A')、北側に埋土 1a 層が続いているので、ここには溝の北側が段を持って広がる部分を持つのかもしれない。底面の標高差は  $2\sim 4$ cm 程度で、ほとんど傾



第 103 図 磯岡北遺跡 SG12 区 SD - 29 遺構

斜はないが、わずかに東側が低く、底面の標高は SG12 区の西端で 83.46  $\sim$  47m、SG12 区の東端で 83.43  $\sim$  44m。埋土は自然埋没で、SG16・18 区で調査した SD - 29 の 1a 層および 6 層と同様であった。テフラの層や粒は見られない。

図示できる遺物はない。古墳時代中~後期と考えられる土師器甕底部が 1 片だけあるが、混入品と考えられる。東側に続く SG18 区と SG16 区の遺物も、古墳時代や奈良時代の混入品であった(第  $114 \cdot 123$  図)。しかし、SG16 区で SD-29 に合流する同時期の溝 SD-3 には、13 世紀ころと思われる非ロクロ成形土師質皿(かわらけ)が見られる(p.194 の第 114 図 1)。

SG12 区  $SD-26A \cdot B$  と一連の溝になる可能性が高く、また東側に続く SG16 区で中世の溝 SD-3 と共存するので、 $SG12 \cdot SG18 \cdot SG16$  区の SD-29 も中世の溝と思われる。

### 4.4.2. 中世の遺構外出土遺物 (第104図・写真図版89)

中世の遺構と考えられる SD - 26A・26B・29 の他に、SG12 区・SG17 区の遺構外や古墳の墳丘・周溝から出土した中世遺物をここで報告する。

青磁(1)は中国産で、龍泉窯系の可能性がある。見込みに片切彫の文様があり、劃花文の可能性も考えられる。図示した1片(9号墳出土)の他に、3号墳の70.00 — 29.70 グリッドにも文様・器形不明の細片が1点ある。

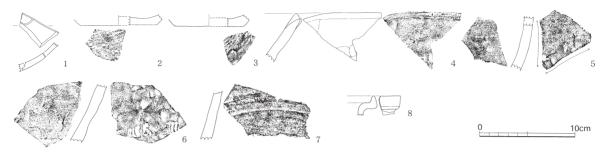
かわらけは、 $3\cdot 8$  号墳で小片が 1 点ずつ出土した( $2\cdot 3$ )。どちらも回転糸切離しで底径が比較的大きく、おそらく器高が低いものであろう。中世の遺構から出土した遺物では、SG16 区の SD-3 に非ロクロ成形のかわらけがある(p.194 の第 114 図 1)。

常滑産こね鉢は、片口部に近い部位の口縁部破片が9号墳で出土し(4)、これと同一個体の可能性がある口縁部小片が9号墳にもう1片ある。破面を研磨具に転用したこね鉢の胴部が9号墳に1片あり(5)、3号墳出土の胴部(6)とよく類似した灰色硬質の製品である。8号墳には同一個体の可能性があるこね鉢の体部破片が3片あり、うち2片が接合した(7)。

常滑産甕は、 $2 \cdot 3 \cdot 9$  号墳にそれぞれ 1 片あり、いずれも小破片である。図示できた 8 は 9 号墳で出土した口縁部を上に立ち上げる小片で、常滑 5 型式つまり 13 世紀第 2 四半期と思われる(中野 1995, p.392;同 2005)。遺構出土遺物では、SG12 区 SD-26A にも常滑産甕の胴部破片がある(第 102 図 1)。中世の溝 SD-26A が  $2 \cdot 3$  号墳の周溝内を通り、また 4 号墳の周溝外周に沿って走ることからもわかるように、

古墳群内を中世に利用していたことを示している。

SG17 区南端にある 9 号墳出土の常滑産甕(第 104 図 3)と、台地を横切る溝(SG12・17・16・18 区 SD - 29)の東端付近から分岐する SG16 区 SD - 3 で出土した非ロクロ成形のかわらけ(第 114 図 1)が 共に 13 世紀代と見られるので、長大な溝の設置と磯岡北古墳群地域の土地利用が、13 世紀頃に一連の行為 として実施されたことが考えられる。



第 104 図 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 中世の遺構外出土遺物

第 40 表 磯岡北遺跡 SG12 区・SG17 区 中世の遺構外出土遺物

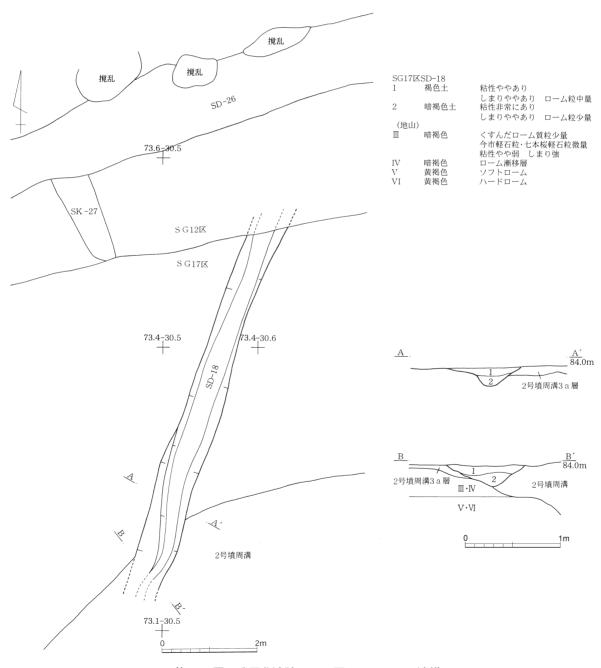
番号 種類 材質	大きさ(cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記					
1 碗 青磁		体部下位破片。内外全面に 0.1 ~ 0.2mm 厚で施釉し、貫入が多い。 見込み底部の釉薬下に片切彫の文様があり、草花文の一部かと思 われる。破面は灰色(5Y6/1)で均質緻密だが、細かい空隙がわ ずかに散在する。	緻密	SG17 区 9 号墳の南東部 表土中 南東表土					
2 皿 かわら け	底 復8.0 高 残1.0	ロクロ右回転(時計回り)で回転糸切離し後、外底面に1方向の軽いナデと、平行線状の圧痕。	7.5YR7/4 にぶい橙 やや緻密 黒・透明細砂 多。赤細粒と白・細砂・ 礫少。 やや軟質						
3 Ⅲ かわら け	底 復7.2 高 残1.2	底部の残存度が低いので、底径の復原値は参考程度。回転糸切り離し後、体~底部境界の隅角部にユビオサエ状の変形あり。ロクロの回転方向は不詳。		SG17区8号墳南周溝外のI層 底1/12周 51					
4 こね鉢 陶器		破片左端に片口部の右端が残る。外面体部下位にユビオサエ状の 凹凸あり。外面口縁部と内面全面に丁寧なヨコナデ。磨耗痕は見 られない。常滑窯産。		SG17区9号墳の周溝底上 90cmと周溝外の各1片が 接合 口 1/12 周 142・211					
5 こね鉢 陶器		胴部中位の破片。外面は下位にユビオサエ状の凹凸あり、上位に 丁寧なヨコナデ。内面は横位の浅い擦痕状の調整痕。内面が使用 によりわずかに磨耗。2 側縁の破面を研磨具に転用し、かなり磨 耗する。常滑窯産?	やや緻密 赤細粒と白細	SG17 区 9 号墳の周溝底 上 73cm(法面上 68cm) 742					
6 こね鉢 陶器		胴部中位の破片。外面はユビオサエ状の凹凸痕と、短く深い縦位 の擦痕。内面は横位の浅い擦痕状の調整痕。明瞭な磨耗痕は見ら れない。常滑窯産?	-10 - 01 - 1 HO 121						
7 こね鉢 陶器		同個体と思われる3片のうち2片が接合。外面上位はロクロ目の 凹凸が強い。外面下位は左方向へ進行するヨコヘラケズリ。内面 は丁寧なヨコナデ。使用による磨耗痕は、確実なものは認められ ない。常滑窯産。	やや粗い 白礫〜細砂 多。透明礫〜細砂やや 多。 硬質	墳丘直上の各1片が接合 12・25・136					
8 大甕 陶器		内外面ロクロナデ。口縁端部を垂直に外面で 13mm 、内面で 7mm 立ち上げて受け口状に仕上げる。常滑窯産。	5YR3/4 暗赤褐 やや粗い 白・黒細砂 やや多。赤細粒・透明 細砂。 硬質	SG17 区 9 号墳出土 口 1/72 周 020122					

# 第5節 時期不明の遺構

# 4.5.1. 時期不明の溝

### SG17 区 SD - 18 (第 105 図・写真図版 48)

SG17 調査区北西部の 73-30 グリッドにある。北側は SG12 区へ伸びるが、SG12 区の調査時には遺構確認面が SG17 区よりも 10cm ほど低いため、SD-18 を確認・調査できなかった。該当する部分の遺構確認面の標高は、SG17 区が約 83.9m、SG12 区が約 83.8m である。北側の SG12 区で SD-26B と重複または連結していた可能性がある。SD-26B と共存する場合は、中世の遺構と考えることになる。SD-26B と連結・共存する中世の溝SD-26A が  $2\cdot3$  号墳周溝内を繋ぐように設けられている状況とも類似している。



第 105 図 磯岡北遺跡 SG17 区 SD - 18 遺構

SD-18の南部は、2号墳の北西部周溝埋土中に掘り込まれている。図のB-B'よりも南側では SD-18が 2号墳周溝底よりも浅くなり、この溝の調査・記録が行われていない。2号墳周溝外側(南側や西側)では SD-18の延長が見つからないので、周溝が埋まりかけた窪地に流れ込むように取り付いて造られた溝の可能性がある。

幅  $60 \sim 81$ cm、残存する深さは  $20 \sim 27$ cm。底面には多少の凹凸があり、底面の標高は SG17 区では  $83.6 \sim 83.7$ m で、北側の SG12 区では標高 83.8m の遺構確認面よりも浅かったはずである。したがって SG12 区から SG17 区へかかる部分で南へ少し底面が傾斜して深くなっていたと思われる。

埋土は自然埋没で、テフラの層や粒は見られない。遺物は古墳時代中期の土師器が見られ(杯口縁部小片3点・甕胴部20片・器種不明の杯・高杯などの体部か脚部小片3点)、他の時期の破片は見られない。しかし、この溝に伴う遺物ではなく、2号墳の周溝から混入したものと思われる。図示できる破片はない。

#### 4.5.2. 時期不明の土坑

#### SG12 区 SK - 27 (第 106 図・写真図版 48)

SG12 区北部の 73 - 30 グリッドで、中世の溝 SD - 26B に北側を切られる。長い溝状の楕円形で、南北 残存長 210 ×東西推定幅 40  $\sim$  60cm。残存する深さはわずか 2  $\sim$  6 cm しかない。埋土は単層でテフラの 層や粒は見られない。残りが悪いので SD - 26B との前後関係を判断するのは難しいが、遺構平面形を確認 した段階では SD - 26B が SK - 27 を切っているものと判断されたので、中世以前の遺構ということになる。遺物は出土しなかった。

### SG12 区 SK - 30 (第 106 図・写真図版 48)

SG12 区北東部の 73-32 グリッドで、1 号墳の北東にある。すぐ南にも時期不明の柱穴状土坑 SK-31 がある。瓢箪形で南北 44cm(西半部)および 33cm(東半部)、東西 92cm、残存する深さは 17cm。埋土は単層でテフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。

#### **SG12 区 SK − 40** (第 106 図・写真図版 48)

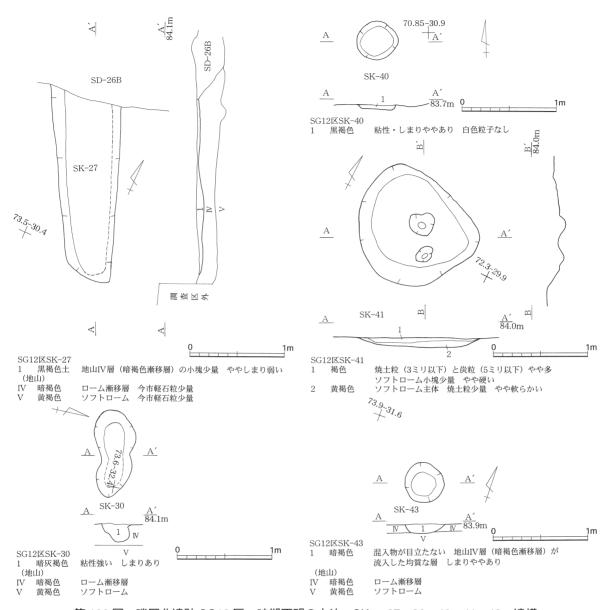
SG12 区東部の 70-30 グリッドで、6 号墳の北側にある。ほぼ正円形で南北  $40 \times$ 東西 42cm、残存する深さは 4cm。埋土は黒褐色の単層で、テフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。

#### SG12 区 SK - 41 (第 106 図・写真図版 48・49)

SG12 区中央部のやや北側で、72-29 グリッドにある。不整円形で南北  $134 \times$  東西 130cm、残存する深さは中央の窪み部分で 19cm。埋土の下層はソフトローム質土が主体になるので、かなり古い時期の土坑ではないかと思われた。焼土粒と炭粒を含み、テフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。

#### SG12 区 SK - 43 (第 106 図・写真図版 49)

SG12 区北西部の 73 - 31 グリッドで、 1 号墳の北西にある。ほぼ正円形で径 40cm、残存する深さは 9cm。埋土は単層で地山暗褐色土(ローム漸移層)が流入したような土質なので自然埋没と推定される。テフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。



第 106 図 磯岡北遺跡 SG12 区 時期不明の土坑 SK - 27・30・40・41・43 遺構

### SG17 区 SK - 10 (第 107 図・写真図版 49)

SG17 区東部の 70-31 グリッドにあり、5 号墳と 8 号墳の間に所在する。ほぼ長方形で南北  $142 \times$ 東西 83cm、残存する深さ 24cm。埋土は人為埋め戻しか自然埋没か不明瞭だが、下半部の埋土  $2 \cdot 3$  層はローム塊が非常に多いので埋め戻しとも考えられる。テフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。

長方形状なので、磯岡北古墳群に伴う土壙墓の可能性もあろう。しかし、他の土壙墓(SG12  $\boxtimes$  SZ - 22・23・36  $\trianglerighteq$  SG17  $\boxtimes$  SZ - 17)は南北主軸で長さが 2m 以上である点が異なる(p.176、第 100  $\boxtimes$ )。東西軸の小形埋葬施設としては 1 号埴輪棺があるので(p.152)、土壙墓の可能性が全くないわけではない。

### SG17 区 SK - 12 A・SK - 12 B (第 107 図・写真図版 49)

SG17 区東部の 69-31 グリッドにある、重複する 2 基の土坑。  $5\cdot 8$  号墳間の、やや南よりに所在する。 SK-12 Bが SK-12 Aを切る。 2 基ともにやや不整円形。 SK-12 Aは南北 100 ×東西 92 cm、残存する深さは 25 cm。 SK-12 Bは南北 98 ×東西 72 cm、残存する深さは 6 cm。 どちらの土坑も埋土は単層で、

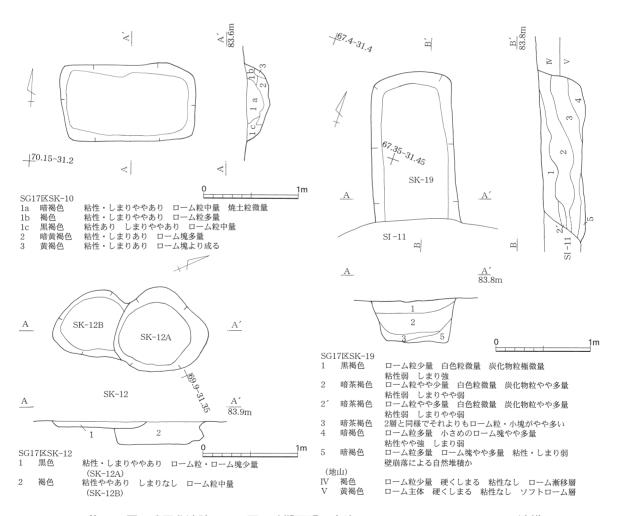
人為埋め戻しか自然埋没かは明らかでない。テフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。

### SG17 区 SK - 19 (第 107 図・写真図版 49)

SG17 区の南側に飛び離れた 9 号墳の調査区に所在し、67-31 グリッドにある(第  $12\cdot 95$  図)。南部 が古墳時代中期の竪穴建物跡 SG17 区 SI-11 と重複する。SI-11 と SK-19 の埋土層の関係は不明瞭であったが、SI-11 の掘形埋土(貼床土)が SK-19 を切っていることを確認できたので、SI-11 のほうが新しいと思われる。

ほぼ長方形で南北残存長 172cm×東西 88cm、底面の大きさは南北残存 158cm×東西 68cm。残存する深さは 52cm。南北の土層断面を観察すると、北から南側へ傾斜した土層が重なるので、自然堆積のように見られる。墓壙と思われるような人為埋没土層や木棺痕跡は確認されなかった。埋土の上半部には白色粒子(テフラ粒?)が見られる。

遺物は出土しなかった。SI-11 に切られるので、古墳時代中期以前の土坑である。磯岡北古墳群とそれに伴う墓壙群は、この地域が古墳時代中期集落から古墳群(墓域)に転換した後のものであるのに対し、この SK-19 は古墳時代中期集落の SI-11 よりも古い。また、現地の所見では埋土が自然堆積と判断された。これらの点から考えて、土壙墓ではないと思われる。



第 107 図 磯岡北遺跡 SG17 区 時期不明の土坑 SK - 10・12A・12B・19 遺構

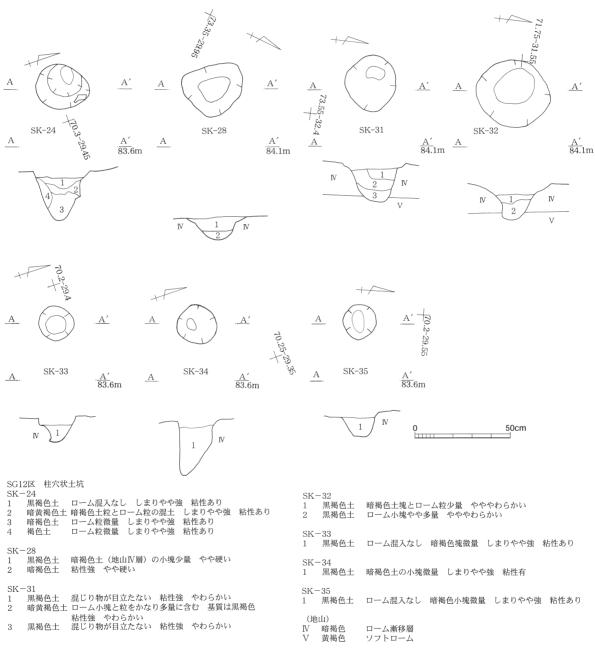
### 4.5.3. 時期不明の柱穴状土坑

### SG12 区 SK - 24 (第 108 図・写真図版 50)

SG12 区の南部 70-29 グリッドで、 3 号墳の南西にある。すぐ南側には同様の柱穴状土坑 SK  $-33\sim35$  がある。ほぼ正円形で南北  $29\times$ 東西 24cm、残存する深さは 36cm。埋土は自然埋没ふうで、 4 層は裏込土の可能性もある。テフラの層や粒は見られない。遺物は、縄文土器深鉢の無文胴部破片が 1 片あるが(平面図に記入)、混入の可能性があり、この土坑に伴うとは言い切れない。

### SG12 区 SK - 28 (第 108 図・写真図版 50)

SG12 区北西部の 73 - 29 グリッドで、SD - 26A のすぐ北側にある。不整円形で南北 29 ×東西 31cm、



第 108 図 磯岡北遺跡 SG12 区 時期不明の柱穴 SK - 24・28・31 ~ 35 遺構

残存する深さは11cm。埋土は人為埋め戻しか自然埋没か不詳で、やや硬いので古代以前のものかと思われた。 テフラの層や粒は見られない。 遺物は出土しなかった。

### **SG12区SK-31**(第108図・写真図版50)

SG12 区北東部の 73 - 32 グリッドで、2 号墳の北東にある。すぐ北に時期不明の土坑 SK - 30 が隣接する。 ほぼ正円形で南北 26 × 東西 29 cm、残存する深さは 18 cm。 埋土は自然埋没ふうでテフラの層や粒は見られない。 遺物は出土しなかった。

#### SG12 区 SK - 32 (第 108 図・写真図版 50)

SG12 区北東部の 73 - 31 グリッドで、2 号墳の北西にある。やや楕円形で南北 40 × 東西 36cm、残存する深さは 24cm。埋土は人為埋め戻しか自然埋没か不明確で、軟らかいので古代以前まで遡る遺構とは考えられない。テフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。

#### **SG12 区 SK - 33 ~ 35** (第 108 図・写真図版 50)

SG12 区南部の 70-29 グリッドで、 3 号墳の南西にある 3 基の柱穴状土坑である。すぐ北側には同様の柱穴状土坑 SK -24 がある。 3 基ともにほぼ正円形で、SK -33 は径  $18\sim19$ cm・深さ 14cm、SK -34 は径 21cm・深さ 28cm、SK -35 は径  $18\sim19$ cm・深さ 14cm。 3 基ともに埋土は単層で、テフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。

# 第5章 磯岡北遺跡 SG16区

宇都宮市砂田町字笹塚  $568 \sim 578$  番地、北緯 36 度 29 分 31 秒・東経 139 度 54 分 35 秒にある。SG12 区 SG17 区から、SG18 区を挟んで東側の、無名瀬川にのぞむ低台地東端部である(第 8 図)。北側には用水路をはさんで中島笹塚遺跡 4 区が隣接する。道路(T字路)を予定した調査区で、面積は 1,600 平方mである。時期を推定できる遺構としては縄文時代の土坑 1 基と古墳時代(?)の溝 1 条、中世の溝 2 条および土坑 2 基があり、他に時代不明の溝 5 条と土坑 10 基がある。 $SG12 \cdot 17$  区のような古墳群に関係する遺構は見られない。SD-2 は古墳後期の土師器小片を出土したので、古墳時代の溝とも考えられるが、確実ではない。

### 第1節 縄文時代の遺構と遺物

#### 5.1.1. 縄文時代の土坑

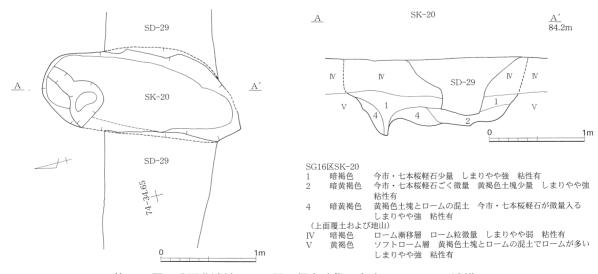
SG16 区 SK - 20 (第 109 図、写真図版 52)

SG16 区西部の 73-34 グリッドにある。土坑中央部の埋土上位~中位を、中世の溝 SD -29 が東西に横切って破壊している。

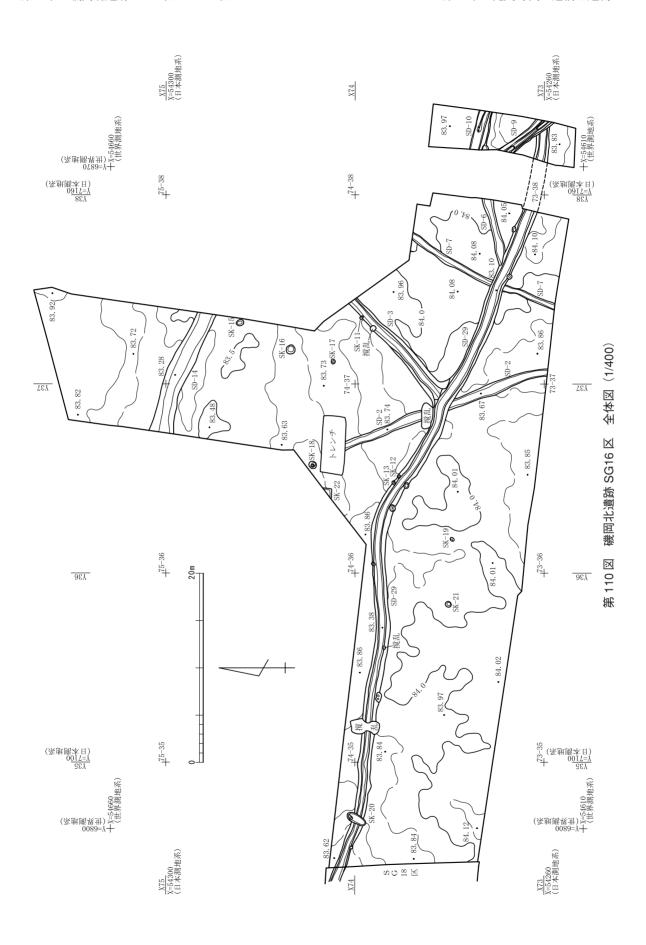
長楕円形で南北長 216 ×東西推定幅 103cm、残存する深さは IV 層下面から計って 38cm。また、IV 層上面から土坑底面までの高低差は 72cm である。 断面図で IV 層中に記入した壁面の立ち上がりを認識するのは実際には難しく、IV 層下面からようやく遺構の壁面を確認できるようになる。したがって、おそらく上部の IV 層(ローム漸移層)に覆われた土坑と考える方が妥当である。

底面の北端付近にある小穴部分の上方で、埋土 4 層を切るように埋土 1 層が下がっている。土坑本体と同様にこの上方も IV 層で覆われているので、かなり古い時代に木根などの撹乱が入った部分かと思われる。埋土は自然埋没の可能性があり、 $1.2 \sim 1.3$  万年 BP に降下した男体 $-\phi$ 市軽石(Nt-I)および男体-七本桜軽石(Nt-S)の粒が見られる。遺物は出土しなかった。

形状は陥穴状土坑に似ている。しかし浅いので、単なる土坑と考えた方がよいのかもしれない。上をローム漸移層が覆うことや、今市・七本桜軽石を含む埋土からみて、縄文時代でも古い時期のものと考えられる。



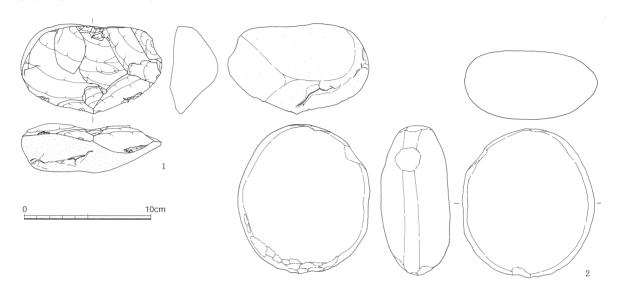
第 109 図 磯岡北遺跡 SG16 区 縄文時代の土坑 SK - 20 遺構



### 5.1.2. 縄文時代の遺構外出土遺物 (第111図)

SG16 区で、縄文時代遺構以外の場所から出土した遺物を報告する。

1 は自然石の片面を剥離して成形した礫器で、図の手前側の側縁に刃部を持つ。2 は後世の SD - 29(現地調査時の名称は SD - 1)に混入して出土したものである。磨石で、両面の中央部がやや磨滅し、側面は敲石に用いたようである。



第 111 図 磯岡北遺跡 SG16 区 遺構外出土の縄文時代の石器 礫器・磨石兼敲石

第 41 表 磯岡北遺跡 SG16 区 縄文時代の遺構外出土遺物

番号 種類 材質	大き	さ (cm)	特徴	色調素材	出土状態 残存状態 注記
1	長	6.9	楕円形の丸石を周辺から求心状に剥離して横断面でわかるように	5Y6/2 灰オリーブ	73.5-36.5 表採
礫器	幅	11.2	図の手前側の側縁にやや鋭い刃部を形成する。	硬質で緻密なホルン	
石器	厚	3.9		フェルス	
	重	358.1g			
2	長	11.8	扁平な自然の河原石をそのまま利用。両平面の中央部は、他の部	2.5YR7/2 灰黄	中世の溝SD-29 (調査時
磨石兼	幅	10.5	分に比べてやや磨耗する。側面は磨耗せず、主に図の上下端部周	多孔質気味で硬質な安	名称はSD-1) に混入
敲石	厚	5.4	辺を叩き付けて用いた粗い使用痕が見れらる。	山岩	完形
石器	重	927.2g			SD-1010

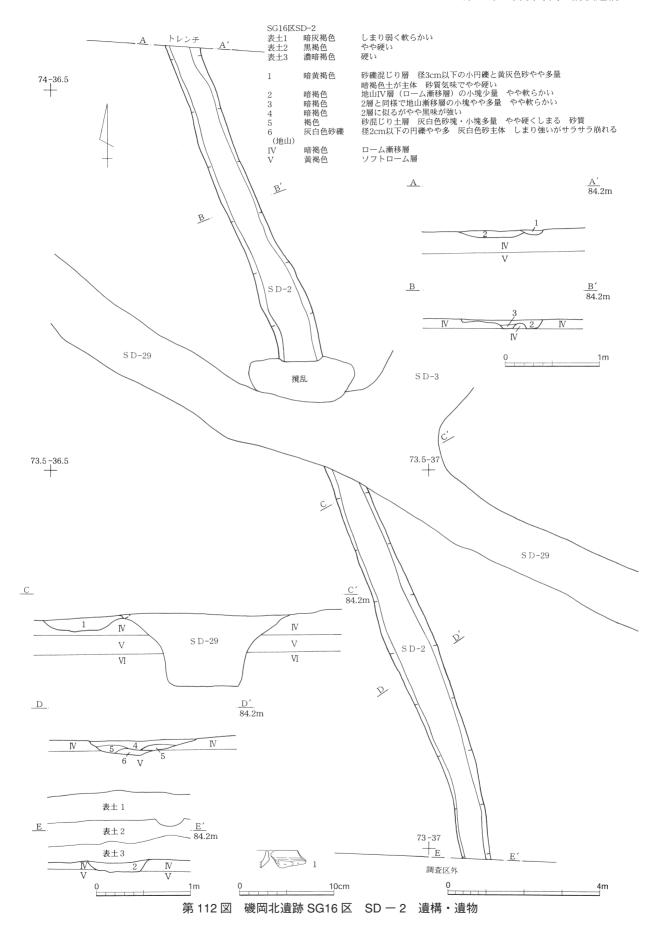
# 第2節 古墳時代の溝状遺構

古墳時代の遺構と断定することはやや難しいが、古墳時代遺物を出土した溝が1条ある。

### **SG16 区 SD − 2** (第 112 図、写真図版 52)

調査区東部の  $73-36\cdot 37$  グリッドと 74-36 グリッドに跨り、南は調査区の外まで伸びる。北端は遺構確認面よりも相対的に浅くなってゆき、北端の土層断面図 A-A' を記録した小トレンチよりも北側ではこの溝が確認できなくなる。調査区の中央部で、中世の溝状遺構 SD-29 に切られる。調査開始時点では北半部を「SD-2」、南半部を「SD-5」と呼んでいたが、南北に連続する一つの溝であることが判明したので「SD-2」としてまとめた。

幅  $68 \sim 122$ cm、残存する深さは最大 16cm で、底面には明瞭な一方向への傾斜はみられない。底面の標高は調査区南端で 83.77m、調査区北端で 83.65m、調査区中央部の B-B' の南側付近で底面がわずかに



高くなり標高 83.81m。埋土は自然埋没と思われるが、残りが浅いので不確実。A-A' と D-D' 付近では埋土に円礫と砂が混じるが、溝全体としては水が流れたような土層ではない。D-D' 付近では位置を少し変えて掘り直したような土層の重複が見られ、円礫が入る(埋土 1 層)。テフラの層や粒はみられない。

遺物には古墳時代の杯類の口縁部破片が見られる(第 112 図 1)。小破片ばかりで、体部破片は古墳時代かどうか判別できないものも多い。古墳時代の溝と断定するには不安があり、その可能性があることを指摘するという程度にとどまる。図示できたのは古墳時代後期末~終末期前半の土師器杯口縁部が 1 点だけである。この他には、北半部で土師器杯(口縁部 3 片・体部 3 片)と杯または高杯(口 1 片・体部 6 片)と甕類胴部 4 片、南半部で土師器杯(体部 25 片)と杯または高杯(口 2 片)と須恵器杯体部 1 片が見られた。

第42表 磯岡北遺跡 SG16区 SD-2 出土遺物

番号 種類	大きさ (cm)			特徴			色調 胎土·焼成	出土状態 残存状態	
材質						(	または素材)	注記	
1	П	復11~	口が直立し、	外面にごく浅い段を持つ。	外面口縁部と内面に丁寧	7.5YR6	5/4 にぶい橙	SD-2の南半部	(調査
杯	13		なヨコナデ、	体部外面ヨコヘラケズリ。		緻密	黒砂·赤粒·白紅	田 時名称は SD - 5)	
土師器	高	残 1.8				砂少		口 1/12 周	
						やや軟	質	SD-5 Ø 73.35-36.	.8

### 第3節 中世の遺構と遺物

#### 5.3.1. 中世の溝状遺構

2条があり、SG16 区内で合流する同時存在の溝である。低台地を東西に横切って延びる一連の長い溝が見られ (SG12 区の $SD-26 \cdot SD-29$  と、SG18 区  $\cdot$  SG16 区のSD-29 )、その東端部分と思われる。

#### SG16 区 SD - 3 (第 113 図左上部・第 114 図、写真図版 53)

**位置** SG16 区東部の 73 - 36・37 グリッドと 74 - 37 グリッドにあり、北側は調査区の外まで伸びる。 中世の溝状遺構 SD - 29 に合流する、同時存在の溝である。時期不明の土坑 SK - 11 に切られる。

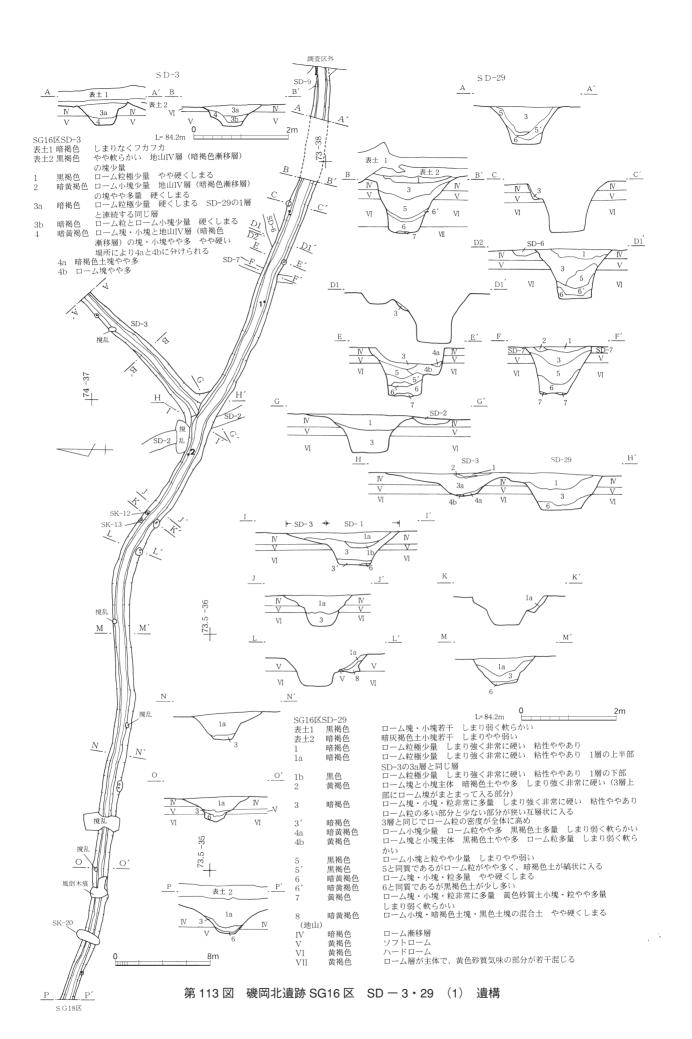
規模と形状 合流する SD - 29 より浅い。幅  $106\sim183$ cm で南部ほど広く、SD - 29 に合流する所で幅 332cm になる。残存する深さは  $30\sim49$ cm。底面が南へ傾斜し、底面標高は北端で 83.63m、南端で 83.5m。

**埋土** 自然埋没で、テフラの層や粒は見られない。埋土の 3a 層は、この溝に合流する中世の溝 SD-29 の 1 層と同じ層が、連続して入っている(第 113 図 H-H')

出土遺物 非ロクロ成形のかわらけが1片ある(第114図1)。小皿というより皿で、今平(2001)の1期(13世紀)に相当する。中世かわらけは、SG12・17区にも2点見られる(p.181の第104図)。

### SG16 区 SD - 29(第 $113 \cdot 114$ 図、写真図版 $54 \sim 56 \cdot 57$ )

位置 SG16 区の調査区全体を東西に伸びる長い溝。西側は SG18 区および SG12 区北東部にある SD - 29  $\wedge$ 続く。さらに、SG12 区 SD - 26A と同一の溝になる可能性も高い(第 100 図)。東側の調査区外で、まもなく無名瀬川(むなせがわ)の開析谷につながるようにして終了すると思われる。SG18 区 SD - 29 と SG12 区 SD - 29 のさらに西側が SG12 区 SD - 26A と同じ溝であれば、SG12 区南西の台地端部で「中島谷田」とよばれる開析谷までつながる。東西  $150 \times$  南北 100m に及ぶ広範囲に延びて、低台地を東西に横切る溝ということになる。現地調査時の名称は「SD - 1」(Y37 ライン付近より西)および「SD - 4」(Y37 ライン付近より東)であったが、整理作業の時点で SG12 区におけるこの溝の名称「SD - 29」に統一した。



#### 第5章 磯岡北遺跡 SG16 区

同じく中世と考えられる同時存在の溝SD-3が、途中の $73-36\cdot37$ グリッドでこの溝の北側に連結する。 SD-3が SD-29に合流する付近で、SD-29がわずかに北へ張り出すようにカーブするので、この溝を設ける最初の時点から SD-3と連結する計画性を持って同時に掘られたものと思われる(第 113 図左)。

古墳時代の可能性がある溝 SD -2 と時期不明の溝 SD -7 を切り(断面図 F -F'と G -G')、また縄 文時代と推定される土坑 SK -20 を調査区西部で切る。SD -29 より新しい溝として、時期不明の溝 SD -6 と SD -9 がある。SD -6 は 73-37 グリッド東部で SD -29 を切る(断面図 D2 -D1')。また、溝 SD -9 は SD -29 の東端部を切る(第 118 図)。

規模と形状 溝底面は平坦で、横断面形は法面の途中から外へ開く。Y = 35.5 のラインよりも西側では、溝の底面にスキ先で掘削したような凹凸が反復して見られる。この凹凸は西へ行くほど明瞭になり、Y = 35.5 よりも東方では不明瞭である。

C-C' や D1-D1' の断面図にかかっている北側上端付近の浅い穴 (窪み) や、E\*K\*L の断面図にかかっている南側上半の浅い穴は、SD-29 に伴う。掘削時などの足掛け穴とも考えられる。これとは別に、次項で説明する柱穴状の土坑 SK-12\*13 も、この溝に伴うものである(第 115 図)。

幅  $130\sim170$ cm、残存する深さは東半部で深く( $78\sim120$ cm)、西半部では浅い( $54\sim68$ cm)。底面がわずかに東へ傾斜するので、おそらく区画溝であると同時に、大雨の時などは台地東側の開析谷へ水を排出したと思われる。溝底面の標高は、SG16区の東端周辺で  $83.05\sim83.15$ m、SD-3と合流する付近で  $83.21\sim83.32$ m、M-M'から N-N'の周辺で  $83.30\sim83.39$ m、SG16区の西端周辺で  $83.34\sim83.35$ m。

**埋土** 埋没で、テフラの層や粒は見られない。この溝に中世の溝 SD-3 が合流する付近では、SD-29 の埋土 1 層は、SD-3 の埋土 3a 層と同じ層が連続して入っている(第 113 図 H-H')。

出土遺物 遺物は少なく、土器類は10片程度だけである。SG16区ではこの溝に伴う中世遺物はなく、近辺の古墳群から混入したと考えられる須恵器・埴輪片が出土している。大甕(第114図1)は丁寧な波状文を描く古墳中期の須恵器で、磯岡北古墳群からの混入品であろう。埴輪3片は同一個体の可能性があり(2~4)、磯岡北古墳群の埴輪よりも突帯がかなり扁平なので、谷をはさんだ東側にある琴平塚1号墳(中村2004)の埴輪が持ち込まれたものかもしれない。3は胎土中にシャモット(土器小片)を含むらしい。

**遺構の性格**  $SG16 \boxtimes SD - 3$  と合流することや、中世の溝である  $SG12 \boxtimes SD - 26A$  と同じ溝である可能性が高いことなどから、SD - 29 も中世の遺構と考えられる。



第 114 図 磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 3・29 (2) 遺物

第 43 表 磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 3 出土遺物

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土·焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1 Ⅲ かわら け	高 残 2.7		やや緻密 黒・透明細	A-A'とB-B'の間 口1/12 底1/12 SD-3の「73.5-37 AB 間」

1	大き	さ(c	m)	特徵	色調 胎土·焼成	出土状態 残存状態				
材質					(または素材)	注記				
1 大甕 須恵器	1	夏30以 残 3		大形の器種。幅 22 mm· 歯数 21 本の工具で、器面に向かって右から左へ丁寧な櫛描波状文。その下方に横位の沈線あり。外面の器表面に黒色の自然軸が薄く均一に付着。古墳中期の遺物が混入。		底上 79 cm(F - F'の1層) 頸 1/24 周 SD - 4 の 1				
2 円筒 埴輪	高	残 8	.1	外面は9本/2cmのタテハケ後に、突帯貼付とヨコナデ。突帯上側のタテハケは、突帯ヨコナデ後に施している可能性もある。突帯上側に円形透孔の下部が残存。内面は左上へ向かうナナメナデ。古墳中〜後期の遺物が混入。	やや粗い 白細粒、	底上 65 cm出土の 2 片が接合 SD-1 の 5				
3 円筒 埴輪	高	残 5	.2	外面は8~9本/cmのタテハケ後に突帯貼付とヨコナデ、内面は左上へ向かうナナメナデ。12×7mm大の大きなシャモットを含む。古墳中〜後期の遺物が混入。		SD - 1 Ø 73.35 - 36.75				
4 円筒 埴輪	高	残 7	.2	外面は9~10本/2cmのタテハケ後、破片上端に突帯下側と思われるヨコナデ、内面は左上へ向かうナナメナデ。古墳中〜後期の遺物が混入。						

第 44 表 磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 29 出土遺物

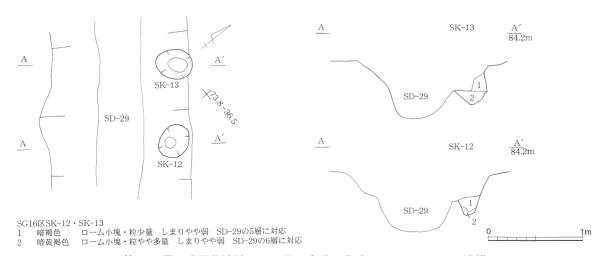
# 5.3.2. 中世の土坑

中世の溝状遺構である SD - 29 に伴うと考えられる土坑が 2 基ある。

### SG16 区 SK - 12・13 (第 115 図・写真図版 56)

SG16 区中央部の 73 - 36 グリッドにあり、中世の溝状遺構 SD - 29 に伴う(第 113 図の K - K'付近)。 この溝の北側斜面に並んで掘られた 2 基の円形土坑である。SD - 29 の溝の斜面には、前項で説明したように足掛け用と思われる浅い穴または窪みも見られたが(第 113 図の断面図 C・D・E・K・L を参照)、この 2 基の土坑はむしろ柱穴状の深さを持つ。 2 基ともに埋土は自然埋没ふうの堆積で、SD - 29 の5・6 層と対応する同質の埋土なので、SD - 29 に伴う土坑であることがわかる。埋土中にテフラの層や粒は見られない。遺物は全く出土しなかった。

SK - 12 は南北 38 ×東西 30cm、残存する深さは 40cm。SK - 13 は南北 29 ×東西 32cm、残存する深さ 40cm で、少し斜めに掘られている。



第 115 図 磯岡北遺跡 SG16 区 中世の土坑 SK - 12・13 遺構

# 第4節 時期不明の溝状遺構

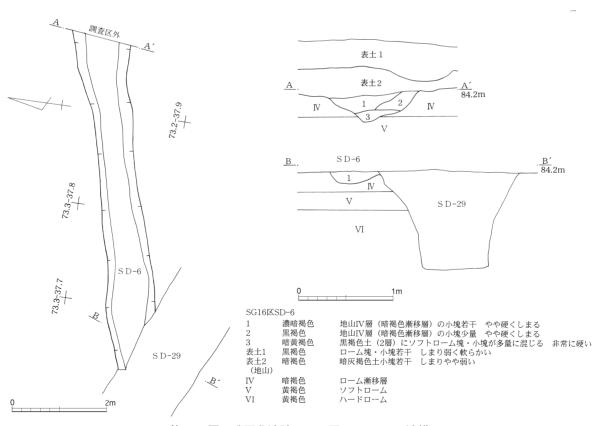
### **SG16 区 SD - 6** (第 116 図・写真図版 56・57)

SG16 区東部の 73-37 グリッドにあり、東側は舗装された生活道路の下に入るので調査を行うことができなかった。この道路の東側調査区にある SD-10 とは溝の幅・断面形などがかなり異なる。西側は、73-37 グリッドの東部で中世の溝 SD-29 に切られるようである。SD-29 の南側に SD-6 が延びる状況が見られないので、SD-29 と重なる方向にこの溝が伸びていた可能性がある。

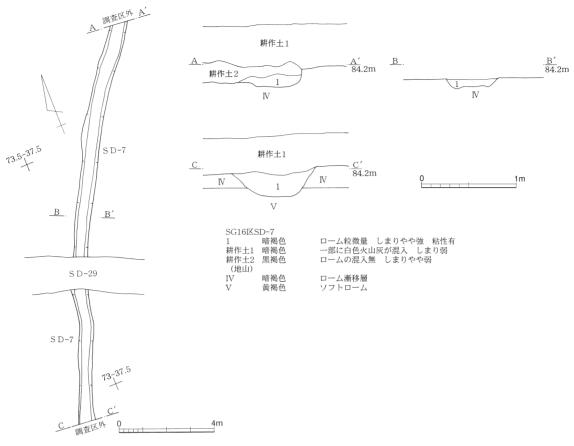
幅  $76 \sim 120$ cm、残存する深さは 12cm(西端)  $\sim 30$ cm(東端)で、底面には明確な一方向への傾斜は みられず、底面標高は  $83.81 \sim 83.88$ m である。ただし、SD -29 に切られる付近では溝が浅くなる(底面標高 83.92m)。埋土は自然埋没で非常に硬く、テフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。

### **SG16 区 SD - 7** (第 117 図・写真図版 57)

SG16 区東部の 72-37 および 73-37 グリッドにまたがり、南北両側は調査区の外まで伸びる。調査区の中央部付近で中世の溝 SD -29 に切られるので、中世以前の溝である。SD -29 の他には重複する遺構はない。幅  $50\sim82$ cm、残存する深さは  $12\sim28$ cm。底面がわずかに南へ傾斜し、底面の標高は北端で 83.93m、中央部で 83.91m、南端で 83.85m。埋土は単層の暗褐色土で、ローム塊などが混じらないところから見ると、自然埋没かと思われる。埋土中にテフラの層や粒は見られず、むしろ耕作土 1 層中にテフラの可能性がある白色粒子が混在している。遺物は出土しなかった。



第 116 図 磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 6 遺構



第 117 図 磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 7 遺構

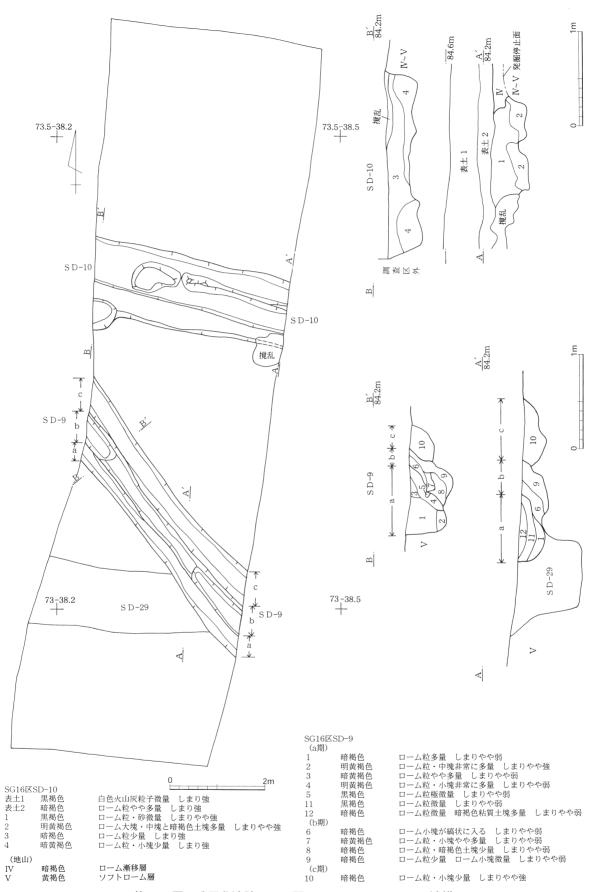
#### SG16 区 SD - 9 (第 118 図・写真図版 57・58)

SG16 区東端の 73 - 38 グリッドにある。西側は舗装された生活道路の下に入り、調査できなかった。この道路を超えた西側調査区では、東側より表土の撹乱が少ないのに、SD - 9 と 10 が確認されていない。道路下で SD - 9 ・10 が合流して北へ伸びるのかもしれない。中世の溝状遺構 SD - 29 の上部を切る。

掘り返しが行われた 3 時期( $a\sim c$ 期)の細い溝が重複している。北から南へ向かって順に新しくなる。 b 期・c 期の溝幅は、後の掘り返しで上部を壊されているので不明で、最終時期である a 期の溝幅は断面図 B - B'の場所で 89cm。比較的良く残っている西半部でみると残存する深さは  $40\sim 50$ cm である。底面には一定方向への傾斜が見られず、 a 期では、西端部(底面標高 83.44m)が深くて東端部(83.55m)が浅い。 b 期では、東西端部寄りで一段下がったところ(東で 83.37m、西で 83.30m)が深くて中央部 (83.54m)が浅い。 c 期では、東端部(83.52m)が深くて西端部(83.61m)が浅い。埋土は各時期ともにローム塊が多いので、人為埋め戻しの可能性もある。テフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。

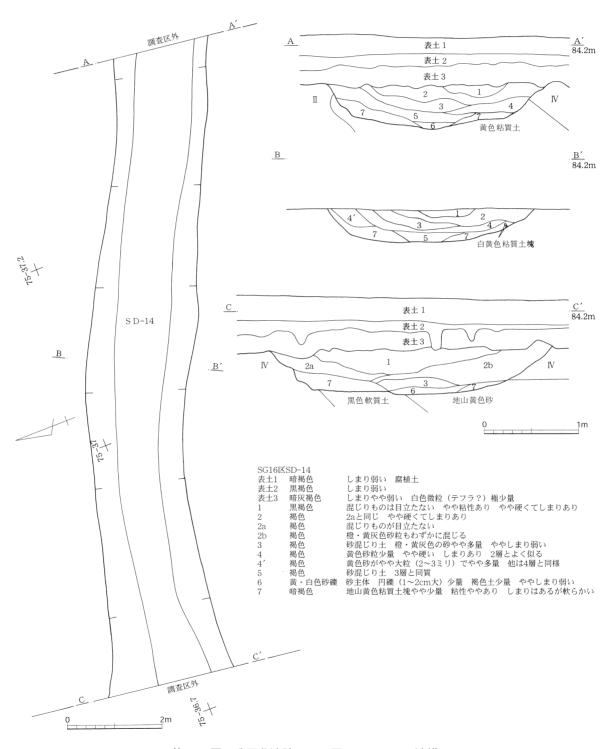
#### SG16 区 SD - 10 (第 118 図・写真図版 57・58)

SG16 区東端の 73-38 グリッドにある。西側は舗装された生活道路の下に入り、調査できなかった。SD -10 の上部を削土してから盛土をした後、道路が敷設されている。この道路を超えた西側調査区では、東側より表土の撹乱が少ないのに、SD -9 と 10 が確認されていない。道路の下部で SD -9 と 10 が連結または合流して北へ伸びるのかもしれない。道路西側にある SD -6 とは溝の幅・断面形などがかなり異なる。調査区内の西半部では溝が 1 本で、東半部では同時存在の 2 本の溝に分かれる。溝の底面は凹凸が激しい。



第 118 図 磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 9・SD - 10 遺構

幅は西半部で  $160 \sim 198$ cm、残存深さ 13cm。東半部では、北の溝が幅  $44 \sim 57$ cm・残存深さ 36cm、南の溝が幅  $78 \sim 105$ cm・残存深さ 39cm。溝の底面は東つまり台地端部へ向かって傾斜し、溝底面の標高は西端で  $83.81 \sim 83.85$ m、東端では北溝が 83.75m、南溝が 83.71m。埋土は下層にローム塊が多くて人為埋め戻しの可能性があるが、上層は混入物が少ない黒色~暗褐色土である。埋土中にはテフラの層や粒は見られないが、表土中の白色粒子は現地調査時に火山灰と判断されている。遺物は出土しなかった。



第 119 図 磯岡北遺跡 SG16 区 SD - 14 遺構

#### SG16 区 SD - 14 (第 119 図・写真図版 58)

SG16 区北部の  $74-36\cdot37$  グリッドにまたがり、東西両側は調査区の外まで伸びる。重複する遺構はない。遺構確認面は地山 IV 層(暗褐色土質のローム漸移層)であるが、先行する時期の風倒木痕を切るので、土層断面図 A-A' と C-C' では、下部の黄色粘質土・黄色砂や、表土由来の黒色軟質土が地山中に入り込んでいる。埋土中の黄色砂や黄色粘質土もこの地山から崩れて混入したものと思われる。幅  $188\sim274$ cm、残存する深さは最大 48cm で、底面に明確な一方向への傾斜は見られず、底面標高は東西両端でほぼ同じ高さの 83.33m、中央部で  $83.27\sim83.32$ m。埋土は自然埋没で、7 層中に少量だけ見られる白黄色粘質土塊はテフラの可能性も考えられる(断面図 B-B')。また、表土の最下部(断面図の「表土 3 層」)に極少量だけ含まれる白色微粒子もテフラかもしれないが、層として認められるものではない。実測できる遺物は出土していない。土師器甕の胴部が 3 片あり、厚さがやや薄めなので、この遺物時代は古墳時代中期でもやや古い時期のものかもしれない。ただしこの溝に伴うとは考えにくい。

## 第5節 時期不明の十坑

#### **SG16 区 SK - 11** (第 120 図・写真図版 59)

SG16 区中央部の 73 - 37 グリッドにある。中世の溝 SD - 3 を切って掘りこんでいる。ほぼ正円形で南北 32 × 東西 35cm、残存する深さは約 40cm。埋土は単層で、テフラの層や粒は見られない。遺物は全く出土しなかった。

# SG16区SK - 15・16 (第 120 図・写真図版 59)

SG16 区北部の 74-37 グリッドにある、2 基の楕円形土坑。南方には SK -17 がある。埋土が共通するので、SK  $-15\cdot16$  は同時期の土坑と考えられる。埋土は自然埋没と思われるしまりの弱い黒褐色の単層で、焼土粒を均一にやや多く含む。テフラの層や粒は見られない。地山は暗褐色のローム漸移層で、その下のソフトローム層まで土坑底面が達していない。遺物は全く出土しなかった。

SK - 15 は楕円形で南北 78 × 東西 61cm、残存する深さは 14cm。SK - 16 はほぼ正円形で南北 80 × 東西 86cm、残存する深さは 19cm。

## SG16 区 SK - 17 (第 120 図・写真図版 59)

SG16 区北部の 74 - 37 グリッドにある。ほぼ正円形で南北 36 × 東西 38cm、残存する深さは 10cm。 埋土は地山とよく似たやや暗い単層で、自然埋没と思われる。テフラの層や粒は見られない。地山は暗褐色のローム漸移層で、その下のソフトローム層まで土坑底面が達していない。遺物は全く出土しなかった。

#### **SG16 区 SK - 18** (第 120 図・写真図版 59)

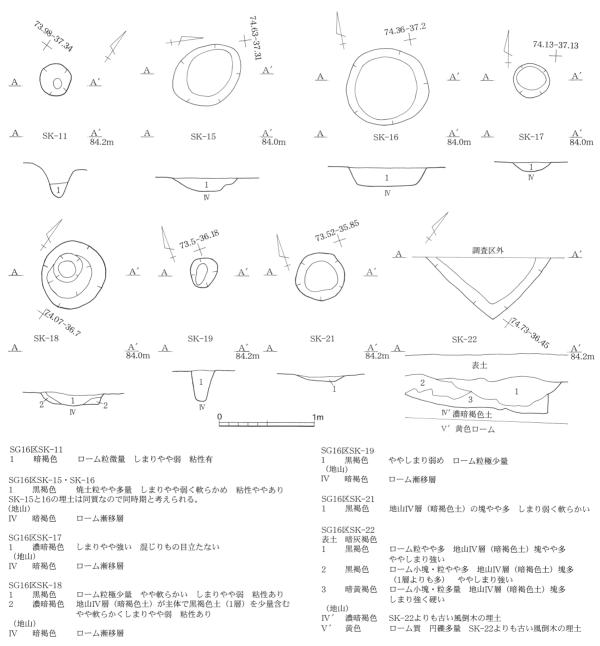
SG16 区中央部の 74-36 グリッドにある。円形で、底面の北西部が一段低くなっている。南北  $72 \times$ 東西 66cm。残存する深さは、一段深い部分で 22cm、それ以外では 15cm。埋土は人為埋め戻し状でテフラの層や粒は見られない。遺物は出土しなかった。

## SG16 区 SK - 19 (第 120 図・写真図版 59)

SG16 区中央部の 73 - 36 グリッドにある。やや楕円形で南北 33  $\times$  東西 28cm、残存する深さは 17cm。埋土はしまりの弱い単層で、テフラの層や粒は見られない。地山 IV 層(暗褐色のローム漸移層)中に掘り込まれていて、土坑底面はソフトローム層にやや近くなっている程度のレベルまでしか達していない。遺物は全く出土しなかった。

#### SG16 区 SK - 21 (第 120 図・写真図版 59)

SG16 区中央部の 73 - 35 グリッドにある。整った円形で南北 50 × 東西 52cm、残存する深さは 8cm。埋土はしまりの弱い単層で、テフラの層や粒は見られない。埋土がやや軟らかいので撹乱の可能性もあるが、整った円形であり、遺構として扱うこととした。それほど古い時期の遺構とは考えられない。遺物は全く出



第 120 図 磯岡北遺跡 SG16 区 時期不明の土坑 SK - 11・15 ~ 19・21・22 遺構

# 第5章 磯岡北遺跡 SG16 区

土しなかった。

# SG16 区 SK - 22 (第 120 図・写真図版 59)

SG16 区中央部の 74 - 36 グリッドにある。南東隅部分だけが調査区内にあり、先行する風倒木痕中の円 礫混じりローム層に掘り込んでいる。方形で南北 85cm 以上×東西 94cm 以上、残存する深さは 42cm。埋土は自然埋没状で、テフラの層や粒は見られない。埋土はかなり硬くしまっているが、かなり上のレベル(表土の直下)から掘り込まれている穴なので、それほど古い時期の遺構ではない。撹乱の可能性もある。遺物は全く出土しなかった。

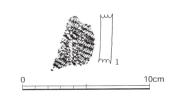
# 第6章 磯岡北遺跡 SG18区

宇都宮市砂田町字笹塚 578・579・580・581 番地、北緯 36 度 29 分 32 秒・東経 139 度 54 分 31 秒にある。 台地西端にある SG12 区・SG17 区と、台地東端にある SG16 区とに挟まれた位置にあり、低台地の中央部 にある(第8 図)。道路を予定した調査区で、面積は 300 平方mである(第122 図)。

時期を推定できる遺構としては中世の溝1条があり、他に時期不明の溝3条と土坑1基がある。SG12・17区のような古墳群に関係する遺構・遺物は見られない。

# 第1節 縄文時代の遺構外出土遺物

SG18区で、縄文時代遺構以外の場所から出土した遺物を報告する(第121図、写真図版89)。後世のSD-1に混入して出土した縄文前期末~中期初頭の土器片が1片ある。2段LR縦回転の結節縄文を施して、器面に垂直方向に、結節部でS字状の文様を施す。内面は丁寧なナデ。胎土がやや粗くて白・透明の砂・細砂が多く、黒細砂と赤細粒も含み、焼成はやや硬質。



第 121 図 磯岡北遺跡 SG18 区 遺構外出土の縄文土器

#### 第 45 表 磯岡北遺跡 SG18 区 縄文時代の遺構外出土遺物

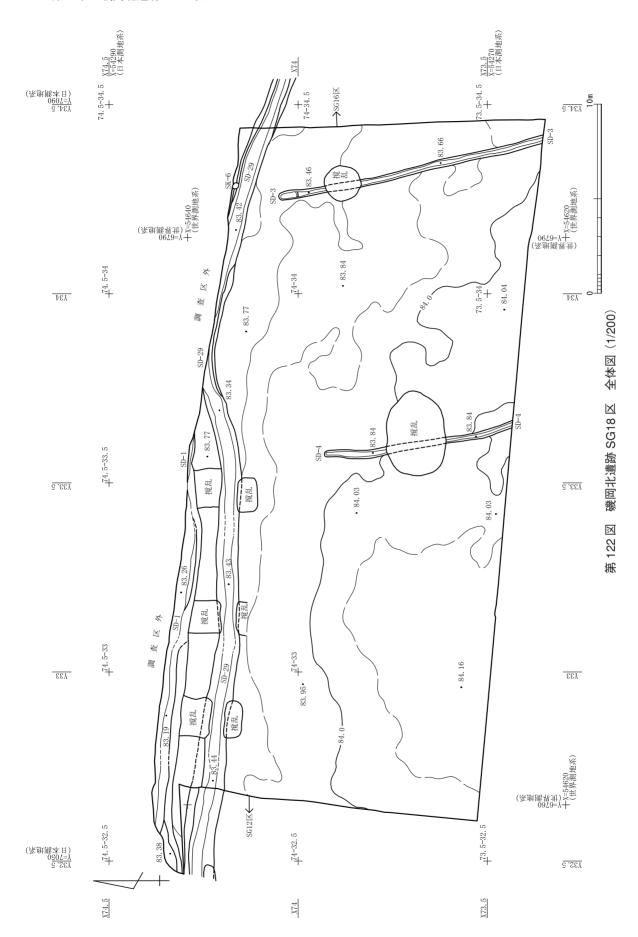
	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土·焼成	出土状態 残存状態
材質			(または素材)	注記
1		2段 LR 縦回転の結節縄文。器面に垂直方向に結節部で S字状の	7.5YR6/6 橙	中世の溝 SD-29 に混
深鉢		縄文を施す。	やや粗い 白・透明の砂・	入して出土
縄文			細砂多。黒細砂·赤細粒。	SD −1 Ø 2
土器			やや硬質	

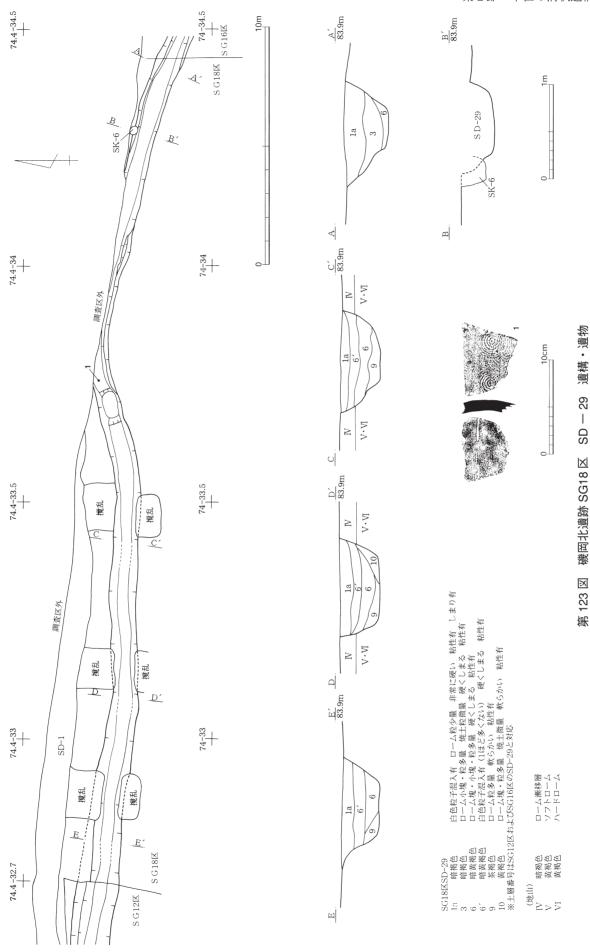
# 第2節 中世の溝状遺構

中世の溝状遺構が 1 条ある (SD - 29)。 SG12 区の SD - 26・SD - 29 と、 SG18 区・SG16 区の SD - 29 が連続する一連の溝になる可能性が高い。低台地を東西に横切って延びる一連の長い溝の、中央部分と思われる (第8図)。

# SG18 区 SD - 29 (第 123 図、写真図版 60 ⋅ 61 ⋅ 89)

**位置** SG18 区北部の 74 − 32・33・34 グリッドにあり、調査区北部全体を東西に走る長い溝である。 西側は SG12 区北西部の SD − 29 に続く(p.180 の第 103 図)。SG12 区 SD − 29 はさらに、SG12 区 において SD − 26A に連続する同一の溝になる可能性が高い(第 100 図の右上部)。西側が SG12 区 SD − 26A と同じ溝であれば、SG12 区南西の台地端部で「中島谷田」とよばれる開析谷までつながる。東側は SG16 区 SD − 29 に続き、SG16 区を通り抜けたさらに東側で無名瀬川(むなせがわ)の開析谷につながる ようにして終了すると思われる。東西 150 ×南北 100m に及ぶ広範囲に延びて、低台地を東西に横切る溝





ということになる。現地調査時の名称は「杉村遺跡  $18 \boxtimes SD - 2$ 」であったが、整理作業の時点で SG12  $\boxtimes O$ 名称「SD - 29」に合わせて「 $SG18 \boxtimes SD - 29$ 」に統一した。

74-34 グリッドで北端付近を時期不明の土坑 SK-6 に切られている。溝の北半分が調査区外に出る部分(Y33.7  $\sim$  Y34.2 ラインの間)は、近世以降に掘削したと思われる用水路で破壊されている。

規模と形状 溝底面は平坦である。SG16 区では横断面形が法面の途中から外へ開く傾向が見られたが、SG18 区では東半部の北側上部が少し開く傾向がある程度で、あまり明瞭ではない。幅83~138cm、残存する深さは43~46cm前後が一般的で、Y33.6 付近ではかなり浅くなり(25cm)、その東側のY33.7 付近では溝底面が土坑状に一段深くなる(溝の遺構確認面から41cm)。底面には特定方向への明瞭な傾斜がみられない。底面の標高は83.46m前後が多く、Y34.4 ライン付近ではやや高くなり(83.50m)、Y33.8 ライン付近でやや低くなる(83.37m)。Y33.7 ライン付近で溝底が一段深い部分では底面標高83.35m。埋土は自然埋没で、埋土上部の1a層に混じる白色粒子は、テフラ粒の可能性もある。

出土遺物 SG16 区における出土遺物はわずかであり、奈良時代前葉の須恵器甕破片がほぼ底面から 1 片だけ出土している(第 123 図 1、写真図版 89)。外面に同心円文当具痕を持つ奈良時代の製品で、茨城県新治窯跡群産と考えられる(山口 1994, pp.110-111,124; 赤井 1998,pp.78-79,86,88; 佐々木 2001,pp.174,176)。SG16 区 SD - 3 と連続することから中世の溝と考えられるので、この須恵器は混入品と判断する。

第 46 表 磯岡北遺跡 SG18 区 SD - 29 出土遺物

番号 種類 材質	大きさ (cm)	特徵	色調 胎土・焼成 (または素材)	出土状態 残存状態 注記
1 <b>甕</b> 須恵器		外面は浅い同心円文当具痕の後、破片の上位と下位にそれぞれ幅 13 mmと幅 14 mmの狭い回転ヨコナデ。内面は回転によらないヨコナデ後、破片上部に 1 条だけ細い回転ヨコナデを軽く施す。茨城 県新治窯産の奈良時代遺物が混入。	やや緻密 白粗〜細粒	底面付近 SD-2の1

# 第3節 時期不明の溝状遺構

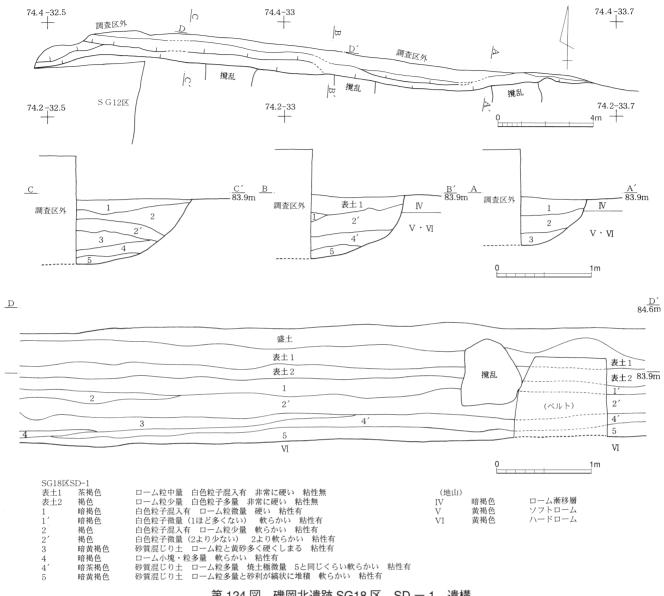
**SG18 区 SD** − **1** (第 124 図、写真図版 61・62)

位置 SG18 区北部の  $74-32\cdot 33$  グリッドにある。重複する遺構はない。北半分は調査区外で、近世 以降に掘削したと思われる用水路で破壊されている。

規模と形状 北側が調査区に出るので、溝の幅は不明である。SG18 区の調査区内に入った幅は最大 120cm あるので、幅 2m 以上の溝になると思われる。残存する深さは最大 56cm。溝底面に一定方向への傾 斜があるかどうかは不明で、底面標高は A-A' 付近で最も高く(83.36m)、B-B' と C-C' の中間付 近で最も低くなる(83.16m)。埋土は自然埋没で、土層断面で埋土下部に見られる 3 層・4' 層・5 層はローム・砂・砂利が混じるので、水成堆積層である。埋土上部の 1 層と 2 層に混じる白色粒子は、テフラ粒の可能性もある。

西側は、SG12 区の北端部にこの溝の南半部が少し入る。しかし、SG12 区の調査区では SG18 区 SD-1 の南半部に続く部分を遺構として認定しなかったため、西側の状況が不明である(p.180 の第 103 図)。

出土遺物 図示できる遺物はない。古墳時代中~後期と思われる土師器杯と甑(?)の体部破片が1片ずつあるが、混入品と考えられる。この他に、SG18区の縄文時代遺構外出土遺物の項で掲載した縄文土器が1片ある(第121図)。



第 124 図 磯岡北遺跡 SG18 区 SD - 1 遺構

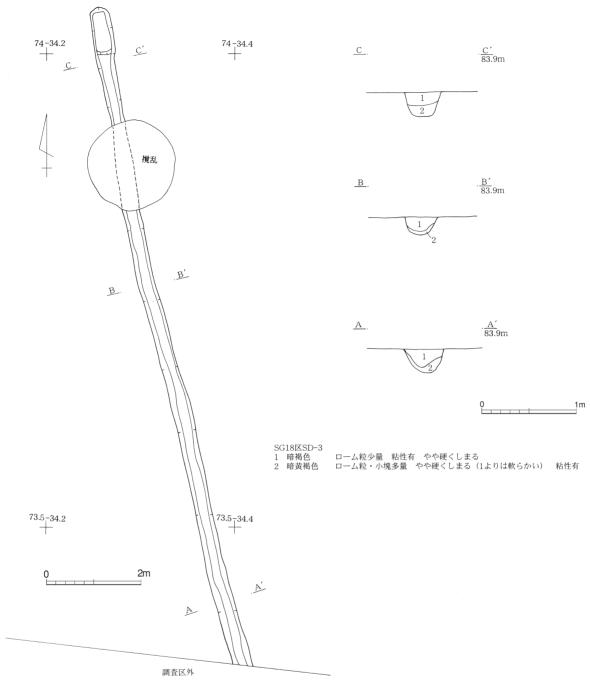
SG18 区 SD - 3 (第 125 図、写真図版 62 ⋅ 63)

**位置** SG18 区東部の 73 − 34 と 74 − 34 グリッドにまたがり、南側は調査区外まで伸びる。重複する 遺構はない。北端は土坑状に少し深くなり、そこで溝が終わる。東方約 14m のところにある時期不明の溝 SD-4と平行するので、同時存在か、または同様な地割りを反映している可能性がある。この2条の溝は ともに発掘調査前の土地利用や地番の境界線にやや斜交しているので(第8図)、それほど新しい時期の遺 構ではないと思われる。

規模と形状 幅  $32 \sim 40$ cm、残存する深さは  $19 \sim 28$ cm で、底面が北へ明瞭に傾斜し、底面標高は南 端で83.70~83.73m、北端で83.49~83.51m。北端の土坑状に深い部分は、長方形状で南北98×東西 42cm、残存する深さ 32cm、底面標高 83.46~83.51m。

埋土 ローム塊の多い層が下半部にレンズ状に堆積するので、自然埋没の可能性がある。溝の底面付近に は径1~3cm大の小石が多く見られた。テフラの層や粒はみられない。

遺物 全く出土しなかった。



第 125 図 磯岡北遺跡 SG18 区 SD - 3 遺構

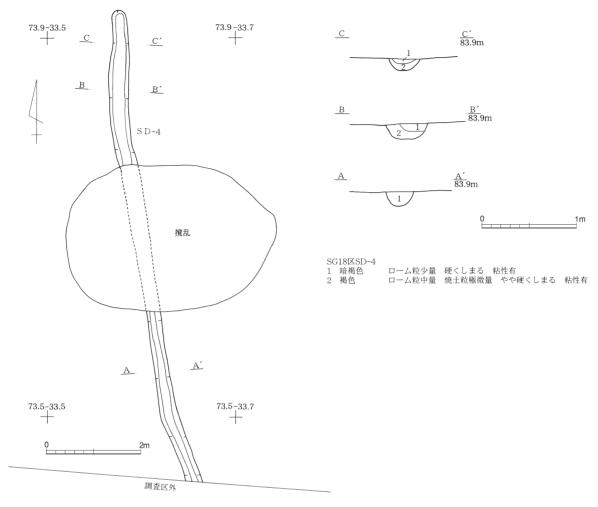
# SG18 区 SD - 4 (第 126 図、写真図版 63)

**位置** SG18 区中央部の 73 - 33 グリッドにあり、南側は調査区外まで伸びる。重複する遺構はない。前の SD - 3 の項で説明した状況から、SD - 3  $\cdot$  4 の時期が近く、また近現代のものではないと推定される。

規模と形状 幅 27 ~ 43cm で北半部が少し広く、北端は溝の末端が突然浅くなって終わる。残存する深さは 9 ~ 17cm で、底面が北へ傾斜し、底面の標高は南端で 83.87m、北端で 83.77m。

埋土 自然埋没ふうの堆積状況で、下層に焼土粒を含む。テフラの層や粒は見られない。

遺物 全く出土しなかった。

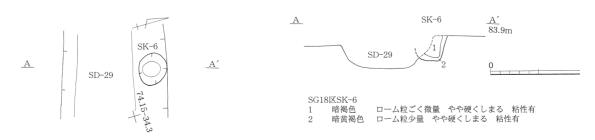


第 126 図 磯岡北遺跡 SG18 区 SD - 4 遺構

# 第4節 時期不明の土坑

## SG18 区 SK - 6 (第 127 図、写真図版 63)

調査区北東部の 74-34 グリッドにあり、SG18 区 SD-29 の北側上端付近を切る。ほぼ正円形で南北  $30 \times$  東西 36cm、残存する深さは 27cm。埋土は自然埋没ふうに堆積し、テフラの層や粒は見られない。遺物は全く出土しなかった。



第 127 図 磯岡北遺跡 SG18 区 SK - 6 遺構

# 第7章 まとめ

# 第1節 縄文・弥生時代の遺構と遺物

**縄文時代草創期** SG12 区と SG17 区で有舌尖頭器が 1 点ずつ出土している (第 16 図 1 ・ 2)。ただし、 第 16 図 2 は縄文後期~晩期の有茎石鏃の可能性も残る。

**縄文時代早期** SG17 区に撚糸文系土器(井草式)が若干まとまって見られる(第  $14 \boxtimes 1 \sim 28$ )。遺構外から出土した石器類も、スタンプ形石器や礫器はこの時期の遺物と考えられる(第  $17 \boxtimes 19 \sim$ 第  $18 \boxtimes 29$ )。

**縄文時代前~中期** SG17 区で阿玉台式期の竪穴建物(SG17 区 SI – 15)と遺物集中地点(SG12 区・SG17 区 SX – 42)を各 1 箇所調査した。他に、前期末~中期初頭の土器(第 14 図 29 ~ 34)や加曽利 E 式土器(同 46)が SG12 区・SG17 区に極少量見られる。

**縄文時代後期** 称名寺式・堀之内式・加曽利B式などの土器片がSG12区・SG17区の遺構外で出土した(第14図46以降)。

縄文時代晩期 主に大洞 C2 式の土器片若干と晩期安行式の土器片極少量が SG17 区にある (第 17 図)。

**その他の遺構** 詳しい時期を判断できない土坑 3 基のうち、SG16 区 SK-20 は、上をローム漸移層が覆うことや、 $1.2 \sim 1.3$  万年 BP に降下した今市・七本桜軽石を含む埋土からみて、縄文時代でも古い時期の土坑と考えられる(第 109 図)。他の縄文時代の土坑 2 基(SG12 区 SK-39 と SG17 区 SK-23)や、陥穴状土坑(SG12 区 SK-44)も、埋土の土質が古そうであることや、遺構を確認した層位から見て、比較的古い時期の可能性が考えられる(第  $28 \cdot 29$  図)。

**弥生時代** SG17 区でアメリカ式石鏃(幅広有茎鏃)が9号墳に混入して1点だけある(第16図15)。 この型式の鏃を弥生後期と考える意見がある(海老原2004, p.14)。この他には、弥生土器や遺構はみられない。

## 第2節 古墳時代中期の土師器と須恵器

開析谷をはさんですぐ西の対岸にある立野遺跡や、この地域の中心集落である権現山・百目鬼遺跡と、陶邑窯(田辺 1966,1981)の編年を参考にして磯岡北遺跡の古墳時代土器の位置づけを検討する。立野 2~4段階・権現山 II~ IV 期に相当し、初期須恵器から高蔵寺 23 型式までの須恵器に並行する。中期前葉には集落、中葉~後葉には古墳群がここで営まれていたことがわかる。

## 7.2.1. 古墳時代中期集落の土器(第 128 図左端)

SG17 区 SI-11(第 128 図左・第 97 図)は、立野遺跡の 2 段階(内山 2005, pp.734-738)、権現山・百目鬼遺跡の II 期(谷中・大島編 2001, III-p.284)に該当する。 9 号墳下層の遺物(第 78 図  $2,3,5\sim9$ )や前回報告分の磯岡北 SG11 区 SI-99(藤田 2003,pp.199-205)も同段階で、この時期の集落にともなう遺構・遺物であろう。初期須恵器(高蔵寺  $73\sim216$  型式)の時期に相当する。

土師器は、出土した口縁部全破片を計量すると、高杯(1.67 周)や小形壺(0.86 周)よりも杯(3.42 周)が食器の主体である(p.173 の第 37 表)。外反口縁の椀形杯は、いわゆる「内斜口縁杯」で、凹底と平底が

第128 図 磯岡北遺跡出土古墳時代土器の変遷

みられ、内外面のミガキが少ない。高杯の脚や小形壺の頸は長く大きい。丸底や尖底の土師器甕も、立野遺跡第2段階に多くみられる(第97図20・21, p.170)。

この段階の須恵器は、磯岡北遺跡では出土していない。立野遺跡 5 区 SI-67 に内面当具痕をナデ消した 甕破片がある。また、田川の西岸にある権現山北遺跡 2 号住居跡で高蔵寺  $73\sim216$  型式の高杯が見られる (大島編 1979, pp.29.32)。

#### 7.2.2. 磯岡北古墳群の土器

#### [1~8号墳の土師器・須恵器] (第 128 図中央)

9号墳以外の土師器は、立野遺跡の3段階(内山2005, pp.734-738)、権現山・百目鬼遺跡のIII期(谷中・大島編2001,III-p.284)に該当する。これら周辺集落の土師器と比較しよう。ただし、資料が僅かな6・7号墳は検討から除外する。

**模倣杯類**  $1 \sim 8$  号墳は定型的な「須恵器模倣杯」が一般化する直前段階で、立野 3 段階に該当する。この中では、模倣杯を少量含む 3 号墳が新しい様相を持つ。これは須恵器蓋を模倣したもので、口が直立して外面に段を持つ(3 号墳の第 53 図  $20 \sim 22$ )。2 号墳の 1 点もその可能性がある(第 43 図 7)。

外面に段がない半球形の杯は、須恵器の忠実な模倣品ではないが、その影響を受けたものと思われる(1,3,8 号墳)。 これが多量化した  $1 \cdot 3$  号墳が新しい様相である(p.72 の第 5 表、p.112 の第 15 表)。

**椀形杯類** 外反口縁で内面を中心によく磨く杯が、 $1\sim5\cdot8$  号墳では最も多い。立野 2 段階・権現山 II 期の椀形杯よりも、口縁部内面の横位ミガキに代表される丁寧なミガキが顕著になる。立野 2 段階の内斜口縁椀形杯を祖型として、須恵器杯の回転ヨコナデを模倣したミガキを取り入れたものであろう。立野 4 段階の外傾口縁杯(内山 2005, p.736)や、これに並行する君島編年 I 期の杯 C 類(君島 1985, pp.170,173-175)よりも体部が深いので、これらよりも先行する。立野 3 段階には適当な例がないが、これと並行する権現山・百目鬼遺跡の III 期に例がある。権現山遺跡 A 区 SI  $-025\cdot479$ (谷中他編 2001, I-pp.101,394)や B 区 SI -048(同前 II-p.15)、百目鬼遺跡 SI -111(同前 III-p.63)などである。

高杯 脚上端がやや太くなり、脚高が減少する。脚の長さから、 $2 \cdot 5$  号墳 $\rightarrow 1$  号墳の順序になる。脚が最も長くてその上端が細い立野 2 段階や、権現山遺跡の高杯 A (権現山 II 期~ III 期前半:谷中・大島編 2001, p.278)よりも新しい。また、完全に短脚化した高杯が出現する立野 4 段階・権現山 IV 期よりも先行する。

小形壺 立野3段階に相当し、この中では2・5・8号墳→3号墳の順序が考えられる。立野2段階から4段階にかけて、体部に対して口~頸部が短縮化してゆく。

**須恵器** 杯は1号墳と遺物集中地点SX - 16 (p.149) にみられ、2号墳にも破片がある。口縁部が高く、端部は水平面または僅かな内傾面を持ち、段を持つもの(1号墳:p.72の5)も1点含む。1・2・3・8号墳の臨は、胴部最大径の位置が下がり、口径/胴径の比率が大きくなる変遷から見て、8号墳が古く1号墳が新しい傾向を持つ(第128図上段)。大形 (1号墳)や樽形 (1・3号墳)を含むことも特徴で、後者は円板部よりも胴中位の径がかなり大きい(1号墳:p.72の9)。これらの特徴から、高蔵寺208号窯型式に相当する。

## [9号墳の土師器・須恵器] (第128 図右端・第76 図)

 $1\sim8$  号墳よりも一段階新しい。土師器は立野遺跡の4段階(内山2005, pp.735-738)、権現山・百目鬼

遺跡の IV 期(谷中・大島編 2001, p.284) に該当する。

**杯類** 立野 4 段階・権現山IV期と同じく模倣杯が主体である。直立口縁の定型的なもの(9号墳の9・10)や、内傾口縁の深いもの(5~8)が見られる。半球形の杯は小形・深身化する(11)。これに対して、よく磨く外反口縁の杯(12)は、この段階には杯全体の1/4程度に減少している(p.147の第27表)。

高杯 立野遺跡 4 段階・権現山遺跡 IV 期と同じく短脚化する  $(17 \sim 25)$ 。脚上部は中空で(権現山遺跡 の高杯 B1)、ここを中実に作る高杯 B2(谷中・大島編 2001, pp.278-279)は含まない。

小形壺 頸部が最も短くなったもので(15)、立野遺跡の4段階に相当する。

**須恵器** 杯は底部または蓋天井部の破片だけで、1号墳の杯よりも丸味が強い点が新しい要素である。 
 は口径・頸径が大きくなるもので、高蔵寺 23号窯型式である。

# 第3節 古墳時代中期の集落と墓域

西側の開析谷である中島谷田(なかじまやだ)をはさんですぐ西側にある立野遺跡が、磯岡北古墳群と対応する集落と考えられる。立野遺跡の5区・6区と宇都宮市調査A地区周辺で調査した91棟の古墳時代竪穴建物は、約半数の44棟が中期である。立野遺跡1~4段階並行期の周辺の集落と古墳群の変遷を、第129図に示した。立野遺跡の時期区分と磯岡北遺跡の関係は、7章2節で述べたとおりである。

## 7.3.1. 前期末~中期初頭の集落(第129図1段階)

立野遺跡 5 区の南部に 1 棟だけ建物が見られる。まだ大規模な集落は成立していない。この状況は、東谷・中島地区の全域について同様である。

## 7.3.2. 中期中葉の集落(第129図2段階)

**磯岡北遺跡** 中期中葉の竪穴建物  $5\sim6$  棟と掘立柱建物 1 棟がある。これは古墳群形成前の集落で、SG17 区南部の SI-11 (本書, pp.167-173) から SG11 区北端部の SI-99 (藤田 2003, pp.199-205) までと、その中間にある宇都宮市教育委員会調査分の A 区・B 区にかけて所在する。

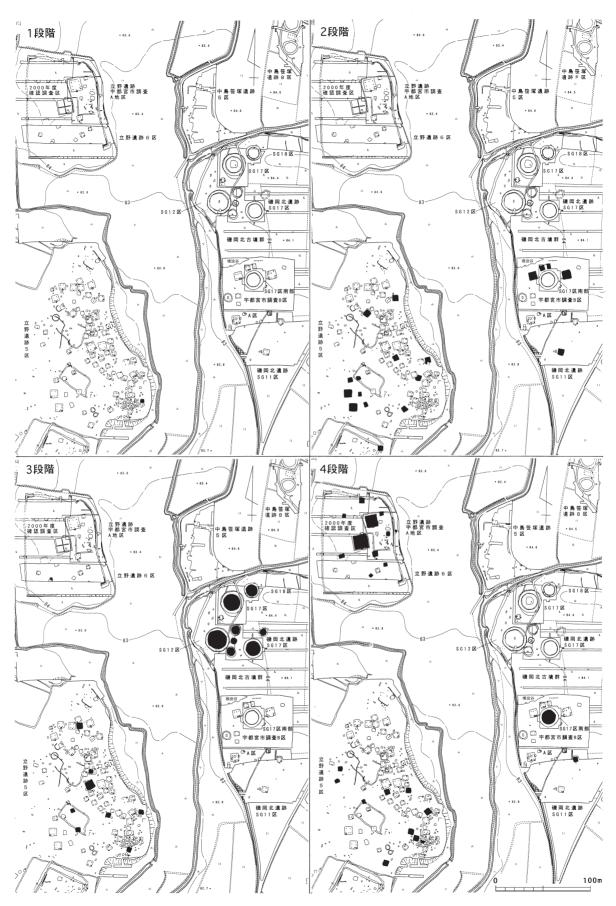
宇都宮市調査 B 区は遺物が未報告で不明な部分が残るが、B 区の建物が SG17 区 SI - 11 と同じ単位集団 を構成する可能性が高い。B 区には辺長 9 m の大形竪穴建物である B 区 SI001 と SI002 が東西に並ぶ(宇都 宮市 2005b, pp.13-14)。SG17 区 SI - 11 はその中間にあり、すぐ東にある掘立柱建物(宇都宮市調査 B 区 SB001)とともに、それぞれの主軸を揃えている。

宇都宮市調査 A 区の竪穴建物 2 棟も、中期中葉の建物を含むようである(宇都宮市 2004, p.24)。詳細は 未報告である。

**立野遺跡** 5区に見られる大〜中形建物が、磯岡北古墳群の被葬者層に対応すると推定される。磯岡北古墳群築造前の中期中葉には第2段階の13棟が認められる。磯岡北1〜8号墳の計8基よりも少し多い数の建物が存在し、辺長8m以上の大形建物を2棟含む。

# 7.3.3. 中期後葉の集落と古墳群(第129図3段階)

**磯岡北遺跡** 古墳群の中心的な造営期で、1~8号墳が形成される。中期中葉(2段階)と末葉(4段階)に少数の建物が見られるが、中期後葉(3段階)には集落がない。2段階に見られた磯岡北集落の単位集団は、



第 129 図 磯岡北古墳群と周辺遺跡の変遷

古墳群が成立する直前にこの地を去る。古墳群と同時期の集落は西側の立野遺跡に集約されるのであろう。

**立野遺跡と磯岡北古墳群** 磯岡北  $1\sim8$  号墳を築く中期後葉には、立野遺跡 5 区に 9 棟の建物があり、古墳造営者層に対応すると推定される。辺長 8 m 以上の大形建物を 1 棟含む。立野遺跡 6 区周辺の試掘トレンチ外にも未確認の建物跡が存在するであろう。

#### 7.3.4. 中期末葉の集落と古墳群(第129図4段階)

**磯岡北古墳群と周辺の建物跡** 磯岡北古墳群の終末段階である中期末には、9号墳だけしか見られない。 この時期には北側の中島笹塚古墳群に墓域の中心が移動した可能性が高い。

中期末の竪穴建物は僅かである。今回報告する地区では建物が調査されていないが、磯岡北 SG11 区北端部 (藤田 2003,pp.205-210 の SI - 100) と、すぐ北側の中島笹塚遺跡 5 区(とちぎ埋文 2001, pp.34-35)に各 1 棟がある。

立野遺跡 磯岡北9号墳に対応する中期末は、立野遺跡の竪穴建物が最も多い時期である。立野3区の単独建物も含めると21棟がある(内山2005, pp.735-742; 水野他2005, p.35)。このうち宇都宮市調査A地区のSI-2とSI-3は、辺長15mと12mの超大形竪穴建物で、古墳時代を通じて最大級である(水野他2005, p.36)。

## 第4節 古墳時代中期の群集墳

古墳時代中期後葉の円墳9・周溝内土坑1(2号墳周溝内)・土壙墓5・竪穴式小石室1・埴輪棺1を調査した。主体部は3号墳が木棺直葬で、他の古墳では残存しない。2号墳に主体部の残骸と思われる層が残る程度である。7.2.2.項で触れた土師器と、高蔵寺208号窯型式の須恵器が比較的豊富に出土した。副葬品は2号墳で鉾1・刀2・剣2・鏃18片・轡1・斧1・刀子3・不明鉄製品2、3号墳で鉄刀3・鉄鏃18・ガラス小玉69・珠文鏡1、4号墳周溝内で刀子1、8号墳周溝内で不明鉄製品(責金具?)2、9号墳周溝内で砥石2(?)・鎌1・刀子2・鉄鏃1・不明鉄製品1、土壙墓SZ-22に鉄鐸3・鉄鏃9がある。周溝内の遺物は、消滅した埋葬施設から流出したものであろう。

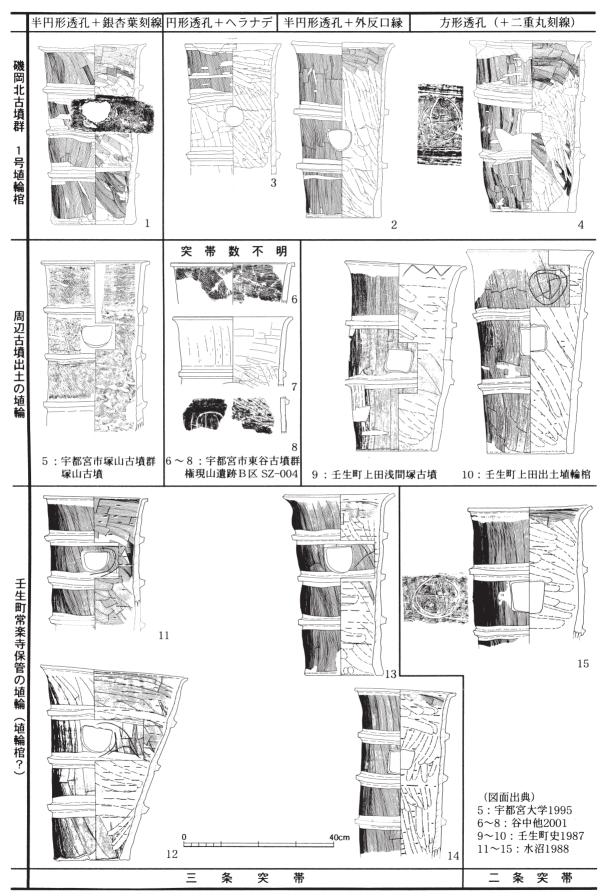
特徴的な遺構・遺物について、類例をあげて簡単に比較検討する。

# 7.4.1 磯岡北古墳群出土の埴輪

**1号埴輪棺の埴輪**(第 130 図 1 ~ 4) 2条突帯と3条突帯の埴輪を組み合わせていた。同種の2条・3条突帯埴輪を混ぜて使う転用棺は、壬生町上田浅間塚古墳で1958年に出土した埴輪棺の略図があり(大垣他1981, pp.9-10)、また壬生町常楽寺保管資料も埴輪棺と推定されている(第 130 図  $11 \sim 15$ : 水沼1988)。これらの埴輪棺は、2条・3条突帯のこれら各種埴輪が共存する古墳(群)または生産地から入手して棺に転用したものであろう。

同種の埴輪は、宇都宮市塚山古墳群に所在する塚山古墳で3条突帯、壬生町上田浅間塚古墳で2条突帯の 資料が現時点で知られている。塚山古墳の須恵器(宇都宮大1995, pp.60-61)および上田浅間塚古墳の鉄 鏃からみて、高蔵寺216型式期の埴輪と考えられる。高蔵寺208~23型式期の磯岡北古墳群よりも少し 早い時期の製品なので、先行する他古墳の埴輪を転用した棺であることがわかる。

具体的に探索してみよう。3条突帯埴輪(第130図1)は、塚山古墳(5)、塚山古墳群の射撃場内埴輪



第 130 図 磯岡北古墳群 1 号埴輪棺と関連する円筒埴輪

棺(常川他 1979, 図版 15~21)、常楽寺保管品(11・12)と同種である。10は上田浅間塚古墳の隣接地で出土したもので(故大垣八郎氏御教示)、上田浅間塚古墳の埴輪を転用した可能性がある。射撃場内埴輪棺は塚山古墳の埴輪を転用したものと考えられる(秋元 2004, p.59)。2条突帯の4は、壬生町上田出土埴輪棺(10)および常楽寺保管品(15)と同種である。同じく2条突帯の2は、壬生町上田浅間塚古墳の9(大垣他 1981・水沼 1987a)とは透孔形が異なり、常楽寺保管品(13)とは突帯数が異なる。13と同種の埴輪は塚山6号墳(宇都宮大 1995,pp.66-67)と射撃場内埴輪棺にもみられる。

1号埴輪棺の3は、外面調整にヘラナデを混用し、口縁端部に刻みを持つ特徴的なものである。口縁端部や突帯の刻みは群馬県域に多く見られる(橋本1979,pp.51-52; 加部2004, pp.26-27)。ヘラナデ調整の埴輪は、東谷古墳群内の中規模円墳である権現山B区SZ-004にある(7)。ここでも塚山古墳(5)と類似した埴輪(6)を伴うので、同種埴輪の出土地としては磯岡北古墳群に最も近い。ただし、権現山B区SZ-004の土器は磯岡北9号墳(第128図右)と同じ第4段階で、第2段階並行期の塚山古墳・上田浅間塚古墳・東谷笹塚古墳よりも新しい。権現山B区SZ-004や笹塚古墳の埴輪が、磯岡北1号埴輪棺と同種である可能性を確認するには、さらに資料の蓄積が必要である。

各古墳出土の埴輪片  $1 \sim 3 \cdot 8 \cdot 9$  号墳でも、1 片~数片ずつ埴輪破片が出土した(1 号墳 22、2 号墳  $32 \sim 34$ 、3 号墳 32、8 号墳  $17 \cdot 18$ 、9 号墳  $38 \sim 41$ )。8 号墳の 17 は、1 号埴輪棺の埴輪片(第 130 図 4)と同一個体の可能性がある。そのほかは、遺構間で同一個体と思われる破片は見当たらない。どの古墳からも、本来その古墳に立て並べられたといえるような量の破片は出土していない。埴輪をいずれかの古墳に少量用いたのか、または 1 号埴輪棺と同様な埴輪転用棺に由来する破片なのだろう。

その他の埴輪 中世の溝である SG18  $\boxtimes$  SD - 29 で出土した同一個体の可能性がある埴輪 3 片(第 114  $\boxtimes$  2  $\sim$  4)は、磯岡北古墳群で出土する埴輪にくらべると突帯がかなり扁平である。無名瀬川の東対岸にある琴平塚 1 号墳(中村 2004)の埴輪が、中世に持ち込まれたものかもしれない。

## 7.4.2 副葬品と土壙墓・小石室

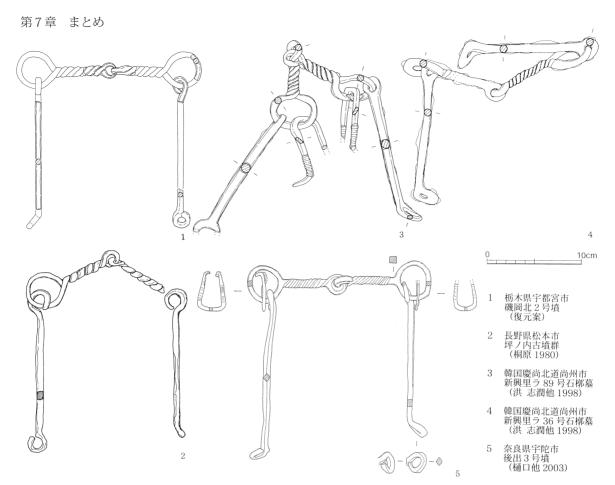
## [2号墳出土の轡]

**轡の特徴** 銜の連結部と、引手の端環・棒・壺部の破片がある(第 44 図 58  $\sim$  62、第 131 図 1)。銜は複数條(おそらく 2 條)の鉄棒を捩る。引手は 1 條で壺部が屈曲し、内環・外環の鍛接が不十分である。

轡の種類は、有機質の棒状銜留を使う鑣轡の可能性がある。副葬時期が高蔵寺 208 型式期まで下ることを考慮すると、多條捩りの銜に板状の鏡板が取り付く可能性は低い。多條捩りの銜には遊環が不要である(諫早 2005, p.123)と考えた場合、第 44 図 59 の環状破片は遊環ではなくて、径の大きい銜外環(伊藤 1974, p.82)か、または棒状掛留式の立聞用金具(張允禎 2003a, pp.88-90)の破片と推定できる。第 131 図 1 は前者の場合の復元案である。鑣轡の分類では「単条引手+捩銜」(張允禎 2003b)に該当する。鑣轡以外の種類も含めた轡製作技術の分類では、引手は A2B2C4D1(金斗喆 1993)・1 條線引手 a2 類(諫早 2005)、銜は A1B1・2 條捩り銜に該当する。

「単条引手+捩銜」の鑣轡は、多條捩り銜(第 131 図  $1 \sim 4$ )よりも 1 條捩り銜(5)が普通である(千 賀 1988 の第 1 表)。日本出土例の場合も同様で、単条引手+ 1 條捩り銜が多い(群馬県西大山 1 号墳・静岡県西宮 1 号墳・奈良県後出 3 号墳・兵庫県姫路宮山古墳  $2 \cdot 3$  号石室など)。この組み合わせは、遊環の有無や立聞用金具の種別を越えて認められる。

磯岡北2号墳の轡は、多條捩りの銜が新しい段階まで残存した事例で、類例は少ない。日本では長野県松



第131図 鑣轡の復元案と関連資料(1~4は多條捩り銜、5は1條捩り銜)

本市坪ノ内古墳群出土鑣轡が同種である(第 131 図 2:桐原 1980,pp.31,40; 諫早前掲,p.111)。諫早 (2005 の表 2) が検討した三国時代の轡では、1 條線引手 a2 類に 2 條捩り銜を連結する例が未確認であるが、3 條 捩り銜を持つ例は少数確認される。日本の古墳時代中期中葉に並行する諫早編年 II 段階まで多條捩り技法の銜を継続するのは金海・釜山地域の特徴であると考えられている(諫早前掲,p.129)。諫早が分析した資料以外でも、洛東江を北へ遡った慶尚北道尚州市新興里ラ地区 36・89 号石槨墓(第 131 図 3・4、洪志潤他編 1998)に認められるので、この種の轡を日本列島に導入した故地として、韓国慶尚道地域(嶺南地域)が挙げられよう。洛東江西岸域では、慶尚南道咸安郡にある馬甲塚木槨墓の轡も多條捩り銜だが(池炳穆・李柱憲 2002, pp.52,54)、この場合はより西部地域的な「二重環」(金斗喆 1993, p.87)を介して単條引手に連結する可能性がある。

周辺地域の例を挙げると、磯岡北 2 号墳例よりも先行型式の二條線引手(李蘭暎・金斗喆 1999, p.251)が、南西 1.7km にある松の塚古墳周溝で出土している(谷中・大島 2001, III-p.115)。一方、栃木県矢板市十三塚遺跡 6 号住居址(日賀野・中村 1991)の鑣轡は、百済〜洛東江西岸地域の特徴である遊環(金斗喆 1993, pp.86,87,93)を持ち、銜は 1 條で、磯岡北 2 号墳例とは系譜が異なる。

被葬者の性格 鐙・鞍・尻繋などの他の馬具部品を伴わないで、鑣轡(つまり面繋だけ)を出土する事例は、 磯岡北2号墳以外にも一定数が認められる。長野県飯田市物見塚古墳周溝(佐々木・小林1992)・同県長野市上池ノ平5号墳(青木他1988)、岡山県津山市一貫西4号墳(行田1990)・同市長畝山北3号墳(行田・保田・木村1992)、同県岡山市寺山7号墳(根木1997)、宮崎県えびの市久見迫B地区SK-110(中野編1996)などがあげられる。馬の埋葬に伴う場合(物見塚・久見迫)と、被葬者に副葬される場合がある。

古墳中期の馬具が副葬される場合、(1)轡と鞍・鐙・尻繋がセットで副葬される馬具には甲冑を伴うこと

が多いが、(2) 

鎌轡や鉄製楕円形鏡板轡などの簡素な轡と面繋だけが副葬される場合には甲冑を伴わない傾向がある。(1)と(2)は、被葬者の階層差に対応している。階層差と社会的役割との関係を推論すれば、鞍・鐙・ 尻繋は騎乗する場合に必要な馬具であるから、(1) は騎乗を表象していると解釈できる。(2) は騎乗だけでなく、飼養・調教を表象する場合も含むであろう。東京都喜多見中通南遺跡 21 号住居址(品川・前田編 2000) や栃木県十三塚遺跡 6 号住居址(日賀野・中村 1991) のように通常の竪穴建物跡で鎌轡が出土する例も、(2) と対応する日常的な使用や修繕の場を反映している。十三塚遺跡例を「百済系渡来人による馬匹生産に伴う遺品」と考える意見もある(桃崎 2005, p.111)。

磯岡北2号墳の被葬者は(2)に該当し、馬具副葬階層の中では相対的に下位である。騎乗者と馬飼いの どちらを表象した副葬品であるのかは分からないが、鉾を伴うことから見ると前者の可能性を含んでいる。

## 〔土壙墓出土の鉄鐸〕

磯岡北2・3号墳の西側にある土壙墓群のうち SZ - 22 から鉄鐸3点と鉄鏃1束が出土した(第 132 図 1)。鉄鏃からみて、周辺の古墳と同じく高蔵寺 208 型式期の墳墓と見られる。倭における鉄鐸出現に続く時期の資料である。

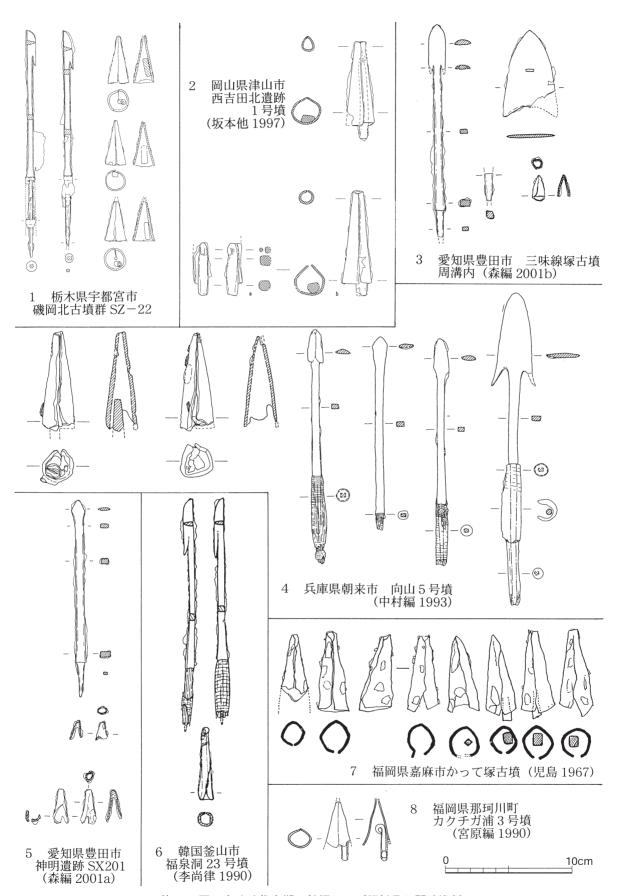
鉄鐸の類例 倭では古墳時代中期に6遺跡で16例の鉄鐸が知られ、他に2遺跡の3例もその可能性を指摘できる。倭で鉄鐸が出現する中期中葉には、高蔵寺216型式期の岡山県津山市西吉田北1号墳で2点が出土している(第132図2)。愛知県豊田市三味線塚古墳の周溝で出土した「石突形の小型鉄製品」1点も、鉄鐸の可能性があろう(第132図3)。これに続く中期後葉(高蔵寺208型式期)頃の例は、磯岡北古墳群SZ-22の3点と、兵庫県朝来市向山5号墳の2点(第132図4)・群馬県高崎市倉賀野万福寺6号墳の1点(第133図右)がある。中期末葉(高蔵寺23~47型式期)には福岡県嘉麻市かって塚古墳の7点がある(第132図7)。福岡県那珂川町カクチガ浦3号墳周溝出土品も、鉗子・小刀・鎌轡の立聞用金具と伴うので、中期末の供献品であろう(8)。また、愛知県豊田市神明遺跡の遺物集積SX201で出土した「鉾のミニチュア?」2点も鉄鐸の可能性を持つ(5)。

古墳時代の鉄鐸は、朝鮮半島系遺物と考えられる(尹容鎮他 1991, p.74; 西田 1998, pp.179-181)。朝鮮半島の鉄鐸は、三韓時代まで出現が遡るが(金東淑 2000, p.288)、主に6世紀代墳墓で出土し、倭に出現する古墳中期中葉並行期の祖型や分布は未詳である。現状で三国時代鉄鐸の初現例である釜山市福泉洞23号竪穴式石槨墓(第 132 図 6)は、鉄鏃・f 字形鏡板付轡からみて倭の古墳中期後葉に並行し、磯岡北遺跡SZ - 22(1)よりも向山5号墳例(4)に近い長型の鉄鐸を持つ。なお、向山5号墳と神明遺跡SX201で鉄鐸に伴う細根系圭頭鏃(第 132 図 4・5)も、朝鮮半島南部との関連が指摘される型式である(鈴木 2005, pp.85-87)。

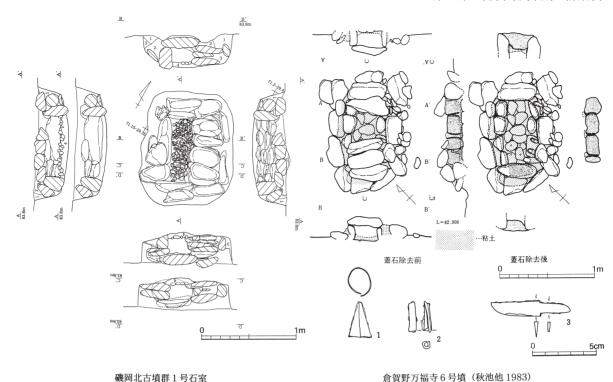
古墳時代後期には、行田 (1997) の集成した 10 遺跡 17 例の鉄鐸以外に、岡山県鏡野町(旧奥津町)の 杉遺跡で 5 点が出土した(日下 2000, p.104)。さらに、滋賀県木ノ本町黒田長野 2 号墳の「中空の三角錐 状品」 2 点(田中 1980,pp.22-23)・愛知県春日井市高蔵寺 5 号墳の「円錐形鉄製品」 1 点(北川他 1974, pp.24-25)・香川県坂出市雄山(おんやま)古墳群 IV 区 SD01 の「不明鉄製品」 2 点(宮崎・松本 2000) が鉄鐸の可能性を持つ。これらの他にも未報告資料が存在する。

朝鮮半島では、嶺南地域を中心に6世紀代から鉄鐸が増加する。古墳時代後期前葉に並行する時期には洛東江東岸地域(新羅)に集中し、時期が下がると分布圏が拡大する(金東淑 2000, p.283)。

被葬者の性格 朝鮮半島では、古墳群の中心ではない小形墳で鉄鐸が出土するので、「巫俗分野」の担当



第 132 図 古墳時代中期の鉄鐸および類似品と関連資料



第 133 図 栃木県磯岡北古墳群と群馬県倉賀野万福寺古墳群の小石室・遺物

者が用いた「巫俗具」つまりシャーマンの祭祀具とされている(洪潽植 1995, p.164)。出土位置から「専門 巫俗人」の腰部に着装したもので(金東淑前掲, pp.286,289)、紡錘車や成人女性人骨が伴う例も知られる(金東淑前掲; 張正男 1995, pp.78-80)。また、鍛冶工具を伴う例(金斗喆 1987)からみて被葬者を鍛冶工人身分の「豪人層」と考える意見もある(尹容鎮他 1991, pp.73-74)。

一方、日本では鉄鏃を伴うので(第 132 図)、男性に副葬する例が多いであろう。韓国と同様にシャーマン説と鍛冶工人説がある(行田 1997, p.107)。鍛冶工具は、岡山県西吉田北 1 号墳と福岡県カクチガ浦 3 号墳で共伴する。被葬者が鍛冶工人である可能性の他に、鍛冶具を使用した祭祀行為に伴う可能性もある(村上 2004, pp.638-640)。やはりシャーマンが鉄鐸を使用するシベリアでは、鍛冶工人とシャーマンの間における師弟や兄弟のような関係も紹介されている(ヴィテブスキー 1995, p.84)。

磯岡北古墳群 SZ - 22 の被葬者も祭祀的性格を持った人物で、墳丘外の土壙墓に葬られる従属的な階層を推定できる。墓壙規模と鉄鏃から見て成人男性の可能性が高い。

## 〔鉄鐸・小石室を伴う古墳周辺埋葬の類例〕

磯岡北2・3号墳の西側には、SZ - 22を含めて土壙墓4基と竪穴式小石室1基が、古墳群内の周辺埋葬 墓群を形成している。

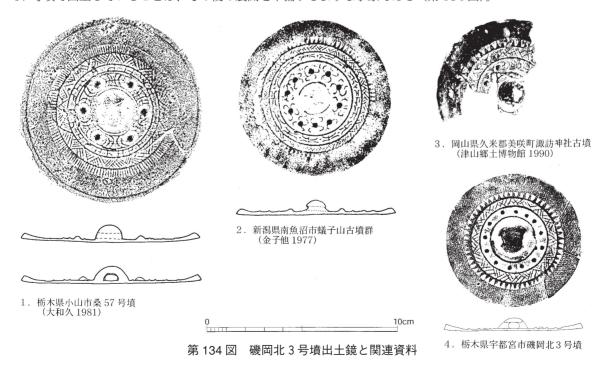
近い時期の例として、群馬県高崎市倉賀野万福寺遺跡の古墳群がある。倉賀野万福寺6号墳では、鉄鐸1・ 刀子1・臼玉128が出土した67×22cmの石室が再葬墓または祭祀具埋納施設と想定され(秋池他1983, p.87)、墳丘の中心からはずれた位置にある。磯岡北SZ-22の南側にある1号小石室と類似した石室構造 で(第133図)、古墳の周辺埋葬である点も共通している。朝鮮半島嶺南地域の系譜をひく祭祀具である鉄 鐸を東日本地域で最初に採用し、その特徴(丈が短い鉄鐸に、鉄板を巻いた舌を伴う点)も一致するところ に、磯岡北古墳群と倉賀野万福寺古墳群の共通性を見ることができる。

# 7.4.3 磯岡北古墳群の性格

東谷・中島地区周辺の古墳時代中期群集墳としては、磯岡北古墳群の他に、東谷古墳群の東半部に含まれる「権現山遺跡 B 区」の円墳群(谷中他 2001)と、中島笹塚古墳群(とちぎ埋文 2004, pp.41-42; 同 2005)がある。また、やや東方に離れて西刑部古屋原 1,3,5,6,7 号墳がある(清水 2002)。磯岡北と中島笹塚の古墳群は、立野遺跡 5・6 区周辺の集落に対応する墓域と推定される(第8図)。本章第2・3節の時期区分に従うと、南側にある母集落および首長居宅(権現山・百目鬼遺跡:第7図)から開析谷を北上した位置に衛星集落が成立し(立野遺跡 2 段階)、3~4 段階にその墓域として磯岡北・中島笹塚古墳群を形成したものである(第129図)。

中島笹塚遺跡 6・7区の円墳 2 基(墳径 14~20m)と磯岡北 3 号墳(墳径 21m)では、小形倭鏡を 1 面ずつ出土する(とちぎ埋文 2005b)。また、磯岡北 2 号墳では轡や鉾を副葬する。古墳の規模に対して副葬品がやや豊富である。田川をはさんだ西岸地域でも、古墳中期に同様の状況がみられる。東岸の東谷笹塚古墳よりわずかに遅れて高蔵寺 216 型式期(第 2 段階並行期)に墳長 98.3m の塚山古墳が出現する(宇都宮大学 1995)。また、高蔵寺 216~23 型式期には塚山西古墳(墳長 63.1m)→雀宮牛塚古墳(墳長 56.7m)・塚山南古墳(58.0m)の順序で、時期を接近して帆立貝式古墳を築造する。雀宮牛塚古墳は豊富な副葬品が判明している(大和久 1969)。塚山西古墳・南古墳の並行期には、本村遺跡(宇都宮市1997,1998,2000)の 2 号墳(墳径 24m・乳文鏡 1 面・銀杏葉文線刻円筒埴輪他)、城南 3 丁目遺跡(今平1996)の 1 号墳(墳径 12.9m・木棺 2 基・乳文鏡 1 面など)のように、やはり副葬品が豊富な中小円墳がつくられる。

田川東岸では東谷古墳群と権現山・百目鬼遺跡、田川西岸では塚山古墳群と中原(二軒屋)遺跡群とのかかわりを持って、これらの中期群集墳が出現したと考えられる。鏡の他に、「塚山系」埴輪(秋元 2004・米澤 2005・小野本 2005)や埴輪棺の分布中心地でもある。下毛野地域内における中期後半の政治的中心地であることを背景として、この宇都宮南部地域に中期群集墳と大規模な集落群が営まれたことを示している。中期末には、小山市北部域へ下毛野の政治的中心が移動する。磯岡北 3 号墳出土鏡の先行型式が小山市桑57 号墳で出土していることは、その後の展開を準備するような事象である(第 134 図)。



# 第5節 古代・中世の遺構と遺物

## 7.5.1 古墳時代終末期~奈良時代の集落

磯岡北遺跡では、今回報告した地区よりも南側に古墳時代終末期の建物群がある。 B 区に 7 世紀の竪穴建物が 3 棟あり(宇都宮市 2005b,pp.13-14)、SG11 区北端部の SI -3 と SI -49 が終末期後半の竪穴建物である(藤田 2003, pp.210-217)。今回報告する磯岡北  $3\cdot 9$  号墳(第  $53\cdot 76$  図)と SG18 区 SD -29(第 123 図)に 7 世紀末~8 世紀初め頃の須恵器が見られるのは、これらの集落から混入したものかもしれない。また、  $2\cdot 8$  号墳にも奈良時代の須恵器が少量混入していた(第  $43\cdot 72$  図)。

すぐ北側の中島笹塚遺跡には後期~終末期の集落があり、3~7区で竪穴建物が調査されている。同遺跡 1区の奈良時代集落へ継続するかどうかは不明確である(とちぎ埋文 2001・2004・2005a)。

#### 7.5.2 中世の遺構と遺物

低台地を東西に横断する長い溝が、古墳周溝に連結・迂回して伸び、13世紀頃の古墳群周辺の土地利用を示す。

台地の東端 (SG16 区 SD - 29) から中央部 (SG18 区 SD - 29) を経て西端 (SG12 区 SD - 29 と SG12・17 区 SD - 26A・26B) まで、2・3 号墳の東側周溝も利用しながら伸びる長い溝が、磯岡北遺跡の北端部に認められる。SG16 区で SD - 29 に合流する同時期の溝 SD - 3 出土の非ロクロ成形かわらけは小皿というよりも皿で(第 114 図 1)、今平編年(2001、pp.118-120)の1 期に相当するので、13 世紀ころの可能性がある。かわらけは、SG12・17 区の3・8 号墳にも混入している(p.181 の第 104 図 2・3)。この他、常滑産陶器(こね鉢および甕)と青磁碗も3・8・9 号墳周溝に見られ、磯岡北古墳群周辺を中世に利用していたようである。9 号墳出土の大甕(第 104 図 8)は常滑 5 型式で、1220~1250 年頃と考えられている(中野 2005、pp.60-61)。

集落に関わる遺構としては方形竪穴がある。磯岡北遺跡の北半部では、2005 年度の確認調査トレンチで 1 基が確認されているが(第8図で9号墳の東方約80m)、SG16・18区の中世溝SD - 29とは130m以上も離れているので、直接的な関係は考えにくい。磯岡北遺跡の南半部では、SG3区で1基(藤田2003, p.173)と、同じく磯岡北遺跡の一部に含まれる「杉村北遺跡」(亀田1999)で2基が確認され、後者では井戸が隣接している。

開析谷をはさんだ西の対岸にある立野遺跡 5 区では中世の方形区画溝がある(第 8 図左下隅)。東西 48 × 南北 46m の規模で、 $14 \sim 15$  世紀ころの可能性が考えられる(内山 2005,pp.515-526,749)。 立野遺跡では、宇都宮市調査 A 地区にも方形竪穴と井戸がまとまって見られるが、詳細な時期がわかる土器などが出土していない(水野他 2005)。

#### 【参考文献】 (著者名五十音順)

青木和明・矢口忠良・横山かよ子・和田 博 1988 『地附山古墳群-上池ノ平1~5号古墳緊急発掘調査報告書-』長野市の埋蔵文化財第30集 長野市教育委員会・長野市遺跡調査会 pp.57-59.

赤井博之 1998「古代常陸新治窯跡群の基礎的研究 (1) - 奈良・平安時代の須恵器編年を中心に一」『婆 良岐考古』第20号 婆良岐考古同人会 ひたちなか pp.61-109.

秋池 武・大賀 健・寺島 博・井上荘之助・大和久 震平 1983『倉賀野万福寺遺跡』高崎市倉賀野万福寺遺 跡調査会 pp.63-67,92.

秋元陽光 2004「栃木県南部における円筒埴輪の一様相」『栃木県考古学会誌』第25集 栃木県考古学会 宇都宮 pp.55-80.

諫早直人 2005「朝鮮半島南部三国時代における轡製作技術の展開」『古文化談叢』第54集 九州古文化研究会 北九州 pp.109-138.

伊藤秋男 1974 「韓国における三国時代の鑣轡について」 『韓』 第3巻第1号 韓国研究院 東京 pp.77-95.

上野修一2001「谷近台遺跡」芳賀町史編さん委員会編『芳賀町史』資料編 考古 芳賀町発行(栃木県芳賀郡) pp.55-56.

上原康子編 1999『清六III遺跡 I (縄文・弥生・古墳時代編)』栃木県埋蔵文化財調査報告第226集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団

内山敏行 2005『東谷・中島地区遺跡群 5 立野遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第290集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

宇都宮市教育委員会文化課 1996『宇都宮市文化財年報』第12号〔平成7年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 1997『宇都宮市文化財年報』第13号〔平成8年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 1998『宇都宮市文化財年報』第14号〔平成9年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 2000『宇都宮市文化財年報』第15号〔平成10年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 2002『宇都宮市文化財年報』第17号〔平成12年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 2003『宇都宮市文化財年報』第18号〔平成13年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 2004『宇都宮市文化財年報』第19号〔平成14年度〕

宇都宮市教育委員会文化課 2005a「磯岡北遺跡 円墳 埋葬主体部の箱式石棺を確認」『新資料速報展2005』 p.4.

宇都宮市教育委員会文化課 2005b『宇都宮市文化財年報』第21号〔平成16年度〕

宇都宮大学考古学研究会 1995「塚山古墳外形確認調 育報告」『峰考古』第9号

宇都宮大学考古学研究会 2003 『塚山西古墳 塚山南 古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第48集 宇都宮市教 育委員会

宇野隆夫 1981「遺物の考察」『京都大学埋蔵文化財調査報告II 白河北殿北辺の調査』京都大学埋蔵文化財研究センター 京都 pp.61-88.

宇野隆夫 1982「考察の方法」『丹波周山窯址』京都 大学文学部考古学研究室 京都 pp.41-57.

宇野隆夫 1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史 民俗博物館研究報告』第40集 佐倉 pp.215-232.

大垣八郎・五十嵐利勝 1981「壬生町上田浅間塚古墳 出土の埴輪について」『下野考古学』3 下野考古学研 究会 宇都宮 pp.7-18.

大澤伸啓 2003「下野国におけるかわらけの変遷-中世前半を中心として-」『栃木の考古学』 塙 静夫 先生古稀記念論文集「栃木の考古学」刊行会 宇都宮 pp.315-330.

大島和子編 1979『権現山北遺跡』宇都宮市埋蔵文化 財調査報告第5集 宇都宮市教育委員会

大関利之 1991「宇都宮市上の原遺跡の中期縄文土器」『Aesculus』No.12 宇都宮 pp.7-8

大和久震平 1969『雀宮牛塚古墳』宇都宮市教育委員会(1984年『牛塚古墳』として再版)

大和久震平 1981「桑57号墳」小山市史編さん委員会編『小山市史』史料編 原始古代 小山市発行pp.194,197,201.

小野本 敦 2005「古墳時代中期における埴輪製作集団の地域間交流-線刻の検討から-」『遡航』第23号 早稲田大学大学院文学研究科考古談話会 東京pp.59-71.

金子拓男・佐藤泰治・戸根与八郎・駒方敏朗・家田順一郎・髙橋陽子 1977「伊乎乃郡の古墳」『南魚沼』新潟県文化財調査年報 第15 新潟県教育委員会pp.413-454.

加部二生 2004「群馬県における中期古墳出土埴輪の 分布と系譜-窖窯導入段階を中心として一」『埴輪研究 会誌』第8号 埴輪研究会 佐倉 pp.17-29.

亀田幸久 1999『杉村北遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第221集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団

北川定務・木田文夫・大下 武 1974「高蔵寺5号墳」『春日井市遺跡発掘調査報告』第6集 春日井市教育委員会 pp.14-26.

君島利行 1985「上三川地域における古墳時代後期前半の土器群」『大町遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第5集 上三川町教育委員会(栃木県河内郡) pp.165-178.

帰原 健 1980「松本市中山の古墳、古墳群」『長野県考古学会誌』36 長野県考古学会 上松(長野県木曽郡)pp.22-44.

日下隆春 2000 『杉遺跡』 奥津町埋蔵文化財発掘調 查報告第4集 奥津町教育委員会(岡山県苫田郡) pp.94,104,111.

· 児島隆人 1967「福岡県かって塚古墳調査報告」『考 古学雑誌』第52巻第3号 東京 pp.60-68.

小安和順 1996 『西大山遺跡』 甘楽町埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 甘楽町教育委員会(群馬県甘楽郡)pp.9-10.

今平利幸 1996『城南 3 丁目遺跡』宇都宮市埋蔵文化 財調査報告書第39集 宇都宮市教育委員会

今平利幸 2001「下野における中世土師器皿について」『栃木県考古学会誌』第22集 栃木県考古学会 宇都宮 pp.107-122.

齋藤 弘 1999「中世墓における古墳の再利用」 『HOMINIDS』002 CRA 東京 pp.25-42.

坂本心平・平岡正宏・行田裕美 1997『西吉田北遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第58集 津山市教育委員会 pp.84-90.99-108.

佐々木喜和・小林正春 1992 『八幡原遺跡・物見塚古 墳』飯田市教育委員会

佐々木義則 2001「茨城県における8・9世紀の須恵 器甕概観」『婆良岐考古』第23号 婆良岐考古同人会 ひたちなか pp.169-194.

品川裕昭·前田知寿編 2000『喜多見中通南遺跡』II 喜多見中通南遺跡第 4 次調查会・世田谷区教育委員会 pp.73-75,93-94.

清水正幸 2002 『西刑部古屋原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第46集 宇都宮市教育委員会

鈴木一有 2004「中ノ郷古墳出土遺物の検討」『三河 考古』第17号 三河考古刊行会 豊橋 pp.1-14.

鈴木一有 2005「中八幡古墳出土短甲をめぐる問題」 『中八幡古墳資料調査報告書』池田町教育委員会(岐阜 県揖斐郡), pp.77-91.

田中勝弘 1980「木ノ本町黒田長野古墳群」『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書』 V 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 大津 pp.3-51.

田辺昭三 1966『陶邑古窯址群』 I 平安学園考古学 クラブ 京都

田辺昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店 東京

千賀 久 1988「日本出土初期馬具の系譜」『橿原考古学研究所論集』第九 吉川弘文館 東京 pp.17-67.

張 允禎 2003a「韓半島三国時代の轡の地域色ーとく に立聞用金具を中心としてー」『考古学研究』第50巻第 2号 考古学研究会 岡山 pp.85-104.

張 允禎 2003b「第3章第2節 日・韓両地域における鑣轡の展開と地域色」『古代馬具からみた東アジアの社会』岡山大学大学院文化科学研究科(博士論文) pp.66-79.

塚原孝一 1999『東谷・中島地区遺跡群No.1 磯岡遺跡(I区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第229集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団

常川秀夫・熊倉直子・大金宣亮・石川 均 1979 『塚山古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第32集 栃木県教育委員会

津野 仁 2005『東谷・中島地区遺跡群6 磯岡遺跡 (2~7区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第292集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

津山郷土博物館 1990「12 諏訪神社古墳」『美作の 鏡と古墳』津山郷土博物館特別展図録第3冊

栃木県教育委員会事務局文化課1997『栃木県埋蔵文 化財保護行政年報 19 平成7年度(1995)』栃木県埋蔵 文化財調査報告第198集

栃木県教育委員会事務局文化課2002『栃木県埋蔵文 化財保護行政年報 24 平成12年度(2000)』栃木県埋 蔵文化財調査報告第262集

栃木県教育委員会事務局文化課2003『栃木県埋蔵文 化財保護行政年報 25 平成13年度(2001)』栃木県埋 蔵文化財調査報告第268集

栃木県教育委員会事務局文化課2004『栃木県埋蔵文 化財保護行政年報 26 平成14年度(2002)』栃木県埋 蔵文化財調査報告第278集

栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『埋蔵文化財センター年報』第6号(平成8年度)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2000 『埋蔵文化財センター年報』第10号(平成12年度版)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2001 『埋蔵文化財センター年報』第11号(平成13年度版)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2002 『埋蔵文化財センター年報』第12号(平成14年度版)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2003 『埋蔵文化財センター年報』第13号(平成15年度版)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2004 『埋蔵文化財センター年報』第14号(平成16年度版)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2005a

『埋蔵文化財センター年報』第15号(平成17年度版)

とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター 2005b 「中島笹塚遺跡と磯岡北遺跡」『栃木県埋蔵文化財センターだより やまかいどう』No.39 栃木県教育委員会 p.5. 中野和浩編 1996『小木原遺跡群 蕨地区(C・D地区)・久見迫 B地区・地主原地区 原田・上江遺跡群

区)・久見迫 B 地区・地主原地区 原田・上江遺跡群 六部市遺跡・蔵元・中満・法光寺遺跡 I・II』えびの 市埋蔵文化財調査報告書第16集 えびの市教育委員会 pp.38,65,83,図版60.

中野晴久 2005「常滑・渥美」『全国シンポジウム中世窯業の諸相 ~生産技術の展開と編年~ 発表要旨集』同実行委員会 東京 pp.49-76.

中村享史 2004『東谷・中島地区遺跡群4 琴平塚古墳群(西刑部西原遺跡1・2・6区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第283集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

中村 弘編 1999『向山古墳群 市条寺古墳群 一乗 寺経塚 矢別遺跡』兵庫県文化財調査報告第191冊 兵庫県教育委員会 神戸 pp.50,215,図版100.

西田敏秀1998「朝鮮半島と古代の枚方」森浩 一・上田正昭編『継体大王と渡来人』大巧社 東京 pp.163-187.

根木智宏 1997『寺山古墳群・大日幡山城出丸跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告118 岡山県古代吉備文化財センター 岡山 p.21.

橋本博文 1979「上野東部における首長墓の変遷」 『考古学研究』第26巻第2号 考古学研究会 岡山 pp.41-72.

日賀野宏志・中村享史 1991『十三塚遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第115集 栃木県教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団 宇都宮 pp.25-28.

樋口隆康他編 2003『後出古墳群』奈良県史跡名勝天 然記念物調査報告第61冊 奈良県立橿原考古学研究所 橿原 pp.52-58.

姫路市埋蔵文化財センター 2005 『開館記念特別展 宮山古墳』

藤田直也 2003『東谷・中島地区遺跡群3 推定東山道関連地区(権現山遺跡SG1区 杉村遺跡SG1区 磯岡北遺跡SG3区・SG4区・SG6区・SG7区・SG8区・SG11区・SG13区・SG14区 西刑部西原遺跡2区・6区・7区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第274集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

藤田直也・田代 隆 2002『東谷・中島地区遺跡群2 砂田遺跡(1区・2区・3区)』栃木県埋蔵文化財調 査報告第265集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯 学習文化財団

松本正信·加藤史郎編 1970『宮山古墳発掘調査概報』姫路市文化財調査報告 I 姫路市教育委員会

松本正信・加藤史郎 1973 『宮山古墳第2次発掘調査 概報』姫路市文化財調査報告IV 姫路市教育委員会

水沼良浩 1987a「浅間塚古墳」『壬生町史』資料編 原始古代・中世 壬生町発行(栃木県下都賀郡)pp.134-142.

水沼良浩 1987b「上田出土の埴輪棺」『壬生町史』資料編 原始古代・中世 壬生町発行(栃木県下都賀郡) pp.300-301.

・ 水沼良浩 1988「壬生町常楽寺保管の円筒埴輪」『考 古回覧』第三号 宇都宮 pp.23-28.

水沼良浩 2003「栃木県内発見の埴輪棺について」 『栃木の考古学』塙静夫先生古稀記念論文集「栃木の考 古学」刊行会 宇都宮 pp.251-268.

水野順敏・河野一也・栗田欣行 2005 『立野遺跡 (A 地区)』独立行政法人都市再生機構・宇都宮市教育委員 会・株式会社日本窯業史研究所

壬生町史編さん委員会 1987『壬生町史』資料編 原始古代・中世 壬生町発行(栃木県下都賀郡)

宮崎哲治・松本和彦 2000 『県道高松王越坂出線道路 改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 雄山古墳群』 香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財センター 坂出 pp.142-143.

宮原千佳子編 1990『カクチガ浦遺跡群』那珂川町文 化財調査報告書第23集 那珂川町教育委員会(福岡県筑 紫郡)pp.47-48,62-63.

村上恭通 2004「古墳時代における鍛冶具副葬古墳と 被葬者像ー中期を中心として一」『考古論集』河瀬正利 先生退官記念事業会 東広島 pp.629-646.

桃崎祐輔 2005「東アジア騎馬文化の系譜」『馬具研究のまなざしー研究史と方法論ー』古代武器研究会・鉄

器文化研究会連合研究集会実行委員会 彦根 pp.91-127.

森 泰通編 2001a 『神明遺跡』II 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集 豊田市教育委員会pp.46,55,411.

森 泰通編 2001b 『三味線塚古墳』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第18集 豊田市教育委員会pp.26,63,115.

谷中 隆・大島美智子編 2001 『権現山遺跡・百目鬼 遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第257集 栃木県教育 委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

山口耕一 1994「北関東地域における茨城産須恵器について(上) - 外面同心円叩き目を有する須恵器を中心に一」『研究紀要』第2号 (財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター pn 109-130

団埋蔵文化財センター pp.109-130. 行田裕美 1990『一貫西遺跡』津山市埋蔵文化財発掘 調査報告第33集 津山市土地開発公社・津山市教育委員 会

行田裕美 1997「鉄鐸について」坂本心平他『西吉田 北遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第58集 津山市 教育委員会 pp.101-108.

行田裕美・保田義治・木村祐子 1992 『長畝山北古墳 群』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第45集 津山市教育 委員会

米澤雅美 2005「塚山系円筒埴輪の系統関係」『遡航』第23号 早稲田大学大学院文学研究科考古談話会東京 pp.39-57.

和田晴吾 1989「葬制の変遷」都出比呂志編『古墳時代の王と民衆』古代史復元 6 講談社 東京pp.105-119.

ヴィテブスキー(Vitebsky, Piers) 1995 (岩坂彰訳 1996) 『シャーマンの世界』「人類の知恵」叢書 1 創元社 大阪 pp.60-61,84,166. 【韓国語文】 (著者名カナダラ順)

金 東淑 2000「嶺南地方의 6~7世紀代 墳墓出土 鐵鐸에 관□ 研究」『慶北大學校 考古人類學科 20周年 紀念論叢』慶北大學校 人文大學 考古人類學科 大邱 pp.267-293.

· · · 金 斗喆 1987「5-1號墳」『陜川苧浦里E地區遺蹟』 釜山大學校博物館遺蹟調査報告第11輯 釜山 pp.73-80.

金 斗喆 1993「三國時代 轡의 研究ー轡의 系統研究를 中心으로ー」『嶺南考古學』第13號 嶺南考古學會 釜 山 pp.55-105.

尹 容鎮・朴 淳發 1991 『慶州新院里古墳群發掘調査報告書』慶北大學校博物館・慶南大學校博物館 pp.23,25,72-75.

李 蘭暎・金 斗喆 1999『韓國의 馬具』馬文化研究叢 書 韓國馬事會 馬事博物館 果川

李 尚律 1990「東莱福泉洞23號墳과 出土遺物」『伽倻通信』第19・20合輯 伽倻通信編輯部 釜山pp.140-160.

張 正男 1995 『慶州 皇南洞 106-3番地 古墳群 發掘調 查報告書』學術研究叢書12 國立慶州文化財研究所 慶 州 pp.78-80.

池 炳穆・李 柱憲 2002『咸安 馬甲塚』學術調査報告 第15輯 國立昌原文化財研究所 昌原

洪 潽植 1995「古墳文化를 ロ 본 6~7世紀代의 社 會變化-嶺南地域을 中心으로-」韓國古代史研究所編『韓國古代史論叢』 7 駕洛國史蹟開發研究院 서울 pp.103-182.

洪 志潤・南 珍珠編 1998 『尚州 新興里古墳群』 學術調査報告第7冊 韓國文化財保護財團・釜山地 方國土管理廳 서울 (IV)-pp.124-125,233-238; (V)pp.52,81-84,202,294.